明治元年六月を以て生れ同二十七年家督を相續す現時前記會社の重役たり長女靜子（明三三、一〇生）は新潟縣人馬場博に妹キミ（同八、七生）は同縣人清水幹太郎に嫁し五男德（同四四、一一生）は弟木村德衞の養子となれり（新潟、北魚沼、小千谷町）
參照＝木村德衞※榊原定右衞門の項

島田武助
神奈川縣多額納税者、朝田屋、吳服商、神奈川縣在籍

妻 はな　明一〇、四生、東京、村林彥之妹
男 久吉　明三四、一二生、慶應義塾大學在學

島田家は舊幕時代の本陣朝田屋事島田武右衞門の分れにして川崎市に於ける名家なり君は先代武助の長男にして明治六年八月を以て生れ同三十四年家督を相續し前名久吉を改む朝田屋と稱し吳服商を營み現に神奈川縣多額納税者たり家族は尚二男俊吉（明四三、五生）あり長女あさ（同三二、一生）は東京府人宮田藤左衞門長男城之輔に二女てい（同三七、一一生、出身校同上）は同府人野本傳七三男福三郎に嫁し妹ふみ（同一四、八生）は其の一女を伴ひ分家せり（川崎、東町三ノ四三）
參照＝宮田城之輔の項

島田平右衛門
奈良縣多額納税者、六十八銀行（株）取締役、奈良縣在籍

妻 キク　明九、一二生、大阪、島田平四郎二女
男 平一　明三一、四生
女 マサ　明三八、三生
男 保　明三九、七生
女 トヨ　明四一、一生

君は大阪府に於ける豪農小谷力三郎の二男にして明治六年九月を以て生れ先代平右衞門の養子となり同三十二年家督を相續し後襲名して前名維を改む素封家にして現時六十八銀行取締役に就任し奈良縣多額納税者たり家族は尚四男武之助（大元、一〇生）五男清之助（同三、二生）六男恒之助（同五、一二生）あり長女ヌイ（明三四、一〇生）は大阪府人岩崎清平長男清一に嫁し二男平二（同三三、二生）は京都府人上河とみの養子となり源右衞門と改名して當主たり（奈良市角振新屋町一）

島田安兵衛
成木屋、吳服商、東京府在籍

男 常次郎　明三〇、八生
婦 すゑ　明三三、九生、四男常次郎妻、東京、大塚竹次郎三女
男 宇三郎　明三四、五生
男 喜平　明三六、一一生
男 源平　明三七、八生

君は神奈川縣人清水常右衞門の弟にして慶應三年八月を以て生れ後先代安兵衞の養子となり明治二十五年家督を相續し前名伴治郎を改め襲名す成木屋と稱し吳服商を營む家族は尚孫伊基子（大一五、九生、四男常次郎長女）あり（東京、四谷、傳馬町三ノ四電四谷三八六一）
參照＝大塚竹次郎の項

島田與四郎
藥種商、大阪府在籍

父 與藏　萬延元、七生、現戶主
母 ふん　明二、五生、福井、立平六太夫妹
妻 キヌ　明二三、三生、大阪、安達龜治郎長女
男 惣四郎　大一一、一二生

君は大阪府人島田與藏の長男にして明治二十七年十二月を以て生る藥種商を營む家族は尚長女よし子（大八、一〇生）二女佳津子（同一五、三生）妹しげ（明三〇、三生）同夫茂（同三一、三生、福井、山田繼松二男）及其一子同ちよ子（同四一、一〇生）弟斌（大元、八生）あり（大阪、東、平野町一ノ三電本局三九九）

島田由五郎
從五位勳三等、陸軍步兵大佐、上毛撚絲（株）社長、日本商會（株）取締役、東京府在籍

妻 ナミ　明一三、一一生、東京、福岡健良長女
男 實一　明三四、一一生
男 凱實　明三九、二生

君は埼玉縣人島田克次郎の弟にして慶應元年九月を以て生れ明治二十七年分れて一家を創立す夙に陸軍に志し同二十四年陸軍步兵少尉に任じ大正九年同大佐に累進す其間高崎大津各聯隊附步兵第六十二聯隊長に歷補す退官後實業界に轉じ現時上毛撚絲會社々長たる外前記會社の重役を兼ぬ三女盈子（明三六、二生、第二高等女學校出身）は石川縣人伊藤嘉成長男成義に四女滋子（同四一、三生、府立第三高等女學校出身）は東京府人浮田孝家に嫁せり（東京、赤坂、青山高樹町一二電青山一八六一）
參照＝※安倍四郎の項

島田由兵衛
美濃屋、海苔商、東京府在籍

養母 天津　安政四、一生、先々代由兵衞長女
妻 ぬい　明二〇、一〇生、東京、辻梅母、戶板女學校出身
男 清太郎　明三六、一〇生、慶應義塾商工科出身
婦 キクヱ　明三七、六生、長男清太郎妻、東京、角田善吉二女、戶板女學校出身

君は東京府人島田彌惣左衞門の三男にして明治十六年十二月を以て生れ同三十六年先代天津の養子となり同三十九年家督を相續し前名榮次郎を改む美濃屋と稱し海苔商を營む養妹ひさ（明一五、五生）は分家せり（東京市外大森町三二八三）

島田佳矣
從四位勳四等、東京美術學校教授、東京府士族

妻 ふく　明八、八生、東京、島津兼吉長女
女 ふみ　明三一、八生

君は東京府士族島田早太の長男にして明治元年七月を以て生れ同五年家督を相續す同二十七年東京美術學校を卒業し東京高等工業學校助教授を經て現時東京美術學校教授たり（東京、芝、伊皿子町四五電高輪四五七〇）

島田義治
オリエンタルホテル（株）代表取締役、愛知縣在籍

妻 種　明二一、二生、東京、小山三郎妹
男 寬一郎　明四四、七生
女 鉦子　大二、二生

君は愛知縣人島田四郎の二男にして明治十一年一月を以て生れ同三十九年家督を相續す同三十六年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し東洋汽船會社に入り香港桑港神戶各支店長に歷任大正十五年同社を辭し現時オリエンタルホテル代表取締役たり（兵庫、武庫、六甲村篠原電御影五七三）
參照＝小山三郎の項

島田利右衛門
大利商店（株）取締役、東京府在籍

妻 リウ　明一三、九生、東京、皆川芳造姉
男 利一　明三四、六生、大倉高等商業學校出身
女 榮子　明四〇、六生、三輪田高等女學校出身
女 秀子　明四四、一一生

君は東京府人先代利右衞門の二男にして明治八年四月を以て生れ同二十五年家督相續と共に前名吟次郎を改め襲名す現時大利商店取締役たり曩に東京府多額納税者に列し島田商店取締役たりし事あり長女利（明三六、二生、日本橋高等女學校出身）は東京府人細川鎌吉に二女八重（同三七、一二生、跡見女學校出身）は同府人鈴木啓次郎養子岩治郎に嫁せり（東京、下谷、谷中三崎町一八）

島田良藏
泉州織物（株）專務取締役、大阪府士族

妻 カメ　明三、一〇生、大阪、村上平助長女
男 武夫　明二八、八生、早稻田大學出身、合同紡績會社社員
婦 文子　明三六、一生、長男武夫妻、和歌山、木下淸吉三女

君は大阪府士族島田豐の長男にして島田省一の叔父なり明治三年六月を以て生れ同十二年家督を相續す泉州織物會社常務取締役たり長女貞（明二六、一生）は法學士大阪鐵道會社事業課長小松茂三郎に二女靜（同三一、七生）は滋賀縣人横田立次郎弟工學士泉州織物會社技師長武十郎に三女信（同三三、七生）は奈良縣人佐瀨鷹雄長男法學士判事政雄に嫁し弟誠三郎（同八、六生）は其妻子を伴ひ分家し妹セイ（同一一、六生）は岐阜縣人佐藤重鑑に嫁せり（岸和田、並松町二三八）
參照＝佐藤重鑑、島田省一、島田誠三郎、横田立次郎の項

島田林太郎
島田商會（株）社長、中井商店（株）專務取締役兼大阪支店長、洋紙合同販賣、西肥板紙各（株）取締役、大阪府在籍

妻 カツ　明七、一二生、大阪、杉原幸八二女
男 晴一　明三五、一二生

君は鳥取縣人島田源藏の二男にして同豐吉の弟なり明治四年十二月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す現時島田商會社長たる外前記各會社の重役たり家族は尚庶子勤之助（大三、八生、生母、大阪、福田ちか）あり（大阪、住吉、天王寺町三一七八電天王寺六八二）
參照＝島田豐吉の項

島谷脩藏
三菱商事（株）シアトル支店長、廣島縣在籍

父 義郎　慶應三、三生、現戶主
母 フユ　慶應三、一二生、廣島、大下銀藏四女
妻 千代　明三六、九生、陸軍少將海寶精二女、雙葉高等女學校出身
男 彰一郎　大一二、四生

君は廣島縣人島谷義郎の長男にして明治二十三年十二月を以て生る同四十五年東京高等商業學校を卒業し三菱商事會社に入り累進して現に同社シアトル支店長の職に在り家族は尚長女晴江（大一三、一〇生）あり妹八重子（明三六、九生）は廣島縣人太田義夫に嫁し叔父敏郎（同六、一〇生、東京高等商船學校長）は其妻子と共に分家せり（北米、シアトル、三菱商事會社支店）
參照＝島谷敏郎の項

島谷德三郎
島谷汽船（株）社長、笠戶島船渠（株）取締役、全北電氣、東海汽船各（株）監査役、山口縣在籍

妻 ヨシ　明七、一〇生、福岡、熊井善次郎二女
男 武次　明二四、三生、島谷汽船（株）專務取締役、北日本汽船、東海汽船各（株）取締役
婦 スマ　明三三、七生、長男武次妻、福岡、松田萬藏妹
男 勇　明三八、六生
女 ノブヨ　明四三、八生

君は山口縣人島谷德右衞門の長男にして慶應三年十一月を以て生れ明治二十二年家督を相續す夙に實業界に入り現時島谷汽船會社々長たる外前記各會社の重役として知らる家族は尚三男義雄（大二、七生）孫文雄（同八、二生、長男武次長男）同喜久代（同一一、九生、同二女）同澄江（同一三、四生、同三女）同健彥（昭二、八生、同二男）あり養子米子（明三四、三生、養兄八十八三女）は廣島縣人石田賢一に妹コト（同四、五生）は同縣人階川勝次郎に同スミ（同九、四生）は山口縣人藤井永太郎長男勘太郎に同ツタ（同一一、七生）は同縣人重田房吉長男榮次郎に同シマ（同一四、三生）は同縣人倉重只助に嫁し姉ハル（元治元、三生）は其夫八十八（文久二、一一生、山口、米谷判藏弟）と共に其三子を伴ひ分家せり（神戶、西須磨東北野中町一七ノ一電須磨二七二）

島谷敏郎
從四位勳三等、東京高等商船學校長、東京府在籍

妻 テル　明一七、三生、栃木、廣瀨明俊長女
男 英郎　明三五、三生、慶應義塾大學法學部出身

君は廣島縣人島谷義郎の弟にして同脩藏の叔父なり明治六年十月を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す同三十年商船學校機關科を卒業し日本郵船會社に入り一等機關士となり同三十一年商船學校教諭に任じ爾來同校教授地方海員審判所審判官遞信局技師高等海員審判所審判官等に歷任し大正十四年現職東京高等商船學校長に任ぜらる又海員被濟會常議員水難救濟會評議員等に推され曩に英國に留學し船用蒸氣タービン機外數多の著書あり（東京市外代々幡町代々木富ケ谷一三八九）
參照＝島谷脩藏の項

島津源吉
島津製作所（株）常務取締役、日本電池（株）監査役、東京府在籍

妻 トミ　明一九、三生、京都、菱本傳右衞門二女
男 一郎　明四〇、七生
女 鈴子　明四二、一生、跡見女學校出身

君は京都府人島津源藏の弟にして同常三郎の兄なり明治十年九月を以て生れ大正九年分家して一家を創立す現に前記諸會社の重役たり（東京市外落合町下落合二〇九五電牛込三二二一）
參照＝島津源藏、島津常三郎※鈴木庸輔※津田吉之助※松尾巖※桃谷幹次郎の項

島津源藏
島津製作所、日本電池各（株）社長、日本新藥、京都自動車各（株）取締役、島津（名）代表社員、京都府在籍

妻 ツル　明五、四生、京都、乾久次郎二女
男 良藏　明三四、三生、東京美術學校在學
男 敬三　明三七、五生

女　英　明四一、八生、府立第一高等女學校出身
明三八、一〇生、生母、京都、荒川ふさ、京都市立高等女學校出身
庶子　和　明三一、一〇生、京都市立高等小學校に定住せしが先代源藏に至り京都に移り工場を設けて理化學用器械の製作に從事せり君は其長男にして明治二年六月を以て生れ同二十七年家督相續と共に襲名して前名梅治郎を改む先代の業を繼ぎ更に博物標本製作の業を創め且つジーエス蓄電池を製出する等功勞尠からず大正五年實業精勵の廉を以て緑綬褒章を授けらる現に島津製作所日本電池會社々長たるの外前記會社の重役として知らる長女まち(明三〇、一〇生、第一高等女學校出身)は藥學博士桃谷幹次郎に庶子しづ(同三二、一〇生、生母、京都、荒川ふさ)は大阪府人瀧川藤利に妹ひさ(同二四、四生)同常三郎(同一六、四生)は各分家せり(京都、上京、東洞院通御池下ル電中五七〇七)

參照　島津源吉、島津常三郎、鈴木庸輔、桃谷幹次郎の項

島津繁麿　薩南土地建物各(株)取締役

妻　編　明三五、八生、鹿兒島、大場景喜二女

男　久欣　大一四、三生

當家は舊鹿兒島藩士にして代々薩摩國日置七千七百石を領し先々代獨遵齋に至る先代久明其後を享け明治三十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君實は久明の甥にして歳寛の長男なり明治十八年八月を以て生れ大正八年家督を相續し襲爵仰付けらる現時前記銀行會社の重役たり家族は前長女登美子(同一二、四生)二男久昭(昭二、五生)亡叔父久明妻久(嘉永二、正生、鹿兒島、士、島津左仲二女)あり父歳寛安政四、二生)弟珍麿(明三一、二生)は各分家し妹せつ(同二六、三生)は男爵島津忠夫に嫁せり(鹿兒島、鹿兒島、中郡宇村)

參照　男爵島津忠夫の項

島津需吉　廣島縣多額納稅者、廣島縣農工銀行、藝備銀行、廣島電氣各(株)取締役、廣島縣在籍

島津貴暢　從四位、男爵、舊鹿兒島藩一門

男　貴晴　大六、五生

當家は島津家第十五代貴久の弟忠將の後にして代々垂水家と稱す先代貴敦鹿兒島灣に英船來襲せし時防禦其効を奏す戊辰の役軍賞を授けらる君は其長男にして明治二十年十二月を以て生れ同三十年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる現時大隅鐵道會社監査役たり家族は舊三男裕吉(大七、一生)あり(廣島、雙三、三次町)

島津貴暢　從四位、男爵、舊鹿兒島藩一門

男　貴晴　大六、五生

當家は島津家第十五代貴久の弟忠將の後にして代々垂水家と稱す先代貴敦鹿兒島灣に英船來襲せし時防禦其効を奏す戊辰の役軍賞を授けらる君は其長男にして明治二十年十二月を以て生れ同三十年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる現時大隅鐵道會社監査役たり家族は舊三男裕吉(大七、一生)あり(廣島、雙三、三次町)

參照　公爵島津忠承、伯爵久松定謨、伯爵島津久範、伯爵德川達孝、伯爵久松定謨、伯爵島津齊禮、德川家正※公爵島津忠重、男爵島津忠彥、男爵島津忠夫、男爵島津忠丸※男爵島津忠將の項

島津忠夫　母　アキ　明二、九生、鹿兒島商弘銀行各(株)監査役

妻　せつ　明二六、三生、島津公爵家分家

男　忠正　大三、一生

當家は故從一位大勳位島津久光の四男忠欽初め久和泉の島津家を相續して分れて一家を立て特旨を以て華族に列し男爵を授けられ貴族院議員たり君は忠欽の長男なり明治二十九年八月を以て生れ同三十一年襲爵仰付けらる現時海軍大學校を卒業し累進して海軍中佐に陞り現時海軍々令部參謀兼海軍大學校教官たり又貴族院議員にして花卉同好會々長を兼ね家族は舊二男晃久(大三、一〇生)三男短久(同六、一生)四男齊德(同八、九生)弟康久(明二八、一生)同妻庸子(同三四、三生)、公爵島津忠承姉及其一男あり姉常子(同七、三生)は故島津階宮菊麿王妃に同悦子(同一二、一〇生)は久邇宮邦彥王妃にならせられ同充子(同一六、二生)は伯爵松平直亮に同知子(同八、八生)は伯爵德川達孝に同正子(同一八、九生)は公爵毛利元昭※侯爵德川頼倫※伯爵久松定謨※伯爵松平直亮※子爵仙石政敬※子爵永井直邦※子爵河鰭實英※子爵有馬頼寧※男爵藤堂高成※男爵本堂親雄※德川家正※松永安藏の項

島津忠彥　從五位、男爵、舊鹿兒島藩一門

繼母　英　子　明一三、七生

妻　績　子　明三九、二男、伯爵甘露寺受長長女

當家は鹿兒島藩組島津豐後守忠久の二男惟宗忠綱の後なり忠綱嫡前の守護代となり越前に住し其三男珍彥家を繼ぎ後代長丸の長男にして公爵島津忠承の再從弟なり大正二年十月を以て生れ昭和二年二月家督を相續し等で襲爵仰付けらる母ハルは鵜嶺高等女學校を創設し同校長として育英に從事し又東宮妃附女官長として令名ありたる人なり家族は舊第奉丸(大八、三生)あり姉廣子(明三一、六生、鹿兒島第二高等女學校出身)は東京府人三井高修に同泰子(同三二、二生、出身校同上)は故公爵二條厚基に同寧子(同三四、一〇生、出身校同上)は鹿兒島縣人法學士木脇一丸に姉澄子(同三八、四生、學習院女學部出身)は大使館書記官谷正之に嫁せり(東京小石川、仲町二三電小石川一九九〇)

參照　公爵島津忠承、男爵島津忠彥、谷正之、三井高修※公爵島津忠重※伯爵島津久範※男爵岩崎小彌太※男爵島津忠夫※男爵島津忠將※男爵島津齊禮※男爵島津隼彥の項

島津忠備　從四位、男爵、キシライト(株)監査役、島津公爵家分家

妻　愛　子　明二九、一生、子爵戸田忠雄長女、學習院女學部出身

男　備　愛　大七、八生

君は故從一位勳一等公爵島津忠義の五男にして當主公爵忠重の弟伯爵島津久範の兄男爵島津齊禮の伯父なり明治二十四年五月を以て生れ同二十六年分れて一家を創立し特旨を以て華族に列し男爵を授けらる大正六年東京帝國大學工科大學火藥科を卒業し米國に渡航し歸に農商務省東京工業試驗所技師たりしが後之を辭し現時前記會社の重役たり(東京市外千駄ヶ谷町穩田一九一電青山七八七)

參照　公爵島津忠重、伯爵島津久範、子爵戸田忠雄男爵島津齊禮※久邇宮家※山階宮家※公爵九條道實※公爵島津忠承※侯爵德川頼倫※伯爵久松定謨※伯爵松平直亮※子爵戸田忠恕※男爵島津忠夫※男爵島津忠彥※男爵中川良長の項

島津忠丸　男爵、舊鹿兒島藩一門

母　ハル　明一、七生、正五位勳四等、華族女學校出身

當家は島津家第十五代修理大夫貴久の子忠良の後なり忠良征韓の役に功あり宮地一萬七千石を食み世々宗家を輔けて國政を執り圖書久治に至る久治は故從一位大勳位久光の二男にして維新の際父を助けて國事に奔走し軍功あり長男長丸其後を繼ぎ明治三十年特旨を以て華族に列し男爵を授けられ貴族院議員に選ばる君は先代長丸の長男にして公爵島津忠承の再從弟なり大正二年十月を以て生れ昭和二年二月家督を相續し等で襲爵仰付けらる母ハルは鵜嶺高等女學校を創設し同校長として育英に從事し又東宮妃附女官長として令名ありたる人なり家族は舊第奉丸(大八、三生)あり姉廣子(明三一、六生、鹿兒島第二高等女學校出身)は東京府人三井高修に同泰子(同三二、二生、出身校同上)は故公爵二條厚基に同寧子(同三四、一〇生、出身校同上)は鹿兒島縣人法學士木脇一丸に姉澄子(同三八、四生、學習院女學部出身)は大使館書記官谷正之に嫁せり(東京小石川、仲町二三電小石川一九九〇)

參照　公爵島津忠承、男爵島津忠彥、谷正之、三井高修※公爵島津忠重※伯爵島津久範※男爵岩崎小彌太※男爵島津忠夫※男爵島津忠將※男爵島津齊禮※男爵島津隼彥の項

島津忠備　從四位、男爵、キシライト(株)監査役、島津公爵家分家

妻　愛　子　明二九、一生、子爵戸田忠雄長女、學習院女學部出身

男　備　愛　大七、八生

君は故從一位勳一等公爵島津忠義の五男にして當主公爵忠重の弟伯爵島津久範の兄男爵島津齊禮の伯父なり明治二十四年五月を以て生れ同二十六年分れて一家を創立し特旨を以て華族に列し男爵を授けらる大正六年東京帝國大學工科大學火藥科を卒業し米國に渡航し歸に農商務省東京工業試驗所技師たりしが後之を辭し現時前記會社の重役たり(東京市外千駄ヶ谷町穩田一九一電青山七八七)

參照　公爵島津忠重、伯爵島津久範、子爵戸田忠雄男爵島津齊禮※久邇宮家※山階宮家※公爵九條道實※公爵島津忠承※侯爵德川頼倫※伯爵久松定謨※伯爵松平直亮※子爵戸田忠恕※男爵島津忠夫※男爵島津忠彥※男爵中川良長※男爵島津忠丸の項

島津龍男　鐵工業、大阪府士族

生)は公爵德川家達長男家正に妹篤子(同三〇、五生)は侯爵德川頼倫に嫁し弟忠備(同二四、五生)は分家して男爵を授けられ同忠弘も亦分家して男爵を授けられ其長男齊禮當主にして同久範(同二七、一生)は伯爵島津忠麿の養子となり當主たり(東京市外大崎町下大崎二三四電高輪三七八、三七九)

參照　久通宮家、山階宮家、公爵島津忠承、公爵德大寺公弘、侯爵德川頼貞、伯爵島津久範、伯爵德川達孝、伯爵久松定謨、伯爵島津齊禮、德川家正※公爵島津忠重、男爵島津忠備、男爵島津齊禮、德川家正※公爵鷹司信輔※侯爵小松輝久※侯爵佐竹義春※伯爵眞田幸治※伯爵中院享※子爵阿部正一※子爵加藤泰通※子爵相良頼綱※子爵松平頼孝※男爵島津忠夫※男爵島津忠彥※男爵島津忠丸※男爵島津隼彥※男爵住友吉左衛門※男爵高千穗宣麿※男爵德大寺則麿の項

島津忠承　正五位、公爵、島津公爵家別家

母　田鶴子　明三、一一生、子爵竹内惟斌叔母

妻　泰　子　明四一、八生、公爵三條公輝姪

當家は贈正一位島津薩摩守齊彬の第三郎久光を以て祖となす久光繼新の際朝幕の間を奔走し中興の大業を翼賛し像勳あり明治二年參議左近衛中將となり同四年特旨に依り別に家を樹つ等で内閣顧問に任じ左大臣に昇る同十七年公爵を授けらる後從一位大勳位に叙し同二十年薨ずるに臨み勅して國葬を行はしむ七男從一位勳一等忠濟其後を襲ぎ爵香間祇候たり君は先代忠濟の長男にして公爵島津忠重男爵島津隼彥の從弟男爵島津忠夫男爵島津忠彥男爵島津忠丸の再從兄なり明治三十六年五月を以て生れ大正四年家督を相續し襲爵仰付けらる家族は前記の外弟久大(明三九、五生)妹富子(同四一、一生)あり姉薫子(同二九、一生)は侯爵小松輝久に同胤子(同三四、三生)は公爵島津忠重弟康久に嫁せり北白川宮大妃富子及伯爵眞田幸治の繼祖母絅子は君の養叔母なり(東京、麹町、三年町四電銀座一八八〇)

參照　北白川宮家、公爵三條公輝、公爵島津忠重、侯爵小松輝久、伯爵眞田幸治、子爵竹田惟斌男爵島津忠夫、男爵島津忠彥、男爵島津忠丸

母　シケ　明七、一生、大阪、山崎次兵衛長女
妻　花　明三〇、九生、大阪、木原爲三郎三女
男　嘉　男　大九、四生

君は大阪府士族島津伊三郎の長男にして明治二十九年十月を以て生れ大正十年家督を相續す鐵工業を營む家族は倘二男敏男（大一一、八生）長女たつ子及伯父勝次郎（慶應二、二生）同妻ゆか（明九、八生、兵庫、國重四郎兵衛二女）及其養子つやの（同三七、一二生、兵庫原藤作孫）伯母トモ（同元、五生）あり（大阪、東成、新喜多町三一四電話江二五）

島津常三郎

妻　民枝　明一九、一生、京都、齋藤彌三郎三女
男　新一　明四〇、七生、第三高等學校在學
女　延子　明四二、六生、京都府立第二高等女學校出身
　　盈子　明四四、一〇生、京都府立第一高等女學校在學

君は京都府人島津源藏同源吉の弟にして明治十六年四月を以て生れ大正九年分家して一家を創立す現時島津製作所常務取締役たる外前記會社の重役にして推されて京都商工會議所常議員たり又學術に趣味を有し常に學界に貢獻するを念とせり大正九年選ばれて榮港に開催せる第七回米國貿易大會に列席し次で歐米各國を巡遊し大正十年歸朝せり家族は倘三女昭子（大三、五生、京都府立第一高等女學校在學）四女治子（同五、九生）二男洋二（同一一、三生）三男永三（同一三、一一生）あり（京都、上京、室町通丸太町上ル六門町二六六電上一〇六三）

參照―島津源吉、島津源藏※鈴木庸輔※桃谷幹次郎の項

島津齊親

男爵　島津公爵家分家

母　季子　明三〇、一〇生、公爵岩倉具榮叔母

當家は故從一位公爵島津忠義の六男忠弘の立つる所なり忠弘明治二十八年分れて一家を創立し特旨を以て華族に列し男爵を授けられ式部官に任ぜらるる君は其長男にして公爵島津忠重男爵島津忠備伯爵島津久範の甥な

島津隼彦

男　忠親
女　恒子
　　富賞子

當家は島津家第四代忠宗の二男忠氏の後にして世々薩州今和泉の地一萬三千七百餘石を領し今和泉家と稱す先代忠欽は從一位島津久光の四男にして入つて當家を繼ぐ君は其二男にして明治十二年八月を以て生れ同二十九年父の從兄なり明治十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けらるる東京帝國大學法科大學に學び貴族院議員に選ばれ現時第百四十七銀行取締役（四位勳四等、男爵、第百四十七銀行（株）取締役、舊鹿兒島藩一門　正四位勳四等、男爵、第百四十七銀行（株）取締役、日本電池（株）　明四三、三生　明四〇、四生）

參照―公爵岩倉具榮、公爵島津忠重、伯爵島津久範、男爵島津忠備※公爵九條道實※公爵島津忠承※侯爵西郷從徳※侯爵德川圓眞※伯爵戸田氏共※伯爵德川達孝※伯爵久松定謨※伯爵松平直亮※子爵阿部正一※子爵岩倉具明※子爵水野忠敬※子爵森清※男爵岩倉具德※男爵岩倉具威※岩倉具光※德川家正の項

島津久厚

男爵　舊日向都城邑主

母　恭子　明一八、八生、伯爵南部利淳妹

當家は島津家第十六代忠理大夫義久の後にして世々日向都城三萬九千六百餘石を領し宗家の國老たり先々々代久篤先々代久寛共に維新の際國事に盡して功あり先代久靜先々代久寛より入りて其後を繼ぎ明治二十四年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる夙に陸軍に入り步兵中佐に累進し日露役に參加して功五級を賜ふ君は久家の長男にして大正七年十月を以て生れ同十一年家督を相續し襲爵仰付けらる家族は舊姉淑子（明四〇、八生、女子學習院出身）同圭子（同四四、二生、女子學習院在學）同瑛子（大四、一〇生、同上校在學）あり（東京、牛込、市谷加賀町一ノ二電牛込一〇二五）

參照―伯爵南部利淳※子爵南部直庸※子爵南部利克※子爵南部信孝※子爵毛利元秀の項

島津久範

正五位、伯爵、式部官兼主猟官
舊日向佐土原藩

養母　松子　明一一、三生、伯爵眞田幸治叔母
妻　秀子　明三八、二生、養父忠欵三女

當家は島津家第十五代忠理大夫貴久の弟忠將の子右馬頭以久の後なり以久慶長八年德川氏より日向國佐土原に封ぜられ三萬石を領す九世を經て從二位忠寛に至り維新の際宗藩を輔けて奥羽の野に戰つて功あり長男忠弘明治十七年子爵を授けられ同二十四年父忠寛の功に依り伯爵に陞さる夙に米國に留學し貴族院議員に擧げらるる先代忠欵は其長男にして又貴族院議員たり君其後を享く君實は公爵島津忠重の弟にして男爵島津忠備の實弟同齊親の叔父子爵阿部正一の從兄なり明治二十七年一月を以て生れ大正五年忠欵の後を享け同十五年家督を相續し襲爵仰付けらる現時式部官兼主猟官たり

り大正九年十二月を以て生れ同十一年家督を相續し襲爵仰付けらる家族は倘姉弘子（大七、八生）同淑子（同八、一〇生）あり（東京、赤坂、青山南町六ノ九六六電青山二五〇五）

參照―公爵岩倉具榮、公爵島津忠重、伯爵島津久範、男爵島津忠備※公爵九條道實※公爵島津忠承※侯爵西郷從徳※侯爵德川圓眞※伯爵戸田氏共※伯爵德川達孝※伯爵久松定謨※伯爵松平直亮※子爵阿部正一※子爵岩倉具明※子爵水野忠敬※子爵森清※男爵岩倉具德※男爵岩倉具威※岩倉具光※德川家正の項

島津常三郎

妻　民枝　明一九、一生、京都、齋藤彌三郎三女
男　新一　明四〇、七生、第三高等學校在學
女　延子　明四二、六生、京都府立第二高等女學校出身
　　盈子　明四四、一〇生、京都府立第一高等女學校在學

君は京都府人島津源藏同源吉の弟にして明治十六年四月を以て生れ大正九年分家して一家を創立す現時島津製作所常務取締役たる外前記會社の重役にして推されて京都商工會議所常議員たり又學術に趣味を有し常に學界に貢獻するを念とせり大正九年選ばれて榮港に開催せる第七回米國貿易大會に列席し次で歐米各國を巡遊し大正十年歸朝せり家族は倘三女昭子（大三、五生、京都府立第一高等女學校在學）四女治子（同五、九生）二男洋二（同一一、三生）三男永三（同一三、一一生）あり（京都、上京、室町通丸太町上ル六門町二六六電上一〇六三）

參照―島津源吉、島津源藏※鈴木庸輔※桃谷幹次郎の項

島津齊親

男爵　島津公爵家分家

母　季子　明三〇、一〇生、公爵岩倉具榮叔母

當家は故從一位公爵島津忠義の六男忠弘の立つる所なり忠弘明治二十八年分れて一家を創立し特旨を以て華族に列し男爵を授けられ式部官に任ぜらるる君は其長男にして公爵島津忠重男爵島津忠備伯爵島津久範の甥な

島津隼彦

男　忠親
女　恒子
　　富賞子

當家は島津家第四代忠宗の二男忠氏の後にして世々薩州今和泉の地一萬三千七百餘石を領し今和泉家と稱す先代忠欽は從一位島津久光の四男にして入つて當家を繼ぐ君は其二男にして明治十二年八月を以て生れ同二十九年父の從兄なり明治十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けらるる東京帝國大學法科大學に學び貴族院議員に選ばれ現時第百四十七銀行取締役（四位勳四等、男爵、第百四十七銀行（株）取締役、舊鹿兒島藩一門　正四位勳四等、男爵、第百四十七銀行（株）取締役、日本電池（株）　明四三、三生　明四〇、四生）

參照―公爵岩倉具榮、公爵島津忠重、伯爵島津久範、男爵島津忠備※公爵九條道實※公爵島津忠承※侯爵西郷從徳※侯爵德川圓眞※伯爵戸田氏共※伯爵德川達孝※伯爵久松定謨※伯爵松平直亮※子爵阿部正一※子爵岩倉具明※子爵水野忠敬※子爵森清※男爵岩倉具德※男爵岩倉具威※岩倉具光※德川家正の項

島津久厚

男爵　舊日向都城邑主

母　恭子　明一八、八生、伯爵南部利淳妹

當家は島津家第十六代忠理大夫義久の後にして世々日向都城三萬九千六百餘石を領し宗家の國老たり先々々代久靜先々代久寛共に維新の際國事に盡して功あり先代久家北鄉家より入りて其後を繼ぎ明治二十四年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる夙に陸軍に入り步兵中佐に累進し日露役に參加して功五級を賜ふ君は久家の長男にして大正七年十月を以て生れ同十一年家督を相續し襲爵仰付けらる家族は舊姉淑子（明四〇、八生、女子學習院出身）同圭子（同四四、二生、女子學習院在學）同瑛子（大四、一〇生、同上校在學）あり（東京、牛込、市谷加賀町一ノ二電牛込一〇二五）

參照―伯爵南部利淳※子爵南部直庸※子爵南部利克※子爵南部信孝※子爵毛利元秀の項

島津久範

正五位、伯爵、式部官兼主猟官
舊日向佐土原藩

養母　松子　明一一、三生、伯爵眞田幸治叔母
妻　秀子　明三八、二生、養父忠欵三女

當家は島津家第十五代忠理大夫貴久の弟忠將の子右馬頭以久の後なり以久慶長八年德川氏より日向國佐土原に封ぜられ三萬石を領す九世を經て從二位忠寛に至り維新の際宗藩を輔けて奥羽の野に戰つて功あり長男忠弘明治十七年子爵を授けられ同二十四年父忠寛の功に依り伯爵に陞さる夙に米國に留學し貴族院議員に擧げらるる先代忠欵は其長男にして又貴族院議員たり君其後を享く君實は公爵島津忠重の弟にして男爵島津忠備の實弟同齊親の叔父子爵阿部正一の從兄なり明治二十七年一月を以て生れ大正五年忠欵の後を享け同十五年家督を相續し襲爵仰付けらる現時式部官兼主猟官たり

家族は倘長女貴美子（大八、一生）二女雅子（同一二、八生）三女敏子（同一四、九生）あり養妹文子（明三四、七生）は公爵九條道實長男道秀に嫁し大叔父武郎（嘉永四、四生）は純雄と改名し伯爵大村家を繼ぎ其養子純英當主たり（東京、麻布、本村町三八電高輪五八一八）

參照―公爵九條道實、公爵島津忠重、伯爵大村純英、伯爵眞田幸治、子爵阿部正一、男爵島津忠備、男爵島津齊親※公爵島津忠承※伯爵藤堂高紹※伯爵德川達孝※伯爵久松定謨※伯爵松平直亮※子爵石川成秀※子爵本多忠昭※男爵眞田幸世※男爵島津忠夫※男爵島津忠彦※男爵島津忠丸※男爵島津隼彦※德川家正の項

島津久英

從五位、男爵
舊鹿兒島藩一門

養母　直　明一七、三生、養祖父久寶長女、華族女學校出身
妻　澄　明四〇、二生、養父久賢長女、女子學習院出身

當家は島津家第十八代中納言家久の弟忠朗の後なり忠朗大隅國加治木の地一萬九千五百石を領し加治木家と稱すそれより十餘世を經て先々代久寶に至り戊辰の役軍功あり先代久賢は子爵相良頼綱の弟にして入つて當家を相續し明治三十年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる夙に早稻田大學を卒業して英國に留學し歸朝後貴族院議員に當選し又諸會社の重役に擧げらるる君其後を享く君實は子爵南部利克の四男にして明治三十五年七月を以て生れ先代久賢の養子となり大正十五年家督を相續し爾來明治三十年特旨を以て華族に列し男爵を授けらるる昭和三年東京帝國大學文學部を卒業せり家族は倘長女榮子（大一四、一生）あり（東京市外千駄ヶ谷町原宿三〇〇電青山三一〇）

參照―子爵相良頼綱、子爵南部利克※伯爵眞田幸治※子爵井上信織※子爵京極高儀※子爵鍋岡秀猪※子爵松平直幹※子爵柳澤徳忠の項

島津良知

長崎縣農工銀行（株）頭取、彼杵銀行（株）取締役、長崎縣士族
文久二、四生、長崎、士、三根貞左衛門二女

妻　シナ
男　良能　明一六、一二生

島津和平治

島津商店、大阪三品商事各（株）社長、協同土地、鈴彌商店各（株）取締役、岩友商店、石切土地建物各（株）監査役、大阪三品取引所取引員、愛知縣在籍

明二、九生、愛知、伊藤源助伯母
明一五、三生、愛知、岩田友右衛門妹
　　明四一、一生、大阪高等商業學校在學

君は鹿兒島縣人伊藤久助の二男にして安政四年八月を以て生れ先代平助の養子となり明治三十年家督を相續し前名貞治を改め襲名す農業を營み福島縣多額納稅者にして現時福島縣農工銀行監査役として知らるる家族は倘孫勝治（大一五、三生、養子義太郎長男）あり二男平吉（明一九、六生）は其妻イシ（同二六、八生、福島、齋藤榮太郎四女）と共に其四子を伴ひ分家し妹ツヤ（同一四一〇生）は宮城縣人相原金治に嫁せり（福島、信夫、福上町）

參照―島貫平之助の項

島貫平助

福島縣多額納稅者、福島縣農工銀行（株）監査役、農業、福島縣在籍
弘化二、三生、福島、須田市右衛門二女

養母　チカ
妻　ヤス　文久元、五生、福島、齋藤榮太郎妹
男　平之助　明一七、一生
養子　義太郎　明二八、八生、長女末夫、福島、齋藤榮太郎三男
　　末　明三五、八生、養子義太郎妻

君は福島縣人伊藤久助の二男にして安政四年八月を以て生れ先代平助の養子となり明治三十年家督を相續し前名貞治を改め襲名す農業を營み福島縣多額納稅者にして現時福島縣農工銀行監査役として知らるる家族は倘孫勝治（大一五、三生、養子義太郎長男）あり二男平吉（明一九、六生）は其妻イシ（同二六、八生、福島、齋藤榮太郎四女）と共に其四子を伴ひ分家し妹ツヤ（同一四一〇生）は宮城縣人相原金治に嫁せり（福島、信夫、福上町）

參照―島貫平之助の項

島貫平之助

福島縣多額納稅者、農業
福島縣在籍

安政四、八生、現戸主
明一六、八生、福島、齋藤榮太郎長女
大五、三生

男　恒一郎　明四〇、六生
女　輝子　明四四、九生
女　義子　大二、一生
　　玉子

君は福島縣人島貫平助の長男にして明治十七年一月を以て生る農業を營み福島縣多額納稅者たり家族は倘二男光治郎（大九、八生）三男武治（同一四、五生）あり（福島、信夫、福上町）

參照―島貫平助の項

島名福十郎

妻　アイ
庶子　隆次

島原鐵三

第一銀行（株）京城支店支配人
東京府在籍

母　ヨシ　安政二、二生、大阪、清水晉彥妹
妻　ヨネ　明二九、二生、長崎、士、木下吉之丞長女
男　健一　明四一、一〇生
女　政子　明四三、一〇生

君は福岡縣人島原健藏の長男にして明治十一年一月を以て生れ大正十一年家督を相續す夙に第一銀行に入り漸次累進して曩に函館支店支配人たりしが現時同行京城支店支配人たり家族は尙二男正男(大二、七生)四男泰三(同一二、三生)二女敏子(同一五、一生)の外弟逸三(明一七、九生)同妻幹枝(同二〇、八生、大阪、宮川經輝長女)及其子女あり(京城、南大門通三ノ九電本局四五四)

參照＝※角倉正道の項

島袋嘉眞

沖繩縣多額納稅者、農業　沖繩縣在籍

母　マツ　安政三、一生、沖繩、上原次郞三女
妻　ウシ　明一一、九生、沖繩、古堅幸吉孫
男　珍義　明四〇、八生
婦　カマダ　明四〇、四生、二男珍義妻、沖繩、島袋德之助孫

君は沖繩縣人島袋平兵衞の長男にして明治十一年八月を以て生れ大正五年家督を相續す農業を營み縣下の多額納稅者たり家族は尙五女ナヘ(大五、一生)三男嘉吉(同八、八生)四男嘉昌(同九、九生)孫康信(昭二、四生、二男珍義長男)弟善三郞(明二五、三生)同妻カマ(同二四、二生、沖繩、宮城福次郞妹)及其子女あり長女カミ(同三五、一〇生)は沖繩縣人松田德永に嫁せり(沖繩、國頭、羽地村)

島村淺夫

近海郵船(株)取締役會長、扶桑海上火災保險、內國通運、合同運送各(株)取締役、大正製麻(株)監查役、東京府士族

男　大輔　明二六、一生、慶應義塾理財科出身、三菱合資會社員
婦　ます　明三一、一〇生、長男大輔妻、東京、小泉ゆり二女
男　俊二　明三七、四生
女　壽子　明四二、一生

君は舊小倉藩士島村勇の長男にして文久二年五月を以て生れ明治三年家督を相續す夙に上京して福澤諭吉の學僕となり同十九年慶應義塾を卒業し同二十二年日本郵船會社に入り神戸釜山各支店詰門司支店長本店調度部長專務取締役等に歷任せしも近年同社を去り現時近海郵船會社々長外前記會社の重役たり書畫骨董に趣味を有す家族は尙四男公平(明四四、一一生)五男晴夫(大三、二生)孫慶子(同一三、一生、長男大輔二女)同欣一(同一四、七生、同長男)あり三女須磨(明三一、一生、共立女子職業學校技藝科出身)は富山縣人柴田晋寬に五女文子(同三四、八生、第三高等女學校出身)は茨城縣人岡野保次郞に嫁し四女雪子(同三三、二生)は兵庫縣人村井保の養子となれり(東京、芝、高輪南町三〇電高輪六三五)

島村英三

莫大小商　大阪府在籍

妻　コマ　明一一、一〇生、大阪、佐野牛次郞妹
男　新三　大四、一二生
女　俊子　明四二、九生
女　英子　明四五、一生

君は大阪府人島村豐吉の庶子にして明治十二年二月を以て生れ同十八年家督を相續す莫大小商を營む家族は尙三男德三(大八、七生)あり(大阪、東、南渡邊町四二電船場二一一七)

島村久愛(ヒサヨ)

岡山製紙(株)取締役兼支配人、中國製紙、山陽製紙各(株)取締役　岡山縣士族

男　增家　明四一、八生
女　殖　明三八、九生

君は岡山縣士族島村久愛の長男にして明治五年十一月を以て生れ同十二年家督を相續し襲名す現時岡山製紙會社取締役兼支配人たる外前記諸會社の重役たり長女喜久榮(明三二、一二生)は岡山縣人尾崎富に二女晴世(同三六、一生)は同縣人大野宇平に嫁せり(岡山市七軒町三三)

島村金治郞

北辰會、北樺太石油各(株)取締役　新潟縣在籍

繼母　ヨシ　明二、三生、富山、河上捨次郞養子
妻　サダ　明三、八生、長野、松澤又一郞長女
養子　彌蔓　明四二、九生、長野、藤卷彌藤太孫

君は新潟縣人島村吉三郞の長男にして慶應三年十月を以て生れ明治四十二年家督を相續す同二十七年帝國大學工科大學採鑛冶金學科を卒業し三菱合資會社に入り累進して參與に擧げられしが現時前記會社の重役たり養子ヨノ(明二一、一生、新潟、川原忠右衞門二女)は長野縣人藤卷雪生に妹順子(同四〇、一一生、三輪田高等女學校出身)は大審院判事大倉鈕藏長男經濟學士堯文に嫁せり(東京、麴町、麴町九ノ一五電九段八八一)

參照＝大倉鈕藏の項

島村他三郞

正四位勳二等、行政裁判所評定官、行政裁判所長官、懲戒裁判所豫備裁判官、石川縣士族

妻　梅治　明一六、一〇生、長野、小池幸四郞姪、御茶の水高等女學校出身
男　忠男　明四四、二生
女　文子　明四一、一生

君は舊加賀藩士島村孝作の三男にして明治十年十月を以て生れ同三十一年先代兄孝太郞の後を承け家督を相續す同三十四年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し文官高等試驗に合格し曩に農商務書記官兼參事官たり嘗て露領沿海州及和蘭に派遣さる現時前記肩書の職にあり傍ら早稻田明治兩大學の行政法學講座を擔當し著書に行政法要論あり家族は尙二男秀雄(大五、五生)三男三郞(同一〇、一二生)あり(東京市外高田町大原一五五電牛込二二四)

島村鷹衞

日本エヤーブレーキ(株)社長　高知縣士族

妻　ゑい　明一三、三生、東京、士、春日敬三二女
男　護夫　明三六、一二生
男　俊彥　明三九、二生

君は高知縣士族島村淸海の長男にして明治七年三月を以て生れ同十二年家督を相續す同三十二年東京帝國大學工科大學機械科を卒業し曩に鐵道技師鐵道局長等に歷任し現時日本エヤーブレーキ會社々長たり姉光(明四、二生)は大分縣人百溪隣に嫁せり(東京、牛込、市谷臺町四電四谷三五〇四)

參照＝※佐藤伊惣治の項

島村忠次郞

從四位勳四等、檢事、沼津區裁判所檢事兼靜岡地方裁判所沼津支部檢事、東京府士族

妻　小千代　明一〇、六生、前貴族院議員仁尾惟茂長女
男　信夫　明三八、一二生
女　芳子　明四二、一〇生、府立第二高等女學校出身
女　說子　明四五、一生

君は東京府士族島村愛之助の弟にして明治三年十一月を以て生る同二十八年日本大學法科を卒業し判檢事登用試驗に合格同三十一年判事に任じ天王寺區大阪區橫濱區同地方東京地方各裁判所判事を經て同三十九年韓國政府の聘に應じ次で統監府判事朝鮮總督府判事に歷任し京城控訴院判事釜山地方法院判事同部長平壤覆審法院判事同地方法院部長等に歷補し大正四年檢事に轉じ長岡區長野地方同區橫濱區同地方東京地方同區各裁判所檢事東京控訴院檢事を經て同十三年前記現職に補せらる家族は尙五女健子(大三、八生)二男洋二郞(同五、四生)六女淸子(同七、一一生)三男忠茂(同一二、六生)の外兄愛之助(元治元、一一生、現戶主)同妻ヒテ(明一二、九生、德島、岡田龍太郞母)及其一子弟宇一郞(同七、八生)あり二女郁子(同三五、五生)は高知縣人白石元政弟亞細亞丸に妹テル(同一〇、三生)は鳥取縣士族栗茂吉養子廣太に同マサ(同一三、九生)は島根縣士族田邊黨養子勝太郞に同末野(同一八、一〇生)は新潟縣人江部美一叔父淳夫に嫁せり(沼津、區裁判所內)

參照＝仁尾惟茂※永沼秀文の項

島村虎猪

正五位勳四等、東京帝國大學教授、農學部勤務、高知縣士族

母　吉　安政五、一二生、高知、士、辻友政長女
妻　滿惠　明二三、五生、高知、幸川常次妹
男　修　明四五、七生

君は高知縣士族島村昌太の二男にして明治十五年七月を以て生る同四十一年東京帝國大學農科大學獸醫科を卒業し同大學助教授に任じ大正十一年同教授に進み今日に至る同七年家畜生理學研究の爲め英米佛獨に留學せり家族は尙長女順(大四、一生)二男守(同七、二生)弟治文(明二五、八生)妹千代子(同二九、七生)亡兄芳魚長男春雄(大七、四生、現戶主)及其二姉從兄重治(慶應二、五生)及其妻子あり(東京市外澁谷町神泉六)

島村幡彥

正七位勳六等、日淸汽船(株)取締役、高知縣士族

妻　アイ　明二三、三生、長崎、田中彌三郞養子

君は高知縣士族元大阪控訴院判事島村左平の二男にして明治七年十二月を以て生れ先代俊彥の養子となり同十三年家督を相續す同三十六年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し關東州民政署事務官關東都督府參事官同府祕書官等に歷任し同四十年官を辭す爾來實業界に入り大阪商船會社大阪支店長に擧げらる現時日淸汽船會社取締役たり(兵庫、武庫、精道村蘆屋大枡電芦屋三〇七)

島村初太郞

從五位、男爵　高知縣華族

母　菅尾　明一三、一生、高知、士、近藤正英長女

當家は先代速雄より家名を揚ぐ速雄は舊高知藩士にして夙に海軍兵學校を卒業し明治十六年海軍少尉に任じ海軍大將に累進す其間伊國公使館附武官須磨明石各艦長海軍教育本部第一部長常備艦隊第一艦隊聯合艦隊參謀長第二艦隊練習艦隊各司令官海軍兵學校海軍大學校各校長第二艦隊佐世保鎭守府各司令長官海軍教育本部長海軍々令部長兼海軍將官會議々員軍事參議官等の要職に歷補す日淸北淸日露日獨各戰役に從軍し殊に日露役には聯合艦隊參謀長として偉勳を奏し功二級を賜はる大正四年勳功に依り華族に列し男爵を授けられ同十二年薨ずるに臨み元帥府に列せらる君は其長男にして明治三十五年八月を以て生れ大正十二年家督を相續し襲爵仰付けらる家族は尙弟和雄(明四〇、五生)妹良(同四二、八生、雙葉高等女學校出身)弟忠雄(大二、三生)妹寧(同四、七生)同貞(同八、七生)弟義雄(生年月同上)あり叔父茂穗(慶應三、九生)は分家せり(東京市外目黑町上目黑五八〇電靑山一〇九四)

島村安次郞

和歌山縣多額納稅者、四十三銀行(株)監查役、釀造業　和歌山縣在籍

繼母　いく　明一六、八生、和歌山、島村富次郞二女
妻　君　明二七、一生、和歌山、島村惣平四女
男　安彥　大六、一二生

君は和歌山縣人先代安次郞の長男にして明治二十三年四月を以て生れ大正十四年家督を相續し前名安三郞を改め襲名す縣下の多額納稅者にして淸酒天長の釀造を營み傍ら四十三銀行監查役たり家族は尙二男宏(大一〇、七生)三男邦彥(同一三、一〇生)四男史郞(同一五、五生)弟榮五郞(明三三、二生)同貞吉(同三四、一〇生)妹はな(同三八、三生)同幸(同四〇、六生)あり(和歌山市本町七丁目電四九)

島本愛次郞

島本銀行(株)副社長、產業銀行(株)監查役、島本(名)代表社員　京都府在籍

妻　ミサ　明二六、一一生、京都、古川丑之助長女
男　融　明三七、一生
婦　ハツネ　明三九、三生、長男融妻、京都、島本和郞長女

君は京都府人島本德次郞の弟にして明治十二年八月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す現時島本銀行副社長たる外前記銀行會社の重役を兼ぬ家族は尙三男寧(大五、三生)四男鐐(同一〇、一生)五男眞(同一三、七生)二女鈴子(昭二、一生)孫知子(大一四、一生、長男融長女)同禮一(昭二、九生、同長男)あり(京都、久世、宇治町)

參照＝島本德次郞※細谷長太郞の項

島本愛之助

正五位勳四等、京城帝國大學教授法文學部勤務、東京府在籍

妻　フユ　明二二、一一生、新潟、川上善兵衞長女

君は京都府人島本榮吉同德三郞の弟にして明治十二年八月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す同三十八年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し直に米國に航してカリホルニヤ大學に學ぶ歸朝後盛岡高等農林學校東京外國語學校各教授東京高等師範學校第一高等學校各講師を歷任し大正十三年朝鮮總督府高等工業學校教授に任じ同年倫理學研究の爲め歐米各國に留學す同十五年京城帝國大學教授に任ぜられ現に法文學部勤務たり(京城、京城帝國大學法文學部內)

參照＝島本德三郞※富永孝太郞の項

島本熊一郎　木津川船渠(株)常務取締役　和歌山縣在籍

父　熊太郎　安政四、八生
母　ひさ　慶應三、一〇生、和歌山、吉野啓次郎養母
妻　廣　明二四、四生、和歌山、神保新作三女
男　彌太郎　大一二、一一生

君は和歌山縣人島本熊太郎の長男にして明治二十三年十一月を以て生れ昭和二年家督を相續し明治四十五年廣島縣立商船學校を卒業し多年海外に留學す日本郵船國際汽船各會社に勤務し現時木津川船渠會社常務取締役たり家族は尙ほ二男熊二郎(大一五、八生)弟久五郎(明二八、四生)同妻まさる(同三四、六生、和歌山、岩井信一妹)及び其二男あり妹ひさ代(同三六、三生)は和歌山縣人井邊時貴に嫁し弟吉三郎(同二五、三生)同宗七郎(同三一、七生)は各分家せり(和歌山市上町三五)

島本圭一　廣島縣多額納稅者、島本商事(資)代表社員、廣島縣在籍

父　幸助　安政六、三生、現戸主

君は廣島縣人島本幸助の二男にして明治二十三年十月を以て生る廣島縣多額納稅者にして現時島本商事會社代表社員たり(廣島市京橋町一四〇)

參照―島本幸助の項

島本幸助　廣島縣多額納稅者、山陽燐寸(株)社長、島本商事(資)代表社員、呉服商、廣島縣在籍

慶應二、五生、廣島、士、高地熊之助長女
妻　ヒサ　明二三、一〇生
男　圭一　明三〇、二生
男　静吾　明三二、五生
女　鳥造　明三五生
女　清子　明三九、六生

君は廣島縣人先代幸助の長男にして安政六年三月を以て生れ明治十七年家督を相續し後襲名して前名光次郎を改む廣島縣多額納稅者にして呉服商を營み傍ら前記會社の重役たり二女ミツ(明二八、一一生)は廣島縣士族高地熊之助の養子となれり(廣島市京橋町一四〇)

參照―島本圭一の項

島本德三郎　貝島鐵業(株)常務取締役　京都府在籍

妻　サト　明一九、一二生、京都、士、不破唯次郎二女
男　伸一　明四三、一〇生
女　淑　明四〇、三生
女　登志　明四二、一生

君は京都府人島本榮吉の弟にして同愛之助の兄なり明治八年四月を以て生れ同二十七年慶應義塾正科を卒業し大正八年以來貝島鐵業會社常務取締役たり家族は尙ほ二男裕三(大元、一一生)あり(綱岡、鞍手、宮田町)

參照―島本愛之助の項

島本德次郎　島本銀行(株)取締役、島本(名)代表社員　京都府在籍

妻　タミ　明九、八生、京都、細谷長太郎妹
男　奈良男　明四四、三生

君は京都府人先代德次郎の長男にして明治七年十一月を以て生れ同四十五年家督を相續し前名清太郎を改む現時島本銀行社長にしてエ(明三二、一生)は同夫作治郎(同二五、一生、京都、森岡奈良松二男)と共に二女シヅ(同三四、一一生)は同夫茂(同三四、一二生、京都、吉田武一二男)と共に其二女ミユキノ(同二〇、一〇生)は同夫順之助(同二四、八生)も亦分家し叔母イサ(嘉永二、五生)は京都府人細谷長太郎の母たり(京都、綾喜、青谷村)

參照―島本愛次郎、細谷長太郎の項

島本安兵衛　和歌山多額納稅者、和歌山商工會議所議員、醸造業、和歌山縣在籍

明一五、五生、和歌山、名手由兵衛妹
妻　よね　明四一、一一生
男　安雄　明四二、一二生
女　美代　大二、三生、和歌山縣立高等女學校在學

君は和歌山縣人島本安兵衛の長男にして明治十五年六月を以て生れ大正五年家督を相續し前名吉次郎を改め現時島本銀行取締役にして東京支店長を兼ぬ家族は尙ほ二男俊夫(明四五、三生)二女泰子(大五、一二生)あり(東京市外千駄ヶ谷町穩田一九電青山四九七七)

清水英嗣　北海道拓殖銀行(株)取締役兼東京支店長、北海道拓殖(株)取締役　山梨縣在籍

明一六、二生、山梨、布能莊三二女、東京女子高等師範學校技藝科出身
妻　なを　明四三、七生
男　英夫　明四三、七生

君は山梨縣人清水松太郎の長男にして明治十二年八月を以て生れ大正六年家督を相續す明治四十年東京帝國大學法科大學を卒業し曾て日本勸業銀行鹿兒島支店長たりしことあり現時北海道拓殖銀行取締役にして東京支店長を兼ぬ家族は尙ほ二男俊夫(明四五、三生)二女泰子(大五、一二生)あり(弟孝藏(明二八、九生、慶應義塾出身)は分家し妹いよ(同三二、一〇生)は山梨縣人花輪譲生)は分家せり(和歌山市北新四ノ七電六五八)

參照―名手由兵衛※名手源兵衛の項

清水亥三郎　石川縣多額納稅者、清水商店(株)取締役、織物業、石川縣在籍

妻　信　明二六、七生、石川、坪光六藏長女
男　壽一　大七、一一生

君は石川縣人清水惣八の弟にして明治二十年三月を以て生れ大正九年分家して一家を創立す織物業を營み傍ら清水商店取締役にして石川縣多額納稅者たり(石川、江沼、大聖寺町)

參照―※清水直治郎の項

清水市太郎　正七位勳三等、辯護士　愛知縣在籍

妻　きぬ　明一四、九生、愛知、海部昌藏二女
男　重道　明四二、一二生

君は愛知縣人清水治兵衛の長男にして慶應元年九月を以て生れ明治二十八年分れて一家を創立す同二十二年帝國大學法科大學英法科を卒業し翌年英國倫敦に留學しミッドル・テンプルに入り同二十六年是を卒へてバリストルの學位を得歐洲大陸を巡遊して歸朝す爾來判事試補法制局參事海軍教授同主理補獲審檢所評定官帝國大學講師等に歴任す退官後辯護士となり明治四十一年以來鄉黨より推されて衆議院議員たりし事六回數に列國議會同盟會議に參列す家族は尙ほ長女あや(大九、五生)あり(東京市外千駄ヶ谷町穩田一九電青山四九七七)

藏に嫁せり(東京市外大崎町白金猿町八五電高輪四三二五)

清水榮次郎　泉尾土地、中央弸府温泉土地、大二商會(日鮮土地各(株)社長、秋田木材(株)常務取締役、杉村倉庫、日本ブライウード、日本簡易火災保險、山陽中央水電、安東縣大倉製材所、元山水力電氣各(株)取締役、朝鮮電氣、千代田木管、日本製絲各(株)監査役　大阪府在籍

妻　あい　明五、九生、京都、藤林忠太郎妹
男　潔　明三二、三生
婦　悦子　明三七、一生、長男潔妻、大阪、莊保勝藏長女
男　雅　明三四、二生
婦　ミナ　明三七、五生、二男雅妻、群馬、平田健太郎姪

當家の祖先は阿波國の出にして祖父榮藏大阪に移住し砂糖商を營み清水家の基礎を築く父榮藏に至り外國貿易の有望なるに着眼し對支貿易に從事する傍ら清水銀行を經營し其他肥料商鐵山業を兼ぬ君は其長男にして明治三十四年四月を以つて生れ同三十一年家督を相續す同二十四年慶應義塾に學び業卒へて家業を繼ぐ現時前揭諸會社の重役として關西實業界に重きをなせり姉チエ(慶應三、一一生)は大阪府人曾根慶造に嫁せり(大阪、西、南堀江通三ノ四三電長櫓川三九一)

參照―莊保勝藏※佐鳥江平※平田篤次郎※山田五郎助の項

清水榮藏　東京府多額納稅者　東京府在籍

妻　はる　明二〇、一〇生、東京、柿沼谷藏妹、御茶水高等女學校出身
男　精一　明四三、一一生
女　富美子　大二、六生

君は東京府人清水米藏の長男にして明治十九年八月を以て生れ同二十九年家督を相續す資産家にして現に東京府多額納稅者たり家族は尙ほ二女美代子(大四、九生)二男芳二(同六、一〇生)三女伊久子(同九、八生)四女綠子(同一四、七生)三男濤三(昭二、八生)あり(東京、

清水一雄　清水組(資)社員、土木建築請負業　東京府在籍

明二〇、一〇生、東京、柿沼谷藏妹、御茶水高等女學校出身
男　精一　明四三、一一生
女　富美子　大二、六生

君は東京府人清水米藏の長男にして明治十九年八月を以て生れ同二十九年家督を相續す資産家にして現に東京府多額納稅者たり家族は尙ほ二女美代子(大四、九生)二男芳二(同六、一〇生)三女伊久子(同九、八生)四女綠子(同一四、七生)三男濤三(昭二、八生)あり(東京、

勉町、紀尾井町三電九段六八六八)

參照―柿沼谷藏※安藤三郎※小川專助※諸井四郎の項

清水角次郎　朝鮮銀行(株)清津支店支配人　新潟縣在籍

妻　絲　明二四、八生、熊本、松尾萬喜長女
男　朝太郎　大五、八生

君は新潟縣人清水喜代作の弟にして明治十三年六月を以て生れ大正十一年分家して一家を創立す明治四十二年東京高等商業學校を卒業し朝鮮銀行に入り現時同行清津支店支配人たり家族は尙ほ長女とき(大三、六生)二女喜代(同七、六生)三男大三(同九、一生)四男陽(同一一、六生)五男富郎(同一四、八生)あり(朝鮮、清津府朝鮮銀行支店内)

清水一雄　清水組(資)社員、土木建築請負業　東京府在籍

妻　シヅ　明一三、一生、東京、清水滿之助妹
男　正雄　明三七、四生
男　義雄　明三八、一一生
男　忠雄　明四一、一生

君は東京府人入江正遠の三男にして清水揚之助の養兒同滿之助同釘吉の養弟なり明治七年二月を以つて生れ後清水家に入り同三十三年養兒滿之助方より分家して一家を創立す同年東京帝國大學法科大學英法科を卒業現に清水組社員たり家族は尙ほ五男友雄(大三、八生)あり長女昭子(明三四、六生、精華高等女學校出身)と共に其夫毅(同二三、八生、福島、佐山正之助)と共に分家せり(東京、小石川、大塚坂下町四四電大塚九一七)

參照―清水釘吉、清水滿之助、清水揚之助の項

清水釘吉　晩成事業(株)取締役　長野縣在籍

妻　乙代　明二八、二生、東京、士、山内山彦孫、東京府立第三高等女學校出身
男　毅一　大一一、二生

君は長野縣人清水喜十郎の孫にして明治十四年十二月を以て生れ同二十七年家督を相續す同四十二年慶應義塾を卒業し現に晩成事業會社取締役たり家族は尙ほ長女三代(大四、三生)二女不二(同六、一生)三女富

清水喜三郎　從五位勳五等、臺北第一高等女學校長、岐阜縣士族

妻　かつ　明一八、九生、愛知、中島英世姉

君は岐阜縣人國枝庄平の三男にして明治七年八月を以て生れ同三十三年先代ふしの入夫となり家督を相續す同三十三年高等師範學校文科を卒業し山口縣師範學校教諭となり爾來京都府師範學校教諭同附屬小學校主事京都市立高等女學長兼教諭臺南高等女學校長等に歴任し大正十一年臺北第一高等女學校長に轉じ以て今日に至る家族は尙ほ三女富美(大六、二生)あり二女美代(同

清水儀六

參照―田中宗重の項

清水釜吉　清水組(資)社員、土木建築請負業　東京府在籍

妻　シヅ　明一三、一生、東京、清水滿之助妹
男　正雄　明三七、四生
男　義雄　明三八、一一生
男　忠雄　明四一、一生

君は元甲府米穀取引所理事清水喜兵衛の二男にして明治九年二月を以て生れ大正六年家督を相續し前名金次郎を改む現時補融銀行鹽査役にして山梨縣多額納稅者たり家族は尙ほ孫千惠子(大一五、一生、長男喜孝長女)同智子(昭二、五生、同二女)同佐喜子(大一五、一生、養子敎次長女)の外妹さと(明二八、六生)同夫寅次(同二三、一二生、山梨、桑島劃二男)及其子女あり同つる(同一一、一生)は山梨縣人土屋忠郎に嫁せり(甲府、相生町一八三)

參照―田中宗重の項

清水喜兵衛　山梨縣多額納稅者、補融銀行(株)鹽査役、山梨縣在籍

父　喜祿　弘化四、四生、山梨、田中平右衛門弟
母　こぶ　安政二、七生、祖父彦助二女
妻　こなみ　明一三、一生、山梨、野呂瀬潔嬢
男　喜孝　明三三、一生
婦　三鶴子　明四〇、一生、長男喜孝妻、山梨、中澤三爾平七女
養子　敎次　明三三、一〇生、長女繁子夫、山梨、田中宗重二男
女　繁子　明三八、三生、養子敎次妻
男　晴壽　明四一、五生

君は元甲府米穀取引所理事清水喜兵衛の二男にして明治九年二月を以て生れ大正六年家督を相續し前名金次郎を改む現時補融銀行鹽査役にして山梨縣多額納稅者たり家族は尙ほ孫千惠子(大一五、一生、長男喜孝長女)同智子(昭二、五生、同二女)同佐喜子(大一五、一生、養子敎次長女)の外妹さと(明二八、六生)同夫寅次(同二三、一二生、山梨、桑島劃二男)及其子女あり同つる(同一一、一生)は山梨縣人土屋忠郎に嫁せり(甲府、相生町一八三)

參照―田中宗重の項

二、八生）は岐阜縣人清水光通の養子となれり（臺北、龍口町二ノ三）

清水　潔　三井物産㈱人事課次長
東京府在籍
明二四、一〇生、東京、松本忠次
妻　慶　郎二女
男　潤　三　大五、六生

君は東京府人白井新五郎の四男にして鳥居邦康の兄なり明治十三年七月を以て生れ先代しけの養子となり同二十三年家督を相續す同三十九年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し三井物産會社に入り現時人事課次長たり（東京、芝、三田綱町一　電高輪二二二三）

參照＝鳥居邦康、松本忠次郎の項

清水　欣　泉尾土地㈱（株）監査役
兵庫縣在籍
養母　たね　元治元、三生、大阪、大倉三輪長女
妻　朝子　明二二、六生、養父芳吉長女
男　透　大一四、一二生

君は愛知縣士族鈴木春の弟にして明治十五年二月を以て生れ後先代芳吉の養子となり大正十年家督を相續す現に泉尾土地會社監査役たり家族は尚長女福（大六、二生）二男明（昭二、四生）あり（兵庫、武庫、本山村國本中島一九四　電御影六九一）

參照　鈴木春＝荒川實＝安田繁三郎の項

清水　銀藏　衆議院議員（滋賀縣選出）
大阪府在籍
繼母　トメ　慶應三、一一生、大阪、上井彌助二女
妻　彌恵　明二一、四生、岡山、小川十萬太姪
男　仙太郎　大一〇、四生

君は大阪府人清水彦次郎の二男にして明治十二年一月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治三十五年早稻田大學英語政治科を卒業し昭和二年補缺選舉に依り衆議院議員に選ばれ翌三年總選舉に際し再び當選し立憲政友會所屬たり尚支那各地を歷遊す家族は尚長女たつ子（大一三、三生）二女松江（同一五、二生）二男得二（昭二、九生）妹光惠（明三七、一〇生）弟英二（同四二、一〇生）同豐（同四四、一二生）同彦三（大八、三生）あり（滋賀、滋賀、下坂本村）

清水　孝藏　從四位勳三等、判事、大審院判事
東京府在籍
妻　マツ　明一五、一二生、法學博士田部芳妹
男　元　明三七、八生
女　和子　明四三、七生

君は佐賀縣士族清水寛次郎の長男にして明治六年七月を以て生れ大正五年分家して一家を創立す明治三十四年東京帝國大學法科大學を卒業し司法官試補となり栃木區裁判所判事東京區裁判所同地方裁判所竝に東京控訴院各檢事に歷補し大正十三年大審院判事に任じ今日に至る家族は尚四女敬子（大八、四生）五男襲（同一二、九生）あり長女章（明三八、一一生、學習院女學部出身）は大野正太郎に嫁せり（東京市外澁谷町羽澤七七　電青山六二七〇）

參照＝※富谷銓太郎の項

清水　幸重　從五位勳五等、東京帝國大學助教授、兼東京帝國大學技師、農學部勤務、東京府在籍
妻　トキ　明三六、九生、東京、服德三三女
男　幸太郎　大一一、一二生

君は福岡縣人宮下富雄の長男にして明治二十三年七月を以て生れ清水シンの養子となり大正九年分家して一家を創立す同三年東京帝國大學工科大學建築科を卒業し同五年陸軍技師に任ぜられ同年一年志願兵として入營し歩兵少尉に任ぜらる同十一年東京帝國大學技師に轉じ同十三年同大學農科大學助教授となり技師を兼ね現時に至る家族は尚二男重雄（大一五、一生）あり（東京市外杉並町大字天沼二八七）

參照＝※中村清彥の項

清水　鋼三　貴族院議員、愛知縣在籍
母　ゑつ　元治元、九生、愛知、平野清一妹
妻　琴尾　明二五、一一生、愛知、角田銀松長女
男　明　大四、三生

君は愛知縣人清水ゑつの三男にして明治二十二年十月を以て生れ同四十五年家督を相續す同四十四年長崎高等商業學校を卒業し貴族院議員となり現時に至る（名古屋、中、蛭子町五　電南五五九）

清水作次郎　洋反物商
京都府在籍
母　ヒサ　明八、七生、京都、松田九兵衛三女
妻　春江　明二九、二生、京都、伊藤邦貴五女
女　千賀　明四三、七生

君は京都府人清水秀次郎の長男にして明治二十六年十二月を以て生れ大正十二年家督を相續す洋反物商を營む家族は尚三男孝一（大四、二生）長女富江（同三、八生）あり（京都市外田ケ谷町池尻五二二　電青山一五八一）

清水三右衛門　三重縣多額納稅者、三重鐵道（株）取締役、農業、三重縣在籍
弘化四、一一生、三重、河村良平長女
妻　まさ　明一六、五生、三重、三輪猶作二女
男　ひさし　明四一、二生
女　壺良　明四二、六生

君は三重縣人先代三右衛門の四男にして明治十一年一月を以て生れ同四十四年家督を相續し前名六郎を改め襲名す農業を營み傍ら前記會社の重役を兼ね現に縣下の多額納稅者たり家族は尚二男卓次（明四四、九生）あり二女佳（同三八、三生）は三重縣人富田三郎に嫁せり（三重、三重、日永村）

清水　三藏　從五位勳六等、鐵道技師、盛岡建設事務所長、岐阜縣在籍
妻　おつな　明二一、四生、岐阜、川瀨十一妹
男　博　大四、一生
女　正子　明四四、一生
女　秀子　大二、九生

君は岐阜縣人菱田利兵衛の三男にして明治十七年十月を以て生れ後先代伊兵衛の養子となり同四十年家督を相續す同四十二年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し鐵道院技手同技師鐵道技師となり山口建設事務所長より轉じ現時盛岡建設事務所長たり家族は尚三女光子（大七、四生）二男明治（同一〇、三生）四女歌子（同一二、三生）あり（盛岡、鐵道省盛岡建設事務所）

清水　治兵衛　武藏屋、呉服商
東京府在籍
（同三八、七生、東京、石坂正臺長女）あり妹福井（同三一、一二生）は岩手縣人山田知義孫知一郎に嫁せり（東京市外世田ケ谷町池尻五二二　電青山一五八一）

清水　市　福岡縣多額納稅者、小間物商
福岡縣在籍
妻　ヒサ　明八、七生、福岡、大江荒藏二女
男　謙一郎　明四二、七生

君は福岡縣人清水安平の三男にして慶應三年七月を以て生れ明治九年家督を相續す小間物商を營み現に福岡縣多額納稅者たり（小倉、米町五二）

清水　朔郎　千代田毛織、松本商店、日本モスリン各㈱取締役、松本鐵次郎商店（株）監査役、東京府士族
明二七、七生、東京、高野實養母
妻　なみ　明一六、五生、東京、服部金太郎長女
男　義一　明四〇、一〇生

君は三重縣士族清水義八の長男にして明治十年十一月を以て生れ同三十年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學法科大學を卒業し直ちに日本銀行に入り大阪支店測査役松江松本京都門司各支店等に勤務し現時本店文書局長たり家族は尚二男貞郎（明四二、一〇生）三男茂樹（大元、九生）四男正剛（同五、五生）長女久子（同九、七生）五男文吾（同一一、一生）弟覺夫（明二一、七生、早稻田大學商科出身、藤本ビルブローカー銀行京都支店長次席）同妻勝子（同三三、五生、京都、藤林貞一姉）同一夫（同二五、一一生）同妻きやう（同二八、四生、三重、士、清水誠吾二女）及其子女あり（東京、牛込、納戸町三七　電牛込一三七五）

參照＝服部金太郎※牛塚虎太郎※河田源三※杉村米次郎※中原榮之助※服部玄三※松山陸郎の項

清水五郎兵衛　テグス商
大阪府在籍

君は三重縣人清水五郎兵衛の庶子にして明治四十一年四月を以て生れ大正八年亡兄壽之助の後を承け家督を相續し前名秀雄を改め襲名すテグス商を營む（大阪、西、本田町通二ノ一　電西一二〇）

清水　光藏　中外倉庫工業㈱、專務取締役、兼總支配人、日米運輸（株）取締役、日本プランナー・モンド・コンパニー・リミツテド相談役
神奈川縣在籍
妻　ナル　明三一、一生、神奈川、增井コマ長女
男　知光　明四〇、六生

君は神奈川縣人清水鎚太の弟にして明治十九年五月を以て生れ大正六年分家して一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尚三男敏夫（大二、七生）四男秀夫（同五、二生）長女悅子（同七、一生）二女明子（同九、七生）三女久子（同一一、一二生）四女信子（同一三、一二生）五男貞夫（昭二、六生）あり二男正義（明四三、七生）は青山家を繼げり（横濱、根岸町三九三七　電本局七七七）

清水國太郎　長崎縣多額納稅者、長崎漁腦工業、八坂運輸各（株）取締役、運送業
長崎縣在籍
妻　エイ　明六、七生、長崎、野上浦治長女
男　國光　明四〇、一〇生
女　テル子　明四二、一〇生
女　ハル子　明四四、一一生

君は長崎縣人清水重吉の二男にして明治元年十一月を以て生れ同三十年家督を相續す運送業を營み傍ら前記會社の重役にして現に長崎縣多額納稅者たり長女シヅ（明三一、五生）同夫幸三（同二六、一〇生、長崎、井上勘六三男）は其子女を伴ひ弟信太郎（同五、九生）も亦其子女クニエ（同三五、一〇生）は長崎縣人岩永關夫に嫁し養子幸吉（同二六、一〇生、長崎、井上勘六三男）は分家せり（長崎市浦五島町）

參照＝※井手虎治の項

清水　景吉　東華生命保險（株）專務取締役
和歌山縣在籍
交久二、三生、大阪、士、唐津乙十郎長女

君は和歌山縣人清水平右衛門の長男にして明治二十二年九月を以て生れ大正十一年家督を相續す明治四十三年明治大學商科を卒業し現時東華生命保險會社專務取締役に擧げらる家族は尚長女富江（同八、一〇生）あり（大阪、北、濱川町一四　電北六九五）

清水　慶造　大阪瀝粉（株）社長、製粉業
大阪府在籍
妻　ヌイ　明一四、五生、大阪、筑紫卯之助長女
男　保二　明四四、九生

君は大阪府人清水宗七の四男にして明治十年四月を以て生れ同三十七年一家を創立す製粉業を營み大阪瀝粉㈱社々長たり家族は尚三男孝一（大四、二生）長女富江（同三、八生）あり（大阪、北、濱川町一四　電北六九五）

清水　賢一郎　日本銀行（株）文書局長
三重縣士族
妻　のぶ　明一六、五生、東京、服部金太郎長女
男　義一　明四〇、一〇生

君は三重縣士族清水義八の長男にして明治十年十一月を以て生れ同三十年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學法科大學を卒業し直ちに日本銀行に入り大阪支店測査役松江松本京都門司各支店等に勤務し現時本店文書局長たり家族は尚二男貞郎（明四二、一〇生）三男茂樹（大元、九生）四男正剛（同五、五生）長女久子（同九、七生）五男文吾（同一一、一生）弟覺夫（明二一、七生、早稻田大學商科出身、藤本ビルブローカー銀行京都支店長次席）同妻勝子（同三三、五生、京都、藤林貞一姉）同一夫（同二五、一一生）同妻きやう（同二八、四生、三重、士、清水誠吾二女）及其子女あり（東京、牛込、納戸町三七　電牛込一三七五）

參照＝服部金太郎※牛塚虎太郎※河田源三※杉村米次郎※中原榮之助※服部玄三※松山陸郎の項

清水　光藏　中外倉庫工業㈱、專務取締役、兼總支配人、日米運輸（株）取締役、日本プランナー・モンド・コンパニー・リミツテド相談役
神奈川縣在籍
妻　ナル　明三一、一生、神奈川、增井コマ長女
男　知光　明四〇、六生

君は神奈川縣人清水鎚太の弟にして明治十九年五月を以て生れ大正六年分家して一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尚三男敏夫（大二、七生）四男秀夫（同五、二生）長女悅子（同七、一生）二女明子（同九、七生）三女久子（同一一、一二生）四女信子（同一三、一二生）五男貞夫（昭二、六生）あり二男正義（明四三、七生）は青山家を繼げり（横濱、根岸町三九三七　電本局七七七）

祖母　けい　嘉永元、二生、清水慈詮長女
妻　幸子　明二八、一一生、東京、士、白井重吉妹
男　壽一　大四、二生
女　梅子　明四〇、一〇生
君は東京府人清水治右衛門の二男にして明治十五年三月を以て生れ後先代治兵衛の養子となり同三十八年家督相續と共に前名金次郎を改め襲名す呉服商を營み武藏屋と號し東京府多額納稅者たり家族は尙ほ三男良雄（大八、四生）四男明（同一二、八生）弟德藏（明二三、六生）同妻げん（同三四、一生、千葉、石井長松二女）及其一女あり妹文子（同三六、二生）は東京府人櫻井秀猛に嫁し弟房次郎（同二一、四生）は分家せり（東京市外入新井町新井宿一六五五）

參照＝宗綱原經民の項

清水靜太郎

長崎油脂工業、京都石鹸各（株）社長、岐阜縣士族

天保一〇、三生、岐阜、米山半平長女
母　みし　明一二、三生、長崎、江頭多四郎妹
妻　ナヲ　明二四、二生、長崎高等商業學校出身
男　義雄　明三四、四生、長男義雄妻、京都、中岡吉兵衛二女
婦　貞子

君は岐阜縣人清水靜右衛門の長男にして元治元年九月を以て生れ明治五年家督を相續す同十九年東京高等商業學校主計科を卒業し現時前揭各會社の社長たり家族は尙孫純子（大一〇、五生、長男義雄長女）同美和子（同一二、二生、同二女）同靜雄（同一三、一二生、同長男）あり姉ます（萬延元、一一生）は京都府人祖父江圭學に嫁せり（長崎市西濱町六九）

清水收吉

從五位勳五等、遞信書記官、郵務局業務課長兼遞信博物館長
岐阜縣在籍

妻　つる　明二六、五生、岐阜、平野彌兵衛姪
男　達夫　大五、三生

君は岐阜縣人田中清兵衛の二男にして明治十八年八月を以て生れ先代やすの養子となり大正十四年家督を相續す先是明治四十三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同年文官高等試驗に合格す爾來遞信管理局事務官補遞信局副事務官貯金局書記官等に歷任し大正十一年歐米に出張す歸朝後遞信局書記官を經て同十三年遞信書記官となり現に郵務局業務課長兼遞信博物館長たり家族は尙長女禮子（大九、一生）二女信子（同一〇、一一生）二男茂夫（同一二、一生）あり（東京市外大井町出石五一〇）電大森八五五）

清水洲平

松尾鑛業、三怜不動產各（株）常務取締役、南邊公司（株）取締役、横濱帆布（株）監査役、東京府在籍

明二八、七生、京都、市川綱二姉同志社女學校出身

妻　君子　大六、七生

君は長野縣人清水潔の弟にして明治二十年十一月を以て生れ一家を創立す先是明治四十三年早稻田大學を卒業し後增田貿易會社上海支店長となり現時前記諸會社の重役たり家族は尙ほ二女明子（大一二、五生）三女春子（同一五、三生）あり（東京市外大久保一〇電四谷五九三三）

清水靜太郎

長崎油脂工業、京都石鹸各（株）社長、岐阜縣士族

天保一〇、三生、岐阜、米山半平長女
母　みし　明一二、三生、長崎、江頭多四郎妹
妻　ナヲ　明二四、二生、長崎高等商業學校出身
男　義雄　明三四、四生、長男義雄妻、京都、中岡吉兵衛二女
婦　貞子

君は岐阜縣人清水靜右衛門の長男にして元治元年九月を以て生れ明治五年家督を相續す同十九年東京高等商業學校主計科を卒業し現時前揭各會社の社長たり家族は尙孫純子（大一〇、五生、長男義雄長女）同美和子（同一二、二生、同二女）同靜雄（同一三、一二生、同長男）あり姉ます（萬延元、一一生）は京都府人祖父江圭學に嫁せり（長崎市西濱町六九）

清水收吉

從五位勳五等、遞信書記官、郵務局業務課長兼遞信博物館長
岐阜縣在籍

妻　つる　明二六、五生、岐阜、平野彌兵衛姪
男　達夫　大五、三生

君は岐阜縣人田中清兵衛の二男にして明治十八年八月を以て生れ先代やすの養子となり大正十四年家督を相續す先是明治四十三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同年文官高等試驗に合格す爾來遞信管理局事務官補遞信局副事務官貯金局書記官等に歷任し大正十一年歐米に出張す歸朝後遞信局書記官を經て同十三年遞信書記官となり現に郵務局業務課長兼遞信博物館長たり家族は尙長女禮子（大九、一生）二女信子（同一〇、一一生）二男茂夫（同一二、一生）あり（東京市外大井町出石五一〇）電大森八五五）

清水洲平

松尾鑛業、三怜不動產各（株）常務取締役、南邊公司（株）取締役、横濱帆布（株）監査役、東京府在籍

明二八、七生、京都、市川綱二姉同志社女學校出身

妻　君子　大六、七生

君は長野縣人清水潔の弟にして明治二十年十一月を以て生れ一家を創立す先是明治四十三年早稻田大學を卒業し後增田貿易會社上海支店長となり現時前記諸會社の重役たり家族は尙ほ二女明子（大一二、五生）三女春子（同一五、三生）あり（東京市外大久保一〇電四谷五九三三）

清水正一

從五位勳六等、判事、愛知縣在籍

父　治吉　嘉永二、一〇生、現戶主
母　たき　安政五、六生、愛知、馬場繁人二女
妻　きみゑ　明二二、五生、愛知、伴定次郎長女
男　治　大六、六生
女　はるゑ　明四四、四生
女　あきゑ　大二、九生

君は愛知縣人清水治吉の長男にして明治十八年十一月を以て生る同三十八年判事に任じ爾來宮津區京都地方各裁判所判事大阪控訴院判事に歷補し大正九年十二月日本に留學を命ぜられ同十二年六月米國イリノイ州デポー大學卒業法學博士の學位を得て歸朝し同年七月現職東京控訴院判事に補せらるる家族は尙三男悟（昭二、二生）あり妹ふき（明一四、三生）は同縣人川島才次郎に嫁し（同二二、三生）は同縣人尾琢磨に嫁し（同二四、一一生）は分家し弟甲（同二八、九生）も亦其の妻子を伴ひ分家し同小六（同一七、一二生）は大阪府人鴻池忠三郎父忠治郎の養子となれり（東京、麴町、西日比谷町一同法省官舍電銀座二九九〇）

清水新一郎

北惠那鐵道（株）取締役兼支配人
岐阜縣在籍

父　淺太郎　萬延元、一一生
妻　五十鈴　明二七、七生、滋賀、木野戶勝隆女

君は岐阜縣人清水淺太郎の長男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十年家督を相續す現時北惠那鐵道會社取締役兼支配人たり歌集『人並の心』『山峽所產』の著あり家族は尙弟捨三（明三一、六生）あり同組三（同二二、一一生）は分家せり（岐阜、惠那、中津町）

參照　木野戶勝隆の項

清水省三

鳳至銀行、株常務取締役、能州電氣（株）監査役、石川縣在籍

明一六、一二生、石川、中谷清右衛門三女

君は石川縣人清水賢庵の三男にして明治十二年二月を以て生れ同三十六年家督を相續す現時鳳至銀行能州電氣會社の重役たり家族は尙弟西造（明一八、二生）同妻勝（同二七、一二生、石川、坂本忠吉長女）との間に一男一女同賢示（同二六、一一生）同妻のふ（同三五、七生、千葉、平木健太郎妹）との間に一子あり妹スイ（同二二、一一生）は石川縣人大成小間治養子淳吉に妹そと（同一六、九生）は同縣人高澤和七郎長男義作に嫁せり（石川、鳳至、穴水町）

清水庄次郎

北海道多額納稅者、仲買業

北海道在籍

明一五、八生、神奈川、加藤佐助二女
妻　ジヤウ　茂　明三九、九生

君は神奈川縣人清水又兵衛の弟にして明治九年十一月を以て生れ同二十八年分家して一家を創立す仲買業を營み北海道多額納稅者たり家族は尙三男浩（大六、七生）四男俶（同一一、八生）五男哲（同一四、四生）あり（小樽市）

參照＝清水又兵衛の項

清水省三

鳳至銀行、株常務取締役、能州電氣（株）監査役、石川縣在籍

明一六、一二生、石川、中谷清右衛門三女
妻　ふゆ

君は石川縣人清水賢庵の三男にして明治十二年二月を以て生れ同三十六年家督を相續す現時鳳至銀行能州電氣會社の重役たり家族は尙弟西造（明一八、二生）同妻勝（同二七、一二生、石川、坂本忠吉長女）との間に一男一女同賢示（同二六、一一生）同妻のふ（同三五、七生、千葉、平木健太郎妹）との間に一子あり妹スイ（同二二、一一生）は石川縣人大成小間治養子淳吉に妹そと（同一六、九生）は同縣人高澤和七郎長男義作に嫁せり（石川、鳳至、穴水町）

清水新一郎

北惠那鐵道（株）取締役兼支配人
岐阜縣在籍

父　淺太郎　萬延元、一一生
妻　五十鈴　明二七、七生、滋賀、木野戶勝隆女

君は岐阜縣人清水治吉の長男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十年家督を相續す現時北惠那鐵道會社取締役兼支配人たり歌集『人並の心』『山峽所產』の著あり家族は尙弟捨三（明三一、六生）あり同組三（同二二、一一生）は分家せり（岐阜、惠那、中津町）

參照　木野戶勝隆の項

清水莊一郎

群馬縣多額納稅者、高崎板紙、高崎倉庫、上州運送各（株）取締役

群馬縣在籍

妻　シゲ　明二二、二生、熊本、久具周六長女
男　英一郎　明四四、七生

君は熊本縣人清水三良八の三男にして明治九年六月を以て生れ同三十年家督を相續す同三十六年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同三十八年判事に任じ久留米區裁判所判事を經て大正二年檢事に轉じ長崎廣島各控訴院檢事廣島地方裁判所判事を經て大正二年檢事に歷補し現に大審院檢事にして司法書記官大審院檢事に歷補し現に大審院檢事にして司法書記官を兼ね大臣官房人事課長たり家族は尙長女敏子（大三、三生）二男秀之（同四、七生）二女美代子（同七、三生）三男明（同一三、四生）四男稔（昭二、五生）あり妹ミス（明一四、同一〇生）は熊本縣人鶴田幸一長男陽太郎に嫁せり（東京、麴町、西日比谷町一同法省官舍電銀座二九九〇）

清水莊一郎

內外電熱器（株）專務取締役、芝浦製作所（株）大阪出張所長
靜岡縣士族

養母　さと　明五、一生、埼玉、佐藤啓三長女
妻　てい　明一九、三生、養父豐平長女、御茶水高等女學校出身
男　健兒　明三一、二生、東京帝國大學工學部在學

君は北海道人清水彌吉の叔父なり明治五年十一月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す船具商を營み前記諸會社の重役たり家族は尙二男晶（大五、八生）あり妹智惠（明二八、三生）は早稻田大學教授島村民藏に嫁せり（東京市外澁谷町圓山二五）

參照＝齋藤新三郎

女　綾　明四一、一二生、御茶水高等女學校出身
女　澄　明四三、一生、御茶水高等女學校出身
女　妙子　明四四、六生、府立第三高等女學校在學

君は靜岡縣人篠ヶ瀨陽一郎の二男にして明治十年七月を以て生れ先代豐平の養子となり同三十八年家督を相續す同三十五年京都帝國大學工科大學電氣科を卒業し芝浦製作所に入り販賣部長代理を經て大正十二年大阪出張所長となり今日に及び傍ら內外電熱器會社專務取締役たり讃に米國に航し四ケ年に亘り實地見學を爲せり家族は尙二男晶（大五、八生）あり妹智惠（明二八、三生）は早稻田大學教授島村民藏に嫁せり（東京市外澁谷町圓山二五）

參照＝齋藤新三郎

清水惣太郎

和歌山縣多額納稅者、吳服商

和歌山縣在籍

妻　千代　明二〇、一生、群馬、沼賀誠三郎二女
男　新也　大八、九生
女　菊代　明四一、一〇生
女　美春　明四四、五生

君は群馬縣人清水新次郎の長男にして明治十四年五月を以て生れ同四十一年家督を相續す縣下の多額納稅者にして前記會社の重役たり養に日本果實工業會社取締役に就任せり家族は尙三女富美江（大三、二生）四女和代（同五、九生）二男哲夫（同一一、九生）あり亡養兄久太郎妻かね（明八、八生）は其一子を伴ひ分家し姪千代（同二五、二生）は龍本縣人新開芳暎四男滝觀に嫁せり（高崎、歌川町一六）

參照＝新開滝觀の項

清水捨治郎

荒物商
京都府在籍

妻　ツネ　慶應元、四生、京都、川合伊兵衛長女
男　吉之助　明三四、四生
女　三代　明二九、二生

君は滋賀縣人掛村平治の四男にして慶應二年四月を以て生れ先代平助の養子となり明治二十二年家督を相續す荒物商を營む家族は尙孫ミツ（大五、二生、三女三代私生子）あり長女きみ（明二〇、一〇生）は分家せり（京都、下京、錦小路通東洞院東入西魚屋町五九七）電中二三五〇）

清水生重

勳五等、山下コークス（株）專務取締役、兵庫縣士族

妻　きわ　明四四、千葉、士、深津與作四女
男　嘉雄　明三九、一一生

君は兵庫縣士族清水榮作の長男にして元治元年十一月を以て生れ明治十一年家督を相續す同二十年大阪商船學校を卒業し日本郵船會社に入り船長其他に就任す現時山下コークス會社專務取締役たり船長花子（明二九、七生）は大阪府人田中慶治に二女喜代子（同三五、一二生）は同府人田中昌治に妹八重（同三、一二生）は大分縣士族川島章弟氏充に同秩（同九、六生）は兵庫縣人神谷英之助に嫁せり（神戶、中山手通二ノ二九ノ七八電話舍二六七五）

清水積一郎

內外紡織、松太綿布、丸一商會各（株）取締役、和歌山縣在籍

明二三、二生、和歌山、吉田萬右衛門三女
妻　ジウ
男　慶一　大二、一〇生
女　千惠　明四四、九生

君は和歌山縣人清水與次兵衛の四男にして小西安次郎の弟なり明治十八年三月を以て生れ同四十四年分家して一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尙二男達夫（大五、二生）二女世都子（同七、五生）あり（和歌山市軍坂丁一ノ六）

參照＝小西安次郎、吉田萬右衛門※玉置吉之丞の項

清水壯左久

正五位勳四等、檢事兼司法書記官
大審院檢事、大臣官房人事課長
熊本縣在籍

妻　初惠　明二七、三生、和歌山、清水久四郎長女
男　文一　大九、一一生
君は和歌山縣人安野惣三郎の二男にして明治二十四年五月を以て生れ大正六年先代みさの養子となり家督を相續す吳服商を營み現に和歌山縣多額納稅者たり家族は尙長女ひさ子（大六、九生）あり養母みさ（安政二、一〇生、和歌山、久保田小兵衞長女）は分家せり（和歌山市本町）
參照―※宮本嘉平次の項

清水　太助　愛知縣多額納稅者、質商　愛知縣在籍
妻　ふき　明八、三生、愛知、高坂政左衞門長女
養子　ちせ　明四四、九生、甥益太郎長女
君は愛知縣人清水太助の二男にして文久元年二月を以て生れ明治十一年分れて一家を創立し前名鍵次郎を改む質商を營み愛知縣多額納稅者たり家族は尙甥益太郎（明一五、五生）同妻つゆ（同二五、九生、愛知、山本九八郎妹）あり（名古屋、中、旅籠町九〇電南一八六九）
參照―山本九八郎の項

清水　隆德　愛媛縣報社（株）社長　愛媛縣在籍
妻　ツグ　明四、一生、愛媛、清水範藏長女
男　奬　明二一、一二生
婦　げん　明三〇、三生、長男奬妻、東京、染谷佐傳次三女
男　保　明二五、八生
女　百合子　明二七、九生
君は元千葉縣知事告森良の弟にして醫學博士谷口長雄の兄なり文久二年八月を以て生れ明治十六年先代一郎の養子となり家督を相續す曩に愛媛縣農工銀行頭取に推され愛媛縣郡部より選ばれて衆議院議員たること三回現時愛媛新報社々長として知らる家族は尙ほ孫澄子（大五、一一生、長男奬妻女）同繁子（同一一、七生、同二女）同綾（同一四、七生、同長男）あり三女千枝（明三〇、一二生）は愛媛縣人清水岩次郎に嫁せり（東京、芝、白金三光町三〇五）

清水竹次郎　石川縣多額納稅者、一村商事（株）取締役、機業、石川縣在籍
妻　リウ　明四、五生、石川、士、上田忠太郎妹
男　善次郎　明三〇、九生
婦　外喜尾　明三六、三生、長男善次郎妻、石川、西村順二姉
君は石川縣人北本喜兵衞の三男にして慶應元年四月を以て生れ先代善右衞門の養子となり明治二十六年家督を相續す機業を營み現時一村商事會社取締役にして石川縣多額納稅者たり家族は尙甥善次郎（明三〇、九生）同妻川（同三六、三生、長男善次郎妻、石川、西村順二姉）あり（名古屋、中、旅籠町九〇電南一八六九）
參照―※宮本嘉平次の項

清水　太助　愛知縣多額納稅者、質商　愛知縣在籍
妻　ふき　明八、三生、愛知、高坂政左衞門長女
養子　ちせ　明四四、九生、甥益太郎長女
君は愛知縣人清水太助の二男にして文久元年二月を以て生れ明治十一年分れて一家を創立し前名鍵次郎を改む質商を營み愛知縣多額納稅者たり家族は尙甥益太郎（明一五、五生）同妻つゆ（同二五、九生、愛知、山本九八郎妹）あり（名古屋、中、旅籠町九〇電南一八六九）
參照―山本九八郎の項

清水　隆德　愛媛縣報社（株）社長　愛媛縣在籍
妻　ツグ　明四、一生、愛媛、清水範藏長女
男　奬　明二一、一二生
婦　げん　明三〇、三生、長男奬妻、東京、染谷佐傳次三女
男　保　明二五、八生
女　百合子　明二七、九生
君は元千葉縣知事告森良の弟にして醫學博士谷口長雄の兄なり文久二年八月を以て生れ明治十六年先代一郎の養子となり家督を相續す曩に愛媛縣農工銀行頭取に推され愛媛縣郡部より選ばれて衆議院議員たること三回現時愛媛新報社々長として知らる家族は尙ほ孫澄子（大五、一一生、長男奬妻女）同綾（同一四、七生、同二女）同繁子（同一四、七生、同長男）あり三女千枝（明三〇、一二生）は愛媛縣人清水岩次郎に嫁せり（東京、芝、白金三光町三〇五）

清水　丹太　長野縣多額納稅者、吳服商　長野縣在籍
妻　しづ　慶應元、一二生、長野、村松麟司二女
男　本之助　明二四、九生
婦　豐野　明二八、九生、長男本之助妻、長野、和田收藏妹
君は長野縣人清水吉五郎の長男にして萬延元年八月を以て生れ明治十九年家督を相續し前名米太郎を改む吳服商を營み現時長野縣多額納稅者たり家族は尙孫田鶴（大五、一〇生、長男本之助長女）同健吉（同七、四生、同長男）同英二（同八、一〇生、同二男）同弘（同一五、八生、同四男）あり長女しげ（明一七、三生）は同夫通治（同一一、九生、長野、河野清內弟）と共に分家し二女もと（同一九、一生）は長野縣人竹下一郎に三女たつの（同二二、四生）は同縣人樋口政雄に四女初江（同二七、六生）は同縣人河野猪太郎二男喜作に六女久（同三四、一〇生）は同縣人荻原實に嫁せり（長野、更級、稻荷山町）
參照―和田收藏※和田信三の項

清水　猛　中井商科商店（株）取締役、洋家具商、大阪府在籍
妻　はな　明一四、五生、大阪、萬佐木藤吉三女
君は岡山縣人橫山良作の三男にして明治十二年八月を以て生れ同三十四年清水あさの養子となり同三十七年家督を相續す大正九年米澤高等工業學校應用化學科を卒業して洋家具商を營み傍ら中井商科商店取締役たり（大阪、東、淡路町四ノ二二電本局二四五四）

清水　爲一　醫師　長野縣士族
母　よし　嘉永五、一〇生
妻　ケン　明二二、七生、長野、福島政八長女
男　大三、七生
女　正子　大二、一生
君は埼玉縣人清水善兵衞の二男にして明治元年四月を以て生れ同十八年家督を相續す縣下の多額納稅者にして前記銀行會社の重役たり家族は尙七男準三（明四五、六生）六女茂登（大三、一〇生）孫卓郎（同一三、一生、長男晃一郎長男）同俊策（同一四、八生、同二男）あり長女せい（明二六、八生）は埼玉縣人清水善太郎に嫁し二男健次郎（同三一、八生）は東京府人澁井清叔母今子の入夫となり三男英雄（同三四、一生）は神奈川縣人鈴木マスの養子となり叔父善太郎（同一六、一一生）は分家

清水　近太郎　埼玉縣多額納稅者、加須銀行（株）常務取締役、埼玉製絲（株）監査役　埼玉縣在籍
妻　なか　明八、一二生、茨城、長澤茂一郎妹
男　晃一郎　明二八、四生
婦　政子　明三七、六生、長男晃一郎妻、埼玉、野口秀妹
男　輝次　明三六、八生
女　豐子　明三八、六生、跡見女學校出身
男　敏三郎　明四〇、四生
男　良吉　明四一、一一生
女　喜久　明四三、八生

せり（埼玉、北埼玉、加須町）
參照―澁井清、野口秀の項

清水　忠作　依田銀行、丸子鐵道各（株）取締役　長野縣在籍
母　りを　安政四、七生、長野、山岸利作長女
妻　まさ　明一七、一生、長野、市川茂助二女
男　忠義　明四一、一生
女　千鶴子　明四三、六生
君は長野縣人先代忠作の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十一年家督を相續し前名今朝之助を改む現時依田銀行取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙庶子博子（大七、一生、生母、東京、藤井綾勢）同等（同八、三生、生母同上）あり妹いせの（明三〇、九生）は東京府人松村松之助に嫁せり（長野、小縣、丸子町）

清水　槌太郎　三笠山エスカター（株）社長、釜山埋築（株）副社長、中外海上火災保險（株）監査役　東京府士族
妻　ミサヲ　明二一、一生、陸軍中將澁谷在明二女
男　太郎　明四二、一〇生
君は島根縣人三宅七十郎の長男にして明治二年正月を以て生れ舊廣島藩士にして陸軍中佐日本赤十字社理事たりし先代俊の養子となり同四十一年家督を相續す同三十二年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業して北海道炭礦鐵道清國上海アメリカンナイナデベロウプメント各會社技師橫濱電氣鐵道東京瓦電大日本軌道各會社技師長東京砂利鐵道會社取締役相摸水力電氣會社常務取締役埼玉電燈會社々長逗子電燈會社及銚子電燈會社取締役安中電機製作所監査役等に就任し又曩に大正水力電氣會社を創設し其專務取締役となる現時前掲諸會社の重役たり（東京、芝、西久保城山町九、兵庫、武庫、精道村蘆屋宿四三八ノ五七電蘆屋二七五）

清水　釘吉　正七位勳五等、陸軍步兵大尉、沖電氣（株）取締役、清水組（資）代表者、東京府在籍
妻　たけ　明八、一一生、養弟滿之助姉
男　俊雄　明二七、二生
婦　イクヨ　明三二、三生、長男俊雄妻、東京、戶秀三郎長女
男　信雄　明四〇、三生
婦　總　明四四、一生

君は京都府士族小野高永の二男にして慶應三年十一月を以て生れ後清水家の養子となり明治二十四年分れて一家を創立す卽ち清水滿之助同一雄同揚之助の甥學帝國大學工科大學建築科を卒業し清水組や橫濱六等單光旭日章を以て選ばれて建築工事監督の任に膺り先輩の間に馳駈し大に斯界の注視を惹きたり同三十四年建築業視察のため歐米各地を歷遊し歸朝するや大に同社の擴張を圖り遂に今日の盛況を見るに至れり往年日淸の役起るや一年志願兵として遼東の野に轉戰し功あり中尉に進み勳六等單光旭日章を賜ふ日露の役再び徵されて北韓や一年志願兵として遼東の野に轉戰し功あり中尉に進み勳六等單光旭日章を賜ふ現時前掲各會社の重役として斯界に聞ゆ家族は尙六男壽雄（明四四、三生、二男淸四郎長女）同夏雄（同一五、八生、同長男）あり長女文（明二九、三生）は東京府人守安瀧次郎弟瀧三に嫁し三男廉（同二一生）は養弟滿之助の養嗣子となれり（東京、神田、駿河臺北甲賀町一七電神田二一）
參照―清水一雄、清水滿之助、清水揚之助、守安瀧次郎の項

清水　藤三郎　京都府多額納稅者、京都市會議員　染色業、京都府在籍
妻　亖三　明四二、七生
女　花子　明四一、七生
君は京都府人福富文平の長男にして明治七年十月を以て生れ同二十八年先代染色業を營み尙府多額納稅者にして又推されて京都市會議員たり家族は尙二男藤次郎（明四五、二生）三男忠三（大三、三生）五男義一（同九、六生）六女らく（同一二、四生）あり長女マキ（明二八、三生）は其夫龜之助（同二二、京都、田中周三郎弟）及其一男一女と共に分家し四男鉾次郎（大七、四生）は京都府人福富正太朗の養子となり三女エン（明三七、一生）は大阪府人田中房次郎に嫁キン（同一二、一二生）は京都府人宮川新太郎長男新次郎に嫁せり（京都、下京、豪樂廻西町一二三電西陣六四四）

清水　騰太郎　群馬縣多額納稅者、農業　群馬縣在籍
男　光太郎　明一〇、四生、現戶主
婦　カイ　明九、四生、長男光太郎妻、群馬、關根綠三郎長女
男　清四郎　明一八、二生
婦　マサ　明二三、一〇生、二男清四郎妻、群馬、關口弘妹
孫　好太郎　明二八、三生、長男光太郎長男
孫妻　ハル　明三〇、二生、孫好太郎妻、群馬、佐藤市郎兵衞長女
孫　榮治　明三四、一〇生、長男光太郎四男
孫妻　ヒデ　明三八、一二生、孫榮治妻、群馬、清水熊治郎四女
孫　寅雄　明三五、七生、長男光太郎五男
孫　金八　明三八、一生、長男光太郎六男
孫　ぬい　明四五、六生、長男光太郎長女
孫　好枝　明四四、三生、二男清四郎長女
君は群馬縣人清水兵多の長男にして嘉永元年三月を以て生れ後ち家督を相續し大正十四年隱退す明治二十四年明治大學を卒業し傍來祖業農を營み現に群馬縣多額納稅者たり家族は尙孫卯八（大四、五生、長男光太郎七男）同續十郎（同二、一生、二男清四郎長男）同喜美惠（同七、三生、同二女）同マツ（同一〇、六生、同三女）曾孫廣太郎（同八、六生、孫好太郎長男）同一次（同一一、六生、同二男）同美惠（昭二、四生、同長女）同初枝（同二、八生、孫榮治長女）あり（群馬、群馬、中川村）

清水　澄　從三位勳二等、法學博士、帝國學士院會員、行政裁判所評定官、帝國第二部長、宮內省御用掛臨時法制審議會臨時委員、東京府在籍
妻　タツ　明一三、九生、故大審院長三好退藏長女、華族女學校出身
男　虎雄　明三五、一一生、從七位、地方事務官、富山縣商工課長
婦　重子　明四二、七生、長男虎雄妻、石川、中橋德五郎四女、雙葉高等女學校出身
男　德茂　明三七、一生
男　重義　明三八、一生
君は石川縣人清水吉三郎の長男にして明治元年八月を以て生れ同二十五年分家して一家を創立す同二十七年

帝國大學法科大學佛法科を卒業し東京府參事官宮内省事務官等を經て同三十一年學習院敎授に任ぜられ獨佛兩國に留學を命ぜらる歸朝後學習院敎授兼幹事となり同三十八年法學博士の學位を受け翌年行政裁判所評定官に任ぜらる又宮内省御用掛として大正四年以來帝國憲法皇室典範行政法皇室制度等の御進講を仰せり現に行政裁判所評定官同第二部長にして臨時法制審議會臨時委員及び帝國學士院會員たり著書數種あり（東京、四谷、愛住町六三**電四谷二七九〇**）

參照＝中橋德五郎※男爵九鬼隆一※中橋謹二※中橋武一※三好丑之助※三好重道の項

清水得一　從四位勳二等功五級、海軍中將、海軍機關學校長、東京府士族

父　元一郎　嘉永三、六生
母　はる　安政元、三生、東京、士、登坂權右衞門長女
妻　よし　明二七、九生、山形、木村文輔妹
男　昭彦　昭二、三生
女　龍靜　明四〇、一生、東京女學館出身
女　大二、七生

君は東京府士族清水元一郎の長男にして明治九年三月を以て生れ大正五年家督を相續す明治三十一年海軍機關學校を卒業し同三十二年海軍少機關士に任じ大正十四年海軍中將に累進す其間吾妻分隊長として日露戰役に參加し功を樹て金鵄勳章功五級を賜ふ明治四十年海軍大學校を卒業し艦艇造船監督官海軍大學校敎官兼艦政本部出仕吳海軍工廠造機部員海軍技術本部々員海軍艦政本部々員横須賀鎭守府艦船部長等を歷補し現時海軍機關學校長たり家族は尙三女美（大一〇、一生）四女庸子（同一三、二生）あり妹まさ（明一四、九生）は兵庫縣人奥山春枝に嫁す卓三（同三〇、四生）は神奈川縣人田口ルイの養子となり同桃吉（同三三、三生）は分家せり（京都、加佐、中舞鶴町海軍機關學校官舍甲特第一號）

參照＝奥山春枝の項

清水德三郎　愛媛縣多額納稅者

妻　寅尾　愛媛縣在籍
男　節之助　明六、九生、愛媛、士、櫻井秀高妹婦　ウタヨ　明一七、五生、長男節之助妻、愛媛、越智辰五郎長女
男　千輔　明一九、一生
婦　ツネヨ　明二七、五生、五男千輔妻、愛媛、越智辰五郎三女
男　逸明　明三五、一〇生、長男節之助長男
孫　正夫　明三九、一一生、長男節之助二男
孫　勇　明三九、一一生、長男節之助三男

君は愛媛縣人越智浪三郎の二男にして安政四年七月を以て生れ後先代慶次の養子となり明治二十二年家督を相續す同二十五年同志社大學を卒業し豪商にして現に稅者たり家族は尙孫美代子（大三、一一生、五男千輔長女）同瑠璃子（同一一、九生、六男照逸長女）同玉井好美）同健二郎（同一三、六生、同庶子、生母、愛媛、玉井好美）同三郎（同一五、二生、同庶子、生母同上）同三郎（同一五、二生、同庶子、生母同上）あり（今治、本町）

清水德太郎　從四位勳四等、衆議院議員（山形縣選出）、山形縣在籍

妻　富　明二九、四生

君は明治十五年二月を以て生る同四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し次で文官高等試驗に合格し爾來鐵道院參事官同參事山形縣西置賜郡長栃木縣理事官奈良宮崎山形各縣書記官和歌山縣警察部長山形縣書記官を經て同三年山形縣より推されて衆議院議員に當選し立憲民政黨に屬す家族は尙西比利亞及南洋方面を觀察す家族は尙長女民子（大七、八生）二女勝子（同一〇、二生）三女國子（同一二、五生）四女芳子（同一五、一一生）あり（前橋、曲輪町）

清水　豐一　三井物産（株）青島支店長

妻　節　明二五、六生、長野、甲田慶次郎養子

君は東京府人清水濱十の弟にして明治十一年十月を以て生れ大正六年分家して一家を創立す夙に東京外國語學校支那語科を卒業し明治三十九年三井物産會社に入り爾來本店上海青島各支店に勤務し現に同社青島支店長たり（青島、堂邑路）

清水直治郎　清水商店（株）代表取締役、新家自動車製造、山又機業各（株）取締役、日本絹織（株）監査役、石川縣在籍

養祖母　りか　弘化二、一一生、石川、來谷七三郎三女
養父　孝平　安政元、一生、石川、清水惣次郎二男、現主
妻　田鶴　明二五、一〇生、石川、清水惣八妹
養子　喜久男　大八、一二生、石川、清水惣八四男

君は石川縣人清水孝平の二男にして明治二十二年二月を以て生れ同四十一年養兄孝平の養子となる縣下の實業家として知れ現時前記諸會社の重役たり（石川、江沼、大聖寺町）

參照＝※清水亥三郎の項

清水　直七　水濱電車（株）取締役、日立電氣、五十銀行各（株）監査役、茨城縣在籍

養母　よし　嘉永六、四生、茨城、綿引專介三女
妻　たき　明三、一二生、養父平左衞門長女
男　鎌造　明二五、一生、早稻田大學出身
婦　たか　明二九、一生、二男鎌造妻、茨城、仙波角三郎長女、共立女子職業學校出身
男　平三　明三四、五生

君は茨城縣人加部東岩吉の弟にして慶應二年九月を以て生れ清水平左衞門の養子となり明治三十三年男平左衞門の後を承けて家督を相續す現時前記銀行會社の重役たり家族は尙孫直十（大六、九生、二男鎌造長男）同誠二郎（同九、一生、同二男）同とみ（同一二、二生、同長

女）あり長女せい（明三〇、七生）は茨城縣人加部東秀吉に嫁せり（茨城、東茨城、磯濱町）

清水中四郎　大倉製絲工場（株）監査役、新潟縣士族

妻　キタ　明五、一生、新潟、北村治郎七長女
男　鐵　明三三、九生
婦　利　明三七、一一生
男　力　明四二、一生
女　アイ　明四四、一生
女　花子　明四四、三生

君は新潟縣士族清水貫一の弟にして慶應元年十一月を以て生れ大正四年家督を相續す現時大倉製絲工場監査たり家族は尙七女君子（大四、一生）孫健夫（同一五、三生、長男鐵長男）あり三女靜江（明二八、九生）は山梨縣人長田剛雄に四女孝子（同四〇、一生）は北海道人板谷島吉養子力藏に嫁せり（新潟、北蒲原、新發田町）

清水　八郎　前尾張屋銀行（株）駒込支店長、東京府在籍

妻母　ふじ　明三、一生、東京、鈴木嘉兵衞妹
妻　しま　明二一、八生、先々代武兵衞長女

君は栃木縣人青木仁平の弟にして明治十八年三月を以て生れ同四十四年先代しまの入夫となり家督を相續す同四十一年早稻田大學商科を卒業し同四十三年尾張屋銀行に入り轉に同行駒込支店長たり家族は尙ほ養子德（大五、一〇生、東京、清水武兵衞三女）あり（東京、本郷、駒込林町二〇六**電小石川三一九四**）

參照＝河合長藏※福田常兵衞の項

清水　春吉　東京米穀商品取引所取引員、東京府在籍

養母　なを　嘉永元、九生、三重、中島卯之助妹
妻　よし　明一三、九生、養父富四郎長女
男　達雄　明四二、四生
女　さと　明四五、二生

君は福井縣人三橋清五郎の二男にして明治三年二月を以て生れ先代富四郎の養子となり大正六年家督を相續す現に東京米穀商品取引所第一部取引員たり家族は尙三女みつ（大三、一一生）あり（東京、日本橋、蠣殼町二電茅場町一〇一六）

清水　留三郎　衆議院議員（群馬縣選出）、上毛機織（資）業務擔當社員、櫻組（資）支配人、關東產業新聞社長、群馬縣在籍

妻　マツ　明二六、九生、愛媛、士、櫻井秀高妹
女　登享子　大四、一〇生
女　隆子　同八、八生

君は群馬縣人清水道三郎の二男にして慶應二年九月を以て生れ大正六年分家して一家を創立す明治三十三年東京專門學校邦語法律科を卒業し米國ワシントン大學ミネソタ大學に學びマスター・オブ・アーツの學位を受け紐育にて貿易業を營みしが歸朝後前記各會社の重役たり家族は尙孫直十（大六、九生、二男鎌造長男）同誠二郎（同九、一生、同二男）同とみ（同一二、二生、同長女）あり長女せい（明三〇、七生）は茨城縣人加部東秀吉に嫁せり（茨城、東茨城、磯濱町）

清水中四郎　大倉製絲工場（株）監査役、新潟縣士族

妻　キタ　明五、一生、新潟、北村治郎七長女
男　鐵　明三三、九生
婦　利　明三七、一一生
男　力　明四二、一生
女　アイ　明四四、一生
女　花子　明四四、三生

君は新潟縣士族清水貫一の弟にして慶應元年十一月を以て生れ大正四年家督を相續す現時大倉製絲工場監査たり家族は尙七女君子（大四、一生）孫健夫（同一五、三生、長男鐵長男）あり三女靜江（明二八、九生）は山梨縣人長田剛雄に四女孝子（同四〇、一生）は北海道人板谷島吉養子力藏に嫁せり（新潟、北蒲原、新發田町）

清水　八郎　前尾張屋銀行（株）駒込支店長、東京府在籍

妻母　ふじ　明三、一生、東京、鈴木嘉兵衞妹
妻　しま　明二一、八生、先々代武兵衞長女

君は栃木縣人青木仁平の弟にして明治十八年三月を以て生れ同四十四年先代しまの入夫となり家督を相續す同四十一年早稻田大學商科を卒業し同四十三年尾張屋銀行に入り轉に同行駒込支店長たり家族は尙ほ養子德（大五、一〇生、東京、清水武兵衞三女）あり（東京、本郷、駒込林町二〇六**電小石川三一九四**）

參照＝河合長藏※福田常兵衞の項

清水　春吉　東京米穀商品取引所取引員、東京府在籍

養母　なを　嘉永元、九生、三重、中島卯之助妹
妻　よし　明一三、九生、養父富四郎長女
男　達雄　明四二、四生
女　さと　明四五、二生

君は福井縣人三橋清五郎の二男にして明治三年二月を以て生れ先代富四郎の養子となり大正六年家督を相續す現に東京米穀商品取引所第一部取引員たり家族は尙三女みつ（大三、一一生）あり（東京、日本橋、蠣殼町二電茅場町一〇一六）

清水　半吾　從五位勳六等、山梨高等工業學校敎授、生徒監、岐阜縣在籍

萬延元、一二生、岐阜、近藤丈吉二男、現戶主
妻　ひさ　明二、四生、岐阜、炭礦武平三女
男　廣太郎　大二六、四生、養父金一郎繼子、大垣高等女學校出身
女　せい　大二、一一生

君は岐阜縣人森半次の弟にして明治十四年一月を以て生れ後ち清水金一郎の養子となる同三十九年京都帝國大學理工科大學實驗物理學科を卒業し山形縣立山形中學校敎諭愛知縣立第一中學校敎諭廣島高等師範學校敎授奈良女子高等師範學校敎授等に任じ大正十五年山梨高等工業學校敎授に任ぜられ現時に至る家族は尙三女なほ子（大一〇、九生）あり（甲府、元紺屋町九四ノ一）

清水　半四郎　養蠶家、東京府在籍

養子　治　明四四、一二生、埼玉、清水信造長女

君は東京府人先代半四郎の長男にして安政五年十一月を以て生れ明治四十三年家督を相續し後前名東之助を改む養蠶家にして侯爵井上勝之助男爵伊藤博邦の二男にして侯爵井上勝之助男爵伊藤文吉の甥なり明治三十四年四月を以て生れ先代貴治の養子となり大正十二年家督を相續し襲爵仰付けらる同十五年法政大學專門部法律科を卒業し現時王子製紙會社員たり家族は尙養妹珠子（明四一、三生）あり（東京、麻布、新龍土町一二伊藤公爵邸）

參照＝公爵伊藤博邦、侯爵井上勝之助、男爵伊藤文吉、小熊幸一郎※子爵末松春彦※子爵松平慶民※小熊信一郎※小熊新三郎※永富雄吉の項

清水　熙　正八位勳八等、大阪市電氣局理事

母　ます　文久元、一〇生、岐阜、渡邊宗吾三女
妻　常　明二一、九生、男爵川田龍吉長女
男　源次郎　明四四、一一生

君は京都府士族清水勝定の長男にして明治十年三月を

清水　文藏　梅園館食堂、劇場業
東京府在籍
明一九、二生
女　しげ

君は東京府人清水榮藏の長男にして安政三年四月を以て生れ明治十二年家督を相續し割烹業を營む家族は尙姉きよ（安政五、七生）あり二女ぶん（明二三、七生）は分家せり（東京、淺草、馬道町一ノ一五電淺草八五四）

清水　文之輔　太陽生命保險㈱專務取締役、生氣嶺枯土石炭㈱取締役
東京府在籍
元治元、九生、鹿兒島、士、渡瀨正衛妹
妻　エイ
女　アキ
明三一、四生、日本女子商業學校出身

君は福井縣人清水九十郎の長男にして明治元年一月を以て生れ同十六年分家して一家を創立す清水家は三百年以前より福井縣下に定住し代々本陣たりし舊家なり君明治二十二年第一高等學校英法科を卒業して東京帝國大學法科大學政治科に學び後渡米しホノルルに於て米人と共に法律事務所を設け傍ら邦字新聞を發刊せり歸朝後第二高等學校教授長崎商業會議所書記長崎十八銀行元山京城各支店長元山商業會議所會頭に歷任し同四十四年太陽生命保險會社の創立に當り其幹部となり次で專務取締役に擧げられて今日に至る傍ら氣嶺粘土石炭會社取締役を兼ぬ餘暇を以て社會學經濟學を研鑽し造詣する所深し二女セン（明三二、九生）大分縣人木下武雄に嫁せり（東京市外澁谷町八幡通三ノ一九電青山三二六二）

清水　孫四郎　清水商事㈱（株）專務取締役、富岡製絲㈱（株）常務取締役、清水㈱（名）代表社員、新潟縣在籍
明二〇、一〇生、北海道、花岡利吉三女
妻　リサ
男　正市　大元
女　芳江　明四三、七生

君は新潟縣人清水庄十郎の長男にして明治十四年七月を以て生れ同二十三年清水締之助の絕家を再興す同三十六年東京高等商業學校を卒業し同年日本郵船會社に入り大正十五年同社營業部長に擧げられ今日に至る家族は尙三女紀子（大六、二生）四女萬里子（同一二、五生）あり（東京市外千駄ヶ谷町千駄ヶ谷八一六電四谷五四四六）

清水　安太郎　金物商
大阪府在籍
大一二、一二生、亡長男安次長男
孫　督三　明三四、一生
男　安三　明三五、一生、二男安三妻、大阪、石原休次郎二女
婦　八重

君は大阪府人清水彌右衞門の長男にして明治六年二月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名安吉を改む金物商を營む家族は尙三男安義（明四二、一生）あり長女安（同四〇、二生）は分家せり（大阪、南、末吉橋通一ノ一四電船場二六九〇）

清水　勇次郎　河內屋、疊表商
大阪府在籍
明四、一一生、大阪、中西庄三郎二女
妻　ヨシエ
女　仙　明三五、二生、府立清水谷高等女學校出身
女　クニ　明三九、四生、府立清水谷高等女學校在學
女　恒子　明四四、七生、府立清水谷高等女學校在學

當家の遠祖は河內國より出で代々大阪に於て河內屋と號し疊表商を營めり先代勇次郎は長野縣出身にして先々代勇次郎の養子となり當家を繼ぎ從來微々たる一商買に過ぎざりしを其努力に依り振興し實に當家中興の祖たり君は先代勇次郎の長男にして明治三年四月を以て生れ同四十年家督を相續し前名松藏を改む祖業疊表商を營む明治三十年九月一日より大阪、東、高麗橋詰町二九ノ甲電東三〇一二）

清水　文之輔　太陽生命保險㈱專務取締役、生氣嶺枯土石炭㈱取締役
東京府在籍
元治元、九生、鹿兒島、士、渡瀨正衛妹
妻　エイ
女　アキ
明三一、四生、日本女子商業學校出身

君は福井縣人清水九十郎の長男にして明治元年一月を以て生れ同十六年分家して一家を創立す清水家は三百年以前より福井縣下に定住し代々本陣たりし舊家なり君明治二十二年第一高等學校英法科を卒業して東京帝國大學法科大學政治科に學び後渡米しホノルルに於て米人と共に法律事務所を設け傍ら邦字新聞を發刊せり歸朝後第二高等學校教授長崎商業會議所書記長崎十八銀行元山京城各支店長元山商業會議所會頭に歷任し同四十四年太陽生命保險會社の創立に當り其幹部となり次で專務取締役に擧げられて今日に至る傍ら氣嶺粘土石炭會社取締役を兼ぬ餘暇を以て社會學經濟學を研鑽し造詣する所深し二女セン（明三二、九生）大分縣人木下武雄に嫁せり（東京市外澁谷町八幡通三ノ一九電青山三二六二）

清水　孫四郎　清水商事㈱（株）專務取締役、富岡製絲㈱（株）常務取締役、清水㈱（名）代表社員、新潟縣在籍
明二〇、一〇生、北海道、花岡利吉三女
妻　リサ
男　正市　大元
女　芳江　明四三、七生

君は新潟縣人清水庄十郎の長男にして明治十四年七月を以て生れ同二十三年清水締之助の絕家を再興す同三十六年東京高等商業學校を卒業し同年日本郵船會社に入り大正十五年同社營業部長に擧げられ今日に至る家族は尙三女紀子（大六、二生）四女萬里子（同一二、五生）あり（東京市外千駄ヶ谷町千駄ヶ谷八一六電四谷五四四六）

清水　彌三松　神奈川縣多額納稅者、メトロ電球㈱（株）鑑査役、清水商店、貴金屬商
神奈川縣在籍
明四、一〇生、神奈川、鴨志田きの養子
妻　やゑ
男　豐太郎　明二四、三生
婦　千惠子　明三四、三生、長男豐太郎妻、東京、猪俣吉平七女
男　幾次郎　明三四、八生
女　純　明三八、四生
女　榮　明四〇、一二生

君は大阪府人清水治兵衞の長男にして明治二年二月を以て生れ同八年家督を相續す貴金屬商を營み縣下の多額納稅者にして傍ら前記會社の重役たりし事あり家族は尙ほ孫彌一郎（明三一、一生）あり長女なな（明三一、四生）は東京府人稻生豐作に嫁し四女喜代子（大三、一生）は東京府人清水彌右衞門の長男にして明治六年二月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名安吉を改む金物商を營む家族は尙三男安義（明四二、一生）あり長女安（同四〇、二生）は分家せり（大阪、南、末吉橋通一ノ一四電船場二六九〇）

清水　安治　日本郵船㈱（株）營業部長
東京府在籍
明二、一二生、東京、吉田元淳長女
妻　あや
男　瀧雄　大九、三生
女　百合子　明四一、八生

君は新潟縣士族清水八百楠の二男にして明治十四年七月を以て生れ同二十三年清水締之助の絕家を再興す同三十六年東京高等商業學校を卒業し同年日本郵船會社に入り大正十五年同社營業部長に擧げられ今日に至る家族は尙三女紀子（大六、二生）四女萬里子（同一二、五生）あり（東京市外千駄ヶ谷町千駄ヶ谷八一六電四谷五四四六）

清水　孫四郎　清水商事㈱（株）專務取締役、富岡製絲㈱（株）常務取締役、清水㈱（名）代表社員、新潟縣在籍
明二〇、一〇生、北海道、花岡利吉三女
妻　リサ
男　正市　大元
女　芳江　明四三、七生

君は新潟縣人清水庄十郎の長男にして明治十四年七月を以て生れ同二十三年清水締之助の絕家を再興す同三十六年東京高等商業學校を卒業し同年日本郵船會社に入り大正十五年同社營業部長に擧げられ今日に至る家族は尙三女紀子（大六、二生）四女萬里子（同一二、五生）あり（東京市外千駄ヶ谷町千駄ヶ谷八一六電四谷五四四六）

清水　彌三松　神奈川縣多額納稅者、メトロ電球㈱（株）鑑査役、清水商店、貴金屬商
神奈川縣在籍
明四、一〇生、神奈川、鴨志田きの養子
妻　やゑ
男　豐太郎　明二四、三生
婦　千惠子　明三四、三生、長男豐太郎妻、東京、猪俣吉平七女
男　幾次郎　明三四、八生
女　純　明三八、四生
女　榮　明四〇、一二生

君は大阪府人清水治兵衞の長男にして明治二年二月を以て生れ同八年家督を相續す貴金屬商を營み縣下の多額納稅者にして傍ら前記會社の重役たりし事あり家族は尙ほ孫彌一郎（明三一、一生）あり長女なな（明三一、四生）は東京府人稻生豐作に嫁し四女喜代子（大三、一生）は東京府人清水彌右衞門の長男にして明治六年二月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名安吉を改む金物商を營む家族は尙三男安義（明四二、一生）あり長女安（同四〇、二生）は分家せり（大阪、南、末吉橋通一ノ一四電船場二六九〇）

清水　勇次郎　河內屋、疊表商
大阪府在籍
明四、一一生、大阪、中西庄三郎二女
妻　ヨシエ
女　仙　明三五、二生、府立清水谷高等女學校出身
女　クニ　明三九、四生、府立清水谷高等女學校在學
女　恒子　明四四、七生、府立清水谷高等女學校在學

當家の遠祖は河內國より出で代々大阪に於て河內屋と號し疊表商を營めり先代勇次郎は長野縣出身にして先々代勇次郎の養子となり當家を繼ぎ從來微々たる一商買に過ぎざりしを其努力に依り振興し實に當家中興の祖たり君は先代勇次郎の長男にして明治三年四月を以て生れ同四十年家督を相續し前名松藏を改む祖業疊表商を營む明治三十年九月一日より大阪、東、高麗橋詰町二九ノ甲電東三〇一二）

以て生れ同四十四年家督を相續す同三十四年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し北海道炭礦鐵道會社技師大阪市電氣局鐵道課技師京都市電氣軌道部技師等に歷任し後再び大阪市電氣局に入り技術課長兼工務課長を經て現時同電氣局理事たり圍碁釣魚に趣味を有す家族は尙二男雅男（大三、一生）二女好子（同七、四生）弟定夫（明三三、九生）あり同泰夫（同一五、一〇生）は分家し妹千代（同二六、九生）は京都府人畫家名越國三郎に嫁し同登美（同三〇、一〇生）は東京府人冨田房次郎の養子となり弟勝（同三七、五生）は岐阜縣人篠田房次郎の養子となり弟勝（同三八、一二生）は同縣人渡邊績二の死跡を相續せり（大阪、港、四條通三丁目公會二號電西四〇〇八）

參照＝男爵川田龍吉※子爵土屋正直※男爵芝小路豐俊※川田豐吉の項

清水　福太郎　清水工務店、土木建築請負業
埼玉縣在籍
繼母　りん　慶應元、一生、埼玉、淺見德太郎妹
庶子　市太郎　大一三、一一生、生母、一階コイト

君は埼玉縣人清水重五郎の長男にして明治二十四年十二月を以て生れ大正十年家督を相續す土木建築請負業を營み清水工務店と稱して知らる家族は尙庶子敬三（大一五、一〇生、生母、一階コイト）あり（大阪、西、北堀江三番丁五二電新町一七三三）

清水　福太郎　土木建築請負業
大阪府在籍
明二八、一生、工學士、小野田セメント會社技師
男　慶一　明三二、二生、長男慶一妻、大阪、宮井重太郎長女、夕陽丘高等女學校出身
婦　ユキ

君は大阪府人清水熊吉の長男にして明治四年五月を以て生れ同二十九年家督を相續す土木建築請負業を營む家族は尙二男三郎（明四二、一生）三男能邦（同四三、一〇生）二女貴美子（大三、三生）三女登美子（同五、六生）四女瑤子（同七、三生）孫瑪璃子（同一〇、一生、長男義男妻、長野、召田幸太郎三女）

女　ひで　明二二、二生
養子　彌平　明二八、七生、四女濱夫、長野、召田幸太郎四男
女　濱　明三〇、三生、養子彌平妻
養子　まさ　明四二、六生、長野、小布施勝太郎長女

君は長野縣人清水兵左衞門の三男にして安政三年十月を以て生れ後兄友吉の養子となり大正十一年家督を相續す現に須坂商業銀行常務取締役たり家族は尙ほ孫純（大一一、四生、養子彌平長男）同鈴子（同一二、五生、長男義男長男）同孟夫（同四、五生、二女ふく長男）あり二女ふく（明二四、一生）は神奈川縣人竹內再太郎に嫁せり（長野、上高井、須坂町）

清水　峰吉　須坂商業銀行㈱（株）常務取締役
長野縣在籍
養父　友吉　嘉永四、三生
妻　せん　明一三、一二生、長野、田中惠治姪
男　義男　明二六、五生
婦　孝　明三〇、一一生、長男義男妻、長野、召田幸太郎三女
女　ひで　明二二、二生
養子　彌平　明二八、七生、四女濱夫、長野、召田幸太郎四男
女　濱　明三〇、三生、養子彌平妻
養子　まさ　明四二、六生、長野、小布施勝太郎長女

君は長野縣人清水兵左衞門の三男にして安政三年十月を以て生れ後兄友吉の養子となり大正十一年家督を相續す現に須坂商業銀行常務取締役たり家族は尙ほ孫純（大一一、四生、養子彌平長男）同鈴子（同一二、五生、長男義男長男）同孟夫（同四、五生、二女ふく長男）あり二女ふく（明二四、一生）は神奈川縣人竹內再太郎に嫁せり（長野、上高井、須坂町）

清水　茂三郎　六十七銀行㈱（株）取締役
山形縣在籍
養母　琅　安政五、一〇生、山形、齋藤利右衞門長女
妻　富代　明二九、一一生、山形、今野善六四女
男　正美　大七、一生
養子　ゆき　明三七、二生、山形、今野善六六女

君は山形縣人諏訪產太郎の三男にして明治二十四年十二月を以て生れ先代利兵衞の養子となり大正二年家督を相續す現時六十七銀行取締役たり家族は尙ほ孫文子（大四、二生）二男譲（同一〇、一生）三男等（同一一、八生）二女妙子（同一四、一生）あり（鶴岡市）

清水　門吉　新潟縣多額納稅者、農業
新潟縣在籍
妻　ナミ　明一一、一生、新潟、西脇新次郎三女
男　敬太郎　明三一、四生
婦　貞　明三六、二生、長男敬太郎妻、新潟、玉井貞太郎六女
男　眞次郎　明三三、一一生

清水雄次郎
並木製作所(株)取締役、清水(資)代表社員、埼玉縣在籍
妻　信　明一六、九生、東京、芝祐夏二女
養子　基雄　大二、五生、叔父清水忠衞二男
君は埼玉縣人清水忠衞の甥にして元治元年十一月を以て生れ明治三十九年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり義に中外石油アスファルト大倉護謨南洋護謨東京毛織東洋製藥各會社の重役に擧げらる家族は尚養子スミ(大四、九生、叔父忠衞二女)あり(東京市外澁谷町美竹四電青山一二〇七)

清水與三郎
從四位勳二等、奈良女子高等師範學校教授、奈良縣在籍
妻　たまき　明一八、六生、福井、士、德山繁樹四女
男　光繁　明三六、二生
男　眞澄　明三七、一一生
君は福井縣人清水與八郎の弟にして明治四年二月を以て生れ同三十五年分家して一家を創立す同三十年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し同四十四年化學及び理科學教授法研究の爲獨米各國に留學す海軍教授を經て現時奈良女子高等師範學校教授の職にあり長女德子(明四〇、四生、奈良女子高等師範學校附屬高等女學校出身)は福井縣人森田三郎右衞門長男一郎に嫁せり(奈良市多門町一五)
參照＝森田三郎右衞門※三田村甚三郎の項

清水與七郎
從五位、大日本電球(株)取締役、東京電氣(株)販賣部長、富山縣在籍
妻　もと　明二六、七生、東京、佐藤金太郎姉
男　和夫　大八、二生
女　道子　大二、一二生
君は富山縣人清水與三郎の二男にして明治十八年七月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す明治四十一年東京帝國大學工科大學電氣科を卒業し遞信技師に任じ電氣局に勤務し同四十三年電氣事業研究の爲歐米諸國に留學す後官を退く現に東京電氣會社販賣部長にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ著書に電氣磁氣測定法並に測定器具あり家族は尚ほ二女雪子(大五、一二生)三男康三(同一〇、三生)あり(東京市外品川町北品川宿一本木三四六電高輪一一〇五)

清水揚之助
巴里院、樺太養狐各(株)社長、日本耐火スレート、三河セメント、三生製藥各(株)取締役、清水組(資)社員、東京府在籍
妻　トク　明一六、七生、養兄滿之助妹
君は千葉縣人菊池兵三郎の長男にして清水滿之助同釘吉同一雄の養弟なり明治二十年十月を以て生れ後清水家の養子となり大正二年分家して一家を創立す明治四十五年慶應義塾理財科を卒業し現時清水組社員たる外前掲諸會社の重役たり(東京、麴町、一番町二七電九段一六二三)
參照＝清水一雄、清水釘吉、清水滿之助の項

清水宜輝
中央電氣(株)取締役、東京府士族
妻　はな　慶應元、九生、新潟、士、高木治郎姉
男　義雄　明一九、六生、從六位、工學士、彥根高等商業學校教授
婦　いく　明二九、一二生、長男義雄妻、東京、士、江橋基妹
男　正雄　明二九、一二生、農學士、大阪市立衞生試驗所技師
婦　スミ　明三八、八生、三男正雄妻、栃木、塚原末吉長女
男　輝次　明三四、一〇生、京都帝國大學在學
女　八重　明四一、七生、御茶の水高等女學校出身
君は舊高田藩士清水宜義の長男にして安政三年九月を以て生れ後家督を相續す義に大藏省銀行局に入り現時中央電氣會社取締役たり家族は尚孫光一(大三、一〇生、長男義雄長男)同良作(同七、四生、同三男)同逸三(同一〇、九生、同四男)同恭(同一四、五生、同長女)同英邦(同一四、四生、三男正雄長男)あり二男小次郎(明二四、一〇生)は同妻セツ(同三二、五生、新潟、森田鐵三郎長女)を伴ひ分家し二女スヾ(同一七、一生)は東京府士族工學士大河内甲一に三女きく(同二一、九生)は醫學博士中野等に四女ハル(同二六、一二生)は山梨縣人醫學士貴家學而に五女カツ(同三二、一一生)は富山縣士族醫學士山田秀石に六女わか(同三八、二生)は新潟縣士族工學士倉石文三郎に嫁せり(東京、本鄉、弓町一ノ七電小石川四九〇)

清水義彰
愛媛縣多額納稅者、愛媛銀行、三津濱煉瓦、伊豫鐵道電氣、松山瓦斯各(株)取締役、松山土地建物(株)監査役、愛媛縣在籍
妻　ヤウ　明一三、一〇生、愛媛、渡邊滿弘長女
男　哲作　明三八、三生
女　章子　明四二、一〇生
君は愛媛縣人清水藤三郎の長男にして明治五年一月を以て生れ同二十九年家督を相續す同二十八年中央大學を卒業して實業界に投じ現に愛媛銀行取締役たる外前掲各會社の重役にして縣下の多額納稅者たり父藤三郎(嘉永二、一生、愛媛、德本良藏二男)母シナ(同六、一二生、愛媛、渡部次郎兵衞二女)は共に分家し妹チヨ(明一一、七生)弟義實(同一八、一生)も亦各分家し長女年子(同三二、九生、日本女子大學校家政科出身)は愛媛縣人伊藤保人に妹ジュウ(同九、一生)は同縣士族長井政光に同マン(同一五、四生)は青森縣人松尾亥晃四男元次郎に同鄕(同二一、一一生)は廣島縣人望月節司養子溫象に嫁し三男卓三(同四〇、四生)は分家祖母清水シナに四男雄吉(同四四、九生)は愛媛縣人德本良一に各養子となれり(松山、三番町)
參照＝德本良一、長井政光の項

清水利助
奧田防水布(株)監査役、紙商、大阪府在籍
男　達太　大四、七生
女　たき子　明四一、三生
君は大阪府人先代利助の長男にして明治十三年四月を以て生れ大正四年家督を相續し襲名して前名市太郎を改む紙商を營み傍ら奧田防水布會社監査役たり家族は尚三男道之助(大八、一一生)二女增子(同一〇、一生)三女久世(同一一、八生)妹しか(明三四、四生)あり同ミツ(同三〇、二生)は鹿兒島縣人上床瑞彥弟達夫に嫁せり(大阪、東、安土町二ノ二二電本町九九〇)

清水六兵衞
六兵衞、製陶業、京都府在籍
妻　エン　明一四、四生、京都、淺井久太郎二女
男　正太郎　明三四、九生
婦　菊子　明四〇、二生、長男正太郎妻、京都、北岡猪三郎長女
女　タエ　明四〇、二生
君は京都府人先代六兵衞の長男にして明治八年三月を以て生れ同十七年家督を相續し後襲名して東太郎を改む家代々製陶業を營み六兵衞と稱し清水燒の本舖として知らる家族は尚四男禮四郎(大四、九生)五男久男(同七、五生)四女暢子(同一〇、一一生)あり妹キミ(明一四、四生)は京都府人吉村タキの養子となり同タキ(同一八、三生)は同府人吉村忠三郎に叔母みよ(嘉永五、一一生)は同府人淺井柳塘に從妹フミ(明二三、五生)は分家弟祥次(同二一、一一生)に嫁し叔父三之助(文久三、一生)從妹しん(同八、六生)は各分家せり(京都、下京、五條橋東五ノ三〇電下六九八)
參照＝北岡猪三郎の項

清水谷實英
從二位勳二等功四級、伯爵、陸軍步兵中佐、宮中顧問官、舊公卿家
妻　秀子　明八、四生、伯爵橋本實頴妹
男　公揖　明二五、五生、正五位、早稻田大學法科出身
婦　テイ　明三三、一二生、長男公揖妻、長崎、長醫秀夫二女
男　雅正　明二六、五生、東京農業大學出身
女　英子　明二九、三生、山脇高等女學校出身、權典侍
男　英男　明四〇、一生
女　和子　大二、一二生
當家は西園寺公經の二男大納言實有の後なり實有別に一家を立て清水谷と稱す世々能書を以て名あり夫より十七世を經て公考に至る公考勤王の志深く維新の際函館に奮戰して功あり君は公考の長男にして慶應二年四月を以て生れ明治十六年家督を相續し同十七年先代の勳功に依り特に伯爵を授けらる同二十二年陸軍步兵少尉に任ぜられ累進して同中佐に陞る其間步兵第三聯隊附同大隊副官近衞步兵第二聯隊大隊副官同聯隊中隊長東宮武官後備步兵第六聯隊大隊長等に歷補し同二十七八年同三十七八年兩戰役に參加し功四級を賜ふ同四十年侍從に任ぜられ大正十三年宮中顧問官に轉じ現に其任に在り家族は尚六男恒男(大五、八生)孫實祥(同一五、一二生、長男公揖長男)叔母豐子(嘉永二、一一生)亡叔父鼎丸妻マサヨ(明一五、三生、男爵黒川幹太郎再姪)及其二子あり二女正子(同三三、二生、三輪田高等女學校出身)は伯爵橋本實頴嗣子實妻に三女季子(同三五、一生、出身校同上)は長崎縣士族鍋島桂次郎二男春雄に叔母千枝子(嘉永五、一〇生)は子爵宍戸功男先代璣に嫁せり(東京市外代々幡町代々木山谷二〇〇電四谷一四一)
參照＝伯爵橋本實頴、子爵宍戸功男、男爵黒川幹太郎、鍋島桂次郎※澁澤篤二の項

標(シメギ)智吉
日清製粉(株)名古屋支店長、山梨縣在籍
妻　ときの　明三〇、二生、山梨、代永正太郎長女
男　智治　大七、一生
君は山梨縣人標多六の弟にして明治二十三年一月を以て生る現時日清製粉會社名古屋支店長たり家族は尚長女敏子(大九、三生)二女智子(同一三、一一生)二男智次郎(昭二、一生)の外兄多六(明一五、一二生、現戶主)同妻たけの(同一七、九生、山梨、古屋清兵衞二女)と其五男一女あり弟勇(同二六、三生)は分家せり(名古屋、中、御器所町小針五一電南一一二九)

下位順平
下位織物(株)取締役、靜岡縣在籍
母　ひさ　明三、一一生、靜岡、坂田喜代八二女
妻　らく　明二九、一生、靜岡、坂田東一郎妹
男　直　大一三、一〇生
君は靜岡縣人下位牧藏の長男にして明治二十四年六月を以て生れ昭和二年家督を相續す現時下位織物會社取締役たり家族は尚長女ひで(大六、一生)二女ちゑ子(同一〇、七生)三女すみ子(同一五、一〇生)弟眞一郎(明三六、一二生)あり姉ひで(同二二、七生)は靜岡縣人坂田東一郎に妹やす(同二六、九生)は同縣人山本輝次に同いそ(同三〇、一一生)は同縣人山崎次郎に嫁し同さき(同二八、一〇生)は分家せり(靜岡、濱名、新津村)
參照＝山崎次郎の項

下江錫
第二銀行(株)檢査役、神奈川縣士族
妻　いと　明五、五生、群馬、石川友治郎妹
男　信一　明三九、七生、東京齒科醫學專門學校在學
女　しげ　明三二、五生、東京音樂學校出身、女子學習院囑託、日本女子音樂學校教師
當家は舊幕時代舊上州館林藩に仕へ代々家老職を勤め由緒ある家柄なり君は先代謙治の長男にして明治元年十月を以て生れ同二十五年家督を相續す夙に第二銀行に入り東京支店より本店を經て横須賀支店長に進み更に本店に轉じ現に同行檢査役たり建築に趣味を有し一隻眼を有す妹かう(明六、八生)は群馬縣人田中生三に嫁し弟修(同一〇、二生)は分家せり(横濱、中、南太田町一八三七電長者町三二一六)

下川亥之助
吳服商、滋賀縣在籍
妻　ヒサ　明二〇、六生、滋賀、小澤長藏姪
男　伊太郎　大四、三生
女　節子　明四二、一生
女　嘉子　明四三、二生
女　泰子　明四五、五生
君は滋賀縣人下川文七の二男にして明治八年九月を以て生れ後祖母てるの家籍に入り同三十一年家督を相續す吳服商を營む(京都、下京、室町通綾小路下ル電下二七一一)

下川三次郎
鹿兒島縣多額納稅者、海產物商、鹿兒島縣在籍
妻　ヤス　明九、一二生、鹿兒島、田丸仁次郎長女
男　得三　明三八、二生
女　コウ　明四二、一一生
君は鹿兒島縣人稻盛正左衞門の二男にして明治六年七月を以て生れ先代仁助の養子となり同八年家督を相續す海產物商を營み縣下の多額納稅者たり家族は尚二男光二(明四四、一一生)五女ユキ(大三、二生)あり長女ミサ(明三一、三生)は鹿兒島縣人稻盛己之助に二女フミ(同三四、三生)は同縣人藤井秋義に三女シヅ(同三六、六生)は同縣人永田甚吉に嫁せり(鹿兒島市中町)

下川宗七
東洋冷藏(株)取締役、北陸冷藏、木下商店各(株)監査役、山口縣在籍
妻　ユキエ　明二二、四生、山口、志賀實人二女
男　浩二　大六年生

君は山口縣人下川金兵衛の二男にして明治十一年六月を以て生れ同二十四年家督を相續す現時東洋冷藏會社取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尙二女轸枝（大四、一生）三男準一郎（同八、一二生）四男寛（同一一、五生）五男保（同一五、四生）あり長女智惠子（同一、一二生）は山口縣人志智貞次郎の養子となり姉ミッ（文久二、正生）は同縣士族井上得貴に同ヨネ（明元、一〇生）は同縣人池田德藏に嫁せり（東京市外澁谷町大向通三電青山三〇五八）

下川芳太郎（スマトラ護謨拓殖、明治物産各（株）監査役、辯護士、長野縣在籍）

妻　光留　明二三、一〇生、高知、山地土佐太郎妹
祖母　くま　天保一一、一二生、長野、丸山平右衛門長女

君は長野縣人下川濱太郎の二男にして明治十七年一月を以て生れ昭和元年家督を相續す大正四年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し辯護士にして養に久原鑛業會社に勤務し神戸山地汽船會社取締役に就任し後之を辭す現に前記各會社の重役たり（東京市外巢鴨町一ノ一四）

參照＝山地土佐太郎の項

下河邊建二（久原用地部（株）取締役、日立製作所、鯛生金山各（株）監査役、久原鑛業（株）會計課長、大阪府在籍）

妻　まつ　明一七、五生、東京、浦井財治長女
男　孫一　明四二、二生
女　やさ　明四三、八生
女　そよ　大二、八生

君は大阪府人下河邊俊齋の二男同行一の弟にして明治十一年十月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す同三十年大阪高等商業學校を卒業し現時久原鑛業會社會計課長にして前記各會社の重役として知らるる家族は尙二男三史（明四四、一〇生）三男晃生（大四、七生）三女みな子（同一〇、六生）四女華子（同一二、八生）あり（東京市外澁谷町伊達八八電特局高輪五四八二）

參照＝子僧問部詮信、菊池文吾、北河豐次郎、下郷市次郎、下郷傳平、下郷豐彥、下郷寅太郎、千葉斷一※

下河邊行一（帝國製麻（株）大阪支店長　大阪府在籍）

參照＝下河邊建二の項

下郷市次郎（下郷同族（株）取締役、仁壽生命保險（株）監査役、滋賀縣在籍）

妻　しう　明九、七生、滋賀、富田林平長女
男　市造　明三〇、一一生
婦　みさを　明三七、二生、長男市造妻、滋賀、森田三郎二女
男　英二　明三六、一〇生

君は滋賀縣人樋口市右衛門の弟にして明治十七年一月同寅太郎の養兄同豐彥の養叔父なり明治三年九月を以て生れ後下郷家の養子となり分れて一家を創立す現時東京帝國大學農學部在學中なり家族は尙前記各會社の重役として知らるる家族は尙孫幸子（大一四、一生、長男市造長女）同榮（同一五、六生、同長男）あり長女靜（明三三、六生）は滋賀縣人吉田治平に嫁せり（東京、芝、三田綱町一電高輪六二五九）

參照＝下郷傳平、下郷豐彥、下郷寅太郎、千葉斷一※子僧問部詮信※菊池文吾※北河豐次郎※千葉斷一の項

下郷榮次郎（愛知縣多額納稅者、煙草元賣捌業）

妻　ひで　慶應三、三生、愛知縣在籍
養子　公平　明二五、一生、森治郎四男
女　しげ　明三二、一生、養父傳平長女
女　はきの　明四三、八生

君は愛知縣人加藤太郎兵衛の二男にして明治十二年先代さとを以て生れ明治二十二年先代さとと相續す煙草元賣捌業を營み愛知縣は尙孫ひさ（大九、一二生、養子公平長女）同二（同一一、一二生、同長男）同公二（同一四、七生、同二男）同榮妹えう（明九、一〇生）あり（名古屋、中、御器所町島西浦五二電南一八三五）

參照＝森治郎の項

下郷次郎八（農業　愛知縣在籍）

母　のぶ　明一二、八生、愛知、盛田久左衛門三女

君は大阪府人下河邊俊齋の長男にして明治九年七月を以て生れ後家督を相續す現に帝國製麻會社大阪支店長たり弟健二（明一一、一〇生）同廉五（同一六、一二生）同幸雄（明四〇、一二生）同鐵雄（同四四、一二生）妹鶴子（大二、一一生）大叔母廣宗（安政五、九生）あり（愛知、愛知、鳴海町）

參照＝※中墅半六の項

下郷傳平（勳四等、滋賀縣多額納稅者、下郷同族（株）取締役、仁壽生命保險（株）相談役、下郷共濟會理事長　滋賀縣在籍）

母　みつ　嘉永五、七生、滋賀、富田林平長女
妻　妙　明九、九生、奈良、士、千葉斷一姉
男　寅吉　明三九、五生
女　寅次郎　明四一、一生
女　素子　明四三、四生

君は滋賀縣人先代從七位下郷傳平の長男にして明治五年三月を以て生れ同三十一年家督を相續し前名寅吉を改め襲名す第三高等中學校を經て慶應義塾に學ぶ同三十三年商工業視察の爲め歐米に漫遊す歸に滋賀銀行近江銀行各頭取長濱取引所理事長仁壽生命保險會社京都信託會社中之島製紙會社大阪ホテル各社長其他諸會社の重役たりしが近時前記の外一切の直接關係を絕つ縣下の多額納稅者にして曾て貴族院議員に互選され日露事件の功により勳四等に敍し旭日小綬章を授けられ又帝國經濟會議々員仰付けらるる傍ら慈善敎育感化事業其他公共團體等に盡す事渺からず多大の資金を投じて財團法人下郷共濟會を經營せる如き以て其一班を知るに足る長女伊勢子（明三〇、三生）は同夫豐彥（同二八、一〇生）と共に三女歌子（同三七、七生）は同夫義一（同三一、一〇生、滋賀、繩井彌平弟）と共に妹しう（同九、七生）は同夫市次郎（同三、九生）と共に甥良順（同二九、二生）は同妻信子（同三六、一生、奈良、士、千葉斷一妹）と共に各分家し弟寅太郎（同一三、四生）も亦其妻子を從へ分家し二女文子（同三、五生）は大阪府人菊池文吾に妹ゆく（同七、一生）は滋賀縣人長了義

に同たか（同一一、二生）は同縣人横田立次郎に同ふい（同一四、七生）は長崎縣人新宮虎之助に同すゑ（同一六、四生）は子僧問部詮信に嫁せり（滋賀、阪田、長濱町電特局上四五八、東京市外澁谷町伊達八八電特局高輪五四八二）

參照＝子僧問部詮信、菊池文吾、北河豐次郎、下郷市次郎、下郷傳平、下郷豐彥、下郷寅太郎、千葉斷一※山中强三の項

下郷豐彥（樺太工業（株）取締役、下郷同族、上毛電氣鐵道各（株）監査役　東京府在籍）

妻　伊勢子　明三〇、三生、養父傳平長女
男　初太郎　大七、一一生

君は靜岡縣人北河豐次郎の二男にして明治二十八年十月を以て生れ大正七年下郷傳平の養子となり同年分家して一家を創立す下郷市次郎同寅太郎は其養叔父なり現に前揭各會社の重役たり家族は尙長女壽子（大九、七生）二女美代子（同一三、四生）三女眞佐子（昭二、八生）あり（東京、芝、三田小山町三七）

參照＝下郷市次郎、下郷傳平、下郷寅太郎、北河豐次郎※子僧問部詮信※菊池文吾※千葉斷一の項

下郷寅太郎（仁壽生命保險、京都殖產、下郷各（株）社長、大阪ホテル、名古屋ホテル、日本メリヤス各（株）取締役、京都瓦斯、大阪三品取引所各（株）鑑査役、滋賀縣在籍）

妻　クニ　明一八、五生、京都、鄔上藤三郎妹
養子　義遐　明三二、一一生、長女迪子夫、滋賀、長了義三男
女　迪子　明四〇、三生、養子義遐妻、滋賀縣立大津高等女學校出身

君は滋賀縣人下郷傳平の弟同市次郎の養弟同豐彥の養叔父なり明治十三年四月を以て生れ同四十五年分家して一家を創立す夙に慶應義塾に學び後實業界に入り現に前記諸會社の重役として關西實業界に重きをなす家族は尙孫華子（昭二、三生、養子義遐長女）あり（東京、芝、三田小山町三七電特局高輪三七〇三）

參照＝下郷市次郎、下郷傳平、下郷豐彥※子僧問部詮信※尾崎清太郎※川崎吉兵衛※菊池文吾※北河豐次郎※千葉斷一の項

下坂藤太郎（東洋海上火災保險（株）社長　東京府士族）

母　ヨシ　嘉永三、一二生、下坂源内長女
妻　シク　明一五、三生、群馬、都丸俊男叔母
男　源太郎　明三七、一〇生
女　芳枝　明三四、一二生、日本女子大學校附屬高等女學校出身
男　誠次郎　明四一、五生
女　英枝　明四四、六生
女　花枝　大二、三生

君は福島縣士族下坂藤次郎の長男にして明治十一年家督を相續す同三十一年官を退き臺灣銀行理事となり次で副頭取に進み總務部長洋製糖會社々長に轉じ現時前記各會社の重役にして縣下の多額納稅者たり家族は尙長女文枝（大一三、二生）弟七郎（明三八、七生）亡兄小一郎妻さだ（同九、三生、群馬、赤石林次長女）及其長女豐子（同二七、一一生）同夫完治（同二一、四生、群馬、高橋敏太郎三男、現戸主）及び其四子あり姪いく子（同三〇、一二生）は群馬縣人長谷川貞平に同嗣子（同三四、九生）は同縣人角田作次郎弟榮藏に同由子（同三六、一一生）は同縣人中野德太郎に嫁せり（群馬、佐波、殖蓮村）

參照＝下城好雄、角田作次郎※松本文作の項

下城彌一郎（群馬縣多額納稅者、五豐商會（株）專務取締役、伊勢崎織物（株）取締役、下城商店（株）監査役、機業　群馬縣在籍）

妻　ナカ　明一七、二生、群馬、河原政司妹
男　一雄　明三九、五生

君は群馬縣人先代彌一郎の四男にして同好雄の弟なり明治十一年五月を以て生る機業を營み傍ら前記各會社の重役にして縣下の多額納稅者たり家族は尙長女文枝（大一三、二生）弟七郎（明三八、七生）亡兄小一郎妻さだ（同九、三生、群馬、赤石林次長女）及其長女豐子（同二七、一一生）同夫完治（同二一、四生、群馬、高橋敏太郎三男、現戸主）及び其四子あり姪いく子（同三〇、一二生）は群馬縣人長谷川貞平に同嗣子（同三四、九生）は同縣人角田作次郎弟榮藏に同由子（同三六、一一生）は同縣人中野德太郎に嫁せり（群馬、佐波、殖蓮村）

參照＝下城好雄、角田作次郎※松本文作の項

下城好雄（前橋織物、伊勢崎織物、下城商店各（株）社長、五豐商會（株）監査役　群馬縣在籍）

妻　サタ　明二八、七生、福島、長谷川長八四女
男　一郎　明三六、一二生
婦　ふみ　明四二、六生、長男一郎妻、群馬、半田善四郎三女
養子　庸作　明二七、四生、長女茂子夫、群馬、田島群次郎孫、下城商店取締役
女　茂子　明三二、七生、養子庸作妻

君は群馬縣人下城彌一郎の二男にして當主彌一郎の兄なり明治八年二月を以て生れ同三十四年分れて一家を創立す現時前橋織物會社々長たる外前揭會社の重役たり家族は尙二男正雄（大一四、九生）あり二女德子（明三四、八生）は埼玉縣人松本文作長男元に嫁せり（群馬、佐波、伊勢崎町）

參照＝下城彌一郎、半田善四郎、松本文作※角田作次郎の項

下里廉（下里商店（株）社長、兵庫縣在籍）

妻　フミ　明一八、二生、廣島、山田大作長女
男　直暦　明三六、一一生
男　晉二　明四〇、九生
女　智惠子　明四三、一一生

君は福井縣人下里宣の弟にして明治十二年七月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す明治三十年大阪高等商業學校を卒へ現に下里商店社長たり兼に神戸商業會議所議員に擧げらるる家族は尙三男譯三（大五、一生）あり（神戸、中山手通四ノ一一ノ二二電葺合三三一）

參照＝※山田元元の項

下條於菟吉（赤坂區會議員、醫師　東京府在籍）

妻　クラ　明一二、八生、東京、士、福島九戸座子

養子　久馬一　明二四、九生、長女好子夫、長野、高野清作弟

女　好子　明三六、四生、養子久馬一妻

女　紀子　明四二、二生

君は東京府士族下條銅吉の弟にして明治五年九月を以て生れ同二十三年分れて一家を創立す小兒科醫にして現に赤坂區會議員たり家族は尙孫安子(大九、七生、養子久馬一長女)同妙子(同一一、四生、同二女)ありニ女和子(明三八、七生)は滋賀縣人森元七に嫁せり(東京、赤坂、臺町七八**電青山二八二六**)

參照―※中村太郎※福島松男の項

下條康麿　從四位勳二等、內閣統計局長兼內閣恩給局長、國際統計協會正會員　東京府在籍

妻　榮　明三〇、一一生、岐阜、上松泰造二女

男　進一郎　大九、三生

君は舊松本藩御典醫頭贈從五位下條通泰の長男醫師下條銅吉の二男にして明治十八年一月を以て生れ大正八年分家して一家を創立す先是明治四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格す同四十三年東京府試補となり爾來佐賀縣事務官內閣書記官法制局參事官等に歷任し現時前記の官職にあり大正十五年在海牙國際統計協會正會員に推さる家族は尙長女八重子(大一〇、四生)二女愛子(同一一、八生)三女朝子(同一二、一二生)四女達子(同一五、一生)あり(東京、麴町、下六番町二六**電九段一八八〇**)

參照―上松泰造※中島保之介の項

下瀨吉輔　華浦銀行(株)常務取締役　山口縣在籍

母　イク　弘化元、一二生、祖父勘右衞門長女

妻　ユキ　明一三、一二生、山口、佐田正年妹

男　林太　明三四、一〇生、農學士、東京理化學研究所技師

女　久子　明三八、九生

君は山口縣人下瀨勘右衞門の長男にして明治八年十一月を以て生れ同三十七年家督を相續す現時華浦銀行常務取締役たり家族は尙二男恒人(明四二、五生、山口高等學校在學)三男育郎(同四四、一〇生)四男康雄(大三、一生)孫正篤(同一二、三生、長男林太長男)同貞子(同一四、七生、同長女)あり長女好子夫、長野、高野清作弟

女　好子　明三六、四生、養子久馬一妻

女　紀子　明四二、二生

君は東京府士族下條銅吉の弟にして明治五年九月を以て生れ同二十三年分れて一家を創立す小兒科醫にして現に赤坂區會議員たり家族は尙孫安子(大九、七生、養子久馬一長女)同妙子(同一一、四生、同二女)ありニ女和子(明三八、七生)は滋賀縣人森元七に嫁せり(東京、赤坂、臺町七八**電青山二八二六**)

參照―※中村太郎※福島松男の項

下條康麿　從四位勳二等、內閣統計局長兼內閣恩給局長、國際統計協會正會員　東京府在籍

妻　榮　明三〇、一一生、岐阜、上松泰造二女

男　進一郎　大九、三生

君は舊松本藩御典醫頭贈從五位下條通泰の長男醫師下條銅吉の二男にして明治十八年一月を以て生れ大正八年分家して一家を創立す先是明治四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格す同四十三年東京府試補となり爾來佐賀縣事務官內閣書記官法制局參事官等に歷任し現時前記の官職にあり大正十五年在海牙國際統計協會正會員に推さる家族は尙長女八重子(大一〇、四生)二女愛子(同一一、八生)三女朝子(同一二、一二生)四女達子(同一五、一生)あり(東京、麴町、下六番町二六**電九段一八八〇**)

參照―上松泰造※中島保之介の項

下瀨吉輔　華浦銀行(株)常務取締役　山口縣在籍

母　イク　弘化元、一二生、祖父勘右衞門長女

妻　ユキ　明一三、一二生、山口、佐田正年妹

男　林太　明三四、一〇生、農學士、東京理化學研究所技師

女　久子　明三八、九生

君は山口縣人下瀨勘右衞門の長男にして明治八年十一月を以て生れ同三十七年家督を相續す現時華浦銀行常務取締役たり父二(天保一三、九生)繼母春(安政五、三生、熊本、下田平八長女)は弟俊八(明一六、二生)同壽八(同二一、五生)同格藏(同二四、五生)妹ナヲ(同二九、五生)同トメカ(同三三、七生)を伴ひて分家し長女タメ(同二九、四生)は熊本縣人阿原堺に嫁せり(東京市外澁谷町松濤二二**電青山九五四**)

下田幸一　熊本縣多額納稅者、地主　熊本縣士族

妻　マス　明一〇、三生、熊本、士、赤星重纖姉

男　幸貴　明三一、三生

婦　カネ　明三七、一二生、長男幸貴妻、福岡、松田寛一四女

男　保之　明三六、一生

男　利夫　明三九、四生

女　サヨ　明四二、一生

君は熊本縣士族下田幸三郎の長男にして同理平太の兄なり明治七年八月を以て生れ同三十三年家督を相續す地主にして同縣多額納稅者たり家族は尙四男利之(大三、八生)孫加壽(同一四、九生、長男幸貴長女)同幸治郎(昭二、六生、同長男)あり二女スミ(明三三、一〇生)は熊本縣人橫山小五郎長男龍夫に妹ミサ(同一一、六生)は同縣士族松田方に嫁し弟保太(同二三、三生)は同妻イエ(同三〇、八生、熊本、島田清妹)及其二男一女を伴ひ分家せり(熊本、下益城、隈庄町)

參照―赤星重纖、下田理平太、松田方、橫山小五郎※岡村謹一※松田大策の項

下田次郎　正四位勳三等、文學博士、東京女子高等師範學校教授、東京府士族　安政元、一二生、廣島、士、勝原雅之助妹

養母　ヒテ　明一五、九生、東京、北川亥之作四女

妻　郁　明三八、一一生

男　章　明四〇、四生

男　武三　明四一、九生

男　弘　明四四、一〇生

養子　勇太郎　明二九、一生、長女いと夫、新潟、遠水潮次郎兄

女　いと　明三五、八生、養子勇太郎妻、日本橋高等女學校出身

養子　政兵衞　明三一、一〇生、二女とし夫、群馬、松本元吉甥

女　とし　明三七、二生、養子政兵衞妻、日本橋高等女學校出身

女　きく　明四一、八生、雙葉高等女學校出身

女　しげ　大二、九生、日本橋高等女學校在學

當家は先代嘉右衞門分家して一家を創立し染料商を營みしに始まり本家下田家は代々東京本所に於て染物業を營める舊家なり君は先代嘉右衞門の三男にして明治十一年五月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名治三郎を改め襲名す當時下田家は基礎堅に確立し染料業者間に其名を知られ居たりしが君は更に業務を擴張して工業藥品一般をも併せ取扱ひ遂に今日の隆盛を見るに至れり家族は尙五女しづ(大五、三生)六女慶子(同一〇、九生)孫百合子(同一三、一〇生、養子男太郎長女)同雅子(同一五、一一生、同二女)あり妹キサ(明二五、五生)は東京府人上山武吉に嫁せり(東京、日本橋通油町一七**電浪花一〇七六**)

參照―上山武吉の項

下田勘次　鳥取新報(株)社長、大正鳥取銀行(株)取締役、鳥取貯蓄銀行(株)監査役、鳥取縣在籍

父　彌平　嘉永五、九生

妻　その　明四二、一一生、鳥取、田中文平二女

養子　雅彦　庶子

君は鳥取縣人下田彌平の長男にして明治八年十一月を以て生れ同十六年家督を相續す現に鳥取新報社々長たる外前揭各銀行の重役たり曩に鳥取縣會議員同參事會員衆議院議員等に選ばれ又八頭木材會社監査役に就任せり弟光造(明一八、三生)は分家し同信義(同二二、三生)は鳥取縣人下田卯市甥の養子となり妹はるえ(同一四、九生)は同縣人田中文平長男督臣に同すゝ(同三一、五生)は同縣人中谷明治に叔母とみ(慶應元、五生)は前記田中嘉重郎に嫁せり(鳥取、八頭、散岐村)

下田嘉右衞門　畫屋、染料及工業藥品商　東京府在籍

妻　てう　明一九、一二生、長野、小林尙善姉

男　隆太郎　大三、七生

女　久子　明四三、一〇生

女　清子　明四五、五生

君は和歌山縣人下田竹藏の弟にして明治五年九月を以て生れ同二十五年分れて一家を創立す同三十六年明治法律學校を卒業し判檢事登用試驗に合格同四十二年判事に任じ爾來高知區裁同地方裁同五條區裁奈良區大館區山形地方花卷區增毛區旭川區釜同地方各裁判所判事に歷補し大正十五年前記現職に轉ず家族は尙三女房枝(大八、四生)四女保子(同一三、七生)あり(釧路、區裁判所官舍)

下田彥人　三菱銀行(株)駒込支店長　熊本縣在籍

母　ヨウ　萬延元、七生、靜岡、荒木信順長女

妻　まち子　明二八、五生、東京、鳥居慶三姉

男　健太郎　大六、九生

君は熊本縣人下田泰岳の長男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十年家督を相續す同二年東京帝國大學法科大學を卒業し三菱銀行に入り京都支店副長を經て昭和二年駒込支店長となり今日に至る家族は尙長女久(大四、三生)二女百合子(同九、一〇生)二男岳彥(同一三、一生)あり弟直人(明二八、二生)は分家せり(東京、本鄉、駒込曙町二八**電小石川四七八九**)

下田政造　松田銀行(株)取締役　神奈川縣在籍

繼母　たき　明四、八生、愛知、中村善六妹

妻　イト　明一、二生、神奈川、藤澤作太郎女

男　泰助　大八、一生

女　喜久　明三九、一〇生

女　壽子　明四二、九生

女　タキ　明四四、一生

君は神奈川縣人下田助次郎の長男にして明治十二年三月を以て生れ同二十五年家督を相續す現に松田銀行取締役たり家族は尙四女貞子(大五、七生)二男修(同一一、八生)三男仁(同一四、一一生)の外弟德三郎(明一四、一一生)同妻レイ(同二一、三生、群馬、田中輝司妹)との間に一子あり(東京、芝、芝公園七ノ二二**電芝三〇四六**)

妻　ハル　明七、四生、熊本、河原安平長女

男　久輝　明三六、二生

男　武夫　明三八、八生

君は熊本縣人下田二一の長男にして明治五年三月を以て生れ同三十七年家督を相續す現時帝國火災保險會社取締役たり父二一(天保一三、九生)繼母春(安政五、三生、熊本、下田平八長女)は弟俊八(明一六、二生)同壽八(同二一、五生)同格藏(同二四、五生)妹ナヲ(同二九、五生)同トメカ(同三三、七生)を伴ひて分家し長女タメ(同二九、四生)は熊本縣人阿原堺に嫁せり(東京市外澁谷町松濤二二**電青山九五四**)

下田幸一　熊本縣多額納稅者、地主　熊本縣士族

妻　マス　明一〇、三生、熊本、士、赤星重纖姉

男　幸貴　明三一、三生

婦　カネ　明三七、一二生、長男幸貴妻、福岡、松田寛一四女

男　保之　明三六、一生

男　利夫　明三九、四生

女　サヨ　明四二、一生

君は熊本縣士族下田幸三郎の長男にして同理平太の兄なり明治七年八月を以て生れ同三十三年家督を相續す地主にして同縣多額納稅者たり家族は尙四男利之(大三、八生)孫加壽(同一四、九生、長男幸貴長女)同幸治郎(昭二、六生、同長男)あり二女スミ(明三三、一〇生)は熊本縣人橫山小五郎長男龍夫に妹ミサ(同一一、六生)は同縣士族松田方に嫁し弟保太(同二三、三生)は同妻イエ(同三〇、八生、熊本、島田清妹)及其二男一女を伴ひ分家せり(熊本、下益城、隈庄町)

參照―赤星重纖、下田理平太、松田方、橫山小五郎※岡村謹一※松田大策の項

下田次郎　正四位勳三等、文學博士、東京女子高等師範學校教授、東京府士族　安政元、一二生、廣島、士、勝原雅之助妹

養母　ヒテ　明一五、九生、東京、北川亥之作四女

妻　郁　明三八、一一生

男　章　明四〇、四生

男　武三　明四一、九生

男　弘　明四四、一〇生

養子　勇太郎　明二九、一生、長女いと夫、新潟、遠水潮次郎兄

女　いと　明三五、八生、養子勇太郎妻、日本橋高等女學校出身

養子　政兵衞　明三一、一〇生、二女とし夫、群馬、松本元吉甥

女　とし　明三七、二生、養子政兵衞妻、日本橋高等女學校出身

女　きく　明四一、八生、雙葉高等女學校出身

女　しげ　大二、九生、日本橋高等女學校在學

當家は先代嘉右衞門分家して一家を創立し染料商を營みしに始まり本家下田家は代々東京本所に於て染物業を營める舊家なり君は先代嘉右衞門の三男にして明治十一年五月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名治三郎を改め襲名す當時下田家は基礎堅に確立し染料業者間に其名を知られ居たりしが君は更に業務を擴張して工業藥品一般をも併せ取扱ひ遂に今日の隆盛を見るに至れり家族は尙五女しづ(大五、三生)六女慶子(同一〇、九生)孫百合子(同一三、一〇生、養子男太郎長女)同雅子(同一五、一一生、同二女)あり妹キサ(明二五、五生)は東京府人上山武吉に嫁せり(東京、日本橋通油町一七**電浪花一〇七六**)

參照―上山武吉の項

下田勘次　鳥取新報(株)社長、大正鳥取銀行(株)取締役、鳥取貯蓄銀行(株)監査役、鳥取縣在籍

父　彌平　嘉永五、九生

妻　その　明四二、一一生、鳥取、田中文平二女

養子　雅彦　庶子

君は鳥取縣人下田彌平の長男にして明治八年十一月を以て生れ同十六年家督を相續す現に鳥取新報社々長たる外前揭各銀行の重役たり曩に鳥取縣會議員同參事會員衆議院議員等に選ばれ又八頭木材會社監査役に就任せり弟光造(明一八、三生)は分家し同信義(同二二、三生)は鳥取縣人下田卯市甥の養子となり妹はるえ(同一四、九生)は同縣人田中文平長男督臣に同すゝ(同三一、五生)は同縣人中谷明治に叔母とみ(慶應元、五生)は前記田中嘉重郎に嫁せり(鳥取、八頭、散岐村)

下田嘉右衞門　畫屋、染料及工業藥品商　東京府在籍

妻　てう　明一九、一二生、長野、小林尙善姉

男　隆太郎　大三、七生

女　久子　明四三、一〇生

女　清子　明四五、五生

君は和歌山縣人下田竹藏の弟にして明治五年九月を以て生れ同二十五年分れて一家を創立す同三十六年明治法律學校を卒業し判檢事登用試驗に合格同四十二年判事に任じ爾來高知區裁同地方奈良地方釜同區五條區釜奈良區大館區山形地方花卷區增毛區旭川區釜同地方各裁判所判事に歷補し大正十五年前記現職に轉ず家族は尙三女房枝(大八、四生)四女保子(同一三、七生)あり(釧路、區裁判所官舍)

下田彥人　三菱銀行(株)駒込支店長　熊本縣在籍

母　ヨウ　萬延元、七生、靜岡、荒木信順長女

妻　まち子　明二八、五生、東京、鳥居慶三姉

男　健太郎　大六、九生

君は熊本縣人下田泰岳の長男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十年家督を相續す同二年東京帝國大學法科大學を卒業し三菱銀行に入り京都支店副長を經て昭和二年駒込支店長となり今日に至る家族は尙長女久(大四、三生)二女百合子(同九、一〇生)二男岳彥(同一三、一生)あり弟直人(明二八、二生)は分家せり(東京、本鄉、駒込曙町二八**電小石川四七八九**)

下田政造　松田銀行(株)取締役　神奈川縣在籍

繼母　たき　明四、八生、愛知、中村善六妹

妻　イト　明一、二生、神奈川、藤澤作太郎女

男　泰助　大八、一生

女　喜久　明三九、一〇生

女　壽子　明四二、九生

女　タキ　明四四、一生

君は神奈川縣人下田助次郎の長男にして明治十二年三月を以て生れ同二十五年家督を相續す現に松田銀行取締役たり家族は尙四女貞子(大五、七生)二男修(同一一、八生)三男仁(同一四、一一生)の外弟德三郎(明一四、一一生)同妻レイ(同二一、三生、群馬、田中輝司妹)との間に一子あり(東京、芝、芝公園七ノ二二**電芝三〇四六**)

下田友吉　從五位勳四等、判事、釧路區裁判所判事、釧路地方裁判所判事、釧路區裁判所監督、和歌山縣在籍

下田李一　正五位勳四等、農林技師、水產局勤務、廣島縣士族

妻　與志　明八、六生、千葉、淵邊善三二女

男　清　明三九、九生

男　實　明四一、一生

女　房子　明四三、八生

君は廣島縣士族柏木秀助の二男にして明治六年三月を以て生れ先代リウの養子となり同十九年家督を相續す同二十七年水產傳習所を卒業し水產傳習所助教水產講習所技手同助教農商務技手農商務技師等に歷任し大正十四年農林技師に任じ現に水產局勤務たり曩に歐米露領沿海州に出張を命ぜらる家族は倘三男貢（明四五、三生）あり長女ミツネ（同三八、一生）は千葉縣人石野芳男に嫁せり（東京、麻布、東町三一）

參照―※中川信の項

下田守藏　三井銀行（株）常任監査役

熊本縣在籍

妻　壽滿子　明一九、四生、東京、士、波多野一郎叔母

男　成太郎　明三八、九生、東京帝國大學法學部政治科在學

男　功　明三九、一二生、東京帝國大學工學部應用化學科在學

女　松子　明四二、九生、三輪田高等女學校出身、府立第三高等女學校高等科在學

女　文江　大二、一〇生、お茶の水高等女學校在學

君は熊本縣士族下田理平の二男にして明治八年二月同縣の名家たる下田家に生れ大正五年分家して一家を創立す先是明治三十二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し三井銀行に入り爾來本部祕書課長福岡支店長京都支店長横濱支店長等を經て本店營業部長に進み昭和二年常任監査役に選任せられ現に其職に在り倘同年金融制度調査準備會設置せらるゝや選ばれて其委員となれり家族は前記の外三女梅子（大八、二生）あり（東京、牛込、余丁町八六）電四谷四一七六）

下田理平太　熊本縣多額納稅者、地主

熊本縣士族

妻　ヒサ　明二〇、一生、熊本、毛利武次郎二女

男　理雄　明四二、九生

君は熊本縣士族下田幸三郎の二男にして現戶主幸一の弟なり明治十六年九月を以て生る同十九年大阪高等工業學校釀造科を卒業す地主にして同縣多額納稅者たり家族は倘三男貞夫（大三、一一生）長女房（同五、七生）二女良（同一〇、一〇生）六男下益城、限庄町）七男治夫（同一五、二生）あり（熊本、

參照―下田幸一※松田方※横山小五郎の項

下津撰一　高松商工會議所會頭、高松百十四銀行（株）取締役、香川縣士族

妻　カズ　明二四、一一生、香川、馬場振作妹

男　永一　大三、一二生

君は香川縣士族下津永行の長男にして明治十五年七月を以て生れ同四十一年家督を相續す同四十年早稻田大學商科を卒業し現時高松百十四銀行取締役にして傍ら前記各會社の重役たり家族は倘三女美代子（大六、二生）四女勝代（同八、一生）五女登美（同一〇、四生）二男芳之（同一二、五生）三男元記（同一四、六生）弟繁雄（明三二、三生）あり（樺太、豐原町大通南一丁目）

參照―森本徹也※中村安次郎の項

下出多與門　豐原商工會議所副會頭、樺太炭鑛、樺太採氷各（株）取締役、樺太運輸（株）監査役、山九大野商事（名）代表社員、樺太在籍

父　善藏　安政元、九生

妻　しか　明二六、五生、藍割順作養子

男　武司　明四四、一生

女　文　大元、九生

君は石川縣人下出善藏の長男にして明治十七年七月を以て生れ大正十三年家督を相續す現時山九大野合名會社代表社員及前記各社の重役にして豐原商工會議所副會頭たり家族は倘三女美代子（大六、二生）四女勝代（同九、一生）五女登美（同一〇、四生）弟繁雄（明三二、三生）あり（樺太、豐原町大通南一丁目）

下出民義　鳴海土地、愛知電氣鐵道、大同電力、白山水力、名古屋紡績各（株）取締役、名古屋株式取引所、名古屋信託各（株）相談役、辛酉銀行（株）顧問、私立東邦商業學校々主

妻　あい　明二三、九生、大阪、西井平兵衛四女

男　義雄　明二三、五生

男　隼吉　明三〇、二生

嫁　朝子　明三三、五生、三男隼吉妻

君は大阪府人下出松藏の弟にして文久元年十二月を以て生れ明治九年家督を相續す夙に實業界に入り現時前揭各會社の重役たり曩に選ばれて衆議院議員たりしことあり家族は倘孫幸雄（大一三、一〇生、三男隼吉長男）あり長女鑑（明三六、九生）は大阪府人鎭川吉兵衛二男佐一に二女磯子（同三八、九生）は三重縣人岡田藤吉三男達三郎に嫁せり（名古屋、中、南大津町二ノ一三）電東五六三）

參照―岡田藤吉、下出義雄、鎭川吉兵衛の項

下出義雄　名古屋商工會議所議員、東海電極製造、木曾川電力各（株）取締役、名古屋株式取引所、名古屋ホテル各（株）監査役、愛知石炭商會（資）代表社員、愛知縣在籍

父　民義　文久元、一二生、現戶主

妻　サダ　明二六、三生、工學博士齋藤恒三長女

男　貞雄　大一〇、七生

君は愛知縣人下出民義の長男にして明治二十三年五月を以て生る大正二年神戶高等商業學校を卒業し實業界に入り現に前記各會社の重役にして推されて名古屋商工會議所議員たり家族は倘長女文子（大七、一生）三男保雄（同一二、一〇生）四男久雄（同一三、一二生）あり（名古屋、中、松重町四電南二三五）

參照―齋藤恒三、下出民義※大隅行一※岡田藤吉※齋藤恒一※錢川吉兵衛の項

下野直太郎　正四位勳三等、東京商科大學教授、東京商科大學附屬商學專門部教授、岐阜縣在籍

妻　勞伊　明三、一二生、岡山、士、岸本業三郎三女

養子　立　明二一、八生、長女ひで夫、山梨、三木耐弟

女　ひで　明二五、三生、養子立妻

君は岐阜縣人下野甚助の長男にして慶應二年十月を以て生れ大正五年家督を相續す明治二十一年東京高等商業學校を卒業し同校教授に任じ現時東京商科大學教授にして附屬商學專門部教授たり家族は倘弟竹夫（明九、一〇生）同妻ふじる（同二七、一生、岐阜、後藤武妹）弟十郎（同二〇、三生）同妻直（同三〇、三生、京都、鈴木重安妹）あり弟準二（同一七、六生）は愛知縣人菊池重久姪初枝子の入夫となり妹みちよ（同二三、九生）は岐阜縣人野々村齋辰に嫁せり（東京、麴町、富士見町二ノ一電九段一六五一）

參照―菊池重久、三木耐の項

下村伊兵衛　秋津川水力（株）代表取締役

和歌山縣在籍

妻　ナツ　明二二、五生、和歌山、大野吉藏妹

男　權兵衛　明二八、一生、長男權兵衛妻、和歌山、松本愛之助長女

婦　ハツエ

男　權次郎　明三一、一一生

女　菊　明三八、一二生

女　正子　大元、一〇生

君は和歌山縣人下村權兵衛の長男にして慶應二年六月を以て生れ明治三十五年家督を相續す夙に實業界に投じ現時秋津川水力會社代表取締役たり家族は倘七女房子（大三、一生）孫正太郎（同九、一生、長男權兵衛同六、一生、同長女）同吉兵衛（同八、一二生、同二男）同良子（同一一、七生、同二女）同富子（同一二、同三女）同伊三郎（昭二、三生、同二男）同良（同三、五生）は和歌山縣人大垣ヨト（明二五、二生）は和歌山縣人大垣内八藏二男岩右衛門に二女クニ（同二九、一二生）は同縣人和田勝晴に三女ケイノ（同三六、八生）は同縣人山西嘉治に嫁し三男寧兵衛（同三四、三生）は分家せり（和歌山、日高、清川村）

下村延太郎　從四位勳二等功四級、後備海軍中將、京都府在籍

妻　コト　明二、九生、京都、丹羽龜太郎妹

男　禮輔　明三九、四生

女　信子　大二、二生

君は京都府人下村良輔の長男にして慶應三年九月を以て生れ明治三十九年家督を相續す夙に海軍少尉に任じ海軍中將に累進す其間第二艦隊參謀長海軍々令部出仕佐世保鎭守府參謀長海軍教育本部第一部長兼海軍艦政本部技術會議々員等に歷補し大正十二年豫備役となり現に後備役に編入す家族は倘二男智（明四二、一生）あり長女トヨ（明二五、三生）は東京府人長谷川宏に嫁し弟一〇生）同妻ふじる（同二七、一生、岐阜、後藤武妹）同三、五生）は同府人吉田重親の養子となり同三、七生）は同妻延（同二一、一生、滋賀、吉木重安妹）あり弟準二（同一七、六生）は愛知縣人菊池重久姪初枝子の入夫となり妹みちよ（同二三、九生）は岐阜縣人野々村齋辰に嫁せり（東京、四谷、内藤町一ノ五七）

參照―菊池重久、三木耐の項

下村伊兵衛　埼玉縣多額納稅者、岩槻郵便局長

埼玉縣在籍

妻　さく　明九、四生、埼玉、小林儀三郎妹

男　得郎　明二一、九生、埼玉、小林儀三郎二男

女　喜久子　明三五、一生、養子得郎妻、東京、山中忠兵衛長女

君は埼玉縣多額納稅者、岩槻郵便局長埼玉縣在籍明九、四生、埼玉、小林儀三郎妹明二一、九生、埼玉、小林儀三郎二男明三五、一生、養子得郎妻、東京、山中忠兵衛長女

君は埼玉縣人先代喜兵衛の長男にして明治二年十月を以て生れ同二十三年家督を相續し前名米次郎を改め襲名す現時岩槻郵便局長にして縣下の多額納稅者たり家族は倘孫千代子（大一五、五生、養子得郎長女）妹たけ（明七、一〇生）あり同まつ（同五、一〇生）は埼玉縣人長井彌兵衛弟梅三郎に同やい（同一一、二生）は東京府人山中忠兵衛二男勝藏に同はる（同二三、三生）は神奈川縣人木村福松に嫁し弟喜三郎（同一四、五生）同妻たか（同一九、一〇生、埼玉、伊藤政雄妹）は其子女を伴ひ同榮次郎（同二〇、一生）は同妻きわ（同二五、四生、埼玉、篠崎正三郎四女）を伴ひ各分家し同正一（同二六、三生）も亦分家せり（埼玉、南埼玉、岩槻町）

下村菊松　加島銀行（株）東京支店支配人

大阪府在籍

妻　フミ　明二三、一二生、兵庫、眞野莊敬長女

男　昌一　大二、一一生

君は大阪府人加輪上勢七の弟にして明治十五年十二月を以て生れ後先代丑之助の養子となり家督を相續す同三十五年大阪高等商業學校を卒業し加島銀行に入り現時同行東京支店支配人たり家族は倘二男誠二（大九、三生）あり（東京、本鄕、駒込上富士前町一一一電小石川二五四一）

參照―加輪上勢七※坂湛※直木倫太郎の項

下村孝太郎　工學博士、東洋木材防腐（株）取締役會長、大阪瓦斯（株）專務取締役

妻　とく　明三、七生、男爵北垣晉一養伯母

男　明　明二八、一生、理學士

女　清子　明三〇、八生、京都府立第一高等女學校出身

男　孝次　明三二、四生、工學士、下村孝太郎研究所員

君は熊本縣士族下村五平の長男にして文久元年九月を以て生れ後家督を相續す夙に化學工業學を修め大阪舍密工業會社技師長に聘せられ後同社取締役を經て社長に擧げらる現時東洋木材防腐會社取締役會長にして又大阪瓦斯會社專務取締役たり先是大正四年工學博士の學位を授けられ同十三年藍綬褒章を賜はる妹四女（明元、一〇生）は福岡縣人亡牛島謹爾に同五女（同四、七生）は法學博士浮田和民に同與志（同六、四生）は東京府人中村房太郎に同捨（同九、一一生）は從五位勳五等藥學博士亡小野職愨に嫁せり（京都、上京、寺町丸太町上ル一三六電上一三一）

參照―男爵北垣晉一、浮田和民※池田旭の項

下村耕次郎

妻　千代
男　健一
女　静枝
男　榮次郎
女　君子
女　信子

君は滋賀縣士族川村鐘太郎の弟にして明治六年五月を以て生れ同二十二年先代久の養子となり家督を相續す現時東洋加工綿業會社々長たる外前揭各會社の重役を兼ぬ家族は尙ほ三男武夫(大四、二生)四女俊子(同七、六生)あり養母久(安政二、一生、先々代要太二女)は滋賀縣人廣田與三吉に嫁せり(大阪、南、松屋町八雲東

六三七)

下村三四郎

妻　タケ
男　新
女　サ

君は佐賀縣士族木塲幸平の三男にして明治十四年十月を以て生れ同三十七年先代タケチヨの入夫となり家督を相續す同四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同四十五年檢事に任じ札幌區同地方函館區同地方各裁判所檢事を經て大正二年朝鮮總督府判事に轉じ大邱地方法院同慶州支廳釜山地方法院各判事光州地方法院群山支廳金州地方法院大邱地方法院各檢事に歷補し大正十四年現職平壤地方法院檢事に轉ず家族は尙ほ二男明(大一二、一〇生)三男安(同一四、九生)あり(平壤、地方法院官舍)

下村鹿次郎

妻　はな

従五位勳五等、朝鮮總督府檢事、平壤地方法院檢事、佐賀縣士族明二三、三生、長崎、士、山崎茂太郎妹

大一〇、六生
明四五、一生

君は佐賀縣士族木塲幸平の三男にして明治十四年十月を以て生れ同三十七年先代タケチヨの入夫となり家督を相續す同四十二年東京帝國大學獨法科を卒業し同四十五年檢事に任じ札幌區同地方函館區同地方各裁判所檢事を經て大正二年朝鮮總督府判事に轉じ大邱地方法院同慶州支廳釜山地方法院各判事光州地方法院群山支廳金州地方法院大邱地方法院各檢事に歷補し大正十四年現職平壤地方法院檢事に轉ず家族は尙ほ二男明(大一二、一〇生)三男安(同一四、九生)あり(平壤、地方法院官舍)

下村齊次郎

妻　シン
男　務
女　正子

君は兵庫縣人下村德重の長男にして明治十九年三月を以て生れ同二十七年家督を相續す現時日米商店專務取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尙ほ二男昇(明四三、一生)三男齊(大四、三生)あり(兵庫、武庫、御影町石屋左美也一四五**電御影一九四二**)

日米商店(株)專務取締役、中外護謨(株)取締役、東海鋼業、大日本自轉車各(株)監査役、兵庫縣在籍
明一八、四生、神奈川、中山貞一郎妹
明四一、五生
大元、九生

君は兵庫縣人下村德重の長男にして明治十九年三月を以て生れ同二十七年家督を相續す現時日米商店專務取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尙ほ二男昇(明四三、一生)三男齊(大四、三生)あり(兵庫、武庫、御影町石屋左美也一四五**電御影一九四二**)

下村專之助

妻　トミ
女　二
女　三

君は京都府人森田善兵衞の四男にして元治元年十月を以て生れ明治二十五年先代トキの入夫となり家督を繼ぐ友禪染業を營む(京都、上京、相國寺西門前町**電西陣二三八八**)

友禪染業
京都府在籍
明九、一〇生、京都、下村嘉兵衞二女
明二七、一一生、京都、下村德太郎三女

下村善右衞門

妻　せん
養子　壽之助
養子　みつ

君は群馬縣人下村善太郎の長男にして文久三年七月を以て生れ明治十六年家督を相續す夙に實業界に入り現に關東水力電氣會社取締役として知らる(前橋、紀雲町四一)

關東水力電氣(株)取締役
群馬縣在籍
慶應三、二生、群馬、島田重五郎二女
明三一、一一生、養子みつ夫、群馬、松永貢弟
明四〇、三生、養子壽之助妻、群馬、下村重太長女

君は群馬縣人下村善太郎の長男にして文久三年七月を以て生れ明治十六年家督を相續す夙に實業界に入り現に關東水力電氣會社取締役として知らる(前橋、紀雲町四一)

下村武十郎

男　猛太郎
婦　タミノ
男　俊次郎
婦　久榮

君は和歌山縣人木下利兵衞の二男にして明治十四年先代ヨネの入夫となり家督を相續す薪炭商を營む家族は尙ほ二男俊次郎長男(同一五、八生)あり同和夫(同一六、九生)は大阪府人左納龜之助に嫁せり(大阪、西、幸町通三ノ七**震櫻川二七一**)

薪炭商
大阪府在籍
明二〇、九生
明二七、一二生、長男猛太郎妻、德島、大澤久太郎長女
明三三、八生、二男俊次郎妻、大阪、笠原春之助二女

君は和歌山縣人木下利兵衞の二男にして安政元年六月を以て生れ明治十四年先代ヨネの入夫となり家督を相續す薪炭商を營む家族は尙ほ二男俊次郎長男(同一五、八生、二男俊次郎長男)あり(大阪府人左納龜之助に嫁せり(大阪、西、幸町通三ノ七**震櫻川二七一**)

下村忠兵衞

祖母　こと
母　ふい
妻　よね

下村家は元江州の出なり代々農を營みしが父幸次郎年少にして大阪市株式現物問屋の店員となり勤務四十年後獨立株式仲買を始めて家産を積む君は其長男にして明治三十年五月を以て生る大阪株式取引所短期取引員たり淨瑠璃を趣味とす家族は尙ほ弟友三(明三三、一〇生)同妻千代子(同三七、二生、大阪、矢倉卯之助長女)あり(大阪、東、伏見町二ノ一七**電本局一四三六**)

下村時之助

大阪株式取引所短期取引員
大阪府在籍

下村汽船、東洋加工綿業各(株)社長、日本電力(株)專務取締役、大阪製鎖所、阪堺電鐵、械工作所、大阪製鐵工業會館、大東檢料、日本電解製鐵所各(株)取締役、大正製麻、大阪ビルヂング各(株)監査役、滋賀縣士族

明一三、一二生、大阪、小林鐘造妹

下村耕次郎

妻　千代
男　健一
女　静枝
男　榮次郎
女　君子
女　信子

君は滋賀縣士族川村鐘太郎の弟にして明治六年五月を以て生れ同二十二年先代久の養子となり家督を相續す現時東洋加工綿業會社々長たる外前揭各會社の重役を兼ぬ家族は尙ほ三男武夫(大四、二生)四女俊子(同七、六生)あり養母久(安政二、一生、先々代要太二女)は滋賀縣人廣田與三吉に嫁せり(大阪、南、松屋町八雲東

六三七)

明三四、二生
明三六、二生
明三九、五生
明四二、一生
明四五、五生

下村三四郎

妻　タケ
男　新
女　サ

従五位勳五等、朝鮮總督府檢事、平壤地方法院檢事、佐賀縣士族明二三、三生、長崎、士、山崎茂太郎妹

大一〇、六生
明四五、一生

君は佐賀縣士族木塲幸平の三男にして明治十四年十月を以て生れ同三十七年先代タケチヨの入夫となり家督を相續す同四十二年東京帝國大學獨法科を卒業し同四十五年檢事に任じ札幌區同地方函館區同地方各裁判所檢事を經て大正二年朝鮮總督府判事に轉じ大邱地方法院同慶州支廳釜山地方法院各判事光州地方法院群山支廳金州地方法院大邱地方法院各檢事に歷補し大正十四年現職平壤地方法院檢事に轉ず家族は尙ほ二男明(大一二、一〇生)三男安(同一四、九生)あり(平壤、地方法院官舍)

下村鹿次郎

妻　はな

東京商工會議所議員、日本紬筆製造、北海產業各(株)專務取締役、東京米穀肥料、伊勢貯蓄銀行、日本建物、帝國塗料、竹內商店各(株)監査役、正米驛聖會理事、麹町區米問屋、東京府在籍

下村正太郎

母　ユリ
妻　千代
長女

君は京都府人先代正太郎の長男にして明治十年十月を以て生れ同二十二年家督を相續す現時日本電解製鐵所、日本電力、日本製麻各(株)取締役、大阪製鐵所、大阪ビルヂング、大阪製鎖工業會館、大東檢料、大正製麻、大阪製鐵所各(株)監査役、滋賀縣士族

明一三、一二生、大阪、小林鐘造妹
明三四、二生
明三六、二生
明三九、五生
明四二、一生
明四五、五生

下村壽一

妻　百世
男　敬造
女　吉二

君は京都府人下村與七郎の長男にして明治十七年七月を以て生る同四十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し山形縣屬同縣警視富山縣東京府各理事官文部省參事官會計檢査院大臣祕書官等に歷任し大正十年歐米各國の敎育事情視察を命ぜられ同十一年歸朝す現時文部省宗敎局長たり家族は尙ほ二女弘子(昭二、五生)弟捷三(明三七、七生)同富士男(同四〇、四生)あり妹美枝(同一九、一二生)は兵庫縣人戸田重太郎長男重右衞門に同一〇生)は京都府人川口守之助長男太郎(同一〇、九生)は兵庫縣人秋山岩三郎に同と(同三生)は同縣人木村槌吉に同綾子(同三達次郎長男良二に嫁し同美野(同二、一生)は京都府人下村清太郎に弟雄二郎(同二八、九生)は同府人佐藤治兵衞に各養子となれり(東京、牛込、北山伏町二二

参照—竹內佐一の項

従四位勳三等、文部省宗敎局長
京都府在籍
嘉永三、四生、現戸主
明三〇、一〇生、理學博士大幸勇吉二女
大一二、一〇生

君は京都府人下村與七郎の長男にして明治十七年七月を以て生る同四十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し山形縣屬同縣警視富山縣東京府各理事官文部省參事官會計檢査院大臣祕書官等に歷任し大正十年歐米各國の敎育事情視察を命ぜられ同十一年歸朝す現時文部省宗敎局長たり家族は尙ほ二女弘子(昭二、五生)弟捷三(明三七、七生)同富士男(同四〇、四生)あり妹美枝(同一九、一二生)は兵庫縣人戸田重太郎長男重右衞門に同逸(同二五、一〇生)は京都府人川口守之助長男太郎に同ひさ(同三〇、九生)は兵庫縣人木村槌吉に同綾子(同三四、六生、府立第三高等女學校出身)は東京府人内村達次郎長男良二に嫁し同美野(同二、一生)は京都府人下村清太郎に弟雄二郎(同二八、九生)は同府人佐藤治兵衞に各養子となれり(東京、牛込、北山伏町二二

参照—内村達次郎、大幸勇吉※小西梅太郎※藤井利譽の項

下村正之助

妻　マキ
男　健一
養子　晴二
女　ソノ
女　セツ
女　サダ

君は富山縣人野村五右衞門の弟にして明治十一年二月を以て生れ後先代長藏の養子となり同十四年家督を相續す現時前記各會社の重役にして推されて旭川商工會議所副會頭に擧げらる曩に天鹽水電上川市場北海道ホテルの取締役を勤む家族は尙ほ二男修二(大二、八生)あり養父長藏(安政三、一生、北海道、下村與四郎長男)は分家せり(旭川、五條通六丁目左一〇號)

旭川商工會議所副會頭、北海木材(株)代表取締役、阿部式電氣時計製作所、山田屋商會、旭川市場、丸肥旭川肥料各(株)取締役
北海道在籍
明一四、八生、北海道、平川七次郎養子
明三九、一〇生
道、上田豐治郎二男
明三三、八生、養子晴二妻
明四二、一生
明四三、一生

下村昇之助

妻　エン
男　一
女　良子
女　俊子

大丸吳服店(資)社員
京都府在籍
明一八、八生、養父源造庶子
大二、二生
明四〇、五生
明四一、六生

君は京都府人先代源造の養子となり同三十八年家督を相續す曩に大丸吳服店監査役に擧げられ現に同店社員たり一郎を改む家代々吳服商を營み大丸總本家たり君夙に早稻田大學に學び後歐米を漫遊して實業界を視察し歸來店舗の改革に從ひ同四十一年組織を改めて株式合資會社とし更に同九年大阪本店の火災に遭ふや新に株式會社大丸吳服店を創立し之を繼承せしめ神戸に支店を置く等新時代に適合せる營業方法を採り克く潮流に順應し斯界の老舗として知らる妹トミ(明二二、五生)は京都府人下村三保養子和之助に嫁せり(京都、上京、烏丸通丸太町北入四三三**電上一三七**)

参照—鶴卷鶴一の項

下村宏

祖母　まさゑ
母　ふみ
妻　正夫

従三位勳二等、法學博士、朝日新聞社(株)專務取締役
和歌山縣士族
萬延元、一生、和歌山、治助妹
明一三、一生、東京、佐々木興一妹
大二、八生

君は和歌山縣士族下村房次郎の長男にして明治八年五月を以て生れ同十八年家督を相續す同三十一年東京帝

下村如道　勳六等、日本銀行(株)調査役
母　遊龜　明五、八生、東京、牛久保良德長女
妻　喜代　明二九、四生、山口、因藤成光三女、御茶の水高等女學校出身
朝日新聞社專務取締役に舉げられ今日に及ぶ曩に留學し又中央法政早稻田東京商科各大學の講師となり大正八年法學博士の學位を受く現に對支文化事業調査會委員勳儉奬勵中央委員商工審議會委員簡易生命保險資金運用委員人口食糧調査委員たり雅南と號し「五番茶」「財政讀本」其他著作あり養妹道惠(明二四、七生)は東京府士族田中兵助に嫁せり(西宮、區內六甲苦樂園內電西宮八五八)
參照═佐々木興一、田中兵助※筑輪焉三郎の項

下村萬助　依田銀行、信濃絹絲紡績、丸子鐵道、田澤炭礦各(株)取締役　弘化元、三生、長野、下村忠右衛門長女
養母　けん
妻　とよ　明五、六生、先々代忠兵衛二女
君は長野縣人柳澤賴松の二男にして明治十年二月を以て生れ同三十五年先々代忠兵衛の養子となる現時前記銀行會社の重役たり家族は尙ほ亡養兄龜三郎妻あくり(明一〇、四生、長野、小林愛太二女)同二男龜三郎(同三六、二生、現戶主)あり(長野、小縣、丸子町)

下村三四吉　從四位勳三等、東京女子高等師範學校教授、兵庫縣士族　明一〇、三生、龜島、士、川島榮三郎妹
妻　よし
男　彥一　明三三、五生
男　恒夫　明三四、八生
男　三郎　明三六、一生
女　まさ　明三九、六生
女　ふみ　大二、一生
君は兵庫縣士族下村彥三の四男にして明治元年四月を以て生る同二十九年帝國大學文科大學選科を卒業し東京女子高等師範學校敎諭同敎授に任じ第六臨時敎員養成所敎授となり再び東京女子高等師範學校敎授に任じ現時其職にあり家族は尙四男別信夫(大五、一〇生)五男成夫(同九、六生)の外兄棟吉(安政六、一一生、現戶主)同妻まつ(明九、九生、兵庫、山崎きよ妹)との間に一女あり(東京、本鄕、駒込西片町一〇)

下村隆三郎　下村(株)取締役、京都府在籍　明三、二生、京都、下村忠兵衛叔母
妻　綾子　明三七、二生、京都、五條醫四二女
婿　裕　大一四、二生
君は京都府人下村忠三郎の二男にして同忠兵衛の從弟なり明治二十九年二月を以て生れ大正十二年家督を相續す現時下村株式會社取締役たり(京都、上京、岡崎法勝寺町三〇ノ一電上二七六八)
參照═下村忠兵衛※樋口芳太郎の項

下元鹿之助　從七位、衆議院議員(高知縣選出)、高知贐業(株)代表取締役、四國水電(株)取締役、片倉製絲紡績(株)理事兼高知製絲所長、高知縣贐絲同業組合長　高知縣在籍
明一〇、三生、贐島、士、川島榮三郎妹
妻　民惠
男　興之　明三九、一一生
女　富美　明四三、八生
君は高知縣士族下元興行の三男にして明治八年八月を以て生れ大正六年分れて一家を創立す夙に東京贐業講習所を卒業し高知縣技師に任じ又高知縣會議員に擧げらる現時前揭各會社の重役にして高知縣選出衆議院議員たり傍ら縣下の贐絲同業組合長を兼ぬ家族は尙三女あり(高知、土佐、鴨田村)

下元　連　從五位、勳六等、日本銀行(株)調査役　東京府士族
母　遊龜　明五、八生、東京、牛久保良德長女
妻　喜代　明二九、四生、山口、因藤成光三女、御茶の水高等女學校出身
朝日新聞社專務取締役に舉げられ今日に及ぶ曩に留學し又中央法政早稻田東京商科各大學の講師となり大正八年法學博士の學位を受く現に對支文化事業調査會委員勳儉奬勵中央委員商工審議會委員簡易生命保險資金運用委員人口食糧調査委員たり雅南と號し「五番茶」「財政讀本」其他著作あり養妹道惠(明二四、七生)は東京府士族田中兵助に嫁せり(西宮、區內六甲苦樂園內電西宮八五八)
參照═佐々木興一、田中兵助※筑輪焉三郎の項

下村萬助　依田銀行、信濃絹絲紡績、丸子鐵道、田澤炭礦各(株)取締役　弘化元、三生、長野、下村忠右衛門長女
養母　けん
妻　とよ　明五、六生、先々代忠兵衛二女
君は長野縣人柳澤賴松の二男にして明治十年二月を以て生れ同三十五年先々代忠兵衛の養子となる現時前記銀行會社の重役たり家族は尙ほ亡養兄龜三郎妻あくり(明一〇、四生、長野、小林愛太二女)同二男龜三郎(同三六、二生、現戶主)あり(長野、小縣、丸子町)

下村三四吉　從四位勳三等、東京女子高等師範學校教授、兵庫縣士族　明一〇、三生、龜島、士、川島榮三郎妹
妻　よし
男　彥一　明三三、五生
男　恒夫　明三四、八生
男　三郎　明三六、一生
女　まさ　明三九、六生
女　ふみ　大二、一生
君は兵庫縣士族下村彥三の四男にして明治元年四月を以て生る同二十九年帝國大學文科大學選科を卒業し東京女子高等師範學校敎諭同敎授に任じ第六臨時敎員養成所敎授となり再び東京女子高等師範學校敎授に任じ現時其職にあり家族は尙四男別信夫(大五、一〇生)五男成夫(同九、六生)の外兄棟吉(安政六、一一生、現戶主)同妻まつ(明九、九生、兵庫、山崎きよ妹)との間に一女あり(東京、本鄕、駒込西片町一〇)

下村隆三郎　下村(株)取締役、京都府在籍　明三、二生、京都、下村忠兵衛叔母
妻　綾子　明三七、二生、京都、五條醫四二女
婿　裕　大一四、二生
君は京都府人下村忠三郎の二男にして同忠兵衛の從弟なり明治二十九年二月を以て生れ大正十二年家督を相續す現時下村株式會社取締役たり(京都、上京、岡崎法勝寺町三〇ノ一電上二七六八)
參照═下村忠兵衛※樋口芳太郎の項

下元鹿之助　從七位、衆議院議員(高知縣選出)、高知贐業(株)代表取締役、四國水電(株)取締役、片倉製絲紡績(株)理事兼高知製絲所長、高知縣贐絲同業組合長　高知縣在籍
明一〇、三生、贐島、士、川島榮三郎妹
妻　民惠
男　興之　明三九、一一生
女　富美　明四三、八生
君は高知縣士族下元興行の三男にして明治八年八月を以て生れ大正六年分れて一家を創立す夙に東京贐業講習所を卒業し高知縣技師に任じ又高知縣會議員に擧げらる現時前揭各會社の重役にして高知縣選出衆議院議員たり傍ら縣下の贐絲同業組合長を兼ぬ家族は尙三女あり(高知、土佐、鴨田村)

下元　連　從五位、勳六等、日本銀行(株)調査役　東京府士族
母　茂登　安政三、一〇生、下元官三二女
妻　ハナ　明二七、一生、高知、村山渉二女
男　元　大九、三生
君は福岡縣士族下元貞の長男にして明治二十一年十二月を以て生れ同三十七年家督を相續す大正三年東京帝國大學工科大學建築學科を卒業し同六年大藏技師に同十四年營繕管財局技師に任ぜられ現に其職に在り家族は尙長女春日(大一一、三生)二女檀(同一四、七生)あり(東京市外荏原町戶越九五)
參照═※山本幸枝の項

下山英五郎　正四位勳二等、判事、熊本地方裁判所長、兵庫縣在籍　明九、九生、兵庫、小島長一姉
妻　ゑん　明三〇、一生、法學士、十五銀行員
男　英種　明三六、九生、長男英種婿、東京、高木得三長女、山脇高等女學校出身
婿　繁　明三六、一生、法學士、東京市電氣局在勤
男　常夫　明三九、一生、縣立岐阜高等女學校出身
女　千代　明四一、七生、縣立岐阜高等女學校出身
女　惠美
君は兵庫縣人下山留三郎の長男にして明治二年八月を以て生れ同十三年先代九平次の養子となり家督を相續す同二十八年帝國大學法科大學法律學科を卒業し同三十年判事に任じ爾來神戶區同地方各裁判所判事同山神戶各地方裁判所部長大阪控訴院判事京都地方裁判所部長千葉甲府靜岡安濃津旭川函館岐阜各地方裁判所長に歷補し大正十三年現職熊本地方裁判所長に轉ず家族は尙孫佐登子(大一四、一〇生、長男英種長女)あり妹よしゑ(明一六、五生)は兵庫縣人廣末恒太郎に嫁し從弟朝次郎(同四、一二生)は同縣人木村寅十郎の死跡を相續し二男定則(同三四、七生)は分家せり(熊本市地方裁判所長官舍)
參照═小島長一、高木得三※澤野貞次郎の項

下山豐平　冬青園(株)社長、新高製糖(株)取締役、群馬縣士族

母　れん　文久元、二生、群馬、士、鈴木藤太郎妹
妻　芳枝　明二五、八生、東京、磯崎道二長女
男　正士　大二、一一生
君は群馬縣士族下山舟湖の長男にして明治十六年二月を以て生れ大正十四年家督を相續す現に前記諸會社の重役たり家族は尙四男別信夫(大五、一〇生)五男成夫(同九、六生)の外兄棟吉(安政六、一一生、現戶主)同妻まつ(明九、九生、兵庫、山崎きよ妹)との間に一女あり(東京、本鄕、駒込西片町一〇)

下山又兵衞　下山商店(株)社長、米澤商業銀行(株)取締役、山形縣在籍
妻　いそ　明一七、一生、養父又兵衞三女
男　良三　明四四、七生
養子　貞一　明二六、一生、長女うめ夫、山形、相澤貞吉弟
女　うめ　明二八、四生、養子貞一妻
女　かの　明四一、四生
君は山形縣人岩間勘三郎の弟にして明治三年十月を以て生れ後先代よしの養子となり同二十七年家督を相續し前名駒藏を改む現時前記銀行會社の重役たり家族は尙二男政三(大三、二生)五女とき(同五、一〇生)三男正三郎(同一一、七生)孫定助(同三、一生、養子貞一長男)同俊助(同四、九生、同二男)同道助(同六、二生、同三男)同貞子(同八、四生、同長女)同淑子(同一〇、一一生、同二女)同寬(同一四、七生、同四男)あり二女なか(明三四、一生)は山形縣人白根信彌長男信助に三女その(同三八、六生)は山形縣人相澤勝太郎に嫁せり(米澤、大町)
參照═※佐藤莊右衞門の項

霜鳥　直　西古田銀行(株)事務取締役　新潟縣在籍
妻　ヤイ　明元、一生、新潟、森川秀英姪
養子　四郎　明一三、九生、父善造四男
婿　幸尾　明二八、二生、養子四郎妻、新潟、平出現智長女
君は新潟縣人霜鳥善造の長男にして慶應三年十一月を以て生れ明治三十六年家督を相續す現時西古田銀行重役たり家族は尙孫直江(大四、一二生、養子四郎長男)同誠一(同七、三生、同二男)同節三(同九、二生、同三男)同男(同耕司(同一四、七生、同四男)あり妹スイ(明七、一一生)第三郎(同六、九生)は各分家せり(新潟、西浦原、米納津村)
參照═※藤田讓の項

霜山精一　正五位勳五等、判事、大審院判事　岡山縣士族
妻　佐代子　明三一、七生、東京、朝倉宗太郎妹
男　德爾　大八、七生
君は岡山縣士族霜山顯爾の長男にして明治十七年十月を以て生れ同二十八年家督を相續す同四十三年帝國大學獨法科を卒業し大正元年判事に任じ東京地方裁判所判事兼同區裁判所判事同區裁判所判事司法省參事官等を經て同十三年現職大審院判事に轉ず家族は尙二男魁(明三六、一生)は岐阜縣人三宅重孝に嫁せり(大九、七生)あり姉秀野(明八、一〇生)は法學博士橫田秀雄に同雪野(同一二、一生)は宮城縣人日高猪兵衞に嫁せり(東京市外中野町一五六七)
參照═橫田秀雄※關口蕃樹の項

社本耕平　資產家　愛知縣在籍
妻　ぬい　明一七、一生、岐阜、菱田清造長女
男　一　明三六、六生
女　すま　明三九、三生
君は愛知縣人社本平藏の二男にして明治十三年九月を以て生れ同三十四年先代平三の養子となり大正十一年家督を相續す現時西古田銀行重役たり家族は尙孫直江(大四、一二生、養子四郎長男)同誠一(同七、三生、同二男)同節三(同九、二生、同三男)同貞子(同八、四生、同長女)同淑子(同一〇、一一生、同二女)同寬(同一四、七生、同四男)あり二女なか(明三四、一生)は山形縣人白根信彌長男信助に三女その(同三八、六生)は山形縣人相澤勝太郎に嫁せり(米澤、大町)
參照═※佐藤莊右衞門の項

霜鳥　直　西古田銀行(株)事務取締役　新潟縣在籍
妻　ヤイ　明元、一生、新潟、森川秀英姪
養子　四郎　明一三、九生、父善造四男
婿　幸尾　明二八、二生、養子四郎妻、新潟、平出現智長女
君は新潟縣人霜鳥善造の長男にして慶應三年十一月を以て生れ明治三十六年家督を相續す現時西古田銀行重役たり家族は尙孫直江(大四、一二生、養子四郎長男)同誠一(同七、三生、同二男)同節三(同九、二生、同三男)

社本繁一郎　洋服商　大阪府在籍
君は大阪府人社本藤三郎の長男にして明治三十四年九月を以て生れ同三十九年家督を相續す大正十二年大阪高等商業學校を卒業し爾來洋服商を營む母よね(明二、一〇生、組父繁七長女)伴ひ社本ゐい方に入籍せり(大阪、西、新町通一ノ三)

赤土　正強　從五位、奈良縣書記官、內務部長　奈良縣在籍

妻　テイ　明三二、一生、大阪、平田利三郎妹
男　正眞　大八、八生
君は奈良縣人赤土慶三の三男にして明治二十一年八月を以て生れ大正七年分家して一家を創立す同元年文官高等試驗に合格し同二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業す滋賀縣屬筆生警視同縣神崎野洲各郡長京都府理事官山梨縣書記官同警察部長に歷任し昭和二年奈良縣書記官に轉じ現時同縣內務部長たり家族は尙長女妙子(大七、四生、二女久子(同一〇、七生)三女澄子(同一二、七生)四女富士子(同一四、三生)二男正善(同一五、九生)あり(奈良市縣內務部長官舍)

守隨眞一郎　第一生命保險(五)名古屋支部長　愛知縣在籍
元治元、五生、愛知、龜井增左衞門四女
妻　とよ　明二一、八生、東京、士、水村大成妹
女　八重　明三九、二生
君は愛知縣人守隨吉五郎の長男にして明治十六年十一月を以て生れ大正十二年家督を相續す明治三十八年早稻田大學政治經濟科を卒業し現時第一生命保險相互會社名古屋支部長たり家族は尙孫桑三郎(明二七、八生)あり(名古屋、東、高岳町二ノ一九電東一三一)

首藤　精　旭櫻酒造(株)社長、大川鐵道、宇都宮商會、川原酒造、福岡釀造試驗所各(株)取締役　福岡縣士族
明三、五生
君は福岡縣士族首藤有紀の長男にして明治四年十一月を以て生れ同二十一年家督を相續す現時旭櫻酒造會社社長たる外前記各會社の重役たり家族は尙弟定(明一二、二生)及其一女あり二女チカエ(明二六、一〇生)は熊本縣人林田幸雄に三女シノブ(同二八、四生)は熊本縣人松藤正憲に五女滿枝(同三二、二生)は熊本縣人井芹康也弟勉に六女シメ(同三九、六生)は鹿兒島縣人野上堅藏に妹アキ子(同二四、九生)は愛媛縣人二宮亮吉に嫁し弟靜雄(同一六、六生)同妻シマヨ(同三三、一生、福岡、蒲池貞四女)は其三女を伴ひ分家し甥整(同三四、一〇生、亡弟繁長男)も亦分家せり(福岡、三潴、城島町)
參照═井芹康也※白石茂登の項

首藤親人　高田實業銀行(株)頭取
大分縣士族
養母　スマ　文久二、八生、大分、西郷國太二女
妻　於廉　明二〇、一二生、養父百門二女
男　靜　明四一、七生
君は大分縣人毛利節齋の二男にして明治十二年一月を以て生れ同四十年先代於廉の入夫となり家督を相續す現時高田實業銀行頭取たり家族は尚二男晉(明四三、二生)二女嘉子(大三、二生)三女節(同五、一〇生)四男獨(同一〇、一生)あり(大分、大分、高田村)

首藤正壽　大分合同銀行(株)頭取
大分縣士族
妻　トク　明二三、八生、大分、羽田野四方太郎三女
君は大分縣士族首藤生男の五男にして明治十二年十一月を以て生る同三十六年東京高等商業學校を卒業し横濱正金銀行に入り同行上海支店支配人を經て臺灣銀行理事たりしが昭和二年之を辭し大分合同銀行頭取に就任す家族は尚長女信子(大四、二生)二女和子(同六、三生)兄賀壽人(明六、一一生、現戸主)同妻サイ(同二六、一二生、大分、工藤由彦長女)及其一男二女あり父生男(弘化四、一〇生)は分家し姪エミ(同四一、二生)は其の養子となり姉セイ(同一一、一生)は大分縣人佐藤貞次郎長男寬藏に嫁せり(別府、濱川通一〇丁目二一二一　電五六六)

首藤彌八郎　大分縣多額納稅者、竹田水電(株)社長、大分縣在籍
母　サワ　慶應元、一一生、大分、士、太田深造長女
妻　ミヨ　明二六、二生、大分、大津晉一長女
男　宗利　明四四、五生
君は大分縣人先代彌八郎の長男にして明治十九年十月を以て生れ昭和二年家督を相續す現時竹田水電會社々長に就て大分縣多額納稅者たり家族は尚二男保貞(大三、五生)二女節子(同八、二生)三女雅子(同一〇、七生)四女武子(同一二、二生)五女享子(昭二、六生)あり(大分、直入、竹田町)

首藤諒　從七位勳四等、元日本銀行理事
東京府在籍

執行作彌　醫學博士、執行病院長、醫師
福岡縣在籍
養父　朝吉　明三、一〇生、現戸主
養母　キヲ　明八、四生、福岡、安河內卯十郎妹
妻　フサ　明三一、三生、養父朝吉長女
男　高知夫　大八、九生
君は福岡縣人森尾末吉の三男にして明治三十一年家督を相續す先代大元夙に米國に遊學し歸朝後金門商會を起し諸機械の製作業を創め家名を揚ぐ君其後を繼承して現時主として計量器の製作に從ひ東京帝國大學經濟學部に在學す家族は尚妹好(明四四、三生)あり姉みち(同三六、五生)は千葉縣人西村繁に嫁せり(東京市外巢鴨町一一二三　電大塚二六九)
參照―西村繁の項

宿田久一　京都府多額納稅者、京都府引貝、京都府在籍
妻　みつ　明三二、八生、滋賀、猪飼清太郎三女
男　一雄　大一二、五生
君は京都府人宿田久太郎の長男にして明治二十八年六月を以て生れ大正十二年家督を相續す同九年早稻田大學を卒業し同年十月大阪毎日新聞社に入社し現時同社經濟部長たり家族は妻はま(文久元、一二生、神奈川、首藤與七二女)長女文子(同二、七生、從六位、大使館商務書記官、米國在勤、法學士)長男安人(明二一、七生、從六位、大使館商務書記官、米國在勤、法學士)二女照子(明二九、七生、長男安人妻、子爵松平康春妹、御茶の水高等女學校出身)あり(大分、大分、高田村)
君は大分縣人首藤平內の長男にして嘉永五年二月を以て生れ後家督を相續す藝州藩の勤王家にして夙に國事に盡瘁し長大連醫業帝國紡織機械製造日本醋素日本精工各會社重役たり家族は尚孫信成(大一一、一二生、長男安人長男)あり長女として(明一三、一生)は福岡縣士族法學士村井啓太郎に三女さわ(同一五、一生)二女文子(同二七、七生)は醫學博士井上達一に嫁し姉キミ(弘化二、六生)は兵庫縣人松本富藏、砂土原町三ノ八　電牛込六四)

十石伊兵衞　荒物商
安政四、四生、大阪、太鼓勘七二女
母　ヨネ　明一六、五生、大阪、西野五兵衞二女
妻　リヨ　大九、五生
男　嘉夫
君は大阪府人先代伊兵衞の二男にして明治十二年十一月を以て生れ同四十二年家督を相續し改名す荒物商を營む家族は尚二男幸彥(大一五、三生)あり妹フサ(明二四、四生)は大阪府人津和庄左衞門に嫁し弟龍造(同二七、六生)は大阪府人譽田市松の相續人となり同眞澄(同三二、六生)は同妻こも(同三三、六生、三重、角田龜吉妹)及其一男一女を伴ひ分家せり(大阪、浪速、元町三ノ一三五　電我二一五二)
參照―※余部市郎兵衞※森田四郎兵衞の項

十文字俊夫　金門商會、計量器製作業
宮城縣在籍
母　こと　明三、一生、京都、高畑清治郎長女、東京女子高等師範學校出身
君は宮城縣人十文字大元の長男にして明治三十八年二月を以て生れ大正十三年家督を相續す先代大元夙に米國に遊學し歸朝後金門商會を起し諸機械の製作業を創め家名を揚ぐ君其後を繼承して現時主として計量器の製作に從ひ東京帝國大學經濟學部に在學す家族は尚妹好(明四四、三生)あり姉みち(同三六、五生)は千葉縣人西村繁に嫁せり(東京市外巢鴨町一一二三　電大塚二六九)
參照―西村繁の項

宿田久一　京都府多額納稅者、京都府引貝、京都府在籍
妻　みつ　明三二、八生、滋賀、猪飼清太郎三女
男　一雄　大一二、五生
君は京都府人宿田久太郎の長男にして明治二十八年六月を以て生れ大正十二年家督を相續す同九年早稻田大學を卒業し同年十月大阪毎日新聞社に入社し現時同社經濟部長たり家族は妻はま(文久元、一二生、神奈川、首藤與七二女)長女文子(同二、七生、從六位、大使館商務書記官、米國在勤、法學士)長男安人(明二一、七生、從六位、大使館商務書記官、米國在勤、法學士)二女照子(明二九、七生、長男安人妻、子爵松平康春妹、御茶の水高等女學校出身)

周起搏　新瑞典、雜貨商
兵庫縣在籍

十文字俊夫　金門商會、計量器製作業
宮城縣在籍
母　こと　明三、一生、京都、高畑清治郎長女、東京女子高等師範學校出身
君は宮城縣人十文字大元の長男にして明治三十八年二月を以て生れ大正十三年家督を相續す先代大元夙に米國に遊學し歸朝後金門商會を起し諸機械の製作業を創め家名を揚ぐ君其後を繼承して現時主として計量器の製作に從ひ東京帝國大學經濟學部に在學す家族は尚妹好(明四四、三生)あり姉みち(同三六、五生)は千葉縣人西村繁に嫁せり(東京市外巢鴨町一一二三　電大塚二六九)
參照―西村繁の項

宿田久一　京都府多額納稅者、京都府引貝、京都府在籍
妻　みつ　明三二、八生、滋賀、猪飼清太郎三女
男　一雄　大一二、五生
君は京都府人宿田久太郎の長男にして明治二十八年六月を以て生れ大正十二年家督を相續す同九年早稻田大學を卒業し同年十月大阪毎日新聞社に入社し現時同社經濟部長たり家族は妻はま(文久元、一二生、神奈川、首藤與七二女)長女文子(同二、七生、從六位、大使館商務書記官、米國在勤、法學士)長男安人(明二一、七生、從六位、大使館商務書記官、米國在勤、法學士)二女照子(明二九、七生、長男安人妻、子爵松平康春妹、御茶の水高等女學校出身)

十石伊兵衞　荒物商
安政四、四生、大阪、太鼓勘七二女
母　ヨネ　明一六、五生、大阪、西野五兵衞二女
妻　リヨ　大九、五生
男　嘉夫
君は大阪府人先代伊兵衞の二男にして明治十二年十一月を以て生れ同四十二年家督を相續し改名す荒物商を營む家族は尚二男幸彥(大一五、三生)あり妹フサ(明二四、四生)は大阪府人津和庄左衞門に嫁し弟龍造(同二七、六生)は大阪府人譽田市松の相續人となり同眞澄(同三二、六生)は同妻こも(同三三、六生、三重、角田龜吉妹)及其一男一女を伴ひ分家せり(大阪、浪速、元町三ノ一三五　電我二一五二)
參照―※余部市郎兵衞※森田四郎兵衞の項

執行作彌　醫學博士、執行病院長、醫師
福岡縣在籍
養父　朝吉　明三、一〇生、現戸主
養母　キヲ　明八、四生、福岡、安河內卯十郎妹
妻　フサ　明三一、三生、養父朝吉長女
男　高知夫　大八、九生
君は福岡縣人森尾末吉の三男にして明治三十一年家督を相續す先代大元夙に米國に遊學し歸朝後金門商會を起し諸機械の製作業を創め家名を揚ぐ君其後を繼承して現時主として計量器の製作に從ひ東京帝國大學經濟學部に在學す家族は尚妹好(明四四、三生)あり姉みち(同三六、五生)は千葉縣人西村繁に嫁せり(東京市外巢鴨町一一二三　電大塚二六九)
參照―西村繁の項

周起搏　新瑞典、雜貨商
兵庫縣在籍

首藤諒　從七位勳四等、元日本銀行理事
東京府在籍

首藤彌八郎　大分縣多額納稅者、竹田水電(株)社長、大分縣在籍
母　サワ　慶應元、一一生、大分、士、太田深造長女
妻　ミヨ　明二六、二生、大分、大津晉一長女
男　宗利　明四四、五生
君は大分縣人先代彌八郎の長男にして明治十九年十月を以て生れ昭和二年家督を相續す現時竹田水電會社々長にして大分縣多額納稅者たり家族は尚二男保貞(大三、五生)二女節子(同八、二生)三女雅子(同一〇、七生)四女武子(同一二、二生)五女享子(昭二、六生)あり(大分、直入、竹田町)

首藤正壽　大分合同銀行(株)頭取
大分縣士族
妻　トク　明二三、八生、大分、羽田野四方太郎三女
君は大分縣士族首藤生男の五男にして明治十二年十一月を以て生る同三十六年東京高等商業學校を卒業し橫濱正金銀行に入り同行上海支店支配人を經て臺灣銀行理事たりしが昭和二年之を辭し大分合同銀行頭取に就任す家族は尚長女信子(大四、二生)二女和子(同六、三生)兄賀壽人(明六、一一生、現戸主)同妻サイ(同二六、一二生、大分、工藤由彦長女)及其一男二女あり父生男(弘化四、一〇生)は分家し姪エミ(同四一、二生)は其の養子となり姉セイ(同一一、一生)は大分縣人佐藤貞次郎長男寬藏に嫁せり(別府、濱川通一〇丁目二一二一　電五六六)

首藤親人　高田實業銀行(株)頭取
大分縣士族
養母　スマ　文久二、八生、大分、西郷國太二女
妻　於廉　明二〇、一二生、養父百門二女
男　靜　明四一、七生
君は大分縣人毛利節齋の二男にして明治十二年一月を以て生れ同四十年先代於廉の入夫となり家督を相續す現時高田實業銀行頭取たり家族は尚二男晉(明四三、二生)二女嘉子(大三、二生)三女節(同五、一〇生)四男獨(同一〇、一生)あり(大分、大分、高田村)

周起搏　新瑞典、雜貨商
兵庫縣在籍

生源寺順　正五位勳四等、工學博士、九州帝國大學教授、工學部勤務、東京府在籍
養母　伊佐雄　文久三、一生、滋賀、生源寺希穗再從妹、現戸主
妻　爽子　明三一、八生、貴族院議員嘉納治五郎三女
男　延　大四、七生
君は東京府人梅辻操の二男にして明治三十年元宮內女官生源寺伊佐雄の養子となる同四十四年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し大正二年九州帝國大學工科大學助教授に任ぜられ同年來國に留學を命ぜらる同七年歸朝九州帝國大學教授に任ぜられ今日に至る同八年工學博士の學位を受く家族は尚二男治雄(大八、六生)長女康子(同九、九生)三女禮子(昭二、八生)あり妻爽子は東京、梅辻操長女)は東京帝國大學助教授、一生、東京、梅辻操長女)は東京帝國大學法律學科を卒業し在學中文官高等試驗に合格す同年鐵道院參事補に任ぜられ同十二年英米に在外研究員として出張を命ぜらる歸朝後鐵道局參事名古屋運輸事務所長を經て現時前記の官職に在り家族は尚長女(大三、八生)三男三郎(同一〇、八生)四男幸吉(仙臺鐵道局內)あり(仙臺鐵道局內)

生野源太郎　從五位、鐵道局技師、仙臺鐵道局運輸課長、大分縣在籍
養嗣母　キヨ　弘化四、一生、大分、士、利根定衞長女
君は山口縣人岡田蒿五郎の三男にして明治二十一年十月を以て生れ大正十一年家督を相續す明治四十三年東京高等商業學校を卒業し三菱銀行に入り累進して本店營業部副長を經て現に日本橋支店長たり家族は尚長女澄子(大二、四生)二女妙子(同一四、八生)長男正(明三三、二生)あり姉タツ(同一八、二生)は東京府人坂田九郎に嫁し弟貞三(同二五、九生)は分家せり(東京、本郷、駒込曙町一五ノ一　電小石川五〇三九)

所司原與一　綿布商
京都府在籍
君は京都府人所司原與兵衞の孫にして明治四十四年九月を以て生れ大正七年家督を相續す綿布商を營む家族

春藤和　三菱銀行(株)日本橋支店長
大分縣士族
妻　しま　明二八、二生、東京、藤平正二養母
男　洋一　大七、七生
君は大分縣士族春藤修の長男にして明治二十一年二月を以て生れ大正十一年家督を相續す明治四十三年東京高等商業學校を卒業し三菱銀行に入り累進して本店營業部副長を經て現に日本橋支店長たり家族は尚長女澄子(大二、四生)二女妙子(同一四、八生)長男正(明三三、二生)あり姉タツ(同一八、二生)は東京府人坂田九郎に嫁し弟貞三(同二五、九生)は分家せり(東京、本郷、駒込曙町一五ノ一　電小石川五〇三九)

所司原與一　綿布商
京都府在籍
君は京都府人所司原與兵衞の孫にして明治四十四年九月を以て生れ大正七年家督を相續す綿布商を營む家族は尚長女信子(大二、四生)二女妙子(同一四、八生)長男正(明三三、二生)あり姉タツ(同一八、二生)は東京府人坂田九郎に嫁し弟貞三(同二五、九生)は分家せり(東京、本郷、駒込曙町一五ノ一　電小石川五〇三九)

春藤和　三菱銀行(株)日本橋支店長
大分縣士族
妻　しま　明二八、二生、東京、藤平正二養母
男　洋一　大七、七生
君は大分縣士族春藤修の長男にして明治二十一年二月を以て生れ大正十一年家督を相續す明治四十三年東京高等商業學校を卒業し三菱銀行に入り累進して本店營業部副長を經て現に日本橋支店長たり家族は尚長女澄子(大二、四生)二女妙子(同一四、八生)長男正(明三三、二生)あり姉タツ(同一八、二生)は東京府人坂田九郎に嫁し弟貞三(同二五、九生)は分家せり(東京、本郷、駒込曙町一五ノ一　電小石川五〇三九)

宿利英治　正四位勳三等、行政裁判所評定官
大分縣士族
妻　フミ　明一五、一二生、大分、若松利治孫
男　眞吉　明四〇、五生
君は大分縣士族宿利倘孝の長男にして明治三年十一月を以て生れ同二十七年家督を相續す同年明治法律學校政治科を卒業し同三十一年文官高等試驗に合格す特許局審査官農商務書記官大阪鑛務署長等に歷任し現時行政裁判所評定官たり夙に清國及び北米合衆國に出張す家族は尚弟時彥(明一八、六生)同妻隆(同三八、二生、岐阜、吉本和夫姉)及び其一男一女あり妹ルヰ(同二、一〇生)は石川縣士族志賀貞三郎に養子ミツエ(同三三、三生、大分、小野薫明長女)は大分縣人岡島壽に嫁せり(東京、牛込、市谷臺町九三ノ一九四號　電四谷二四六六)

春藤和　三菱銀行(株)日本橋支店長
大分縣士族
妻　しま　明二八、二生、東京、藤平正二養母
男　洋一　大七、七生
君は大分縣士族春藤修の長男にして明治二十一年二月を以て生れ大正十一年家督を相續す明治四十三年東京高等商業學校を卒業し三菱銀行に入り累進して本店營業部副長を經て現に日本橋支店長たり家族は尚長女澄子(大二、四生)二女妙子(同一四、八生)長男正(明三三、二生)あり姉タツ(同一八、二生)は東京府人坂田九郎に嫁し弟貞三(同二五、九生)は分家せり(東京、本郷、駒込曙町一五ノ一　電小石川五〇三九)

宿利英治　正四位勳三等、行政裁判所評定官
大分縣士族
妻　フミ　明一五、一二生、大分、若松利治孫
男　眞吉　明四〇、五生
君は大分縣士族宿利倘孝の長男にして明治三年十一月を以て生れ同二十七年家督を相續す同年明治法律學校政治科を卒業し同三十一年文官高等試驗に合格す特許局審査官農商務書記官大阪鑛務署長等に歷任し現時行政裁判所評定官たり夙に清國及び北米合衆國に出張す家族は尚弟時彥(明一八、六生)同妻隆(同三八、二生、岐阜、吉本和夫姉)及び其一男一女あり妹ルヰ(同二、一〇生)は石川縣士族志賀貞三郎に養子ミツエ(同三三、三生、大分、小野薫明長女)は大分縣人岡島壽に嫁せり(東京、牛込、市谷臺町九三ノ一九四號　電四谷二四六六)

生源寺順　正五位勳四等、工學博士、九州帝國大學教授、工學部勤務、東京府在籍
養母　伊佐雄　文久三、一生、滋賀、生源寺希穗再從妹、現戸主
妻　爽子　明三一、八生、貴族院議員嘉納治五郎三女
男　延　大四、七生
君は東京府人梅辻操の二男にして明治三年元宮內女官生源寺伊佐雄の養子となる同四十四年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し同年來國に留學を命ぜらる同七年歸朝九州帝國大學教授に任ぜられ今日に至る同八年工學博士の學位を受く家族は尚二男治雄(大八、六生)長女康子(同九、九生)三女禮子(昭二、八生)あり妻爽子は東京、梅辻操長女)は東京帝國大學法律學科を卒業し在學中文官高等試驗に合格す同年鐵道院參事補に任ぜられ同十二年英米に在外研究員として出張を命ぜらる歸朝後鐵道局參事名古屋運輸事務所長を經て現時前記の官職に在り家族は尚長女(大三、八生)三男三郎(同一〇、八生)四男幸吉(仙臺鐵道局內)あり(仙臺鐵道局內)

生野源太郎　從五位、鐵道局技師、仙臺鐵道局運輸課長、大分縣在籍
養嗣母　キヨ　弘化四、一生、大分、士、利根定衞長女
君は山口縣人岡田蒿五郎の三男にして明治二十一年十月を以て生れ大正十一年家督を相續す明治四十三年東京高等商業學校を卒業し三菱銀行に入り累進して本店營業部副長を經て現に日本橋支店長たり家族は尚長女澄子(大二、四生)二女妙子(同一四、八生)長男正(明三三、二生)あり姉タツ(同一八、二生)は東京府人坂田九郎に嫁し弟貞三(同二五、九生)は分家せり(東京、本郷、駒込曙町一五ノ一　電小石川五〇三九)

正司恕助　協立銀行(株)常務取締役
佐賀縣在籍

正路倫之助　從五位、京都帝國大學教授、醫學部勤務、大阪府在籍
妻　幸　明二六、一〇生、佐賀、伯川孝左衞門三女
男　誠一　大一三、一一生
君は佐賀縣人正司久和一の長男にして明治十四年八月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治四十年早稻田大學專門部政治經濟科を卒業し現時協立銀行常務取締役たり家族は尚長女ツル(大四、四生)二女クサ(同八、一生)二男竹郎(同一一、七生)三女美代(同一三、三生)四女恒子(昭二、四生弟潤輔/明二九、一一生)あり(佐賀、西松浦、有田町)
參照―※竹下次六の項

正田貞一郎　日清製粉(株)社長、鶴見臨港鐵道、日本共立火災保險、東武鐵道各(株)監查役、群馬縣在籍
妻　きぬ　明一三、二生、群馬、正田文右衞門長女
男　建次郎　明三五、二生、理學士
嬰　多美子　明四〇、四生、二男建次郎妻、理學博士平山信二女
女　裕子　明四三、八生、お茶水高等女學校在學
君は群馬縣人正田作次郎の長男にして明治三年二月を以て生れ同十一年分家して一家を創立す同二十四年東京高等商業學校を卒業し鄕里に歸り釀造業に從事し同三十四年館林製粉會社を興して自ら其經營の任に當り同四十年日清製粉會社設立と共に之を合併し同社專務取締役に擧げらる現時同社々長たる外商記各會社

の重役を兼ぬ家族は尚五男篤五郎(大二、一〇生)五女和子(同六、七生)あり三男英三郎(明三六、九生、三菱商事會社員、商學士)四男順四郎(同三九、四生、慶應義塾在學)は各分家し女勲子(明四一、八生、お茶の水高等女學校出身)は東京帝國大學理學部數理學士水島三一郎に嫁せり(東京、小石川、小日向臺町一ノ二二)**電小石川九七二**)

參照═正田文右衞門、平山信宗今井善兵衞宗木村浚七宗坂本友七の項

正田房次郎　兵庫縣多額納稅者、神戸取引所取引員、兵庫縣在籍

妻　まさ　明一〇、一一生、兵庫、柴田政藏長女

男　正次　明二八、一〇生

婿　旭尾　明三六、六生、二男正次妻、長野、曾我鉱次郎五女

男　俊吉　明三四、二生

女　千代子　明三九、七生

女　房子　大元、八生

君は兵庫縣人正田清兵衞の長男にして文久元年四月を以て生れ明治十九年家督を相續す神戸取引所取引員にして米穀並に株式を取扱ひ現に縣下の多額納稅者たり家族は尚孫美智子(大一二、八生、二男正次長女)同一男(昭三、一生、同長男)あり長男清一(明二六、五生)は分家し妹いま(同七、五生)は大阪府人久下亦藏に嫁せり(神戸、中山手通五ノ三一四**電元町二三一八**)

正田文右衞門　正田醤油(株)取締役社長、龜甲正醸造元、群馬縣在籍

男　敏一郎　明二三、一二生、正田醤油(株)專務取締役、大東織布(株)監査役、東京高等商業學校出身

婦　俊　明三〇、五生、長男敏一郎妻、埼玉、高柳二郎長女

正田家は舊幕時代米文と稱し米穀商を營みしが祖父文七に至り之を廢め明治六年以降醤油醸造業に從事し遂に今日の基礎を爲し龜甲正醸造元として知らる君は先代文右衞門の長男にして安政五年十一月を以て生れ後家督を相續す現時正田醤油會社取締役社長たり舊に館林町長に推さるる長女きぬ(明一三、二生)は大阪府人久下亦藏に嫁せり(神戸、中山手通五ノ三一四**電元町二三一八**)

庄司晋太郎　樂議院議員(山口縣選出)、日本煤煙完全燃燒(株)社長、宇部鐵道、防長林業、日本石灰、日本石灰工業、大日本組綱各(株)取締役、宇部銀行、宇部セメント、東京石灰各(株)監査役、鎭業、酒造業、山口縣士族

安政元、七生、山口、士、伊藤圭太長女

母　ヒサ　明一三、一生、山口、士、依田勘衞六女

妻　チトセ　明一六、二生

男　忠人　明三四、七生

男　武彦　明三四、一生

女　フミ　明四一、三生

女　光子　明四四、一生

君は山口縣士族庄俊輔の長男にして明治三年三月を以て生れ同三十四年明治大學を卒業し鐵業並に酒造業を營み傍ら前記諸會社の重役として知らる曩に山口縣會議長等に擧げられ昭和三年二月山口縣より推されて衆議院議員に當選し立憲政友會に屬す家族は尚四女典子(大四、一〇生)五女和子(同八、八生)四男八郎(同一〇、七生)あり長女ハツ(明三八、三生)は山口縣人西村右策の養子となり弟九一(同五、七生)は同妻ミツ(同一八、八生、大阪、杉村元次妹)及其子女を伴ひ分家せり(宇部、小串五)

庄司乙吉　東洋紡績(株)副社長　兵庫縣在籍

妻　ヤイ　明一六、三生、東京、北島亘養妹、福井、山崎龍齋二女

男　次郎　明四二、一二生

女　イク　明四三、金龍會高等女學校出身

女　ノブ　明四四、二生

女　フミ　大二、一一生

君は秋田縣人庄司友五郎の二男にして明治六年五月を以て生れ大正六年兄繼治方より分れて一家を創立す宗家庄司家は土地の舊家にして素封家なり君は明治三十年東京高等商業學校を卒業し大日本紡績聯合會書記長となり斯業視察の爲め歐米に出張す次で大阪紡績會社支配人となり三重紡績會社と合併して東洋紡績會社の成るや常務取締役に擧げられ現に副社長たり家族は尚五女タツ(大五、五生)六女テイ(同七、八生)三男三郎(同九、一二生)あり長女ミチ(明三六、三生、兵庫縣立高等女學校出身)は滋賀縣人河崎虎太郎に嫁せり(兵庫、武庫、住吉村反高林一八七六ノ六七**電御影五三二**)

參照═北島亘の項

庄司一雄　富士産業(株)社長、農業　靜岡縣在籍

妻　みち　明二四、二生、靜岡、和田五之作二女

男　俊一　大二、九生

君は故東驥銀行頭取庄司松太郎の長男にして明治二十三年一月を以て生れ昭和二年家督を相續す農業を營み傍ら富士産業會社を主宰す家族は尚二男早苗(大四、五生)長女邦子(同七、二生)三女壽美子(生年月同上)の外弟武

郎に四女すま(同二八、二生)は同縣人木村淺七に五女より(同三〇、三生)は同縣人今井善兵衞弟恭次郎に六女ひろ(同三四、四生)は東京府人法學士堀江善次郎に八生)は同府人坂本友七に嫁し二男卓二(明三二、一生、工學士)七女から(同三六、一生、跡見女學校出身)は各分家せり(群馬、邑樂、館林町)木村淺七、坂本友七、正田貞一郎、木村淺七、坂本友七の項

正田萬吉　廣島縣多額納稅者、金融業　廣島縣在籍

妻　セン　明一〇、三生、廣島、平田文三郎二女

男　熟郎　明二三、一生

婿　ツタノ　明二三、七生、二男熟郎妻、東京、渡邊素一妹

女　アヤコ　明二九、一生

女　壽美江　明三四、二生

君は廣島縣人正田久三郎の孫にして明治二年六月を以て生れ後ち家督を相續す金融業を營み同縣多額納稅者たり家族は尚五女幸枝(大六、二生)五男久則(同一〇、二男正次妻、長野、曾我鉱次郎五女)孫文雄(明四二、八生、二男熟郎妻)孫(同一五、七生)孫文雄(明四二、八生、三男繁樹(同三一、一一生)は分家し女壽美江(同三四、二生)は廣島縣人橋本孝一に嫁し女勲子(大一二、八生、二男正次長女)同一男(昭三、一生、同長男)あり長男清一(明二六、五生)は大阪府人久下亦藏に嫁せり(神戸、中山手通五ノ三一四**電元町二三一八**)

正田文右衞門　正田醤油(株)取締役社長、龜甲正醸造元、群馬縣在籍

男　敏一郎　明二三、一二生、正田醤油(株)專務取締役、大東織布(株)監査役、東京高等商業學校出身

婦　俊　明三〇、五生、長男敏一郎妻、埼玉、高柳二郎長女

正田家は舊幕時代米文と稱し米穀商を營みしが祖父文七に至り之を廢め明治六年以降醤油醸造業に從事し遂に今日の基礎を爲し龜甲正醸造元として知らる君は先代文右衞門の長男にして安政五年十一月を以て生れ後家督を相續す現時正田醤油會社取締役社長たり舊に館林町長に推さるる長女きぬ(明一三、二生)は大阪府人木村專一郎に四女すま(同二八、二生)は同縣人今井善兵衞弟恭次郎に六女ひろ(同三四、四生)は東京府人法學士堀江善次郎に八生)は同府人坂本友七に嫁し二男卓二(明三二、一生、工學士)七女から(同三六、一生、跡見女學校出身)は各分家せり(群馬、邑樂、館林町)木村淺七、坂本友七、正田貞一郎、木村淺七、坂本友七の項

正田房次郎　兵庫縣多額納稅者、神戸取引所取引員、兵庫縣在籍

妻　まさ　明一〇、一一生、兵庫、柴田政藏長女

男　正次　明二八、一〇生

婿　旭尾　明三六、六生、二男正次妻、長野、曾我鉱次郎五女

男　俊吉　明三四、二生

女　千代子　明三九、七生

女　房子　大元、八生

君は兵庫縣人正田清兵衞の長男にして文久元年四月を以て生れ明治十九年家督を相續す神戸取引所取引員にして米穀並に株式を取扱ひ現に縣下の多額納稅者たり家族は尚孫美智子(大一二、八生、二男正次長女)同一男(昭三、一生、同長男)あり長男清一(明二六、五生)は分家し妹いま(同七、五生)は大阪府人久下亦藏に嫁せり(神戸、中山手通五ノ三一四**電元町二三一八**)

夫(明三二、七生)同英信(同三七、九生)同重樹(同四一、八生)あり妹壽惠(同二八、九生)は靜岡縣人仁科梅太郎に嫁し叔父良朗(同一二、一二生)は分家せり(靜岡、駿東、原町)

參照═庄司良朗、仁科梅太郎の項

庄司庄左衞門　西宮土地、浪速アルミニューム工業各(株)取締役、兵庫縣在籍　慶應三、三生、兵庫、野村市太郎妹

妻　ひさ　明二四、一生

男　正三　明三〇、四生、長男正三妻、兵庫

婿　かずゑ　明三三、二生

男　義一　明三三、一生、山形、樽久右衞門孫

君は兵庫縣人先代庄左衞門の長男にして慶應三年十月を以て生れ明治二十年家督を相續し前名辰藏を改め襲名す現時前記各會社の重役たり家族は尚七男七郎(明四二、三生)孫一郎(大九、二生、長男正三長男)同澄子(同一四、一生、同二女)あり二男善之助(明二六、一二生)は兵庫縣人庄司善藏に六男千代造(同三五、一生)は同縣人大橋米造に弟善藏(同元、九生)は同縣人高本源右衞門に各養子となり三男辰三郎(同二八、一〇生)は大阪府人田中延子の入夫となり妹もと(同一〇、五生)は兵庫縣人小寺忠三郎に姉たね(慶應元、二生)は兵庫縣人村島眞之介に三女ひで江(明三六、一二生)は大阪府人榎原熊治郎長男耕一郎に嫁せり(兵庫、川邊、立花村)

庄司信吾　山形縣多額納稅者、北都製絲(株)社長、早稻田商業銀行、山形製紙各(株)監査役、農業、山形縣在籍

妻　たけよ　明三三、一生、山形、樽久右衞門孫

男　信吉　大一五、八生

君は山形縣人庄司三郎の五男にして明治二十五年八月を以て生れ同四十三年家督を相續す大正五年慶應義塾大學政治科を卒業し農業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者たり家族は尚長女俊子(大七、五生)二女增子(同九、三生)三女光子(同一二、八生)亡兄德太郎妻フサ(明元、一生、山形、庄司清次郎二女)及び其孫あり妹マツ(同二八、四生)は山形縣人長谷川吉四郎三男吉三の未亡人にして姪ミツ(同二九、九生、亡兄德太郎三女)は同夫和平(同二六、六生、山形、樽久右衞門孫)

庄司兵藏　秋田縣多額納稅者、農業　秋田縣士族

妻　イネ　明二二、一生、秋田、佐々木乙吉長女

男　邦太郎　大二、一二生

君は秋田縣士族先代兵藏の長男にして明治二十年九月を以て生れ同四十三年家督を相續し前名千代松を改め襲名す農業を營み縣下の多額納稅者たり家族は尚三男其一(大九、二生、長男正三長男)同澄子(同一四、一生、同二女)あり二男善之助(明二六、一二生)は兵庫縣人庄司善藏に六男千代造(同三五、一生)は同縣人大橋米造に弟善藏(同元、九生)は同縣人高本源右衞門に各養子となり三男辰三郎(同二八、一〇生)は大阪府人田中延子の入夫となり妹もと(同一〇、五生)は兵庫縣人小寺忠三郎に姉たね(慶應元、二生)は兵庫縣人村島眞之介に三女ひで江(明三六、一二生)は大阪府人榎原熊治郎長男耕一郎に嫁せり(兵庫、川邊、立花村)

庄司庄左衞門　西宮土地、浪速アルミニューム工業各(株)取締役、兵庫縣在籍　慶應三、三生、兵庫、野村市太郎妹

妻　ひさ　明二四、一生

男　正三　明三〇、四生、長男正三妻、兵庫

婿　かずゑ　明三三、二生

男　義一　明三三、一生、山形、樽久右衞門孫

君は兵庫縣人先代庄左衞門の長男にして慶應三年十月を以て生れ明治二十年家督を相續し前名辰藏を改め襲名す現時前記各會社の重役たり家族は尚七男七郎(明四二、三生)孫一郎(大九、二生、長男正三長男)同澄子(同一四、一生、同二女)あり二男善之助(明二六、一二生)は兵庫縣人庄司善藏に六男千代造(同三五、一生)は同縣人大橋米造に弟善藏(同元、九生)は同縣人高本源右衞門に各養子となり三男辰三郎(同二八、一〇生)は大阪府人田中延子の入夫となり妹もと(同一〇、五生)は兵庫縣人小寺忠三郎に姉たね(慶應元、二生)は兵庫縣人村島眞之介に三女ひで江(明三六、一二生)は大阪府人榎原熊治郎長男耕一郎に嫁せり(兵庫、川邊、立花村)

庄司信吾　山形縣多額納稅者、北都製絲(株)社長、早稻田商業銀行、山形製紙各(株)監査役、農業、山形縣在籍

妻　たけよ　明三三、一生、山形、樽久右衞門孫

男　信吉　大一五、八生

君は山形縣人庄司三郎の五男にして明治二十五年八月を以て生れ同四十三年家督を相續す大正五年慶應義塾大學政治科を卒業し農業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者たり家族は尚長女俊子(大七、五生)二女增子(同九、三生)三女光子(同一二、八生)亡兄德太郎妻フサ(明元、一生、山形、庄司清次郎二女)及び其孫あり妹マツ(同二八、四生)は山形縣人長谷川吉四郎三男吉三の未亡人にして姪ミツ(同二九、九生、亡兄德太郎三女)は同夫和平(同二六、六生、山形、樽久右衞門孫)

庄司庄左衞門　西宮土地、浪速アルミニューム工業各(株)取締役、兵庫縣在籍　慶應三、三生、兵庫、野村市太郎妹

妻　ひさ　明二四、一生

男　正三　明三〇、四生、長男正三妻、兵庫

婿　かずゑ　明三三、二生

男　義一　明三三、一生、山形、樽久右衞門孫

君は兵庫縣人先代庄左衞門の長男にして慶應三年十月を以て生れ明治二十年家督を相續し前名辰藏を改め襲名す現時前記各會社の重役たり家族は尚七男七郎(明四二、三生)孫一郎(大九、二生、長男正三長男)同澄子(同一四、一生、同二女)あり二男善之助(明二六、一二生)は兵庫縣人庄司善藏に六男千代造(同三五、一生)は同縣人大橋米造に弟善藏(同元、九生)は同縣人高本源右衞門に各養子となり三男辰三郎(同二八、一〇生)は大阪府人田中延子の入夫となり妹もと(同一〇、五生)は兵庫縣人小寺忠三郎に姉たね(慶應元、二生)は兵庫縣人村島眞之介に三女ひで江(明三六、一二生)は大阪府人榎原熊治郎長男耕一郎に嫁せり(兵庫、川邊、立花村)

庄司信吾　山形縣多額納稅者、北都製絲(株)社長、早稻田商業銀行、山形製紙各(株)監査役、農業、山形縣在籍

妻　たけよ　明三三、一生、山形、樽久右衞門孫

男　信吉　大一五、八生

君は山形縣人庄司三郎の五男にして明治二十五年八月を以て生れ同四十三年家督を相續す大正五年慶應義塾大學政治科を卒業し農業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者たり家族は尚長女俊子(大七、五生)二女增子(同九、三生)三女光子(同一二、八生)亡兄德太郎妻フサ(明元、一生、山形、庄司清次郎二女)及び其孫あり妹マツ(同二八、四生)は山形縣人長谷川吉四郎三男吉三の未亡人にして姪ミツ(同二九、九生、亡兄德太郎三女)は同夫和平(同二六、六生、山形、樽久右衞門孫)

形、青柳和吉二男)と共に其一子を伴ひ分家せり(山形、北村山、大石田町)

參照═長谷川吉四郎、樽久右衞門※檀國吉の項

庄司兵藏　秋田縣多額納稅者、農業　秋田縣士族

妻　イネ　明二二、一生、秋田、佐々木乙吉長女

男　邦太郎　大二、一二生

君は秋田縣士族先代兵藏の長男にして明治二十年九月を以て生れ同四十三年家督を相續し前名千代松を改め襲名す農業を營み縣下の多額納稅者たり家族は尚三男其一(大九、二生、長男正三長男)同澄子(同一四、一生、同二女)あり二男善之助(明二六、一二生)は兵庫縣人庄司善藏に六男千代造(同三五、一生)は同縣人大橋米造に弟善藏(同元、九生)は同縣人高本源右衞門に各養子となり三男辰三郎(同二八、一〇生)は大阪府人田中延子の入夫となり妹もと(同一〇、五生)は兵庫縣人小寺忠三郎に姉たね(慶應元、二生)は兵庫縣人村島眞之介に三女ひで江(明三六、一二生)は大阪府人榎原熊治郎長男耕一郎に嫁せり(兵庫、川邊、立花村)

庄司良朗　樂議院議員(靜岡縣選出)、東海石炭(株)社長、靜岡縣在籍　慶應三、三生、靜岡、水口直平妹

男　義夫　明三七、一一生

男　春雄　明四一、四生

君は靜岡縣人庄司松太郎の弟にして同一雄の叔父なり明治十二年十二月を以て生れ同三十年分れて一家を創立す同三十四年早稻田大學行政科を卒業し同地の有力者にして靜岡縣會議員沼津驗東兩郡聯合畜産組合長等に推さるる現に東海石炭會社々長にして大正十五年衆議院議員に當選し昭和三年再選せられ其任に在り家族は尚三男喜久男(明四四、一一生)三女ちゑ子(大一一、三生)五男良三(昭二、二生)あり(靜岡、驗東、原町)

參照═庄司一雄※仁科梅太郎の項

庄司廉　鳥取縣多額納稅者、米子銀行、山陰日日新聞社、博愛病院各(株)取締役、農業、鳥取縣士族　慶應三、一二生、島根、宇山清左衞門長女

母　よし　明二四、七生、島根、木村吉郎妹

妻　清　明四五、三生

男　保親　大二、一生

君は鳥取縣士族庄司昇造の二男にして明治二十年四月を以て生れ同二十八年家督を相續す農業を營み鳥取縣多額納稅者にして現時前記各銀行會社の重役たり家族は尚長女禮子(大四、一一生)二女和子(同八、三生)三男健(同一〇、一生)四男國典(同一三、一生)弟繁二郎(明二三、一〇生)同妻鎧子(同三一、二生)島根、中村佐吉郎長女)及其子女あり叔父久次郎(慶應三、一〇生)は其二子を伴ひ分家せり(鳥取、西伯、渡村)

參照═※田部長秋※田部長右衞門の項

庄治　との　寶山閣、割烹業　兵庫縣在籍

養子　こゆき　明二七、四生、兵庫、水谷忠治母

君は兵庫縣人庄治藤兵衞の妹にして慶應元年十月を以て生れ大正元年分家して一家を創立す寶山閣と稱し割烹業を營む家族は尚孫貞次郎(大五、五生、養子こゆき私生子)同秦子(同七、一生、同私生子)同正雄(同八、一一生、同私生子)同節枝(同一三、一〇生、同私生子)あり同憲一郎(同三、一一生、離緣養子留吉長男)は兵庫縣人川上うのの家籍に入れり(兵庫、武庫、良元村)

庄田作輔　正五位勲四等、農林技師
東京府士族
母　廣　嘉永元、三生、石川、士、小川市郎左衛門三女
妻　美代　明一八、一二生、山形、士、栗本庸勝長女
男　作樂　明四一、一一生

君は石川縣士族庄田從隆の長男にして明治十四年十二月を以て生れ後家督を相續す同三十九年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し山林技手に任じ同四十二年久留里小林區署長となり茂原太田の兩小林區署長を經て山林技師林務技師に歷任し鹿兒島大林區署林業課長となり大正九年サガレン軍政部農林課長に轉じ次で山林課長となり大正十一年東京大林區署に轉じ爾來東京大林區署公有林野官行造林課長營林局技師農商務技師等を經て現時農林技師として施業案に關する事務を擔當す傍にシベリヤ及北滿洲關東州（再度出張を命ぜらる家族は尚二男猛（明四四、一生）二女恒子（大三、八生）三女百合子（同七、四生）あり（東京市外巢鴨町宮下一八三一）

庄田藤治　正四位勲二等、陸備陸軍中將
東京府在籍
妻　六　明一四、四生、竹内耕石三女
男　不二夫　明三四、一生
女　登世子　明四〇、一一生

君は福井縣士族庄田藤十郎の三男にして明治二年十一月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す同二十七年陸軍工兵少尉に任じ大正七年陸軍少將に陞進し同十二年陸軍中將に任ぜらるる其間陸地測量部製圖科長兼陸軍大學校敎官陸軍士官學校砲工學校各敎官工兵第十二大隊長陸軍兵器本廠々員青島守備軍通信部長基隆要塞司令官陸軍運輸本部長等に歷補す家族は尚二男秀（大二、一生）三男成（同一〇、一〇生）あり（東京、四谷、永住町二）

庄田俊雄　從五位勲五等、遞信局技師、大阪遞信局勤務、靜岡縣士族
妻　な　を　明一六、四生、山形、士、高梨敬助妹

君は靜岡縣士族庄田亨吉の長男にして明治十二年九月を以て生れ同十八年家督を相續す同三十九年大阪高等工業學校舶用機關科を卒業し同年海事局技手を命ぜられ爾來遞信管理局技手遞信技師遞信管理局技師遞信技師等に歷任し大正十二年遞信局技師專任となり現に大阪遞信局に勤務す姉しん（明六、一生）は京都府士族大澤新之助に嫁せり（兵庫、武庫、西灘村岩屋）

庄野嘉久藏（鶴林鑛業（株）監査役、貿易商、大阪府在籍）
明二三、八生、養子滿平大寺良一弟
養子　滿平　明二一、八生、養子滿平妻、大阪、萬玉善七長女
養子　ツル　萬玉善七の二男にして安政五年二月を以て生れ先代マサの養子となり明治十九年家督を相續す同二十九年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し林技手遞信技師遞信管理局技師遞信技師等を經て現時農林技師として施業案に關する事務を擔當す傍にシベリヤ及北滿洲關東州（再度出張を命ぜらる家族は尚二男猛（明四四、一生）二女恒子（大三、八生）三女百合子（同七、四生）あり（東京市外巢鴨町宮下一八三一）

庄田藤治　正四位勲二等、陸備陸軍中將
東京府在籍
妻　六　明一四、四生、竹内耕石三女
男　不二夫　明三四、一生
女　登世子　明四〇、一一生

君は福井縣士族庄田藤十郎の三男にして明治二年十一月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す同二十七年陸軍工兵少尉に任じ大正七年陸軍少將に陞進し同十二年陸軍中將に任ぜらるる其間陸地測量部製圖科長兼陸軍大學校敎官陸軍士官學校砲工學校各敎官工兵第十二大隊長陸軍兵器本廠々員青島守備軍通信部長基隆要塞司令官陸軍運輸本部長等に歷補す家族は尚二男秀（大二、一生）三男成（同一〇、一〇生）あり（東京、四谷、永住町二）

庄田俊雄　從五位勲五等、遞信局技師、大阪遞信局勤務、靜岡縣士族
妻　な　を　明一六、四生、山形、士、高梨敬助妹

君は靜岡縣士族庄田亨吉の長男にして明治十二年九月を以て生れ同十八年家督を相續す同三十九年大阪高等工業學校舶用機關科を卒業し同年海事局技手を命ぜられ爾來遞信管理局技手遞信技師遞信管理局技師遞信技師等に歷任し大正十二年遞信局技師專任となり現に大阪遞信局に勤務す姉しん（明六、一生）は京都府士族大澤新之助に嫁せり（兵庫、武庫、西灘村岩屋）

庄野嘉久藏（鶴林鑛業（株）監査役、貿易商、大阪府在籍）
明二三、八生、養子滿平大寺良一弟
養子　滿平　明二一、八生、養子滿平妻、大阪、萬玉善七長女
養子　ツル　萬玉善七の二男にして安政五年二月を以て生れ先代マサの養子となり明治十九年家督を相續す同二十九年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し林技手遞信技師遞信管理局技師遞信技師等を經て現時農林技師として施業案に關する事務を擔當す傍にシベリヤ及北滿洲關東州（再度出張を命ぜらる家族は尚二男猛（明四四、一生）二女恒子（大三、八生）三女百合子（同七、四生）あり（東京市外巢鴨町宮下一八三一）

庄野金十郎　福岡日日新聞（資）社長
福岡縣士族
妻　ハツ　元治元、六生、福岡、士、庄野市造長女
男　隆雄　明一九、八生
婦　マサヲ　明二八、七生、長男隆雄妻、福岡、下川義夫妹
男　英樹　明二六、四生
婦　アイ　明三二、一一生、法學士、村眞實四女
男　養道　明二九、五生
婦　靜枝　明三九、一一生、生母、東京、井上かね
男　直清　明三四、一生、生母同上

君は福岡縣士族渡邊平內の長男にして明治十年庄野顯宜の養子となり後ち家督を相續す同三十三年法政大學を卒業し操觚界に入り現時福岡日日新聞社長たり兼に福岡縣會議員に當選せり家族は尚孫ミキ（大六、二）同一雄（同八、六生、同長男）同隆吉（同一四、一〇生、同二男）同慶一（同一三、八生、三男英樹長男）あり長女シメ（明一三、六生、沖繩、士、伊是名朝睦長女）

尚　順　從三位勲三等、男爵、沖繩土地建物（株）社長、尚公爵家分家
妻　眞子　明一七、六生、沖繩、士、伊是名朝睦長女
男　謙　明四〇、二生、從五位
庶子　英子　明四五、三生、生母、沖繩、金城ナビ

君は舊琉球王侯爵尚泰の四男にして當主裕の大叔父男爵尚琳の叔父なり明治六年四月を以て生れ同十八年分家して一家を創立し同二十九年特旨を以て華族に列し男爵を授けらるる貴族院議員に當選する事二回曩に沖繩貯藏金品會社々長に擧げられ現時沖繩土地建物會社々長たり家族は尚二男誠（明四二、四生）三男信（同四五、三生）長女芳子（大四、一二生）二女茂子（同六、九生）三女米子（同九、五生）四女澄子（同一一、一二生）四男詮（同一五、一二生）庶子惠子（同四、四生、生母、沖繩、金城ナビ）同計（同七、四生、生母同上）同謹（同九、九生、生母同上）同常子（同一三、一一生、生母同上）あり同ツル子（明三五、三生、生母、東京、井上かね）は沖繩縣人大城朝申に同榮子（同三九、一二生、生母、沖繩、金城ナビ）は東京府人嵩原安德に嫁せり（首里、大中一）

參照＝侯爵尚裕、男爵尚琳※男爵今歸仁朝英※漢那憲和の項

尚　裕　侯爵
舊琉球王
祖母　絆子　慶應元、七生、沖繩、士、金武朝穩長女
母　百子　明二九、一生、伯爵小笠原長幹妹

當家は鎭西八郎源爲朝の裔なり其子尊敦國難を定め王位に即き舜天王と號す後代尚寧に至り德川秀忠に歸順し島津氏に羈屬す世々琉球王として正二位泰に至る明治五年琉球藩王に封ぜられ華族に列し同十八年侯爵を授けらるる後貴族院議員となり麝香間祗候被仰付長男

典其後を繼ぎ典の長男昌亦其後を享け英國牛津大學を卒業し式部官に任ぜらるる君は先代昌の長男にして男爵尚順の再甥男爵尚琳の再從弟に方り大正七年九月を以て生れ同十二年家督を相續し襲爵仰付けらるる家族は尚一男（大六、五生）あり叔父具（同二三、一一生、法學士）は同妻美津子（同三二、六生、東京、深野华藏長女）と共に分家し目下當家の家政に從事し同鶴（同二二、二生、日本勸業銀行員、慶應義塾大學經濟學部出身）も亦分家し伯母延子（同二〇、一生）は男爵今歸仁朝英に大叔母まさ子（同二五、二生）は衆議院議員漢那憲和に嫁せり（東京市外澁谷町南平臺五三電青山七二七）

參照＝伯爵小笠原長幹、男爵尚順、男爵尚琳、男爵今歸仁朝英、漢那憲和、衆伯爵安田善助、衆山城高興の項

尚　琳　從四位、男爵
尚侯爵家分家
妻　トシ　明二七、一二生、沖繩、士、伊江朝猷長女

男　義清　大一一、三生

當家は先代寅の立つる所なり寅は舊琉球王侯爵尚泰の二男にして別に一家をなし明治二十九年特旨を以て華族に列し男爵を授けらるる君は其長男にして侯爵尚裕の再從兄男爵尚順の甥なり明治二十四年十二月を以て生れ同三十八年家督を相續し襲爵仰付らる弟球（明二五、一一生）は同妻ウシ（同二五、五生、沖繩、士、金武良仁二女）を伴ひ分家せり（首里、當蔵町一三三六）

參照＝侯爵尚裕、男爵尚順※男爵今歸仁朝英※漢那憲和の項

昌子亮一　湖西銀行（株）取締役
島根縣在籍
妻　テイ　明一五、一二生、島根、石橋孫一郎妹

男　多助　大八、三生
女　民　明四〇、七生
女　吉　大二、七生

君は島根縣人昌子助一郎の長男にして明治十二年十一月を以て生れ同三十六年家督を相續す同三十一年早稻田大學邦語政治科を卒業し現時湖西銀行取締役たり兼に島根縣會議員に推さるる家族は尚六女育（大五、七生）三男圭三（同九、六生）あり長女恒（明三六、一〇生）は島根縣士族山口俊治長男俊武に二女國（同三八、九生）は同縣人村田由松に同まつ（同二一、一一生）は同縣人村田由松に同あさ（同二〇、二生）は兵庫縣人米田照子の入夫となり二女ち（神戸、東灘池町三ノ九電本局一七七九）

參照＝今井茂次、西川五一郎の項

莊　寬　莊病院長、醫師
埼玉縣在籍
妻　初音　明一五、六生、東京、士、山脇房子二女
養子　信守　明二〇、三生、長女愛夫、滋賀、笹原忍一男
女　愛　明三四、七生、養子信守妻、御茶の水高等女學校出身
女　敬　明四五、二生

君は東京府人莊司幸治郎の長男にして明治七年一月を以て生れ同三十三年家督を相續す同三十二年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し農商務技手日本纖維製造所技師長農商務技師工業試驗所技師特許局技師兼同審查官兼工場監督官兼臨時產業調查局技師等に歷任し大正七年工業試驗所技師に任じ大阪工業試驗所長となり現在に至る曩に歐米佛領印度支那遞繰英領印度等へ出張し大正八年工學博士の學位を授與さる家族は尚孫誠子（大一二、三生、養子信守長女）同實子（同一四、九生、同二女）同眞子（昭二、一生、同三女）あり二女和（明三七、二生）は滋賀縣人笹原俊雄に三女優（同四〇、八生）は東京府人藤林誠に嫁せり（大阪、東淀川、中津本町四五二電土佐堀二〇八三）

參照＝山脇房子の項

莊司藤治郎　千葉縣多額納稅者、酒造
千葉縣在籍
男　正吉　明一二、一生
婦　せい　峰島儀一妹
孫　藤一郎　明三四、八生、長男正吉長男
孫　はつ　明三四、一〇生、長男正吉長女
孫　三郎　明四〇、一〇生、長男正吉三男

君は千葉縣人岩瀨藤右衞門の四男にして嘉永五年七月を以て生れ先代藤吉の養子となり明治二十二年家督を相續す酒造業を營み縣下の多額納稅者たり家族は尚孫執一（明四二、一一生、長男正吉四男）同勇（同四四、一二生、同五男）同から（大三、四生、同二女）同正平（同四四、九生、同六男）同慶二（同八、一生、同七男）同春雄（同一一、三生、同八男）あり長女ゆき（明一四、七生）は千葉縣人橋場丹造に二女あさ（同一六、一一生）は同縣人岡田牛之助に嫁し養子留吉（同六、二生、千葉、吉清米藏長女）は分家し孫正夫（同三五、一一生、長男正吉二男）は千葉縣人莊司のぶの養子となれり（千葉、裏陽、大原町）

莊司市太郎　正四位勲二等、工學博士、工業試驗所技師、大阪工業試驗所長
東京府在籍

莊田久右衞門　藥種商　大阪府在籍
妻　タネ　明一一、一〇生、大阪、山下彦兵衞長女

君は大阪府人莊田久右衞門の二男にして安政三年二月を以て生れ明治六年家督を相續す藥種商を營む(大阪、西、阿波座上通三ノ三四電新町四〇六三)

莊田達彌　三菱造船(株)研究所長
母　田鶴　東京府士族
妻　百合子　安政五、一生、大阪、藤岡正敏長女
男　勝彥　明二六、六生、男爵伊地知精姉
大四、二生

莊田家はもと豐後國臼杵藩主稻葉家の儒臣なり先代平五郎夙に慶應義塾を出で故豐川良平に見出され岩崎家に推薦さる爾來同家の柱石となり二代彌之助三代久彌に仕へ多年管事として福澤を掌る君は其の長男にして明治十四年一月を以て生れ大正十一年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學工科大學船用機關學科を卒業し現時三菱造船會社研究所長たり家族は尙ほ長女八重(大八、一生)三男信彥(同一二、五生)あり妹久子(明一八、三生)は陸軍中將宮原國雄に同藩壽子(同二一、四生)は法學士三菱商事會社員八卷連三に同豐(同二三、一二生)は東京府士族吉原重成に嫁し弟平象(同一六、四生、三菱電機會社員)同雅雄(同一九、六生、慶應義塾出身)同泰藏(同二五、一〇生、三菱內燃機會社員)は各分家し同孝平(同二八、八生、早稻田大學理工科出身)は東京府人各務鎌吉の養子となれり(東京、小石川、林町五〇電小石川四六二)

參照＝男爵伊地知精、各務鎌吉、莊田雅雄、宮原國雄、八卷連三※子爵小川武次の項

莊田雅雄　日本郵船(株)孟買支店長
妻　壽　東京府在籍
男　恒雄　明三二、一一生、東京、士、潮田參吉妹
大一〇、九生

君は東京府士族莊田平五郎の三男にして同達彌の弟なり明治十九年六月を以て生れ大正十年分家して一家を創立す夙に慶應義塾大學を卒業し明治四十一年日本郵船會社に入り現時同會社孟買支店長たり家族は尙ほ長女つる子(大一二、七生)あり(孟買、日本郵船會社孟買支店)

莊保英三郎　仲銅地金商　大阪府在籍
妻　光　明一三、四生、大阪、田中太右衞門伯母
男　美三　明四一、一生

君は大阪府人長谷川泰治郎の弟にして明治四年先代より數代の入夫となり家督を相續す伸銅地金商を營む家族は尙ほ長女ヒテコ(同二〇、七生)は同縣人永山直方に四女和(同三七、一〇生)は東京府人岩佐愛年に嫁し弟主計(同二、九生)は分家せり(松山、御室町二五)

參照＝金山季逸、勝田主計の項

勝田二郎　從五位、男爵　東京府華族
母　クリ　明九、六生、男爵野村素一姉

當家は先代四方藏より家名を揚ぐ四方藏は舊長州萩藩士にして夙に陸軍に入り明治五年陸軍中尉に任じ陸軍中將に累進す其間西南の役には大尉を以て出征し日清の役には第二軍工兵部長より東京灣要塞司令官に轉じ勳三等功四級に敍せられ日露の役には留守第十二師團長衞步兵第十二旅團長として功あり勳一等功三級に陞爵し同十年華族に列し男爵を授けらる後貴族院議員となる君は其孫にして明治三十五年九月を以て生れ大正七年家督を相續し襲爵仰付けらる昭和二年東京帝國大學法學部政治科を卒業し更に同大學經濟學部に通學中なり家族は尙ほ妹知惠(明四〇、四生、女子學習院出身)あり同美知(同三七、八生、出身校同上)は長野縣人小山悅之助座子直彥に嫁せり(東京、麻布、霞町二二電青山一七七三)

參照＝男爵野村素一の項

勝田主計　正三位勳一等、文部大臣、貴族院議員、東京府在籍
明一四、七生、縣井、從四位勳三等渡邊愼二郎長女、學習院女學部出身

妻　イヨ　明四〇、二生、慶應大學理財科在學
男　浩　明三八、一生、學習院女學部出身
男　隆子　明四一、一生、三輪田高等女學校出身
女　玄子
女　德子　大二、一〇生、三輪田高女在學

君は舊松山藩士勝田久廉の五男にして同久敬の弟なり明治二年九月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す同二十八年帝國大學法科大學政治科を卒業し大藏屬となり文官高等試驗に合格す同三十年稅關檢查官に任じ爾來稅務監督官函館稅關長彙函館稅務管理局長稅關事務官大藏書記官臨時國債整理局書記官同局長大藏省理財局長等に歷任し同四十五年第三次桂內閣の組織さるゝや大藏次官に擧げられ次で大正二年第一次山本內閣の大藏次官たり同三年貴族院議員に勅選せらる尋いで朝鮮銀行總裁となり同五年寺內內閣の成立するや再び大藏次官に任ぜられ同年十二月大藏大臣に親任せらる同十三年清浦內閣成るや再び大藏大臣として入閣昭和三年文部大臣に親任せられ現に其任に在り貴族院議員たり家族は尙ほ男龍夫(明四五、二生)五男祐行(大四、八生)六男高司(同五、一〇生)七男和男(同七、八生)あり長女道子(明三二、八生)は石川縣人法學士廣瀨豐作に二女秋子(同三四、七生、第三高等女學校出身)は東京府人法學士中野善敎に嫁せり(東京市外澁谷町南平臺四二電青山二〇四五)

參照＝勝田久敬※金山季逸の項

菅蒲正夫　佐賀縣多額納稅者、米穀仲買業　佐賀縣在籍

勝田茂三郎　資產家　大分縣士族
妻　ナヲ　明七、九生、養父平三長女
男　重雄　明三三、九生、安田信託會社員
男　信夫　明四一、一二生、府立第三高等學校出身
女　靜　明四三、九生
女　恒子　明四四、二生

君は舊臼杵藩士伊吹永堅の二男にして明治元年八月を以て生れ先代平三の養子となり同三十七年家督を相續す同三十年東京帝國大學文科大學國史學科を卒業し日本銀行に入り本店書記より大阪支店調查役小樽支店長鰂魚支店長本店檢查役兼檢查部主事計算局長等に歷任す後之を辭し現時外遊中なり資產家たり家族は尙ほ男邦男(大元、一〇生)六女須美(同六、七生)あり長女シエ(明二七、五生、實錄女學校出身)は靜岡縣人法學士戶塚龍平に二女フミ(同三七、一〇生)は愛媛縣人法學士喜安儀治に嫁せり(東京、赤坂、青山高樹町一六電青山三五六)

莊保勝藏　大阪府多額納稅者、地洋物商、大阪府在籍
養母　なつ　嘉永四、五生、莊保良平長女
妻　あさ　明一三、八生、亡莊保勝藏三女

參照＝潮田勝吉、莊田達彌※宮原國雄※八卷連三※各務鎌吉※關根要八の項

莊田茂三郎　資產家　大分縣士族
妻　ナヲ　明七、九生、養父平三長女
男　重雄　明三三、九生、安田信託會社員
男　信夫　明四一、一二生、府立第三高等學校出身
女　靜　明四三、九生
女　恒子　明四四、二生

莊田家はもと豐後國臼杵藩主稻葉家の儒臣なり先代平五郎夙に慶應義塾を出で故豐川良平に見出され岩崎家に推薦さる爾來同家の柱石となり二代彌之助三代久彌に仕へ多年管事として福澤を掌る君は其の長男にして明治十四年一月を以て生れ大正十一年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學工科大學船用機關學科を卒業し現時三菱造船會社研究所長たり家族は尙ほ長女八重(大八、一生)三男信彥(同一二、五生)あり妹久子(明一八、三生)は陸軍中將宮原國雄に同藩壽子(同二一、四生)は法學士三菱商事會社員八卷連三に同豐(同二三、一二生)は東京府士族吉原重成に嫁し弟平象(同一六、四生、三菱電機會社員)同雅雄(同一九、六生、慶應義塾出身)同泰藏(同二五、一〇生、三菱內燃機會社員)は各分家し同孝平(同二八、八生、早稻田大學理工科出身)は東京府人各務鎌吉の養子となれり(東京、小石川、林町五〇電小石川四六二)

參照＝男爵伊地知精、各務鎌吉、莊田雅雄、宮原國雄、八卷連三※子爵小川武次の項

莊田雅雄　日本郵船(株)孟買支店長
妻　壽　東京府在籍
男　恒雄　明三二、一一生、東京、士、潮田參吉妹
大一〇、九生

君は東京府士族莊田平五郎の三男にして同達彌の弟なり明治十九年六月を以て生れ大正十年分家して一家を創立す夙に慶應義塾大學を卒業し明治四十一年日本郵船會社に入り現時同會社孟買支店長たり家族は尙ほ長女つる子(大一二、七生)あり(孟買、日本郵船會社孟買支店)

莊保英三郎　仲銅地金商　大阪府在籍
妻　光　明一三、四生、大阪、田中太右衞門伯母
男　美三　明四一、一生

君は大阪府人長谷川泰治郎の弟にして明治四年先代より數代の入夫となり家督を相續す伸銅地金商を營む家族は尙ほ長女文子(明三六、一生)三女延子(同三八、一〇生)康次郎に嫁せり(大阪、南、安堂寺橋通二ノ四七電船場二六三〇)

參照＝安藤康次郎、田中太右衞門※鷹岡覺之助※久保田與市の項

莊保勝藏　大阪府多額納稅者、地洋物商、大阪府在籍
養母　なつ　嘉永四、五生、莊保良平長女
妻　あさ　明一三、八生、亡莊保勝藏三女
男　鑫太朗　明三五、九生、早稻田大學專門部商科出身
女　しづ　明四四、九生

君は德島縣人大久保昌太郎の二男にして明治七年八月を以て生れ同三十四年先代なつの養子となり同三十七年家督を相續し前名永藏を改む同三十四年早稻田大學英語政治科を卒業し同四十一年商業視察の爲め英米佛獨及び露國に遊べり當家は寬政年間以來の舊家にして帶地洋反物商を營み今日に至る家族は尙ほ三男忠三郎(明四二、一一生)四男善三郎(同六、一生)五男榮藏(同七、一〇生)六男敬藏(同一〇、一一生)あり長女悅子(明三七、一生)は大阪府人清水榮次郎長男潔に同二女あつ子(同四一、一生)は京都府人山田長左衞門二男五郎助に嫁せり(大阪、南、末吉橋通四ノ一三電船場八八〇、九〇一)

參照＝清水榮次郎、山田五郎助の項

勝田久敬　五十二銀行(株)取締役　愛媛縣士族
妻　りう　明八、九生、京都、山室實姉
男　實　明三二、一〇生
女　芳　明四二、一生

君は愛媛縣士族勝田久廉の長男にして安政四年九月を以て生れ明治十二年家督を相續す現に五十二銀行取締役たり家族は尙ほ弟久貫(明一一、一一生)同妻久(同二一、八生、愛媛、士、丸山庸妹)及其二子あり長女ヒテコ(同二〇、七生)は同縣人永山直方に四女和(同三七、一〇生)は東京府人岩佐愛年に嫁し弟主計(同二、九生)は分家せり(松山、御室町二五)

參照＝金山季逸、勝田主計の項

勝田二郎　從五位、男爵　東京府華族
母　クリ　明九、六生、男爵野村素一姉

當家は先代四方藏より家名を揚ぐ四方藏は舊長州萩藩士にして夙に陸軍に入り明治五年陸軍中尉に任じ陸軍中將に累進す其間西南の役には大尉を以て出征し日清の役には第二軍工兵部長より東京灣要塞司令官に轉じ勳三等功四級に敍せられ日露の役には留守第十二師團長衞步兵第十二旅團長として功あり勳一等功三級に陞爵し同十年華族に列し男爵を授けらる後貴族院議員となる君は其孫にして明治三十五年九月を以て生れ大正七年家督を相續し襲爵仰付けらる昭和二年東京帝國大學法學部政治科を卒業し更に同大學經濟學部に通學中なり家族は尙ほ妹知惠(明四〇、四生、女子學習院出身)あり同美知(同三七、八生、出身校同上)は長野縣人小山悅之助座子直彥に嫁せり(東京、麻布、霞町二二電青山一七七三)

參照＝男爵野村素一の項

勝田主計　正三位勳一等、文部大臣、貴族院議員、東京府在籍
明一四、七生、縣井、從四位勳三等渡邊愼二郎長女、學習院女學部出身

妻　イヨ　明四〇、二生、慶應大學理財科在學
男　浩　明三八、一生、學習院女學部出身
女　隆子　明四一、一生、三輪田高等女學校出身
女　玄子
女　德子　大二、一〇生、三輪田高女在學

君は舊松山藩士勝田久廉の五男にして同久敬の弟なり明治二年九月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す同二十八年帝國大學法科大學政治科を卒業し大藏屬となり文官高等試驗に合格す同三十年稅關檢查官に任じ爾來稅務監督官函館稅關長彙函館稅務管理局長稅關事務官大藏書記官臨時國債整理局書記官同局長大藏省理財局長等に歷任し同四十五年第三次桂內閣の組織さるゝや大藏次官に擧げられ次で大正二年第一次山本內閣の大藏次官たり同三年貴族院議員に勅選せらる尋いで朝鮮銀行總裁となり同五年寺內內閣の成立するや再び大藏次官に任ぜられ同年十二月大藏大臣に親任せらる同十三年清浦內閣成るや再び大藏大臣として入閣昭和三年文部大臣に親任せられ現に其任に在り貴族院議員たり家族は尙ほ男龍夫(明四五、二生)五男祐行(大四、八生)六男高司(同五、一〇生)七男和男(同七、八生)あり長女道子(明三二、八生)は石川縣人法學士廣瀨豐作に二女秋子(同三四、七生、第三高等女學校出身)は東京府人法學士中野善敎に嫁せり(東京市外澁谷町南平臺四二電青山二〇四五)

參照＝勝田久敬※金山季逸の項

菅蒲正夫　佐賀縣多額納稅者、米穀仲買業　佐賀縣在籍

勝田茂三郎　資產家　大分縣士族
妻　ナヲ　明七、九生、養父平三長女
男　重雄　明三三、九生、安田信託會社員
男　信夫　明四一、一二生、府立第三高等學校出身
女　靜　明四三、九生
女　恒子　明四四、二生

莊田家はもと豐後國臼杵藩主稻葉家の儒臣なり先代平五郎夙に慶應義塾を出で故豐川良平に見出され岩崎家に推薦さる爾來同家の柱石となり二代彌之助三代久彌に仕へ多年管事として福澤を掌る君は其の長男にして明治十四年一月を以て生れ大正十一年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學工科大學船用機關學科を卒業し現時三菱造船會社研究所長たり家族は尙ほ長女八重(大八、一生)三男信彥(同一二、五生)あり妹久子(明一八、三生)は陸軍中將宮原國雄に同藩壽子(同二一、四生)は法學士三菱商事會社員八卷連三に同豐(同二三、一二生)は東京府士族吉原重成に嫁し弟平象(同一六、四生、三菱電機會社員)同雅雄(同一九、六生、慶應義塾出身)同泰藏(同二五、一〇生、三菱內燃機會社員)は各分家し同孝平(同二八、八生、早稻田大學理工科出身)は東京府人各務鎌吉の養子となれり(東京、小石川、林町五〇電小石川四六二)

參照＝男爵伊地知精、各務鎌吉、莊田雅雄、宮原國雄、八卷連三※子爵小川武次の項

莊田雅雄　日本郵船(株)孟買支店長
妻　壽　東京府在籍
男　恒雄　明三二、一一生、東京、士、潮田參吉妹
大一〇、九生

君は東京府士族莊田平五郎の三男にして同達彌の弟なり明治十九年六月を以て生れ大正十年分家して一家を創立す夙に慶應義塾大學を卒業し明治四十一年日本郵船會社に入り現時同會社孟買支店長たり家族は尙ほ長女つる子(大一二、七生)あり(孟買、日本郵船會社孟買支店)

莊保英三郎　仲銅地金商　大阪府在籍
妻　光　明一三、四生、大阪、田中太右衞門伯母
男　美三　明四一、一生

君は大阪府人長谷川泰治郎の弟にして明治四年先代より數代の入夫となり家督を相續す伸銅地金商を營む家族は尙ほ長女文子(明三六、一生)三女延子(同三八、一〇生)康次郎に嫁せり(大阪、南、安堂寺橋通二ノ四七電船場二六三〇)

參照＝安藤康次郎、田中太右衞門※鷹岡覺之助※久保田與市の項

莊保勝藏　大阪府多額納稅者、地洋物商、大阪府在籍
養母　なつ　嘉永四、五生、莊保良平長女
妻　あさ　明一三、八生、亡莊保勝藏三女
男　鑫太朗　明三五、九生、早稻田大學專門部商科出身
女　しづ　明四四、九生

君は德島縣人大久保昌太郎の二男にして明治七年八月を以て生れ同三十四年先代なつの養子となり同三十七年家督を相續し前名永藏を改む同三十四年早稻田大學英語政治科を卒業し同四十一年商業視察の爲め英米佛獨及び露國に遊べり當家は寬政年間以來の舊家にして帶地洋反物商を營み今日に至る家族は尙ほ三男忠三郎(明四二、一一生)四男善三郎(同六、一生)五男榮藏(同七、一〇生)六男敬藏(同一〇、一一生)あり長女悅子(明三七、一生)は大阪府人清水榮次郎長男潔に同二女あつ子(同四一、一生)は京都府人山田長左衞門二男五郎助に嫁せり(大阪、南、末吉橋通四ノ一三電船場八八〇、九〇一)

參照＝清水榮次郎、山田五郎助の項

勝田久敬　五十二銀行(株)取締役　愛媛縣士族
妻　りう　明八、九生、京都、山室實姉
男　實　明三二、一〇生
女　芳　明四二、一生

君は愛媛縣士族勝田久廉の長男にして安政四年九月を以て生れ明治十二年家督を相續す現に五十二銀行取締役たり家族は尙ほ弟久貫(明一一、一一生)同妻久(同二一、八生、愛媛、士、丸山庸妹)及其二子あり長女ヒテコ(同二〇、七生)は同縣人永山直方に四女和(同三七、一〇生)は東京府人岩佐愛年に嫁し弟主計(同二、九生)は分家せり(松山、御室町二五)

參照＝金山季逸、勝田主計の項

勝田二郎　從五位、男爵　東京府華族
母　クリ　明九、六生、男爵野村素一姉

當家は先代四方藏より家名を揚ぐ四方藏は舊長州萩藩士にして夙に陸軍に入り明治五年陸軍中尉に任じ陸軍中將に累進す其間西南の役には大尉を以て出征し日清の役には第二軍工兵部長より東京灣要塞司令官に轉じ勳三等功四級に敍せられ日露の役には留守第十二師團長衞步兵第十二旅團長として功あり勳一等功三級に陞爵し同十年華族に列し男爵を授けらる後貴族院議員となる君は其孫にして明治三十五年九月を以て生れ大正七年家督を相續し襲爵仰付けらる昭和二年東京帝國大學法學部政治科を卒業し更に同大學經濟學部に通學中なり家族は尙ほ妹知惠(明四〇、四生、女子學習院出身)あり同美知(同三七、八生、出身校同上)は長野縣人小山悅之助座子直彥に嫁せり(東京、麻布、霞町二二電青山一七七三)

參照＝男爵野村素一の項

勝田主計　正三位勳一等、文部大臣、貴族院議員、東京府在籍
明一四、七生、縣井、從四位勳三等渡邊愼二郎長女、學習院女學部出身

妻　イヨ　明四〇、二生、慶應大學理財科在學
男　浩　明三八、一生、學習院女學部出身
女　隆子　明四一、一生、三輪田高等女學校出身
女　玄子
女　德子　大二、一〇生、三輪田高女在學

君は舊松山藩士勝田久廉の五男にして同久敬の弟なり明治二年九月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す同二十八年帝國大學法科大學政治科を卒業し大藏屬となり文官高等試驗に合格す同三十年稅關檢查官に任じ爾來稅務監督官函館稅關長彙函館稅務管理局長稅關事務官大藏書記官臨時國債整理局書記官同局長大藏省理財局長等に歷任し同四十五年第三次桂內閣の組織さるゝや大藏次官に擧げられ次で大正二年第一次山本內閣の大藏次官たり同三年貴族院議員に勅選せらる尋いで朝鮮銀行總裁となり同五年寺內內閣の成立するや再び大藏次官に任ぜられ同年十二月大藏大臣に親任せらる同十三年清浦內閣成るや再び大藏大臣として入閣昭和三年文部大臣に親任せられ現に其任に在り貴族院議員たり家族は尙ほ男龍夫(明四五、二生)五男祐行(大四、八生)六男高司(同五、一〇生)七男和男(同七、八生)あり長女道子(明三二、八生)は石川縣人法學士廣瀨豐作に二女秋子(同三四、七生、第三高等女學校出身)は東京府人法學士中野善敎に嫁せり(東京市外澁谷町南平臺四二電青山二〇四五)

參照＝勝田久敬※金山季逸の項

菅蒲正夫　佐賀縣多額納稅者、米穀仲買業　佐賀縣在籍

母　スヨ　嘉永元、一一生、佐賀、士、田中傳右衞門長女

上甲信弘　神奈川縣多額納稅者、橫濱商工會議所議員、橫濱丸中町、上甲貿易、橫濱絹布商事各(株)取締役社長、橫濱燃絲織物、朝日スレート各(株)監查役、矢野上甲(名)代表社員、橫濱貿易協會常務理事、橫濱取引所取引員、神奈川縣士族
明八、一生、群馬、矢野半次郎二女
妻　つた　明三六、三生
男　久次郎　明三八、一一生
男　幾三郎　明四〇、一二生
男　芳正

君は神奈川縣士族上甲謙七の長男にして明治四年一月を以て生れ翌五年家督を相續す同二十四年第一高等學校を卒業し直に南洋に渡航し雜貨商を營み同三十年歸國し蠶絲商を營み矢野上甲合資會社を創設す後更に上甲貿易會社を起して之が經營に當り現に其社長たる外前記會社の重役にして神奈川縣多額納稅者として知られ又橫濱商工會議所議員橫濱取引所取引員たり家族は尙ほ長女俊江(大五、八生)姉ケイ(慶應三、二生)あり二女昌子(大一四、一生)三女智子(同一五、一生)は共に神奈川縣人渡邊美佐代の養子となれり(橫濱、中、山手町一七一電本局一六二二)

上念慎一　酒造業　兵庫縣在籍
妻　よしゑ　明一二、九生、兵庫、寺西林藏二女
男　新右衞門　大四、一一生

君は兵庫縣人田中傳右衞門長女を以て生れ上念愿恭の養子となり大正七年分れて一家を創立す同年家督を相續す米穀仲買業を營み同縣多額納稅者たり家族は尙ほ長女ヒテ(同二二、一生)あり長女ヒテは佐賀縣人熊谷安太郎長男初三に二女エイ(同三九、一〇生)は同縣人小野勇作弟武八に嫁せり(佐賀市水ケ江町)

上念慎一　酒造業　兵庫縣在籍
妻　よしゑ　明一二、九生、兵庫、寺西林藏二女
男　新右衞門　大四、一一生

君は兵庫縣人田中傳右衞門長女を以て生れ上念愿恭の養子となり大正七年分れて一家を創立す同年家督を相續す米穀仲買業を營み同縣多額納稅者たり家族は尙ほ長女ヒテ(同二二、一生)あり長女ヒテは佐賀縣人熊谷安太郎長男初三に二女エイ(同三九、一〇生)は同縣人小野勇作弟武八に嫁せり(佐賀市水ケ江町)

上念新兵衞　酒造業　兵庫縣在籍
妻　トキ　明一六、一生、大阪、山田久太郎長女
男　新一　明四四、一二生

君は兵庫縣人先代新兵衞の孫にして明治十五年三月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名新太郎を改め襲名す夙に酒樽製造を業とせしが現時酒造業を營む家族は尙ほ男正美(同七、六生)あり二女春枝(明三九、二生)同夫芳三(同三一、八生)は其一子を伴ひ分家し養弟慎一(同一九、一一生)も亦分家し庶子セツ(大四、一生、生母、岐阜、佐藤さだ)は兵庫縣人田中種吉の養子となれり(兵庫、武庫、御影町濱中三四三電御影二〇八)

參照＝上念愿恭一の項

定塚門次郎　衆議院議員(埼玉縣選出)、東京商工會議所書記長代理、富山縣在籍
母　たか　嘉永三、七生、富山、國谷莊左衞門二女
妻　ヨネ　明二六、二生、富山、北島長兵衞妹
男　英彥　大一五、二生

君は富山縣人定塚右衞門の弟にして明治十九年九月を以て生れ大正七年家督を相續す夙に東京高等商業學校に學び日比谷銀行常務取締役を經て現時東京商工會議所書記長代理にして國產振興東京博覽會事務副長を兼ね昭和三年二月埼玉縣第一區より推されて衆議院議員に當選す立憲民政黨所屬たり家族は尙ほ長女とみ子(大三、五生)に亡兄三右衞門妻かすゑ(明九、三生、富山、柴藤義則長女)あり(東京、牛込、矢來町五〇電牛込二七五七)

參照＝北島長兵衞の項

城周彥　大阪北港(株)取締役、安治川土地、安治川興業各(株)監查役　山口縣在籍

妻　ツネ　明一〇、一〇生、山口、西村秀造妹
男　知靖　明三一、七生
婦　八重子
君は山口縣人城正彦山田敬亮の兄にして明治七年七月を以て生れ大正三年分家して一家を創立す現時大阪北港會社取締役たる外前記各會社の重役を兼ね合名會社藤田組兒島灣開墾事務所長兒島農場長たり家族は倘孫晴彦（大一四、一一生、長男知靖長男）あり（大阪、西成、松原通二ノ三六電天下茶屋三四）
參照＝山田敬亮の項

城　清一　丸城商會、交房具商
大阪府在籍
母　マチ　明一一、一一生、大阪、鱧屋安太郎妹
妻　とし　明三七、一一生、兵庫、赤木久右衞門姉
男　美紀夫　大一五、一生
君は大阪府人城勘次郎の長男にして明治三十四年八月を以て生れ大正十一年家督を相續す丸城商會と稱し文房具商を營む家族は倘弟健次郎（明四四、五生）あり妹愛子（同四〇、一生）は和歌山縣人川崎貞治に嫁せり（大阪、東、北久太郎町二ノ二二電船場二一七二）

城　正俊　從五位、製鐵所技師兼遞信技師
父　運作　安政元、一二生、現戸主
母　かた　慶應二、二生、熊本、士、三牧孫七二女
妻　キミ　明二五、四生、熊本、吉富松次郎二女
男　義夫　大七、六生
君は福岡縣士族城運作の長男にして明治二十一年十月を以て生る大正二年東京帝國大學工科大學冶金科を卒業し製鐵所研究員となり同技手に進み同五年同技師に任じ銑鐵部鎔鑛課長に擧げらる昭和二年遞信技師兼任となり現に管船局に勤務す叢に製鐵所留學生として英國に赴けり家族は倘長女セイ子（大一〇、七生）二男謙（同一三、一二生）弟茂（明二五、一生）同妻テル（同三二、七生、長崎、馬田一馬二女）及其子女同實（同三九、一生）あり（遞信省管船局内）

城内伊三郎　靜岡縣多額納稅者、呉服商
靜岡縣在籍
妻　やす　明一四、七生、養父伊三郎長女
男　伊太郎　明三二、九生
明三四、四生、長女ため夫、靜岡、竹川五作五男
養子　猛　明三五、一一生、養子猛妻
女　ため　明三五、二生
女　艶子　明四一、七生
女　靜子　明四三、一一生
女　光子
君は靜岡縣人神戸重次郎の五男にして明治十三年五月を以て生れ後ち先代伊三郎の養子となり同三十四年家督相續と共に前名島三郎を改め襲名す呉服商を營み同縣多額納稅者たり家族は倘二男謙三（大二、一二生）三女信枝（同一五、六生）孫初枝（同一三、一二生、養子猛長女）同淑雄（同一〇、八生、同二女）あり養妹きゑ（明治二、三生、同二女）同昭枝（同二、二〇生、八生）は靜岡縣人秋山文助長男實に同ゑい（同二、八、三生）は同縣人中村敏雄に嫁せり（沼津、上土町）

城口權三　飯田町ホッパービン、帝都石材各（株）取締役、城口研究所主
東京府在籍
妻　幸　明二、六生、東京、蓮田輝男姉
男　一　大八、九生
君は長野縣人城口松十の弟にして明治二十年四月を以て生れ昭和二年分れて一家を創立す現時城口研究所を經營し傍ら前記會社の重役たり家族は倘二男仁（大一〇、七生）三男權（大一四、三生）あり（東京、神田、錦町二ノ三電神田二五二二）

城崎新太郎　水田銀行（株）頭取
福岡縣在籍
妻　エイ　慶應二、二生、福岡、士、木下一助姉
男　虎之助　明一一、九生、現戸主
婦　マサ　明一七、四生、長男虎之助妻、福岡、岡田謙太郎姉
男　新助　明三九、八生
孫　ヨシノ　明三八、三生、長男虎之助二女
孫　ハルヨ　明四一、三生、長男虎之助三女
君は長野縣人城崎藤次郎の長男にして安政五年六月を以て生れ後養家督を相續し大正十四年退隱す現に水田銀行頭取たり家族は倘孫千吉郎（明四〇、一〇生、長男虎之助長男）同大三郎（大三、七生、同三男）同チヨ（同七、八生、同四女）同フミ（同一〇、八生、同五女）あり六男勝四郎（明二八、一生）は同妻ソエ（同三二、二生、福岡、城崎政四郎五女）及其子女を伴ひ分家せり（福岡、八女、水田村）
參照＝岡田謙太郎の項

城崎義太郎　福岡縣多額納稅者、石蔵屋、呉服商、福岡縣在籍
父　榮次郎　萬延元、一〇生
母　ツネノ　明元、四生、福岡、濱上太作二女
妻　キク　明二、一生、福岡、寺崎久次郎妹
男　榮之助　明四四、五生
君は福岡縣人城崎榮次郎の長男にして明治十六年五月を以て生れ大正十年家督を相續す石蔵屋と稱し呉服商を營み現に福岡縣多額納稅者たり家族は倘ほ二男清助（大二、一二生）長女芳子（同一〇、六生）三男義郎（同一五、八生）あり弟才次郎（明二九、一二生）は分家せり（福岡市地行西町電三一九一）
參照＝※德永正男の項

城島　正人　福岡縣多額納稅者、金融業
福岡縣在籍
妻　ミツエ　明二九、一生、福岡、服太平次妹
男　日出太郎　大八、三生
君は福岡縣人城島久米太郎の二男にして明治二十二年十月を以て生れ同四十一年分れて一家を創立す金融業を營み現に福岡縣多額納稅者たり家族は倘長女月江（大五、八生）二男一三（同一五、九生）は福岡縣人井上一二の養子となれり（久留米、瀬下町一八九）
參照＝服太平次の項

城田惣太郎　關東計量器製作所（資）代表社員
群馬縣在籍
父　啓十郎　安政三、一生、現戸主
母　リン　安政三、一生、群馬、小板橋市五郎長女
男　恒茂　明三六、一〇生
君は群馬縣人城田啓十郎の長男にして明治九年七月を以て生れ後家督を相續し大正十四年退隱す現に水田銀行頭取たり家族は倘孫千吉郎（明四〇、一〇生、長男虎之助長男）同大三郎（大三、七生、同三男）同チヨ（同七、八生、同四女）同フミ（同一〇、八生、同五女）あり六男勝四郎（明二八、一生）は同妻ソエ（同三二、二生、福岡、城崎政四郎五女）及其子女を伴ひ分家せり（福岡、八女、水田村）
參照＝岡田謙太郎の項

城崎義太郎　福岡縣多額納稅者、石蔵屋、呉服商、福岡縣在籍
父　榮次郎　萬延元、一〇生
母　ツネノ　明元、四生、福岡、濱上太作二女
妻　キク　明二、一生、福岡、寺崎久次郎妹
男　榮之助　明四四、五生
君は福岡縣人城崎榮次郎の長男にして明治十六年五月を以て生れ大正十年家督を相續す石蔵屋と稱し呉服商を營み現に福岡縣多額納稅者たり家族は倘ほ二男清助（大二、一二生）長女芳子（同一〇、六生）三男義郎（同一五、八生）あり弟才次郎（明二九、一二生）は分家せり（福岡市地行西町電三一九一）
參照＝※德永正男の項

城島　正人　福岡縣多額納稅者、金融業
福岡縣在籍
妻　ミツエ　明二九、一生、福岡、服太平次妹
男　日出太郎　大八、三生
君は福岡縣人城島久米太郎の二男にして明治二十二年十月を以て生れ同四十一年分れて一家を創立す金融業を營み現に福岡縣多額納稅者たり家族は倘長女月江（大五、八生）二男一三（同一五、九生）は福岡縣人井上一二の養子となれり（久留米、瀬下町一八九）
參照＝服太平次の項

城田惣太郎　關東計量器製作所（資）代表社員
群馬縣在籍
父　啓十郎　安政三、一生、現戸主
母　リン　安政三、一生、群馬、小板橋市五郎長女
男　恒茂　明三六、一〇生
君は群馬縣人城田啓十郎の長男にして明治九年七月を以て生れ後家督を相續し大正十四年退隱す現に水田銀行頭取たり家族は倘孫千吉郎（明四〇、一〇生、長男虎之助長男）同大三郎（大三、七生、同三男）同チヨ（同七、八生、同四女）同フミ（同一〇、八生、同五女）あり六男勝四郎（明二八、一生）は同妻ソエ（同三二、二生、福岡、城崎政四郎五女）及其子女を伴ひ分家せり（福岡、八女、水田村）
參照＝岡田謙太郎の項

以て生る現時關東計量器製作所代表社員たり家族は倘妹ヨネ（明一九、九生）弟夷儀郎（同二九、四生）同妻ハツ（同二八、一〇生、群馬、小澤藤蘭庵子）及其子女同一江（同三三、五生）同妻サト（同三七、一一生）及其一男あり妹トミ（同一九、一二生）は群馬縣人八木小太郎二男德太郎に同シヤウ（同二四、一二生）は同縣人野原富貴三郎に嫁せり（東京市外千駄ヶ谷町七二一電四谷一四六九）

城臺仁三郎　長崎縣多額納稅者、酒造業
長崎縣在籍
妻　イシ　安政二、六生、養父勇平二女
男　三一　明一九、一生、現戸主、千々岩商事（株）取締役
婦　トヨ　明二四、一一生、三男三一妻、長崎、溜田文吾長女
孫　義一　明四〇、四生、三男三一長男
孫妻　幾　明三九、一生、孫義一妻、長崎、松尾治太郎
孫　シヅ　明四三、五生、三男三一長女
孫　マサ　大二、一生、三男三一次女
君は長崎縣人城臺吉太郎の弟にして嘉永二年四月を以て生れ先々代勇平の養子となり後家督を相續し大正十五年退隱す酒造業を營み長崎縣多額納稅者たり家族は倘孫典行（大四、一一生、三男三一二男）同勝行（同一二、九生、同三男）同誠（明六、八生、同庶子、生母、長崎、松尾ミカ）曾孫兵衞（同一四、一〇生、孫義一長男）あり（長崎、南高來、千々岩村）

城　谷　山口銀行（株）大嶺支店長
福井縣在籍
父　一誠　元治元、六生、現戸主
母　れき　明二、三生、福井、士、岡洋齋四女
妻　久代　明三五、一生、福井、竹内鶴治長女
君は福井縣人城谷孫平の長男にして明治二十二年十一月を以て生る大正二年中央大學を卒業し現時山口銀行大嶺支店長たり家族は倘二女澄子（大一一、一一生）三女和子（昭二、一生）弟余藏（明二九、五生）同妻クラ（同三一、七生、新潟、近藤鶴藏姪）及其一男一女の外同龍三（同三七、二生）あり（東京市外西巢鴨町池袋九一五）

城谷忠三郎　横濱埋立、帝國生命保險各（株）取締役、東京府在籍

妻　須喜　明九、七生、岡山、中村富郎二女
男　晴夫　明三九、一一生
男　加壽雄　明四一、一〇生
女　淑子　明四四、二生

城野伊三郎　吉見紡織（株）常務取締役
大阪府在籍
妻　ことゑ　明一三、二生、大阪、西尾正次郎妹
男　伊右衞門　明三二、一二生
明三六、一生、長男伊右衞門妻、大阪、森本仁平長女
婦　登子　明三五、七生、青山學院高等商業部出身
男　敬次郎　明三六、一二生、京都帝國大學大學院在學
男　和三郎　明三九、八生、學習院在學
君は大阪府人城野伊八郎の長男にして明治八年十二月を以て生れ同二十九年家督を相續す現時吉見紡織會社常務取締役たり家族は倘二女てる（大一一、一生）孫伊一郎（同一五、一〇生、長男伊右衞門長男）あり長女とゑ（明三四、五生）は兵庫縣人寺田定藏に嫁し妹はる（同一二、一四生）は大阪府人西尾正次郎に弟美登（同一六、九生）妹ちゑ（同二〇、五生）は共に同府人總谷つちに各養子となり姉壽美惠（同六、八生）は同縣人城崎藤次郎二男實に同ゑい（同二、三生、同二女）あり養妹きゑ（明治二、三生、同二女）同淑雄（同一三、一二生、養子猛長女）同淑雄（同一三、一二生、養子猛長女）孫初枝（同一五、六生）孫初枝（同一三、一二生）五女信枝（同一五、六生）孫初枝（同一三、一二生）三女信枝（同一五、六生）孫初枝（同一三、一二生）

城福松太郎　家主
大阪府在籍
妻　みつゑ　明一二、二生、大阪、士、吉田博良三女

白井一郎　ヤマト醤油(株)社長、磐城銀行(株)專務取締役、磐城實業銀行、田村實業銀行、磐城水産工業、明治造林、神奈川モーター各(株)取締役、福島縣在籍

父　博之　明治二、一二生、現戸主

君は福島縣人白井博之の長男にして明治二十二年十月を以て生る大正二年慶應義塾理財科を卒業し安田銀行に入り後叔父中澤彦吉と共に貿易事業に從事して歐米を視察すること數回現時前記銀行會社の重役たり（福島、石城、平町）

參照＝白井博之の項

白井勝治　豐橋商工會議所議員、三河製絲、三河燃料各(株)社長、豐緑織物(株)取締役、愛知縣在籍

妻　とき　明六、一一生、養父直次長女

男　晋介　明四〇、六生、京都帝國大學經濟學部在學

君は愛知縣人富安慶次の弟にして明治四年三月を以て生れ後白井直次の養子となり大正八年分れて一家を創立す現時前記諸會社の重役にして豐橋商工會議所議員たり家族は尚三男大平(大二、五生)あり（豐橋、札木町四三）

白井五郎　文化工業(株)代表取締役、東亞製綱、東洋麻絲紡績、札幌木材各(株)取締役、(株)監査役、三門商會(資)代表社員、神奈川縣在籍

妻　スミ　明一六、八生、山形、寺島大浩長女、女子英學塾出身

男　武彦　大五、七生

君は福島縣人白井遠平の五男にして同博之の弟近藤利兵衛の兄中澤彦雄の叔父なり明治十七年三月を以つて生れ大正三年分れて一家を創立す現時合資會社三門商會代表社員たる外前掲諸會社の重役を兼ぬ嚢に大正七年南阿弗利加南亞米利加濠洲の羊毛市場視察に赴き又支那各地方を巡遊す家族は尚三男喜久男(大七、一生)四男泰四郎(同八、一生)長女愛子(同九、一〇生)二女惠美子(同一三、一〇生)あり（神奈川、鎌倉、鎌倉町大町）

參照＝近藤利兵衛、白井博之、中澤彦雄※菅波角之助※鈴木章之※藤掛與左衛門の項

白井光太郎　從三位勳二等、理學博士、東京帝國大學名譽教授、東京府士族

明二〇、六生、東京、士、草尾鉦太郎長女

妻　サタ　明三一、一〇生、工學士、三菱造船會社員

男　秀雄

男　清　明三五、九生

男　三　明三九、二生

君は東京府士族白井久人の長男にして文久三年六月を以て生れ後家督を相續し同三十八年襲名して前名政太郎を改む現時泉陽紡織會社取締役たる外前記諸會社の重役たり家族は尚孫治子(大一四、三生、長男一雄長女)同禮子(昭二、三生、同二女)あり長女尾上(明二八、一〇生)は大阪府人原藤右衛門に二女須美子(同三〇、八生)は鹿兒島縣人右神武藤に妹ゑん(同七、三生)は奈良縣人山田新に嫁せり(大阪、泉南、北掃守村)

參照＝益田信三郎※新居嘉右衛門の項

白井二郎　從三位勳二等、功三級、豫備陸軍中將、東京府士族

妻　ヨシ　明八、九生、男爵山根成一叔母

男　長助　明三四、二生

女　シヅ　明三九、一一生

君は東京府士族白井胤長の二男にして慶應三年六月を以て生れ大正八年家督を相續す明治三十年陸軍歩兵少尉に任じ大正五年陸軍中將に累進し同十年豫備役仰付られ其間第二師團參謀參謀本部第四部員陸軍運輸通信學校教官第三軍參謀侍從武官東事參議官第一師團參謀長佛國大使館附武官第一師團司令官同第二十八各聯隊長歩兵第六旅團長同第十七旅團歩兵第四十旅團長旅順要塞司令官歷補す家族は尚四女鈴子(大四、六生)五女幸子(大四、一二生)は東京府人森川タマの養子となれり(東京市外世田ケ谷町若林九四)

參照＝男爵山根成一※男爵松村弘之※田中直通の項

白井治平　泉陽紡織、和泉紡績各(株)取締役、東洋帆布(株)監査役、大阪府在籍

妻　さく　明一〇、三生、大阪、林新八郎三女

男　一雄　明三四、五生

嬶　文子　明四二、一二生

君は大阪府人白井治平の長男にして明治三年十月を以て生れ後家督を相續し同三十八年襲名して前名政太郎を改む現時泉陽紡織會社取締役たる外前記諸會社の重役たり家族は尚孫治子(大一四、三生、長男一雄長女)同禮子(昭二、三生、同二女)あり長女尾上(明二八、一〇生)は大阪府人原藤右衛門に二女須美子(同三〇、八生)は鹿兒島縣人右神武藤に妹ゑん(同七、三生)は奈良縣人山田新に嫁せり(大阪、泉南、北掃守村)

參照＝益田信三郎※新居嘉右衛門の項

白井茂　從五位勳五等、判事、秋田地方裁判所長、愛知縣在籍

母　さよ　安政三、正生、愛知、鈴木惣十二女

妻　トク　明二三、二生、杉田繁太郎四女

男　英一　大四、三生

君は愛知縣人白井猪吉の長男にして明治十三年五月を以て生れ同二十四年家督を相續す同三十五年明治法律學校を同三十六年東京法學院を各卒業し文官高等試驗並に判檢事登用試驗に合格し同三十八年判事に任じ爾來函館地方長野地方上田區字都宮地方東京區同地方各裁判所判事東京控訴院判事靜岡地方裁判所部長名古屋控訴院判事名古屋地方裁判所部長名古屋控訴院部長等歷補し昭和三年現職に補せらる家族は尚ほ二男光雄(大一〇、三生)長女千貴(同一三、一一生)三男謙夫(昭二、一生)あり姉たに(明一〇、四生)庶子雅男(同三四、八生、生母、愛知、福田しん)は各分家せり(秋田地方裁判所長官舍)

白井新太郎　資產家　福島縣士族

妻　董子　明一三、七生、子爵内藤政潔叔母

男　震四郎　明四四、七生

養子　龍一郎　明二五、八生、岩手、士、東ケイ私生子、早稻田大學商科出身、保安商事(株)取締役

嬶　惠美　明三一、四生、養子龍一郎妻、子爵山内豐健姉

女　美代子　明四一、一生、豐葉高等女學校出身

君は福島縣士族白井五郎太夫の長男にして文久二年十月を以て生れ後家督を相續す資產家にして嚢に衆議院議員に當選し又保安商事富士水電岳南電機販賣千曲川電力鼓豆鐵道各會社の重役に就任せし事あり家族は尚孫醇太郎(大九、一生、養子龍一郎長男)同富美子(同一〇、一一生、同長女)あり養子花野(明二二、一〇生、福島、士、西郷鐵次孫)は東京府人城井尚義に嫁し庶子啓二郎(同二八、五生、生母、岩手、士、東ケイ、法學士、横濱正金銀行員)は分家せり(東京、麹町、中六番町四八)

參照＝子爵内藤政潔、子爵山内豐健、城井尚義※子爵毛利元恒※男爵渡邊汀※堀内宗平の項

白井清左衛門　正五位勳四等、判事、松江地方裁判所長、新潟縣在籍

安政三、四生、白井鷲藏長女

明二一、四生、新潟、三國豐吉長女

大六、一二生

大二、一生

君は新潟縣人白井新藏の長男にして明治十二年十一月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治三十四年明治法律學校を卒業し判檢事登用試驗並に辯護士試驗に合格同三十八年判事に任じ爾來平區福島地方盛岡地方八戸區橫手區湯澤區仙臺地方秋田地方各裁判所判事秋田地方裁判所部長宮城控訴院判事同部長に歷補し大正十五年現職松江地方裁判所長に補せらる家族は尚四女雅惠(大一〇、一〇生)五女壽惠(同一四、二生)弟忠吉(明二五、二生、判事)あり長女芳枝(同三九、一二生)は島根縣人醫學士水美登利に妹シズ(同一七、七生)は新潟縣人坪井久太郎に嫁し弟賢雄(同三〇、一生)は同縣人富樫篤太郎の養子となれり(松江地方裁判所長官舍)

白井清兵衛　輸具染料商　大阪府在籍

妻　くに　明二八、二生

男　郁太郎　明三六、一生、長男郁太郎妻、大阪、木村富之助姉

嬶　ユキエ

男　德二郎　明二九、一二生

女　文　明三二、一生

男　孝四郎　明三七、七生

女　貞子　明四一、一二生

君は大阪府人先代清兵衛の長男にして慶應二年七月を以て生れ明治三十八年家督を相續し前名吉松を改む翰林院侍講敏太郎(大一二、二生、長男)同富美子(明二一、一四生、同長女)あり(大阪、士、西區)

白井善藏　福岡縣多額納稅者、會津銀行(株)萬繭、福岡縣在籍

母　とき　明三二、八生、福岡、青柳基義姉

妻　ゆり　明三七、七生

男　俊　男　大五、八生

君は福岡縣人白井善之助の長男にして明治二十年一月を以て生れ同二十七年家督を相續す新三浦と稱し製絲業を營み同縣多額納稅者たり家族は尚長女信子(大八、一生)二男俊次(同一〇、八生)三女智子(同一二、一生)四女孝子(同一二、一生)五女(同一五、五生)あり弟凌三(明二四、六生)は各分家せり(福岡市舊柳町)

白井忠右衛門　福島縣多額納稅者、大沼興業(株)社長、福島縣在籍

君は大阪府人先代清兵衛の長男にして明治三十八年家督を相續し前名榮多を改む現に大沼興業會社々長にして福島縣多額納稅者たり家族は尚孫忠雄(大一五、四生、養子政八長男)及伯母イシ(安政三、五生、あり母マサ(文久三、一生、先々代忠右衛門二女)弟友七(明二八、二生)は各分家せり(福島、大沼、永井野村)

白井忠三郎　小大丸白井呉服店、呉服商　大阪府在籍

妻　はる　明二六、二生、養父忠三郎長女

男　清一郎　大七、二生

君は大阪府人平泉平右衛門の弟にして穩口六左衛門の實弟なり明治二十一年十二月を以て生れ先代忠三郎の養子となり大正八年家督を相續し前名六之輔を改め襲名す呉服商を營み維新以前の開業にかゝる老舗にして小大丸白井呉服店と稱す家族は尚二男眞二郎(大九、七生)三男修三(同一二、八生)あり養妹千代(明三〇、一〇生)は分家せり(大阪、南、疊屋町三四電南四九六五)

參照＝穩口六左衛門、平泉平右衛門の項

白井泰三　福島縣多額納稅者、會津銀行(株)監査役、福島縣在籍

慶應元、六生、養父榮次郎長女

養子　榮一　明一四、五生、福島、白井俊伍長男

嬶　美代　明二一、一生、養子榮一妻、福島、高瀨喜左衛門妹

孫　美和子　明四一、一生、養子榮一長女

孫　よね　明四三、一生、養子榮二女

孫　富美　明四五、四生、養子榮一三女

君は福島縣人小池傳八の弟にして安政五年四月を以て生れ先代深七の養子となり明治二十三年家督を相續す現時會津銀行監査役にして縣下の多額納稅者たり嚢に大沼電燈輿川水力電氣各會社監査役たりし事あり家族は尚孫泰助(大三、二生、養子榮二長男)同富雄(同七、

白井八郎兵衛　神奈川縣多額納稅者、雜穀商
神奈川縣在籍
妻　すみ　明一一、二一生、養父八郎兵衛長女
男　英樹　明四一、一〇生
女　コト　明三六、二生
君は千葉縣人笠川七郎兵衛の弟にして明治六年三月を以て生れ先代八郎兵衛の養子となり同三十一年家督を相續し前名米吉を改め襲名す雜穀商を營み縣下の多額納稅者たり養妹はる(明一四、六生)は同夫文次郎(同九、一〇生、千葉、海老原善太郎二男)と共に分家せり(横濱、中、花咲町一ノ一〇電長者町一四七八)

白井博之　福島縣農工銀行(株)頭取、極東製蠟(株)社長、磐城銀行、平銀行、福島貯蓄銀行、磐城建物、東武電力、平運送、平製氷、植田水力電氣各(株)取締役
福島縣在籍
男　一郎　明二二、一〇生
男　二郎　明二八、三生
男　三郎　明三二、六生
男　四郎　明三七、一一生
女　艶子　明四〇、六生
女　潤子　明四四、一生
君は實業家故白井遠平の長男にして同五郎近藤利兵衛の兄中澤彥雄の伯父に當る明治二年十二月を以て生れ後ち家督を相續し前名貞藏を改む夙に東京英語學校東京農林學校に學び歸福島縣會議員同參事會員に擧げられ同三十五年衆議院議員に當選し爾來三回其選に入る現時福島縣農工銀行頭取たる外前揚各銀行會社の重役を兼ね地方實業界に重を爲す家族は倚第十三郎(明三四、一〇生)あり同銀平(同四、九生)は福島縣人大森長右衛門の養子となり其の名を襲ぎ同七郎(同二一、六生)は實弟近藤利兵衛養妹保子の婿養子となり姉さだ(慶應二、二生)は同縣人草野登に妹ふみ(明一三、一〇生)は同縣人菅波角之助に同キヨ(同一四、九生)は同縣人中澤金兵衛に同きみ(同一七、九生)は東京府人鈴木章之に同ツネ(同二七、九生)は同府人杉田武雄に嫁し二女信子(同三五、五生)は福島縣人星野庸治に弟十一郎(同二九、二生)は東京府人藏掛與左衛門に各養子となり同五郎(同一七、九生)同十郎(同二五、一生)は各分家せり(福島、石城、平町)
參照＝近藤利兵衛、白井一郎、白井五郎、菅波角之助、鈴木章之、中澤彥雄、藏掛與左衛門の項

白井松次郎　京都府多額納稅者、松竹キネマ(株)常務取締役、千日土地建物、松竹合名社員、興業主、京都府在籍
妻　ヤエ　癈明一〇、四生、京都、大久保傳右衛門長女
男　和夫　昭二、三生
養子　信太郎　明三〇、九生、弟大谷竹次郎弟、千日土地建物(株)社長、松竹キネマ(株)取締役
養子　シヅ　明三三、一〇生、養子信太郎妻、滋賀、中川幸太郎妹
君は京都府人大谷竹次郎の兄にして明治十年十二月を以て生れ先代龜吉の養子となり同三十七年家督を相續し前名松次郎を改む夙に弟竹次郎と共に松竹合名社を設立す大阪及東京に於ける幾多の劇場を經營し現に前記各會社の重役として京都府多額納稅者たり家族は倚孫絆雄(大一三、四生、養子信太郎長男)嬶姉しか(明七、一生)あり(京都、下京、河原町通三條下ル三丁目奈良物屋町三〇一電中二三五二)
參照＝大谷竹次郎の項

白井松之助　自井度量衡器製作所(株)代表取締役、白井松器械舗(株)監査役、藥種商、大阪府在籍
君は大阪府人先代松之助の長男にして明治九年十二月を以て生れ同三十九年家督を相續し前名松次郎を改む先代松之助は播州明石より大阪に出で錦屋藥店に奉公し勤續二十年にして獨立し製苦勉勵今日の基を成す君は夙に會社組織に變更して其重役となり度量衡器製作所を起して之を主宰す亡妹キヨ(明四、七生)は其三子を伴ひ分家せり(大阪、天王寺、細工谷町一電南二二〇六)

白井松次郎　京都府多額納稅者、松竹キネマ(株)常務取締役、千日土地建物、松竹合名社員、興業主、京都府在籍
妻　ヤエ　癈明一〇、四生、京都、大久保傳右衛門長女
男　和夫　昭二、三生
養子　信太郎　明三〇、九生、弟大谷竹次郎弟、千日土地建物(株)社長、松竹キネマ(株)取締役
養子　シヅ　明三三、一〇生、養子信太郎妻、滋賀、中川幸太郎妹
君は京都府人大谷竹次郎の兄にして明治十年十二月を以て生れ先代龜吉の養子となり同三十七年家督を相續し前名松次郎と共に松竹合名社を設立す大阪及東京に於ける幾多の劇場を經營し現に前記各會社の重役として京都府多額納稅者たり家族は倚孫絆雄(大一三、四生、養子信太郎長男)嬶姉しか(明七、一生)あり(京都、下京、河原町通三條下ル三丁目奈良物屋町三〇一電中二三五二)
參照＝大谷竹次郎の項

白井和助　產業銀行(株)取締役
奈良縣在籍
妻　りう　明七、九生、京都、慶松勝左衛門姉
男　久之助　明三〇、一生
男　勳　明四四、六生
女　美代　明四〇、六生
女　綾　明四二、三生
君は京都府人白井伊左衛門の二男にして明治八年六月を以て生れ大正十一年分家して一家を創立す夙に陸軍經理學校高等科を卒業し明治三十七年陸軍三等主計に任じ大正十三年陸軍一等主計正に累進す其間第十師團經理部々員陸軍省經理局課員等に歷補し現時第二十師團經理部長たり家族は倚二男俊雄(大二、八生)三男國男(同七、一〇生)あり(朝鮮、京城、龍山濟口通一一)

白井利一　正八位勳六等、白井松器械舗(株)代表取締役、白井度量衡器製作所(株)專務取締役、日本物產(株)監査役、大阪府在籍
男　永郎　明四二、三生
君は愛知縣人加藤藤八の長男にして白井松之助は其養兄なり明治十四年七月を以て生れ白井クニの養子となり昭和二年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は倚孫二男三郎(明四五、四生)あり(大阪、東、道修町二ノ二三電本局三六〇)
參照＝白井松之助の項

白井良一　正五位勳五等、特許局技師、機械部第四課長、東京府士族
妻　シカ　明一七、一二生、京都、林菊次郎二女
男　肇一　明四三、三生
女　初代　大二、八生
君は東京府士族白井温良の長男にして明治十一年二月を以て生れ同二十九年家督を相續す同三十三年東京工業學校機械科を卒業し農商務省特許局審査官補統監府特許局審査官特許局審査官に歷任し同技師となり機械部第三課長を經て現時機械部第四課長たり家族は倚三男繁(明四四、三生)四男裕(生年月同上)五男俊雄(大四、一〇生)あり(東京市外中野町本郷根河原一〇五)

白井和助　產業銀行(株)取締役
奈良縣在籍
妻　りう　明七、九生、京都、慶松勝左衛門姉
男　久之助　明三〇、一生

婦　さわ　明三二、一〇生、長男久之助妻、大阪、富田武右衛門三女
男　榮次郎　明三三、七生
男　信造　明三九、九生
女　ノブ　明四三、七生
君は奈良縣人白井ウノの孫にして慶應元年五月を以て生れ明治十九年家督を相續す現時產業銀行取締役たり家族は倚四女キミ(大四、三生)あり弟德松(明三、二生)長女ツネ(同二四、九生)は各分家し二女キン(同二六、一一生)は大阪府人北川龜太郎に嫁せり(奈良市光明院町一五)
參照＝北川龜太郎、慶松勝左衛門の項

白石入作　橫濱正金銀行(株)借款課次長
福岡縣在籍
父　太三郎　弘化三、七生、現戶主
妻　タケヨ　明二七、二生、福岡、大庭芳男姉
君は福岡縣人白石太三郎の二男にして明治十四年十月を以て生る同三十八年東京高等商業學校を卒業し橫濱正金銀行に入り孟買倫敦各支店に勤務しハルビン支店副支配人を經て現に借款課次長たり家族は倚長女朝子(大一一、二生)二女步始子(同一三、三生)あり妹タツノ(明一七、一生)は福岡縣人大庭武一に嫁せり(東京市外池上町市ノ倉二五一)

白石勝彥　名古屋便宜運漕(株)取締役、榮保險代辦(株)相談役、名古屋東陽倉庫(株)調查役、愛知縣在籍
母　こう　文久二、四生、松野善兵衛長女
妻　茂子　明三二、七生、三重、木村秀興長女
男　國彥　大九、二生
君は愛知縣人白石半助の三男にして明治二十七年九月を以て生れ大正五年家督を相續す同七年早稻田大學商科を卒業し現に前記各會社の重役たり家族は倚二男則敏(大一二、五生)三男信寬(同一三、一二生)の外妹菅子(明三三、一生)同夫廣之助(同三〇、九生、岐阜、淺野牛右衛門弟)及其一子あり弟豐彥(同三一、九生、早稻田大學商科出身)は分家せり(名古屋、西、伏見町四ノ六電本局五九三七)
參照＝淺野牛右衛門、木村秀興宗衛守一の項

白石喜太郎　澁澤同族、魚介養殖各(株)取締役、沖電氣、日新護謨各(株)監査役
高知縣在籍
母　丑　文久元、二生、高知、廣末加禰三女
妻　辰　明三四、九生
女　明四三、七生
君は高知縣人先代喜太郎の長男にして明治三十四年十月を以て生れ同二十九年家督を相續し前名米次郎を改む現今に及ぶ又前記諸會社の重役たり家族は倚長女喜久子(大二二、四生)二女喜美子(同一五、九生)あり姉正榮(明一六、六生)は高知縣人弘末萬次郎に嫁せり(東京、小石川、駕籠町一二九電大塚二三八七)

白石久七　小倉電氣軌道(株)監査役
福岡縣在籍
妻　ヨシ　明二五、七生、長崎、士、宮田喜久太妹
男　久明　明三六、四生
君は福岡縣人白石久七の二男にして明治十四年十月を以て生る同三十八年東京高等商業學校を卒業し橫濱正金銀行に入り孟買倫敦各支店に勤務しハルビン支店副支配人を經て現に借款課次長たり家族は倚長女朝子(大一一、二生)二女步始子(同一三、三生)あり妹タツノ(明一七、一生)は福岡縣人大庭武一に嫁せり(東京市外池上町市ノ倉二五一)

白石源次郎　愛媛縣多額納稅者
愛媛縣在籍
妻　ユキ　明一七、三生、愛媛、松原憲一姉
男　正計　明二一、一生
君は愛媛縣人白石源次の二男にして明治四年四月を以て生れ同三十年分れて一家を創立す縣下の豪商にして現に愛媛縣多額納稅者たり(松山、河原町)

白石作造　上信銀行、東洋醸造各(株)取締役
地主、神奈川縣在籍
妻　セイ　嘉永元、五生、神奈川、生田七左衛門長女
男　金太郎　明二七、七生
婦　はつ　明三〇、一〇生、二男金太郎妻、分家養子鐵五郎長女
君は埼玉縣人白石長左衛門の弟にして嘉永二年九月を以て生れ明治十一年分れて一家を創立す地主にして傍ら前記銀行會社の重役たり家族は倚孫登美子(大九、四生、二男金太郎長女)同勳(同一〇、一〇生、同長男)同勳(同四四、六生)

白石重太郎　京城電氣(株)取締役、東洋軒(株)監査役、愛媛縣在籍
母　モト　之丞三女
妻　まさ　明一二、五生、東京、士、小野猛姉
女　桃子　明四二、三生、府立第三高等女學校出身
君は愛媛縣士族白石知次郎の五男にして明治三年一月を以て生れ同二十四年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり曾て南滿洲製糖會社重役に擧げらる家族は倚三女杳子(大四、三生)の外弟昜太郎(明五、九生)同妻ヤエノ(同二三、四生、愛媛、白石徹三妹)及其一子あり(東京、麻布、笄町二〇電青山三九四〇)

白石昌宇
妻　よね　文久三、五生、養父清三郎長女
養子　貞二　明一一、一生、長女とよ夫、埼玉、若山靜一郎養伯父、現戶主

は其養子となり當主彦太郎に配せらる〈東京、日本橋、新乘物町八電漫花一七六〉

參照＝菊地次郎、白石彦太郎※相澤章※高木與兵衛※手塚五郎平※初見讓助の項

白石　莊藏　栃木縣多額納稅者、栃木銀行(株)取締役、栃木縣在籍

妻　テウ　明三、六生、埼玉、野中平助妹
養子　貞吉　明一四、五生、父精一郎四男
婦　テル　明二六、三生、養子貞吉妻、栃木、原田金三郎二女

君は栃木縣人白石精一郎の長男にして明治元年六月を以て生れ同四十三年家督を相續す現時栃木銀行取締役あり三男和三四一、同長女(同吉二男)同酉夫(同一〇、四生、同三男)同祥子(同八、二生、同長女)同依子(同一二、四生、同二女)叔母フジ(安政三、六生)あり(栃木、下都賀、富山村)

參照＝原田金三郎※野中廣助の項

白石　多士良　(小松製作所(株)取締役、東京府士族

妻　菊　慶應元、九生、元衆議院議員竹内明太郎妹
母　さが　明二七、八生、男爵岩村博叔母
妻　泰　大四、四生

君は故衆議院議員工學博士白石直治の長男にして明治二十年十月を以て生れ大正八年家督を相續す明治四十五年東京帝國大學工科大學土木科を卒業し轟に松原炭礦會社々長にして前記會社の重役に就任し現時小松製作所社々長にして前記會社の重役なり弟宗城(明二二、一二生)は其妻二男萬吉三女(同一四、一二生、同四女)同泰太郎(昭二、一一生、同長男)同榮(大七、五生、養子四郎長女)同增次(同八、一一生、同二男)同喜海子(同一〇、六生、同二女)同章(同一五、一生、同三男)同貞子(昭二、九生、同三女)あり妹つる(明二、一二生)は東京府人白石彦太郎の養母にして二女とし(同二七、一一生)山元オブラート(株)常務取締役東京府在籍　慶應三、七生、現戸主
父　元治郎　慶應三、七生、現戸主
妻　咸子　明三八、六生、東京、士、前川益以長女、第三高等女學校出身

君は實業家白石元治郎の二男にして明治三十年七月を以て生る大正七年小樽高等商業學校に入學し翌八年在學の儘米國に渡りボストン・ハイスクールに學び更にハーバート大學に轉じて經濟學を修め同十年歸朝し小樽高等商業學校に復校し同十二年之を卒業す直に父の關係せる山元オブラート會社に入り現に其常務取締役たり柔道野球等を好み又音樂に趣味を有す(東京、芝、三田功運町一電高輪四〇二)

參照＝白石元治郎、前川益以※和田一郎の項

白石　民之助　山口縣多額納稅者、防府瓦斯(株)取締役、山口縣在籍

妻　ヤスコ　明一九、一〇生、山口、德永豐一長女

男　民造　明四三、八生

君は山口縣人白石民之助の二男にして明治十七年二月を以て生れ同三十八年養兄幹輔の跡を承け家督を相續し前名與吉を改む現時防府瓦斯會社取締役にして同縣多額納稅者たり家族は尙二男民次郎(大二、四生)四女治子(同六、八生)五女彌重子(同九、六生)妹ヨネ(明二四、三生)同夫幹輔(同一〇、一〇生、山口、藤井宗太郎二男)あり同千代(同二八、二生)は山口縣人南方秋亮に嫁せり(山口、佐波、防府町)

白石　恒二　白石工業(株)代表取締役　廣島縣在籍

妻　アサヨ　明二六、五生、廣島、竹内勝太郎三女

男　恒正　大九、一〇生

君は廣島縣人白石喜平の長男にして明治十九年三月を以て生れ後ち家督を相續し前名恒を改む現時白石工業會社代表取締役たり家族は尙長女淑美(大三、三生)三女德衛(同六、一〇生)四女彌衛(同一三、三生)二男恒憙(昭二、一〇生)あり姉ヒサ(明一五、七生)は廣島縣人金口佐次郎に嫁せり(三重、員辨、立田村)

白石　禎美　福島縣多額納稅者、福島農工銀行(株)取締役、農業、福島縣在籍

妻　き玄　明一〇、九生、東京、淺野總一郎二女
男　通義　明三八、一生、長男精一郎妻、東京、里村三治三女、跡見女學校出身
女　仲子　明二〇、一生
男　孝一　大一〇、一一生

君は東京府人大野正之助の弟にして慶應三年七月を以て生れ先代武兵衛の養子となり明治二十九年家督を相續す同二十五年帝國大學法科大學英法科を卒業し淺野商店に入り同二十六年石油部支配人に轉じ同三十一年歐米各國を歷遊して海運業を視察し歸來專ら同社の經營に任ず次で米國桑港支店長として赴任し同三十五年歸朝翌三十六年同社取締役兼支配人に推擧せらる爾來各種の事業に關與し現時日本エナメル帝國人造肥料日支炭礦汽船中央製鐵各會社々長たる外前揭諸會社の重役として實業界に重きをなせり長女治(明三四、一生、東洋英和女學校出身)は東京府人和田一郎弟法學士二郎に嫁せり(東京、芝、三田功運町一電高輪四〇二)

參照＝淺野總一郎、里村三治、白石琢二、和田一郎※淺野泰治郎※淺野八郎※淺野良三※淺野義

妻　エキ　明二三、二生、栃木、山田忠吾長女
男　義明　大三、五生
女　佐恵　明四三、六生
愛　明四五、六生

君は福島縣人白石佳之助の長男にして明治十三年五月を以て生れ同三十四年家督を相續し前名義男を改む農業を營み現時福島縣農工銀行取締役にして同縣多額納稅者たり家族は尙三男靜男(大五、五生)三女トシ(同七、五生)四男植亮(同一〇、一生)弟正雄(明二四、三生、山口高等商業學校出身、第一銀行大阪西支店員)同妻ヒデ(同三一、一二生、大阪、坂東長三郎長女)及其三女あり母リウ(嘉永二、一一生、福島、飯豐陸左衛門長女)弟壽雄(明二六、二生、法學士、北海道拓殖銀行釧路支店長)叔父爲義(同一二、四生)は各分家し同三郎(同一七、二生)は前記爲義の家籍に入り姉ウラ(同六、九生)は岐阜縣人木村增右衛門長男鐵太郎に同チエ(同一一、六生)は同縣士族辯護士新江寅に嫁せり(福島、東白川、常豐村)

白石　鐵五郎　酒類商　神奈川縣在籍

妻　コウ　明九、一〇生、神奈川、中西逸平叔母
男　重吉　明三四、五生
婦　セイ　明三四、一一生、長男重吉妻、神奈川、中西逸平妹

君は神奈川縣人生田七左衛門の長男にして明治十年十月を以て生れ後白石作造の養子となり大正十年分家して一家を創立す酒類商を營む家族は尙孫治子(大一四、八生、長男重吉長女)同裕男(昭二、五生、同長男)あり(横濱、中、中村町一三四〇電本局一二九二)

參照＝白石作造、中西逸平※柚沼達雄の項

白石　德造　鹿兒島縣多額納稅者、大日本酒精(株)取締役、鹿兒島縣在籍

文久三、九生、鹿兒島、池田喜兵衛二女
母　キクノ
妻　初音　明二七、四生、鹿兒島、梅木仁次郎長女
男　德之助　大一四、六生

君は鹿兒島縣人白石德次郎の長男にして明治二十四年一月を以て生れ大正五年家督を相續す現時大日本酒精會社取締役にして鹿兒島縣多額納稅者たり家族は尙長女信子(大一〇、七生)あり妹ハル(明三二、六生)は鹿兒島縣人加藤喬樹に嫁せり(鹿兒島、出水、阿久根町)

參照＝梅木仁次郎の項

白石彦太郎　綿布商　東京府在籍

養母　つる　明二、一二生、東京、白石甚兵衛妹
妻　とし　明二、一一生、養父彦太郎養子
男　孝一　大一〇、一一生

君は東京府人大野正之助の弟にして慶應三年七月を以て生れ後先代彦太郎の養子となり明治十九年家督を相續し同二十五年帝國大學法科大學英法科を卒業し淺野商店に入り同二十六年石油部支配人に轉じ同三十一年歐米各國を歷遊して海運業を視察し歸來專ら同社の經營に任ず次で米國桑港支店長として赴任し同三十五年歸朝翌三十六年同社取締役兼支配人に推擧せらる爾來各種の事業に關與し現時日本エナメル帝國人造肥料日支炭礦汽船中央製鐵各會社々長たる外前揭諸會社の重役として實業界に重きをなせり長女治(明三四、一生、東洋英和女學校出身)は東京府人和田一郎弟法學士二郎に嫁せり(東京、芝、三田功運町一電高輪四〇二)

參照＝淺野總一郎、里村三治、白石琢二、和田一郎※淺野泰治郎※淺野八郎※淺野良三※淺野義

白石　元治郎　正四位勳二等功三級、豫備陸軍中將、愛媛縣士族

妻　まん　嘉永六、一〇生、愛媛、田坂瀧治
男　精一郎　明一二、六生、青森、石岡長作妹
婦　富士　明三六、六生
男　琢二　明四二、一生

君は新潟縣士族前山保太郎の弟にして慶應三年七月を以て生れ先代武兵衛の養子となり明治二十九年家督を相續す同二十五年帝國大學法科大學英法科を卒業し淺野商店に入り同二十六年石油部支配人に轉じ同三十一年歐米各國を歷遊して海運業を視察し歸來專ら同社の經營に任ず次で米國桑港支店長として赴任し同三十五年歸朝翌三十六年同社取締役兼支配人に推擧せらる爾來各種の事業に關與し現時日本エナメル帝國人造肥料日支炭礦汽船中央製鐵各會社々長たる外前揭諸會社の重役として實業界に重きをなせり長女治(明三四、一生、東洋英和女學校出身)は東京府人和田一郎弟法學士二郎に嫁せり(東京、芝、三田功運町一電高輪四〇二)

參照＝淺野總一郎、里村三治、白石琢二、和田一郎※淺野泰治郎※淺野八郎※淺野良三※淺野義

養母　りん　嘉永六、三生、新潟、士、吉田弘造妹
妻　まん　明一〇、九生、東京、淺野總一郎二女
男　精一郎　明二九、三生、高千穗高等商業學校出身、樺太工業會社員
婦　富士　明三八、一生、長男精一郎妻、東京、里村三治三女、跡見女學校出身
男　琢二　明三〇、七生

君は新潟縣士族前山保太郎の弟にして慶應三年七月を以て生れ先代武兵衛の養子となり明治二十九年家督を相續す同二十五年帝國大學法科大學英法科を卒業し淺野商店に入り同二十六年石油部支配人に轉じ同三十一年歐米各國を歷遊して海運業を視察し歸來專ら同社の經營に任ず次で米國桑港支店長として赴任し同三十五年歸朝翌三十六年同社取締役兼支配人に推擧せらる爾來各種の事業に關與し現時日本エナメル帝國人造肥料日支炭礦汽船中央製鐵各會社々長たる外前揭諸會社の重役として實業界に重きをなせり長女治(明三四、一生、東洋英和女學校出身)は東京府人和田一郎弟法學士二郎に嫁せり(東京、芝、三田功運町一電高輪四〇二)

參照＝淺野總一郎、里村三治、白石琢二、和田一郎※淺野泰治郎※淺野八郎※淺野良三※淺野義

白石　通則　正四位勳二等功三級、陸軍中將、愛媛縣士族

母　ミキノ　嘉永六、一〇生、愛媛、田坂瀧治妹
妻　きゑ　明一二、六生、青森、石岡長作妹
男　通義　明三六、六生
女　仲子　明四二、一生
男　孝一　大一〇、一一生

君は愛媛縣士族白石新五郎の長男にして明治六年十一月を以て生れ同三十四年家督を相續す明治二十九年陸軍士官學校を卒業し大正十三年陸軍中將に累進す其間陸軍大學校を卒業し爾來參謀本部出仕留守第九第十各師團參謀兼戰時日本エナメル帝國人造肥料日支炭礦汽船中央製鐵各會社々長たる外前揭諸會社の重役として實業界に重きをなせり長女治(明三四、一生、東洋英和女學校出身)は東京府人和田一郎弟法學士二郎に嫁せり(東京、芝、三田功運町一電高輪四〇二)

參照＝淺野總一郎、里村三治、白石琢二、和田一郎※淺野泰治郎※淺野八郎※淺野良三※淺野義

夫※鈴木紋次郎※鶴田勝三※穗積重威※馬杉秀の項

白石彌市
長崎縣多額納税者、貿易商
長崎縣在籍

孫　敬三　明四〇、一〇生、亡長男廣十長男
男　數雄　明二四、二生
孫　八重子　大二、九生、亡長男廣十長女
婦　チヨ　明一三、一〇生、亡長男廣十妻、長崎、池田數男妹

君は長崎縣人白石粂次郎の長男にして嘉永四年十月を以て生れ明治二十五年家督を相續す貿易商を營み現に長崎縣多額納税者たり長女ムメノ（明二一、九生）は長崎縣人金崎惠好に二女ツル（同二七、一生）は同縣人岩野慶吉長男稔に妹シメノ（同一三、一生）は同縣人鹽田友平治三男友八郎に嫁し弟爲治（同一一、五生）同妻スキ（同七、二生、長崎、金崎良藏妹）は其子女を伴ひ同源次郎（同一九、八生）は其子女を伴ひ各分家せり（長崎市梅ヶ枝町）

白石嘉之
熊本縣多額納税者、倉庫業
熊本縣士族

繼母　マツ　明八、五生、熊本、中島大平妹
妻　綾子　明三三、三生、熊本、有働倭治長女

君は熊本縣士族白石彌一郎の長男にして明治二十四年三月を以て生れ大正十年家督を相續す倉庫業を營み熊本縣多額納税者たり家族は尙弟安哉（明三〇、三生、明治大學出身）同妻トメ（同三六、三生、熊本、佐藤立次郎五女）及其二女同城（同三三、一生、早稻田大學出身）同菊生（同三四、一一生、九州藥學專門學校出身）同不磨夫（同三六、一一生）同周吉（同四一、一生）妹多嘉（同四三、一一生）同ミエ（大二、一生）弟光（同三、八生）叔父千丈（明一四、一二生）同妻カイ（同二〇、一一生、熊本、島崎武一三女）及其一男二女あり妹不二（同三九、二生、尙絅高等女學校出身）は熊本縣人近藤久幸に嫁し弟龜（同二八、一生、法學士、熊本地方裁判所判事）は叔父白石礒吉の養子となれり（熊本、八代、鏡町）
參照―佐藤立次郎※柏原利夫※宮島安太の項

白岩龍平
東亞興業（株）常務取締役、山東鑛業（株）取締役、東亞同文會理事長
東京府在籍

妻　艷　明一三、八生、岡山、士、西毅一三女

君は岡山縣人白岩左古武の弟にして明治三年七月を以て生れ後分家して一家を創立す夙に故荒尾精の日清貿易研究所を卒業し日清の役通譯官たり後清人と合同して大東汽船會社を創立し又湖南汽船會社の創立に盡瘁す日清汽船會社成立するや其專務取締役に推され現時前記各會社の重役たり專心日支兩國の經濟聯絡上に貢獻する外兩國教育上人材造就に努力し現に東亞同文會理事長日華實業協會幹事日華學會理事對支文化事業調査委員たり夫人艷子は文學博士佐々木信綱の門下にして支那の風物を詠じたる歌集「白楊」の著あり家族は尙養子京子（大六、一生、東京、士、西虎夫長女）あり（東京、赤坂、青山南町六ノ六七電青山一八七五）

白男川讓介
正五位勳三等、鹿兒島市長
鹿兒島縣士族

妻　菊　明一八、二生、鹿兒島、士、野村淸姉
男　德介　大四、三生
女　照子　明四四、一〇生

君は鹿兒島縣士族池田休兵衞の四男にして明治十三年一月を以て生れ後先代渉の養子となり同三十一年家督を相續す同三十九年京都帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試驗に合格福井縣三方郡長富山新潟各縣警察部長北海道土木部長奈良京都各府縣內務部長福井縣知事等に歷任し後官を辭し現に鹿兒島市長の職にあり家族は尙二女澄子（大一〇、三生）三女孝子（同一二、一〇生）あり養叔父陶介（安政元、一〇生）は同妻チカ（元治元、一二生、鹿兒島、士、川田甚助長女）及其子女を伴ひ鹿兒島縣士族四元ナカの死跡を相續し弟侃介（明一八、二生）は大阪府人白男川ヨシの養子となれり（鹿兒島市上龍尾町）

白尾金太郎
遠江銀行（株）取締役、東浦染色（株）監査役、靜岡縣在籍

母　こと　嘉永五、四生、靜岡、金原勝藏二女
妻　たみ　明六、一一生、靜岡、富田鐵太郎妹
男　正　明二六、八生
婦　綾　明三一、一生、長男正妻、靜岡、齋藤菊平三女
男　三郎　明四一、一二生

君は靜岡縣人白尾惣太郎の長男にして慶應元年十一月を以て生れ明治二十二年家督を相續す曩に曳馬銀行頭取にして現に遠江銀行取締役及東浦染色會社監査役たり家族は尙孫八重（大九、八生、長男正長女）同アサ（同一二、四生、同二女）同ヒロ（昭元、一二生、同三女）あり二男昌雄（明三〇、一生）同妻むら（同三七、二生、靜岡、武藤金平長女）は分家し二女光（同三二、七生）は靜岡縣人小杉博治に妹てい（同六、一生）は同縣人寺田淸吉長男益太郎に嫁し弟惣吉（同二、一二生）は同縣人松山ふねの入夫となり同市郎三郎（同一三、七生）は同縣人本多喜代治の養子となれり（靜岡、濱名、曳馬村）

白銀朝則
從五位勳五等、內閣印刷局書記官兼行政裁判所評定官、總務部長兼總務部監理課長總務部經理課長總務部官報課長、山口縣在籍

父　市太郎　元治元、九生、現戶主
母　ヤス　明八、七生、山口、吉田市三郎妹
妻　とよ　明二四、四生、東京、入山庄三郎庶子

君は山口縣人白銀市太郎の長男にして明治二十年五月を以て生る大正二年東京帝國大學法科大學法律科を卒業し税務監督局屬司税官司税官に歷任し水道橋税務署長を經て同七年法制局參事官に任じ同十一年行政裁判所評定官に轉じ同十三年內閣印刷局書記官兼行政裁判所評定官となり現時前記の職にあり家族は尙長女淑子（大九、一生）二女千代子（同一五、三生）弟義方（明二六、五生）同妻敍枝（同三九、一生、山口、佐々木直二女）及其一男一女妹靜子（同三〇、五生）同夫善作（同二六、三生、山口、伊藤悅一弟）弟暉吉（同三二、九生）同禮治（同三五、八生）あり養姉カム（同九、一生、山口黑石乙藏三女）は山口縣人黑石晋吉に妹美千代（同三七、一一生）は同縣人佐々木博巳に嫁し養叔父岑吉（同一四、九生、山口、坂井兵助二男）は同縣人浴幾次郎の養子となれり（東京市外杉並町阿佐ヶ谷七四三電四谷六三三九）

白壁傑次郎
從四位勳四等、第五高等學校教授
福岡縣在籍

妻　スミ　明一七、三生、吉田武彥長女
男　武彌　明三八、四生

女　セツ　明四〇、七生

君は福岡縣人白壁永太郎の弟にして明治四年六月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す同三十年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し現に第五高等學校教授たり曩に陸軍教授に任ず家族は尙二男愼二（明四二、一一生）四男又通（大三、三生）五男和哉（同六、九生）六男光彌（同一〇、三生）あり（熊本市第五高等學校內）

白上佑吉
從四位勳三等、文部省實業學務局長、東京府士族

養父　俊一　萬延元、四生、現戶主
妻　夫佐　明二二、四生、千葉、士、宮村豐長女
男　謙一　大二、一〇生

君は石川縣士族村紋太郎の三男にして明治十七年十二月を以て生れ同二十七年白上俊一の養子となる同四十三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同年文官高等試驗に合格す警視廳警部同警視長野縣理事官富山縣警務部長朝鮮總督府事務官を經て大正九年歐米各國に出張を命ぜらる歸朝後千葉縣內務部長警視廳官房主事內務書記官鳥取富山島根各縣知事に歷任し昭和二年現職に轉ず家族は尙長女善子（大五、九生）二男英三（同一〇、三生）二女千鶴子（同一二、三生）あり二男盛次（同八、二生）は東京府人山口コトの養子となれり（東京市外千駄ヶ谷町千駄ヶ谷四二三）

白神伊三郎
櫻川ビルディング（株）取締役、鑄物商、大阪府在籍

妻　イチ　明六、七生、和歌山、上西常吉長女
男　德三郎　明三三、一〇生
婦　きく　明三六、一一生、長男德三郎妻、大阪、大倉政次郎妹

君は岡山縣人白神兵次郎の弟にして明治四年八月を以て生れ同三十年分家して一家を創立す鑄物商を營み傍ら櫻川ビルディング取締役たり家族は尙孫經子（大一五、九生、長男德三郎二女）あり長女イツ（明三一、一生）は同夫桂（同二四、三生、兵庫、賀集信太二男）と共に分家し二女ウノ（同三二、五生）は大阪府人大川柳三郎長男卯之助に嫁せり（大阪、浪速、西圓手町一〇一電櫻川四七三）

白川卯一郎
福岡縣多額納税者、白川運送（株）取締役、運送業、福岡縣在籍

妻　ヨシ　明一九、一〇生、福岡、士、新莊義親姉
男　昇　明四〇、七生
婦　ミツ　明三六、一〇生、亡二男徹一妻、福岡、新莊チヨ姪
女　節子　明四四、二生

君は福岡縣人白川夫七の二男にして明治三年八月を以て生れ同四十一年家督を相續す運送業を營み現に白川運送會社取締役にして縣下の多額納税者たり家族は尙六男新（大三、九生）二女友子（同六、九生）三女美知子（同九、一生）七男七郎（同一〇、六生）四女信子（同一三、一一生）孫悅子（同一四、九生、亡二男徹一長女）あり（福岡縣若松市中通三ノ五四五）

白川庫治
福岡縣多額納税者、酒造業
福岡縣在籍

繼母　イシ　安政三、四生、福岡、緒方芳太二女
妻　ヨシノ　明二七、五生、福岡、津田正則長女
男　誠一郎　明四三、一生
女　イサホ　明四四、一〇生

君は福岡縣人白川傳平の四男にして明治八年二月を以て生れ同四十一年家督を相續す酒造業を營み同縣多額納税者たり家族は尙七女アキ（大三、一〇生）九女季子（明（同八、四生）二男和年（昭二、一生）あり四女春子（明三五、二生）大分縣人鷹取三省に五女ミサホ（同三七、一〇生）は同縣人松田彰に姪ユキ（同二四、一二生、亡兄熊太郎長女）は福岡縣人妹尾德太郎に嫁せり（福岡、築上、下城井村）

白川資長
從三位、子爵、貴族院議員
舊公卿家

妻　りう　明二六、一二生、福島、士、飯野盛容長女

當家は花山院の皇子彈正尹淸仁親王の子延信王の後なり延信神祇伯に任じ爾來世々繼承して賢所の事務を掌る孫安貞權守顯康に至り源氏の姓を賜ひ白川と稱すそれより二十四世を經て從二位資訓に至る資訓維新後神祇大副大掌典式部寮御用掛等に歷任し明治十七年子爵を授けらる君は資訓の長男にして明治三年十二月を以て生れ同三十九年襲爵仰付けらる同三十八年東京外國語學校佛語科選科を卒業して東京帝國大學文科大學に學び現時貴族院議員たり皇典に關する古書古文書を藏すること多く斯學に對する造詣亦深し（東京市外大久保町西大久保四二一電四谷五五七）
參照―※藤原作十郎※諸橋久太郎の項

白川精一
正四位勳四等、福岡高等學校教授
福岡縣在籍

妻　タキ　明二〇、三生、大分、牛田鐵一郎妹
男　迪　明四一、二生
女　ユキノ　大二、一生

君は福岡縣人白川曾平の庶子にして明治十三年十二月を以て生れ同二十二年家督を相續す同三十九年東京帝國大學文科大學獨文科を卒業し第五高等學校教授を經て現に福岡高等學校教授たり家族は尙二男尙志（明四三、一生）三男和之（大五、一〇生）あり姉ヨシ（明八、一一生）は福岡縣人江藤覺七長男儀六に嫁せり（福岡市高等學校內）
參照―牛田鐵一郎※遠入鐵次郎※牛田貢の項

白川友一
哈爾賓土地建物（株）社長、下津井輕便鐵道（株）取締役、香川縣在籍

妻　ユキヱ　明一〇、一生、香川、山內喜惣治長女
男　高太郎　明二六、四生
婦　志計野　明二九、三生、長男高太郎妻、香川、士、岩瀨眞一二女
男　忠雄　明三三、五生
男　豐　明三六、一生
女　國子　明四五、六生

君は香川縣人安達保太郎の弟同將總の叔父にして岩瀨眞一の實弟なり明治六年六月を以て生れ先代八十太の養子となり同三十五年家督を相續す夙に滿洲に出で實業に從事し現に前記會社重役たり曾て衆議院議員に當選せし事あり家族は尙五男正雄（明四二、一〇生）六男道（大四、三生）七男保男（同五、八生）八男松雄（同一〇、三生）孫榮子（同五、二生、長男高太郎長女）同友子（同七、一生、同二女）同高夫（同九、九生、同二男）同盛夫（生年月同上、同三男）同京子（同一二、三生、同三女）同智惠子（同一二、三生、三男忠雄長女）あり養子タキ（明二〇、八生、香川、中山仲太長女）は香川縣人山地常次長男紀一郎に長女タカヱ（同二八、一一生）は同縣人安達熊三郎長男賢に嫁し二男一雄（同三一、三生）は

愛知縣多額納稅者、名古屋市會副議長、シナ忠旅館、旅館業
愛知縣在籍
嘉永二、一〇生、愛知、松浦そで
母　ちよ　明一七、一〇生、愛知、杉本九兵衛妹
妻　のぶ　明四一、三生
男　忠夫　明四一、六生
女　由利子　大二、六生
君は愛知縣人白木梅吉の男にして明治十年七月を以て生れ同二十年家督を相續すシナ忠旅館を經營し現に其の職に在り家族は尚ほ三男信平（同七、九生）四男信平（同一三、一生）七女萬利子（同七、九生）八女久子（同一〇、七生）四男信平（同一三、一生）あり長女捷子（明三七、六生）は愛知縣人杉本久吉に二女生、同四〇、一生）は其夫秀次郎（同三六、四生、京都、井上清次郎三男）と共に分家せり（名古屋、中、綱宜町五ノ一〇二電話二五二〇）

白木高次　大和屋商店、洋紙商
岐阜縣在籍
父　恒助　安政五、一二生
母　まつ　文久三、一二生
妻　ふし　明二二、一生、東京、藤森佐吉二女
男　義一郎　大八、九生
君は岐阜縣人白木恒助の四男にして明治二十年四月を以て生る大和屋と稱し洋紙商を營む家族は尚ほ父恒助（明七、九生、同一一、一四、四生）二女政子（同一二、二、六生、岐阜、建部梅次郎長女）同三、一生）同妻靜（同三一、雄長女）及其二子同薫次（同二八、三七、九生、岐阜、小澤三郎兵衛長女）同三、一生）二女主子（同一二、四生）三女美代子（同一三、一〇生）四女郁子（同一四、一一生）二男孝（同一三、七生）五女修子（昭二、三生）あり（兵庫、武庫、住吉村畦倉電話御影一三四）

白坂金之丞　鹿兒島縣多額納稅者、農業
鹿兒島縣士族
妻　ミワ　明一一、一生、鹿兒島、士、竹下伸有衛門五女
奈川縣人西田太一に同らく（同二六、一〇生）は岐阜縣人堀朝一に同ため（同三五、四生）は同縣人後藤伊藏に嫁せり（東京、京橋、金六町五電東樓三七八八）

參照＝小澤三郎兵衛の項

白木豊太郎　山縣銀行（株）頭取
岐阜縣在籍
妻　げん　明一〇、六生、岐阜、近藤來吉姉
男　義一　明二六、四生、現戸主
婦　敏子　明三八、一一生、長男義一妻、神奈川、森富藏長女
男　福治　明三三、一〇生
婦　きく　明三五、九生、二男福治妻、岐阜、田中政太郎三女
君は岐阜縣人白木莊兵衛の長男にして嘉永五年一月を以て生れ大正十年養子竹三郎方より長男義一の家籍に入る現時山縣銀行頭取たり家族は尚ほ孫雅雄（昭二、一生、長男義一長男）同良子（大一二、七生、二男福治長女）同英子（昭二、九生、同三女）あり長女みつじ（明六、八生）は養子竹三郎の妻にして二女こう（同九、四生）は岐阜縣人衣笠武一に四女じゃう（同九、二生）は同縣人武藤純太郎に七女たま（同三三、二生）は同縣人中村由松に孫さと（同二七、八生、養子竹三郎長女）は同縣人吉田亮二に同ます（同三〇、二生、同二女）は愛知縣人小澤郁二に嫁せり（岐阜、山縣、山縣村）

白城定一　山下汽船（株）常務取締役、山下（名）理事、兵庫縣在籍
妻　みき　明三一、八生、萩田龜次郎長女
男　建一郎　大一〇、四生
君は愛媛縣人白城友次郎の弟にして明治二十年四月を以て生れ大正二年分家して一家を創立す現時山下汽船會社常務取締役にして山下合名會社理事たり家族は尚ほ長女孝子（大八、九生）二女主子（同一二、四生）三女美代子（同一三、一〇生）四女郁子（同一四、一一生）二男孝（同一三、七生）五女修子（昭二、三生）あり（兵庫、武庫、住吉村畦倉電話御影一三四）

白木周次郎　愛知縣多額納稅者、名古屋市會副議長、シナ忠旅館、旅館業
愛知縣在籍
嘉永二、一〇生、愛知、松浦そで
母　ちよ　明一七、一〇生、愛知、杉本九兵衛妹
妻　のぶ　明四一、三生
男　忠夫　明四一、六生
女　由利子　大二、六生
君は愛知縣人白木梅吉の男にして明治十年七月を以て生れ同二十年家督を相續すシナ忠旅館を經營し現に其の職に在り家族は尚ほ三男信平（同七、九生）四男信平（同一三、一生）七女萬利子（同七、九生）八女久子（同一〇、七生）四男信平（同一三、一生）あり長女捷子（明三七、六生）は愛知縣人杉本久吉に二女生、同四〇、一生）は其夫秀次郎（同三六、四生、京都、井上清次郎三男）と共に分家せり（名古屋、中、綱宜町五ノ一〇二電話二五二〇）

白川朋吉　大阪市會議長、男山索道、茉木土地各（株）取締役、日本ベルト、日本工業所、西讃電氣、琴平參宮電鐵、阪神土地建物各（株）監査役、辯護士
大阪府在籍
明三九、五生、生母、大阪、山川マスエ、夕陽丘高等女學校出身
庶子　麻子
君は香川縣人白川春造の弟にして明治六年十二月を以て生れ大正十三年分籍して一家を創立す夙に大阪に出で道具商岩崎商店に勤務する傍ら關西大學法科に學び後上京し同三十一年中央大學を卒業し辯護士試驗に及第す後再び大阪に來り獨立開業す主として民事及商事々件に力を注ぎ關西法曹界に重きをなす又市政に參畫して屢々市會議員に選ばれ議長に擧げられ現に其職に在り傍ら前記會社の重役を兼ぬ書畫を愛玩す（大阪、東、北濱四ノ二三電本局一一六三）

白川義則　正三位勳一等功三級、陸軍大將、陸軍大臣、愛媛縣士族
妻　タマ　明九、五生、廣島、北川清一三女
男　義正　明四二、七生
女　ハマ　明三七、一生、三輪田高等女學校出身
君は愛媛縣士族白川義信の弟にして明治元年十二月を以て生れ大正五年兒の後を承け家督を相續す明治二十三年陸軍士官學校同三十一年陸軍大學校を卒業す同二十四年陸軍歩兵少尉に任じ大正十四年陸軍大將に累進す其間陸軍士官學校敎官守正王附武官歩兵第二十一聯隊大隊長陸軍省人事局課員歩兵第三十四聯隊長第十一師團參謀長支那派遣隊司令官歩兵第九旅團長陸軍省人事局長兼俘虜情報局長官陸軍士官學校長第十一師團長第一師團長陸軍次官兼航空局長官陸軍技術會議々長陸軍航空本部長關東司令官等に歷補昭和二年四月田中男爵に組閣の大命降下するや入りて陸軍大臣となり現時其職にあり家族は尚ほ二男義直（明四三、九生）三男元春（大七、一生）四男清（同九、九生）の外亡兄義一妻キガ（安政四、四生、愛媛、中島正智長女）及其子女あり長女キヨ（明三三、九生）は由形縣人本田道之に嫁せり（東京、麴町、永田町一ノ一陸軍大臣官舍電銀座四一八六）

男　昇　明三九、一生
女　フミ　明四二、四生
君は鹿兒島縣士族白坂素一郎の二男にして文久三年十月を以て生れ先代文二の養子となり明治十一年家督を繼ぐ農業を營み現に鹿兒島縣多額納稅者たり家族は尚ほ二男亥郎（明四四、四生）三男力（大二、八生）あり長女靜（明三二、一二生）は鹿兒島縣人池田繁に嫁せり（鹿兒島、日置、郡山村）

白崎榮次郎　金澤齋（名）代表社員
京都府在籍
妻　はな　明一三、七生、京都、安田宗助長女
嗣子　忠男　明三四、三生、女ヨシ夫、京都、井上鱗吉三男、慶應義塾大學經濟學部出身
女　ヨシ　明三九、一生、養嗣子忠男妻、京都府立第二高等女學校出身
君は京都府人白崎和兵衛の三男にして明治六年一月を以て生れ同十一年家督を相續す現時金澤齋會社代表社員たり家族は尚ほ孫和子（大一五、一二生、養嗣子忠男長女）あり（京都、下京、東洞院通綾小路上電下一九八三）

白崎五郎七　五城銀行（株）取締役
宮城縣在籍
妻　芳江　明八、九生、三浦藤三郎女
男　健二　明三二、一二生
婦　悦　明三六、二生、二男健二妻、東京、桐藤新三郎二女
君は宮城縣人葛岡定治郎の長男にして明治六年五月を以て生れ同四十年先代五郎七の養子となり大正五年家督を相續し前名直藏を改む現時五城銀行取締役たり家族は尚ほ孫洋一（大一〇、九生、二男健二長男）同妙子（同一三、七生、同長女）あり（仙臺、大町一ノ七八）

白崎仁三郎　勳七等、福井縣多額納稅者、運送合同、東亞工業、大福商店、丸米倉庫運輸各（株）社長、福井殖産、織物業、福井精練加工各（株）取締役、織物
福井縣在籍
嘉永六、一一生
夫　佐右衛門
母　てつ
妻　ちか　明一八、一一生、福井、小川忠太衛門長女
男　初　明三七、一生
女　靜子　明四一、六生、故農學博士稻垣乙丙養妹
君は福井縣人白崎佐五右衛門の長男にして明治七年七月を以て生れ大正七年家督を相續す織物業を營み傍ら大福商店社長の外前記會社の重役たり兼て前記各會社の重役にして福井縣多額納稅者たり家族は尚ほ養子富美子（同一三、二生、生母、京都、森晦香二女）あり（堺、大濱西公園四五）

白澤治大右衛門　新潟縣多額納稅者、布引電氣鐵道（株）取締役、土木建築請負業
新潟縣在籍
妻　ゆき　明五、七生、千葉、士、鈴木重夫二女
君は大阪府人白庄司甚兵衛の弟にして文久三年五月を以て生れ明治十年分家して一家を創立す現時大岩電氣會社々長たる外前記各會社の重役たり（大阪、西、江戸堀下通三ノ一九電土佐堀一二四三）

參照＝※鶴崎新兵衛の項

白洲文平　兵庫縣多額納稅者、綿絲商
兵庫縣士族
妻　よし　明七、八生、神奈川、屋由藏妹
男　倘藏　明三〇、二生
次郎　明三五、二生
女　三子　明四四、七生
君は新潟縣人金子治兵衛の三男にして明治二年四月を以て生れ同四十年先代キウの養子となり家督を相續す土木建築請負業を營み前記會社の重役たり家族は尚ほ三男年雄（明四三、一〇生）三女政子（同五、一生）五女（同一二、八生）の外亡兄源太新潟、磯野喜代吉妹）あり二男國雄（大二、五生）三女男亘（同九、七生）六男勉（同一二、八生）の外亡兄源太郎妻スエ（慶應三、五生、新潟、磯野喜代吉妹）あり二女美智惠（明四〇、六生）は新潟縣人梅澤友二郎に嫁せり（新潟、西顎城、今井村）

白澤保美　正四位勳三等、林學博士、林業試驗場技師兼農林技師、林業試驗場長、兵庫縣在籍
嘉永六、一一生
夫　四女
母　てつ　明一八、一一生、福井、小川忠太衛門長女

君は新潟県人白勢彦次郎の長男にして文久二年十二月を以て生れ明治二十一年家督を相続す新潟市に於ける名望家にして諸種の実業團體幹部役員に挙げられ又推されて衆議院議員に當選し明治三十七八年事件の功に依り勲四等に叙せらる現に前記各銀行會社の重役にして尚ほ新潟商業會議所特別議員たり姉ムメ（安政六、五生）は新潟縣人白勢秋次の家督を相續す現時前記會社の重役たりキ（明九、一生）は同夫二郎（同三、二生、新潟、清水芳蔵三男、新潟製氷會社取締役、新潟無盡二葉社各會社取締役、新潟無盡監査役）と共に分家し長女ツウ（同二四、一生）は同縣人池田文藏に二女ヲウ（同二五、一二生）を儲け三郎長男傳策に嫁せり（新潟市本町通八番町三一）

参照―池田文藏、白勢量作の項

白勢量作

父　春三　文久二、一二生
妻　トコヨ　明二三、一〇生
男　誠一　大二、一〇生
女　フミ　明四四、四生

君は新潟縣人白勢春三の長男にして明治十三年十一月を以て生れ後先代綿悟の養子となり同四十年家督を相續す現に甎城鐵道會社取締役にして新潟縣多額納稅者たり地方公共團體に盡す處多し（新潟、中甎城、明治村）

白瀧重右衛門

田村銀行（株）頭取、兵庫縣在籍
鑑査役、兵庫縣在籍、生野銀行（株）

妻　とく　明一一、六生、兵庫、鎌谷太兵衛長女
男　重喜　明三〇、一〇生
婦　千代　明三五、八生、長男重喜妻、兵庫、畑昌愷二女
男　牧　明三三、一一生

君は新潟縣人千名法示の三男にして明治十六年一月を以て生れ後先代綿悟の養子となり同四十年家督を相續す現に甎城鐵道會社取締役、新潟縣多額納稅者、新潟商業會議所特別議員たり新潟水力電氣（株）取締役、日本石油（株）取締役、白勢合名（株）代表社員、新潟縣在籍

慶應二、六生、新潟、畠山敎德四女
妻　ハナ　明一六、一二生
男　量作　明三四、二生
女　元吉　明三八、一生
女　スエ　明三九、六生
女　ソウ　明三九、六生

白勢春三

勲四等、第四銀行、新潟貯蓄銀行各（株）頭取、新潟水力電氣（株）社長、越後鐵道、二葉社、生南農林、日本石油各（株）取締役、白勢合名代表社員、新潟縣在籍

妻　ハナ　慶應二、六生、新潟、畠山敎德四女
男　量作　明一六、一二生
男　元吉　明三四、二生
女　スエ　明三八、一生
女　ソウ　明三九、六生

白杉次郎太郎

母　澤　明一〇、一二生、京都、富島元治妹
妻　武子　明三三、六生
男　政德　明三五、三生

君は舊熊本藩士白杉政愛の長男にして明治二年九月を以て生れ大正十二年家督を相續す曩に鐵道省參事兼事務官たりしことあり亡父政愛は日本鐵道會社重役たりし人にして資産家として知らる家族は母四男政德（明四三、一二生）五男政孝（大二、一生）六男政英（同四、二生）七男政健（同五、六生）弟精一（明七、四生）同妻みき（同一三、九生、東京、岡田又一郎三女）及其子女あり同義雄（同一四、二生）は東京府士族松田富太孫章の婿養子となり妹操（同四、八生）は同府士族山際霜五郎に同年（同九、三生）は大分縣士族衞藤俊雄に嫁せり（東京市外日暮里町金杉一五三ノ二）電下谷五八〇六）

参照―木村剛、松田義雄の項

白塚大三郎

三重縣多額納稅者、松坂木綿（株）社長、松坂銀行、松坂鐵道、伊勢殖産、三重田版社各（株）取締役、三重合同電氣、服部商店各（株）鑑査役、綿布商、三重縣在籍

養祖母　ちゑ　嘉永五、七生、三重、岡田忠七三女
男　嘉一郎　明二九、九生
婦　つゆ　明三六、三生、長男嘉一郎妻、三重、堀内鶴雄四女

君は三重縣人間宮新助の長男にして明治二年七月を以て生れ同二十五年先代代三郎の養子となり家督を相續し前名萬次郎を改む三重縣多額納稅者にして綿布商を營む現に松坂木綿會社々長たる外前記各銀行會社の重役たり家族は尚孫博敏（大一三、二生、長男嘉一郎長男）同隆造（同一四、二生、同二男）同正三良（同一五、九生、同三男）の外叔母うの（明一三、一生）あり（三重、飯南、松坂町）

参照―堀内鶴雄の項

白土哲郎

正五位勲三等功五級、陸軍主計監、第十二師團經理部長
東京府在籍

妻　みよ　明一七、五生、青森、田澤如水二女
男　哲夫　明三二、六生
男　光夫　明四〇、一生

君は秋田縣人白土富江の二男にして明治五年三月を以て生れ同三十六年分家して一家を創立す夙に陸軍經理學校を卒業し同三十四年陸軍三等軍吏に任じ大正十四年陸軍主計監に累進す其間第八師團經理部々員陸軍大學校教官陸軍省經理局員陸軍大臣官房會計課長、第八師團經理部長等に歷任し現役日獨兩役に出征す現時第十二師團經理部長等に歷補し日露日獨兩役に出征す現時第十二師團經理部長たり家族は尚二女君子（大五、一〇生）四男志郎（同九、一一生）あり長女菊枝（明三七、一〇生）は島根縣人小泉有本三男精一に嫁せり（久留米、櫛原町二ノ三六）

白鳥喜四郎

埼玉縣多額納稅者、青物商
埼玉縣在籍

祖母　しげ　文久元、一〇生
母　まさ　明一〇、四生、埼玉、鈴木元藏長男

君は埼玉縣人先代喜四郎の二男にして同縣多額納稅者整司を改む青物商を營み埼玉縣多額納稅者たり現時東京帝國大學文學部教授等に歷任す同三十四年史學研究の爲獨露各國に留學し大正三年東宮御學問所御用掛を仰せ付けられ同年二月を以て生れ明治十六年家督を相續す同二十三年帝國大學法科大學政治科を卒業し直に內務省に出仕し同二十四年內務省參事官に任ぜられ後北海道廳參事官文部書記官拓殖務省書記官內務省神社局長官栃木縣知事關東都督府民政長官拓殖局長官等を經て大正七年製鐵所長官に轉ず同十三年之を辭し推されて日本郵船會社々長となり現時に至る傍ら前記各會社の重役を兼ぬ曩に東京商業會議所特別議員に推擧せらる家族は尚四男滿（大二、九生）五男保（同五、四生）五女鐵（同七、一〇生）

白鳥庫吉

正三位勲二等、文學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽敎授
東京府在籍

妻　茂　明八、九生、東京、士、大村長衞女
養子　清　明二六、三生、鈴木元藏長男
女　君子　明二九、七生、養子清妻

君は千葉縣人白鳥斧藏の弟にして同縣元年一二月を以て生れ明治四十三年帝國大學文學部敎授等に歷任す同三十四年史學研究の爲獨露各國に留學し大正三年東宮御學問所御用掛を仰せ付けられ同年二月を以て生れ明治四十三年帝國大學文學部敎授等に歷任す同三十四年史學研究の爲獨露各國に留學し大正三年東宮御學問所御用掛を仰せ付けられ同年二月を以て生れ明治十六年家督を相續す同二十三年帝國大學法科大學政治科を卒業し直に內務省に出仕し同二十四年內務省參事官に任ぜられ後北海道廳參事官文部書記官拓殖務省書記官內務省神社局長官栃木縣知事關東都督府民政長官拓殖局長官等を經て大正七年製鐵所長官に轉ず同十三年之を辭し推されて日本郵船會社々長となり現時に至る傍ら前記各會社の重役を兼ぬ曩に東京商業會議所特別議員に推擧せらる家族は尚四男滿（大二、九生）五男保（同五、四生）五女鐵（同七、一〇

龜之助長男五郎に嫁し弟長平（同六、八生）は分家せり（兵庫、川邊、伊丹町）

白杉龜造

大林組（株）常務取締役、ブランチヤード製作所（株）取締役
大阪府在籍

妻　壽衞　明二一、二生、岡山、船橋信一長女

君は大阪府人白杉幸助の長男にして明治九年八月を以て生れ同三十五年家督を相續す現時前記會社の重役たり家族は尚養子泰子（大三、三生、京都、菅谷義三郎三女）あり（兵庫、武庫、魚崎町一〇〇番御影五一五）

白杉次郎太郎

従五位勲五等、資産家
東京府士族

母　澤　弘化三、五生、熊本、渡邊市門二女
妻　武子　明一〇、一二生、京都、富島元治妹
男　政德　明三三、六生
男　政民　明三五、三生

君は舊熊本藩士白杉政愛の長男にして明治二年九月を以て生れ大正十二年家督を相續す曩に鐵道省參事兼事務官たりしことあり亡父政愛は日本鐵道會社重役たりし人にして資産家として知らる家族は母四男政德（明四三、一二生）五男政孝（大二、一生）六男政英（同四、二生）七男政健（同五、六生）弟精一（明七、四生）同妻みき（同一三、九生、東京、岡田又一郎三女）及其子女あり同義雄（同一四、二生）は東京府士族松田富太孫章の婿養子となり妹操（同四、八生）は同府士族山際霜五郎に同年（同九、三生）は大分縣士族衞藤俊雄に嫁せり（東京市外日暮里町金杉一五三ノ二）電下谷五八〇六）

参照―木村剛、松田義雄の項

白勢春三

勲四等、第四銀行、新潟貯蓄銀行各（株）頭取、新潟水力電氣（株）社長、越後鐵道、二葉社、生南農林、日本石油各（株）取締役、白勢合名代表社員、新潟縣在籍

慶應二、六生、新潟、畠山敎德四女
妻　ハナ　明一六、一二生
男　量作　明三四、二生
女　元吉　明三八、一生
女　スエ　明三九、六生
女　ソウ　明三九、六生

白塚大三郎

三重縣多額納稅者、松坂木綿（株）社長、松坂銀行、松坂鐵道、伊勢殖産、三重田版社各（株）取締役、三重合同電氣、服部商店各（株）鑑査役、綿布商、三重縣在籍

養祖母　ちゑ　嘉永五、七生、三重、岡田忠七三女
男　嘉一郎　明二九、九生
婦　つゆ　明三六、三生、長男嘉一郎妻、三重、堀内鶴雄四女

君は三重縣人間宮新助の長男にして明治二年七月を以て生れ同二十五年先代代三郎の養子となり家督を相續し前名萬次郎を改む三重縣多額納稅者にして綿布商を營む現に松坂木綿會社々長たる外前記各銀行會社の重役たり家族は尚孫博敏（大一三、二生、長男嘉一郎長男）同隆造（同一四、二生、同二男）同正三良（同一五、九生、同三男）の外叔母うの（明一三、一生）あり（三重、飯南、松坂町）

参照―堀内鶴雄の項

白土哲郎

正五位勲三等功五級、陸軍主計監、第十二師團經理部長
東京府在籍

妻　みよ　明一七、五生、青森、田澤如水二女
男　哲夫　明三二、六生
男　光夫　明四〇、一生

君は秋田縣人白土富江の二男にして明治五年三月を以て生れ同三十六年分家して一家を創立す夙に陸軍經理學校を卒業し同三十四年陸軍三等軍吏に任じ大正十四年陸軍主計監に累進す其間第八師團經理部々員陸軍大學校教官陸軍省經理局員陸軍大臣官房會計課長、第八師團經理部長等に歷任し現役日獨兩役に出征す現時第十二師團經理部長等に歷補し日露日獨兩役に出征す現時第十二師團經理部長たり家族は尚二女君子（大五、一〇生）四男志郎（同九、一一生）あり長女菊枝（明三七、一〇生）は島根縣人小泉有本三男精一に嫁せり（久留米、櫛原町二ノ三六）

白鳥喜四郎

埼玉縣多額納稅者、青物商
埼玉縣在籍

祖母　しげ　文久元、一〇生
母　まさ　明一〇、四生、埼玉、鈴木元藏長男

君は埼玉縣人先代喜四郎の二男にして同縣多額納稅者整司を改む青物商を營み埼玉縣多額納稅者たり現時東京帝國大學文學部敎授等に歷任す同三十四年史學研究の爲獨露各國に留學し大正三年東宮御學問所御用掛を仰せ付けられ同年二月を以て生れ明治四十三年帝國大學文學部敎授等に歷任す同三十四年史學研究の爲獨露各國に留學し大正三年東宮御學問所御用掛を仰せ付けられ同年二月を以て生れ明治十六年家督を相續す同二十三年帝國大學法科大學政治科を卒業し直に內務省に出仕し同二十四年內務省參事官に任ぜられ後北海道廳參事官文部書記官拓殖務省書記官內務省神社局長官栃木縣知事關東都督府民政長官拓殖局長官等を經て大正七年製鐵所長官に轉ず同十三年之を辭し推されて日本郵船會社々長となり現時に至る傍ら前記各會社の重役を兼ぬ曩に東京商業會議所特別議員に推擧せらる家族は尚四男滿（大二、九生）五男保（同五、四生）五女鐵（同七、一〇

白鳥庫吉

正三位勲二等、文學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽敎授
東京府在籍

妻　茂　明八、九生、東京、士、大村長衞女
養子　清　明二六、三生、鈴木元藏長男
女　君子　明二九、七生、養子清妻

君は千葉縣人白鳥斧藏の二男にして同縣元年一二月を以て生れ明治四十三年帝國大學文學部敎授等に歷任す同三十四年史學研究の爲獨露各國に留學し大正三年東宮御學問所御用掛を仰せ付けられ同年二月を以て生れ明治十六年家督を相續す同二十三年帝國大學法科大學政治科を卒業し直に內務省に出仕し同二十四年內務省參事官に任ぜられ後北海道廳參事官文部書記官拓殖務省書記官內務省神社局長官栃木縣知事關東都督府民政長官拓殖局長官等を經て大正七年製鐵所長官に轉ず同十三年之を辭し推されて日本郵船會社々長となり現時に至る傍ら前記各會社の重役を兼ぬ曩に東京商業會議所特別議員に推擧せらる家族は尚四男滿（大二、九生）五男保（同五、四生）五女鐵（同七、一〇生）同七、一〇

白田謙四郎

横濱仕譯、横濱倉庫（株）專屬鑑定、都宮德藏回漕店各（株）社長、國際運輸（株）專務取締役、榮組、日米運輸、横濱運輸、地下工業各（株）取締役、横濱共立倉庫、一ノ瀬回漕店各（株）鑑査役、運送業
熊本縣在籍

妻　ふく　明二三、九生、東京、中村美那私生子

君は熊本縣人白田伊八の長男にして明治十三年十一月を以て生れ同三十八年家督を相續す運送業を營み現時前掲各會社の重役に就任し曩に横濱商業會議所特別議員たり家族は尚庶子十一子（大一一、六生、母、神奈川、細谷テイ）あり弟均（明一九、九生）は分家し妹タカ（同二二、二生）は熊本縣人藤澤伊勢松弟黎吉に同ハツエ（同二五、四生）は神奈川縣人並木官之輔に嫁せり（横濱、中、本牧町二五〇〇電本局二九六八）

白田善四郎

正八位勲六等、新潟縣多額納稅者
甎城鐵道（株）取締役、新潟縣在籍
安政六、二生、新潟、野口善右衞門三女

養母　ツタ　明一二、一生、新潟、野口孝太郎三女
妻　タイ　明三九、一〇生
男　彌太郎　明三九、一〇生

君は新潟縣人千名法示の三男にして明治十六年一月を以て生れ後先代綿悟の養子となり同四十年家督を相續す現に甎城鐵道會社取締役にして新潟縣多額納稅者たり地方公共團體に盡す處多し（新潟、中甎城、明治村）

白瀧重右衞門

田村銀行（株）頭取、生野銀行（株）
鑑査役、兵庫縣在籍

妻　とく　明一一、六生、兵庫、鎌谷太兵衞長女
男　重喜　明三〇、一〇生
婦　千代　明三五、八生、長男重喜妻、兵庫、畑昌愷二女
男　牧　明三三、一一生

君は新潟縣人千名法示の三男にして明治十六年一月を以て生れ後先代綿悟の養子となり同四十年家督を相續す現に甎城鐵道會社取締役にして新潟縣多額納稅者、新潟商業會議所特別議員たり新潟水力電氣（株）取締役、日本石油（株）取締役、白勢合名（株）代表社員、新潟縣在籍

慶應二、六生、新潟、畠山敎德四女
妻　ハナ　明一六、一二生
男　量作　明三四、二生
女　元吉　明三八、一生
女　スエ　明三九、六生
女　ソウ　明三九、六生

白杉次郎太郎

従五位勲五等、資産家
東京府士族

母　澤　弘化三、五生、熊本、渡邊市門二女
妻　武子　明一〇、一二生、京都、富島元治妹
男　政德　明三三、六生
男　政民　明三五、三生

君は舊熊本藩士白杉政愛の長男にして明治二年九月を以て生れ大正十二年家督を相續す曩に鐵道省參事兼事務官たりしことあり亡父政愛は日本鐵道會社重役たりし人にして資産家として知らる家族は母四男政德（明四三、一二生）五男政孝（大二、一生）六男政英（同四、二生）七男政健（同五、六生）弟精一（明七、四生）同妻みき（同一三、九生、東京、岡田又一郎三女）及其子女あり同義雄（同一四、二生）は東京府士族松田富太孫章の婿養子となり妹操（同四、八生）は同府士族山際霜五郎に同年（同九、三生）は大分縣士族衞藤俊雄に嫁せり（東京市外日暮里町金杉一五三ノ二）電下谷五八〇六）

参照―木村剛、松田義雄の項

白塚大三郎

三重縣多額納稅者、松坂木綿（株）社長、松坂銀行、松坂鐵道、伊勢殖産、三重田版社各（株）取締役、三重合同電氣、服部商店各（株）鑑査役、綿布商、三重縣在籍

養祖母　ちゑ　嘉永五、七生、三重、岡田忠七三女
男　嘉一郎　明二九、九生
婦　つゆ　明三六、三生、長男嘉一郎妻、三重、堀内鶴雄四女

君は三重縣人間宮新助の長男にして明治二年七月を以て生れ同二十五年先代代三郎の養子となり家督を相續し前名萬次郎を改む三重縣多額納稅者にして綿布商を營む現に松坂木綿會社々長たる外前記各銀行會社の重役たり家族は尚孫博敏（大一三、二生、長男嘉一郎長男）同隆造（同一四、二生、同二男）同正三良（同一五、九生、同三男）の外叔母うの（明一三、一生）あり（三重、飯南、松坂町）

参照―堀内鶴雄の項

白土哲郎

正五位勲三等功五級、陸軍主計監、第十二師團經理部長
東京府在籍

妻　みよ　明一七、五生、青森、田澤如水二女
男　哲夫　明三二、六生
男　光夫　明四〇、一生

君は秋田縣人白土富江の二男にして明治五年三月を以て生れ同三十六年分家して一家を創立す夙に陸軍經理學校を卒業し同三十四年陸軍三等軍吏に任じ大正十四年陸軍主計監に累進す其間第八師團經理部々員陸軍大學校教官陸軍省經理局員陸軍大臣官房會計課長、第八師團經理部長等に歷任し現役日獨兩役に出征す現時第十二師團經理部長等に歷補し日露日獨兩役に出征す現時第十二師團經理部長たり家族は尚二女君子（大五、一〇生）四男志郎（同九、一一生）あり長女菊枝（明三七、一〇生）は島根縣人小泉有本三男精一に嫁せり（久留米、櫛原町二ノ三六）

白鳥喜四郎

埼玉縣多額納稅者、青物商
埼玉縣在籍

祖母　しげ　文久元、一〇生
母　まさ　明一〇、四生、埼玉、鈴木元藏長男

君は埼玉縣人先代喜四郎の二男にして同縣多額納稅者整司を改む青物商を營み埼玉縣多額納稅者たり現時東京帝國大學文學部敎授等に歷任す同三十四年史學研究の爲獨露各國に留學し大正三年東宮御學問所御用掛を仰せ付けられ同年二月を以て生れ明治四十三年帝國大學文學部敎授等に歷任す同三十四年史學研究の爲獨露各國に留學し大正三年東宮御學問所御用掛を仰せ付けられ同年二月を以て生れ明治十六年家督を相續す同二十三年帝國大學法科大學政治科を卒業し直に內務省に出仕し同二十四年內務省參事官に任ぜられ後北海道廳參事官文部書記官拓殖務省書記官內務省神社局長官栃木縣知事關東都督府民政長官拓殖局長官等を經て大正七年製鐵所長官に轉ず同十三年之を辭し推されて日本郵船會社々長となり現時に至る傍ら前記各會社の重役を兼ぬ曩に東京商業會議所特別議員に推擧せらる家族は尚四男滿（大二、九生）五男保（同五、四生）五女鐵（同七、一〇

白鳥庫吉

正三位勲二等、文學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽敎授
東京府在籍

妻　茂　明八、九生、東京、士、大村長衞女
養子　清　明二六、三生、鈴木元藏長男
女　君子　明二九、七生、養子清妻

君は千葉縣人白鳥斧藏の弟にして同縣元年一二月を以て生れ明治四十三年帝國大學文學部敎授等に歷任す同三十四年史學研究の爲獨露各國に留學し大正三年東宮御學問所御用掛を仰せ付けられ同年二月を以て生れ明治十六年家督を相續す同二十三年帝國大學法科大學政治科を卒業し直に內務省に出仕し同二十四年內務省參事官に任ぜられ後北海道廳參事官文部書記官拓殖務省書記官內務省神社局長官栃木縣知事關東都督府民政長官拓殖局長官等を經て大正七年製鐵所長官に轉ず同十三年之を辭し推されて日本郵船會社々長となり現時に至る傍ら前記各會社の重役を兼ぬ曩に東京商業會議所特別議員に推擧せらる家族は尚四男滿（大二、九生）五男保（同五、四生）五女鐵（同七、一〇生）同七、一〇

白田謙四郎

横濱仕譯、横濱倉庫（株）專屬鑑定、都宮德藏回漕店各（株）社長、國際運輸（株）專務取締役、榮組、日米運輸、横濱運輸、地下工業各（株）取締役、横濱共立倉庫、一ノ瀬回漕店各（株）鑑査役、運送業
熊本縣在籍

妻　ふく　明二三、九生、東京、中村美那私生子

君は熊本縣人白田伊八の長男にして明治十三年十一月を以て生れ同三十八年家督を相續す運送業を營み現時前掲各會社の重役に就任し曩に横濱商業會議所特別議員たり家族は尚庶子十一子（大一一、六生、母、神奈川、細谷テイ）あり弟均（明一九、九生）は分家し妹タカ（同二二、二生）は熊本縣人藤澤伊勢松弟黎吉に同ハツエ（同二五、四生）は神奈川縣人並木官之輔に嫁せり（横濱、中、本牧町二五〇〇電本局二九六八）

白田善四郎

正八位勲六等、新潟縣多額納稅者
甎城鐵道（株）取締役、新潟縣在籍
安政六、二生、新潟、野口善右衞門三女

養母　ツタ　明一二、一生、新潟、野口孝太郎三女
妻　タイ　明三九、一〇生
男　彌太郎　明三九、一〇生

君は新潟縣人千名法示の三男にして明治十六年一月を以て生れ後先代綿悟の養子となり同四十年家督を相續す現に甎城鐵道會社取締役にして新潟縣多額納稅者たり地方公共團體に盡す處多し（新潟、中甎城、明治村）

白瀧重右衞門

田村銀行（株）頭取、生野銀行（株）
鑑査役、兵庫縣在籍

妻　とく　明一一、六生、兵庫、鎌谷太兵衞長女
男　重喜　明三〇、一〇生
婦　千代　明三五、八生、長男重喜妻、兵庫、畑昌愷二女
男　牧　明三三、一一生

君は新潟縣人千名法示の三男にして明治十六年一月を以て生れ後先代綿悟の養子となり同四十年家督を相續す現に甎城鐵道會社取締役にして新潟縣多額納稅者、新潟商業會議所特別議員たり新潟水力電氣（株）取締役、日本石油（株）取締役、白勢合名（株）代表社員、新潟縣在籍

慶應二、六生、新潟、畠山敎德四女
妻　ハナ　明一六、一二生
男　量作　明三四、二生
女　元吉　明三八、一生
女　スエ　明三九、六生
女　ソウ　明三九、六生

白杉次郎太郎

従五位勲五等、資産家
東京府士族

母　澤　弘化三、五生、熊本、渡邊市門二女
妻　武子　明一〇、一二生、京都、富島元治妹
男　政德　明三三、六生
男　政民　明三五、三生

君は舊熊本藩士白杉政愛の長男にして明治二年九月を以て生れ大正十二年家督を相續す曩に鐵道省參事兼事務官たりしことあり亡父政愛は日本鐵道會社重役たりし人にして資産家として知らる家族は母四男政德（明四三、一二生）五男政孝（大二、一生）六男政英（同四、二生）七男政健（同五、六生）弟精一（明七、四生）同妻みき（同一三、九生、東京、岡田又一郎三女）及其子女あり同義雄（同一四、二生）は東京府士族松田富太孫章の婿養子となり妹操（同四、八生）は同府士族山際霜五郎に同年（同九、三生）は大分縣士族衞藤俊雄に嫁せり（東京市外日暮里町金杉一五三ノ二）電下谷五八〇六）

参照―木村剛、松田義雄の項

白塚大三郎

三重縣多額納稅者、松坂木綿（株）社長、松坂銀行、松坂鐵道、伊勢殖産、三重田版社各（株）取締役、三重合同電氣、服部商店各（株）鑑査役、綿布商、三重縣在籍

養祖母　ちゑ　嘉永五、七生、三重、岡田忠七三女
男　嘉一郎　明二九、九生
婦　つゆ　明三六、三生、長男嘉一郎妻、三重、堀内鶴雄四女

君は三重縣人間宮新助の長男にして明治二年七月を以て生れ同二十五年先代代三郎の養子となり家督を相續し前名萬次郎を改む三重縣多額納稅者にして綿布商を營む現に松坂木綿會社々長たる外前記各銀行會社の重役たり家族は尚孫博敏（大一三、二生、長男嘉一郎長男）同隆造（同一四、二生、同二男）同正三良（同一五、九生、同三男）の外叔母うの（明一三、一生）あり（三重、飯南、松坂町）

参照―堀内鶴雄の項

白土哲郎

正五位勲三等功五級、陸軍主計監、第十二師團經理部長
東京府在籍

妻　みよ　明一七、五生、青森、田澤如水二女
男　哲夫　明三二、六生
男　光夫　明四〇、一生

君は秋田縣人白土富江の二男にして明治五年三月を以て生れ同三十六年分家して一家を創立す夙に陸軍經理學校を卒業し同三十四年陸軍三等軍吏に任じ大正十四年陸軍主計監に累進す其間第八師團經理部々員陸軍大學校教官陸軍省經理局員陸軍大臣官房會計課長、第八師團經理部長等に歷任し現役日獨兩役に出征す現時第十二師團經理部長等に歷補し日露日獨兩役に出征す現時第十二師團經理部長たり家族は尚二女君子（大五、一〇生）四男志郎（同九、一一生）あり長女菊枝（明三七、一〇生）は島根縣人小泉有本三男精一に嫁せり（久留米、櫛原町二ノ三六）

白鳥喜四郎

埼玉縣多額納稅者、青物商
埼玉縣在籍

祖母　しげ　文久元、一〇生
母　まさ　明一〇、四生、埼玉、鈴木元藏長男

君は埼玉縣人先代喜四郎の二男にして同縣多額納稅者整司を改む青物商を營み埼玉縣多額納稅者たり現時東京帝國大學文學部敎授等に歷任す同三十四年史學研究の爲獨露各國に留學し大正三年東宮御學問所御用掛を仰せ付けられ同年二月を以て生れ明治四十三年帝國大學文學部敎授等に歷任す同三十四年史學研究の爲獨露各國に留學し大正三年東宮御學問所御用掛を仰せ付けられ同年二月を以て生れ明治十六年家督を相續す同二十三年帝國大學法科大學政治科を卒業し直に內務省に出仕し同二十四年內務省參事官に任ぜられ後北海道廳參事官文部書記官拓殖務省書記官內務省神社局長官栃木縣知事關東都督府民政長官拓殖局長官等を經て大正七年製鐵所長官に轉ず同十三年之を辭し推されて日本郵船會社々長となり現時に至る傍ら前記各會社の重役を兼ぬ曩に東京商業會議所特別議員に推擧せらる家族は尚四男滿（大二、九生）五男保（同五、四生）五女鐵（同七、一〇生）同七、一〇

白鳥庫吉

正三位勲二等、文學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽敎授
東京府在籍

妻　茂　明八、九生、東京、士、大村長衞女
養子　清　明二六、三生、鈴木元藏長男
女　君子　明二九、七生、養子清妻

君は千葉縣人白鳥斧藏の弟にして同縣元年一二月を以て生れ明治四十三年帝國大學文學部敎授等に歷任す同三十四年史學研究の爲獨露各國に留學し大正三年東宮御學問所御用掛を仰せ付けられ同年二月を以て生れ明治十六年家督を相續す同二十三年帝國大學法科大學政治科を卒業し直に內務省に出仕し同二十四年內務省參事官に任ぜられ後北海道廳參事官文部書記官拓殖務省書記官內務省神社局長官栃木縣知事關東都督府民政長官拓殖局長官等を經て大正七年製鐵所長官に轉ず同十三年之を辭し推されて日本郵船會社々長となり現時に至る傍ら前記各會社の重役を兼ぬ曩に東京商業會議所特別議員に推擧せらる家族は尚四男滿（大二、九生）五男保（同五、四生）五女鐵（同七、一〇生）同七、一〇

白田謙四郎

横濱仕譯、横濱倉庫（株）專屬鑑定、都宮德藏回漕店各（株）社長、國際運輸（株）專務取締役、榮組、日米運輸、横濱運輸、地下工業各（株）取締役、横濱共立倉庫、一ノ瀬回漕店各（株）鑑査役、運送業
熊本縣在籍

妻　ふく　明二三、九生、東京、中村美那私生子

君は熊本縣人白田伊八の長男にして明治十三年十一月を以て生れ同三十八年家督を相續す運送業を營み現時前掲各會社の重役に就任し曩に横濱商業會議所特別議員たり家族は尚庶子十一子（大一一、六生、母、神奈川、細谷テイ）あり弟均（明一九、九生）は分家し妹タカ（同二二、二生）は熊本縣人藤澤伊勢松弟黎吉に同ハツエ（同二五、四生）は神奈川縣人並木官之輔に嫁せり（横濱、中、本牧町二五〇〇電本局二九六八）

白田善四郎

正八位勲六等、新潟縣多額納稅者
甎城鐵道（株）取締役、新潟縣在籍
安政六、二生、新潟、野口善右衞門三女

養母　ツタ　明一二、一生、新潟、野口孝太郎三女
妻　タイ　明三九、一〇生
男　彌太郎　明三九、一〇生

君は新潟縣人千名法示の三男にして明治十六年一月を以て生れ後先代綿悟の養子となり同四十年家督を相續す現に甎城鐵道會社取締役にして新潟縣多額納稅者たり地方公共團體に盡す處多し（新潟、中甎城、明治村）

白瀧重右衞門

田村銀行（株）頭取、生野銀行（株）
鑑査役、兵庫縣在籍

妻　とく　明一一、六生、兵庫、鎌谷太兵衞長女
男　重喜　明三〇、一〇生
婦　千代　明三五、八生、長男重喜妻、兵庫、畑昌愷二女
男　牧　明三三、一一生

君は新潟縣人千名法示の三男にして明治十六年一月を以て生れ後先代綿悟の養子となり同四十年家督を相續す現に甎城鐵道會社取締役にして新潟縣多額納稅者、新潟商業會議所特別議員たり新潟水力電氣（株）取締役、日本石油（株）取締役、白勢合名（株）代表社員、新潟縣在籍

慶應二、六生、新潟、畠山敎德四女
妻　ハナ　明一六、一二生
男　量作　明三四、二生
女　元吉　明三八、一生
女　スエ　明三九、六生
女　ソウ　明三九、六生

白杉次郎太郎

従五位勲五等、資産家
東京府士族

母　澤　弘化三、五生、熊本、渡邊市門二女
妻　武子　明一〇、一二生、京都、富島元治妹
男　政德　明三三、六生
男　政民　明三五、三生

君は舊熊本藩士白杉政愛の長男にして明治二年九月を以て生れ大正十二年家督を相續す曩に鐵道省參事兼事務官たりしことあり亡父政愛は日本鐵道會社重役たりし人にして資産家として知らる家族は母四男政德（明四三、一二生）五男政孝（大二、一生）六男政英（同四、二生）七男政健（同五、六生）弟精一（明七、四生）同妻みき（同一三、九生、東京、岡田又一郎三女）及其子女あり同義雄（同一四、二生）は東京府士族松田富太孫章の婿養子となり妹操（同四、八生）は同府士族山際霜五郎に同年（同九、三生）は大分縣士族衞藤俊雄に嫁せり（東京市外日暮里町金杉一五三ノ二）電下谷五八〇六）

参照―木村剛、松田義雄の項

白塚大三郎

三重縣多額納稅者、松坂木綿（株）社長、松坂銀行、松坂鐵道、伊勢殖産、三重田版社各（株）取締役、三重合同電氣、服部商店各（株）鑑査役、綿布商、三重縣在籍

養祖母　ちゑ　嘉永五、七生、三重、岡田忠七三女
男　嘉一郎　明二九、九生
婦　つゆ　明三六、三生、長男嘉一郎妻、三重、堀内鶴雄四女

君は三重縣人間宮新助の長男にして明治二年七月を以て生れ同二十五年先代代三郎の養子となり家督を相續し前名萬次郎を改む三重縣多額納稅者にして綿布商を營む現に松坂木綿會社々長たる外前記各銀行會社の重役たり家族は尚孫博敏（大一三、二生、長男嘉一郎長男）同隆造（同一四、二生、同二男）同正三良（同一五、九生、同三男）の外叔母うの（明一三、一生）あり（三重、飯南、松坂町）

参照―堀内鶴雄の項

白土哲郎

正五位勲三等功五級、陸軍主計監、第十二師團經理部長
東京府在籍

妻　みよ　明一七、五生、青森、田澤如水二女
男　哲夫　明三二、六生
男　光夫　明四〇、一生

君は秋田縣人白土富江の二男にして明治五年三月を以て生れ同三十六年分家して一家を創立す夙に陸軍經理學校を卒業し同三十四年陸軍三等軍吏に任じ大正十四年陸軍主計監に累進す其間第八師團經理部々員陸軍大學校教官陸軍省經理局員陸軍大臣官房會計課長、第八師團經理部長等に歷任し現役日獨兩役に出征す現時第十二師團經理部長等に歷補し日露日獨兩役に出征す現時第十二師團經理部長たり家族は尚二女君子（大五、一〇生）四男志郎（同九、一一生）あり長女菊枝（明三七、一〇生）は島根縣人小泉有本三男精一に嫁せり（久留米、櫛原町二ノ三六）

白鳥喜四郎

埼玉縣多額納稅者、青物商
埼玉縣在籍

祖母　しげ　文久元、一〇生
母　まさ　明一〇、四生、埼玉、鈴木元藏長男

君は埼玉縣人先代喜四郎の二男にして同縣多額納稅者整司を改む青物商を營み埼玉縣多額納稅者たり現時東京帝國大學文學部敎授等に歷任す同三十四年史學研究の爲獨露各國に留學し大正三年東宮御學問所御用掛を仰せ付けられ同年二月を以て生れ明治四十三年帝國大學文學部敎授等に歷任す同三十四年史學研究の爲獨露各國に留學し大正三年東宮御學問所御用掛を仰せ付けられ同年二月を以て生れ明治十六年家督を相續す同二十三年帝國大學法科大學政治科を卒業し直に內務省に出仕し同二十四年內務省參事官に任ぜられ後北海道廳參事官文部書記官拓殖務省書記官內務省神社局長官栃木縣知事關東都督府民政長官拓殖局長官等を經て大正七年製鐵所長官に轉ず同十三年之を辭し推されて日本郵船會社々長となり現時に至る傍ら前記各會社の重役を兼ぬ曩に東京商業會議所特別議員に推擧せらる家族は尚四男滿（大二、九生）五男保（同五、四生）五女鐵（同七、一〇生）同七、一〇

白鳥庫吉

正三位勲二等、文學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽敎授
東京府在籍

妻　茂　明八、九生、東京、士、大村長衞女
養子　清　明二六、三生、鈴木元藏長男
女　君子　明二九、七生、養子清妻

君は千葉縣人白鳥斧藏の弟にして同縣元年一二月を以て生れ明治四十三年帝國大學文學部敎授等に歷任す同三十四年史學研究の爲獨露各國に留學し大正三年東宮御學問所御用掛を仰せ付けられ同年二月を以て生れ明治十六年家督を相續す同二十三年帝國大學法科大學政治科を卒業し直に內務省に出仕し同二十四年內務省參事官に任ぜられ後北海道廳參事官文部書記官拓殖務省書記官內務省神社局長官栃木縣知事關東都督府民政長官拓殖局長官等を經て大正七年製鐵所長官に轉ず同十三年之を辭し推されて日本郵船會社々長となり現時に至る傍ら前記各會社の重役を兼ぬ曩に東京商業會議所特別議員に推擧せらる家族は尚四男滿（大二、九生）五男保（同五、四生）五女鐵（同七、一〇生）同七、一〇

白田謙四郎

横濱仕譯、横濱倉庫（株）專屬鑑定、都宮德藏回漕店各（株）社長、國際運輸（株）專務取締役、榮組、日米運輸、横濱運輸、地下工業各（株）取締役、横濱共立倉庫、一ノ瀬回漕店各（株）鑑査役、運送業
熊本縣在籍

當家は先々代多助より家名を揚ぐ多助夙に埼玉縣令として名あり君は先代勝次郎の長男にして男爵白根松介同百合介の從兄に方り明治十六年五月を以て生れ大正三年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格し爾來靜岡縣屬兼同警視同理事官同警部靜岡縣内務部長山梨山形各縣警察部長岐阜京都東京各府縣内務部長岐阜石川各縣知事等に歷補し昭和二年現職當山縣知事に轉ず家族は尚二男不二男二生）二女美枝子（同八、一二生）三男斐夫（同五、八生）四男勝臣（同六、一生）五男清介（同一一、一二生）六男重男（同一四、四生）あり姉松子（明一〇、九生）は故衆議院議員下岡忠治の末亡人にして妹梅子は河野全二に同秀子（同二三、一二生）は前鐵道省運輸局長種田虎雄に嫁せり（當山市知事官舍）

參照―男爵白根松介、合介宗小河正儀※河崎三五郎※斯波孝四郎の項

白根松介　正四位勳四等、男爵、宮内事務官　大臣官房庶務課長兼祕書課長　東京府華族

安政二、五生、千葉、士、寺田一尾三女

母　ツタ

妻　喜美子　明二九、三生、茨城、金澤仙四郎長女

男　精一　大九、三生

當家は先代專一より顯る專一は舊山口藩士白根多助の二男にして分れて一家を創立す明治五年司法省に出仕し爾來秋田縣大書記官内務大書記官總務局次長兵庫縣知事内務次官宮中顧問官兼内藏頭遞信大臣等に歷任し明治三十年勳功に依り華族に列し同三十一年海軍少尉に任じ大正十四年海軍中將に累進す其間三笠艦閉各分隊長として日露戰役に參加し功あり功五級金鵄勳章を賜ふ明治四十二年海軍大學校を卒業し爾來海軍軍令部參謀千歲比叡石見各艦長軍令部副官吳海軍鎭守府附第一艦隊參謀兼艦隊參謀長海軍省教育局長海軍兵學校長等に歷補し昭和二年十二月豫備役編入被仰付家族は尚長女靖子（大八、五生）二女良子（同一三、一〇生）あり弟貞介（明一七、一生）同妻スエ（同二六、四生、山口、士、黑川勇熊三女）及弟强介（同二五、一生）は各分家し弟秀輔（同二九、五生）は東京府人山脇房子養子春樹の養子となり妹龍（同三二、一一生）は兵庫縣人中野莞二に嫁せり（山口、豐浦、長府町）

參照―山脇房子巽章刈小太郎の項

白根竹介　從四位勳三等、富山縣知事　山口縣士族

繼母　ミツ

妻　末喜枝　明二四、四生、山口、士、小田伴輔長女、跡見女學校出身

男　春助　大二、一〇生

女　登代子　大元、八生

文久二、一二生、山口、士、原田宣治姉

（同一八、一〇生）は東京府人斯波孝四郎に嫁せり（東京、麴町、一番町四官舍電九段六一六）

參照―金塚仙四郎、斯波孝四郎、白根竹介、白根百合介※伊吹震の項

白根松介　正四位勳四等、男爵、宮内事務官　大臣官房庶務課長兼祕書課長　東京府華族

安政二、五生、千葉、士、寺田一尾三女

母　ツタ

妻　喜美子　明二九、三生、茨城、金澤仙四郎長女

男　精一　大九、三生

當家は先代專一より顯る專一は舊山口藩士白根多助の二男にして分れて一家を創立す明治五年司法省に出仕し爾來秋田縣大書記官内務大書記官總務局次長兵庫縣知事内務次官宮中顧問官兼内藏頭遞信大臣等に歷任し明治三十年勳功に依り華族に列し同三十一年海軍少尉に任じ大正十四年海軍中將に累進す其間三笠艦閉各分隊長として日露戰役に參加し功あり功五級金鵄勳章を賜ふ明治四十二年海軍大學校を卒業し爾來海軍軍令部參謀千歲比叡石見各艦長軍令部副官吳海軍鎭守府附第一艦隊參謀兼艦隊參謀長海軍省教育局長海軍兵學校長等に歷補し昭和二年十二月豫備役編入被仰付家族は尚長女靖子（大八、五生）二女良子（同一三、一〇生）あり弟貞介（明一七、一生）同妻スエ（同二六、四生、山口、士、黑川勇熊三女）及弟强介（同二五、一生）は各分家し弟秀輔（同二九、五生）は東京府人山脇房子養子春樹の養子となり妹龍（同三二、一一生）は兵庫縣人中野莞二に嫁せり（山口、豐浦、長府町）

參照―山脇房子巽章刈小太郎の項

白根竹介　從四位勳三等、富山縣知事　山口縣士族

繼母　ミツ

妻　末喜枝　明二四、四生、山口、士、小田伴輔長女、跡見女學校出身

男　春助　大二、一〇生

女　登代子　大元、八生

文久二、一二生、山口、士、原田宣治姉

白根熊三　正四位勳二等功五級、豫備海軍中將、山口縣士族

母　ハル

妻　ハツ　勇熊長女

男　立太郎　大五、一二生

君は山口縣士族白根孝造の二男にして明治九年一月を以て生れ大正二年家督を相續す明治三十年海軍兵學校を卒業し同三十一年海軍少尉に任じ大正十四年海軍中將に累進す其間三笠艦閉各分隊長として日露戰役に參加し功あり功五級金鵄勳章を賜ふ明治四十二年海軍大學校を卒業し爾來海軍軍令部參謀千歲比叡石見各艦長軍令部副官吳海軍鎭守府附第一艦隊參謀兼艦隊參謀長海軍省教育局長海軍兵學校長等に歷補し昭和二年十二月豫備役編入被仰付家族は尚長女靖子（大八、五生）二女良子（同一三、一〇生）あり弟貞介（明一七、一生）同妻スエ（同二六、四生、山口、士、黑川勇熊三女）及弟强介（同二五、一生）は各分家し弟秀輔（同二九、五生）は東京府人山脇房子養子春樹の養子となり妹龍（同三二、一一生）は兵庫縣人中野莞二に嫁せり（山口、豐浦、長府町）

參照―山脇房子巽章刈小太郎の項

白根百合介　藤田銀行（株）博勞町支店長　東京府華族

妻　カツエ　明二四、七生、德島、高橋要姉、德島高等女學校出身

男　太郎　大一二、五生

君は故男爵白根專一の四男當主松介の弟にして白根竹介の從弟に當り明治二十二年八月を以て生る大正五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し後大阪藤田組に入り現時藤田銀行博勞町支店長たり家族は尚長女多美子（大一四、一二生）あり（大阪、中河内、布施町）

參照―男爵白根松介、白根竹介※種田虎雄※斯波孝四郎の項

白野啓助　婁太製絲（株）常務取締役　岐阜縣士族

養母　つね　嘉永四、七生、岐阜、洲崎和吉二女

妻　いと　明七、一〇生、岐阜、直井佐兵衞妹

男　啓一郎　大七、一生

女　朝子　明四一、一〇生

君は岐阜縣人江馬彌平の三男にして明治十四年二月を以て生れ先代啓助の養子となり同三十四年家督を相續す現時婁太製絲會社常務取締役たり家族は尚三女三代子（大三、三生）四男壽一（同九、一一生）四女智子（同一三、三生）あり（岐阜、養老、高田町）

白波瀨季次郎　京都府多額納稅者、鑑屋、菓子商　京都府在籍

妻　とみ　明二、七生、京都、松田熊吉妹

男　季一　明三四、一生、慶應義塾大學在學

婿　ひさ　明三八、三生、長男季一妻、東京、安田松慶長女

男　次郎　明三七、九生、慶應義塾大學在學

男　三郎　明四〇、五生、第三高等學校理科在學

白波瀨家は元丹波國に定住せしが先代市兵衞に至り京都に移る君は其長男にして明治元年二月を以て生れ同十年家督を相續す家代々槙木職を渡世とし君また組業を繼承して一時是に從事せしが中年轉じて東京に赴き菓子製造の實技を見習ひ歸京して菓子商を開業す偶々明治四十三年元祿時代よりの老舖たる鑑屋事西松米三郎の業を廢するに當り其一切を讓り受け爾來日を遂ふて繁盛となり今日の大を爲すに至る現に京都府多額納稅者たり家族は尚男四男四郎（明四三、五生）あり長女福（同三〇、七生）は京都府人太田久次郎に姪なを（同一二、八生）は滋賀縣人澤村與三吉弟房吉に嫁せり（京都、上京、寺町通二條下妙滿寺前町四四電上二二九五）

白水淡　從三位勳一等功二級、後備陸軍中將、福岡縣在籍

妻　百々代　明五、九生、二宮五平二女

男　臺蔵　明三二、四生

男　鋼兵　明四〇、一二生

女　朴子　明四三、五生

君は福岡縣人白水喜一の二男にして文久三年六月を以て生れ明治三十七年分家して一家を創立す同二十年陸軍步兵少尉に任じ大正六年陸軍中將に累進す其間日清戰役に步兵第六旅團副官として出征し後臺灣總督府陸軍參謀第十一第七各師團參謀に歷補し日露戰役に步兵少佐にて出征し步兵第三十五聯隊長となり凱旋す其功に依り勳三等に叙し功級を賜ひ後步兵第七聯隊長第九師團參謀長步兵第十二旅團長朝鮮駐劄軍參謀長下關要塞司令官第十二師團留守師團長第十四師團長等に歷補し西伯利亞に出征し勳一等旭日大綬章及功二級金鵄勳章を賜ふ大正十年豫備役に入り現時後備役に屬す家族は尚三男正三（大三、二生）四女正枝（同七、九生）あり長女達（明三四、二生）は高知縣人村山昇に嫁せり（福岡、筑紫、春日村）

白柳治　遠州銀行、引佐繊布各（株）取締役　靜岡縣在籍

妻　せん　慶應三、一生、靜岡、鈴木直三郎妹

養子　千秋　明二六、七生、靜岡、西尾寬弟

婿養子　あい子　明三六、八生、養子千秋妻、靜岡、和田壹朗妹

君は靜岡縣人白柳治郎七の長男にして文久元年十月を以て生れ明治十六年家督を相續す翌年分家に際し其頭取に推さる現時前記銀行會社の重役たり家族は尚男二男に方り明治十六年五月を以て生れ大正三年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格し爾來靜岡縣屬兼同警視同理事官同警部靜岡縣内務部長山梨山形各縣警察部長岐阜京都東京各府縣内務部長岐阜石川各縣知事等に歷補し昭和二年現職當山縣知事に轉ず家族は尚二男不二男二生）二女美枝子（同八、一二生）三男斐夫（同五、八生）四男勝臣（同六、一生）五男清介（同一一、一二生）六男重男（同一四、四生）あり姉松子（明一〇、九生）は故衆議院議員下岡忠治の末亡人にして妹梅子は河野全二に同秀子（同二三、一二生）は前鐵道省運輸局長種田虎雄に嫁せり（當山市知事官舍）

參照―男爵白根松介、小田伴輔、種田虎雄、白根百合介宗小河正儀※河崎三五郎※斯波孝四郎の項

白根松介　正四位勳四等、男爵、宮内事務官　大臣官房庶務課長兼祕書課長　東京府華族

安政二、五生、千葉、士、寺田一尾三女

母　ツタ

妻　喜美子　明二九、三生、茨城、金澤仙四郎長女

男　精一　大九、三生

當家は先代專一より顯る專一は舊山口藩士白根多助の二男にして分れて一家を創立す明治五年司法省に出仕し爾來秋田縣大書記官内務大書記官總務局次長兵庫縣知事内務次官宮中顧問官兼内藏頭遞信大臣等に歷任し明治三十年勳功に依り華族に列し同三十一年海軍少尉に任じ大正十四年海軍中將に累進す其間三笠艦閉各分隊長として日露戰役に參加し功あり功五級金鵄勳章を賜ふ明治四十二年海軍大學校を卒業し爾來海軍軍令部參謀千歲比叡石見各艦長軍令部副官吳海軍鎭守府附第一艦隊參謀兼艦隊參謀長海軍省教育局長海軍兵學校長等に歷補し昭和二年十二月豫備役編入被仰付家族は尚長女靖子（大八、五生）二女良子（同一三、一〇生）あり弟貞介（明一七、一生）同妻スエ（同二六、四生、山口、士、黑川勇熊三女）及弟强介（同二五、一生）は各分家し弟秀輔（同二九、五生）は東京府人山脇房子養子春樹の養子となり妹龍（同三二、一一生）は兵庫縣人中野莞二に嫁せり（山口、豐浦、長府町）

參照―山脇房子巽章刈小太郎の項

白根竹介　從四位勳三等、富山縣知事　山口縣士族

繼母　ミツ

妻　末喜枝　明二四、四生、山口、士、小田伴輔長女、跡見女學校出身

男　春助　大二、一〇生

女　登代子　大元、八生

文久二、一二生、山口、士、原田宣治姉

白根熊三　正四位勳二等功五級、豫備海軍中將、山口縣士族

母　ハル

妻　ハツ　勇熊長女

男　立太郎　大五、一二生

君は山口縣士族白根孝造の二男にして明治九年一月を以て生れ大正二年家督を相續す明治三十年海軍兵學校を卒業し同三十一年海軍少尉に任じ大正十四年海軍中將に累進す其間三笠艦閉各分隊長として日露戰役に參加し功あり功五級金鵄勳章を賜ふ明治四十二年海軍大學校を卒業し爾來海軍軍令部參謀千歲比叡石見各艦長軍令部副官吳海軍鎭守府附第一艦隊參謀兼艦隊參謀長海軍省教育局長海軍兵學校長等に歷補し昭和二年十二月豫備役編入被仰付家族は尚長女靖子（大八、五生）二女良子（同一三、一〇生）あり弟貞介（明一七、一生）同妻スエ（同二六、四生、山口、士、黑川勇熊三女）及弟强介（同二五、一生）は各分家し弟秀輔（同二九、五生）は東京府人山脇房子養子春樹の養子となり妹龍（同三二、一一生）は兵庫縣人中野莞二に嫁せり（山口、豐浦、長府町）

參照―山脇房子巽章刈小太郎の項

白水淡　從三位勳一等功二級、後備陸軍中將、福岡縣在籍

妻　百々代　明五、九生、二宮五平二女

男　臺蔵　明三二、四生

男　鋼兵　明四〇、一二生

女　朴子　明四三、五生

君は福岡縣人白水喜一の二男にして文久三年六月を以て生れ明治三十七年分家して一家を創立す同二十年陸軍步兵少尉に任じ大正六年陸軍中將に累進す其間日清戰役に步兵第六旅團副官として出征し後臺灣總督府陸軍參謀第十一第七各師團參謀に歷補し日露戰役に步兵少佐にて出征し步兵第三十五聯隊長となり凱旋す其功に依り勳三等に叙し功級を賜ひ後步兵第七聯隊長第九師團參謀長步兵第十二旅團長朝鮮駐劄軍參謀長下關要塞司令官第十二師團留守師團長第十四師團長等に歷補し西伯利亞に出征し勳一等旭日大綬章及功二級金鵄勳章を賜ふ大正十年豫備役に入り現時後備役に屬す家族は尚三男正三（大三、二生）四女正枝（同七、九生）あり長女達（明三四、二生）は高知縣人村山昇に嫁せり（福岡、筑紫、春日村）

白柳治　遠州銀行、引佐繊布各（株）取締役　靜岡縣在籍

妻　せん　慶應三、一生、靜岡、鈴木直三郎妹

養子　千秋　明二六、七生、靜岡、西尾寬弟

婿養子　あい子　明三六、八生、養子千秋妻、靜岡、和田壹朗妹

君は靜岡縣人白柳治郎七の長男にして文久元年十月を以て生れ明治十六年家督を相續す翌年分家に際し其頭取に推さる現時前記銀行會社の重役たり家族は尚男二男に方り明治十六年五月を以て生れ大正三年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格し爾來靜岡縣屬兼同警視同理事官同警部靜岡縣内務部長山梨山形各縣警察部長岐阜京都東京各府縣内務部長岐阜石川各縣知事等に歷補し昭和二年現職當山縣知事に轉ず家族は尚二男不二男二生）二女美枝子（同八、一二生）三男斐夫（同五、八生）四男勝臣（同六、一生）五男清介（同一一、一二生）六男重男（同一四、四生）あり姉松子（明一〇、九生）は故衆議院議員下岡忠治の末亡人にして妹梅子は河野全二に同秀子（同二三、一二生）は前鐵道省運輸局長種田虎雄に嫁せり（當山市知事官舍）

參照―男爵白根松介、小田伴輔、種田虎雄、白根百合介宗小河正儀※河崎三五郎※斯波孝四郎の項

白根松介　正四位勳四等、男爵、宮内事務官　大臣官房庶務課長兼祕書課長　東京府華族

安政二、五生、千葉、士、寺田一尾三女

母　ツタ

妻　喜美子　明二九、三生、茨城、金澤仙四郎長女

男　精一　大九、三生

當家は先代專一より顯る專一は舊山口藩士白根多助の二男にして分れて一家を創立す明治五年司法省に出仕し爾來秋田縣大書記官内務大書記官總務局次長兵庫縣知事内務次官宮中顧問官兼内藏頭遞信大臣等に歷任し明治三十年勳功に依り華族に列し同三十一年海軍少尉に任じ大正十四年海軍中將に累進す其間三笠艦閉各分隊長として日露戰役に參加し功あり功五級金鵄勳章を賜ふ明治四十二年海軍大學校を卒業し爾來海軍軍令部參謀千歲比叡石見各艦長軍令部副官吳海軍鎭守府附第一艦隊參謀兼艦隊參謀長海軍省教育局長海軍兵學校長等に歷補し昭和二年十二月豫備役編入被仰付家族は尚長女靖子（大八、五生）二女良子（同一三、一〇生）あり弟貞介（明一七、一生）同妻スエ（同二六、四生、山口、士、黑川勇熊三女）及弟强介（同二五、一生）は各分家し弟秀輔（同二九、五生）は東京府人山脇房子養子春樹の養子となり妹龍（同三二、一一生）は兵庫縣人中野莞二に嫁せり（山口、豐浦、長府町）

參照―山脇房子巽章刈小太郎の項

白根竹介　從四位勳三等、富山縣知事　山口縣士族

繼母　ミツ

妻　末喜枝　明二四、四生、山口、士、小田伴輔長女、跡見女學校出身

男　春助　大二、一〇生

女　登代子　大元、八生

文久二、一二生、山口、士、原田宣治姉

白山善五郎　慶應義塾法律科を卒業し直に山口銀行に入り現に本店營業部長代理たる傍ら白山殖産會社取締役を兼ぬ家族は尚長女喜久（大七、二生）二男武次郎（同一〇、九生）三男勝三（同一一、一〇生）四男邦四郎（同一三、一二生）の外弟三郎（明二九、八生）同妻艶（同三四、九生、京都、西羽善一郎姉）あり長兄清太郎（同一七、八生）は宗家白山家を繼ぎ善五郎と改名して當主たり（兵庫、武庫、六甲村八幡字櫻口一ノ三電二八七）

參照―白山善五郎、平瀨愛雄※木村貓三郎の項

素木得一　正五位勳四等、農學博士、臺灣總督府臺北高等農林學校教授　北海道在籍

母　ゆき　慶應元、三生、北海道、士、原直三郎妹

妻　讃　明一九、六生、北海道、森田宇吉郎二女

男　洋一　大三、三生

君は北海道人素木岫雲の長男にして明治十五年三月を以て生れ同三十二年家督を相續す同三十九年札幌農學校を卒業し同校助教授臺灣總督府鳴訖同府技師等に歷任し同四十二年米國に差遣せられ大正二年再び歐米各國に出張し同六年農學博士の學位を受く同十年中央試驗所技師となり同十五年臺灣總督府高等農林學校教授兼中央試驗所技師に任ぜられ現時前揭の職に在り家族は尚長女尙子（大八、一生）二女香子（同九、九生）三女陽子（同一三、八生）四女京子（同一五、六生）及び弟卓二（明二四、六生）あり（臺北高等農林學校内）

參照―※平塚直治の項

代田市郎　信産銀行（株）取締役　長野縣在籍

養母　よし　弘化二、一生、長野、中島增造二女

妻　てい　明一九、四生、養母よし二女

男　治　明四四、八生

女　貞子　明四一、一〇生

君は長野縣人市瀨鎌吉の三男にして明治十八年十二月を以て生れ後先代よしの養子となり大正五年家督を相續す現に信産銀行取締役たり家族は尚二男利彦（大三、四生）二女信子（同五、七生）三男武郎（同七、八生）五男明郎（同九、二生）三女編生（同一一、四生）六男克彦（同一三、四生）あり（長野、下伊那、飯田町）

白山茂次郎　白山殖産（株）取締役、山口銀行（株）營業部長代理、兵庫縣在籍

妻　明二九、二生、京都、平瀨愛雄妹

男　孝一　明三七、一二生

君は長崎縣人根緒三郎の二男にして明治十八年家督を相續す現に信産銀行取締役たり家族は尚長女信子（大三、四生）二女信子（同五、七生）三男武郎（同七、八生）五男明郎（同九、二生）三女編生（同一一、四生）六男克彦（同一三、四生）あり（長野、下伊那、飯田町）

代田千章　長野縣多額納稅者、農業
養母　かな乃　長野縣在籍　明三、八生、長野、後藤大助姉
妻　モトイ　明三六、一二生、長野、後藤大助二女
男　敬一郎　大一〇、一二生
君は長野縣人竹村大助の五男にして森本州平の弟なり明治二十六年二月を以て生れ大正十年先代ふみの入夫となり家督を相續す農業を營み長野縣多額納稅者たり家族は尙二男章夫(大一四、七生)あり(長野、上伊那、宮田村)
參照＝森本州平※上松彦太郎※田中太三郎の項

信太儀右衞門　龍代酒造(株)社長、山本郡聯合青年團長(農業)、秋田縣在籍
祖母　フサ　嘉永五、四生、秋田、小林重右衞門妹
繼母　ユキ　明七、八生、秋田、成田直範妹
妻　久子　明二二、一生、秋田、兒玉要助長女、日本女子大學校家政科出身
男　不二雄　明四四、一〇生
信太家は菅原道眞の後胤にして藩祖佐竹氏と共に常陸より秋田に入り未開の土地を開拓し殊に殖林事業に功勞ありしを以て苗字帶刀を許されたる舊家なり君は先代鶴治の長男にして明治十五年十一月を以て生れ大正三年家督を相續し前名隆治を改む北海道帝國大學農科大學及早稻田大學の出身たり繼業農を繼承する傍ら前記會社の重役たり大正十三年鄕黨より推されて衆議院議員に當選し又金岡村長縣會議員等に擧げらるる家族は尙長女香代子(大四、三生)弟準治(明三四、三生)其妻美代(同四〇、六生、秋田、北林茂義妹)との間に一女ある外同民治(同三七、八生)あり妹忠(同三〇、六生)は秋田縣人館岡英太郎に嫁し弟昌義(同二一、一一生)は同縣人荒川榮に同指郎(同一九、一一生)は同縣人泉すみに各入夫となり同其親(同二四、六生)同昌訓(同二七、一二生)は各分家せり(秋田、山本、金岡村)
參照＝兒玉要助※若槻禮次郎の項

信夫淳平　從四位勳三等、法學博士、新愛知新聞社(資)主筆參事、東京府在籍
妻　靜子　明一七、八生、東京、土岐裕二女
男　韓一郎　明三三、七生
男　滿二郎　明四〇、九生
君は東京府人信夫恕軒の長男にして明治四年九月を以て生れ同四十三年家督を相續す同二十七年東京高等商業學校を卒業し外交官及領事官試驗に合格領事官大使館補公使館三等書記官仁川理事廳理事官等書記官同二等書記官等に歷任し後官を辭し一等書記官總領事大使館參事官等に歷任し後官を辭し現時前記の職に在り養母かなゑ(明三、八生、長野、後藤大助姉)弟敬造(明九、一生、長野、後藤大助二女)及其三女あり(東京市外落合町下落合一三二)電牛込一八六六)

眞鐵太郎　靜岡縣多額納稅者、農業
靜岡縣在籍　明六、五生、靜岡、井上彥左衞門妹
妻　よね　大一二、六生、亡長男彌壽太郎二男
孫　靜夫　明三四、八生、亡長男彌壽太郎妻、靜岡、山田伊之助四女
君は靜岡縣人眞彌次太郎の長男にして慶應二年三月を以て生れ明治二十一年家督を相續す農業を營み靜岡縣多額納稅者たり家族は尙孫くす(明一二、二生)あり長女その(同二二、七生)は東京府人藤田福太郎に妹あい(同元、九生)は靜岡縣人伏見道太郎に嫁し弟勝次郎(同五、九生)は同縣人齋藤ことの入夫となれり(清水市)

眞貝寅太郎　從五位勳三等、陸軍一等主計正、第七師團經理部長、東京府士族
妻　久尾　明二一、七生、韮井、玉村傳五郎妹
男　正二　大元、九生
君は東京府士族眞貝忠篤の長男にして明治六年十月を以て生れ大正九年家督を相續す明治二十六年第一師團(入隊し後陸軍經理學校を卒業し同三十六年三等主計に任じ爾來累進して大正十五年一等主計歩兵第三聯隊(入隊し同年第一師團第二十師團經理部々員第三師團經理部長を經て現に第七師團經理部長たり家族は尙三男三郎(大四、一〇生)あり(旭川、第七師團經理部官舍)

眞銅和太郎　富田林銀行(株)取締役
大阪府在籍

眞保一輔　從五位、新潟高等學校教授、生徒監、新潟縣在籍
父　寅三郎　萬延元、一一生、現戶主
母　イス　慶應二、四生、新潟、日野田丈山六女
妻　サチ　明二五、一生、新潟、日野田耕太妹
男　謙一　大一五、七生
君は新潟縣人眞保寅三郎の長男にして明治二十年十二月を以て生る同四十五年東京帝國大學理科大學植物學科を卒業し大正八年新潟高等學校敎授に任じ生徒監を兼ね今日に至る家族は尙長女シヅ(大五、四生)二女キヨ(同八、三生)三女ミエ(同九、一〇生)五女エツ(同一三、一生)弟敬四郎(明二八、一生)同妻ヨシ(同三五、七生、新潟、湧井武次郎三女)及其一女同七治(同四一、七生)あり姉ミサヲ(同一八、一二生)は新潟縣人前記日野田耕太に妹ケン(同三〇、三生)は同縣人內山嘉一に嫁し弟讓平(同二四、三生)は同縣人近藤ツガの入夫となり同敬三郎(同二六、七生)は分家し同吾一(同三三、四生)も亦其妻セツ(同三二、一生、新潟、船井敬吉妹)と共に分家せり(新潟高等學校內)

進經太　母　道子　弘化四、二生、山口、士、植木五郎右衞門四女
緣介　男　明二九、七生、法學士、三井信託會社員

進士元　三重縣多額納稅者、農業
三重縣士族
妻　せつ　明一八、一二生、愛知、杉浦吉右衞門長女
男　信堅　明三七、三生
女　とし　明三九、一〇生
女　かず　明四〇、一〇生
君は三重縣士族進士信俊の二男にして明治十年十一月を以て生れ同三十五年家督を相續す農業を營み三重縣多額納稅者たり家族は尙二男信之(明四三、五生)三男道元(大三、六生)三女たか(同五、八生)四男重元(同七、一生)五男信昭(同九、九生)あり(三重、三重、鵜川原村)

進藤嘉三郎　エンパイヤランドリー(株)取締役
兵庫縣在籍

婦　英　明三九、一生、長男綠介妻、工學博士高城規一郎長女
男　誠二　明三一、一生、橫濱高等工業學校出身、汽車製造會社員
婦　鶴子　明四〇、二生、二男誠二妻、山口、士、矢島專平長女
女　文子　明四五、七生
君は故錦雄問藏候邇十六の長男にして糟谷陽二の兄なり元治元年七月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治十八年工部大學校機械工學科を卒業し同二十年工學研究の爲佛國に留學し造船學を修む次いで英國に轉じて機械工學を專攻し歸朝後石川島造船所に入り取締役兼支配人に擧げらるる日淸戰役に際し功あり勳六等に敍し瑞寶章を賜はる在職十餘年にして同社を辭し遞信省管船局及鐵道院の顧問を囑託せられ同三十五年工學博士の學位を受く後再び實業界に入り現時大日本電球會社取締役たり家族は尙三男英三(明四二、一生)孫喜久(昭二、九生、二男誠二長女)あり長女龍(明二五、六生、學習院女學部出身)は南滿洲鐵道會社副社長松岡洋右に二女園(同二七、一一生、出身校同上)は三井合名會社員法學士田村鐵輔に妹クマ(同一二、九生)は男爵斯波忠三郎に嫁せり(東京、赤坂、青山南町二ノ二六)電青山二五〇一)
參照＝男爵斯波忠三郎、糟谷陽二、高城規一郎、松岡陽右の項

進士信元　東京電力(株)常務取締役、東北電力(株)取締役、王子電氣軌道、東京瀨電氣各(株)鑑査役、東邦電力(株)囑託、山梨縣在籍
明二六、五生、滋賀、橫田佐右衞門妹
男　明三七、三生
男　信堅　明三九、一〇生
女　とし　明三九、一〇生
女　かず　明四〇、一〇生
君は三重縣士族進士信俊の二男にして明治十年十一月を以て生れ同三十五年家督を相續す農業を營み三重縣多額納稅者たり家族は尙二男信之(明四三、五生)三男道元(大三、六生)三女たか(同五、八生)四男重元(同七、一生)五男信昭(同九、九生)あり(三重、三重、鵜川原村)

進藤嘉三郎　エンパイヤランドリー(株)取締役
兵庫縣在籍

妻　ラク　明一四、九生、大阪、森本專助長女
男　静太郎　明三五、三生
女　ヤス　明三六、五生、神戶高等女學校出身
男　次郎　明三八、四生
男　復三　明三九、一二生
女　トク　明四二、三生
女　アイ　大元、二生
君は大阪府人進藤嘉七の長男にして明治六年十月を以て生れ同十八年分れて一家を創立す同三十五年大阪高等商業學校を卒業し日英商會に入り同社倫敦支店に在る事數年歸朝後獨立して洋酒兼に食料品商を創め後ち店舖を株式組織となし現にエンパイヤランドリー會社長たる外前記各會社の重役にして推されて秋田商工會議所議員たり家族は尙五男琢藏(大三、九生)あり住吉村反高林一八七六)電御影五六七)

進藤義輔　東洋製罐(株)取締役
山口縣士族
妻　喜代　明三、二生、現戶主
男　敏彦　明一二、九生、山口、士、桑原與三長女
君は山口縣士族桑原豐の弟にして明治二十四年十二月を以て生れ大正八年當主直喜の養子となる現時東洋製罐會社副社長松岡洋右に二女園(同二七、一一生、出身校同上)は三井合名會社員法學士田村鐵輔に妹クマ(同一二、九生)は男爵斯波忠三郎に嫁せり(東京、赤坂、青山南町二ノ二六)電青山二五〇一)
參照＝男爵斯波忠三郎、糟谷陽二、高城規一郎、松岡陽右の項

進士信元　東京電力(株)常務取締役、東北電力(株)取締役、王子電氣軌道、東京瀨電氣各(株)鑑査役、東邦電力(株)囑託、山梨縣在籍
明二六、五生、滋賀、橫田佐右衞門妹
男　明三七、三生
男　信堅　明三九、一〇生
女　とし　明三九、一〇生
女　かず　明四〇、一〇生
君は三重縣士族進士信俊の二男にして明治十年十一月を以て生れ同三十五年家督を相續す農業を營み三重縣多額納稅者たり家族は尙二男信之(明四三、五生)三男道元(大三、六生)三女たか(同五、八生)四男重元(同七、一生)五男信昭(同九、九生)あり(三重、三重、鵜川原村)

進藤嘉三郎　エンパイヤランドリー(株)取締役
兵庫縣在籍

進藤作之助　秋田商工會議所議員、秋田醸造(株)社長、秋田製板(株)常務取締役、秋田染織、秋田水力電氣各(株)取締役、秋田川水力電氣、秋田屋材木店各(株)鑑査役、秋田縣在籍
妻　ウメノ　明九、九生、秋田、高橋與三長女
男　作之丞　明二六、七生
婦　テイ　明二二、三生、進藤繁吉三女
女　ミツ　明四〇、三生
君は秋田縣人進藤平治の長男にして明治四年十一月を以て生れ同二十三年家督を相續す現時秋田醸造會社々長たる外前記各會社の重役にして推されて秋田商工會議所議員たり家族は尙二男正作(大元、九生)五女アキ(同四、一〇生)孫謙郎(同六、二生、長女ミヤ長男)同文夫(同一三、三生、長男作之丞二男)同瑠璃(同一五、四生、同長女)あり二女サタエ(明三三、六生)は秋田縣人守田隆三郎に三女ハル(同三六、一生)は同縣人片屋豐治に嫁し長女ミヤ(同二八、三生)は同夫和吉(同二五、二生、秋田、進藤作兵衞弟)と共に分家せり(秋田市龜ノ丁虎ノ口堀反新町六)

進藤貞章　第百二十銀行(株)取締役
茨城縣士族
養子　博　明三九、七生、茨城、中內寅次郎三男
君は茨城縣士族中內傳右衞門の三男にして弘化三年十一月を以て生れ先代量平の養子となり後家督を相續す現に第百二十銀行取締役たり長女ふじ(明一六、一生)は茨城縣人倉持峰吉長男庄吉に亡長男熊之助妻きみ(同一四、四生、茨城、倉持峰吉長女)は同縣人家田太兵衞に嫁せり(茨城、猿島、古河町)

進藤紫朗　日本油漕船(株)專務取締役
安政三、一生、兵庫、明石彌右衞門二女
母　鐙　明二七、六生、東京、松野廣藏五女
妻　ゆき　大二、六生
君は東京府人進藤春香の三男にして明治二十二年一月を以て生れ後進藤家に入り大正九年先代姪はるの後を承け家督を相續す先是明治四十四年關西大學專門部を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙第壳郎(明二五、一生)姪知惠(同三五、一二生、進藤春之助二女)

同京（同三七、一一生、同三女）同壽賀（同三九、一二生、同四女）あり（東京市外入新井町新井宿一一四六電大森一二七五）
參照＝※吉田長敬の項

進藤誠一
從五位勳四等、檢事、濱松區裁判所檢事兼靜岡地方裁判所濱松支部檢事、秋田縣在籍

妻　恭　明一六、一一生、秋田、中村復治長女
男　誠三　明四〇、九生
女　智子　明三六、一二生
女　敏子　明三八、九生
女　德子　明四二、九生

君は秋田縣人進藤トヨの長男にして明治十二年九月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治三十五年東京法學院を卒業し判檢事登用試驗に合格同三十八年判事に任じ岡崎區名古屋區同地方福井地方富山地方各裁判所判事を經て大正三年檢事に任じ爾來岐阜區同地方前橋區同地方高崎區栃木區宇都宮地方栃木支部宇都宮區同地方各裁判所檢事に歷補し大正十五年前記現職に轉ず家族は尙二男悟郎（明四五、五生）三男祿郎（大四、一二生）四男七郎（同七、六生）四女八重子（同一三、八生）あり（濱松、區裁判所官舍）

進藤誠一
正六位、遞信書記官兼復興局書記官、遞信省經理局需品課長　岡山縣士族

父　彌太郎　文久二、一〇生、現戶主
妻　雪　明三四、二生、理學博士藤井健次郎長女
男　隆夫　大一〇、四生

君は岡山縣士族進藤彌太郎の庶子にして明治二十二年八月を以て生る大正四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格し通信事務官補遞信局事務官補簡易保險局事務官同書記官遞信書記官兼復興局書記官等に歷任し其間簡易保險局積立金運用課長同規書課長同經理課長を經て現に遞信省經理局需品課長の職に在り曩に大正十四年米獨兩國へ出張を命ぜらる家族は尙長女淳子（大六、三生）二女康子（同八、三生）の外叔母壽世（明一一、九生）弟博夫（大一二、四生）あり（東京市外大井町鹿島谷三〇一三電大森六八三九）
參照—藤井健次郎の項

進藤篤一
正五位勳四等、醫學博士、九州帝國大學教授、醫學部勤務　山梨縣在籍

妻　ふぢ　明三〇、五生、山梨、細田武雄長女

君は山梨縣人進藤篤朗の長男にして明治十七年六月を以て生れ大正二年家督を相續す明治四十二年京都帝國大學福岡醫科大學を卒業し同大學の助手となり同四十四年解剖學研究の爲め獨墺各國に留學し歸朝後直に九州帝國大學醫科大學助教授に任じ更に同大學教授に昇任し現時に及ぶ大正六年醫學博士の學位を授けらる家族は尙長女むつみ（大六、一生）二女さかえ（同八、五生）三女みさほ（同一四、一生）あり妹くにえ（明二八、三生）は其子女を伴ひ分家せり（福岡、糟屋、箱崎町）
參照—細田武雄※柳莊太郎の項

進藤信義
神戶新聞社（株）社長、國際汽船（株）監査役、兵庫縣在籍

妻　ひさ　明二一、四生、兵庫、吉倉吉三郎長女
男　富士夫　明四一、一一生

君は兵庫縣人進藤親重の長男にして明治十一年四月を以て生れ同四十五年家督を相續す現時神戶新聞社々長たる外前記會社の重役たり家族は尙二男悅夫（明四五、七生）長女チカ（大三、一〇生）三男幸夫（同五、一一生）あり弟昱三郎（明二〇、一〇生）は分家し同蕃（同二六、九生）は兵庫縣人村上五右衞門の養子となり養子シズヱ（同三九、三生、兵庫、後藤トラ女）は和歌山縣人笹井春庵二男照隆に嫁せり（神戶、大手町東所九電須磨一二八）

進藤村治
相知銀行（株）取締役、醫師　佐賀縣在籍

母　レイ　嘉永五、一一生、佐賀、脇山國作長女
妻　コト　明八、三生、大分、手島節三長女
男　文一　明三五、三生
男　文二　明三六、一〇生
女　文　明四〇、二生
女　世美子　明四二、七生

君は佐賀縣人進藤文都の長男にして明治九年一月を以て生れ同十九年家督を相續す同二十八年長崎醫學專門學校を卒業し現に相知銀行の重役たり家族は尙三男三郎（明四四、三生）四男四朗（大三、四生）三女梅子（同五、二生）あり姉ユミ（明三、一〇生）は佐賀縣人山村權治郎に同トマ（同七、七生）は同縣人宮崎幸七郎三男安藏に妹タリ（同一七、五生）は同縣士族隈本科戶二男小仲に同ラク（同一八、六生）は同縣人松尾昐治に嫁せり（佐賀、東松浦、久里村）

進藤喜治
東京米穀商品取引所第一部取引員　東京府在籍

養父　庄次郎　安政四、一〇生
養母　たみ　安政五、三生、東京、進藤寅之助妹
妻　世以　明一五、七生、東京、進藤庄藏二女
男　喜忠　明四二、四生
養子　武雄　明三二、七生、長女富子夫、長野、內田備司弟
女　富子　明三六、一二生、養子武雄妻
女　貞子　明三九、一〇生

君は舊幕臣大熊喜知の二男にして同喜邦の弟なり明治十一年五月を以て生れ後進藤庄次郎の養子となり大正十五年家督を相續す東京米穀商品取引所第一部取引員たり家族は尙三男喜信（明四五、一生）三女喜美（大七、六生）孫美代（同一四、一〇生、養子武雄長女）同繁（昭二、九生、同長男）あり（東京、日本橋、蠣殼町一ノ二電茅場町二七七〇）
參照＝大熊喜邦の項

進藤隆之助
大同生命保險（株）監査役　兵庫縣士族

妻　ふみ　明元、一一生、東京、士、中村彌助姉
養子　重次郎　明八、五生、兵庫、森川市左衞門長男
婦　とし　明一一、一二生、養子重次郎妻、進藤俊德長女
孫　進　明三三、八生、養子重次郎長男
孫　初枝　明三六、七生、養子重次郎長女

君は兵庫縣士族進藤直衞の三男にして文久二年正月を以て生れ明治十二年家督を相續し大正十一年退隱す時前記會社の監査役たり家族は尙孫俊二（明四五、一生、養子重次郎二男）あり（大阪、東、南新町二ノ二）

新海榮一
從五位勳五等、鐵道局技師、大阪鐵道局高知出張所長、長野縣在籍

父　平吉　萬延元、三生、現戶主
母　さと　慶應元、一一生、長野、重田俵三郎姪
妻　雪　明一六、八生、長野、宮澤繁太郎長女
男　美代男　明四一、一一生
女　浪子　明四三、一一生
女　松子　大元、一二生

君は長野縣人新海平吉の長男にして明治十二年七月を以て生る同四十年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し鐵道院に入り同技手同技師鐵道技師高知建設事務所長を經て大正十三年鐵道局技師となり現に大阪鐵道局高知出張所長たり家族は尙三女春子（大六、一生）四女菊子（同九、一一生）五女登美子（同一三、一生）あり弟政雄（明二三、七生）同妻文子（同三一、一一生、長野、西島政之長女）同淸三（同二六、一生）同妻よしの（同二七、一一生、長野、小林忠次郎妹）及其三男一女同濱平（同三一、一〇生）同妻ケン（同三四、九生、長野、井出彥助三女）及其一男同瀧男（同三四、一生）同妻いち（同三九、九生、長野、小林信太郎二女）叔父吉兵衞（慶應三、一二生）同妻つし（明三、四生、長野、市川與五郎二女）及其二女同龍太郎（同三、一〇生）同妻ひさ（同八、三生、長野、松澤久右衞門二女）は夫々分家し弟進（同二八、一一生）も亦分家し叔父藤治郎（同一四、三生）は前記弟新開龍太郎の跡を相續し妹きよの（同一八、八生）は長野縣人丈右衞門長男浩に同つね（同二〇、一二生）は同縣人市川孝之助二男林治郎に嫁せり（高知市鐵道局高知出張所官舍）

新開壽之助
從四位勳三等、內務技師、新潟土木出張所勤務、福岡縣在籍

妻　カガ　明一〇、一一生、養父十郎長女
男　壽一郎　明四三、八生

君は福岡縣人末永碩藏の長男にして明治六年五月を以て生れ先代十郎の養子となり同三十一年家督を相續す同三十三年東京帝國大學工科大學土木科を卒業し新潟縣技師を經て同四十年內務技師に任じ現時內務省新潟土木出張所勤務たり尙都市計畫新潟地方委員會委員を兼ぬ家族は前記の外二男正夫（大元、一二生）三女壽子（同四、一二生）四女スガ子（同九、一二生）あり長女香羽（明二九、四生）は福岡縣人宮崎寅市長男半內に嫁せり（新潟市內務省土木出張所內）

新開新太郎
北海道多額納稅者、札幌コンクリート工業（株）取締役、土木建築請負業、北海道在籍

妻　ムメ　明八、一二生、北海道、辻九左衞門三女
養子　忠保　明四五、五生、北海道、加藤忠三二男

君は福井縣人新開與右衞門の長男にして明治三年十二月を以て生れ同十七年家督を相續す土木建築請負業を營み傍ら前記會社の重役にして北海道多額納稅者たり曩に札幌商業會議所議員に選ばる家族は尙ほ庶子新一（大四、三生、生母、宮城、大和田らめ）同新二（同六、三生、生母同上）同新三（同七、一二生、生母同上）あり姉アイ（安政三、九生）は北海道人柳田孫右衞門に嫁せり（札幌、北一條東三ノ一）

新開滞觀
正五位、元八幡市長　熊本縣在籍

母　喜木　嘉永三、九生、新開宗惠長女
妻　千代　明二六、二生、群馬、淸水新一郎姪
男　典紹　大四、一一生
女　道子　明四五、四生

君は熊本縣人新開芳映の四男にして明治十六年八月を以て生る同四十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し官界に入り群馬縣警視同縣事務官補栃木縣理事官を經て宮崎岩手愛知各縣警察部長石川縣內務部長等に歷任す又曩に推擧せられて八幡市長たり家族は尙二女雅子（大三、四生）三女俊子（同八、三生）二男芳輝（同一四、三生）兄廣道（明五、四生、現戶主）同妻キヨ（同一二、二生、熊本、吉田健吉伯母）及其三男一女あり兄齊（同八、六生）は同妻タエ（同一九、一二生、熊本、津野一雄長女）及其子女を伴ひ分家せり（東京市外中野町六五七）
參照＝淸水新一郎の項

新川初太郎
熊本縣多額納稅者、熊本商工會議所常議員、日本鋼業（株）取締役、乾魚商、熊本縣在籍

妻　モト　明一一、八生、熊本、赤星善三姪
男　愼次　明三三、一〇生
女　キト　明三九、一〇生
女　生　大元、一一生

君は熊本縣人新川七藏の長男にして明治二年七月を以て生れ同三十八年家督を相續す乾魚商を營み傍ら日本鋼業會社取締役たり又熊本商工會議所常議員に擧げられ熊本縣多額納稅者たり家族は尙二男健次郎（明四二、二生）姉タイ（慶應三、三生）妹スヱ（明一三、一生）あり長女シキ（同三一、七生）は熊本縣人伊藤孫次郎の養子となり妹トメ（同一六、一〇生）は同縣人後藤惣四郎に嫁せり（熊本市鹽屋町裏三番丁）

新里康信
沖繩縣多額納稅者、酒造業　沖繩縣在籍

妻　ウシ　明二三、八生、沖繩、仲村渠得造三女
養子　光司　大一二、三生、沖繩、新里康昌曾孫

君は沖繩縣人新里蒲の二男同康昌の弟にして慶應二年四月を以て生れ明治二十年分家して一家を創立し前名三郎を改む酒造業を營み沖繩縣多額納稅者たり（那覇、若狹町）
參照＝新里康昌の項

新里康昌
沖繩縣多額納稅者、雜貨商　沖繩縣在籍

妻　ヲト　安政三、五生、沖繩、玉那覇加那長女
孫　康保　明三二、三生、亡長男康眞長男
孫妻　カミ　明三四、二生、孫康保妻、沖繩、大城昌貞二女
婦　カメ　明六、二生、亡長男康眞妻、沖繩、比嘉松三女

君は沖繩縣人新里蒲の長男にして安政二年五月を以て生れ明治三十三年家督を相續す雜貨商を營み沖繩縣多額納稅者たり家族は尙曾孫雅宣（大八、一一生、孫康保長男）同肇三（同一〇、六生、同二男）同雅一（同一三、一〇生、同四男）同昭保（昭二、三生、同五男）同政子（大一〇、九生、亡孫康亮長女）同康二（同一三、九生、同長男）あり二女マカト（明一六、九生）は沖繩縣人城間安廣に嫁し弟康信（慶應二、四生）は分家し曾孫光司（大一二、三生、孫康保三男）は其の養子となり孫康毅（明三三、一〇生、亡二男康裕長男）同康和（同三六、一二生、同二男）は其母ツル（同一八、三生、

沖縄、比嘉次良長女）と共に分家し長女カメ（同八、八生）も亦分家せり（那覇、松山町）
参照―新里康信の項

新庄　清一　大阪海上火災保険（株）取締役、大阪商船（株）文書課長、長崎縣士族
明一六、五生、長崎、士、在川雲
妻　タカ　造妹
養子　健次　明四四、九生、長崎、千秋虎太郎二男

君は長崎縣士族新庄久三の長男にして明治十年三月を以て生れ大正四年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し現時大阪商船會社文書課長大阪海上火災保險會社取締役たり家族は尚弟信男（明一八、一〇生）同妻マツ（同二五、一生、長崎、中山正二郎四女）及其二男一女あり妹ミチ（同二一、七生）は長崎縣士族白川兵之助に同ヨコ（同二〇、九生）は同縣人池田澤七二男安太に嫁し弟雅二（同一五、二生）は同縣士族西海ヨシの家督を相續せり（兵庫、武庫、精道村三條二ノ一電芦屋四〇六）

新庄　直知　正四位勲四等、子爵、貴族院議員
舊當州藏生藩
明二三、四生、男爵澤村武雄姉
妻　フミ
男　直孝　明四二、三生
女　長子　大三、五生
女　末喜　明四三、三生
女　ミツ子　明四四、八生

當家は藤原秀鄕の二男上野介千明の後なりそれより十四代を經て俊名に至り世々江州新莊に居るを以て新莊と稱す後八代駿河守直顯豐臣氏に仕へ更に十二代を經て直正に至る代々常陸國麻生一萬石を領す先代直陳其後を繼ぎ明治十七年子爵を授けられ貴族院議員に列す君は其長男にして明治十二年三月を以て生れ大正二年襲爵す明治四十一年東京帝國大學工科大學を卒業し曩に鐵道院技師となり貴族院議員に當選すること三回現に其任に在り家族は尚三男直英（大八、一一生）四男直春（同一〇、四生）弟襲（明一九、四生）及其一女あり弟直德（同一四、四生）は分家し同壽惠雄（同三一、一〇生）は東京府人野田爲太郎の養子となり妹登茂子（同二四、八生）は同縣人太田圓三に嫁せり（東京市外大久保町百人町三四一）

参照―男爵澤村武雄※澤村眞の項

新城　猪之吉　福島縣多額納稅者、酒造業
妻　ヤス　文久二、三生、福島、樋口村五郎妹
養子　貞一　明一九、一一生、亡兄猪之吉三男
養子　カヨ　明三二、三生、養子貞妻、福島、小林助治孫
小林助治孫

君は福島縣人先代猪之吉の弟にして安政四年六月を以て生れ明治四十年家督相續と共に前名重吉を改め襲名す酒造業を營み縣下の多額納稅者たり家族は尚弟誠一郎（大八、一二生、養子貞長男）同富二郎（同一一、七生、同三男）甥傳藏（明二、四生、亡兄猪之吉二男）同善吉（同一五、一一生、同三男）同妻タキ（同九、四生、福島、山中八次郎妹）及其子女姪ミネ（同一三、四生、亡兄猪之吉長女）及其子女孫あり姪ヤイ（同一七、三生、亡兄猪之吉四女）は同夫來治（同一一、九生、福島、日向四郎次叔父）は其子女を伴ひ分家し姪孫ナミ（同三〇、八生、亡甥善吉三女）は福島縣人味戸新之助に同タツ（同三八、一生、姪ミネ二女）は同縣人遠藤犁に嫁せり（京都、上京、塔之段截下町電上四七）

新城　新藏　正四位勲二等、理學博士、京都帝國大學教授、理學部勤務
福島縣若松市大町七）
妻　英太郎　明三九、三生、長男英太郎妻、京都、竹内龜吉長女
男　治代　明四四、六生
女　たか　明四四、六生

君は福島縣人新城吉右衞門の六男にして明治六年八月を以て生れ同三十二年兄平右衞門方より分れて一家を創立す同二十八年帝國大學理科大學物理學科を卒業し陸軍教授京都帝國大學理工科大學助教授等に歷任し同三十六年新嘉坡香港上海漢口宜昌に差遣せらる同三十八年獨逸に留學し歸朝後京都帝國大學理工科大學教授に進み今日に至る同四十二年理學博士の學位を受け天文學に關する著書數からず家族は尚三女百合子（大四、七生）四女直江（同六、四生）あり（朝鮮、新義州、地方法院官舍）

新藤　喜三郎　貴族院議員
東京府在籍
妻　きち　明五、八生、東京、大野利右衞門女
男　良三郎　明三八、六生
男　純治　明四〇、一二生

君は東京府人先代喜三郎の長男にして明治四年一月を以て生れ同十六年家督を相續し後ち前名延太郎を改む質商を營む妹こと（明一六、一〇生）は分家せり（東京、淺草、田原町二ノ三電淺草一一五）

新藤　吾市　石西自動車（株）社長、石見水力電氣（株）取締役、島根縣士族
妻　キチ　明七、九生、島根、尾崎政次郎長女
男　寛　明三〇、九生
女　萬壽　明三二、一〇生
女　順　明三六、二生
男　正雄　明三九、一一生

君は島根縣人板垣虎治の三男にして明治元年十月を以て生れ先代信矣の養子となり同七年家督を相續す夙に縣下の多額納稅者堀藤十郎家の總支配人たりしが現時前記會社の重役たり長女勝（明二七、一〇生）は島根縣人石川猪太郎養子修に嫁せり（島根、鹿足、畑迫村）

新堂　庄太郎　運送業、鑄造業
大阪府在籍
妻　エン　慶應三、一〇生、大阪、川端源藏妹
養子　侃二　明二五、九生、三女鐵子夫、大阪、川端源藏二男、城東巡航二等水夫
女　鐵子　明三三、一生、養子侃二妻
女　喜代子　明四一、一生

君は大阪府人中田庄右衞門の弟にして安政六年八月を以て生れ先代與右衞門の養子となり明治二十五年家督を相續す現時鑄造業及運送業を營む曾て町會議員郡會議員町長たりしことあり家族は尚孫庄一（大一〇、二生、養子侃二長男）あり長女ミサヲ（明二一、八生）は大阪府人木本長兵衞長男當次郎に嫁し四女實惠（同三五、五生）は分家せり（大阪、東成、今福町一二九電鶴江三）

新保　勘解人　正五位勲四等、判事、大審院判事
神奈川縣在籍
妻　タケ　明二一、八生、楊木高瀨淺吉二女
養子　健二　明四〇、一二生、新保巽二男

君は新潟縣人新保巽の弟にして明治十二年七月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す明治三十六年早稻田大學法學部を卒業し文官高等試驗及判檢事登用試驗に合格同三十九年判事に任じ歸來甲府地方裁判所部長東京控訴院判事橫濱地方裁判所部長東京控訴院判事橫濱地方裁判所部長等に歷補し大正十二年現職大審院判事に補せらる（橫濱、中、西戸部町一六六九）

新保　德壽　從四位勲三等、仙臺高等工業學校長、宮城縣在籍
妻　りゆう　明二一、九生、青森、鎌田俊八妹
男　勝夫　明三八、五生
女　光　明四〇、一生
女　とし　明四三、八生

君は宮城縣人新保興の二男にして明治六年十月を以て生れ同二十二年家督を相續し前名伊八を改む同三十五年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し大學院に入る仙臺高等工業學校教授同生徒監東北帝國大學工學專門部教授同校主事東北帝國大學事務官等に歷任し現に仙臺高等工業學校長たり家族は尚三男芳夫（大二、一一生）三女八重子（同九、一一生）四女榮（同一三、一二生）六男壽夫（昭二、二生）あり妹りん（明一〇、二生）は宮城縣人新野敬輔に嫁せり（仙臺、北三番丁一九）

新保　寅次　從四位勲三等、仙臺高等工業學校長、宮城縣士族
妻　ニギ　明一四、六生、靜岡、鈴木政七長女
男　正雄　明四四、一生、長男嘉久一妻、靜岡、木村金三郎四女
女　スミ　明四四、一生
男　嘉久二　明三二、二生、二男嘉久二妻、靜岡、河合源藏妹
婦　ちゑ
女　きん　明三六、一生
男　啓三　明三九、一一生
女　はる　明四一、六生
女　とも　明四三、三生

君は舊峰岡藩士新保正興の二男にして明治元年十月を以て生れ新保家源太の養子となり同年家督を相續す同三十一年東京帝國大學文科大學國文科を卒業し新潟縣立高田中學校福岡縣立修猷館中學校各教諭栃木縣師範學校鹿兒島縣立第二中學校各校長山口高等學校教授等に歷任し大正九年同校長となり今日に至る家族は尚三男正樹（大三、七生）三女フミ（同七、二生、明三九、一生）は新潟縣人內山貞三郎に嫁せり（明三九、一生）は宮城縣人新野敬輔に嫁せり（仙臺、北三番丁一九）

新保　寅次　從四位勲三等、仙臺高等工業學校長、宮城縣士族
妻　ニギ　明一四、六生、靜岡、鈴木政七長女
男　正雄　明四四、一生、長男嘉久一妻、靜岡、木村金三郎四女
女　スミ　明四四、一生
男　嘉久二　明三二、二生、二男嘉久二妻、靜岡、河合源藏妹
婦　ちゑ
女　きん　明三六、一生
男　啓三　明三九、一一生
女　はる　明四一、六生
女　とも　明四三、三生

君は舊峰岡藩士新保正興の二男にして明治元年十月を以て生れ新保家源太の養子となり同年家督を相續す同三十一年東京帝國大學文科大學國文科を卒業し新潟縣立高田中學校福岡縣立修猷館中學校各教諭栃木縣師範學校鹿兒島縣立第二中學校各校長山口高等學校教授等に歷任し大正九年同校長となり今日に至る家族は尚三男正樹（大三、七生）三女フミ（同七、二生）は靜岡縣人安地大次郎に嫁せり（靜岡市本通三ノ一四）

参照―前田舜雄の項

新間　嘉兵衞　靜岡縣多額納稅者
靜岡縣在籍
妻　はな　明一四、六生、靜岡、鈴木政七長女
男　嘉久一　明二九、六生
婦　なか　明三四、一〇生、長男嘉久一妻、靜岡、木村金三郎四女
男　嘉久二　明三二、二生、二男嘉久二妻、靜岡、河合源藏妹
婦　ちゑ
女　きん　明三六、一二生
男　啓三　明三九、一一生
女　はる　明四一、六生
女　とも　明四三、三生

君は靜岡縣人先代嘉兵衞の長男にして明治十年九月を以て生れ同十六年家督を相續す靜岡縣多額納稅者たり家族は尚男爵竹四郎（大元、八生）五男良五（同二、七生）六男六朔（同四、八生）五女やす（同五、八生）六女ふさ（同九、六生）七女ゆき（同一一、一生）八女よし（同一三、八生）孫卓彌（同九、三生、長男嘉久一長男）同玲子（同一一、九生、同長女）同昌輝（昭二、九生、同二男）同悅子（大一三、一〇生、二男嘉久二長女）同暎子（同一五、二生、同二女）あり長女きと（明三五、三生）は靜岡縣人加藤卓雄に嫁あい（同五、一〇生）は同縣人安地大次郎に嫁せり（靜岡市本通三ノ一四）

参照―鈴木政七※鈴木保平※※野崎衞七の項

新穗　千秋　宮崎縣多額納稅者、農業
宮崎縣士族
妻　トミ　明元、一生、養父利貞長女
男　龜蕃　明二二、六生
男　蕃德　明三三、三生、二男龜蕃妻、鹿兒島、町田一郎三女
婦　利政　明二四、五生
婦　トメ　明三六、一生、三男利政妻、宮崎、前田舜雄四女
男　實　明三一、九生
女　ノブ　明三七、八生
男　實蕃　明四〇、三生
女　ヨネ　大元、九生

君は宮崎縣士族園田艾の三男にして文久三年八月を以て生れ後新穗家の養子となり先代養祖母スナの後を承け家督を相續す農業を營み宮崎縣多額納稅者たり家族は尚孫房枝（大九、一二生、同長男）同美登里（昭二、七生、同二女）同節子（昭二、五生、同三女）あり長女シカ（明二七、八生）は鹿兒島縣士族遠矢良武二男良知に嫁し四女テイ（同四三、一生）は宮崎縣士族稅所作次の死跡を相續せり（宮崎、北諸縣、高城村）

参照―前田舜雄の項

新間　五平　遠州屋、履物商
東京府在籍

君は東京府多額納稅者新間五兵衞の長男にして明治十二年十一月を以て生れ昭和三年家督を相續す遠州屋と稱し履物商を營む家族は庶子君枝（大八、一二生、生母、東京、市古くろ）同敬子（同一一、七生、生母同上）弟本治（明二四、二生）同妻榮（同二六、一二生、岐阜、林宗平五女及其二子同松三（同二七、一生）あり（東京、日本橋、本町四ノ八電日本橋一五五一）

新見　吉治　從四位勲四等、文學博士、廣島高等師範學校教授、愛知縣士族
妻　ノぢよ　明一九、二生、愛知、大矢長之助長女

男　孝　明三七、四生
女　阿岐　明三九、九生
男　悌二　明四一、三生

君は愛知縣士族新見蕊治の長男にして明治七年十月を以て生れ大正三年家督を相續す明治三十三年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し同三十六年廣島高等師範學校教授に任ぜられ爾來其職に在り義に同四十一年獨英米に留學を命ぜられ大正五年文學博士の學位を授與さる家族は尚三男忠(大二、三生)二女よし(同三、一〇生)三女紀美(同八、一生)あり(廣島、八丁堀町二三)

新村出
正四位勳二等、文學博士、帝國學士院會員、京都帝國大學教授、文學部勤務、附屬圖書館長、東京府士族

繼母　きく　嘉永五、七生、東京、川島兼松妹
妻　トヨ　明一六、二生、栃木、荒川重平長女
男　秀一　明三五、三生
男　猛　明三八、八生
女　洋子　明四三、一生

君は靜岡縣士族關口壯吉の弟にして明治九年十月を以て生れ同二十二年先代猛雄の養子となり同四十一年家督を相續す同三十二年東京帝國大學文科大學博言學科を卒業し同四十三年文學博士の學位を受け現時京都帝國大學教授にして附屬圖書館長たり帝國學士院會員に被仰付長女ゆき(明三七、二生)は富山縣人谷村一太郎長男順藏に嫁せり(京都、上京、小山中溝町一九電西陣二五七〇)

參照＝※加藤恭平の項

新免久治郎
小間物商　福岡縣在籍

母　シヲ　明一一、九生、福岡、眞藤次平三女
妻　ヨシノ　明三五、一一生、福岡、樋口清人姉
男　邦彦　大一五、四生

君は福岡縣人新免八十吉の長男にして明治二十六年八月を以て生れ同三十五年家督を相續す小間物商を營む家族は尚長女恵美子(大一二、八生)あり叔父米吉(明二、一〇生)同妻ハル(同九、四生、福岡、吉田庇吉妹)及同市之助(同六、一二生)同妻ヒテ(同一一、一生、福岡、新免伊平三女)は各其子女を伴ひ分家せり(福岡市下西町九電三六〇五)

新免行太郎
従四位勳三等功四級、豫備陸軍中將、岡山縣在籍

母　たま　弘化二、一〇生、岡山、春名六左衛門長女
妻　常　明七、一一生、岡山、中村太郎姉
男　勝　明二八、二生
男　次郎　明三五、一生
男　貞男　明三九、九生
女　治子　大二、一一生

君は岡山縣人新免軍治郎の長男にして慶應二年一月を以て生れ大正六年家督を相續す夙に陸軍教導團を卒業し明治二十二年陸軍砲兵少尉に任じ大正七年陸軍中將に累進す其間陸軍大學校を卒業し野戰砲兵第三旅團長由良要塞司令部附第一第五第十三各師團參謀長等を歴補し現時豫備役たり家族は尚四男弘男(明四三、一生)の外弟教太郎(同九、九生)あり二女トシ(同三一、一一生)は東京府人川上明に嫁せり(岡山、英田、大野村)

新谷庄吉
醫學博士、新谷病院長、醫師　和歌山縣在籍

妻　たか　明一六、九生、兵庫、藤浪定七長女
男　太郎　明四〇、一一生
女　秋　明三八、九生

君は和歌山縣人新谷晋吉の二男にして明治十二年一月を以て生れ大正十五年分家して一家を創立す明治三十四年大阪醫學校を卒業し醫師を開業新谷病院長として知らる大正十二年醫學博士の學位を授けらる家族は尚二男次郎(明四二、一生)三男五郎(大三、四生)あり長女靜(明三六、二生)は佐賀縣人原田隆一長男龍夫に嫁せり(大阪、西、靱南通三ノ二二電土佐堀一一一一)

新良貴徳兵衛
藥種商　大阪府在籍

妻　まさ　元治元、三生、兵庫、小牧藤作妹
男　健二　明三〇、七生
婦　美代　明三四、五生、長男健二妻、大阪、龜岡嘉助二女

君は廣島縣人新良貴清右衛門の弟にして明治元年四月を以て生れ同二十八年分家して一家を創立し前名徳右衛門を改む藥種商として知らる家族は尚孫富子(大一三、三生、長男健二長女)あり(大阪、東、道修町一ノ六電本局六〇八)

榛葉可省
従五位勳四等、營林局技師、東京營林局勤務、靜岡縣在籍

養父　良男　慶應二、一生、現戸主
妻　ます　明一八、二生、靜岡、後藤佐一郎二女

君は靜岡縣人榛葉七左衛門の三男にして明治十二年九月を以て生れ同三十九年兄良男の養子となる同三十四年東京帝國大學農科大學林學科乙科を卒業し同大學助手となる同四十三年山梨縣林業技手となり尋いで同縣技師に進み大正三年山林技師に任ぜられ帝都復興院技師を兼ぬ現時前記營林局技師にして東京營林局勤務たり(東京、麹町、中六番町五一)

參照＝榛葉良男※渡邊明造の項

榛葉孝平
正五位勳四等、朝鮮總督府技師、内務局土木課長、靜岡縣在籍

妻　ツユ　明二三、六生、岡山、楠原正三長女
男　朗　明四四、七生
女　規子　大二、一二生

君は靜岡縣人榛葉彦三郎の弟にして明治十二年十一月を以て生れ昭和二年分れて一家を創立す明治三十六年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し航路標識管理所技手大藏省臨時建築部技手同技師を經て同四十四年朝鮮總督府技師に任じ土木局釜山出張所長となり大正十三年同府遞信技師を兼任し現に内務局土木課長たり家族は尚二女玲子(大六、一一生)三女滋子(同九、九生)あり(京城、朝鮮總督府内務局土木課)

參照＝榛葉彦三郎※木下七郎の項

榛葉彦三郎
行政學會印刷所、靜岡漁業各(株)取締役、三十五銀行(株)監査役、辯護士、靜岡縣在籍

妻　みち　明八、八生、靜岡、鷹森貢一郎妹
男　勇次郎　明二八、一二生、明治大學法科出身
婦　胤　明三九、一生、二男勇次郎妻、靜岡、江馬九右衛門二女
女　雪　明三四、九生、山脇高等女學校家政科出身
女　康子　明三七、四生、聖心女子學院專門部出身
女　志嘉子　明四二、九生
女　春子　大二、四生

君は靜岡縣人榛葉作平の長男にして同孝平の兄なり慶應二年十月を以て生れ大正三年家督を相續す明治二十四年帝國大學法科大學英法科を卒業し判事となり横濱高知大阪神戸名古屋各地方裁判所判事に歴補し同三十四年辭して辯護士を開業し傍ら前記銀行會社の重役を兼ぬ家族は尚五男光彦(明四三、九生)あり長女ふみ(同三二、一〇生、日本女子大學校家政科出身)は新潟縣人若杉孝平に嫁し六男國彦(同四三、九生)は靜岡縣人木下七郎の養子となり弟孝平(同一二、一一生)は分家せり(靜岡市鷹匠町三ノ八九)

參照＝木下七郎、榛葉孝平※中村男也※和久田芳藏の項

榛葉良男
京王電氣軌道、藤相鐵道各(株)取締役、後藤同族(株)監査役　靜岡縣在籍

妻　ぶん　明元、七生、靜岡、大塚義一郎二女
養子　可省　明一二、九生

君は靜岡縣人先代七左衛門の長男にして慶應二年一月を以て生れ明治十六年家督を相續し前名元三郎を改む現時前記會社の重役たり曾て王子電氣軌道會社常務取締役たりし事あり養子允(明三三、一二生、東京、大場喜一郎養妹)は其夫久吉(同二八、一生、靜岡、小野彌一弟)と共に分家し妻弟辰郎(同三七、四生)も亦分家し弟格二(同三、二生)は靜岡縣人渡邊せいの入夫となり同縣人氣賀明造を養子に迎へ妹たに(同九、三生)は同縣人村松誠一に嫁せり(東京市外西巣鴨町巣鴨新田七六七電大塚一五一三)

參照＝榛葉可省、渡邊明造の項

神宮司光徳
鹿兒島銀行(株)取締役　鹿兒島縣士族

妻　スマ　明元、一生、宮崎、士、野村高雄二女
男　純徳　明二三、三生

君は宮崎縣士族神宮司磐の長男にして安政六年六月を以て生れ明治二十六年家督を相續す現時鹿兒島銀行取締役たり嚢に鹿兒島防水布會社重役に擧げらる四女フヂ(明三五、一一生)は長崎縣人藤野英陽に嫁せり(鹿兒島市南林寺町一ノ三)

神宮寺忠兵衛
千葉縣多額納税者、日銚製氷冷藏(株)取締役、質商、千葉縣在籍

妻　ちか　明一六、七生、千葉、篠原藏司姉
男　彌太郎　明三六、八生
女　きよ　明三八、八生
女　喜久平　明四〇、一二生

君は千葉縣人先代忠兵衛の長男にして明治十四年八月を以て生れ大正六年家督を相續し前名政治郎を改む質商を營み現時日銚製氷冷藏會社取締役にして千葉縣多額納税者たり家族は尚二男惣次郎(大二、二生)あり(千葉、海上、本銚子町)

參照＝篠原藏司※篠原陸朗の項

神向寺郁之助
茨城縣多額納税者、農業　茨城縣在籍

妻　秀　明一六、八生、茨城、貝塚民三郎四女
男　寛　明三九、一生

君は茨城縣人神向寺安平の長男にして明治八年十月を以て生れ同二十九年家督を相續す農業を營み茨城縣多額納税者たり家族は尚四男敬之助(明四四、一生)二女きみ(大四、六生)三女ツノ(同七、八生)あり三男勇(明四一、一二生)弟常次郎(同一四、八生)は各分家し長女とく(同三四、一〇生)は茨城縣人西山登美樹に姉しめ(同六、三生)は同縣人西山定次郎長男敬一に妹しこ(同二六、一二生)は同縣人森崎喜太郎二男吉樹に嫁せり(茨城、鹿島、波野村)

神藤又吉
神藤同族(株)社長、神藤ポンプ製造所(資)代表社員、大阪府在籍

妻　ヒサ　明七、一二生、大阪、大原ツキ姉
男　又次郎　明三〇、二生、神藤ポンプ製造所代表社員
婦　郁子　明三五、八生、長男又次郎妻、大阪、渡邊市兵衛長女
庶子　又藏　明四一、五生、生母、淡路マサ

君は大阪府人神藤政七の長男にして明治四年六月を以て生れ同二十四年家督を相續す現時前記會社の重役たり家族は尚庶子又三郎(明四四、三生、生母、淡路マサ)孫ゆき子(大一一、六生、長男又次郎長女)あり妹モト(同九、七生)は島根縣人春木岩市に妹エツ(同一一、一〇生)は廣島縣人栗原千代吉に長女コト(同三二、一生)は大阪府人丹羽松之助弟正一に嫁せり(大阪、西、立賣堀北通六ノ二〇電新町一〇八一)

參照＝※加藤弘次郎の項

神保格
正五位勳四等、東京高等師範學校教授、東京府在籍

妻　文　明二二、七生、東京、小林善兵衛二女
男　規一　明四五、一生

君は故理學博士神保小虎の弟にして明治十六年四月を以て生れ大正五年分家して一家を創立す明治三十八年東京高等師範學校英文科を同四十一年東京帝國大學文科大學言語學科を卒業し現時東京高等師範學校教授たり家族は尚二男松雄(大三、二生)三男常彦(同六、二生)二女うた(昭二、二生)あり(東京、小石川、大塚坂下町四〇)

神保金衛
従五位勳六等、北海道廳技師、十勝川治水事務所長、栃木縣在籍

妻　タカ　明二一、九生、栃木、福田龜次郎長女
男　正忠　大二、五生
女　初代　明四五、一生

君は群馬縣人神保定八の二男にして明治十二年十一月を以て生れ後先代米吉の養子となり同二十年家督を相續す同四十二年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し北海道廳技師となり網走上川札幌各土木出張所長を經て復興局技師復興局技術試驗所長となり大正十五年北海道廳技師に任ぜられ現時十勝川治水事務所長たり家族は尚三女美代(大四、三生)三男正孝(同六、一生)四男正衛(同九、九生)五女喜代(同一一、六生)五男正友(同一二、一一生)六女幸子(同一四、八生)七女慶子(同一五、八生)あり(北海道、河西、帶廣町)

神保周藏
三省堂(株)社長　靜岡縣士族

妻　はな　明二二、三生、靜岡、鈴木直記妹
女　道子　明三八、一一生、三輪田高等女學校出身

君は靜岡縣士族神保長久の長男にして明治九年十二月を以て生れ同十六年家督を相續す現時三省堂社長たり

家族は倚四女登志子(大七、一生)の外弟雄三(明一三、五生)同妻とみ(同二九、一〇生、福井、馬場鶴雄三女)と其一男三女及同貞造(同三二、二生)同妻ひさ(同三〇、四生、兵庫、松本龜太郎三女)と其一女あり長女雅子(同三六、八生)は東京府人塲和爲蝶に妹ふさ(同一六、一一生)は同府士族笹瀬成一に同きよ(同二四、六生)は鹿兒島縣士族山田不二に嫁せり(東京、本郷、根津宮永町三五電下谷二〇八一)

参照＝松本龜太郎の項

神保八十吉　石川縣多額納稅者、神保運送(株)取締役、石炭商、石川縣士族
妻　りう　明三、一二生、養父正勝長女
男　成吉　明二九、二生
婿　喜久子　明三三、六生、長男成吉妻、富山、中田清兵衞長女

君は石川縣士族岡村才次郎の弟にして文久二年八月を以て生れ明治二十三年先代正勝の死後養子となり家督を相續す同三十九年明治大學を卒業し石炭商を營み現時神保運送會社取締役にして石川縣多額納稅者たり家族は倚孫俊子(大一二、一〇生、長男成吉長女)あり長女安(明二四、一二生)は石川縣人安達弘通二男勝雅に三女八重(同三四、六生)は同縣人林政武に二女芳(同二七、四生)は同縣人中山隆吉に嫁せり(金澤、長町一番町二六ノ一)

参照＝中田清兵衞、中山隆吉、林政武の項

陣山新太郎　福岡縣多額納稅者、農業
福岡縣在籍
安政四、三生、福岡、村谷喜八四女
養母　タツ　明二六、二生、長女勝枝夫、福岡、士、平林玄意二男
養子　爲義　女　勝枝　明二九、三生、養子爲義妻

君は福岡縣人新谷彌一郎の二男にして明治六年五月を以て生れ先代律藏の養子となり大正十年家督を相續す農業を營み縣下の多額納稅者たり家族は倚孫汎子(大四、二生、養子爲義長女)同家和(同五、七生、同長男)同忠尙(同七、一生、同二男)同次孝(同九、一生、同三男)同アツ(同一一、一生、同二女)同律明(同一三、五生、同四男)あり(福岡、京都、今元村)

(※印は姻族關係)

エビスビール
サッポロビール
アサヒビール
清涼飲料
リボンシトロン
ナポリン

ス之部

周參見昌隆
周參見工務店、土木建築請負業 和歌山縣在籍
母 せい 嘉永六、六生、和歌山、金子久兵衞二女
妻 きみ 明二二、四生、京都、木村國太郎姉
養子 賢四郎 明四五、六生、和歌山、濱口淸市四男

君は和歌山縣人周參見奕一郎の長男にして明治十二年十二月を以て生れ同二十八年家督を相續す代々室町の鄕士たり現時周參見工務店と稱し土木建築請負業を營む(東京、牛込、市谷左内町三七電牛込五一三七)

周布乘道
從四位、男爵、貴族院議員 山口縣華族
母 貞子 文久三、一一生、東京、士、岩崎壽雄叔母
妻 鑑子 明二二、六生、伯爵副島道正妹
男 公乘 大二、三生

當家は毛利家の臣にして祖父政之助は同藩政務座役となり國事に奔走し長州の先覺として其名を知らる父公平明治九年司法權少丞に任じ爾來太政官少書記官同權大書記官參議院議官補法政局參事官公使館參事官兼外務省參事官内閣書記官長兵庫縣知事行政裁判所長官神奈川縣知事貴族院議員樞密顧問官等に歷任し日露事件の功に依り勳一等に敍し明治四十年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其長男にして明治十五年三月を以て生れ大正二年襲爵す學習院に學び後墺都維納に留學し歸朝後小田原電氣鐵道外二三會社の重役に擧げらる後實業界を退き現時貴族院議員の職に在り家族は尙二男明乘(大三、九生)三男光乘(同五、二生)四男吉乘(同九、二生)長女佐榮子(同一一、四生)あり妹千代子(明二一、七生)は長野縣士族黑澤夾久に嫁せり(東京、四谷、南町八八電四谷三〇三〇)
參照―伯爵副島道正、黑澤夾久※子爵勘解由小路資淳※子爵千種有秀※木原欽胤※牧彥七の項

洲崎準一
坂出同盟銀行(株)專務取締役、讃岐貯蓄銀行(株)監査役 香川縣在籍
養母 イチ 文久二、一二生、香川、吉田得晉二女
妻 繡子 明一六、二生、養父笹一長女
男 三郎 明三五、七生
婦 ミサヲ 明四〇、七生、長男三郎妻、香川、安藤嘉哲長女
男 克三 明三八、一生
女 合子 明四〇、二生

君は香川縣人福崎豐三郎の兄にして明治十二年五月を以て生れ先代笹一の養子となり大正十一年家督を相續す現時坂出同盟銀行專務取締役たる外前記銀行の重役たり三女幾代(明三六、一一生)は香川縣人上原恒孝に嫁せり(香川、綾歌、坂出町)

洲崎隆一
津市立病院長兼産科婦人科部長、醫師、富山縣在籍
母 つた 明元、二生、石川、淺井協長女
妻 綾子 明三四、一〇生、佐賀、樋口熊市長女
男 文彥 大八、四生

君は富山縣人洲崎永之助の長男にして明治二十年十一月を以て生れ昭和二年家督を相續す大正五年京都帝國大學醫科大學を卒業し同十五年醫學博士の學位を受く現時津市立病院長兼産科婦人科部長たり家族は尙ほ長女いつ(大一〇、一生)二女三重(同一一、一一生)弟哲二(明二三、四生、京都帝國大學醫科大學卒業)同妻つよ(同三七、五生、富山、西田彌三右衞門四女)及其一男一女妹彌生(同三九、三生、京都府立第一高等女學校專攻科卒業)あり弟敬三(同三二、五生、金澤醫學專門學校卒業)同四朗(同三五、五生、京都帝國大學醫學部在學)は各分家せり(津、西堀端電九二一)

洲戸吉漸
太陽生命保險(株)常務取締役、生氣嶺粘土石炭、北海油脂工業各(株)監査役、東京府士族
妻 トミ 明四、二生、東京、士、佐藤太藏長女
男 武雄 明三〇、二生、早稻田大學出身
男 孝 明三五、一一生、東京農業大學出身

男 三郎 明三八、四生、專修大學在學
男 操 明四〇、一〇生、慶應義塾大學在學

君は舊讃岐國丸龜藩士先代與昌の長男にして文久元年四月を以て生れ後家督を相續す幼時藩校に學び次で明治十二年大阪に出で藤澤南岳の門に入る後大阪商船會社に入り數年にして十五銀行に轉じ同三十八年辭して丁酉銀行取締役となり同行日本橋支店支配人に擧げらる同四十四年太陽生命保險會社に入社し現に同社常務取締役にして傍ら前掲各會社の重役を兼ぬ長女まき子(明二五、七生)は工學博士宮崎虎一に二女仲子(同二八、七生、第三高等女學校出身)は東京府人神田萬次郎二男工學士忠雄に三女すみゑ(同三三、六生、東京女學館出身)は同府士族醫學士松岡貞總に嫁し四女靜子(大二、九生)は千葉縣人小原謙治の養子となれり(東京市外落合町下落合四一四電牛込一五五〇)

栖原角兵衞
關東土地、千島汽船各(株)取締役、乾製紙(株)監査役、栖原商店(名)代表社員、北海道在籍
妻 むめ 明一九、七生、兵庫、乾新兵衞二女、京都府立第一高等女學校出身
男 忠雄 明四一、七生
女 淑子 明四二、九生、府立第二高等女學校出身
女 淳子 明四四、七生

君は和歌山縣人栖原半藏の長男にして明治七年九月を以て生れ先代角兵衞の養子となり大正七年家督を相續し前名榮助を改む父祖累代二百餘年間引き續き漁業に從事し罐詰業を兼營す明治三十年東京高等商業學校を卒業し祖業を繼ぎ傍ら前記諸會社の重役を兼ぬ曩に三井物產會社々員たりし事あり家族は尙二男孝雄(大三、三生)三男庸世(同六、二生)あり(函館、大町三電二三二六五)
參照―乾新兵衞※乾篆壽※乾鼎一※岡村勇造の項

栖原啓藏
富士製紙(株)常務取締役、北海道電燈、新田製粉、士別軌道、靜岡電力、秋田電力各(株)取締役、中央開墾、樺太鐵道、共同パルプ、日本加工製紙、登帆炭礦、石狩電力各(株)監査役、東京府在籍
妻 薰 明二三、六生、東京、山内德三郎四女

(※印は姻族關係)

資本金壹億五千萬圓

住友合資會社

大阪市東區北濱五丁目

直轄事業
若松炭業所、鴻之舞鑛業所、大萱生鑛業所、林業所
製銅販賣店、東京販賣店、橫須賀販賣店、名古屋販賣店
神戸販賣店、呉販賣店、博多販賣店、上海販賣店

株式會社 住友銀行

資本金 七千萬圓
積立金 貳千六百四拾萬圓
大阪市東區北濱五丁目
東京支店 東京市日本橋區平松町

住友信託株式會社

資本金 貳千萬圓
大阪市東區北濱五丁目
東京支店 東京市日本橋區平松町

住友生命保險株式會社

資本金 壹百五拾萬圓
大阪市東區北濱五丁目
東京支店 東京市日本橋區平松町

株式會社 住友倉庫

資本金 壹千五百萬圓
大阪市東區北濱五丁目
東京支店 東京市京橋區越前堀二丁目

男　亮　明四四、三生
女　潔子　明四二、三生、双葉高等女學校出身

君は和歌山縣人栖原角右衛門の二男にして明治八年三月を以て生れ大正元年兄角右衛門より分れて一家を創立す明治二十九年東京高等商業學校を卒へ現時富士製紙會社常務取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尚二男正(大二、二生)二女妙子(同四、二生)三女美代子(同六、五生)三男襄(同七、九生)四男繁(同九、一〇生)四女富士子(同一一、一二生)五女昌子(同一四、一生)あり(東京、麹町、土手三番町三三 電九段八七三)

參照 ※中山晋※山内二郎の項

栖原豐太郎

正五位、工學博士、東京帝國大學教授、工學部勤務、航空研究所々員、和歌山縣在籍

母　スエ　元治元、四生、和歌山、新川直平女
妻　愛　明三一、一〇生、東京、原恭造妹
東京府立第二高等女學校出身
男　一郎　大五、九生

君は和歌山縣人栖原洋三の長男にして明治十九年九月を以て生れ同二十八年家督を相續す同四十三年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し大正七年東京帝國大學助教授に任じ航空學研究の爲め歐米に出張翌年工學博士の學位を受け同八年教授に進む同十五年國際航空會議に出席のため歐洲に出張を命ぜられ同年歸朝現時に至る家族は尚二男二郎(大九、八生)三男壽郎(同一二、一一生)長女榮子(昭二、六生)あり(東京、本郷、駒込曙町一〇 電小石川五八〇三)

陶浪　歡太

岡山縣多額納稅者、山陽商業銀行(株)取締役、第一合同銀行、中國水力電氣各(株)監査役

岡山縣在籍

母　すか　天保一三、一〇生、岡山、前畑武一郎三女
妻　登羽　明一六、九生、岡山、神坂文太郎三女
男　捷太　明三八、一〇生
女　町子　明三八、一〇生
男　恒　明四一、一〇生
女　可能子　明四四、七生

君は岡山縣人陶浪保太の長男にして明治十一年九月を以て生れ同十九年家督を相續す曩に專修學校理財科を卒業し現時前記銀行會社の重役にして同縣多額納稅者たり家族は尚三男貞彦(大三、七生)四男陸郎(同六、八生)弟正(明三六、二生)姉かめ(同六、一〇生)あり妹數野(同一四、一生)は岡山縣士族木梨九思雄長男改一郎に嫁せり(岡山、都窪、帶江村)

陶山誠太郎

大阪高等商業學校講師、會計士

大阪府在籍

母　こちゑ　明三、八生、兵庫、高木喜太郎妹
妻　悦子　明三、二生、大阪、鵜崎新兵衛長女
男　大一〇、二生

君は大阪府人陶山保次郎の兄にして明治二十七年一月を以て生れ先代孝輔の養子となり大正十二年家督を相續す同十三年大阪高等商業學校を卒業し現に同校講師にして會計士たり家族は尚長女晉子(大一二、一二生)二女康子(同一五、七生)あり(大阪、西、江戸堀北通五ノ七 電土佐堀五三三)

參照 ※岡崎增太郎の項

陶山富太郎

庄川水力電氣(株)取締役

京都府在籍

母　ふさ　明六、一〇生、京都、士、南部光行姉
妻　峯尾　明四二、三生
男　廣次　明四四、七生
女　さよ子　明三九、一一生
女　光子　大二、三生

君は京都府人陶山助次郎の長男にして明治三年十二月を以て生れ同二十年家督を相續す現に庄川水力電氣會社取締役たり二女とみ子(明三二、四生)は滋賀縣人片岡康太郎に嫁せり(京都、上京、川端通丸太町下ル)

陶山　素一

岡山縣在籍

父　平八　嘉永六、一〇生
妻　一恵　明二一、四生、兵庫、北條健藏長女、神戸高等女學校出身
男　隆　大四、一生
女　子　明四四、一〇生

君は岡山縣人陶山平八の長男にして明治十七年六月を以て生れ大正九年家督を相續す明治三十七年早稻田大學商科高等豫科を卒業し後住友銀行取締役を經て大正十三年住友銀行吳支店長に任じ現に其職に在り曩に第一回早稻田大學渡米野球團選手として遠征せり家族は尚三女康子(大七、一生)二男修(同九、二生)四女洋子(同一一、七生)三男智(同一二、七生)五女悦子(同一五、五生)六女玲子(昭二、四生)あり(吳、北迫町二 電三六六)

須江　文八

福島縣多額納稅者、農業

福島縣士族

妻　サタ　明三、九生、福島、武内善三郎三女
男　信一　明二六、九生
嬶　シウ　明二九、一生、長男信一妻、福島、士、志賀隆憲三女
女　チエ　明二〇、一二生
男　文雄　明三三、七生
嬶　タツ　明三四、七生、二男文雄妻、福島、士、坂田鐵三郎姉
孫　ヒデ　大二、一〇生、長男信一長女

君は福島縣士族須江常信の二男にして明治元年四月を以て生れ同三十八年家督を相續す農業を營み福島縣多額納稅者たり家族は尚孫キミ子(大七、八生、長男信一三女)同文子(昭二、七生、同四女)及養兄專松(萬延元、九生、福島、高野專之助弟)あり二女キヤウ(明二二、三生)は福島縣士族鈴木茂に三女ミネ(同二三、七生)は同縣人本田伊八長男一記に四女タキ(同三〇、八生)は同縣人西内茂に嫁せり(福島、相馬、太田村)

須賀龜太郎

建築請負業

高知縣在籍

妻　登喜衛　明一九、一生、高知、大石岩太郎妹
男　卯夫　明四三、九生

君は高知縣人須賀卯之助の長男にして明治十一年六月を以て生れ同三十四年家督を相續す建築請負業を營む家族は尚二男登(大一〇、六生)あり弟馬次郎(明一五、九生)は高知縣人須賀惣平の死跡を相續し妹小牛(同二一、一〇生)は同縣人佐竹利之助に嫁せり(東京、日本橋、北新堀町二〇)

須賀喜三郎

正四位勳三等、判事、大審院部長

群馬縣在籍

妻　トネ　明一一、一一生、群馬、堀越頴三妹
男　太郎　明三六、二生
女　光代　明三九、五生、跡見女學校出身
女　八千代　明四二、九生、九段精華高等女學校出身

君は群馬縣人須賀喜太郎の長男にして明治七年三月を以て生れ大正十年家督を相續す明治三十二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同三十四年判事に任じ爾來東京區同地方各裁判所判事東京地方裁判所部長東京廣島各控訴院部長に歷補し大正九年歐米各國に次で同十四年外務省事務を囑託され支那に出張を命ぜられ昭和二年現職大審院部長に補せらる家族は尚三男幹夫(明四四、五生)四女睦代(大三、一生)五男敏夫(同五、七生)五女君代(同七、五生)あり姉サイ(明四、一一生)は群馬縣人小泉藤吉長男善六に嫁し二男次郎(同三八、三生)は其養子となれり(東京、小石川、竹早町七四 電小石川一四三八)

須賀丈太郎

陽東興業(株)社長

埼玉縣在籍

妻　じん　明一七、四生、群馬、田島仙太郎妹
男　直衛　明二八、六生
嬶　たか　明三〇、一生、埼玉、須賀三朗二女
男　忠二　明三二、八生
男　大作　明三八、二生

君は埼玉縣人須賀張三の長男にして明治三年十二月を以て生れ同十六年家督を相續す現に陽東興業會社々長たり家族は尚六男善雄(大四、八生)孫太郎(同六、三生、長男直衛長男)同健二(同七、一〇生、同二男)同英夫(同九、八生、同三男)同清夫(同一一、六生、同四男)同勤(昭二、四生、同五男)あり父張三(嘉永六、二生)は母ツメ(同四、一二生、埼玉、清水兵右衛門長女)及弟一九(明二一、九生)を伴ひ分家せり(埼玉、兒玉、加美村)

須賀　甚藏

平沼銀行、下野煉瓦、滦鐵道各(株)取締役、神奈川縣在籍

妻　淳　明元、一生、東京、小泉保直二女
男　朗元　明三二、七生
嬶　タカ　明三一、四生、二男朗元妻、神奈川、下田吉太郎妹
男　善三郎　明三九、二生
女　良子　明四三、一生

君は神奈川縣人磯貝彌兵衛の三男にして文久二年九月を以て生れ明治十五年家督を相續す明治三十二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し現に日清汽船會社監査役たり家族は尚二男晉二(大二、二生)四女雅子(同六、八生)五女春惠(同九、一生)六女有美子(同一一、九生)あり(東京市外高田町雜司ヶ谷龜原五七 電牛込六四三〇)

須貝　藤藏

醸造業

山形縣在籍

母　きゑ　明七、九生、山形、伊藤角藏長女
妻　チヘ　明三三、八生、新潟、本間倫太郎長女
男　益雄　大一一、四生

君は山形縣人須貝益太郎の長男にして明治二十二年十二月を以て生れ大正十五年家督を相續す醸造業を營む家族は尚長女ちよ(大一三、四生)二男勤二(同一四、一〇生)弟春野(明二九、一生)及其二子同龜壽雄(同三一、三生)同妻カク(同三八、二生、新潟、浮田長須計妹及其二子同健一(同三四、一生)妹ちゑ(同三八、九生)同よし(同四〇、一二生)同あい(同四三、一〇生)あり(山形、西置賜、小國本村)

參照 浮田長須計の項

須貝　廣之丞

新潟縣多額納稅者、農業

新潟縣在籍

男　孝之輔　明三二、三生、明治大學法學部出身
嬶　ミネ　明三四、九生、三男孝之輔妻、新潟、近藤醫之助七女、縣立新潟高等女學校出身
男　銀輔　明三五、五生、慶應義塾大學經濟學部在學
女　マキ　明四四、九生、新潟工藝女學校出身
女　セツ　明四四、一〇生、縣立卷高等女學校在學
養子　キヨ　大二、八生、新潟、佐々木庇藏孫

君は新潟縣人須貝銀作の長男にして慶應三年五月を以て生れ明治二十八年家督を相續す農業を營み幾多公共の爲めに竭し新潟縣多額納稅者たり家族は尚ほ孫壽一(大三、二生、醸絲糞子莊長男)同壽巳(同六、二生、同二男)同重孝(同一四、二生、三男孝之輔長男)同哲彦

(昭二、四生、同二男)あり長女コイ(明二三、一〇生)は新潟縣人須貝寅四郎長男義一に養子イシ(同一二、五生、新潟、瀧常吉二女)は同縣人本間三郎兵衛長男岩藏に嫁し同重次郎(同一四、一一生、新潟、福澤市右衛門四男)は分家し姉ツク(元治元、一生)は同夫寅四郎(文久三、五生、新潟、本間增右衛門四男)と共に弟重太(明一一、四生)は其妻ツル(同一一、一二生、新潟、本間善吉三女)及子女を伴ひ同銀作(同一四、七生)は其妻トメ(同二〇、一〇生、新潟、小林榮吉郎妹)及子女を伴ひ各分家し同義一(同二〇、三生)は前記寅四郎の養子となり叔父丈三郎(安政五、七生)は新潟縣人坂井字一郎の家籍に入れり(新潟、北蒲原、松塚村)

須釜嘉平太

福島縣多額納稅者、地主
福島縣在籍

母　タカ
妻　サタ
男　英一
婦　つや
男　武雄　明三九、四生
男　洋三　明四一、一〇生

君は福島縣人先代嘉平太の長男にして明治十六年八月を以て生れ大正十一年家督相續と共に前名健治を改む地主にして現に福島縣多額納稅者たり家族は同四男正夫(大三、一一生)五男剛(同五、一〇生)長女嘉(同六、一〇生)二女節(同一四、二生)孫經(昭二、六生、長男英一長女)あり姉テル(明六、一一生)は福島縣人藤田彌五兵衛の養母にして同ウラ(同九、八生)は同縣人溝井幸七長男直太郎に養子マサ(同一九、二生、福島、鉾川長吉三女)は同縣人須釜治右衛門二男大平に同タケ(同二四、一生、福島、川崎太四郎三女)は同縣人金子鐵太郎に叔母サト(同元、七生)は同縣人藤田新次郎に嫁し叔父平五郎(同三、一二生)は同縣人内藤傳之助長女タカの婿養子となり同九八郎(同八、一〇生)は同妻シン(同七、一一生、福島、船田健次郎四女)と共に其子女を伴ひ分家せり(福島、西白河、白河町)

参照―須釜治右衛門、角田五郎、藤田彌五兵衛の項

須釜治右衛門

福島縣多額納稅者、自河電燈(株)取締役、呉服商、福島縣在籍

母　トメ
妻　カウ
男　富壽　明三九、一生
女　靜枝　明四一、一生

君は福島縣人先代治右衛門の長男にして明治九年九月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す須川組と稱し勞力請負業を營み縣下の多額納稅者にして現時推れて横濱市會議員横濱商工會議所議員たり家族は尚二男正二(大元、九生)三男三郎(同四、三生)あり長女シヅ子(明三七、三生)は三重縣人中川博(横濱、中、本牧町三二九六)に嫁せり(電本局四四六五)

須川米次郎

名古屋銀行(株)東京支店長
大分縣士族

父　吉次郎　安政六、一生、現戸主
母　リク　慶應二、九生、大分、小畑小十郎妹
妻　ミツ　明二九、一二生、福岡、植田德太郎長女
男　力　大五、八生

君は大分縣士族須川吉次郎の長男にして明治二十一年三月を以て生る同十三年福崎等商業學校を卒業し直ちに名古屋銀行に入り各地支店長督業部副長等を經て現時同銀行東京支店長たり家族は尚長女和代(大八、一〇生)二女千代子(同一三、五生)三男徹(昭二、一生)の外弟榮治(明二二、一二生)同妻のぶ(同三二、三生、東京、白井なを養子)及其一子あり(東京市外中野町打越一九九三ノ一)

須子亥三郎

鐘淵紡績(株)社員
兵庫縣在籍

妻　いな　明九、八生、山口、須子五郎養子

君は山口縣人新谷晉助の兄にして明治二年三月を以て生れ同四十一年十一月先代いなの入夫となり家督を相續す明治二十七年慶應義塾正科を卒業し現に鐘淵紡績會社々員たり養子鈴子(明三七、一一生、兵庫、中島武三妹)は福岡縣人二階堂行德に嫁せり(神戸、大手町西久保井一ノ五電須磨四三五)

参照―※井出謙治の項

須佐廣主

七尾商工銀行(株)專務取締役
島根縣士族

妻　ソメ　明一一、二生、島根、廣江重太郎妹
養子　正武　明三七、六生、東京、士、四王天數馬四男

君は島根縣士族須佐建親の叔父に方り慶應二年七月を

以て生る明治四十二年法政大學を卒業し現時七尾商工銀行專務取締役たり家族は尚亡兄建勳妻トモ(嘉永四、六生、島根、河瀨寛示長女)養甥建親(明九、七生、亡兄建勳養子、島根、大橋茂右衛門二男、現戸主)同妻キワ(同七、三生、亡父建貞四女)の外其子女及び妹ヒヤク(同二、九生)と其子女あり再甥志津子(同二九、六生)は島根縣人河瀨重憲に嫁せり(石川、鹿島、七尾町)

須々木庄平

大阪堂島米穀取引所取引員
大阪府在籍

妻　サワ　明二六、四生、大阪、脇本ひさ二女
男　義夫　大九、一一生

君は大阪府人先代庄平の長男にして明治十八年九月を以て生れ大正三年家督を相續し前名庄藏を改む明治三十八年大阪高等商業學校を卒業し大阪堂島米穀取引所取引員たり家族は尚二男敏郎(大一二、三生)あり(大阪、北、堂島濱通一ノ五八電北一二三)

須田馬太郎

上毛實業銀行(株)常務取締役、前橋倉庫(株)監査役、群馬縣士族

妻　ひで　明四五、二生
男　保之　明四〇、八生
女　のぶ　明四五、二生
女　れい　明四五、二生

君は群馬縣士族須田千五作の長男にして明治十年八月を以て生れ同十四年先代十九平の養子となり後家督を相續す現時前記銀行會社の重役たり家族は尚四女たき(大六、九生)あり長女あい(明三七、二生)は群馬縣人樋口竹太郎に嫁せり(前橋、天川町四八)

参照―遠藤隆吉の項

須田金之助

正四位勳三等、農學博士、北海道帝國大學教授、農學部勤務
北海道士族

妻　マツ　明一〇、六生、北海道、士、小山
男　忠次　明三七、四生
男　求馬　明三九、九生
女　梅　明四一、一生
女　田鶴　明四五、二生

君は山形縣士族須田金十郎の長男にして明治二年十一月を以て生れ同二十九年家督を相續す同二十六年札幌農學校を卒業し北海道廳技師に任じ次で北海道帝國大學教授となり現時其任にありて農學部に勤務す家族は尚亡男虎雄(大三、一〇生)七男七郎(同六、三生)あり長女竹(明二八、五生)は北海道人永根晋弟信雄に養子みとり(同二四、七生、山形、我妻平晉長女)は山形子(大四、五生)七女登久子(同六、二生)八女久代(同八、九生)九女芳江(同一〇、一〇生)三男正夫(同一二、一生)四男和雄(同一四、八生)孫公子(昭二、九生、長男治彌長女)あり長女喜惠(明三五、八生、東京府立第三高等女學校出身)は埼玉縣人三井物產會社員高田義雄に嫁し養妹まさ(同一九、一生)は分家せり(埼玉、大里、妻沼町)

須田國雄

日佛シトロエン自動車(株)取締役、鬼怒川水力電氣(株)監査役、日本麥酒鑛泉(株)東京工場長、東京府在籍
高千穗商會(資)代表社員
宮崎縣士族

養母　アキ
妻　ハル　明二〇、四生
女　米子　明四〇、一二生

須田家は舊日向國都城藩士にして先代工學博士利信は横濱船渠會社取締役たり君は愛媛縣人櫻井滑の弟にして明治十一年七月を以て生れ先代正十四年家督を相續す明治三十六年東京帝國大學工科大學機械科を卒業し川崎造船所技師横濱船渠會社技師等を經て現に前記會社の重役たり(東京、四谷、鹽町一ノ三〇電四谷三〇三二)

須田實郎

埼玉縣多額納稅者、農業
埼玉縣在籍

妻　たみ　明一五、一生
男　治彌　明三八、三生、長男治彌妻、日光製紙會社專務取締役篠原定吉二女
男　學　明三七、六生、慶應義塾大學經濟學部出身、三菱合資會社員
女　智嘉　明四〇、二生、縣立熊谷高等女學校出身
女　滋子　明四四、三生、縣立熊谷高等女學校出身
女　糸子　明四四、校出身
女　梅子　大二、八生、縣立熊谷高等女學校在學

須田家は織田信長の臣須田九郎の裔なり十數代以前より武州妻沼町に定住し舊幕時代には組頭を勤めたる家柄なり君は埼玉縣人內田善之助の伯父に方り明治九年四月を以て生れ先代治雄の養子となり大正三年家督を相續す夙に東京に遊學し熊谷銀行妻沼支店長となりしが後是を辭し組業農に專心し現に縣下の多額納稅者として知られ養に妻沼町長に擧げらる圖碁を嗜む家族は尚二男道雄(明四二、一生、成蹊高等學校在學)六女光子(大四、五生)七女登久子(同六、二生)八女久代(同八、九生)九女芳江(同一〇、一〇生)三男正夫(同一二、一生)四男和雄(同一四、八生)孫公子(昭二、九生、長男治彌長女)あり長女喜惠(明三五、八生、東京府立第三高等女學校出身)は埼玉縣人三井物產會社員高田義雄に嫁し養妹まさ(同一九、一生)は分家せり(埼玉、大里、妻沼町)

須田宣

帝國硝子工業(株)取締役、鬼怒川水力電氣(株)監査役、日本麥酒鑛泉(株)東京工場長、東京府在籍

妻　かめの　明二五、一二生、加賀美昌保長女
男　堅太郎　明四四、九生

君は山梨縣人須田藤平東京府人福島茂富の兄にして明治十一年三月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す夙に實業界に入り現時日本麥酒鑛泉會社東京工場長にして帝國硝子工業會社取締役たる外前揭會社の重役たり養に金剛水力電氣加富登麥酒各會社の重役たりしことあり家族は尚二女ちか子(大五、二生)三女ひで子(同七、二生)二男清次郎(同九、一生)三男榮三郎(同一一、八生)四女與根(同一三、一生)あり(東京、赤坂、青山高樹町一二ノ五一電青山一九二)

参照―福島茂富の項

須田大助

地主
東京府在籍

婦　タカ　明三八、製紙會社
女　智嘉　明四〇、二生、校出身
婿　たつ　大二、八生、在學

須田家は織田信長の臣須田九郎の裔なり十數代以前より武州妻沼町に定住し舊幕時代には組頭を勤めたる家柄なり君は埼玉縣人內田善之助の伯父に方り明治九年

男　鐲治　明二六、九生
妻　三木三之助姉　明二七、七生、長男鐲治妻、東京

君は東京府人先代彙五郎の長男にして萬延元年一月を以て生れ明治三十四年家督を相續す地主として知らる家族は尚孫正雄(大四、四生、長男鐲治長男)同正澄(同六、四生、同二男)同敦江(同一〇、一〇生、同長女)同春枝(同一四、一生、同二女)同すみ江(昭二、二生、同三女)あり長女喜惠(明二〇、五生)は東京府人戸泉定吉二男直吉に二女路久(同二四、二生)は同府人藤井政

男　經宇　明三六、五生、醫學士

須田家は舊信州高遠藩士にして代々典醫を勤めし家柄なり君實は同藩祐筆掛肇頭内田文皐の長男にして内田幸藏の兄なり明治二年九月を以て生れ先代哲造の養子となり同二十七年家督を相續す同二十三年第二高等中學校醫學部を卒業し獨逸に渡りハイデルベルヒ大學に入り眼科を專攻する事四ケ年歸朝後明々堂眼科醫院を繼承して一般診療に從事し斯界の名手を以て知らる現時東京醫學專門學校教授を兼ぬ謠曲を嗜み書畫を愛玩す二女美喜子(明四〇、一生)あり二女喜美子(同九、三生)六女富美子(同一四、一生)七女嘉壽子(昭二、二生)あり二女富江(明四〇、九生)は同夫七造(同三六、一二生、富山、宮越喜一郎三男)と共に分家し五女朝子(大一一、九生)は富山縣人藤井英文の養子となれり(富山市木町)

須田德二郎　須田德商店(名)代表社員、綿ネル商、大阪府在籍

妻　うさ　明一二、五生、滋賀、鵜野庄三郎長女

養子　芳三　明二三、一一生、滋賀、鵜野庄三郎四男

妻　なを　明三〇、五生、養子芳三妻、滋賀、中田定治四女

君は滋賀縣人須田長三郎の二男にして明治八年十月を以て生れ同三十四年分れて一家を創立す綿ネル商を營み須田商店代表社員たり家族は尚孫博二(大七、二生養子芳三長男)同美代子(同一〇、二生、同長女)同二郎(同一二、八生、同二男)同喜代子(同一五、八生、同二女)あり(大阪、東、本町三ノ二二電本町二九〇)

須田信夫　千葉縣多額納稅者、農業

千葉縣在籍

母　ため　安政二、八生、千葉、弓削田市兵衛四女

妻　とみ　明一九、一一生、千葉、鴇田友七二女

男　益夫　明四四、一生

女　美津　明三七、一生

君は千葉縣人須田藤三郎の長男にして明治九年八月を以て生れ同四十四年家督を相續す農を營み現に千葉縣多額納稅者たり家族は尚二男孝(大二、三生)三男英(同一〇、五生)四男和夫(同一四、四生)あり弟惇吉(明一六、四生)同妻せん(同一七、四生、千葉、切替源太郎四女)は其一子と共に分家し弟東作(同二五、一生)は千葉縣人林藏次郎の養子となれり(千葉、市原、海上村)

須田辰次郎　彌富商會(株)取締役

大分縣士族

妻　ハル　文久元、二生、東京、士、中村德修二女

男　清德　明一九、一二生

婦　喜和　明三一、三生、長男清德妻、神奈川、士、志和地榮介長女

君は大分縣士族須田半彌の長男にして嘉永六年一月を以て生れ明治十六年家督を相續す同四年慶應義塾を卒業し現時彌富商會取締役にして藏に全國肥料取次所監査役たりし事あり長女リヨウ(明一七、四生)は東京府士族河村春司三男現知司に嫁し弟順四郎(同三、九生)は東京、麻布、一本松原轍方に入家せり(東京、麻布、一本松原轍方)

須田卓爾　東京醫學專門學校教授、小石川區醫師會長、明々堂眼科醫院長、眼科醫、東京府士族

養母　いそ　安政五、七生、養祖父經哲長女

妻　しず子　明一四、一生、長野、木下信十郎三女

男　信濃夫　明三三、七生、醫學士

男　經文　明三五、二生、新冠御料牧場勤務

婦　小枝　明三八、九生、二男經文妻、廣島、石川啓二女

泰に嫁し二男隆三(同三〇、四生)妹キン(慶應二、一一生)は各分家し弟保三(明一〇、五生)は分家弟順之助の死跡を相續せり(東京市外目黒町下目黒六六〇電高輪一六三三)

參照═須田保三の項

須田卓二　埼玉縣多額納稅者、農業

埼玉縣在籍

安政二、一一生、埼玉、關根峰三郎長女

母　すま　明一七、三生、埼玉、關根大八郎女

妻　ちが　明三九、六生、三輪田高等女學校出身

女　はつ　明四四、一生、三輪田高等女學校在學

女　房子　須田家は土地の舊家にして代々地主農を家業とし立場の大盡として知らる君は先代守三の長男にして明治十三年十月を以て生れ大正九年九月家督を相續す夙に慶應義塾に學び御來鄕里に在りて組業に從事す現時縣下の多額納稅者たり多趣味にして閨碁釣魚謠曲書畫骨董等を數ふ家族は尚三女政子(大三、一一生、三輪田高等女學校在學)あり妹たね(明一六、四生)は埼玉縣人細沼愼介に同ぎん(同二二、一二生)は同縣人加藤孝太郎に同やす(同二四、七生)は同縣人武井昇に同かよ(同二九、五生)は同縣人濱田久治弟寬治に同と〻(同三一、六生)は同縣人清水茂に嫁し弟信一(同一九、一〇生)は豪商茂木七郎右衞門の養子となり長女義に配せられ後分家せり(埼玉、北足立、上平村)

參照═武井昇、濱田久治、細沼愼介、茂木七郎右衞門の項

須田信次　高田舶底塗料製造所、東京計器製作所各(株)取締役、東京府在籍

妻　わか　明七、四生、東京、中村德三郎妹

養子　博　明二一、二生

君は東京府人先代守約の長男にして文久二年八月を以て生れ明治二十四年家督を相續す現時高田舶底塗料製造所東京計器製作所各取締役たり(東京、芝、白金臺町一ノ二七電高輪一六六四)

參照═須田博の項

須田　博　從五位、鐵道局參事、名古屋鐵道局運輸課長、東京府在籍

養父　信次　文久二、八生、現戸主

妻　みよ　明二三、一生、養父信次長女

男　純吉　大四、三生

君は鹿兒島縣士族大山賢輔の二男にして明治二十一年二月を以て生れ大正三年須田信次の養子となる明治四十二年東亞同文書院政治科を卒業し大正二年文官高等試驗に合格鐵道院に職を奉じ同七年鐵道院參事補に任ぜられ次で鐵道省事務官となる同十一年英米兩國に出張同十五年鐵道局參事となり現に名古屋鐵道局運輸課長たり家族は尚長女實子(大九、一一生)三男信雄(同一五、一生)あり(名古屋、東、大曾根町鐵道官舍内)

參照═須田信次の項

須田　政治　茨城縣多額納稅者、農業

茨城縣在籍

妻　やを　明九、三生、千葉、八木慶太郎妹

男　保次　明四五、二生

女　ふみ　明三八、二生

君は茨城縣人先代政治の長男にして明治元年四月を以て生れ同十六年家督を相續す農業を營み茨城縣多額納稅者たり家族は尚三男悌三(大三、一〇生)あり二女なを(明三四、三生)は茨城縣人鰐谷仙三郎に四女利子(同四一、三生)は同縣人日下榮太郎長男清に妹と〻(同一二、一〇生)は同縣士族黒澤源七郎に嫁し叔母とら(慶應三、四生)は分家し弟英次郎(明六、四生)は茨城縣人森田文左衞門に同雄之助(同一四、一一生)は前記日下榮太郎に各養子となれり(茨城、新治、高濱町)

參照═鰐谷仙三郎の項

須田萬右衞門　岐阜縣多額納稅者、美濃銀行(株)取締役、農業、岐阜縣在籍

母　つな　元治元、一一生、愛知、山川茂兵衞二女

妻　なを　明二二、二生、愛知、岩田吉兵衞妹

男　喜智雄　大一三、六生

女　錦　明三九、九生

君は岐阜縣人先代萬右衞門の長男にして明治十四年一月を以て生れ同三十四年家督を相續す舊名英一を改め襲名す農業を營み傍ら美濃銀行取締役にして縣下の多額納稅者たり家族は尚三女雪子(大四、一二生)六女綠(同一〇、四生)あり妹たね(明二一、五生)は岐阜縣人古屋慶隆に同さだ(同二二、一二生)は愛知縣人土井七右衞門三男留之助に同みき(同二四、一〇生)は岐阜縣人須田文雄に同かを(同二八、一〇生)は愛知縣人武田藤二郎に嫁せり(岐阜、武儀、美濃町)

參照═古屋慶隆の項

須田　實　正五位勳三等、陸軍少將、歩兵第三旅團長、秋田縣士族

母　ハル　明二〇、二生、秋田、芳賀俊藏妹

妻　ハル　明三九、一一生

男　武夫　明四二、二生

君は秋田縣士族須田秀夫の長男にして明治十三年十月を以て生れ同十二年家督を相續す夙に陸軍士官學校卒業し明治三十四年陸軍步兵少尉に任じ昭和二年陸軍少將に累進す其間陸軍大學校を卒業し大正七年歐洲に出張を命ぜられ又教育總監部課員步兵第五十五聯隊長第十六師團參謀長等に歷補し昭和二年步兵第三旅團長に補せられ現時に至る家族は尚二女和子(大一〇、九生、千葉、津田穀一長女)との間に子女あり(仙臺、小田原長丁通一〇電三四四)

須田　保三　小西商店、酒類蒼炭商

東京府在籍

妻　くわ　明一七、九生、東京、松原三喜四女

男　勇一　明四二、六生

女　元　大元、一一生

君は茨城縣人須田保五郎の五男同大助の弟なり明治十年五月を以て生れ同三十七年兒贇之助の死跡を相續す家族は尚三男勝次(大三、一〇生)四男敬三(同九、二生)あり(東京、牛込、早稻田鶴巻町一〇〇電牛込二六六六)

參照═須田大助の項

須藤義衞門　正三位勳二等、獸醫學博士、東京帝國大學名譽教授、東京府士族

妻母　ゆき　明二四、一〇生

男　明治　明二四、一〇生

男　芳雄　明二六、一〇生、早稻田大學政治經濟科出身

男　國雄　明三二、九生、早稻田大學商科出身

君は東京府士族須藤藤衞の長男にして文久元年二月を以て生れ大正十一年家督を相續す先是明治十五年駒場農學校獸醫學科を卒業し同年同校助教授となり同十九年農商務省屬に轉じ同二十年札幌農學校助教授に任じ同二十一年同教授に進み同二十六年帝國大學農科大學教授に轉じ同三十二年獸醫學博士の學位を受け爾來同大學教授として大正十三年迄在職し官を辭して同大學名譽教授に推され今日に至る二女のぶ(明二九、八生、三輪田高等女學校出身)は早稻田大學教授法學博士遊佐慶夫に嫁せり(東京、四谷、南伊賀町八電四谷二五〇一)

須藤　恭平　久米同族(株)取締役

東京府在籍

萬延元、九生、東京、吉川米左衞門三女

妻　ツル　明一七、一生、先々代吉右衞門長女

君は埼玉縣人久米六右衞門の四男にして同良作渡邊六藏岩出儀三の弟なり明治十四年一月を以て生れ同三十八年先代ツルの入夫となり家督を相續す現に久米同族會社取締役として知らる妻妹マツ(明二二、一二生)は子女を伴ひ分家せり(東京、本鄕、林町一五電小石川七四五)

參照═岩出儀三、久米良作、渡邊六藏、三輪信太郎の項

須藤　憲三　從四位勳三等、醫學博士、金澤醫科大學長兼教授、山形縣在籍

妻　とく　明一二、一生、東京、佐藤精長女

男　久郎　明四二、六生

女　芳子　明四〇、六生

君は山形縣人須藤富右衞門の長男にして明治五年一月

を以て生れ同四十年家督を相續す同二十六年醫術開業免許狀を授與せられ同年帝國大學醫科大學選科を修業し同四十五年醫化學研究の爲め獨に留學し歸朝後東京帝國大學醫科大學助手となり次いで同助教授に任じ醫學博士の學位を授與せらるる現に金澤醫科大學長にして教授を兼ぬ家族は尙ほ三男廉雄（明四四、四生）あり長女千代子（同三七、一〇生）は兵庫縣人荒井操三男浩に妹まつ（同一七、四生）は岩手縣人菊地正三に嫁し弟富太郎（同七、九生）同妻てい（同一三、七生、山形、平八有衞門二女）は其子女と共に分家し姪まさ（同一九、二生）も亦分家せり（金澤醫科大學内）

參照―荒井操の項

須藤孝太郎

山形縣多額納稅者、北部製絲（株）取締役、楯岡銀行（株）監査役、釀造業、山形縣在籍

明一三、二生、山形、清野德三郎二女

妻　りき　明三四、二生

男　孝三郎　明三八、一生、長男孝三郎妻、山形、齋藤龜太郎四女

婦　源　明三七、二生

男　義廣　明四四、八生

女　トク

君は山形縣人須藤孝治の長男にして明治七年五月を以て生れ同四十二年從兄松四郎方より分れて一家を創立す釀造業を營み前記銀行會社の重役に擧げられ山形縣多額納稅者たり家族は尙孫安（大一一、九生、長男孝三郎長女）同良（同一三、六生、同二女）同和夫（同一五、七生、同長男）あり長女よね（明一九、三生）は同夫卯助（同二一、五生、山形、門脇利助三男）と共に其二男一女を伴ひ妹せい（同一五、九生）は同夫文三郎（同一〇、一一生、山形、原田三藏二男）と共に其一女を伴ひ同とみ（同二五、一二生）も亦同夫喜之助（同一八、四生、山形、笹原貞藏四男）と共に其一女を伴ひ各分家し母よし江（嘉永六、一一生、山形、糸木六右衞門長女）は前記喜之助の家籍に入り二女きつ（明三〇、三二、一〇生）は山形縣人鈴木善右衞門孫太郎に嫁せり（山形、北村山、東根町）

參照―鈴木善右衞門の項

須藤松四郎

山形縣多額納稅者、釀造業

山形縣在籍

明四、一二生、山形、岡田久右衞門妹

妻　せい

男　堅太郎　明二七、七生

婦　マスエ　明三一、一二生、長男堅太郎妻、山形、高島清五郎三女

男　雄三郎　明三一、一〇生

婦　エイ　明三三、九生、三男雄三郎妻、山形、岡田粂治四女

男　薫五郎　明三三、一二生

男　松美　明三四、一一生

女　シキ　明三八、三生

女　この　明四二、七生

君は山形縣人先代松四郎の長男にして明治四年十二月を以て生れ同三十六年家督を相續し襲名して前名松太郎を改む釀造業を營み山形縣多額納稅者たり家族は尙孫伸（大六、一二生、長男堅太郎長女）同克郎（同八、五生、同長男）同孝子（同一一、二生、同二女）同治子（同一四、一生、同三女）同明子（同一五、一生、同四女）同知秀（同一三、八生、三男雄三郎長男）同ユウ（同一五、九生、同長女）あり（山形、北村山、東根町）

參照―高島清五郎※神谷健夫※高橋勝兵衞の項

須藤良三

龍野銀行（株）取締役

兵庫縣在籍

養父　藤治　安政四、五生、兵庫、猪澤藤次郎二男、現戸主

妻　えい　明一七、一生、養父藤治二女

男　一郎　明四〇、一二生

女　文　明四二、七生

君は兵庫縣人島津源十郎の長男にして明治十二年五月を以て生れ同三十八年現戸主藤治の養子となる現時前記銀行の重役たり曾て龍野町會議員に擧げらる家族は尙養弟藤巳治（大六、二生）あり二女悦（明三九、一一生）は兵庫縣人須藤すみの養子となり養妹みつ（同二六、一一生）は同縣人能勢安治に嫁せり（兵庫、掛保龍野町）

須永達

豐田式繊機（株）常務取締役

兵庫縣在籍

妻　みち　明一二、七生、兵庫、士、佐藤成教養子

男　克巳　明三五、一生

男　信二　明三四、一一生

男　達雄　明三九、一一生

女　しげ子　明四二、五生

君は栃木縣人長倉環の六男にして同縣士族須永家に養子となり明治四十三年養兄陳平方より分れて一家を創立す現時前記會社の重役たり家族は尙四男義雄（明四五、四生）あり（兵庫、武庫、住吉村畦倉一〇八電御影三五一）

參照―※大熊篤太郎※佐原憲次※中松龜太郎の項

須之内啓二郎

三井銀行（株）スーラバヤ出張所長、愛媛縣在籍

明三〇、一〇生、岡山、船橋信一三女

妻　喜久惠　明三八、一二生

男　道也　大八、一二生

君は愛媛縣人須之内安太郎の四男にして明治二十一年五月を以て生れ同四十三年東京高等商業學校を卒業し直に三井銀行に入り東京本店大阪西支店上海支店等に勤務し紐育支店次長を經て現に同行スーラバヤ出張所長たり家族は尙三男二郎（大一一、八生）兄安太郎（明一四、一生、同三女）同明子（同一五、一生、同四女）同治子（同一七、一生、同五女）同明子（同一五、一生、愛媛縣人須之内德太郎二男）及其子女あり妹フサノ（同二四、現戸主）同妻ヒデコ（同二五、一生、愛媛縣人枝村光明に嫁せり（瓜哇、スーラバヤ三井銀行出張所）

須之内品吉

動力等、衆議院議員（愛媛縣選出）

立教大學教授、辯護士、愛媛縣在籍

妻　たみ　明一九、一生、京都、岡崎正章二女

男　文　明四二、七生

君は愛媛縣人須之内德太郎の二男にして明治十六年十一月を以て生れ同三十八年現戸主藤治の養子となる現時前記銀行の重役たり曾て龍野町會議員に擧げらる家族は尙養弟藤巳治（大六、二生）あり二女悦（明三九、一一生）は兵庫縣人須藤すみの養子となり養妹みつ（同二六、一一生）は同縣人能勢安治に嫁せり（兵庫、掛保龍野町）

須原宇之松

藤屋、材木商

東京府在籍

妻　す゛ゑ　明二、一二生、東京、畠兼次郎妹

男　喜治　明三四、一〇生

男　永助　明三六、九生

君は茨城縣人遠藤庄四郎の四男にして慶應三年一月を以て生れ先代鐵五郎の死跡を繼ぐ少壯上京して材木問屋利倉屋に奉公し後獨立して藤屋と呼び材木商を營み刻苦して今日の產を成す長女みつ（明二五、一〇生）三女こと（同三〇、一〇生）は各分家せり（東京、淺草、地方今戸町八〇電淺草七六七）

須原利三郎

西六銀行（株）取締役

大阪府在籍

男　德太郎　明八、九生、現戸主

婦　スエ　明九、八生、川崎總吉妹

養孫　藏之助　明二五、四生、孫とく夫、大阪、谷豐次郎三男

孫　とく　明三一、九生、養孫藏之助妻、長男德太郎二女

孫　千代子　明三七、一〇生、長男德太郎五女

孫　笑子　明四二、四生、長男德太郎六女

君は大阪府人先代利三郎の長男にして嘉永三年十一月を以て生れ後家督を相續し大正十五年退隱す現時西六銀行取締役たり家族は尙孫君子（大三、一一生、長男德太郎長女）及三男三郎（同一一、七生、養孫藏之助二男）あり長女ふく（同二二、三生）は同府人辻本鐘三郎に三女フク（同二二、三生）は同府人松室恒藏養子宗信に妹はな（文久三、八生）は前記松室恒藏に嫁せり（大阪、西、新町通一ノ一〇三）

參照―辻本鐘三郎の項

須見德實

農業

德島縣士族

母　マスノ　明二一、三生、祖父忠次郎長女

君は德島縣士族須見新助の三男にして明治四十三年一月を以て生れ昭和二年先代曾祖父千次郎の跡を承けて家督を相續す農業を營む先代千次郎は夙に政界に入り德島縣會議員衆議院議員等に當選す家族は尙ほ弟邦武（明四五、七生、妹敬子（大四、一生）同金子（同六、五

須藤定八

上州運送、高崎倉庫各（株）社長、上州銀行（株）監査役、群馬縣在籍

妻　うめ　明一〇、一二生、養父清七長女

男　廉一　明四一、五生

君は栃木縣人小林新平の三男にして明治四年二月を以て生れ後須藤清七の養子となり大正十年分家して一家を創立す現時前記銀行會社の重役たり長女壽枝（明三七、七生）は東京府人三井義人に嫁せり（高崎、九藏町甲一〇二電七三三）

參照―※橋本喜助の項

須藤庄吉

岡崎電氣軌道（株）專務取締役、岡崎瓦斯（株）取締役、愛知縣在籍

妻　きりの　明二六、五生、愛知、水野善五郎二女

男　昇平　大三、一生

君は愛知縣人狹田キヨの叔父にして明治十九年七月を以て生れ後先代庄吉の養子となり大正四年家督相續と共に前名谿二郎を改む現に前記諸會社の重役たり家族は尙孫孝久（大一四、二生、養子直吉長男）同恒久（同一五、四生、同二男）あり妹ワカヨ（明七、六生）は秋田縣人須藤均一郎長男彦一郎に嫁せり（秋田、由利、本莊町）

須藤直方

佐世保銀行、佐世保貯蓄銀行各（株）頭取、長崎油脂工業（株）取締役、長崎縣士族

養子　圭一郎　明三一、七生、長崎、士、川尻正勝二男

婦　つね　明三五、一〇生、養子圭一郎妻、三重、藤川岩吉長女

孫　雄　明四〇、六生、分家長女タマ長男

君は長崎縣士族須藤庄九郎の長男にして安政五年二月を以て生れ後先代友之進の養子となり家督を相續し後前名利作を改む明治二十三年中央大學を卒業し現時前記各銀行會社の重役たり家族は尙庶子大吉（大一五、三生、生母、長崎、片淵イシ）孫直良（同一〇、六生、養子圭一郎長男）同健三（同一四、三生、同二男）あり長女タマ（明一六、一一生）は分家せり（長崎、東彼杵、早岐町）

須藤八九郎

高知

高知縣在籍

多額納稅者、林業

妻　久代　明一五、三生、高知、岡信紀妹

男　重己　明三四、九生

女　富喜　明四五、一生

君は高知縣人先代八九郎の長男にして慶應元年五月を以て生れ大正五年家督を相續し前名恒吉を改む林業を營み現に高知縣多額納稅者たり家族は尙二男泰作（明四二、九生）七女壽萬（大四、三生）四男巳代治（同六、六生）五男敬三（同七、六生）六男和郎（同一〇、四生）あり二女芳衞（明三六、五生）は高知縣人上田紫朗に五女千鶴（同四〇、八生）は同縣人坂本素魯哉長男清に妹民（同五、九生）は同縣人西内森藏二男久吉に嫁せり（高知、安藝、安藝町）

參照―上田紫朗、坂本素魯哉の項

婦　仙　明三九、一生、養子直吉妻、山形、細井廣藏妹

君は秋田縣人須藤善太郎の長男にして文久三年九月を以て生れ明治十二年家督を相續す現時横莊鐵道會社取締役たり家族は尙孫孝久（大一四、二生、養子直吉長男）同恒久（同一五、四生、同二男）あり妹ワカヨ（明七、六生）は秋田縣人須藤均一郎長男彦一郎に嫁せり（秋田、由利、本莊町）

須藤善一郎

横莊鐵道（株）專務取締役

秋田縣在籍

妻　ワカ　明一七、二生、秋田、加藤平吉養子

男　一郎　明三一、九生、秋田、江幡彦四郎八男

須藤昇司

從五位勳三等功五級、陸軍憲兵大佐、名古屋憲兵隊長、東京府士族

妻　こう　明二三、八生、茨城、森田三吉二女

男　良雄　明四三、三生

女　愛子　明四四、九生

君は山形縣人須藤孝治の長男にして明治七年五月を以て生れ同四十二年從兄松四郎方より分れて一家を創立す釀造業を營み前記銀行會社の重役に擧げられ山形縣多額納稅者たり家族は尙孫安（大一一、九生、長男孝三郎長女）同良（同一三、六生、同二女）同和夫（同一五、七生、同長男）あり長女よね（明一九、三生）は同夫卯助（同二一、五生、山形、門脇利助三男）と共に其二男一女を伴ひ妹せい（同一五、九生）は同夫文三郎（同一〇、一一生、山形、原田三藏二男）と共に其一女を伴ひ同とみ（同二五、一二生）も亦同夫喜之助（同一八、四生、山形、笹原貞藏四男）と共に其一女を伴ひ各分家し母よし江（嘉永六、一一生、山形、糸木六右衞門長女）は前記喜之助の家籍に入り二女きつ（明三〇、三二、一〇生）は山形縣人鈴木善右衞門孫太郎に嫁せり（山形、北村山、東根町）

參照―鈴木善右衞門の項

須藤孝太郎

山形縣多額納稅者、北部製絲（株）取締役、楯岡銀行（株）監査役、釀造業、山形縣在籍

明一三、二生、山形、清野德三郎二女

妻　りき　明三四、二生

男　孝三郎　明三八、一生、長男孝三郎妻、山形、齋藤龜太郎四女

婦　源　明三七、二生

男　義廣　明四四、八生

女　トク

君は山形縣人須藤孝治の長男にして明治七年五月を以て生れ同四十二年從兄松四郎方より分れて一家を創立す釀造業を營み前記銀行會社の重役に擧げられ山形縣多額納稅者たり家族は尙孫安（大一一、九生、長男孝三郎長女）同良（同一三、六生、同二女）同和夫（同一五、七生、同長男）あり長女よね（明一九、三生）は同夫卯助（同二一、五生、山形、門脇利助三男）と共に其二男一女を伴ひ妹せい（同一五、九生）は同夫文三郎（同一〇、一一生、山形、原田三藏二男）と共に其一女を伴ひ同とみ（同二五、一二生）も亦同夫喜之助（同一八、四生、山形、笹原貞藏四男）と共に其一女を伴ひ各分家し母よし江（嘉永六、一一生、山形、糸木六右衞門長女）は前記喜之助の家籍に入り二女きつ（明三〇、三二、一〇生）は山形縣人鈴木善右衞門孫太郎に嫁せり（山形、北村山、東根町）

參照―鈴木善右衞門の項

妻　チヨ　明三、三生、東京、中村萬之助三女
男　岩松　明四三、四生
當子(明四一、一生)あり同ミツ(同二六、一一生)は同夫榮三郎(同一九、一二生、德島、片岡源三郎四男)と共に其子女を伴ひて分家し兄光晴(同四〇、一〇生)は德島縣人曾我部道夫の養子となれり(德島、麻植、西尾村)

須山英次郎　從五位、內務技師、橫濱土木出張所清水港修築事務所勤務　靜岡縣在籍

明二三、五生、東京、關野修藏三女、東京府立第二高等女學校出身
妻　孝
男　達夫　明四五、四生
女　三保　大二、一二生

君は靜岡縣人須山豐次郎の長男にして明治十四年四月を以て生れ大正十一年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し東京電燈三菱合資東京倉庫各會社に勤務し同四十五年陸軍工兵少尉に任ぜらるる同年猪苗代水力電氣會社に入り大正二年社用を以て米國に出張し大正九年只見川水力電氣會社技師に轉じ同十年內務技師に任ぜられ現時橫濱土木出張所清水港修築事務所勤務たり家族は尙二男不二男(大八、二生)四男靜夫(同一四、七生)あり(靜岡市下石町一ノ五電(二)三三(二))

參照—※內田佐七※關野讓吉の項

須山鈴太郎　吳服商　東京府在籍

妻　かた　從四位勳四等、津市長　三重縣士族
男　邦雄　明一三、七生、三重、山本清四郎長女、ウヰルミナ女學校出身
　　明三八、五生

君は長野縣士族後藤義の二男にして明治七年四月を以て生れ先代かたの入夫となり同二十七年家督を相續す同三十一年第三高等學校法科を卒業し文官高等試驗に合格し爾來林務官山林事務官營林務局事務官兼秘務監督局事務官專賣局主事同副參事參事理事に歷任し金澤岡山福岡德島熊本郡山各地方專賣局長等に補せられ現時津市長の職にあり家族は尙四男正元(明四四、一生)あり(津、東檢校町一八六二)

諏訪忠元　正三位、子爵、芝東照宮社司　舊信州高島藩

妻　はる　明七、一生、養父忠誠三女
孫　忠弘　大七、三生、亡養子忠久二男
女　千賀子　明二六、九生
孫　豐子　大二、一生、亡養子忠久長女

當家は源經基の五男下野守滿快の後にして世々信州に居り盛重に至り諏訪と稱す數世を經て賴重に至り武田氏に亡ぼさる安藝守賴忠因幡守賴水父子德川氏に屬し再び信州にて三萬石の封を襲ぎ明治十七年子爵を授けらる君其後を享く君賞は伯爵溝口直亮の叔父にして子爵脊山正興先代正治の弟なり明治三年七月を以て生れ忠誠の養子となり同十一年家督を相續し騎爵仰付けらる同二十六年東京帝國大學文科大學國文學科を卒業し現時芝東照宮社司たり家族は尙孫勝子(大三、三生、東京府立第一高等女學校出身)同芳子(同八、五生、同四女)あり二女慶子(明三〇、六生)は東京府人植村傳助に嫁せり(東京市外中野町桐ケ谷一〇四五電四谷七九二)

參照—伯爵溝口直亮、子爵脊山正興、植村傳助※伯爵前田利男※子爵五島盛輝※男爵大倉喜七郎※大倉直介の項

諏訪　忠藏　臺灣軌道、大安製糖各(株)代表取締役、安司鑛業(株)鑒査役　東京府士族

母　タツ　嘉永四、六生、東京、高間政友長女
妻　イマヨ　明一二、六生、東京、士、久留俊造長女

君は東京府士族諏訪方六の長男にして明治四年十二月を以て生れ同十年家督を相續す現時臺灣軌道會社代表取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙ほ叔母トヨ(慶應二、三生)あり(臺北、城內府後町)

諏訪尙太郎　山形縣多額納稅者、金融業　山形縣在籍

母　藤江　明五、九生、山形、伊藤利直長女
妻　糸　明二七、三生、山形、石川龜太郎長女
男　信一　大二、二生

君は山形縣人諏訪八右衞門の孫にして明治十九年八月を以て生れ同四十四年家督を相續す金融業を營み同縣多額納稅者たり家族は尙長女洋子(大四、四生)三男賢久夫(同八、一生)二女百合子(同一一、一〇生)あり妹由幾(明二七、二生)は分家し同榛(同三四、三生)は山形縣人石川惠助に嫁せり(鶴岡、馬場町七)

諏訪部庄左衞門　長野電燈(株)取締役、梓川電力(株)鑒査役、長野縣在籍

妻　せい　明元、五生、長野、和田赤八長女
男　元助　明二三、一生
養子　平藏　明一五、一〇生、長女こと夫、長野、丸山啓作二男
女　こと　明一九、一〇生、養子平藏妻
養子　篤三　明二九、二生、四女きい夫、長野、上海德右衞門孫
女　きい　明三〇、四生、養子篤三妻
孫　くに　明三九、四生、養子平藏長女
孫　しづ　明四二、一生、養子平藏二女

君は長野縣人諏訪部元助の長男にして明治元年七月を以て生れ後家督を相續す兼に長野市會議長同商業會議所會頭等に擧げられ又衆議院議員に當選す現時長野電燈會社取締役の外前記會社の重役たり家族は尙孫一郎(明四三、一二生、養子平藏長男)同健治郎(同四五、一生、同二男)同登志(大五、九生、同三女)同啓二郎(同一〇、三生、養子篤三長男)同三郎(同一五、三生、同三男)あり二女ちか(明二一、五生)は長野縣人宮澤道太郎に嫁し二男貞助(同二六、一〇生)は同縣人諏訪部淺太郎の養子となれり(長野市東町八四)

諏訪部彥次郎　松江銀行、山陰石膏各(株)鑒査役　島根縣士族

慶應二、八生、島根、士、田中彌太郎二女

妻　クミ
男　剣　明一八、一生
婦　ハル　明二二、二生、長男剣妻、島根、淺島隆造妹
男　重夫　明三二、七生、二男重夫妻、島根、森山文雄二女
婦　道子　明二四、七生
男　正人　明三二、七生、三男正人妻、東京、岩崎初太郎二女
婦　雪

君は島根縣士族諏訪部次郎右衞門の二男にして文久二年十一月を以て生れ明治十六年家督を相續す同三十四年東京法學院を卒業し現時前記會社の重役として知らる家族は尙孫禮子(大四、九生、長男剣長女)同謙一(同七、一二生、同長男)同雅子(同一一、九生、同二女)同英彥(同一五、七生、同二男)同貞子(同一一、三生、二男重夫長女)同和子(同一〇、七生、三男正人長女)同幸子(同一二、九生、同二女)同裕子(同一五、二生、同三女)あり長女春(明二七、四生)は島根縣人芦信雄に二女文(同二九、七生)は島根縣人落合雁一に嫁し四男進(同三一、七生)は同縣人宅和剛一の養子となれり(松江、北堀町一三)

參照　※井上昇の項

岡司延太郎　醬油醸造業　滋賀縣在籍

妻　つね　明一九、一生、滋賀、西川仁右衞門妹

君は長野縣士族諏訪部元助の長男にして明治元年七月を以て生れ後家督を相續す兼に長野市會議長同商業會議所會頭等に擧げられ又衆議院議員に當選す現時長野電燈會社取締役の外前記會社の重役たり家族は尙孫一郎(明四三、一二生、養子平藏長男)同健治郎(同四五、一生、同二男)同登志(大五、九生、同三女)同啓二郎(同一〇、三生、養子篤三長男)同三郎(同一五、三生、同三男)あり二女ちか(明二一、五生)は長野縣人宮澤道太郎に嫁し二男貞助(同二六、一〇生)は同縣人諏訪部淺太郎の養子となれり(長野市東町八四)

諏訪部彥次郎　松江銀行、山陰石膏各(株)鑒査役　島根縣士族

慶應二、八生、島根、士、田中彌太郎二女

妻　クミ
男　剣　明一八、一生
婦　ハル　明二二、二生、長男剣妻、島根、淺島隆造妹
男　重夫　明三二、七生、二男重夫妻、島根、森山文雄二女
婦　道子　明二四、七生
男　正人　明三二、七生、三男正人妻、東京、岩崎初太郎二女

君は島根縣士族諏訪部次郎右衞門の二男にして文久二年十一月を以て生れ明治十六年家督を相續す同三十四年東京法學院を卒業し現時前記會社の重役として知らる家族は尙孫禮子(大四、九生、長男剣長女)同謙一(同七、一二生、同長男)同雅子(同一一、九生、同二女)同英彥(同一五、七生、同二男)同貞子(同一一、三生、二男重夫長女)同和子(同一〇、七生、三男正人長女)同幸子(同一二、九生、同二女)同裕子(同一五、二生、同三女)あり長女春(明二七、四生)は島根縣人芦信雄に二女文(同二九、七生)は島根縣人落合雁一に嫁し四男進(同三一、七生)は同縣人宅和剛一の養子となれり(松江、北堀町一三)

參照　※井上昇の項

岡司延太郎　醬油醸造業　滋賀縣在籍

妻　つね　明一九、一生、滋賀、西川仁右衞門妹
男　榮一　明三九、三生
女　あい　明四四、三生

君は滋賀縣人岡司七郎兵衞の三男にして明治十三年六月を以て生れ同三十年家督を相續す醬油醸造業を營む家族は尙(大三、三生)あり(京都、上京、木屋町通二條下ル電上二九七九)

參照—水津直太郎の項

水津直太郎　島根縣多額納稅者、山陰產業(株)社長、石見水力電氣、石見製紙各(株)取締役、農業、島根縣在籍

父　彌七
繼母　リヨウ
妻　ツネヨ
男　泰一　明四四、二生

君は島根縣人水津彌七の長男にして明治六年八月を以て生れ同四十一年家督を相續す農業を營み縣下の多額納稅者にして前記各會社の重役たり家族は尙長女鈴子(明三四、二生)二男朝夫(同六、一二生)第一一(明二五、一生、同二男)同登志(大五、九生、同三女)同啓二郎(同一〇、三生、養子篤三長男)同三郎(同一五、三生、同三男)あり二女ちか(明二一、五生)は長野縣人宮澤道太郎に嫁し二男貞助(同二六、一〇生)は同縣人諏訪部淺太郎の養子となれり(長野市東町八四)

諏訪部彥次郎　松江銀行、山陰石膏各(株)鑒査役　島根縣士族

慶應二、八生、島根、士、田中彌太郎二女

妻　クミ
男　剣　明一八、一生
婦　ハル　明二二、二生、長男剣妻、島根、淺島隆造妹
男　重夫　明三二、七生、二男重夫妻、島根、森山文雄二女
婦　道子　明二四、七生
男　正人　明三二、七生、三男正人妻、東京、岩崎初太郎二女

君は島根縣士族諏訪部次郎右衞門の二男にして文久二年十一月を以て生れ明治十六年家督を相續す同三十四年東京法學院を卒業し現時前記會社の重役として知らる家族は尙孫禮子(大四、九生、長男剣長女)同謙一(同七、一二生、同長男)同雅子(同一一、九生、同二女)同英彥(同一五、七生、同二男)同貞子(同一一、三生、二男重夫長女)同和子(同一〇、七生、三男正人長女)同幸子(同一二、九生、同二女)同裕子(同一五、二生、同三女)あり長女春(明二七、四生)は島根縣人芦信雄に二女文(同二九、七生)は島根縣人落合雁一に嫁し四男進(同三一、七生)は同縣人宅和剛一の養子となれり(松江、北堀町一三)

參照　※井上昇の項

岡司延太郎　醬油醸造業　滋賀縣在籍

妻　つね　明一九、一生、滋賀、西川仁右衞門妹
男　榮一　明三九、三生、東京、中村萬之助三女
女　あい　明四四、三生

君は滋賀縣人岡司七郎兵衞の三男にして明治十三年六月を以て生れ同三十年家督を相續す醬油醸造業を營む家族は尙(大三、三生)あり(京都、上京、木屋町通二條下ル電上二九七九)

水津直太郎　島根縣多額納稅者、山陰產業(株)社長、石見水力電氣、石見製紙各(株)取締役、農業、島根縣在籍

父　彌七
繼母　リヨウ
妻　ツネヨ
男　泰一　明四四、二生

君は島根縣人水津彌七の長男にして明治六年八月を以て生れ同四十一年家督を相續す農業を營み縣下の多額納稅者にして前記各會社の重役たり家族は尙長女鈴子(明三四、二生)二男朝夫(同六、一二生)第一一(明二五、一生、同二男)同登志(大五、九生、同三女)同啓二郎(同一〇、三生、養子篤三長男)同三郎(同一五、三生、同三男)あり二女ちか(明二一、五生)は長野縣人宮澤道太郎に嫁し二男貞助(同二六、一〇生)は同縣人諏訪部淺太郎の養子となれり(長野市東町八四)

水津彌吉　橫濱正金銀行(株)取締役　島根縣在籍

慶應二、五生、島根、士、岡村素介五女

妻　英
男　一郎　明一七、四生、山口、士、前田政三二女
女　花子　明三二、九生、養子邦彥妻

君は山口縣士族末兼薰の弟にして明治七年一月を以て生れ大正三年家督を相續す先是明治三十六年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し橫濱正金銀行に入り大連支店支配人大阪支配人等を經て現時同行を退職し尙養子邦彥(大三、三生、熊本、秋田正雄孫)亡妹恒夫壽助(明一八、一二生、島根、水津直太郎弟)及其二男二女あり妹照(同二六、二生)は島根縣人岩間路一二男碩二郎に嫁せり(大阪、天王寺、南河堀通二三七〇電戎六四〇〇)

吹田順助　正五位勳四等、東京商科大學豫科教授、東京府士族　明二、一、一〇生、山形、橋本富德二女

妻　せつ
男　亮一　明四三、八生

君は東京府士族吹田鯛六の長男にして明治十六年十二月を以て生れ同三十年家督を相續す同四十年東京帝國大學文科大學獨逸文學科を卒業し同四十一年同大學農科大學豫科教授に任ぜられ後第七高等學校造士館山形高等學校各教授を經て大正十年獨逸文學研究の爲獨逸瑞西に留學す歸朝後東京商科大學豫科教授に任ぜられ現に其職に在り家族は尙二男雄造(明四五、二生)三男周郎(大四、六生)長女みを(同八、七生)四男逸夫(同一一生、四生)あり姉眞(明一三、四生)は東京府士族淺川巽弟桂に妹タケ(同二三、一二生)は同府人飯沼剛一弟明右衞門に同澄(同二八、一三生)は同府人林原武八生)同俊介(同二九、一生)同妻サヌ(同一七、四生、島根、本多辰太郎長女)を伴ひ同信治(同一五、一生)は同妻タカ(同二〇、七生、山根正次長女)を伴ひ各分家し同壽助元、四生、和歌山、中場多郎右衞門長女)と共に分家し從妹ユキ(明一七、八生、伯父昇太長女)は神奈川縣人伊藤信吉に嫁せり(東京、牛込、余丁町四四)

參照—飯沼剛一の項

末兼要　勳六等、淺野小倉製鋼所、富士製鋼、淺野造船所、大島製鋼所、日本鋼業各(株)取締役、山口縣士族

妻　ツネ　明六、一一生、山口、神代嘉一妹
養子　邦彥　明三〇、一一生、長女花子夫、山口、末兼薰弟
女　花子　明三二、九生、養子邦彥妻

君は山口縣士族末兼薰の弟にして明治七年一月を以て生る凡に製鋼業に志し八幡製鐵所にありしが大正七年實業界に入り現時前記各會社の重役として知らる家族は尙孫ヨシ子(大一二、三生、養子邦彥長女)同昭彥(昭二、五生、同長男)兄薰(安政五、六生、現戸主)同妻ナツ(同六、五生、山口、雜波市藏二女)及

其子女あり兄眞（文久二年生）は山口縣士族有馬逸に同轉（慶應元、九生）は同縣士族堀江得一に各養子となり妹ツネ（明一二、一〇生）は同縣士族江田基輔三男雄九郎に嫁せり（小倉、紺屋町二一四電九六一）

末木彥平　山梨縣多額納税者、紙類商
山梨縣在籍
妻　ひて　明二〇、一〇生、山梨、丸茂平兵衞妹
男　剛傳　大一〇、九生
君は山梨縣人末木半七の二男にして明治十六年十月を以て生れ大正五年分家して一家を創立す紙類商を營み山梨縣多額納税者たり家族は倘長女俊子（大五、九生）二女節子（同七、一生）あり（甲府、竪近習町）
參照＝丸茂平兵衞※丸茂安藏の項

末高與次郎　宮部末高（名）代表社員
兵庫縣在籍
養子　齊四郎　明四二、一生、故貴族院議員道家齊四男
君は東京府士族末高溫恭の二男にして明治四年六月を以て生れ大正三年分家して一家を創立す現時宮部末高會社代表社員たり（神戶、生田町一ノ七四電葺合五三三七）
參照＝※鈴鹿保家※田島武夫の項

末次虎太郎　末次商店（株）專務取締役、日本織物糊料（株）取締役、東京府在籍
妻　サタノ　明一六、三生、東京、須藤萬太郎妹
養子　豐太郎　明三七、四生、妹ツヤ長男
君は福岡縣人末次德三郎の二男にして明治十一年八月を以て生れ同三十一年家督を相續す現時末次商店專務取締役たる外前記會社の重役たり家族は倘ほ長女鞠子（大四、六生）あり妹ツヤ（明一四、四生）は福岡縣人太池千太郎に叔母ツル（同元、七生）は同縣人神多次郎に嫁せり（東京市外大久保町西大久保一五九）

末積清七　末積（名）社員
兵庫縣在籍
妻　まさ　明一八、三生、大阪、八木榮助四女
養子　與太郎　明三二、二生、二女道子夫、福井、市橋由松弟
女　道子　明三九、四生、養子與太郎妻
君は兵庫縣人先代清七の長男にして明治十三年三月を以て生れ同十六年家督を相續し後前名由太郎を改む現時末積合名會社々員たり家族は倘孫清（大一五、七生、養子與太郎長男）あり弟清次郎（明一九、二生）は分家せり（神戶、八幡町五ノ一二〇ノ三電葺合二五四八）

末富孝治郎　函館製綱船具（株）常務取締役、有江鐵工所、富岡鑛業各（株）取締役、日本毛皮、日本毛皮貿易、壽都鐵道各（株）監査役、山口縣在籍
養母　ウメ　安政三、四生、山口、蓮池勝助長女
妻　ミワ　明一七、一生、山口、士、諏訪好知長女
庶子　タカ　明四二、八生、生母、北海道、鈴木ハル
庶子　ヒサ　大元、一二生、生母、北海道、鈴木ハル
君は山口縣人益野啓三の二男にして明治八年三月を以て生れ先代金藏の養子となり同二十六年家督を相續す夙に實業界に入り現時函館製綱船具會社常務取締役たる外前掲各會社重役たり曩に樺太漁業東洋製麻各會社取締役に就任し又函館商業會議所議員に擧げらる養妹タネ（明二三、一生）は山口縣人松浦正に嫁せり（函館、末廣町一〇〇）

末永一三　大正製麻（株）取締役、大阪商船（株）監査役、東京府在籍
妻　ワサ　明一八、九生、福岡、田中善平姉
男　大祐　大二、三生
女　俊子　明三九、三生
女　恭子　明四四、一生
君は福岡縣士族末永環の弟にして明治二年九月を以て生れ大正七年分家して一家を創立す現に前記諸會社の重役たり家族は倘二男謙二（大三、九生）四女壽美子（同八、一生）五女禮子（同九、五生）三男良彥（同一二、一一生）四男知彥（同一二、一一生）あり（東京、四谷、大番町三五電四谷三二六〇）

末永四郎平　伊豫長濱銀行（株）頭取、長濱製氷（株）代表取締役、伊豫木材（株）監査役、愛媛縣在籍
妻　ヨシ　嘉永五、四生、養父重翁長女
孫　芳朗　大三、五生、亡庶子要一長男
君は愛媛縣人兵頭治郎の長男にして文久二年三月を以て生れ明治三十一年先代ヨシの入夫となり家督を相續す現に伊豫長濱銀行頭取たる外前記諸會社の重役たり亡庶子要一妻美奈江（明二八、一生、愛媛、菅野廣三郎四女）は分家せり（愛媛、喜多、長濱町）

末永壽　福岡縣多額納税者、丸政商店、明治運輸、久運各（株）社長
福岡縣士族
妻　ユキ　明八、四生、福岡、士、鈴木楨五郎妹
男　弘海　明三一、一二生
女　エミコ　明三三、三生
女　照子　明四二、一二生
女　實枝子　大二、六生
養子　靜男　明一一、四生、養子クニ夫、福岡、士、末永祐八二男
養子　クニ　明一八、七生、養子靜男妻、福岡、河野政右衞門長女
君は福岡縣士族末永二六の弟にして慶應元年二月を以て生れ先代フクの養子となり明治三十年家督を相續す現時丸政商店明治運輸久運各會社々長にして福岡縣多額納税者たり家族は倘孫直行（大一二、三生、養子靜男養子、福岡、元田ツチ孫）あり長女トキ（明二六、六生）は東京府人松本貞夫に二女昌子（同二九、六生）は大阪府人宮内重三に四女キヨコ（同三六、七生）は京都府人佐伯義男に嫁し長男敏毅（同二八、一生）は祖父二六に三男憲治（同三四、七生）は福岡縣人佐伯ナヲに各養子となれり（福岡市馬場新町）
參照＝佐伯義男の項

末野一雄　資産家
大阪府在籍
母　とく　明二六、八生、大阪、足利伊右衞門三女
君は大阪府人末野與兵衞の長男にして明治四十三年十一月を以て生れ大正八年家督を相續す資産家として名あり家族は倘伯母キミ（明一二、一〇生）あり（大阪、東今橋五ノ八電本局一四八二）

末野包槌　大島銀行（株）取締役
山口縣在籍
養母　タネ　弘化三、一一生、山口、西元彥右衞門二女

妻　マツ　明一六、三生、山口、松原芳介六女
男　周次郎　明三二、一一生
男　善三郎　明三六、六生
男　芳郎　明四〇、一一生
君は山口縣士族墳生善右衞門の三男にして明治元年五月を以て生れ先代周山の養子となり同三十七年家督を相續す同二十三年岡山醫學專門學校を卒業し現時大島銀行取締役たり家族は倘長女恒子（大九、一〇生）あり養子ヤス（明二三、四生、山口、豐武宇吉二女）は山口縣人西元住藏長男新八に嫁せり（山口、大島、和田村）

末野齋兵衞　南福崎土地（株）取締役、三松（査）代表社員、大阪府在籍
母　はな　萬延元、七生、大阪、宮川伊兵衞二女
妻　ウノ　明二〇、三生、大阪、廣野熊藏妹
男　時藏　明四三、一一生
君は大阪府人末野五兵衞の長男にして明治十四年六月を以て生れ大正十二年家督を相續す夙に實業界に入り現時前記會社の重役たり家族は倘長女みき子（大一〇、三生）二女とみ子（昭二、三生）弟貞吉（明二二、二生）あり同齋吉（同一九、九生）は大阪府人生駒權七の養子となり當主にして同勝之助（同二八、一生）は同府人内藤爲三郎の養子となれり（大阪、東、大手通二ノ三四電東三七八）
參照＝生駒齋吉、内藤爲三郎の項

末野助市　陸工舍（株）取締役、明電社（株）常任監査役、鹿兒島縣士族
妻　よね　明一六、一生、群馬、石田巳之吉二女
男　邦夫　明四〇、一一生
女　ヒロ　明四二、六生、府立第三高等女學校出身
女　みよ子　明四三、一〇生
女　セイ　大元、一二生
君は鹿兒島縣士族末野五右衞門の長男にして明治五年二月を以て生れ同三十八年家督を相續す同四十年法政大學を卒業し現に前記各會社の重役たり家族は倘ほ五女妙子（大五、一〇生）六女安子（同一〇、四生）あり長女菊枝（明三九、五生）は鹿兒島縣人高野一夫に妹タミ（同二〇、一一生）は同縣人千歲萬介に嫁せり（東京市外大崎町居木橋一五三電高輪二六一九）

末延道成　正六位勳四等、貴族院議員、豐川鐵道（株）社長、東明火災海上保險、東京海上火災保險、明治火災保險、明治生命保險、北樺太鑛業、北樺太石油各（株）取締役、東京府在籍
妻　辰　文久二、一〇生、高知、士、石川保馬姉
君は高知縣人末延立誠の長男にして安政二年十月を以て生れ明治二十二年家督を相續す同十二年東京大學法學部を卒へ後海外に留學し歸朝後三菱會社に入り同社本店支配人に擧げられ後日本郵船會社重役たりしが現時前記諸會社の重役にして貴族院議員に勅選せられ實業界に名あり曩に法典調査會査定員農商工高等會議員等を仰付らる（東京、麻布、鳥居坂町五電青山五四九五）

末弘嚴太郎　從五位勳五等、法學博士、東京帝國大學教授、法學部勤務、社會局參與、東京府在籍
母　ヨシ　慶應元、七生、大分、奥並繼長女
妻　冬　明二九、一二生、故男爵菊池大麓六女
男　嚴夫　大四、九生
當家の先代嚴石は大分縣出身にして夙に司法官となり累進して大審院部長に補せらる君は其長男にした明治二十一年十一月を以て生れ大正十一年家督を相續す同四十五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同大學助教授に任じ同教授に進み現時に至る傍ら社會局參與たり大正九年法學博士の學位を授けらる家族は倘三男忠夫（大七、一〇生）四男重夫（同一一、一一生）妹杉枝（明二六、二生、奈良女子高等師範學校出身）弟治人（同四一、一生）あり姉ハツエ（同二〇、三生、府立第一高等女學校出身）は九州帝國大學教授長壽吉に妹松枝（同三〇、一生）は東京府人酒井鶴之助に同須賀（同三四、九生）は靜岡縣士族池田宏弟克に養姉クマセ（同六、一生、福岡、士、糸永茂昌姪）は茨城縣人宮澤定一に嫁せり（東京、小石川、竹早町一二四電小石川五三三二〇）
參照＝池田宏、長壽吉※鳩山秀夫※美濃部達吉の項

末弘德次郎　山口縣多額納税者、油業
山口縣在籍
妻　サツ　明一七、五生、山口、士、三井照介二女
男　雄吉　明三七、六生
君は山口縣人末弘庄五郎の長男にして明治八年二月を以て生れ大正七年家督を相續す夙に同志社大學法科を卒業し油業を營み山口縣多額納税者たり家族は倘二男春夫（明四三、一生）三男勝巳（同四四、一〇生）二女キミ子（大三、一〇生）四男誠助（同一〇、一生）三女光子（同一二、一〇生）あり（下關、西之端町五）

末弘虎治郎　鹿兒島縣多額納税者、土木建築請負業、鹿兒島縣在籍
妻　ハル　明二〇、一一生
男　敏治　大九、六生
女　ツギ　明四三、二生
君は鹿兒島縣人末弘幸之助の長男にして明治七年九月を以て生れ同三十四年家督を相續す土木建築請負業を營み鹿兒島縣多額納税者たり家族は倘二男喜三（大一四、一二生）あり妹ノブ（明一二、一〇生）は鹿兒島縣人川野三之助に同ヤス（同二二、五生）は同縣人鹽川彥太郎長男彥五郎に嫁し弟清造（同二五、九生）亡弟武熊妻ナカ（明二三、七生、鹿兒島、菊川大兵衞妹）は其子女を伴ひ各分家せり（鹿兒島市東千石町）

末廣喜久治　從五位勳五等、專賣局參事、函館地方專賣局長、東京府在籍
妻　春野　明一五、四生、岡山、太田龜平三女
男　喜通　大二、一生
養子　ヨシエ　明四三、一生、大分、末弘市次郎長女
君は大分縣人末廣直三郎の五男にして明治十六年一月を以て生れ大正元年分れて一家を創立す同四十年京都帝國大學法科大學經濟科を卒業し大正三年專賣局參事補に任ぜられ同六年副參事に同十二年參事に進み山形地方專賣局長を經て現時函館地方專賣局長の職に在り（函館、住吉町一一五專賣局官舍）

末廣恭二　從四位勳三等、工學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學教授、工學部勤務、愛媛縣在籍
妻　みつ　明二五、一一生、靜岡、桑原爲十郎二女
男　恭雄　明三七、六生
君は愛媛縣人末廣重恭の二男にして明治十年十月を以

て生れ同三十七年分家して一家を創立す同三十三年東京帝國大學工科大學造船科を卒業し長崎三菱造船所に入り同三十五年東京帝國大學助教授に任ぜられ同四十二年工學博士の學位を授與せられ同四十四年教授に進み大正十二年工學上の研究に對し帝國學士院賞を授けらる大正十五年地震研究所長事務取扱を命ぜられ昭和二年帝國學士院會員仰付らる家族は倚二女靜(大四、四生)五男重二(同一三、一〇生)あり(東京、小石川、駕籠町一七一電大塚二九〇)
參照=※野澤源次郎の項

末廣幸次郎　共益不動產(株)取締役、日本興業銀行(株)業務課長、大阪府在籍

父　常次郎　慶應元、五生、現戶主
母　ミキ　文久元、九生、大阪、浦西作治郎五女
妻　ヒロ　明二七、一一生、大阪、吉村卯之松養子
男　信一　大一三、一生

君は大阪府人末廣常次郎の二男にして明治二十四年五月を以て生る大正三年同志社大學經濟科を卒業して日本興業銀行に入り爾來今日に及び現に同行業務課長の職に在り傍ら共益不動產會社取締役を兼ぬ家族は倚二男文次(昭二、二生)あり弟定吉(明二六、三生)は分家せり(兵庫、武庫、精道村蘆屋西新田四六一電芦屋八五五)

末廣清吉　從五位勳六等、朝鮮總督府判事、京城地方法院部長、山口縣在籍

妻　チカ　明二三、一一生、大阪、安藤賢士四女
男　茂　大三、六生

君は山口縣人末廣利八の弟にして明治十二年一月を以て生る同四十年關西大學法律專門部を卒業し判檢事登用試驗に合格大正二年朝鮮總督府判事に任じ爾來大[illegible]平壤各覆審法院判事京城地方法院判事京城覆審法院部長に歷補し昭和二年京城地方法院部長に補せらる家族は倚長女敏(大五、五生)二女久子(同七、八生)の外兄利八(明四、三生、現戶主)同妻キク(同一〇、六生、山口、大谷新藏二女)との間に三男四女あり姉キミ(同二、四生)は山口縣人久保田平太郎に嫁せり(京城、地方法院官舍)

末廣竹次郎　材木商、大阪府在籍

養父　榮次郎　元治元、七生、現戶主
妻　ノブ　明一八、三生、大阪、中谷藤三郎二女
男　芳清　明四〇、一二生

君は大阪府人後藤新助の五男にして明治十三年十月を以て生れ同四十三年末廣榮次郎の養子となる材木商を營む家族は倚二男惠三(明四三、一〇生)三男房治(大六、五生)二女賴子(同九、七生)四男勝男(同一一、七生)三女幸子(同一三、三生)五男和正(昭二、四生)養妹千代子(明四二、八生)あり養叔母コマ(同七、一生)は大阪府人後藤多見吉に嫁せり(大阪、西、立賣堀北通二ノ一二五電新町九八四)

末廣忠介　正四位勳二等、工學博士、九州帝國大學教授、工學部長、山口縣在籍

妻　ワカ　明一五、七生、山口、士、大隅行一妹
男　建介　明四四、九生
女　美名子　明四〇、一一生
女　敎子　明四三、一生

君は山口縣人末廣松介の長男にして明治四年十二月を以て生れ同三十一年家督を相續す同三十年東京帝國大學工科大學採鑛冶金科を卒業し東京帝國大學工科大學助教授に任じ同教授となり同四十年工學博士の學位を受け同四十四年九州帝國大學工學部教授に任ぜられ現時同大學教授にして工學部長たり嚢に電氣冶金學研究の爲獨米に留學せり家族は倚二男章介(大二、七生)あり養子タキ(明二一、七生、山口、士、池田新作長女)は山口縣士族河村誠之に妹タケ(同二〇、八生)は陸軍騎兵少佐黑瀨愛三に同コソ(同一〇、八生)は同縣人松尾由介に嫁し弟森介(同七、九生、農學士)は同縣人桝谷晉三養父平三郎の養子となれり(福岡市小島馬場一)
參照=大隅行一※桝谷晉三、松尾由介※宇野省三※山本昌一※吉岡鄉甫の項

末廣茂吉　兵庫縣多額納稅者、龍野銀行(株)副頭取、龍野紡績(株)取締役、釀造業、兵庫縣在籍

妻　よ　明一五、一一生、末廣茂輔長女
養子　一　明三八、一生、二女千代夫、兵庫村瀨竹之助三男
女　千代　明四〇、二生、養子純一妻

君は兵庫縣人先代茂吉の二男にして明治十一年一月を以て生れ大正二年家督相續と共に前名良夫を改め襲名す縣下の多額納稅者にして釀造業を營み傍ら前記銀行會社の重役たり(兵庫、揖保、龍野町)

末正久左衞門　湊西銀行(株)頭取、兵庫縣在籍

妻　照子　明一一、一一生、兵庫、小島莊兵衞妹
男　武夫　明三八、二生

君は兵庫縣人先代久左衞門の長男にして明治四年二月を以て生れ大正十年家督を相續し前名繁太郎を改め襲名す慶應義塾を卒業し嚢に數多會社の重役に推され兵庫縣會議員神戶市農會長神戶市林田區會議長其他各種公共團體の役員に擧げられ現時湊西銀行頭取たり又夙に幼兒教育の普及振興を高唱し獨力末正幼稚園を創設經營して其園主となり其他餘生を專ら初等教育の向上に捧ぐべく各種の教育事業に携はり現に神戶市保育會長西神戶教育會長の任に在り家族は倚四男久(明四三、八生)あり長女悅子(同三二、九生)は伯爵山科家言に妹久榮(同一一、一一生)は兵庫縣人宗國金平に同まさの(同一八、二生)は同縣人石丸甚兵衞二男貞太郎に同君子(同二二、五生)は福井縣人加藤喜作に嫁し弟盛治(同九、六生)同信雄(同二〇、四生)は各分家せり(神戶、東尻池町一ノ六三ノ一電兵庫一〇〇七)
參照=伯爵山科家言、石丸甚兵衞、末正盛治、宗國金平の項

末正盛治　神戶發動機製造所、篠山電燈各(株)社長、湊西銀行(株)專務取締役、日本綿布、篠山鐵道各(株)取締役、神戶取引所(株)監査役、末正(資)代表社員、兵庫縣在籍

妻　たけゑ　明一三、一二生、兵庫、梅谷善作長女
男　治　明四二、一生
女　とし　明三七、二生

君は兵庫縣人末正久左衞門の弟にして明治九年六月を以て生れ同三十五年分家して一家を創立す夙に東京法學院を卒業し實業界に入り現時神戶發動機製造所篠山電燈會社各社長たる外前記銀行會社の重役たり家族は

倚三女道子(大六、七生)あり(神戶、梅香町一ノ一電兵庫四二二四)
參照=末正久左衞門※伯爵山科家言※石丸甚兵衞※宗國金平※劉成一の項

末松偕一郎　從三位勳二等、衆議院議員(福岡縣選出)、福岡縣在籍

妻　千代　明二四、四生、東京、伊原照藏妹
男　滿　明四〇、八生
女　壽子　明四四、七生

君は福岡縣人小倉藩醫末松玄銅の三男にして明治八年六月を以て生れ同三十七年兄茂方より分れて一家を創立す同三十四年文官高等試驗に合格し翌三十五年東京帝國大學法科大學法律學科を卒へ內務屬となる爾來靜岡縣參事官同事務官福岡縣事務官內務書記官山梨縣事務官法制局參事官兼行政裁判所評定官德島縣知事臺灣總督府財務局長同府內務局長滋賀茨城廣島各縣知事等を歷任し昭和二年十一月辭任し第一回の普選にて福岡縣第四區より衆議院議員に當選す義に清國政府の招聘に應じ同國自治制顧問となり又大正八九年歐米各國及蘭領印度諸島馬來諸島比律賓群島英領印度等に出張視察す家族は倚三男經正(大三、四生)四男德高(同七、二生)三女江三子(同一五、五生)あり(東京市外寺島町一二七〇電墨田三〇七)

末松金四郎　鹿兒島縣多額納稅者、木炭商、鹿兒島縣在籍

妻　サイ　明九、九生、鹿兒島、手塚喜左衞門長女
男　貞操　明二九、四生
婦　クニ　明三四、八生、長男貞操妻、鹿兒島、甲斐正次郎四女
女　フサヨ　明四〇、九生

君は鹿兒島縣人末松孝右衞門の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十六年家督を相續す木炭商を營み現に鹿兒島縣多額納稅者たり家族は倚三男金二郎(大四、六生)あり二女ミドリ(明三五、五生)は鹿兒島縣人川口善吉に嫁し二男孝信(同三七、三生)は同縣人田崎庄助の養子となれり(鹿兒島、薩摩、鶴田村)

末松佐吉　京都府多額納稅者、土木建築請負業、京都府在籍

妻　たみ　明一五、三生、京都、桂丈之助長女
男　佐一郎　明四一、一生
女　あや子　大二、一二生

君は京都府人末松佐七の長男にして明治十一年十月を以て生れ同二十五年家督を相續す土木建築請負業を營み同府多額納稅者たり家族は倚二男一馬(大七、四生)三男勇(同一二、七生)あり弟榮治郎(明二二、九生)は分家せり(京都、下京、壬生梛宮町九電中二八五〇)

末松清一　日本調味料釀造、末松商店、九州石材工業各(株)社長、九州耐火煉瓦、九州化學工業、枝光鐵工所各(株)監査役、福岡縣在籍

妻　スミ　明三二、四生、福岡、太田儀平三女
男　善一郎　大七、三生

君は福岡縣人末松善平の四男にして明治二十六年九月を以て生れ同四十四年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は倚二男茂實(大九、九生)三男淸三郎(同一三、三生)四男善太郎(昭二、六生)あり姉ミツ(明一八、一一生)は同夫善吉(同一五、一一生、三重、片山平助二男)と共に其子女を伴ひ母ヤヱ(安政六、三生、福岡、野田伊八三女)は妹タカ(明三三、八生)を伴ひ各分家し妹ノブ(同二八、一生)は福岡縣人大場點之助に嫁せり(福岡、遠賀、黑崎町)
參照=※太田淸藏の項

末松辰三郎　日本鋼業、門司土地、九州炭業、日本電氣鐵板各(株)取締役、福岡縣在籍

妻　トメ　明一〇、一生、靜岡、田中甚右衞門長女
男　邦彥　明三一、四生
女　綾子　明三七、九生
女　紀子　明四〇、二生
女　富美子　明四二、八生

君は福岡縣人友枝恒平の三男にして文久三年九月を以て生れ後先代ハツの養子となり明治十三年家督を相續す現に前記諸會社の重役たり家族は倚二男將男(大三、四生)七女禮子(同五、一生)八女美代子(同一〇、九生)あり長女千代(明三三、七生)は大分縣人矢治計二郎に二女顯子(同三五、五生)は山口縣人戶田啓三に嫁せり(門司、門司三〇二四)

末松藤三郎　佐賀關銀行(株)頭取、大分縣士族

妻　ウサ　慶應三、一生、大分、太田九八長女
男　柳生　明一九、一生
婦　ミホ　明二七、六生、長男柳生妻、大分高田實藏三女
男　敏夫　明二八、一〇生
婦　ハナ　明三九、二生、四男敏夫妻、大分水野爲次郎四女
男　誠一　明三九、一一生
女　イヨ　明四二、五生
女　アヤ　明四四、四生
孫　ユリ　明四五、五生、長男柳生長女

君は大分縣士族末松格太の長男にして文久三年七月を以て生れ明治十六年家督を相續す夙に佐賀關銀行頭取に擧げられ今日に及ぶ家族は倚孫省一(大三、六生、長男柳生長男)同フユ(同六、一生、同二女)同トキ(同一〇、一生、同三女)同東吾(同一二、五生、同二男)同健三(同一四、四生、同三男)同靜子(昭二、四生、四男敏夫長女)あり二男農夫(明二三、九生)は同妻モト(同二二、二生、大分、溝部八郎妹)と共に分家し三男幾磨(同二五、六生)は福岡縣人林ヤスの入夫となり孫惠子(大一一、四生、長男柳生四女)は東京府人渡邊しように同ひで(同一三、一生、三男幾磨長女)は前記農夫に各養子となれり(大分、北海部、神崎村)

末松春彥　正五位、子爵、東京府華族

養母　生子　明元、二生、公爵伊藤博邦養姉
妻　志賀子　明三六、一〇生、侯爵佐佐木行忠從妹
男　文彥　大一〇、一二生

當家は先代謙澄より顯る謙澄は舊福岡藩士末松臥雲の四男にして靑萍と號す明治八年太政官御用掛となり後英國に留學しケンブリッチ大學を卒業す歸朝後文部內務各省參事官內務省縣治局長法制局長官內閣恩給局長遞信大臣內務大臣樞密顧問官等に歷任し其間衆議院議員貴族院議員韓國皇太子御敎養係等となり同二十八年韓國財政整理の功に依り華族に列し男爵を授けられ同四十年子爵に陞さる又文學博士法學博士の學位を受け帝國學士院會員に列す君其後を享く君は同族末松凱平の二男にして明治二十九年三月を以て生れ叔父謙澄の養子となり大正九年家督を相續し襲爵す同年京都帝國

大學法學部を卒業す家族は倚長女澄子（大一二、一〇生）あり（東京、芝、西久保城山町四 電芝九三）
參照＝公爵伊藤博邦、侯爵佐佐木行忠※子爵西尾忠方※男爵伊藤文吉※男爵淸水博春※伊藤與三郎※永富雄吉の項

末松正行
從四位勳四等、判事、那覇地方裁判所長、大分縣在籍

妻　タミ　明一二、五生、大分、坂本善吉長女
男　正利　明三九、二生
女　喜美江　明四二、一一生

君は大分縣士族末松正次の二男にして明治十年七月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す明治三十一年日本法律學校を卒へ判檢事登用試驗辯護士試驗に合格同三十六年判事に任じ長崎地方同區小倉區大村區各裁判所判事長崎控訴院判事を經て大正二年檢事に轉じ京都地方同區大阪地方同區高知區同地方各裁判所檢事に歷補し同六年判事に任じ大阪控訴院判事となり同九年辭して大阪に辯護士を開業す更に同十年判事となり熊本福岡各地方裁判所部長を經て昭和二年現職那覇地方裁判所長に補せらる家族は倚三男正治（大四、一生）四男正雄（同六、一〇生）あり長女富子（明三六、二生）は鹿兒島縣人國分友治に嫁せり（那覇、地方裁判所長官舍）

末光千代太郎
卯之町銀行（株）常務取締役、攝津製絲（株）取締役、愛媛縣在籍

母　トク　明六、九生、愛媛、玉井卓一妹
妻　恭子　明三七、二生、愛媛、菊池淸太郎長女

君は愛媛縣人末光類太郎の長男にして明治二十六年二月を以て生れ同三十二年家督を相續す現に前記銀行會社の重役たり曩に二十九銀行監査役愛媛縣參事會員等に擧げらる家族は倚弟泰介（明二九、一〇生）あり妹さい（同三〇、二生）は靜岡縣人野村成之の養子となり同種（同三二、九生）は愛媛縣人梶原貞に叔母ヒサ（同七、六生）は同縣人星名謙一郎に嫁し叔父續（同一四、三生）は同妻トモキ（同一五、一〇生、北海道、手島松太郎妹）と共に其一子を伴ひ同信三（同一八、一一生）は其三子を伴ひ同妻信子（同三〇、五生、愛知、早瀨松次郎長女）と共に各分家せり（愛媛、宇和、宇和町）
參照＝菊池淸太郎※淺井記博※吉良銀次郎※小西莊三郎の項

末光鐵之助
關門日日新聞社々長、山口縣在籍

妻　フネ　明一一、九生、山口、金澤庄次郎長女
男　一郎　明三三、二生、早稻田大學專門部法科出身
男　正人　明三九、五生
女　等子　明四二、二生
女　好子　明四四、一一生

君は山口縣人末光貞右衞門の長男にして明治六年六月を以て生れ同十二年家督を相續す夙に關門日々新聞社を經營し現に其社長たり家族は倚三男靖和（大一〇、一一生）あり長女愛子（明三六、四生）は山口縣人村尾龜一に妹シケ（同九、一一生）は同縣人河村峰太郎に嫁し弟末松（同一一、四生）は同妻ヤヲ（同一五、一二生、山口、士、三井松二郎妹）と共に其一子を伴ひ分家せり（下關、東南部町關門日々新聞社）

末森嘉吉
雜貨商、大阪府在籍

母　エイ　文久三、七生、大阪、今井喜助三女
妻　千代　明二五、七生、大阪、中塚熊次郎妹
男　順藏　大一〇、三生

君は大阪府人先代嘉吉の二男にして明治二十二年一月を以て生れ大正十一年家督を相續し襲名して前名嘉三郎を改む歐米雜貨商を營む家族は倚長女美香（大三、一生）二女芳子（同四、三生）四女倚子（同一四、一二生）あり妹直子（明三三、二生）弟豐次（同四〇、六生）あり妹峯子（同三一、六生）は大阪府人上村重助弟和三郎に嫁せり（大阪、東、安土町二ノ三五 電本町七五二）

末森富良
從七位勳六等、退役陸軍二等主計、朝鮮土地經營（株）代表取締役、日華木材（株）取締役、三林公司（株）監査役、佐賀縣在籍

妻　カツ　明一七、七生、佐賀、深町淸吉二女
男　良一　大五、七生
女　キヨ　明四〇、六生
女　カネ　大二、四生

君は佐賀縣士族柳川與左衞門の二男にして明治十年八月を以て生れ先代與平の養子となり同二十年家督を相續す同二十九年大阪高等商業學校を卒業し現時朝鮮土地經營會社代表取締役たる外前記會社の重役たり家族は倚四女ハル（大七、三生）五女テル（同一一、一生）六女タメ（同一三、三生）あり（京城、和泉町）
參照＝※村岡長太郎の項

末吉一郎
日本綿花（株）船場支店會計課長、大阪府在籍

妻　利　明二八、二生、大阪、末吉勘四郎姉
男　一夫　大一〇、九生

君は大阪府人末吉政之助の長男にして明治十九年二月を以て生れ同年家督を相續す同四十一年大阪高等商業學校を卒業し現時日本綿花會社船場支店會計課長たり家族は倚二男丈二（大一三、三生）あり（大阪、住吉、平野中町二）
參照＝末吉勘四郎※末吉富の項

末吉永治
御所銀行（株）取締役、奈良縣在籍

妻　テイ　明三、七生、奈良、藤田半内二女
男　次一郎　明二〇、四生、縣立工業學校出身
婦　總子　明二七、六生、長男次一郎妻、和歌山、士、奥史郎妹
女　タマ　明二四、七生

末吉家は遠く其祖を南北朝時代に發し近畿地方に於ける屈指の名家と稱せらる君は先代次一郎の長男にして慶應三年九月を以て生れ明治十七年家督を相續す夙に御所銀行に入り現に同行取締役たり園藝に趣味を有す家族は倚孫康二（大五、五生、長男次一郎長男）同康久（同一二、三生、同三男）あり二男屋治（明二一、一一生）弟雄次（同一四、九生、慶應義塾大學醫學部醫化學助教諭）は各分家し同良次（同一一、七生）は大阪府人河原テルの入夫となり三男圓治（同二六、一一生）は奈良縣人平井八三の養子となり妹クマ（同七、一生）は同縣人岡本德永長男德潤に同シヨ（同一八、三生）は和歌山縣士族隅田市兵衞に嫁せり（奈良、南葛城、吐田鄉村）

末吉勘四郎
資產家、大阪府在籍

君は大阪府人先代勘四郎の長男にして明治三十九年二月を以て生れ大正十一年家督を相續す曩に日本綿花朝鮮電氣等諸會社の重役にして現時資產家たり家族は倚伯母きさ（嘉永三、一〇生）あり姉利（明二八、二生）は大阪府人末吉一郎に嫁し同富（同三五、三生）は分家せり（大阪、住吉、平野中町二丁目）
參照＝末吉一郎、末吉富の項

末吉辰藏
藤村酒造（株）顧問、山林業、大阪府在籍

妻　セイ　明一八、八生、養父辰藏二女

君は奈良縣人村島良親の兄にして明治十七年二月を以て生れ後叔父辰藏の養子となり大正十二年家督を相續し前名松太郎を改む山林業を營み傍ら藤村酒造會社顧問たり（大阪、南、笠屋町）

末吉富（ヒサ）
資產家、大阪府在籍

夫　文四郎　明二九、一一生、新潟、稻葉眞太郎四男、現戶主
男　文吾　大一二、一〇生

君は大阪府人末吉勘四郎の姉にして明治三十五年三月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立し同年稻葉文四郎を迎へて入夫とし隱退す資產家たり家族は倚長女富美子（大一四、一一生）あり（大阪、住吉、平野中町二丁目）
參照＝末吉勘四郎※末吉一郎の項

菅音次郎
兵庫縣多額納稅者、菅園、茶並菓子玉すだれ販賣商、兵庫縣在籍

妻　みつ　明五、一一生、大阪、竹中爲次郎長女
男　藤太郎　明二三、一一生
婦　滿江　明二八、九生、長男藤太郎妻、兵庫、生田元七二女
男　和三郎　明二八、一一生
婦　光　明三二、二生、二男和三郎妻、貴族院議員犬塚勝太郎二女
養子　定爾　明二六、六生、二女美代夫、兵庫、木村五郎兵衞二男
女　美代　明三二、四生、養子定爾妻
女　たい　明三九、一一生
女　久江　大二、一生

君は大阪府人川口源市郎の弟にして慶應元年四月を以て生れ先代たみの養子となり明治二十七年家督を相續す組業茶商並に菓子玉すだれ販賣商を營み菅園と稱して知らる縣下の多額納稅者にして曩に神戶商業會議所議員日華工業會社取締役に擧げらる家族は倚ほ孫一枝（大六、四生、長男藤太郎長女）同元秀（同一〇、六生、同二男）同豐子（同一二、一生、同二女）同淸江（同一四、三生、同三女）同貞雄（同一五、八生、同三男）あり長女かつ（明二六、二生）は兵庫縣人奧野淸弟舜次に養妹のぶ（同八、二生）は同縣人南條榮太郎に嫁せり（神戶、兵庫多聞通三ノ五）
參照＝犬塚勝太郎※今西卓の項

菅愼雄
熊本縣多額納稅者、珍島殖產、肥後製絲、大野水力電氣各（株）取締役、農業、熊本縣士族

妻　留喜　明二〇、七生、熊本、吉田善門長女
男　實直　明四〇、七生
男　實悌　明四二、六生
女　淳子　大二、七生

君は熊本縣士族赤星修師の二男にして明治十三年十二月を以て生れ先代菅の養子となり同二十八年家督を相續す農業を營み傍ら前記各會社の重役にして縣下の多額納稅者たり曩に商業銀行頭取熊本銀行取締役たりし事あり家族は倚二女順子（大五、一生）五男實就（同六、一一生）あり（熊本、阿蘇、坂梨村）

菅武時
名古屋市參事會員、東郊住宅（株）顧問、辯護士、愛知縣士族

妻　わさ　明二六、一二生、三重、平野はる私生子
男　幸雄　大一四、一一生

君は愛知縣士族菅秀人の長男にして明治十三年四月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治四十年京都帝國大學法科大學政治科を卒業し現時辯護士を開業し東郊住宅會社の顧問にして推されて名古屋市參事會員たり家族は倚長女ふじ子（大九、一生）三女泰子（同一五、二生）あり（名古屋、東、武平町二ノ一九 電東三六七）

菅虎太郎
愛媛縣多額納稅者、農業、愛媛縣在籍

妻　憲子　元治元、四生、愛媛、村上昱太郎長女
男　靜　明二八、一生
婦　俊子　明三四、一生、長男靜妻、廣島、三上頼三長女

君は愛媛縣人菅保太郎の長男にして安政五年二月を以て生れ明治二十二年家督を相續す農業を營み縣下の多額納稅者たり曩に西條銀行監査役に就任せり家族は倚孫暉夫（大一二、三生、長男靜長男）同浩二（同一四、一一生、同二男）弟季吉（明一〇、一〇生）同妻モリヨ（同二〇、一二生、愛媛、村上時次郎長女）及其子女あり長女シウ（同一五、一一生）は愛媛縣人村上彌太郎に三女タカ（同二三、一〇生）は同縣人佐伯利吉に四女公子（同三〇、一二生）は同縣人村上龍太郎に嫁し二女トクエ（同一九、二生）弟彥吉（慶應三、一一生）は各分家し同定五郎（明六、三生）は愛媛縣人松田歡次郎の養子となれり（愛媛、新居、氷見町）
參照＝佐伯利吉の項

菅昌之助
京都府多額納稅者、菅昌之助商店（名）代表社員、九昌染工場、毛斯綸染業、京都府在籍

母　トモ　安政三、一一生、廣島、中村平兵衞長女
妻　タカ　明一七、四生、神奈川、新井忠兵衞妹
男　泰男　大四、四生

君は京都府人菅小七の長男にして明治十年十月を以て生れ同四十四年家督を相續す毛斯綸染業を營み現に京都府多額納稅者にして前記會社の重役たり弟良造（明二五、七生）は同妻ユキ（同三八、一〇生、神奈川、小島晉淵三女）を伴ひ同元次郎（同一六、七生）は同妻ヤマ（同二三、六生、東京、小山平太郎二女）及其子女を伴ひ各分家し妹タキ（同二〇、六生）は東京府人薄井定次郎に嫁せり（京都、上京、烏丸通錦小路上ル 電中一八八六）

菅禮之助
日本電線製造、大阪電氣分銅、古河鑛業、大日本人造肥料各（株）取締役、古河（名）理事、秋田縣在籍

妻　サキ　明二二、五生、秋田、長瀨直倫長女
男　禮太　明四五、五生

君は秋田縣人菅禮治の長男にして明治十六年十一月を以て生れ同四十五年家督を相續す同三十八年東京高等商業學校を卒業し古河合名會社に入り大阪支店次席同

支店長門司支店長本部販賣部長等を經て現時古河鑛業會社取締役に擧げられ傍ら前記各會社の重役たり家族は尙二男逵吉(大四、一二生)三男元彦(同七、一二生)長女榮子(同一〇、一生)養姉ツネ(嘉永三、一二生、秋田、長谷山莊助妹)あり四男順一(大一三、八生)は秋田縣人大陽寺順儀の養子となり妹トヨ(明一八、六生)は同縣人小松周助に嫁せり(東京市外大久保町百人町二二一電四谷五〇二一)

參照—小松周助の項

菅井角之介

兵庫縣多額納稅者、酒造業

兵庫縣在籍

繼母　あさ
妻　つる
女　滋子
女　千鶴子

文久元、一一生、兵庫、森田達五郎長女

君は兵庫縣人菅井要助の長男にして明治七年十月を以て生れ同三十七年家督を相續す酒造業を營み兵庫縣多額納稅者たり曩に神戸電機製作所監査役たりし事あり家族は尙三女淳子(大一〇、一〇生)あり妹三枝(明二四、一一生)は大阪府人邊見米次郎に嫁せり(兵庫、御影町濱西五八五電御影六五八)

菅井豐藏

大阪府多額納稅者、藥種商

大阪府在籍

母　富榮
妻　シナ
男　恒一

明三、五生、大阪、小西勘兵衞三女
明二八、五生、大阪、中野利一姉
大五、六生

君は大阪府人先代豐藏の長男にして明治二十三年二月を以て生れ大正十一年家督相續と共に襲名して前名泰治郎を改む藥種商を營み大阪府多額納稅者たり家族は尙二男光二(大九、二生)あり弟孝三(明三四、一生)は同妻リツ(同三六、七生、大阪、河村恒太郎三女)と共に分家せり(大阪、東、高麗橋詰町四六電東一一七〇)

菅井仁三郎

荒物商
千葉縣在籍

妻　しな

明二〇、二生、養父國之助長女

君は千葉縣人蒙木勝太郎の二男にして明治二十年一月を以て生れ先代國之助の養子となり昭和二年家督を相續す家業を繼ぎ荒物商を營み縣下の資産家たり家族は尙養弟孝(明二五、一〇生、千葉、菅井與左衞門弟)及其子女あり(千葉、香取、佐原町)

參照—菅井與左衞門※三枝茂治の項

菅井與左衞門

千葉縣多額納稅者、當總運輸(株)取締役、醸造業、千葉縣在籍

妻　のぶ
男　誠太郎
女　よね

明二二、九生、茨城、山本吉藏妹
明四四、六生
明四四、一一生

君は千葉縣人先代與左衞門の長男にして明治十七年二月を以て生れ大正十年家督相續と共に前名與平を改め多額納稅者たり家族は尙二女とよ(同九、六生)五女せい(同一一、一一生)六女つね(同一三、三生)七女よし(同一四、一二生)同夫惣次郎(同一五、八生、千葉、梶川みつ叔父)及其子女弟虎之助(同二二、一生)同妻きち(同二八、一一生、千葉、岩井愛之助二女)及其子女同清(同二七、一生)同榮(同三〇、五生)あり姉つな(同一四、三生)は千葉縣人三枝茂治に嫁し弟孝(同二五、一〇生)は同人菅井仁三郎の養弟たり(千葉、香取、佐原町)

參照—三枝茂治、菅井仁三郎、山本吉藏の項

菅井清

當川商會(株)社長、貿易商

岐阜縣在籍

妻　英子

明一三、九生、故錦鶏間祇候小崎利準三女

君は岐阜縣人當川義藏の長男にして文久二年九月を以て生れ大正十二年東京高等商業學校を卒業し曾て馬關名古屋神戸各商業學校長等に歷任し清佛戰爭の際外務省御用掛となりて香港に赴き政狀を視察し又對外貿易視察の爲め渡米せる事十數回現時當川商會を營み傍ら前記會社の重役にして縣下の資産家たり家族は尙二女ふみ(同九、六生)五女せい(同一一、一一生)六女つね(同一三、三生)七女よし(同一四、一二生)同夫惣次郎(同一五、八生、千葉、梶川みつ叔父)及其子女弟虎之助(同二二、一生)同妻きち(同二八、一一生、千葉、岩井愛之助二女)及其子女同清(同二七、一生)同榮(同三〇、五生)あり姉つな(同一四、三生)は千葉縣人三枝茂治に嫁し弟孝(同二五、一〇生)は同人菅井仁三郎の養弟たり(千葉、香取、佐原町)

參照—三枝茂治、菅井仁三郎、山本吉藏の項

菅井繁次郎

安田銀行(株)證券課長

富山縣在籍

君は富山縣人菅田與七郎の二男にして明治八年六月を以て生れ同四十三年廢家菅田家を再興す夙に明治商業銀行に入り現に安田銀行證券課長たり家族は長女和子(大四、二生)二女松子(同六、三生)三女みどり(同一〇、五生)あり(東京、四谷、東信濃町一〇)

菅田赳夫

岡山縣多額納稅者、農業

岡山縣在籍

母　いわ
妻　澄子
男　甫

慶應二、六生、岡山、須田與左衞門妹
明三七、六生、坂手惣助五女
大二、一一生

君は岡山縣人菅田繁治郎の長男にして明治二十三年十一月を以て生れ大正八年家督を相續す農業を營み岡山縣多額納稅者たり家族は尙二男益次(大五、二生)長女八千代(同一二、八生)あり(岡山、苫田、神庭村)

菅田英久

日華生命保險(株)取締役兼支配人、國華徵兵保險(株)取締役

富山縣在籍

妻　ヤイ
長女

明一一、五生、富山、高橋佐兵衞
女　富士

明二八、四生

君は富山縣人菅田清右衞門の長男にして明治二年二月を以て生れ同二十五年分れて一家を創立す夙に立憲改進黨員となり數多の公職に擧げられ地方行政の改善に力を竭す同三十一年實業界に轉じ東京火災保險會社に入り神戸出張所主任に進み更に日本火災保險會社廣島支店長神戸支店長に歷任大正二年日華生命保險會社の創立に與り其理事となり同四年富士生命保險會社監査役に擧げらる保險界に身を委ぬる事三十有餘年火災保險に於ける德島協約を締結し盜難保險を發案する等斯界に稗益を與へたる蓋し鮮しとせず現時日華生命保險會社取締役兼支配人の外國華徵兵保險會社の重役たり妹婁子(明二四、一一生)は富山縣人横山彌三吉二男彌三郎に嫁し再從兄喜平(嘉永三、一二生)は其妻トメ(元治元、一〇生)及其子を伴ひ分家せり(東京市外戸塚町諏訪二二七電牛込九五二一)

菅谷傳右衞門

農業
千葉縣在籍

母　いし
妻　よし
男　明四四、二生、養子五郎長女
孫　五郎

明一〇、七生、千葉、菅谷庄一郎妹
明三四、一生、養子五郎妻

君は千葉縣人先代傳右衞門の長男にして明治三十六年十一月を以て生れ大正十五年家督を相續し襲名して前名貸雄を改む農業を營み縣下の資産家たり家族は尙弟正夫(明四四、一生)妹米子(大二、九生)弟幸司(同六、五生)あり妹俊子(明三九、一一生)は千葉縣人宮崎誠衞に嫁せり(千葉、香取、萬歲村)

菅谷茂左衞門

茨城縣多額納稅者、金融業

茨城縣在籍

養子　五郎
女　やを

明二二、二生、長女やを夫、茨城、
明二二、一生、養子五郎妻

君は茨城縣人菅谷岩吉の長男にして安政六年七月を以て生れ明治十二年家督を相續す金融業を營み茨城縣多額納稅者たり家族は尙孫芳男(明四五、一生、養子五郎長男)同辰壽(大四、三生、同二男)あり二女もと(明二五、一〇生)は茨城縣人和泉寛一郎長男常三郎に三女とく(同三六、四生)は同縣人額賀萬壽男に妹ゑい(同元、一生)は同縣人菅谷作太郎に嫁し弟榮次郎(文久三、九生)は同縣人菅谷半左衞門の養子となれり(茨城、鹿島、大同村)

菅谷元次郎

芝銀行(株)專務取締役
東京府在籍

君は東京府人先代元次郎の長男にして嘉永六年六月を以て生れ明治九年家督を相續し後前名丑太郎を改む現時芝銀行專務取締役たり家族は尙妹(慶應元、三生)あり(東京、芝、芝口三ノ一一電銀座三二六七)

菅谷元治

米穀仲買業、ユーム各(株)取締役、大阪電氣商會、大阪煖房商會各(資)社長
大阪府士族

明六、五生、大阪、永塚儀右衞門女
大一二年生、亡長男一郎長男
明三四、一二生

妻　タミ子
孫　享一
男　知巳
男　德五
男　六郎
男　健兒
女　八重子
婦　ふきゑ

明三二、四生、亡長男一郎妻、兵庫、波多忠吉二女
明三六、八生
明三八、六生
明四〇、八生
明四二、二生

君は東京府士族菅谷叔清の二男にして元治元年三月を以て生れ明治二十二年家督を相續す同二十一年東京高等工業學校を卒業し現時大阪電氣商會大阪煖房商會各會社の重役たり家族は尙孫博子(大正長男一郎長女)同滋子(同一三、一一生)同妻(明三一、五生)は同妻ツルエ(同三四、一生、德島、和田要助二女)を伴ひ分家し三男三郎(同三二、六生)も亦分家せり(大阪、西、江戸堀南町一ノ三七電土佐堀五四四)

菅波角之助

帝國酒造(株)常務取締役、東京信用銀行、日本製鋼各(株)取締役
福島縣在籍

妻　フミ
男　稱事
女　富貴子
女　絹子

明一二、一〇生、福島、白井博之妹
明三五、二生、現戸主
明四〇、五生、跡見女學校出身
明四一、八生、府立第二高等女學校出身

君は福島縣人酒井良平の叔父にして明治五年三月を以て生れ同三十八年分れて一家を創立せしが大正十五年家督を男稱事に讓り退隱す現時帝國酒造會社常務取締役たる外前揭銀行會社の重役を兼ぬ曾てローヤルセルロイド株東製藥各會社重役たりし事あり家族は尙二男康平(明四五、二生)四男淳(大六、三生)五男啓吉(同八、八生)あり二女柳子(明三二、四生)は神奈川縣人鈴木英雄弟三郎に嫁し庶子ゆき子(大三、一〇生、生母、千葉、青野ふさ)は福島縣人古川晉次郎の養子となれり(東京、小石川、久堅町二六電小石川四六五)

參照—白井博之、鈴木英雄※近藤利兵衞※白井五郎※鈴木章之※中澤彦雄※藤掛與左衞門の項

菅波龜吉

丁子堂藥房、藥種貿易並賣藥製造販賣業、福島縣在籍

母　イチ
妻　シゲ
男　猛
男　七生
女　文久二、八生、福島、鈴木松次郎二女

明二四、一〇生、福島、鈴木松次五女

君は東京府士族菅谷叔清の長男にして明治十七年十二月を以て生れ大正九年家督を相續す丁子堂藥房と稱し藥種貿易並賣藥製造販賣業を營む家族は尙四男耕造(大五、四生)五男富龜男(同八、一一生)六男不可止(同一〇、八生)あり(東京、京橋、新看町八電京橋四六四)

菅波鶴雄

從五位勳五等、判事、廣島控訴院判事、廣島縣在籍

養母　マツエ
妻　コシズ
男　堅次
女　キミヨ
女　ツネ

慶應元、六生、岡山、川手堰長女
明一六、一〇生、養母マツエ長女
大七、一生
明四二、三生
明四三、六生

君は廣島縣人小塚龜伊次の弟にして明治十四年四月を以て生れ同四十一年先代コシズの入夫となり家督を相續す同三十五年東京法學院を卒業し判檢事登用試驗に合格し同三十九年判事に任じ三次區吳區廣島區同地方尾道區各裁判所判事に歷補し大正八年現職廣島控訴院判事に補せらる家族は尙三男清(大一〇、一生)四男弘(同一二、一二生)の外從祖伯母ヒサ(安政六、八生)あり養妹テル(明二二、二生)は廣島縣人正田剛に嫁せり(廣島控訴院官舍)

菅沼市藏

從四位勳三等、第一高等學校教授
養母　もん
妻　もと
養子　修

文久元、三生、靜岡、菅沼岩藏姉
明一六、四生、靜岡、鈴木角平二女
大二、一二生、東京、三宅稔一弟

君は静岡縣人菅沼儀八の二男にして明治六年一月を以て生れ先代もんの養子となり大正十二年家督を相續す明治三十一年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し第二高等學校教授を經て同三十七年第一高等學校教授に任ぜられ現時其任に在り（東京、本郷、千駄木町一四）

菅沼五郎　正八位、茨城縣多額納稅者、農業　茨城縣在籍

母　むめ　安政三、一〇生、茨城、間中長三二女
養子　東坪　明一八、七生、父五郎二男、明治大學出身
婦　きぬ　明二八、五生、養子東坪妻、茨城、菅沼長平二女

君は茨城縣人先代五郎の長男にして明治十三年二月を以て生れ大正九年家督を相續し前名振一を改む農業を營み茨城縣多額納稅者たり家族は尚孫文哉（大四、三生、養子東坪長男）妹小雨（明三〇、四生）叔母たく（文久元、三生）あり姉ふね（明六、八生）は茨城縣人坂入市郎に妹小波（同二七、六生、日本女子大學校出身）は東京府人塚原元兵衞長男茂三郎に嫁せり（茨城、猿島、岩井町）

菅沼豐次郎　辯護士　大阪府士族

妻　鴇巢枝　明一一、六生、和歌山、山本良太郎長女
男　武雄　明三四、一〇生
女　千鶴子　明三七、六生、清水谷高等女學校出身
女　多喜子　明四一、二生、プール高等女學校出身
女　フヂ　明四三、三生、清水谷高等女學校出身

菅沼家は舊豐前中津藩に仕へたる由緒ある家柄なり君は先代友三郎の弟にして明治元年八月を以て生れ大正六年家督を相續す第一高等學校を經て明治二十六年帝國大學法科大學英法科を卒業し直に日本郵船會社に入りしも幾何もなく退き同二十七年判法官試補を拜命し尋いで判事に任ぜられ五條區裁判所奈良大阪各地方裁判所判事に歷補す同三十年官を辭し辯護士を開業し以て今日に及ぶ養に大阪商業會議所特別議員に擧げられ現時朝日海上火災保險會社を初め鴻池四十三橫濱正金各銀行の顧問辯護士として斯界に名あり趣味として園藝を嗜む家族は尚四男俊彦（明四五、三生）四女セヂ及び養に高岡商業會議所會頭に擧げらるる家族は尚叔母ゆき（元治元、一〇生）あり弟啓二郎（明一九、一二生）は分家し同與三郎（同二八、八生）も亦同妻つね子（同三二、一生、富山、室崎間平妹）及其子女を伴ひ分家し妹ひさ（同一七、四生）は富山縣人船木定治に同とめ（同二五、六生）は同縣人宮林彦九郎に嫁せり（高岡、木船町三六）

參照—木津太郎平、船木定治、宮林彦九郎、室崎間平※荒野權四郎※木津正治※島田七郎右衞門の項

菅野憲一　菅野商店（株）社長　兵庫縣在籍

妻　りう　明二〇、一生、兵庫、增田耕作姉
男　豐太郎　明三八、一二生
女　秀子　明四〇、一生

君は兵庫縣人川瀨榮一の兄にして明治十三年二月を以て生れ後菅野安次郎の養子となり大正四年分れて一家を創立す現時菅野商店社長にして養に吉井炭礦會社取締役たり（神戸、兵庫川崎町九電兵庫四四六）

菅野祐次　富山縣多額納稅者、戶田麻布（株）取締役、東毅若村長、富山縣在籍

母　はつ　元治元、五生、石川、高畠與三松姉
妻　ひさ　明一四、二生、石川、菅野正孝長女
男　章一　明四一、一一生
女　富美子　明四四、一生

君は富山縣人菅野權右衞門の長男にして明治十六年九月を以て生れ同四十年家督を相續す現に戶田麻布會社取締役にして縣下の多額納稅者に列し推されて東毅若村長たり家族は尚二男宜紀（大二、五生）三男利克（同四、九生）二女曉子（同一〇、一生）弟政忠（明二五、二生）あり（富山、東礪波、東毅若村）

菅野傳右衞門　富山縣多額納稅者、高岡商業銀行　富山合同貯蓄銀行各（株）頭取、高岡電燈（株）社長、高岡銀行、高岡打綿、高岡新報社、温泉電氣鐵道、越中倉庫、北陸信託各（株）取締役、北陸逓電（株）鑑査役　富山縣在籍

母　りム　嘉永六、一〇生、山口、士、由良伊吉三女
妻　ハル　明一三、三生、山口、村上昌輔長女
男　良誠　明三三、五生
婦　千代　明三九、八生、二男誠妻、福岡、廣田弘毅長女
男　勝　明三八、一生

君は山口縣士族菅野尚喬の長男にして新山敏介の兄なり明治四年三月を以て生れ同四十四年家督を相續す同二十五年陸軍歩兵少尉に任じ尋で陸軍大學校を卒業し累進して大正十四年陸軍大將に任ぜらるる其の間參謀本部々員白國英國各駐在武官教育總監部參謀陸軍省副官兼陸軍省軍務局課員歩兵課長教育總監部附清國駐在守備隊司令部參謀大本營陸軍幕僚參謀歩兵第十四聯隊補充大隊長第三軍參謀（日露役）歩兵第二十九旅團長陸軍省軍務局長軍事參議院幹事長第二十師團長臺灣軍司令官軍需局參與軍事參議官等に歷補し昭和二年豫備役被仰付家族は尚四男弘（明四四、一一生）五男五郎（大二、三生）六男六郎（同四、四生）七男七郎（同八、九生）弟謙吾（明二七、一生）あり妹ヒデ（同一九、二生）は宮城縣人可野榮治長男信一に同ミツ（同三二、四生）は東京府人木村介次に嫁し弟韻吉（同二二、三生）は分家せり（東京市外高井戶町松庵九二）

參照—新山敏介、廣田弘毅の項

菅野尙一　正三位勳一等功三級、豫備陸軍大將、山口縣士族

母　りム　嘉永六、一〇生、山口、士、由良伊吉三女
妻　ハル　明一三、三生、山口、村上昌輔長女
男　良誠　明三三、五生
婦　千代　明三九、八生、二男誠妻、福岡、廣田弘毅長女
男　勝　明三八、一生

君は山口縣士族菅野尙喬の長男にして新山敏介の兄なり明治四年三月を以て生れ同四十四年家督を相續す同二十五年陸軍歩兵少尉に任じ尋で陸軍大學校を卒業し累進して大正十四年陸軍大將に任ぜらるる其の間參謀本部々員白國英國各駐在武官教育總監部參謀陸軍省副官兼陸軍省軍務局課員歩兵課長教育總監部附清國駐在守備隊司令部參謀大本營陸軍幕僚參謀歩兵第十四聯隊補充大隊長第三軍參謀（日露役）歩兵第二十九旅團長陸軍省軍務局長軍事參議院幹事長第二十師團長臺灣軍司令官軍需局參與軍事參議官等に歷補し昭和二年豫備役被仰付家族は尚四男弘（明四四、一一生）五男五郎（大二、三生）六男六郎（同四、四生）七男七郎（同八、九生）弟謙吾（明二七、一生）あり妹ヒデ（同一九、二生）は宮城縣人可野榮治長男信一に同ミツ（同三二、四生）は東京府人木村介次に嫁し弟韻吉（同二二、三生）は分家せり（東京市外高井戶町松庵九二）

參照—新山敏介、廣田弘毅の項

菅野尙志　昭和銀行（株）大阪支店長　山形縣在籍

母　いし　安政二、三生、山形、松田末吉長女
妻　千浪　明二五、一〇生、長野、藤本慶太郎二女
男　尙明　明四五、三生
女　綾子　明四二、一二生

君は山形縣人菅野常彌の弟にして明治十三年十一月を以て生る住友銀行文書課長を經て現時昭和銀行大阪支店長たり家族は尙兄常彌（明七、一生、現戶主）同妻たに（同九、一〇生、山形、大森儀助妹）及其子女あり（大阪、東、谷町二ノ三**電東三二一五**）

菅野信躬　三國電燈（株）專務取締役、臺灣合同電氣（株）常務取締役　宮城縣士族

妻　三千代　明二七、二生、兵庫、笠松二郎姉
男　健　大一一、一一生

君は宮城縣士族菅野信敬の長男にして明治二十一年十一月を以て生れ同四十年家督を相續す同十三年東京高等工業學校を卒業し現時三國電燈會社專務取締役外前記會社の重役たり家族は尙長女滿里子（大一四、六生）妹ハナ（明三六、七生）あり弟敬夫（同二五、一生）は其妻文（同三五、七生、東京、大和保平二女）及其一女を伴ひ同敏（同二七、二生）は其妻芳枝（同三四、五生、大阪、石丸喜助二女）を伴ひ叔父眞（同六、二生）は其妻てるよ（同一八、一二生、宮城、士、佐藤信次五女）及其子女を伴ひ同章（同九、一〇生）は其妻ちよの（同一八、九生、宮城、三山しげ孫）及其子女を伴ひ各分家し弟功（同三〇、七生）も亦分家し妹セツ（同三二、一一生）は山口縣人秋山節一に嫁せり（鶴井、坂井、三國町）

菅野松次郎　京都府多額納稅者、京都商工會議所議員、菅野染工場（名）代表社員、捺染業、京都府在籍

妻　カツ　元治元、三生、廣島、菅野吉助長女
男　虎雄　明三五、九生
婦　きん　明四一、四生、長男虎雄妻、京都、河原國藏孫

君は廣島縣人菅野治太郎の父にして安政六年三月を以て生れ明治二十八年分れて一家を創立す捺染業を營み現に京都府多額納稅者にして京都商工會議所議員菅野染工場を經て家族は尙長男虎雄（長女）も亦分家し同妻ヨネ（同二二、二生）同妻ヤヨ（同二二、二生）同妻ヤヨ（同二二、二生）

菅野盛次郎　從四位勳四等、產業組合中央金庫副理事長、東京府士族

妻　崎　明一六、六生、熊本、河野通倫三女
一男　盛一　明四三、九生
女　みち子　明四一、八生
女　すみ　明四四、一一生

君は東京府士族松本譲之助の二男にして明治五年七月を以て生れ先代豐正の養子となる同三十年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同年高等文官試驗に合格し長く大藏書記官東京稅務監督局長兼東京鹽務局長大阪東京各稅務監督局長等に歷任し現時前記產業組合中央金庫副理事長たり家族は尙養弟鐵次郎（明七、一〇生、現戶主）同妻淑子（同二九、一生、熊本、平原清藏從妹）あり長女三八（同三四、八生）は廣島縣人新谷吉藏二男知に嫁し弟鐵次郎長女）は兵庫縣人奥平安に同みゑ（同一九、四生、同養子）は新潟縣人小川長平に嫁し四女すヒ（大三、九生）は大阪府人木村清に二男通郎（同八、九生）は祖母河野まとに各養子となれり（東京、小石川、宮下町三七**豐大塚四一九**）

參照—木村清※藤田榮介※森田一雄の項

菅野與八　氣仙銀行（株）專務取締役　岩手縣在籍

母　タツエ　明元、六生、岩手、菅野豐作養子
妻　ヤヱ　明四一、四生、岩手、伊藤庄五郎妹
婦　きん　明四一、一生、同妻ナホ（同三一、一一生、岩手、菅野孝次郎姉）及其子女あり同勝治（同一〇、一生）は分家し同妻ヨネ（同二二、二生、同妻ヤヨ（同二二、二生、同妻ヤヨ（同二二、二生）も亦分家し叔母クラヨ（同一二、一生）は岩手縣人菊池重藏長男善治郎に同トヨ（同一四、二生）は同縣人村上德松に嫁し妹マス（同三六、九生、叔父治右衞門五女）は宮城縣人熊谷東助長男男市に嫁せり（岩手、氣仙、高田町）

菅野和三郎　大倉洋紙店、洋紙合同販賣各（株）取締役、石川縣在籍

妻　千代　明二九、一生、石川、保田巳之吉二女
男　俊夫　大二、二生

君は石川縣人潮和平の二男にして明治十九年六月を以て生れ同三十八年叔父菅野秀吉の死跡を相續す現時前記各會社の重役たり（大阪、住吉、住吉町**電住吉四五四**）

菅原英伍　衆議院議員（宮城縣選出）、齋川電氣（株）社長、仙臺電氣工業（株）取締役、廣瀨電氣（株）鑑査役、辯護士　宮城縣在籍

妻　すみ　明二八、一〇生、宮城、岩井久兵衞孫
男　英一郎　大七、二生

君は宮城縣人菅原金兵衞の二男にして明治十九年六月を以て生れ大正元年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し辯護士を開業して今日に至る現に齋川電氣會社々長たる外前掲各會社の重役にして衆議院議員に當選すること二回に及ぶ家族は尙長女光子（大九、八生）二女和子（同一一、二生）あり（東京市外高井戶町松庵九二）

參照—齋川電氣※藤田榮介※森田一雄の項

菅原開次郎　半田棉行（株）常務取締役　大阪府在籍

養父　彌吉　安政四、一二生、大阪、平田清助
養母　なら菊　安政六、五生、先代彌吉長女
妻　ナラエ　明二二、三生、養父彌吉二女
男　彌太郎　大六、二生
女　隆子　明四三、三生
女　八重　明四四、一二生
女　美代　大二、一〇生

君は岩手縣人先代與八の長男にして明治三十二年三月を以て生れ大正八年家督を相續し前名壽四郎を改め襲名す現時氣仙銀行專務取締役たり家族は尙長男彌吉（明五、九生）同次治右衞門（慶應三、三生、岩手、佐藤勇之助長男）及其子女叔父龜之助（明九、一生）同妻ミヨノ（同一五、八生、岩手、伊藤庄五郎妹）及其二女同惣兵衞（同二三、一二生）同妻ナホ（同三一、一一生、岩手、菅野孝次郎姉）及其子女あり同勝治（同一〇、一生）は分家し同妻ヨネ（同二二、二生、同妻ヤヨ（同二二、二生、同妻ヤヨ（同二二、二生）も亦分家し叔母クラヨ（同一二、一生）は岩手縣人菊池重藏長男善治郎に同トヨ（同一四、二生）は同縣人村上德松に嫁し妹マス（同三六、九生、叔父治右衞門五女）は宮城縣人熊谷東助長男男市に嫁せり（岩手、氣仙、高田町）

君は福岡縣人伊原庫次の五男にして明治十三年二月を以て生れ同四十五年現戸主彌吉の養子となる現時前記會社の重役たり家族は尙四女宮美子(大四、二生)五女光枝(同八、一一生)六女喜久代(同一一、三生)養弟彌三郎(明一三、一一生)同妻シヅ(同二三、三生、大阪、井澤友七妹)と其二男二女同英次郎(同二七、一一生)同妻ふみ(同三三、一生、東京、若林市太郎妹)と其一男四女あり(兵庫、武庫、精道村雲菅屋三)

菅原菊松　秋田縣多額納稅者、請負業　秋田縣在籍

妻　カツ　明二一、五生、岩手、工藤ヒサ養子
男　淺男　大三、三生
女　キクエ　明四三、一生

君は秋田縣人菅原巳之松の二男にして明治十七年一月を以て生れ同四十一年分れて一家を創立す請負業を營み現に秋田縣多額納稅者たり家族は尙二男菊男(大九、九生)三男三郎(同一一、三生)二女レイ(同一三、一一生)三女京子(昭二、四生)あり(秋田、仙北、角館町)

菅原九左衞門　山形縣多額納稅者、農業　山形縣在籍

妻　いし　明六、四生、山形、建部德助長女
養子　榮治郎　明二九、一〇生、養子榮夫、山形、佐藤與吉二男
養子　榮　明三七、二生、養子榮治郎妻、菅原和三郎二女
庶子　喜代惠　明四一、四生、生母、山形、長澤辰惠

君は山形縣人菅原慶藏の長男にして明治五年二月を以て生れ大正八年家督を相續す農業を營み山形縣多額納稅者たり家族は尙孫初子(大一四、七生、養子榮治郎長女あり(山形、東田川、押切村)

菅原憲亮　共益社、滿洲共益社各(株)取締役　宮城縣在籍

妻　榮吉　明一四、一〇生、高知、野口榮三郎姉
女　彌子　明四四、三生

君は宮城縣人菅原宏の弟にして明治十六年五月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す明治四十四年京都帝國大學法科大學法律科を卒業し實業界に入り現時共益社滿洲共益社各取締役たり(大連、桃源臺)

參照―野口榮三郎の項

菅原幸助　酒類商　大阪府在籍

妻　ミツ　明九、五生、滋賀、武田重兵衞長女
男　嘉一郎　明三〇、四生
婦　てる　明四、三生
女　なみ　明四一、三生

君は大阪府人菅原幸藏の三男にして明治五年二月を以て生れ同二十五年家督を相續し前名幸三郎を改む酒類商を營む家族は尙四男幾三(明四三、一二生)孫妙子(大一二、二生、兵庫、石本大郎次姉)同幸雄(同一三、一一生、同一五、八生、同二女)あり二女チヨ(明一四、一生、盛岡市藏養子秀三に三女て同長男)同清榮(同一五、七生)は大阪府人中村孝太郎長男嘉藏に妹ふる(同一六、七生)は滋賀縣人外池卯吉に嫁し長女コウ(同二四、一二生)は各分家し妹まさ(慶應二、一一生)は京都府人中根エイの養子となれり(大阪、北、綿屋町一〇電北三二六二)

參照―中村孝太郎の項

菅原大太郎　安田銀行(株)常務取締役、昭和銀行、記井ケ島酒造各(株)取締役　兵庫縣在籍

妻　しげ　明三九、九生
男　太郎　明四一、八生
男　恒二郎　明四〇、三生、東京女學館出身
女　照子　明四〇、三生、東京女學館出身

君は兵庫縣人菅原寅五郎の長男にして明治五年二月を以て生れ同三十九年家督を相續す同三十一年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し現に安田銀行常務取締役鮮を跋渉して歸朝す同三十一年以來衆議院議員に當選する事十二回蟄に兩院委員長に擧げらる立憲政友會所屬にして幹事協議員院內幹事院內總務本部總務常議員會々長として黨の樞機に參じ同會知名の士たり曾て人民新聞を創刊して其社長となり日露事件の功に依り勳四等旭日小綬章を授けられ大正三四年事件の功に依り勳三等に陞敍し瑞寶章を賜る大正十年加藤內閣成立するに及び海軍參與官に任ぜられ正五位に敍せらる家族

菅原恒覽　鐵道工業(株)資)理事長　東京府在籍

妻　三　明二五、一一生
婦　富士　明三〇、一〇生、長男恒三妻、東京、日々野信一妹
男　通濟　明二七　二生
男　丈夫　明三四、七生
女　壽賀　明四四、一一生、雙葉高等女學校出身
女　宣　明四四、一〇生

君は岩手縣士族菅原文之允の二男にして男爵高平小太郎の從兄なり安政六年七月を以て生れ先代俊藏の養嗣子となり明治二十九年家督を相續す夙に帝國大學工科大學土木科を卒業し轉に甲武鐵道會社建設課長豆相鐵道會社技師長たり現に前記會社の重役たり家族は尙五男恒樹(大三、九生)四女俊(同五、六生)五女榮(同九、八生)六男忠彥(同一三、三生)孫有恒(同一三、八生、長男恒三長男)同和夫(昭二、二生、同二男)あり(東京市外淀橋町柏木八五九電四谷一二六)

參照―男爵高平小太郎※樋口寮次の項

菅原傳　正五位勳三等、衆議院議員(宮城縣選出)、宮城縣在籍

妻　隆　明一四、七生、東京、士、故大審院檢事川目亨一長女
男　傳一郎　明四二、八生
女　昌子　明三六、一一生
女　照子　明四〇、三生、東京女學館出身

君は宮城縣人菅原應輔の二男にして文久三年八月を以て生れ明治三十二年分れて一家を創立す先是同十二年大學豫備門に學び時で大學に進み專ら政治學を修む同十九年米國に航しバシフイック大學に入り政治法律を研究する事二年後自由黨に加盟し桑港に於て愛國同盟會を起し機關新聞十九世紀を發刊して遙に本國民衆を警醒す偶々治安妨害を以て政府より禁止の厄に逢へり同二十六年布哇を經て再び米國に渡り同二十八年朝

は尙二男眞(明四五、四生)あり二女治子(同三八、五生)は故貴族院議員村野常右衞門長男廉一に嫁せり(東京、四谷、南寺町二三電四谷三二二七)

菅原豊太郎　酒田商工會議所副會頭、鳥海電力(株)監査役、山形縣在籍　山形縣士族

妻　竹江　明七、一一生、山形、宮本達彌從妹
男　繁松　明二二、八生
婦　ハツヱ　明三一、一一生、長男繁松妻、山形、武長貞吉養子
男　良助　明三二、一生
男　誠一　明三六、一生
男　勝治　明三八、一生
男　義雄　明四〇、五生

君は山形縣人菅原訓助の繼子にして慶應元年八月を以て生れ明治十三年家督を相續す現時鳥海電力會社監査役にして酒田商工會議所副會頭たり家族は尙ほ孫一彥(大四、一〇生、長男繁松長男)同忠彥(同一四、四生、同二男)妹はる江(明一一、三生)あり三男豐治(同三三、一〇生)は山形縣人菅原政治郎に七男喜一郎(同四二、二生)は同縣人原田仁右衞門妹常代に嫁むめ江(同三、一一生)は同縣人齋藤源治に各養子となれり(山形、鮭海、酒田町)

菅原英夫　宮城縣多額納稅者、金融業　宮城縣在籍

母　けん　明元、三生、岩手、岩淵平太二女
妻　たけを　明六、一二生、宮城、桂島碩三郎四女
男　晃　大一二、二生
女　實枝子　大二、一一生

君は宮城縣人菅原虎之進の長男にして明治二十五年四月を以て生れ同二十六年家督を相續す金融業を營み宮城縣多額納稅者たり家族は尙二女馨子(大五、八生)三男健(同一五、一〇生)あり姉ともに(明一八、八生)は同夫義一(同九、一〇生、福島、南條文五郎五男)及其二子と共に分家し同としず(同二〇、一一生)は福島縣人小野寺一介に嫁せり(宮城、栗原、金成村)

參照―※松村松盛の項

菅原通敬　宮内省御料局長官、貴族院議員、旭紡織、朝鮮鐵山各(株)取締役　宮城縣士族

妻　よし　明九、一〇生、宮城、熱海彥姉
男　通公　明三二、八生
女　通侯　明三五、三生
女　花子　明四三、一生

當家は奥州菅原の本流にして四百年前より宮城縣栗原郡鬼松村に住し地方治民の職を世襲し先代通賞に至るまで十四年家督を相續す農業を營み山形縣多額納稅者たり家族は尙孫正朗(大四、七生、養子琴夫、埼玉、二上作藏三男)同忠(明二三、五生、養子密之輔妻、埼玉、菅間定治郎二女)あり(同二八、八生、宮城、狩野つね)同二男四女あり長女敬子(同二九、九生)は宮内書記官三浦篤に二女あり(同八、三生)は宮城縣人高橋文五郎に嫁せり(東京、小石川、鴛籠町四九電大塚三七五)

菅原憲亮　第八十五銀行(株)監査役　埼玉縣在籍

文久元、三生、埼玉、二村雲郎二女
明二二、一生、養子琴夫、埼玉、
明二三、五生、養子密之輔妻、埼玉、菅間定治郎二女

君は埼玉縣人菅間定賢の二男にして安政四年一月を以て生れ明治十七年分れて一家を創立す現時第八十五銀行監査役たり家族は尙孫正朗(大四、七生、養子密之輔長男)同義郎(同八、八生、同二男)同千枝子(同一一、一二生、同長女)同清(同一四、一生、同三男)あり(東京、四谷、南寺町二三電四谷三二二七)

菅原豊太郎　酒田商工會議所副會頭、鳥海電力(株)監査役、山形縣在籍　山形縣士族

妻　竹江　明七、一一生、山形、宮本達彌從妹
男　繁松　明二二、八生
婦　ハツヱ　明三一、一一生、長男繁松妻、山形、武長貞吉養子
男　良助　明三二、一生
男　誠一　明三六、一生
男　勝治　明三八、一生
男　義雄　明四〇、五生

君は山形縣人菅原訓助の繼子にして慶應元年八月を以て生れ明治十三年家督を相續す現時鳥海電力會社監査役にして酒田商工會議所副會頭たり家族は尙ほ孫一彥(大四、一〇生、長男繁松長男)同忠彥(同一四、四生、同二男)妹はる江(明一一、三生)あり三男豐治(同三三、一〇生)は山形縣人菅原政治郎に七男喜一郎(同四二、二生)は同縣人原田仁右衞門妹常代に嫁むめ江(同三、一一生)は同縣人齋藤源治に各養子となれり(山形、鮭海、酒田町)

菅原英夫　宮城縣多額納稅者、金融業　宮城縣在籍

母　けん　明元、三生、岩手、岩淵平太二女
妻　たけを　明六、一二生、宮城、桂島碩三郎四女
男　晃　大一二、二生
女　實枝子　大二、一一生

君は宮城縣人菅原虎之進の長男にして明治二十五年四月を以て生れ同二十六年家督を相續す金融業を營み宮城縣多額納稅者たり家族は尙二女馨子(大五、八生)三男健(同一五、一〇生)あり姉ともに(明一八、八生)は同夫義一(同九、一〇生、福島、南條文五郎五男)及其二子と共に分家し同としず(同二〇、一一生)は福島縣人小野寺一介に嫁せり(宮城、栗原、金成村)

參照―※松村松盛の項

菅原通敬　宮内省御料局長官、貴族院議員、旭紡織、朝鮮鐵山各(株)取締役　宮城縣士族

妻　よし　明九、一〇生、宮城、熱海彥姉
男　通公　明三二、八生
女　通侯　明三五、三生
女　花子　明四三、一生

當家は奥州菅原の本流にして四百年前より宮城縣栗原郡鬼松村に住し地方治民の職を世襲し先代通賞に至るまで十四年家督を相續す農業を營み山形縣多額納稅者たり家族は尙孫正朗(大四、七生、養子琴夫、埼玉、二上作藏三男)同忠(明二三、五生、養子密之輔妻、埼玉、菅間定治郎二女)あり(同二八、八生、宮城、狩野つね)同二男四女あり長女敬子(同二九、九生)は宮内書記官三浦篤に二女あり(同八、三生)は宮城縣人高橋文五郎に嫁せり(東京、小石川、鴛籠町四九電大塚三七五)

菅本三右衞門　大阪府多額納稅者　大阪府在籍

元治元、五生、大阪、朝岡清四郎妹
妻　ユカ　明一六、六生、長女ミネ夫、大阪、奥土巳作弟
養子　幾久馬　明一八、二生、養子幾久馬妻
女　ミネ　明四一、一生、養子幾久馬長女
孫　みさ　明四三、八生、養子幾久馬二女
孫　イマ　明四五、一生、養子幾久馬二女

君は大阪府人先代三右衞門の長男にして安政六年十一月を以て生れ明治十三年家督を相續す貴產家として知られ大阪府多額納稅者たり家族は尙孫三郎(大二、二生、養子幾久馬長男)同三次郎(同六、七生、同三男)同みす(同一四、三生、同三女)あり三女みつ(明二四、八生)は同夫一之(同二四、七生、大阪、小林久治弟)及其一子と共に分家し養子キク(同八、一〇生、大阪、秋田セン長女)は大阪府人横山政次郎に嫁せり(大阪、東淀川、中津本町五六電北三九五二)

菅本新次郎　質商　大阪府在籍

妻　ハナ　明八、八生、大阪、入江佐助二女
男　繁造　明四一、六生

君は大阪府人菅本新助の長男にして明治七年二月を以て生れ同十二年家督を相續す質商を營む家族は尙四男

榮藏(明四三、四生)從弟儀三郎(同二二、一一生、亡伯父捨吉三男)同妻都(同三六、一一生、東京、淵本龜藏長女)あり弟岩次郎(同九、二生)は兵庫縣人高橋てるの入夫となり妹ナミ(同一一、二生)は大阪府人羽間政右衞門二男貫之助に嫁し從弟安太郎(同二一、一生、亡伯父捨吉二男)は分家し同光治郎(同一六、七生、同長男)は大阪府人入江佐助に五男新助(大八、三生)は分家從弟安太郎に各養子となれり(大阪、東淀川、中津本町三七二電北七二六七)

杉　榮三郎　從四位勳三等、圖書頭兼諸陵頭
東京府在籍
妻　ミツ　明一八、八生、北海道、嘉納久三郎長女
女　支都　明四一、五生
女　洋　大二、一二生
君は岡山縣人杉幹の兄にして明治六年一月を以て生れ大正十四年分家して一家を創立す明治三十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し會計檢査官宮內書記官兼宮內省參事官帝室林野管理局主事等に歷任し現時圖書頭兼諸陵頭たり(東京、小石川、駕籠町一二三電大塚一〇二五)

杉　七郎　從五位、子爵
東京府華族
母　邦　明一八、六生、子爵田村丕顯妹
當家は先代孫七郎より顯る孫七郎は舊山口藩士植木五郎右衞門の二男にして幕末歐洲に遊び歸來國事に奔走して功あり維新後秋田縣令宮內大輔特命全權公使內藏頭皇太后宮大夫圖書頭議定官樞密顧問官等に歷任し明治二十年華族に列し子爵を授けられ從一位勳一等に敍せらる又聽雨と號し詩文に長じ能書を以て著聞す嗣子竹二郎は夙に佛國に留學し歸朝後農商務大臣總理大臣各祕書官式部官等に歷任せしも早世す君は其長男にして明治三十八年十一月を以て生れ大正九年祖父孫七郎の家督を相續し襲爵仰付けらる家族は尙妹英子(明四〇、四生、女子學習院出身)弟長介(同四一、五生)妹直子(同四二、一一生、女子學習院出身)弟彥吉(同四四、四生)同鐘吉(同四五、五生)從弟盛夫(同四三、三生、叔父子爵青木梅三郎二男)同留夫(同四五、三生、同三男)同幹夫(大三、二生、同四男)あり叔父梅三郎(明六、一〇生)は子爵青木家を相續し伯母ウサ(同元、三生)は山口縣士族植木平之允に同松(同一〇、七生)は東京府士族河村金五郎に嫁せり(東京、麹町、平河町五ノ二二電九段六八八)
參照＝子爵青木梅三郎、子爵田村丕顯、植木平之允、河村金五郎※男爵三井壽太郎※岡村於莵彥の項

杉　精三　正四位勳二等、內閣印刷局長
北海道在籍
妻　くに　明一七、五生、大阪、坂上喜平治二女
君は山口縣人藏田恂一の長男にして明治四年八月を以て生れ母系杉家を繼ぎ同二十八年家督を相續す同三十年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試驗に合格し通信事務官となり青森高松廣島京都各郵便局長名古屋遞信管理局長航路標識管理所長西部遞信局長大阪地方海員審判所長遞信省經理局長等に歷任し昭和三年二月內閣印刷局長に任ぜらる(東京、芝、芝公園一四電芝二二五〇)

杉　琢磨　從四位勳三等、內藏頭
東京府在籍
妻　庫　明二四、八生、東京、三好貞雄妹
男　健作　明四五、一生
君は岡山縣人杉哲太郎の二男にして明治十五年十二月を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す同四十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し遞信省に入り貯金局事務官同書記官を經て大正三年宮內省に轉じ書記官に任ぜられ內匠寮經理課長工務課長大臣官房用度課長に歷任し參事官に轉任大臣官房庶務課長兼祕書課長を經て現時內藏頭たり尙華族世襲財產審議會宮內官考查委員會宮內省恩給審查會各委員たり家族は尙長女幸(大六、九生)二女歌江(同九、五生)三女良江(同一二、五生)あり(東京市外野方町上沼袋中通一三二電四谷六四)

杉　敏介　正四位勳三等、第一高等學校長兼教授、山口縣士族
母　ツル　弘化二、八生、山口、士、秋良敦之助二女
妻　ヨシヲ　明一三、四生、滋賀、士、相宗賢次郎長女、東京府立第一高等女學校出身
男　幹丸　明三二、一二生
男　憲次　明四一、一二生
君は山口縣士族杉肇の長男にして明治五年五月を以て生れ同三十七年家督を相續す同二十九年帝國大學文科大學國文學科を卒業し同三十二年第一高等學校教授となり大正十三年同校長兼教授に任じ現在に至る著書數種あり妹ヤヘ(明一一、八生)は三菱鑛業會社取締役工學士中本英彥に嫁せり(神奈川、高座、藤澤町電七四)
參照＝中本英彥の項

杉　廣三郎　正五位勳五等、鐵道技師兼內務技師、工務局計畫課長、東京府在籍
男　顯夫　大四、三生
君は東京府人杉晴之助の三男にして同宜陳の兄なり明治十六年十二月を以て生れ大正五年分家して一家を創立す明治四十年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し直ちに鐵道院に奉職し同四十三年鐵道院技師に任ぜられ大正三年獨米兩國に留學を命ぜらる現時鐵道技師兼內務技師にして前記の職に在り家族は尙二男知也(大五、八生)長女和子(同八、一一生)二女裕子(同一一、四生)あり(東京、本郷、駒込西片町一〇ほノ二〇電小石川一一六七)
參照＝杉宜陳の項

杉　道助　八木商店(株)專務取締役、千代田木管、錦華紡績各(株)取締役、浪速紡績(株)監查役、山口縣士族
祖母　サチ　嘉永三、二生、山口、士、渡邊博二女
父　相次郎　安政四、七生、山口、士、中村弼二男、現戶主
母　タキ　文久三、九生、祖父民治二女
妻　ヨシ　明二五、二生、大阪、八木與三郎長女
君は山口縣士族杉相次郎の長男にして明治十七年二月を以て生る同四十二年慶應義塾を卒業し現時前記諸會社の重役たり曩に出雲製織船場ビルディング各會社の重役たり家族は尙弟丙三(明三九、一二生)あり妹ミネ(同二五、一生)は男爵飯田精太郎に同サダ(同二八、四生)は山口縣士族杉山友之輔弟俊亮に同秀子(同三一、四生)は同縣人久保田庄作に養叔母シヅコ(同一九、七生)は同縣士族伊東勘作に嫁せり(大阪、西成、岸松通一ノ一二電天下茶屋三六一)
參照＝八木與三郎の項

杉　宜陳　從五位勳四等、辯護士
愛媛縣在籍
妻　ハツ　明三二、二生、東京、小林臻長女
杉家の遠祖は舊山口藩士にして杉子爵家の岐れなり君は東京府人杉晴之助の五男同廣三郎の弟にして明治二十一年十一月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す明治四十五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同年文官高等試驗に合格す爾來遞信書記通信事務官補朝鮮銀行書記同行祕書等に歷任し大正五年大藏大臣祕書官兼同省參事官に任ぜられ同七年勝田主計氏に隨ひて歐米各國を視察す歸朝後辯護士を開業し同十三年鄕黨より推されて衆議院議員に當選す家族は尙ほ長女恭子(大一一、八生)あり(東京市外大久保町西大久保一七電四谷二〇五四)
參照＝杉廣三郎の項

杉生幸三郎　安全索道商會(株)監查役
兵庫縣在籍
妻　トメ　明一五、二生、大阪、川島新治郎三女
男　武之助　明四〇、六生
女　トヨ　明四四、一一生
當家は先代幸三郎大阪土着の商家杉生幸助方より分れて一家を創立したるに始まる君は其二男にして同昌吉の兄なり明治七年四月を以て生れ同二十三年家督を繼ぎ前名元之助を改む幼より三井物產會社大阪支店に入り勤續三十餘年累進して同社參事となり大阪支店長代理出納主任たりしが後之を辭し現時安全索道商會監查役たり家族は尙二男二郎(明四二、八生)三男三郎(大五、八生)あり長女トミ(明三三、一一生、金蘭會高等女學校出身)は東京府人宮田忠寬二男忠也に二女ヨシ(同三六、九生、梅田高等女學校出身)は同府人南里剛一弟英俊に嫁せり(兵庫、武庫、大社村森具六九一電西宮一七八)
參照＝杉生昌吉の項

杉生昌吉　十五銀行(株)大阪西支店長
大阪府在籍
妻　ヒデ　明一六、四生、大阪、森本吉兵衞妹
男　勝之助　明四一、一一生
君は兵庫縣人杉生幸三郎の弟にして明治十年三月を以て生れ先代ヒデの入夫となり同三十三年家督を相續す夙に十五銀行に入り現時大阪西支店長たり家族は尙三男篤亮(大九、六生)あり長女アサ(明三七、七生)は大阪府人村上得三弟卓二に嫁せり(大阪、東、北新町一ノ二電東六三三五)
參照＝杉生幸三郎の項

杉內省二　福島縣多額納稅者、農業
福島縣在籍
母　ヒロ　慶應三、三生、祖父省三郎長女
妻　コト　明二五、一生、福島、田中太右衞門五女
男　勵一　明四五、一生
君は福島縣人杉內勵三郎の長男にして明治二十二年五月を以て生れ大正十一年家督を相續す農業を營み福島縣多額納稅者たり家族は尙長女ハツ(大三、一一生)二女フチ(同五、一〇生)二男廣知(同八、六生)三女千鶴(同一二、九生)四女美仁子(同一四、九生)弟陸郎(明三五、一生)あり同賢吾(同三〇、九生)は滋賀縣人安藤與惣次郎の養子となれり(福島、信夫、松川村)
參照＝安藤與惣次郎の項

杉浦角次郎　杉浦組、土木建築請負業
愛知縣在籍
妻　さた　明二二、八生、愛知、梶原幸吉二女
男　毅　明三八、一一生
女　芳子　明四四、一〇生
庶子　恒一　明三五、五生、生母、愛知、井上きく
君は愛知縣人杉浦松吉の二男にして明治十二年四月を以て生れ同三十一年家督を相續す杉浦組と稱し土木建築請負業を營む家族は尙四男福夫(大四、五生)あり三男松男(明四三、一〇生)は愛知縣人舟橋淺吉に四女喜代子(大七、三生)は同縣人熊澤常十郎に六女ちよ子(同一〇、八生)は同縣人杉浦林藏に各養子となれり(名古屋、東、東片端町二ノ二電東二七三七)

杉浦恭介　三井物產(株)天津支店長
東京府在籍
妻　カナヘ　明三〇、三生、福岡、坂田七郎二女
男　正一　大七、四生
君は東京府人杉浦禮三の三男にして明治十五年四月を以て生れ大正四年家督を相續す明治三十七年東京高等商業學校を卒業し同年三井物產會社に入り神戶新嘉坡三池香港各支店に勤務し現に天津支店長たり家族は尙長女美智(大八、一二生)二男龍三(同一〇、一一生)三男亨(同一三、四生)あり(天津、日本專管居留地)

杉浦銀藏　石動電氣、熖洋電氣、水窪川水力電氣、中部電力各(株)取締役、飛越電氣、三龍社各(株)監查役
愛知縣在籍
養母　うた　安政元、八生、愛知、小西吉藏長女
男　英一　明二九、一生
婦　てる　明三四、九生、二男英一妻、愛知、精谷平右衞門姉
君は愛知縣人柵木佐平の弟にして文久二年三月を以て生れ先代銀藏の養子となり明治三十二年家督相續と共に襲名して前名松四郎を改む現時石動電氣會社取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尙三男博二(明四四、一生)孫英夫(大一二、一一生、二男英一長男)同久子(同一四、八生、同長女)あり長女せき(明二六、三生)は愛知縣人杉山伊佐雄に養妹ふみ(同二一、一〇生)は同縣人梶村勝藏三男富作に嫁し養弟政吉(同三、一〇生)は同妻とく(同八、一生、愛知、小西吉藏四女)及び其子女を伴ひ分家し三男仙次郎(同三三、三生)四男良三(同三五、一一生)も亦各分家せり(岡崎、籠田町六七)
參照＝※深見太郎右衞門の項

杉浦儉一　正五位勳四等、日本勸業銀行(株)理事、東京府士族
父　讓三　安政二、七生、靜岡、高橋六藏弟、現戶主
妻　とし　明一九、二生、靜岡、堀江榮三郎長女、華族女學校出身
男　俊介　明四二、七生、學習院高等科在學
君は東京府士族杉浦讓三の長男にして明治十年十一月を以て生る同三十四年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し大藏省試補煙草專賣局事務官專賣局參事大藏省參事官專賣局經理課長同事業部長等に歷任し南滿洲鐵道會社理事となり後之を辭し現時日本勸業銀行理事た

り曾て命ぜられて歐米各國に出張せしことあり家族は尙二男敏介(明四四、一一生、東京高等學校在學)三男堅介(大三、一生)二女操(同五、一生)三女梅子(同九、一生)四女愛(同一二、八生)五男欣介(同一四、五生)及弟幾三(明一七、一生)あり(東京市外大久保町西大久保四一一電四谷一五一五)

杉浦甲子郎

常磐銀行、所澤銀行、東都電力各(株)取締役、川崎貯蓄銀行、伏見銀行、足利銀行、野田商誘銀行、東京倉庫、川崎倉庫、商業倉庫、後志製鐵各(株)監査役

妻　ふみ
男　英夫　明三四、八生
男　勝郎　明三八、一〇生
女　正子　明四四、七生

君は茨城縣士族森田鈎太郎の弟にして元治元年六月を以て生れ先代敏の養子となり明治十七年家督を相續す現に前記各銀行會社の重役たり曩に川崎銀行常務取締役に擧げらる家族は尙四女泰子(大五、六生)あり長女たま(明三一、五生)は東京府人佐藤五郎に二女直子(同三七、一生)は長野縣人若麻績安治長男恒雄に嫁せり(東京、小石川、白山御殿町一〇八電小石川一一五)

參照—若麻績安治の項

杉浦幸吉

愛知縣多額納稅者、參陽商會(株)社長、天龍電氣(株)取締役、呉服商、愛知縣在籍

妻　とく　明三、七生、愛知、前田邦太郎姉
男　安三　明二七、四生
婦　しゅん　明三三、三生、長男安三妻、愛知、八田九郎二女
女　友平　明三六、九生
男　宗平　明三九、二生
男　忠平　明四一、四生

君は愛知縣人杉浦八藏の長男にして慶應元年一月を以て生れ明治十六年家督を相續す呉服商を營み愛知縣多額納稅者にして現時前記各會社の重役たり家族は尙孫美(大九、七生、長男安三長女)同すみ(同二三、一生、同二女)同建一郎(同一五、四生、同長男)あり二男芳藏(明三一、九生)は愛知縣人中川荒太郎の養子となり長女はる(同三四、二生、愛知、山本政次郎弟)及其一子を伴ひ分家せり(豐橋、札木町四八)

杉浦畊作

勳六等、日本銀行(株)計算局長

妻　シケル　明一八、一一生、大阪、廣田忠右衛門二女
長男　武雄　大四、六生、生母、神奈川、足立
庶子　チカ

君は東京府人鈴村憲章の三男にして同秀三の弟なり明治十八年八月を以て生れ同三十二年叔父杉浦直の死跡を相續す同四十一年東京高等商業學校專攻部を卒業し尙ほ長女照榮(明三五、一生)に婿養子となり卒業後愛知縣立第一中學校教諭となる大正七年桐生高等工業學校教授に任じ同九年同校の桐生高等工業學校と改稱後も引續き其の職に在り同十五年英獨各國に留學す家族は尙長女譽子(大四、一生)三女若子(同一四、東京、同二男)あり二女富子(明三六、一生)は大阪府人岡本壽英長男英三に妹マサ(同一二、九生)は同府人桐原國松長男繁治郎に嫁し三女政子(同三八、一二生)は分家弟安治郎の死跡を相續せり(大阪、北、小松原町一)

杉浦清治郎

金融業
大阪府在籍

父　國松　弘化二、二生、現戸主
母　ケン　安政五、一生、大阪、山本源三郎長女
妻　チエ　明一二、五生、大阪、山田市太郎長女
養子　捨男　明三〇、六生、長女マスエ夫、大阪、木崎善平三男
女　マスエ　明三四、一生、養子捨男妻

君は大阪府人杉浦國松の長男にして明治九年五月を以て生る金融業を營む家族は尙孫國男(大一一、一〇生、養子捨男長男)同章子(同一三、一〇生、同長女)同守(昭二、六生、同二男)あり二女富子(明三六、一生)は大阪府人岡本壽英長男英三に妹マサ(同一二、九生)は同府人桐原國松長男繁治郎に嫁し三女政子(同三八、一二生)は分家弟安治郎の死跡を相續せり(大阪、北、小松原町一)

杉浦二郎

福島縣士族

母　トメ　嘉永五、三生、福島、佐藤有信四女
妻　フキ　明二三、一生、東京、石川榮昌六女
男　尙　大八、一一生

君は福島縣士族杉浦吉則の長男にして明治九年七月を以て生れ同十三年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し愛知縣立第一中學校教諭を經て現在に至る(東京市外杉並町高圓寺五五五電中野一一二九)

參照—鈴村秀三の項

杉浦三郎兵衞

呉服太物商
京都府在籍

男　雅太郎　明一九、九生

君は京都府人杉浦福助の長男にして明治十二年叔父杉浦直の死跡を相續す同四十一年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し尙ほ長女照榮(明三五、一生)に婿養子となり現在に至る(東京、小石川、白山御殿町一〇八電小石川一一五)

參照—若麻績安治の項

杉浦幸吉

愛知縣多額納稅者、參陽商會(株)社長、天龍電氣(株)取締役、呉服商、愛知縣在籍

妻　とく　明三、七生、愛知、前田邦太郎姉
男　安三　明二七、四生
婦　しゅん　明三三、三生、長男安三妻、愛知、八田九郎二女
女　友平　明三六、九生
男　宗平　明三九、二生
男　忠平　明四一、四生

君は愛知縣人杉浦八藏の長男にして慶應元年一月を以て生れ明治十六年家督を相續す呉服商を營み愛知縣多額納稅者にして現時前記各會社の重役たり家族は尙孫美(大九、七生、長男安三長女)同すみ(同二三、一生、同二女)同建一郎(同一五、四生、同長男)あり二男芳藏(明三一、九生)は愛知縣人中川荒太郎の養子となり

參照　※石渡佑一の項

杉浦重吉

杉浦(貴)代表社員、三河屋、石炭商、東京府在籍

妻　とく　明二〇、二生、東京、川端虎三郎妹
庶子　武雄　大四、六生、生母、神奈川、足立チカ

君は先代重吉の長男なり重吉は元愛知縣の人夙に東京に出で石炭コークス商を營み三河屋と稱し努力奮鬪當家の基を起せり君は明治七年五月を以て生れ同三十三年家督を相續し前名光太郎を改む家業を繼承し杉浦合資會社代表社員たり弟與四郎(明一六、四生)同瀧藏(同一九、六生)は各分家し妹まさ(同一三、一生)は福井縣人泉貫人に嫁せり(東京市外品川町南品川宿八一三電高輪一一九六)

參照　※跡部定治郎の項

杉浦清治郎

金融業
大阪府在籍

父　國松　弘化二、二生、現戸主
母　ケン　安政五、一生、大阪、山本源三郎長女
妻　チエ　明一二、五生、大阪、山田市太郎長女
養子　捨男　明三〇、六生、長女マスエ夫、大阪、木崎善平三男
女　マスエ　明三四、一生、養子捨男妻

君は大阪府人杉浦國松の長男にして明治九年五月を以て生る金融業を營む家族は尙孫國男(大一一、一〇生、養子捨男長男)同章子(同一三、一〇生、同長女)同守(昭二、六生、同二男)あり二女富子(明三六、一生)は大阪府人岡本壽英長男英三に妹マサ(同一二、九生)は同府人桐原國松長男繁治郎に嫁し三女政子(同三八、一二生)は分家弟安治郎の死跡を相續せり(大阪、北、小松原町一)

杉浦仙之助

小西六本店(資)代表社員、東京寫眞專門學校理事、東京府在籍

妻　ウメ　明一七、四生、東京、杉浦六右衞門妹

君は東京府人牧原惣兵衞の二男にして明治十年六月を

以て生れ同三十九年杉浦甚兵衞の養子となる現時小西六本店代表社員にして東京寫眞專門學校理事たり家族は尙養弟六右衞門(明一二、八生、現戸主)あり(東京、日本橋、本町二ノ三)

參照—杉浦六右衞門※田中十左衞門の項

杉浦宗三郎

正四位勳三等、工學博士、東京瓦斯(株)常務取締役、東洋軍輪(株)取締役、東京コークス販賣、秋田鐵道各(株)監査役、帝國鐵道協會理事、東京府在籍

妻　とし　明一三、一生、東京、首藤諒長女
男　卯吉　明三六、一一生

君は東京府士族甫森宗谿の三男にして明治三十一年家督を相續す同二十七年帝國大學工科大學土木科を卒業し直に日本鐵道會社に入り同三十九年鐵道國有法に依り同社解散と同時に鐵道院技師に任じ爾來東京鐵道管理局營業課長兼運輸船舶課長同研究所主任を經て理事に進み工務局長たりしが大正八年技監に昇進す同年工學博士の學位を受く現時前揭諸會社の重役たり家族は尙三男正三(大元、九生)四女うた(同四、五生)あり長女その(明三三、一生、夔龍爲等女學校出身)は東京府人永田甚之助弟四郎に二女泰子(同三四、一生、出身校同上)は子爵後藤新平長男一藏に三女てる子(同三五、四生、出身校同上)は島根縣人原邦道に嫁し二男已之吉(同三八、八生)は東京府士族雨森登宇の養子となれり(東京市外大久保町西大久保四四九電四〇)

參照—後藤一藏、首藤諒、永田甚之助、原邦道※西野元※村井啓太郎※松本富藏※山内靜香の項

杉浦武雄

從六位、衆議院議員(愛知縣選出)名古屋織機製造(株)監査役、辯護士、愛知縣在籍

母　ぜう　文久三、八生、愛知、金子金五郎二女
妻　サダ　明三五、一生、山口、士、碓井忠治長女
男　彰　大一四、九生

君は愛知縣人杉浦六太郎の長男にして明治二十三年五月を以て生れ同四十二年家督を相續す大正五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し司法官試補朝鮮總督府判事を歷任せしが後ち官を辭し辯護士となり今日に及ぶ傍ら前記會社の重役にして又衆議院議員に當選すること二回現に其任に在り家族は尙長女和子(昭二、六生)及び弟博(明三三、一生)同文雄(同三六、一生)あり(名古屋、東、武平町電東五二五〇)

杉浦忠雄

從五位勳六等、判事、札幌控訴院長、東京府在籍

繼母　シナ　明二、一二生、愛媛、宇高男治四女
妻　正　明二八、一生、石川、北瀧健三姉
男　直　大五、八生

君は芙城縣士族畑平學の四男にして明治十八年四月を以て生れ後ち先代忠直の養子となり同四十二年家督を相續す同四十三年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し更に同大學院にて哲學博士の學位を受け貴族院議員及東京控訴院判事に補せられ部長に遷み現在に至る同十四年歐米各國に出張を命ぜらる家族は前記の外長女道子(大一〇、一生、三輪田高等女學校出身)あり(札幌、山鼻町控訴院官舍)

杉浦彝作

二俣銀行(株)頭取、奥山電燈、遠州電氣各(株)社長、水窪川水力電氣、中央醸造各(株)取締役

欠　佐平次　嘉永六、九生
妻　しげり　明一、一二生、静岡、大富部喜兵衞四女
男　芳郎　大元、一一生
女　いま　明三八、二生、三輪田高等女學校出身
女　ちづ　明四〇、三生、日本女子大學校在學

君は静岡縣人杉浦佐平次の長男にして明治六年十一月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治二十六年慶應義塾を卒業し現時二俣銀行頭取たる外前揭諸會社の重役として知らる家族は尙欠女すま(大三、六生)二男雄(同七、三生)あり妹てう(明治長女　明三五、一生、山口、士、碓井忠治長女
男　彰　大一四、九生

君は愛知縣人杉浦六太郎の長男にして明治二十三年五月を以て生れ同四十二年家督を相續す大正五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し司法官試補朝鮮總督府分家せり(靜岡、磐田、二俣町)

參照—吉永仁藏※大岡巖の項

杉浦貞二郎

從四位勳三等、立教大學長
東京府在籍

妻　チカ　明九、八生、東京、高木新助長女
男　義典　立教女學校及東京音樂學校出身、正七位
女　華子　大四、一一生
女　文女　明三九、九生、御茶水高等女學校專攻科出身
男　直　明四三、五生

君は舊若狹國小濱藩士杉浦倫藏の二男にして明治三年十月を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す夙に立教學院を出で直に米國に就し貴府ペンシルバニヤ大學を卒業し更に同大學院にて哲學博士の學位を受け貴族府紳學院にて宗教學を修め紳學博士の學位を受く歸朝後一時母校に講師たりしが明治三十六年陸軍教授に任じ陸軍大學校教官に補せらる爾來勤續二十有餘年に及びしが再び母校立教大學に迎へられて其學長となり今日に至る長女ゆり子(明三六、七生、御茶水高等女學校出身)は熊本縣人中根壽長男不羈雄に嫁せり(東京、麻布、廣尾町七四電高輪五六四四)

杉浦藤三郎

愛知縣多額納稅者、製絲業
愛知縣在籍

妻　よね　明一六、五生、愛知、神谷辰雄二女
男　一三　明四三、五生

君は愛知縣人杉浦藤助の長男にして明治十七年二月を以て生れ大正十四年家督を相續す製絲業を營み愛知縣多額納稅者たり家族は尙五女チヨ(大七、三生)六女ヨシ子(同一〇、五生)あり(愛知、碧海、六ツ美村)

杉浦德次郎

從五位、東京商科大學豫科教授
大阪府在籍

父　萬次郎　明二、六生、現戸主
妻　悦　明二九、九生、栃木、海老澤定平長女、東京女子高等師範學校家事科出身

君は大阪府人杉浦萬次郎の二男にして明治二十三年十月を以て生る大正五年東京帝國大學數學科を卒業し岐阜縣立岐阜中學校東京府立第三中學校各教諭東京女子高等師範學校教授等に歷任し大正十二年東京

商科大學豫科數授に轉じ昭和二年獨米兩國に留學を命ぜられ現時在外研究中なり家族は尙長女和子(大一五、三生、第貢之介、明三〇、三生、大阪高等學校數授)同妻三四子、同三四、一〇生、新潟、山田又市二女)との間に二子並に妹政子(同四〇、一一生)あり同アサ(同三四、四生)は兵庫縣人田村米藏長男正太郎に嫁せり(留守宅、栃木、下都賀、栃木町)

杉浦德治郎　角杉、酒類商
妻　エイ　東京府在籍
男　壽雄　明元、七生、神奈川、川名廣吉妹
婿　綾子　明三二、五生
君は東京府人杉浦作兵衛の二男にして明治三年九月を以て生れ同十七年先代豐吉の養子となり家督を相續す酒類商を營み角杉と稱す家族は尙孫方子(大一五、一二生、長男壽雄長女)あり長女ユキ(明二六、三生)は東京府人竹内啓太郎長男清次郎に嫁せり(東京市外品川町南品川宿四七八電高輪一二四四)

杉浦德治郎　朝鮮銀行(株)京城總裁席調査課長心得、兵庫縣在籍
父　源治郎　弘化元、一二生、現戸主
母　ひろ　嘉永六、一二生、兵庫、大西種次郎長女
妻　つちゑ　明三〇、一一生、兵庫、富田廣之助二女
君は兵庫縣人杉浦源治郎の三男にして明治十六年四月を以て生る大正六年東北帝國大學農科大學農學科を卒業し夙に朝鮮銀行に入り曩に同行京城總裁席調査課長心得に擧げらる家族は尙兄勝治郎(明一三、一一生)同妻愛(同一五、一〇生、奈良、村井關藏妹)及び其一男一女あり勝治郎(同二二、一二生)は兵庫縣人遠藤源次に嫁し弟芳治郎(同二二、七生)は同縣人藤原忠吉の養子となり同仙治郎(同二六、九生)は同妻すま(同二八、四生、兵庫、村上三代吉四女)と共に分家せり(京城、南大門通三朝鮮銀行內)

杉浦正房　杉浦鐵工所(株)專務取締役
東京府在籍

杉浦義成　千葉縣多額納稅者、農業
妻　てい　明四一、千葉縣在籍
養子　邦司　明一六、一生、山岸和助弟
養子　邦司　明二三、一生、養子邦治妻
君は千葉縣人杉浦菊次郎次男にして明治十六年四月を以て生れ同二十六年家督を相續し前名辨作を改む農業を營み千葉縣多額納稅者たり家族は尙孫博(大三、六生、養子邦司長男)同健夫(同一五、六生、同二男)同愛子(同七、二生、同二女)同邦枝(同一二、五生、同三女)あり妹いね(明五、二生)は千葉縣人島田大治郎に二女政子(同二八、一〇生)は同縣人紅谷茂三郎長男退藏に三女俊子(同三二、一〇生)は同縣人川島延太郎長男清に五女喜美子(同三八、九生)は同縣人中村毅に嫁し四女貞子(同三五、二生)は同縣人杉浦つねの養子となれり(千葉、長生、本納町)

杉浦理三郎　資產家
大阪府在籍
妻　イト　明九、三生、大阪、森田彌兵衛二女
養子　榮次郎　明三三、一生、三女春子夫、兵庫、川合茂兵衛弟
女　春子　明三八、一生、養子榮次郎妻
女　富貴子　明四四、三生
君は大阪府人杉浦茂兵衛の長男にして明治三年三月を以て生れ同十九年家督を相續す資產家として知らる家族は尙六女重子(大五、四生)あり長女朝野(明二八、一二生)は大阪府人森田彌兵衛に嫁しイト(同六、六生)は同府人太田勝太郎に嫁し二男茂(同四二、四生)は同府人上原嘉吉の養子となれり(大阪、北、高垣町一二一電北六一一一)

杉浦六右衞門　小西六本店(資)代表社員、東京寫眞專門學校理事長、寫眞器械商
東京府在籍
母　ひさ　安政元、五生、東京、渡邊保壽長女
妻　さほ　明一四、一生、東京、松澤八右衞門妹
庶子　勇　明四二、四生、生母、東京、內田ミツ
君は東京府人杉浦甚兵衞の長男にして明治十二年八月を以て生れ同三十八年家督相續と共に前名甚次郎を改む寫眞器械商を營み小西六本店として知らる家族は尙庶子正二(明四四、一生、生母、東京、內田ミツ)同武(同四四、四生、生母、東京、江川かね)養弟誠次郎(同一八、一生、茨城、一色宗十郎弟)同妻ふみ(同一八、三生、東京、松澤八右衞門四女)及其一子妹ウメ(同一七、四生)及同夫仙之助(同一〇、六生、東京、牧原惣兵衞男)あり同アキ(同一八、一二生は分家せり(東

京、麹町、中六番町二〇電九段二四六六)
參照—杉浦仙之助、松澤八右衞門宗村越庄左衞門宗村田勝次郎次吉久保清三郎の項

杉江吉治　正五位勳四等、海軍豫備中尉、高等海員審判所理事官兼遞信局技師文部省學官富山縣在籍
妻　トメ　明一九、一生、富山、士、沖尙光二女
男　欽治　明四四、一生
女　澳子　明四二、三生
女　相子　大二、一二生
君は富山縣士族杉江重一の二男にして明治十年十二月を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す同三十四年商船學校航海科を卒業し同年甲種二等運轉士となり同一等運轉士同船長を經て同四十四年大阪商船會社に入る其間廣島縣立商船學校教諭歷岐商船學校長等に歷任し大正二年遞信技師兼地方海員審判所理事官に任じ同八年海軍豫備中尉に任ぜられ同十一年遞信局技師兼高等海員審判所理事官に進む現時前記の官職に在り曩に歐洲に出張を命ぜらる家族は尙六女淳子(大七、一〇生)二男尙治(同九、一二生)四男武治(同一四、一生)五男勇治(昭二、一生)あり長女しげり(明二七、九生)は富山縣人片岡長冬に二女敏子(同三九、九生)は同縣人三ツ塚清三郎に嫁せり(東京市外千駄ヶ谷町八一一)

杉江仙次郎　杉江仙次郎商店(株)社長、北海商會(株)取締役、愛知縣在籍
父　虎吉　嘉永四、六生、現戸主
母　ちう　安政四、二生、愛知、稻葉たみ長女
妻　くに　明一五、五生、愛知、齋田善之助二女
養子　猛　明三四、九生、長女千代子夫、北海道、寺田彌之助二男
女　千代子　明三六、一〇生、養子猛妻
君は愛知縣人杉江虎吉の長男にして明治十一年十一月を以て生る現時前記會社の重役にして曩に北海酒精會社取締役たり家族は尙孫薫子(大一四、一二生、養子猛長女)弟米吉(明一五、六生)同妻いい(同二一、四生、愛知、栁原東助四女)及子女あり姉さの(同七、一二生)は愛知縣人八木まさ長男朝治郎に嫁し弟政七郎(同一八、四生)は愛知縣人井上治左衞門の養子となり同廣吉(同二一、一生、杉浦鐵工所(株)監査役)

杉江善右衞門　滋賀縣在籍
母　もと　安政二、一〇生、滋賀、吉川與助長女
妻　たみ　明二九、八生、滋賀、江川半左衞門妹
男　政男　大一三、三生
君は滋賀縣人先代善右衞門の長男にして明治十年十月を以て生れ大正六年家督を相續し前名政太郎を改む現に湖南汽船會社取締役たり妹まき(明一四、四生)は滋賀縣人松田國太郎に叔母きみ(慶應元、二生)は同縣人朝倉九兵衞に嫁せり(滋賀、栗太、山田村)

杉崎彦太郎　美濃銀行(株)取締役
大分縣士族
繼母　シゲ　文久二、二生、大分、齋木壽吉姉
妻　テツ　慶應二、九生、大分、渡邊文策妹
男　眞一郎　大四、四生
女　綱子　明四一、一〇生
君は大分縣士族杉崎小平治の長男にして慶應二年十二月を以て生れ先代貞一の養嗣子となり明治四十二年家督を相續し現時美濃銀行取締役たり養弟一生(明九、九生)は同縣人井上治左衞門の養子となり同一一、一生、大分、首藤伊平治長女)

杉下貞作　飛驒產業銀行(株)取締役
岐阜縣在籍
妻　ひろ　明二二、一〇生、富山、松田新右衞門妹
男　定三　明三八、四生
女　雯　明四〇、七生
女　雪　明四四、三生
歌　明四五、三生
君は岐阜縣人杉下定七の長男にして明治七年六月を以て生れ同四十四年家督を相續す現時飛驒產業銀行取締役にして曩に益田木材會社重役たり家族は尙二男外吉(大三、九生)三男貞男(同四、一二生)九女喜貴子(同一〇、五生)四男貞博(同一三、九生)あり二女恒(明三六、四生)は岐阜縣人桐山磐根に妹しげ(同二四、六生)は同縣人大森長兵衞弟益太郎に嫁し弟直枝(同二〇、四生)は分家せり(東京、牛込、市谷河田町一四)

杉田英逸　日州銀行、日向礦產各(株)取締役
宮崎縣在籍
父　與助　慶應元、四生
妻　フサ　明三〇、九生、宮崎、長友球次郎姉
男　眞一郎　大四、四生
女　綱子　明四一、一〇生
君は宮崎縣人先代與助の二男にして明治十九年十二月を以て生れ先代貞一の養嗣子となり明治四十二年家督を相續す現時日州銀行日向礦產會社各取締役たり家族は尙二男敏夫(大一〇、二生)三女喜久(同一一、一一生)三男和夫(同一四、四生)あり(宮崎、宮崎、赤江町)
參照—杉田與助の項

杉田榮藏　遠利商店(株)專務取締役、深川ビルヂング(株)常務取締役
東京府在籍
妻　古登　明六、六生、岡山、中原德三郎長女
男　要太郎　明二八、七生、東京高等商業學校出身、三井物產會社ロンドン支店在勤
男　嘉十郎　明三一、四生、工學士、東京米穀商品取引所員
君は東京府人杉田傳八の長男にして慶應三年十二月を以て生れ後家督を相續す現時前記各會社の重役たり弟長吉(明一一、五生)は同妻ミツ(同一七、一二生、神奈

川、青木常吉二女)及其一女を伴ひ分家せり(東京、麻布、笄町一一五電青山四七六二)

杉田喜助　熊本縣多額納稅者、肥後製絲(株)取締役、呉服商、熊本縣士族
妻　利一　明一一、五生、熊本、永守長藏妹
男　第一郎　明三四、一〇生
婦　スミ　明三六、一〇生、長男第一郎妻、熊本、宮崎甚太郎二女
女　婦喜　明四〇、四生
女　逸代　明四三、二生
女　美代　明四五、一生

君は熊本縣士族杉田勘三の弟にして明治四年十二月を以て生れ同十五年家督を相續す呉服商を營み肥後製絲會社取締役にして熊本縣多額納稅者たり家族は倘五女富美(大五、一生)六女榮子(同九、一生)あり姉スキ(慶應二、三生)は熊本縣人杉田嘉作の家籍に入り同ハル(明二、一生)は同縣人上野熊喜に同タス(文久二、九生)は同縣人吉田孫四郎に嫁せり(熊本、益城、御船町)

杉田喜平次　赤城(株)社長、宮崎銀行、江南各(株)取締役、宮崎縣在籍
妻　シゲ　明二、四生、宮崎、福田奈良藏長女
男　福一　明二四、一一生
婦　イサ　明三〇、三生、長男福一妻、宮崎、士、德丸彙吉長女
男　理三郎　明三四、四生
婦　八枝　明三八、五生、三男理三郎妻、宮崎、脇元緒重六女
男　喜逸　明三六、三生
女　ヒサ　明三八、五生
女　ヤス　明四四、一二生

君は宮崎縣人先代嘉平次の長男にして元治元年七月を以て生れ明治十六年家督を相續す現時前記銀行會社の重役たり家族は倘五男逋久(明四二、一生、孫逋廣(大六、一〇生、長男福一長男)同茂美(同一一、七生、同三男)同久也(同一四、四生、同四男)あり二女タカ(明二六、一一生)は宮崎縣人井上旭に嫁せり(宮崎、宮崎、赤江町)

杉田恭助　茨城製氷(株)代表取締役、陽東製氷(株)取締役、茨城無盡(株)監査役、栃木縣在籍

妻　ハマ　明一五、六生、栃木、石川忠一郎女
男　醇一郎　明三五、四生

君は栃木縣人杉田太三郎の長男にして慶應元年七月を以て生れ同四十四年家督を相續す現時前記各會社の重役たり曾て水戸製氷土浦製氷水戸提燈水戸瓦斯絲市場各會社重役たりし事あり家族は倘四男二女(明四四、二生)五男禮三(大五、二生)六男禮三(明二四、八生)は茨城縣人渡邊弘に同サト(同二六、二生)は茨城縣人石田善太郎に嫁せり(水戸、上市元白銀町)

參照—渡邊弘の項

杉田源助(小濱銀行、雲濱鐵絲、岡崎商店各取締役、福井縣在籍)
妻　ハル　明一二、四生、福井、逸見省三妹
男　績三　明三二、二生
婦　はつ　明三六、二生、三男績三妻、福井、倉谷德藏二女
男　敬三　明四〇、三生
女　よふゑ　大元、一一生

君は福井縣人岡崎久左衞門の弟にして明治四年十二月を以て生れ先代與助の養子となり同二十四年家督を相續し前名當二郎を改め襲名す現時前記銀行會社の重役たり家族は倘六男健三(明四三、一生)孫雅子(同一三、六生、九生)七男收三(同一二、三生)孫雅子(同一四、一〇生、同二女(同晉三、一一生)三男眞藏(明二五、一一生)二女美代子(同七、一一生)三女嘉子(同一〇、七生)弟芳郎(明三一、一生、法學士、司稅官)同妻久子(同三八、二生、故朝鮮總督府政務總監下岡忠治二女)及其二男あり(東京、牛込、矢來町四電牛込二四〇〇)

參照—杉田宗助、村井眞雄の項

杉田正三郎　従五位勳五等、法制局參事官
大阪府在籍
妻　八千代　明三〇、七生、東京、村井眞雄長女、佛英和高等女學校出身
男　幸雄　大一四、二生

君は大阪府人杉田宗左衞門の三男にして同宗助の叔父なり明治二十四年二月を以て生れ大正十一年家督を相續す同五年東京帝國大學法科大學を卒業し恩賜の時計を拜受す又在學中文官高等試驗に合格し卒業後直に內務省に奉職し內務書記官に任ぜられ更に同七年外務事務官に任ぜられ主として對獨講和の事務に從事す同九年法制局參事官に任ぜられ現に其職に在り家族は倘長女俊子(大五、一一生)二女美代子(同七、一一生)三女嘉子(同一〇、七生)弟芳郎(明三一、一生、法學士、司稅官)同妻久子(同三八、二生、故朝鮮總督府政務總監下岡忠治二女)及其二男あり(東京、牛込、矢來町四電牛込二四〇〇)

參照—杉田宗助、村井眞雄の項

杉田清治　秋田縣多額納稅者、羽後銀行、横手織物各(株)取締役、增田水力電氣(株)監査役、平鹿共同販賣購買利用組合理事、金融業、秋田縣在籍
母　ツル　慶應元、一一生、祖父清治長女
妻　セチ　明二一、九生、秋田、池田文一郎叔母
男　哲次郎　大九、三生

女　キヨ　明四〇、二生
女　カツ　明四二、一生
女　アイ　明四三、一〇生
女　チタ　大二、五生

君は秋田縣人先代清治の長男にして明治十五年九月を以て生れ大正十四年家督を相續し前名清太郎を改め襲名す金融業を營み傍ら前記銀行會社の重役を兼ね縣下の多額納稅者たり家族は倘五女チエ(大六、六生)三男繁(同一二、一生)六女喜美(同一五、七生)の外弟周四郎(明三四、九生)同清藏(同三九、八生)同賢治(同三一、五生)同妻キワ(同四〇、三生、秋田、池田文藏孫)及其一子あり妹リウ(同二〇、七生)は秋田縣人後藤三左衞門の養子となり同ミヨ(同二三、一生)は同縣人栗谷茂左衞門孫茂助に同ウン(同二八、四生)は同縣人佐藤治に同ジュン(同三二、六生)は同縣人渡部久四郎長男佐一郎に同セツ(同三三、一生)は同縣人明石萬之助長男敬吉に嫁せり(秋田、平鹿、横手町)

參照—明石萬之助、池田文一郎※池田禮治※庄司兵藏※松浦千代松の項

杉田善右衞門　大阪府多額納稅者、農業
大阪府在籍

男　勘一郎　明四一、一生

君は大阪府人先代善右衞門の長男にして明治二年十二月を以て生れ同二十八年家督相續と共に前名勘三郎を改め襲名す農業を營み大阪府多額納稅者たり家族は倘二男善孝(明四四、一生)三男善史(大三、六生)長女喜美江(同五、三生)庶子善美(明四四、七生、生母、西村利惠)同善夫(大二、一生、生母同上)あり妹ヒサ(明一〇、四生)は大阪府人中井源之輔長男耕四郎に嫁せり(大阪、東成、蒲生町一一三電鐵江二一三)

杉田宗助　貝塚木櫛(株)社長、和泉銀行、岸和田紡績各(株)監査役、刷子木櫛商
大阪府在籍

君は大阪府人先代宗助の長男同正三郎の甥にして明治三十二年十一月を以て生れ大正九年家督を相續し前名良三を改む同十三年慶應義塾大學經濟學部を卒業し刷子木櫛商を營み又前記各會社の重役たり家族は弟宗次郎(明三四、四生)同幸三郎(同三五、一二生)同豐三(同三七、四生)妹キミ(同四二、八生、大阪府立夕陽丘高等女學校出身)第四五、七生)同七郎(大四、一〇生)あり妹ヨシ(明三四、二生)は兵庫縣人長谷川一〇生)あり妹フミ(明四〇、五生)は兵庫縣人長谷川熊太郎二男安次郎に嫁せり(大阪、南、長堀橋筋一ノ二六電南四一三五)

參照(杉田正三郎の項

杉田定一　從四位勳三等、貴族院議員
福井縣在籍
男　陶二　明二四、二生

君は福井縣人杉田伯十郎の長男にして明治四年家督を相續す現時中外セルロイド(株)取締役、福井縣會議員同議長に舉げられ後北海道長官に任ぜらるる襲に農商務省より商況視察の囑託を受け歐米各國を又歸井縣絹織組合より織物取調の囑託を受け佛國を巡遊し得る所あり衆議院議員に當選すること九回に及び立憲政友會の長老にして其間同院副議長同議長に推さる明治四十五年貴族院議員に勅任せられ日獨事件の功に依り旭日中綬章を賜ふ家族は倘三男正一(大一〇、四生)あり二女八重(明二九、四生、東京女學館出身)は大阪府人葛良修に妹とら(慶應元、九生)は福井縣人矢尾八兵衞長男鼎三に嫁せり(京市外澁谷町氷川一電青山六六〇三)

杉田富(サカエ)　第一銀行(株)貸(有限責任)社員、愛知縣在籍
妻　きみ　明一一、四生

君は愛知縣人富安三郎の三男にして明治八年四月を以て生れ杉田權次郎の養子となり同三十五年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直に第一銀行に入り現時同行常務取締役たり傍ら前記會社の重役を兼ぬ養缺あるは(明二七、一〇生)は山口縣人磯村正元に嫁せり(東京、芝、三田臺町一ノ二八電高輪二〇二六)

參照—白井勝治の項

杉田政一　高砂屋、菓子商
兵庫縣在籍
母　こと　文久三、一一生
妻　澄子　明三四、八生、兵庫、松山正夫妹
男　太一　大一四、七生

君は兵庫縣人杉田太吉の五男にして明治三十一年四月を以て生れ大正十年家督を相續す高砂屋と稱し菓子商

杉田與助　宮崎縣多額納稅者、醬油釀造業
宮崎縣在籍
元治元、一一生、宮崎、七條龜吉長女
妻　ツチ　明一九、一二生、現戸主

君は宮崎縣人杉田利三郎の長男にして慶應元年四月を以て生れ明治二十九年家督を相續し大正十四年退隱す醬油釀造業を營み同縣多額納稅者たり養に日州銀行の重役たりし事あり四男猪兵衞(明二六、五生)は富山縣人七條龜吉の養子となり三男與平(同二二、一一生)は

商業學校を卒業し現時横濱火災海上保險會社取締役兼火災部長にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ家族は倘三男忠男(大七、六生)三女櫻子(同一一、一生)あり(東京市外中野町谷戸二三九〇電中野一一七六)

杉田輿兵衛

大日本電業、杉田輿兵衛商店各(株)社長、九州火山灰(株)取締役、石炭商、大阪府在籍

妻　ふく　明一六、四生、大阪、辻善次郎姉
男　信一　明四三、一〇生
女　いと　明四〇、一生
女　ふき　明四一、三生
女　きみ　明四二、六生
女　のぶ子　明四四、一生

君は大阪府人先代輿兵衛の長男にして明治十二年十一月を以て生れ大正二年家督を相續す石炭商を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は倘五女豐子(大三、一生)六女俊江子(同四、七生)三男昭次郎(昭元、一二生)あり弟輿三郎(明一八、七生)は分家し妹こま(同一五、九生)も亦同夫九十九(同一五、七生、奈良、吐山六郎弟)と共に分家し同ます(同三〇、八生)は大阪府人畠本彦二郎に嫁し叔母あさ(嘉永四、五生)は同府人石川文右衛門の母たり(大阪、豐能、豐中村)

參照―石川文右衛門、杉田輿三郎の項

杉田米吉

佐土原銀行、日向水力電氣各(株)取締役、宮崎縣在籍

妻　良　明二一、一生、東京、士、堀越重晴姉
男　能　明四三、九生

君は宮崎縣人杉田利助の三男にして明治十六年九月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す同年早稻田大學商科を卒業し現に前記銀行會社の重役たり家族は倘二男榮次(大二、二生)あり(宮崎、兒湯、下穗北町)

杉田六藏

横濱火災海上保險(株)取締役兼火災部長、常磐火災海上保險(株)取締役、東京府在籍

妻　カヨ　明一一、二生、鳥取、戸津川四郎兵衛三女
男　俊男　明三二、九生
男　秀男　明三六、三生

君は靜岡縣士族杉田雄の弟にして明治三年七月を以て生れ同十七年分れて一家を創立す同二十八年東京高等商業學校を卒業し現時横濱火災海上保險會社取締役兼火災部長にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ家族は倘三男忠男(大七、六生)三女櫻子(同一一、一生)あり(東京市外中野町谷戸二三九〇電中野一一七六)

杉谷茂

正五位勳六等、朝鮮總督府技師、內務局草梁土木出張所長、島根縣士族

妻　ふく　明二四、八生、東京、士、川地方敬二女
男　信一　明四三、一〇生
女　いと　明四〇、一生
女　ふき　明四一、三生
女　きみ　明四二、六生
女　のぶ子　明四四、一生

君は大阪府人先代輿兵衛の長男にして明治十二年十一月を以て生れ大正二年家督を相續す石炭商を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は倘五女豐子(大三、一生)六女俊江子(同四、七生)三男昭次郎(昭元、一二生)あり弟輿三郎(明一八、七生)は分家し妹こま(同一五、九生)も亦同夫九十九(同一五、七生、奈良、吐山六郎弟)と共に分家し同ます(同三〇、八生)は大阪府人畠本彦二郎に嫁し叔母あさ(嘉永四、五生)は同府人石川文右衛門の母たり(大阪、豐能、豐中村)

參照―石川文右衛門、杉田輿三郎の項

杉田米吉

佐土原銀行、日向水力電氣各(株)取締役、宮崎縣在籍

妻　良　明二一、一生、東京、士、堀越重晴姉
男　能　明四三、九生

君は宮崎縣人杉田利助の三男にして明治十六年九月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す同年早稻田大學商科を卒業し現に前記銀行會社の重役たり家族は倘二男榮次(大二、二生)あり(宮崎、兒湯、下穗北町)

杉田六藏

横濱火災海上保險(株)取締役兼火災部長、常磐火災海上保險(株)取締役、東京府在籍

妻　カヨ　明一一、二生、鳥取、戸津川四郎兵衛三女
男　俊男　明三二、九生
男　秀男　明三六、三生

君は靜岡縣士族杉田雄の弟にして明治三年七月を以て生れ同十七年分れて一家を創立す同二十八年東京高等商業學校を卒業し現時橫濱火災海上保險會社取締役兼火災部長にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ家族は倘三男忠男(大七、六生)三女櫻子(同一一、一生)あり(東京市外中野町谷戸二三九〇電中野一一七六)

杉谷茂

正五位勳六等、朝鮮總督府技師、內務局草梁土木出張所長、島根縣士族

妻　ふく　明二四、八生、東京、士、川地方敬二女
男　信一　明四三、一〇生
女　いと　明四〇、一生
女　ふき　明四一、三生
女　きみ　明四二、六生
女　のぶ子　明四四、一生

君は大阪府人先代輿兵衛の長男にして明治十二年十一月を以て生れ大正二年家督を相續す石炭商を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は倘五女豐子(大三、一生)六女俊江子(同四、七生)三男昭次郎(昭元、一二生)あり弟輿三郎(明一八、七生)は分家し妹こま(同一五、九生)も亦同夫九十九(同一五、七生、奈良、吐山六郎弟)と共に分家し同ます(同三〇、八生)は大阪府人畠本彦二郎に嫁し叔母あさ(嘉永四、五生)は同府人石川文右衛門の母たり(大阪、豐能、豐中村)

參照―石川文右衛門、杉田輿三郎の項

杉谷泰山

從四位勳四等、三井家教育顧問

妻　たゐ　明九、一〇生、東京、鈴木良助長女
男　武雄　明三六、八生、三井信託會社員

君は三重縣人杉谷泰順の長男にして慶應三年六月を以て生れ明治十一年家督を相續す夙に高田派勤學院に入り佛數及普通學を修め後上京して獨逸協會學校を經て東京帝國大學文科大學に入り同三十三年卒業第二高等學校教授朴澤三二に嘱せり(東京、麻布、笄町一四七)

參照―齋藤善右衛門の項

杉谷文次郎

大阪精米、大阪米穀各(株)取締役、大阪府在籍

母　はな　慶應元、四生、大阪、久保源次郎二女
妻　ハナ　明一九、一〇生、大阪、寺本治三郎二女
女　志津子　明四一、七生

君は大阪府人杉谷文吉の長男にして明治十八年二月を以て生れ大正三年家督を相續す現に大阪株式取引所短期取引員たり家族は倘三女美津子(大一〇、一生)あり妹さわ(明二八、一二生)は兵庫縣人濱野廣次郎二男永次郎に嫁せり(大阪、東、今橋二丁目電本局八二二)

杉溪言長

正三位勳三等、男爵

妻　茂子　舊公卿家
男　言　明四、九生、東京、小田切重路養子
養子　由言　明二五、一生、子爵冷泉爲勇長男、正五位
婦　尙子　明三四、二生、養子由言妻、滋賀、士、森田正繩長女、學習院女學部出身

君は故正二位侯爵山科言縄の三男にして伯爵山科家言の叔父なり慶應元年閏五月を以て生る幼にして南都興福寺に入り妙德院の住職となる明治元年復飾仰付けられ同二年堂上の格を賜ひ家號を杉溪と稱す同八年華族に列し同十七年男爵を授けらる曩に京都宮殿勤番殿掌等となり初期以來貴族院議員に當選すること五回現時閑地に在り六橋と號し詩書を能くし殊に其南甕は當代の珍と稱せらる家族は倘孫一言(大一一、三生、養子由言長男)同文言(同一四、一生、同二男)あり(東京、麻布、新龍土町一二電青山五九七〇)

參照―伯爵山科家言、子爵冷泉爲勇宗子爵土御門晴善の項

杉之原壽三郎

熊本縣多額納稅者、材木商

父　坂右衛門　熊本縣在籍
母　モト　天保一四、一二生
男　孝善　弘化二、一生、熊本、藤本杉右衛門二女
男　英太郎　明二八、三生
婦　ツヤコ　明三五、六生、三男英太郎妻、廣島、相良太一郎二女
男　舜一　明三〇、八生
婦　岐枝　明三五、一二生、四男舜一妻、東京、淺野幸吉二女

君は熊本縣人杉之原坂右衛門の長男にして慶應二年八月を以て生れ大正十年家督を相續す村木商を營み傍ら熊本縣多額納稅者たり家族は倘二男敏雄(明三二、一二生)は理學士にして女光子(同三五、七生)は文學士江上秀雄(同二七、七生、東京、鈴木良助三女)は同府在籍横濱火災海上保險(株)取締役兼火災部長、常磐火災海上保險(株)取締役、東京府在籍

妻　カヨ　明一一、二生、鳥取、戸津川四郎兵衛三女
男　俊男　明三二、九生
男　秀男　明三六、三生

君は靜岡縣士族杉田雄の弟にして明治三年七月を以て生れ同十七年分れて一家を創立す同二十八年東京高等商業學校を卒業し現時橫濱火災海上保險會社取締役兼火災部長にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ家族は倘三男忠男(大七、六生)三女櫻子(同一一、一生)あり(東京市外中野町谷戸二三九〇電中野一一七六)

杉田輿兵衛

大日本電業、杉田輿兵衛商店各(株)社長、九州火山灰(株)取締役、石炭商、大阪府在籍

妻　ふく　明二四、八生、大阪、辻善次郎姉
男　信一　明四三、一〇生
女　いと　明四〇、一生
女　ふき　明四一、三生
女　きみ　明四二、六生
女　のぶ子　明四四、一生

君は大阪府人先代輿兵衛の長男にして明治十二年十一月を以て生れ大正二年家督を相續す石炭商を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は倘五女豐子(大三、一生)六女俊江子(同四、七生)三男昭次郎(昭元、一二生)あり弟輿三郎(明一八、七生)は分家し妹こま(同一五、九生)も亦同夫九十九(同一五、七生、奈良、吐山六郎弟)と共に分家し同ます(同三〇、八生)は大阪府人畠本彦二郎に嫁し叔母あさ(嘉永四、五生)は同府人石川文右衛門の母たり(大阪、豐能、豐中村)

參照―石川文右衛門、杉田輿三郎の項

月を以て生れ大正十年家督を相續す材木商を營み現に熊本縣多額納稅者たり家族は倘孫綾子(大一三、七生、三男英太郎二女)同正雄(同一五、八生、同長男)同壽一(同一二、一生、四男)同幸夫(同一三、九生、同二男)同薫(同一五、一〇生、同三男)あり(熊本市細工町)

參照―杉之原孝善の項

杉之原孝善

朝鮮銀行(株)開原支店支配人

熊本縣在籍

父　壽三郎　慶應二、八生、現戸主
妻　エツ　明三二、一一生、廣島、相良潭助孫
男　和夫　大一二、三生

君は熊本縣人杉之原壽三郎の長男にして明治二十年六月を以て生る同四十三年長崎高等商業學校を卒業し朝鮮銀行に入り四平街支店支配人を經て現時開原支店支配人たり家族は倘長女絹子(大九、一〇生)四男光夫(同一五、一生)あり(瀋洲、開原朝鮮銀行社宅)

參照―杉之原壽三郎の項

杉野喜精

東京府多額納稅者、東京商工會議所常議員、山一證券(株)社長、東株代行(株)監査役、東京株式取引所取引員、東京府士族

妻　やま　明一〇、八生、東京、士、飯田旗郎妹
男　伊勢雄　明三三、三生、早稻田大學在學
男　昌　明三四、五生、伯林大學在學

君は舊津輕藩士杉野喜永の長男にして明治三年九月を以て生れ同二十二年家督を相續す夙に銀行事務講習所を出で日本銀行を經て名古屋銀行支配人及取締役に擧げられしが明治四十年之を辭す爾來東京に於て有價證券賣買業を創め後小池合資會社に入り大正六年同社解散の後を承け山一合資會社を組織し大正十二年十一月共組織を改めて山一證券株式會社を設立し其社長となり今日に至る現に東京府多額納稅者にして東京商工會議所常議員に擧げられ倘前記會社の重役として知らる建築に趣味あり長女綾(明二八、一二生、佛英和高等女學校出身)は醫學博士福岡五郎に三女須磨(同三五、九生、出身校同上)は東京府人塚勝次郎長男鐵雄に四女清(同三六、三生、生母、東京、櫻井む

ら、日本橋高等女學校出身)は同府人村上徹に嫁せり(東京市外目黑町三田一二電高輪七七五)

參照―崇各務幸一郎、宗岡三麿の項

杉野耕三郎

正四位勳三等、大連市長

安政元、六生、岐阜縣在籍、山田重兵衛長女

妻　まさ　明一三、五生、愛知、渡邊嘉吉妹
男　直　明四〇、二生
女　さち　明三八、一生
男　京次　明四一、二生

君は岐阜縣人杉野直次郎の三男にして明治九年十二月を以て生れ同四十年家督を相續す同三十八年東京帝國大學法科大學を卒業し文官高等試驗に合格す後逓信書記官臨時電信電話建設局事務官名古屋郵便局長遞信局書記官臨時電信電話建設局事務官等に歷任し現に大連市長たり家族は倘三男龍三(明四二、一二生)五男信吾(大正六、一〇生)三女きよ子(同八、一〇生)は岐阜縣人岩田利嫁せり(關東州、大連市長公舍)

杉野三次郎

北海道多額納稅者、函館製網船具、大沼養狐、第一印刷各(株)取締役、富岡鐵業、辨天倉庫各(株)監査役、北海道在籍

妻　キタ　明八、九生、養祖父三次郎孫
男　幸七　明三五、八生、北海道、國領平七三男

君は新潟縣人近藤小右衛門の二男にして文久元年二月を以て生れ先代三次郎の養子となり明治三十五年家督を相續し前名金四郎を改め現に前記諸會社の重役にして北海道多額納稅者たり(函館、辨天町二一)

杉野繁

正五位、神戸市助役

東京府在籍

妻　花一　明二六、九生、千葉、山越信姉
男　浩一　大一五、八生

君は東京府士族杉野直浩の三男にして明治十八年十月を以て生れ大正十五年分家して一家を創立す先是明治三十四年東京帝國大學獨法科を卒業し同年文官高等試驗に合格し鹿兒島縣屬となり後同縣警視同縣理事官同縣警視を經て大正八年福井縣警察部長港務部長同十年三重縣警察部長同十二年群馬縣內務部長同十三年栃木縣內務部長に歷任し現時神戸市助役たり家族は倘長女幸子(大六、二生)二女實枝子(同一〇、八生)三女房子(同一二、八生)あり(神戸、蓮宮町四ノ一一電本局二七八九)

杉野正太郎

大正運輸倉庫(株)取締役

愛知縣士族

妻　ちよ　明二三、八生、愛知、中川もと養子
男　守　大七、三生

君は愛知縣士族杉野爲右衛門の長男にして明治五年一月を以て生れ同十五年家督を相續す現時大正運輸倉庫會社取締役たり曩に杉野商店代表社員たりし事あり妹たけ(明一二、一一生)は愛知縣人長谷川伊三郎に同かま(同二〇、七生)は同縣人園枝周吉に嫁せり(名古屋、西、鹽町四ノ一一)

杉野民之助

足袋商

大阪府在籍

妻　フジエ　明二、四生、愛媛、杉栗三二女
男　康五郎　明三七、四生
男　林之助　明四一、二生
女　茂　大二、七生

杉野家は愛媛縣桑村郡中村の出にして先代保五郎明治初年大阪に出で米穀商を營み以て家を興したるに始まる君は其長男にして慶應元年三月を以て生れ明治十八年家督を相續す後足袋商に轉じ曾て日の本足袋會社監査役及大阪府會議員同參事會員たりしことあり趣味として謠曲圍碁等あり長女けい(明二二、一一生)は兵庫縣人西村助太郎に二女よし子(同二七、四生)は大阪府人久木辰二郎長男宣に四女ひで(同三三、九生)は同府人藤田市太郎二男一郎に嫁せり(大阪、西、新町北通一ノ四五電新町五〇八)

杉野文六郎

銀座高田商會(株)社長、高田纖業(株)取締役、東京府士族

妻　文一　明一〇、一生、東京、吉川慎一郎姉
男　富　明三八、四生
女　子　明三六、一〇生、東京女學館出身
男　榮二　明三九、四生
男　滿三　明四〇、四生

君は奈良縣士族谷口直滿の六男にして明治五年二月を

以て生れ同六年先代松次郎の養子となり家督を相續す同二十九年東京帝國大學工科大學電機科を卒業し現時銀座高田商會社長たる外高田鐵業會社取締役たり家族は尚二女俊子(大一三、一二生)あり(東京市外入新井町新井宿九二七電大森六二)

參照═※木村清の項

杉野龍藏　東京帝國大學醫學部小兒科教室助手、愛國婦人會健康相談所主任、東京府士族

養母能婦　明九、一〇生、故醫學博士、田口和美二女

妻治江　明三七、六生、靜岡、寺尾彌三郎長女

男信傳　大一五、五生

君は岐阜縣人森鍬次郎の長男にして明治三十年五月を以て生れ大正四年亡先代茂吉の養子となり後ち家督を相續す同十三年東京帝國大學醫學部を卒業し現に同大學小兒科教室に勤務し又愛國婦人會健康相談所主任たり(東京、小石川、表町一〇九電小石川三七二一)

杉原惟敬　安田銀行(株)取締役、鹿兒島電氣(株)監査役、肥後農工銀行(株)相談役、熊本縣士族

妻キヨ　明七、三生、熊本、士、三宅武雄姉

養子武德

女キミ　明三五、九生、長女キミ夫、山口内田重成二男、工學士

君は熊本縣士族大塚惟一の弟にして同惟精の叔父なり慶應二年十月を以て生れ明治二十七年先代エトの養子となり家督を相續す同二十四年九州鐵道會社に入り同二十六年神戸日本貿易銀行門司支店支配人となり同三十六年肥後銀行に轉じ熊本東京各支店長を經て取締役兼支配人となる大正十二年安田銀行と合併するや同行取締役に擧げられ今日に至る傍ら前記銀行會社の重役たり(熊本市内坪井町八七)

參照═大塚惟精、三宅武雄※松尾元吉の項

杉原榮三郎　共益倉庫(株)取締役、小田原電氣鐵道(株)監査役、東京米穀商品取引所(株)理事、貿易商

東京府在籍

男二郎　明三九、七生、府立第一高等女學校出身

女增子　明四四、一生

女春子　大二、六生

女貴美子

君は東京府人杉原文太郎の兄なり祖父は舊幕時代飛騨國より江戸に出で維新の變に兩替商を營み巨利を博し杉原家の基を起す君は慶應元年五月を以て生れ明治二十四年分れて一家を創立す少壯志を立てゝ北海道及滿鮮の地を視察し歸つて內國商品陳列館長に推され日清戰役の際陸軍御用商人として利する所尠からず其後關係したる種々の事業或は會社等枚擧に遑あらず又下谷區會議員東京府會議員等に擧げられ公共事業に盡瘁する所多し貿易商を營み現時前記各會社の重役たり家族は尚六女睦子(大四、四生)あり二女稻子(明三六、一生)は東京府人平部貞一長男貞治に嫁せり(東京、下谷三〇六)

杉原周一郎　島根縣多額納稅者

島根縣在籍

母カメ

妻サカ　慶應三、一生、島根、山崎宇太郎妹

男馨　明七、三生、熊本、士、三宅武雄姉

女キヨ　明三一、四生、島根、船木林之助二女

大六、八生

君は島根縣人杉原實之助の長男にして明治二十五年十月を以て生れ大正三年家督を相續す縣下の豪商にして貿易商を營み現時前記各會社の重役たり家族は尚二男榮二(大九、三生)同類次郎(明三〇、二生)同妻久乃(同三八、四生)、島根、松井大次郎二女及其子女あり(同三九、三生)は島根縣人持田タネ養子春治に嫁せり(島根、簸川、大社町)

杉原時三　計量器商

大阪府在籍

明二一、五生、大阪、美濱庄右衛門長女

妻セイ　大一〇、八生

男太一郎　明四三、一〇生

女すみ子

君は島根縣人杉原原次郎の長男にして明治十三年四月を以て生れ大正三年家督を相續す縣下の豪商にして貿易部勤務たり兼て同大學評議員たりしことあり又大正十二年歐米に出張を命ぜらる家族は尚二女德子(大一五、七生)の外弟正(明三二、二生、法學士、盛岡稅務署長)同妻つる(同三八、三生、東京、福川忠平三女)あり妹てる(同一五、八生)は靜岡縣人田代英作に同ふみ(同二七、六生)は靜岡縣人杉山麟一郎に弟格之助(同二九、一生、醫學士、京都帝國大學附屬病院助手)は絕家市川家を再興せり(仙臺、堤通二七)

參照═一本喜德郎、岡田良平、福川忠平※磯村音介、尾崎元次郎※高橋鍊※竹山桃平※村鍵伊七の項

杉村七太郎　從四位勳三等、醫學博士、東北帝國大學授業、醫學部勤務

靜岡縣在籍

文久三、九生、靜岡、中安清太郎妹

繼母ます　明一七、三生、貴族院議員岡田良平妹

妻きむ　明三三、九生、長女郁子夫、宮內大臣一木喜德郎三男法學士、東京帝國大學法學部助教授

養子章三郎　明三七、一生、養子章三郎妻、三輪田高等女學校出身

女郁子　明三七、八生

君は新潟縣士族杉村近知の二男にして明治十八年九月を以て生れ同四十四年分家して一家を創立す同四十三年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し直ちに農商務省商務局に入り大正五年山林事務官に任じ熊本大林區署長東京大林區署林務課長等に歷補し同十四年歐米各國に出張を命ぜらる同十三年官制改正の結果帝室林野局事務官となり現に同局監理課長たり和歌謠曲撞球の趣味深し家族は尚長女榮(大四、一生、實踐女學校在學)二女和子(同六、一生)二男泰邦(同一五、八生)あり(東京市外代々幡町富ケ谷一五一〇電四谷三五五)

杉村逸樓　從四位勳三等、朝鮮總督府檢事、釜山地方法院檢事正、高知縣在籍

妻鼎　明一四、七生、杉村作私生子

男茂　明四四、七生

女花子　明三九、五生

女梅子　明四〇、五生

君は高知縣人山崎巖水の弟にして明治九年六月を以て生れ同三十年先代鼎の入夫となり家督を相續す同三十二年明治法律學校を卒業し判檢事登用試驗に合格同三十四年判事に任じ田邊區高知區各裁判所判事を經て同三十五年檢事に轉じ宮津區奈良區同地方篠山區神戶區各裁判所檢事に歷補し同四十二年統監府檢事となり次で朝鮮總督府檢事に任ぜらる爾來大邱控訴院同地方裁判所光州地方法院木浦支廳大邱覆審法院各檢事大邱平壤各地方法院檢事正を經て大正十一年現職釜山地方法院檢事正に補せらる二女滿壽喜(明三四、一二生)は千葉縣人秋場孝平に妻妹繁(同一六、九生)は高知縣人田內茂富に嫁せり(朝鮮、釜山地方法院官舍)

杉村甚兵衞　洋反物商

京都府在籍

母ミキ　明一三、四生、亡父甚兵衞妻、京都、山岸榮藏妹

君は京都府人杉村甚兵衞の長男にして明治三十六年八月を以て生れ大正十三年家督を相續し前名喜三郎を改む洋反物商を營む家族は尚妹美代(明三九、六生)亡叔父良藏妻ハル(同二五、四生、東京、江原とみ姉)及其一女あり(京都、下京、四條通寺町西入)

杉村善十郎　熊本縣多額納稅者、洋品雜貨商

熊本縣在籍

妻ヨネ　明二六、一生、熊本、小山惣平二女

男芳郎　大八、二生

女カズエ　大二、六生

君は熊本縣人杉村タケの二男にして明治十九年八月を以て生れ大正二年家督を相續す洋品雜貨商を營み熊本縣多額納稅者たり家族は尚二女房子(大四、一一生)三女ミエ子(同六、二生)二男正彦(同一四、八生)の外弟源次郎(明二三、一〇生)同妻セイ(同三〇、一生、熊本佐藤一二)妹及其の一男あり妹照(同二八、五生)は熊本縣人田添一二に嫁せり(熊本市新町)

杉村德三郎　洋反物商

大阪府在籍

妻シケ　明一六、九生、大阪、福元德次郎妹

男德三　明三九、五生

男清　明四〇、一二生

女信子　明四二、一一生

君は靜岡縣人杉村七重郎の長男にして明治十二年十二月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治三十八年東京帝國大學醫學科大學醫學部を卒業し直ちに朝鮮新潟醫學專門學校教授に任じ大正三年醫學博士の次で同五年東北帝國大學醫學專門部教授を兼ね現時同大學教授に轉じ熊本東京各支店長を經て取締役兼支配人となる大正十二年歐米に出張を命ぜらる家族は尚二女德子(大一五、七生)の外弟正(明三二、二生、法學士、盛岡稅務署長)同妻つる(同三八、三生、東京、福川忠平三女)あり妹てる(同一五、八生)は靜岡縣人田代英作に同ふみ(同二七、六生)は靜岡縣人杉山麟一郎に弟格之助(同二九、一生、醫學士、京都帝國大學附屬病院助手)は絕家市川家を再興せり(仙臺、堤通二七)

參照═一本喜德郎、岡田良平、福川忠平※磯村音介、尾崎元次郎※高橋鍊※竹山桃平※村鍵伊七の項

杉村甚兵衞　洋反物商

京都府在籍

母ミキ　明一三、四生、亡父甚兵衞妻、京都、山岸榮藏妹

君は京都府人杉村甚兵衞の長男にして明治三十六年八月を以て生れ大正十三年家督を相續し前名喜三郎を改む洋反物商を營む家族は尚妹美代(明三九、六生)亡叔父良藏妻ハル(同二五、四生、東京、江原とみ姉)及其一女あり(京都、下京、四條通寺町西入)

杉村善十郎　熊本縣多額納稅者、洋品雜貨商

熊本縣在籍

妻ヨネ　明二六、一生、熊本、小山惣平二女

男芳郎　大八、二生

女カズエ　大二、六生

君は熊本縣人杉村タケの二男にして明治十九年八月を以て生れ大正二年家督を相續す洋品雜貨商を營み熊本縣多額納稅者たり家族は尚二女房子(大四、一一生)三女ミエ子(同六、二生)二男正彦(同一四、八生)の外弟源次郎(明二三、一〇生)同妻セイ(同三〇、一生、熊本佐藤一二)妹及其の一男あり妹照(同二八、五生)は熊本縣人田添一二に嫁せり(熊本市新町)

杉村德三郎　洋反物商

大阪府在籍

妻シケ　明一六、九生、大阪、福元德次郎妹

男德三　明三九、五生

男清　明四〇、一二生

女信子　明四二、一一生

杉原半四郎　勳七等、福井縣多額納稅者、諸紙原料商、福井縣在籍

父末吉　嘉永六、正生、福井、高橋與左衞門弟

母ミタ　萬延元、二生、祖父良善長女

妻ハル　明二一、二生、福井、栗木五平三女

男忠信　明四一、一一生

君は福井縣人先代半四郎の長男にして明治十二年十一月を以て生れ大正八年家督を相續し前名半司を改め襲名す諸紙原料商を營み福井縣多額納稅者たり家族は尚三男健治(大元、一一生)二女喜代子(同四、六生)四男孝(同九、二生)三女智榮子(同一三、一〇生)弟半(明一五、五生)同妻宗惠(同二二、一〇生、福井、窪田宗妹)及其子女あり長女千代子(同三八、七生)は福井縣人山本淳一に嫁せり(福井、今立、岡本村)

杉原美代太郎　正五位勳三等、陸軍少將、陸軍技術本部第二部長、東京府在籍

父全德　嘉永六、八生、現戶主

母とめ　文久二、一一生、靜岡、龜岡爲之妹

妻盛　明一八、六生、東京、上田源次姉

男美雄　明四〇、一二生

君は東京府人杉原全德の長男にして明治十三年四月を以て生る夙に陸軍士官學校を卒業し同三十四年陸軍工兵少尉に任じ昭和二年陸軍少將に累進す其間電信第一聯隊長陸軍省軍務局工兵課長兼陸軍通信學校研究部々員陸軍技術會議々員等を歷補し現時陸軍技術本部第二部長たり家族は尚二男美德(明四五、二生)弟美佐雄(同二六、四生)同妻フミ(同三五、六生、宮城、茂庭秀清孫)及其子女あり妹美津(同一五、三生)は愛知縣人中島鶴松に同澄(同二〇、一二生)は愛知縣人中山秀直三男雄に嫁し同トミ(同一八、七生)は故陸軍中將黑澤準の未亡人たり(東京市外杉並町高圓寺五四四四電中野三一四)

杉村愛仁　從五位勳六等、帝室林野局事務官、監理課長、東京府在籍

妻信代　明二九、一一生、香川、松浦九平二女、日本女子大學校附屬高等女學校出身

男裕　大一二、二生

君は大阪府人小野利三郎同孝次郎の弟にして明治十六年九月を以て生れ後先代德三郎の養子となり大正元年家督を相續し前名拾次郎を改め襲名す洋反物商を營む家族は尙三女かね(大四、五生)四女志津子(同七、二生)五女寧子(同八、一二)生あり(大阪、東、南木町三ノ一四電船場一四二〇)

參照―小野孝次郎、小野利三郎の項

杉村豐三郎 硝子商 大阪府在籍

明一〇、一一生、大阪、中島松次郎姉

妻 のぶ 明三一、八生

男 良一 明三一、三生、長男良一妻、大阪

婦 公子 明三四、四生

竹村三郎姉

男 恒男 明三七、一生

男 益三 明四〇、八生

男 四郎 明四四、三生

女 民子

君は大阪府人杉村吉右衞門の二男にして明治九年十二月を以て生れ同三十四年分れて一家を創立す硝子商を營む家族は尙二女佳津子(大五、一生)三女セツ子(同九、六生)孫雙子(同一二、一一長、長男良一長女)同良子(同一五、七生、同二女)あり(大阪、西、立賣堀南通四ノ一一〇電西町六七三)

杉村秀松 大矢組(株)常務取締役、海産物商 大阪府在籍

明一一、七生、大阪、杉村彌一郎長女

妻 なか 明三八、五生

男 正次郎 明二八、一〇生、長女タマ夫、岐阜、岩佐安次郎三男

養子 藤一 明三一、三生、養子藤一妻

女 タマ

君は大阪府人杉村庄七郎の四男にして慶應三年十二月を以て生れ明治十四年家督を相續す海産物商を營み傍ら大矢組常務取締役たり家族は尙養子(大九、五生、養子藤一長女)あり二女つや(明三二、一一生)は大阪府人寺村正次郎に嫁し三男菊三郎(同四二、一〇生)は廢家粹氏を再興せり(大阪、西、靱中通二ノ八ノ一電土佐堀二〇七五)

杉村博通 正五位勳五等、庄川水力電氣(株)常務取締役、東京府在籍

明七、四生、東京、橋本敏行長女

妻 しづ 明二一、四生、石川、松中利平次長女

男 博昌 明三六、六生

男 睦 大一五、四生

婦 壽美子 明四〇、三生、長男博昌妻、東京

女 秀子 明四四、九生

廣木八郎長女

女 文子 明四三、一生

君は茨城縣人杉村喜兵衞の長男にして明治四年五月を以て生れ大正九年家督を相續す明治三十三年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し山形縣土木課長となり爾來轉じて福井富山群馬福島等の各縣に歷任し治水港灣の事業に從事す大正七年官を辭して實業界に入り水力電氣及運河の事業に力を盡し最近庄川水力電氣會社を創立し現に常務取締役たり家族は尙二男三郎(大七、一一生)あり

妻 のぶ 明三一、八生

男 良一 明三三、三生、長男良一妻、大阪

婦 公子 明三四、四生

竹村三郎姉

男 恒男 明三七、一生

男 益三 明四〇、八生

男 四郎 明四四、三生

女 民子

君は大阪府人杉村吉右衞門の二男にして明治九年十二月を以て生れ同三十四年分れて一家を創立す硝子商を營む家族は尙二女佳津子(大五、一生)三女セツ子(同九、六生)孫雙子(同一二、一一長、長男良一長女)同良子(同一五、七生、同二女)あり(大阪、西、立賣堀南通四ノ一一〇電西町六七三)

杉村秀松 大矢組(株)常務取締役、海産物商 大阪府在籍

明一一、七生、大阪、杉村彌一郎長女

妻 なか 明三八、五生

男 正次郎 明二八、一〇生、長女タマ夫、岐阜、岩佐安次郎三男

養子 藤一 明三一、三生、養子藤一妻

女 タマ

君は大阪府人杉村庄七郎の四男にして慶應三年十二月を以て生れ明治十四年家督を相續す海産物商を營み傍ら大矢組常務取締役たり家族は尙ほ六男正元(明四一、八生)は和歌山縣士族吉田孫義子(大九、五生、養子藤一長女)あり二女つや(明三二、一一生)は大阪府人寺村正次郎に嫁し三男菊三郎(同四二、一〇生)は廢家粹氏を再興せり(大阪、西、靱中通二ノ八ノ一電土佐堀二〇七五)

杉村廣太郎 朝日新聞社(株)監査役、東京朝日新聞編輯局顧問、記事審査部長 千葉縣士族

嘉永五、一一生、和歌山、士、木梨玄蕃二女

母 とみ 明一五、四生、靜岡、濱田文作長女

妻 らん 明四三、二生

男 文夫 明四四、九生

君は舊和歌山藩士杉村正次郎の長男にして明治五年七月を以て生れ同七年家督を相續す夙に英吉利法律學校先進學院に學び同二十二年米國公使館員となり同三十六年東京朝日新聞社に入り現に同社監査役兼編輯顧問にして記事審査部長たり楚人冠と號し大英遊記(ちまき)長女輩子(明三四、八生)は富山縣人岡崎佐次郎二男法學士安田銀行員武夫に嫁し弟幸(同一四、九生)は富山縣人法學士山田孝一郎に嫁し弟睦(大四、一生)三女俊(同六、一生)四女慶(同一三、一生)弟顯(明三七、五生)同惇(同四〇、九生)あり妹文子(同三一、九生)は長野縣人唐澤三省弟純正に同澤井(同二二、一〇生)は三重縣人阪口幸之助弟紋之助に嫁せり(東京、牛込、若松町一〇二電牛込六六五)

參照―唐澤三省の項

杉村陽太郎 從四位勳三等、特命全權公使、國際聯盟事務次長、東京府在籍

明二七、七生、故代議士鶴原定吉四女、雙葉高等女學校出身

妻 ハナ 大一四、九生

男 陽一

君は故伯剌西駐劄特命全權公使杉村滑の長男にして明治十七年九月を以て生れ同三十九年家督を相續す同四十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し外交官及領事官試驗に合格同年領事官補として里昂に在勤し爾來外交官補大使館書記官公使館二等書記官外務省參事官同書記官條約局第二課長大使官一等書記官大使館參事官國際聯盟帝國事務局長に歷任し支那及佛國に在勤す昭和二年國際聯盟事務次長に推され現時任地に在りて其事務に枢掌す曩に華盛頓會議參列の全權委員隨員海牙開催戰時法規改正委員會帝國委員隨員となり同會議に列席す家族は尙長女和子(大四、八生)二女秀子(同六、三生)三女幸子(同九、一〇生)叔母ルエ(嘉永六、一二生)あり弟欣次郎(明二二、五生、理學士、東京高等師範學校教授、在外研究中)同英三郎(同二四、三生、法學士)は各分家し妹アサ(同二六、一〇生、第二高等女學校出身)は三井物産會社員福島喜三次に同ナミ(同二八、一〇生、雙葉高等女學校出身)は東京帝國大學教授理學博士柴田雄次に同タカ(同三一、四

生、東京府立第三高等女學校出身)は法學士三菱會社員鈴木康道に嫁せり(當分守宅)東京、四谷、須賀町二四)

參照―柴田雄次、安宿安川第五郎の項

杉本五十鈴 古河鑛業(株)取締役、古河(名)理事、東京府在籍

妻 增子 明二〇、一二生、東京、士、能勢津二妹

男 鐵一 明四一、一一生

女 摩耶子 明四四、九生

君は福島縣士族吉田扶の四男にして田村於兎の實兄なり明治九年一月を以て生れ同二十八年杉本正德の養子となり同四十五年分家して一家を創立す同三十四年東京帝國大學工科大學採鑛冶金科を卒業し農商務省鑛山監督署技師農商務技師に歷任す大正二年古河鑛業會社に入り巢鴨にて現に重役の椅子を占む家族は尙二女三春子(大三、二生)三女寧子(同六、一二生)四女純子(同一一、八生)三男錦三(同一四、二生)あり(東京、四谷、北伊賀町三六電四谷三四〇五)

參照―田村於兎の項

杉本市郎兵衞 滋賀縣多額納稅者、柳屋、製絲業 滋賀縣在籍

養母 あい 慶應元、一生、滋賀、古川新助長女

妻 レヲ 明二三、一生、滋賀、伊東清兵衞二女

男 一郎 明四〇、一二生

君は滋賀縣人小林金珞の弟にして明治十四年九月を以て生れ同四十年先代市郎兵衞の養子となり大正四年家督を相續し前名勝三郎を改む柳屋と稱し製絲業を營み滋賀縣多額納稅者たり(滋賀、滋賀、石山村電二)

杉本卯之助 白墨商 大阪府在籍

男 卯三郎 大六、九生

君は大阪府人六角ムメの男にして明治二十二年十月を以て生れ先代卯之助の養子となり大正八年家督相續と共に襲名して前名卯一郎を改む白墨商を營む家族は尙長女せい(大九、八生)あり(大阪、浪速、敷津町一〇〇一電戎一〇一九)

杉本榮助 木綿商 大阪府在籍

男 誠三 明三四、六生

女 芳子 明三九、一二生

女 季子 大二、一二生

君は大阪府人杉本新藏の長男にして明治二年十二月を以て生れ同十九年家督を相續す木綿商を營む家族は尙二男公三(明四二、六生)あり長女ひで(同二九、三生)と共に弟幸次郎(同一四、四生)は其妻桧榮(同二一、七生)女みつ(同三二、四生)は京都府士族佐藤安徵第三の養子となり二男公三(明四二、六生)あり長女ひで(同二九、三生)は尙家し妹ハル(同八、六生)は同夫谷遠(同七、四生)は其妻桧榮(同二一、七生)女みつ(同三二、四生)は京都府士族佐藤安徵第三の養子となり二男公三(明四二、六生)あり長女ひで(同二九、三生)と共に弟幸次郎(同一四、四生)を伴ひ各分家し四女あい(同四生、大阪、吉野あさ姉)を伴ひ分家し四女あい(同四、六生)は京都府士族佐藤安徵第三の養子となり二女みつ(同三二、四生)(大阪、東、南久寶寺町二ノ四四電船場九二一八)

參照―杉本谷造の項

杉本喜代松 勳七等、南海銀行(株)常務取締役、新宮合同銀行、新宮撚材、新宮鐵道各(株)取締役、和歌山縣在籍

明三八、一生

明四〇、一〇生、新宮高等女學校在學

明四四、五生、新宮高等女學校在學

君は和歌山縣人杉本和市の長男にして明治六年八月を以て生れ同四十年先代市郎兵衞の養子となり大正四年家督を相續し前名勝三郎を改む柳屋と稱し製絲業を營み滋賀縣多額納稅者たり(滋賀、滋賀、石山村電二)

杉本卯之助 白墨商 大阪府在籍

男 卯三郎 大六、九生

君は大阪府人六角ムメの男にして明治二十二年十月を以て生れ先代卯之助の養子となり大正八年家督相續と共に襲名して前名卯一郎を改む白墨商を營む家族は尙長女せい(大九、八生)あり(大阪、浪速、敷津町一〇〇一電戎一〇一九)

杉本榮助 木綿商 大阪府在籍

妻 きく 明七、一〇生、大阪、柳田庄助二女

男 誠三 明三四、六生

女 芳子 明三九、一二生

女 季子 大二、一二生

君は大阪府人杉本新藏の長男にして明治二年十二月を以て生れ同十九年家督を相續す木綿商を營む家族は尙二男公三(明四二、六生)あり長女ひで(同二九、三生)と共に弟幸次郎(同一四、四生)は其妻桧榮(同二一、七生)女みつ(同三二、四生)は京都府士族佐藤安徵第三の養子となり二男公三(明四二、六生)あり長女ひで(同二九、三生)と共に弟幸次郎(同一四、四生)を伴ひ各分家し四女あい(同四生、大阪、吉野あさ姉)を伴ひ分家し四女あい(同四、六生)は京都府士族佐藤安徵第三の養子となり二女みつ(同三二、四生)(大阪、東、南久寶寺町二ノ四四電船場九二一八)

參照―杉本谷造の項

杉本喜代松 勳七等、南海銀行(株)常務取締役、新宮合同銀行、新宮撚材、新宮鐵道各(株)取締役、和歌山縣在籍

男 義夫 明三八、一生

女 きみ 明四〇、一〇生、新宮高等女學校在學

女 榮 明四四、五生、新宮高等女學校在學

君は和歌山縣人杉本和市の長男にして明治六年八月を以て生れ同三十一年家督を相續す代々木材問屋にして同營業の傍ら前掲銀行會社の重役たり夫人杉本新藏の長男にして明治二年十二月を以て生れ同十九年家督を相續す木綿商を營む家族は尙二男公三(明四二、六生)あり長女ひで(同二九、三生)と共に弟幸次郎(同一四、四生)は其妻桧榮(同二一、七生)女みつ(同三二、四生)は京都府士族佐藤安徵第三の養子となり二女みつ(同三二、四生)(大阪、東、南久寶寺町二ノ四四電船場九二一八)

參照―杉本谷造の項

杉本喜代松 勳七等、南海銀行(株)常務取締役、新宮合同銀行、新宮撚材、新宮鐵道各(株)取締役、和歌山縣在籍

男 義夫 明三八、一生

女 きみ 明四〇、一〇生、新宮高等女學校在學

女 榮 明四四、五生、新宮高等女學校在學

君は和歌山縣人杉本和市の長男にして明治六年八月を以て生れ同三十一年家督を相續す代々木材問屋にして同營業の傍ら前掲銀行會社の重役たり夫人杉本新藏の長男にして明治二年十二月を以て生れ同十九年家督を相續す木綿商を營む家族は尙二男公三(明四二、六生)あり長女ひで(同二九、三生)と共に弟幸次郎(同一四、四生)は其妻桧榮(同二一、七生)女みつ(同三二、四生)は京都府士族佐藤安徵第三の養子となり二女みつ(同三二、四生)(大阪、東、南久寶寺町二ノ四四電船場九二一八)

參照―杉本谷造の項

杉本九八郎 各(株)取締役、富山縣在籍

妻 せん 明一、一〇生、東京、安川かつ叔母

養子 七生 明四三、八生、富山、吉野七次郎五男

君は富山縣人杉本吉平の二男にして明治九年十二月を以て生れ同十一年絕家杉本九八郎の家籍を再興す現時

前記諸會社の重役たり(東京、赤坂、青山高樹町一二電青山一二六五)

杉本重吉 京都府多額納稅者、製茶業 京都府在籍

妻 ちか 明一五、三生、京都、片山正中長女

男 忠太郎 明三三、三生

女 アヤ 明三五、一生

男 良吉 明三七、二生

男 東次 明四〇、九生

君は京都府人杉本新左衞門の弟にして明治八年十一月を以て生れ大正七年分家して一家を創立す製茶業を營み同府多額納稅者たり家族は尙五男潤吉(明四三、七生)二女レイ(大六、六生)三女マチ(同一〇、一〇生)あり三男武之助(明三九、六生)は京都府人竹花タツの養子となれり(京都、下京、綾小路通新町西入矢田町一二三電下三三六一)

參照―杉本新左衞門の項

杉本眞太郎 鐵工業 京都府在籍

妻 リヨ 明一六、五生、京都、田中安治郎長女

男 眞一 明三七、九生

女 しげ 明四〇、五生

君は京都府人杉本傳治郎の長男にして明治十八年八月を以て生れ同三十九年家督を相續す鐵工業を營む家族は尙弟重三(明一九、九生)同妻しな(同二四、八生、京都、杉森榮吉長女)と其二男三女及同新太郎(同二八九生)あり同德三(同一五、一一生)は其妻てい(同二〇、四生、京都、瀧野喜八郎二女)と共に其三男二女を伴ひ分家し同貞三(同三六、七生)は京都府人松田松之助に妹菊枝(同三一、一〇生)は兵庫縣人金子安太郎に各養子となれり(京都、上京、麩屋町通丸太町下ル舟屋町四三二電上五八六)

杉本新左衞門 京都府多額納稅者、三丘園、茶商 京都府在籍

妻 たつ 明一一、二生、愛知、岡田良右衞門二女

養子 みき 明四〇、二生、愛知、岡田良右衞門五女

君は京都府人杉本爲七の長男にして明治六年八月を以て生れ先代新左衛門の養子となり同十六年家督を相續し後襲名して前名爲一を改む三丘國と稱し茶商を營み京都府多額納稅者たり實弟重吉(明八、一一生)は分家せり(京都、下京、綾小路通新町西入**電下七二三**)

參照―岡田良右衛門、杉本重吉宗生田治助宗岡田德右衛門の項

杉本新兵衛　呉服商、金融業　大阪府在籍

明一〇、一〇生、大阪、富田藤五郎長女　カウ

大二、一〇生、大阪、井上平兵衛五女　喜久子

君は大阪府人西村利八の二男にして明治九年六月を以て生れ同三十二年先代新兵衛の養子となり後家督を相續し前名譽吉を改め襲名す呉服商及金融業を營む家族は尚叔母ひさ(慶應二、一生)あり(大阪、南、内安堂寺町二ノ五七**電東二三五二**)

杉本甚藏　三井物産(株)受渡掛長　神奈川縣在籍

男　凡平　明四一、四生、フエリス高等女學校出身　女　惠卒子

君は京都府人杉本伊右衛門の二男にして明治十年三月を以て生れ大正九年家督を相續す蟇に大藏省稅關鑑定官補に任ぜられ明治四十年三井物産會社に入り營業部員横濱船積取扱所高雄出張所長を經て現に本店受渡掛長たり家族は尚二女千代子(大四、三生)三女操(生年月同上)二男匡平(同一〇、二生)四女澁路(同一二、二生)あり妹さと(明二八、一一生)は東京府人星野壽に同ゆくゑ(同三七、二生)は兵庫縣人大沼明に嫁せり(横濱、神奈川、青木町一五三四**電本局三一四六**)

杉本杉松　機械商　大阪府在籍

妻　幸　明六、一〇生、東京、石川傳養子　男　貞一　明二五、七生　婿　琴　明三七、一生、長男貞一妻、東京淺邊直吉三女

君は福井縣人杉本多平の弟にして文久三年十一月を以て生れ明治二十五年分れて一家を創立す機械商を營む家族は尚三男亥三郎(明四四、五生)孫隆平(大一一、一生)同嘉雄(同一二、五生、同二男)同善三郎(昭二、一生、同三男)あり三女孝(明三五、一二生)は大阪府人本間鎭四郎に嫁せり(大阪、西、立賣堀北通六ノ四**電新町九七五**)

杉本大治郎　文房具商　靜岡縣在籍

母　くま　明元、一〇生、靜岡、大橋甚平三女　妻　駒子　明二七、一二生、東京、横山砂長女　男　銳一　大元、九生　女　照香　明四四、二生　女　喜久　大二、一〇生

君は靜岡縣人杉本徹道の長男にして明治二十年一月を以て生れ同三十二年家督を相續す文房具商を營む家族は尚叔母ひさ(慶應二、一生)あり(靜岡市呉服町二ノ五七**電東二三五二**)

杉本卓馬　愛媛縣多額納稅者、農業　愛媛縣在籍

母　てい　明元、五生、養父傳吉養子、愛媛田中信廉長女　妻　テイ　明二、一生、養子梅子夫、愛媛、清家義明弟　養子　勉　明三四、一生、養子勉妻、愛媛、田中卓一三女　女　惠卒子

君は愛媛縣人清家與十郎の二男にして明治五年七月を以て生れ後ち先代傳吉の養子となり同四十四年家督を相續す農業を營み同縣多額納稅者たり家族は尚孫傳藏(大八、一一生、養子勉長男)同惠(同一一、同三男)あり(愛媛、北宇和郡横林村)

杉本谷造　天満屋、木綿太物商　大阪府在籍

妻　ハル　明八、六生、大阪、杉本榮助妹　男　健三　明四二、六生　女　知惠　明三三、六生　女　幸　明三五、九生　女　美知　明四五、一生　女　英子　大二、二生

君は滋賀縣人磯島晉次郎の二男にして杉本榮助の養弟なり明治七年四月を以て生れ後杉本新藏の養子となり同三十七年分れて一家を創立す天満屋と稱し木綿太物商を營む(大阪、東、南本町二ノ二二**電船場二九五二**)

參照―杉本榮助の項

杉本爲治郎　繭助足袋(株)取締役　大阪府在籍

妻　てる　明一三、一〇生、大阪、泉谷米女　男　彦門　大元、九生　女　操　明四〇、二生　女　科子　明四二、一一生

君は大阪府人杉本彦助の長男にして明治十三年十一月を以て生れ同三十二年家督を相續す現時繭助足袋會社取締役たり家族は尚三女貴美子(大四、七生)四女寛代子(明七、八生)二男裕夫(同一〇、六生)あり弟富次郎(明一九、七生)は同妻よしゑ(同二五、一二生、和歌山、楠川善之助三女)を伴ひ分家し妹ミツ(同二三、一二生)は大阪府人村田豐に同ひさ(同三一、六生)は京都府人比賀江金藏に嫁せり(堺、寺地町二ノ二二)

參照―村田豐の項

杉本鶴五郎　東京府多額納稅者、杉本(名)代表社員、龜屋洋酒食料品商　東京府在籍

養母　りん　嘉永三、一二生、和歌山、士、石川造酒長女　妻　のぶ　明一二、一二生、養父鶴五郎二女　男　龜造　明三〇、一二生、慶應義塾大學出身　婿　常子　明三六、一生、長男龜造妻、東京三枝代三郎五女、東京女學館出身　男　鶴次郎　明四四、一生

當家は先々代龜五郎越中の農家より出でゝ東京に來り龜屋と稱して船來小間物商を營みしに始まる先代鶴五郎父の業を繼ぎ精勵恪勤店舗を銀座に移し業務大に振ふ君は千葉縣人酒巻長藏の三男にして明治三年十二月を以て生れ少時より當家の店員となり其爲人を認められて養子となり同四十一年家督を相續して前名新藏を改む家業を繼承し洋酒食料品商を營み杉本合名會社代表社員にして東京府多額納稅者たり蟇に歐米を視察し近年父青森縣下に殖産事業を經營せり家族は尚孫幸子

(大二三、一一生、長男龜造長女)あり(東京、京橋、竹川町一**電銀座七七二**)

參照―三枝代三郎宗三枝彦太郎宗淺田長右衛門の項

杉本時三郎　從四位勳三等、檢事、鹿兒島地方裁判所檢事正、愛知縣在籍

母　うたの　弘化元、二生、愛知、掛塗長三郎長女　妻　みわ　明一七、一〇生、愛知、士、近藤壽太郎長女　男　元　明三七、八生　女　淑子　明四一、一生

君は愛知縣人杉本新之右衛門の長男にして明治二年四月を以て生れ同二十八年家督を相續す同二十四年東京專門學校を卒業し判檢事登用試驗に合格す同二十九年檢事に任じ爾來長崎區大分區同地方名古屋地方東京地方橫濱地方各裁判所檢事名古屋控訴院檢事富山地方裁判所檢事正名古屋控訴院檢事前橋函館各地方裁判所檢事正に歷補し大正十三年現職鹿兒島地方裁判所檢事正に補せらる家族は尚二男勇(明四四、二生)三女式子(大三、五生)五女裕子(同一三、一生)あり妹ゑい(明九、九生)は岐阜縣士族神谷道一六男凱藏に同みさを(同一八、二生)は群馬縣人中島九八郎に嫁し第武義(同一五、八生)は愛知縣人森田鉦三郎の養子となれり(鹿兒島地方裁判所官舍)

參照―中島九八郎の項

杉本德次郎　精練業　京都府在籍

妻　ヌイ　明六、一生、京都、野洲新藏長女　男　德三郎　明七、四生　孫　テイ　明三二、七生、長男德三郎二女　孫　スエ　明三五、七生、長男德三郎三女　孫　文造　明三九、四生、長男德三郎長男　孫　マサ　明四二、一生、長男德三郎四女

君は京都府人杉本宗兵衛の二男にして嘉永六年三月を以て生れ明治七年分れて一家を創立す精練業を營む家族は尚孫真一(明四四、一生、長男德三郎二男)及曾孫茂(大一五、一〇生、孫テイ、私生子)あり長女ハル(明九、一二生)四男與一郎(同二六、三生)七男九一郎(同四〇、一一生)は各分家せり(京都、上京、衣棚通丸太町上ル**電上三九一三**)

杉本直寛　東京乘合自動車(株)常務取締役、東京實用自動車(株)監査役　石川縣在籍

妻　カツ　明一二、六生、埼玉、石川豐吉妹　養子　登大一三、九生、東京、高橋靜雄二男

君は石川縣人杉本宗寛の長男にして明治六年十一月を以て生れ同十九年家督を相續す現時前記會社の重役として知らるる家族は尚妹繁喜(明一三、八生)あり(東京、下谷、谷中清水町一四**電下谷四五五一**)

杉本孫七　ハンカチーフ商　大阪府在籍

妻　トク　明三二、一二生、和歌山、大濱繁吉二女

君は和歌山縣人杉本千代吉の弟にして明治二十六年七月を以て生れ同十五年分家して一家を創立すハンカチーフ商を營む家族は尚庶子吉造(大一五、六生、生母、和歌山、士、東、十二軒町九**電東三三〇七**)

杉本正幸　東京府農工銀行(株)取締役　北海道士族

母　マキ　嘉永四、一一生、鳥取、夏井直藏長女　妻　まさ　明三六、一一生、靜岡、小川隆三二女　男　正暉　大一四、一生

君は北海道士族杉本勝治の二男にして明治二十年七月を以て生れ同四十年家督を相續す同四十一年日本大學を卒業し現に東京府農工銀行取締役たり家族は尚長女慶子(大八、一一生)あり(東京市外代々幡町代々木山谷一七六〇)

杉本義夫　大日本商事(株)專務取締役、朝日酒類(株)取締役、帶谷傳三郎商店(株)鑑査役、海魚問屋業　大阪府在籍

明元、一生、養母ウタ孫　妻　シナ　明二一、一二生、五女アサ夫、京都、樂吉左衛門二男　養子　惣治郎　明二七、一〇生、養子惣治郎妻　女　アサヲ　明二二、一一生　女　カツヲ　明三三、一一生

杉本又三郎　酒類問屋業　大阪府在籍

祖父　善六　天保一三、九生　祖母　むめ　天保一四、一二生、鳥取、岩井嘉次長女　妻　まつの　明二五、六生、鳥取、小椋岩吉長女　女　律子　明四四、九生　女　靜枝　大二、一〇生

君は鳥取縣人杉本松太郎の長男にして明治二十四年四月を以て生れ大正三年家督を相續す農業を營み同縣多

君は大阪府人酒井猪太郎の弟にして慶應元年十二月を以て生れ明治二十五年先代ウタの養子となり家督を相續す帶谷傳三郎はその養弟なり魚類商を營み現時前掲諸會社の重役たり蟇に大阪府會議員同議長等に擧げらるる家族は尚孫文一(大一三、四生、養子惣治郎長男)同常次(同一五、二生、同二男)あり長女マス(明一七、六生、梅田高等女學校出身)は大阪府人井上藤三郎に二女ヤス(同一九、一二生、日本女子大學校家政科出身)は京都府士族野田鶴雄弟道三に嫁し養弟久太郎(同四、一二生)は分家せり(大阪、西、江戸堀南通五ノ一四ノ二**電土佐堀一九九〇**)

參照―帶谷傳三郎、野田鶴雄宗樋口六左衛門の項

杉本茂兵衛　中茂商店、味噌商　愛知縣在籍

養父　惣兵衛　嘉永六、一〇生　妻　はま　明九、一生、養父惣兵衛長女　男　龜彦　明三〇、九生　婿　井久　明三七、三生、長男龜彦妻、愛知、野々部辰次郎二女　男　忠彦　明三三、七生　男　茂子　明四一、八生　女　大二、一生

君は愛知縣人佐藤晉太郎の弟にして明治七年三月を以て生れ先代惣兵衛の養子となり大正二年家督相續と共に前名龜次郎を改む中茂商店と稱し味噌商として知らるる家族は尚四女澄(大六、一〇生)あり三男孝藏(明三五、八生)は愛知縣人村上友右衛門の養子となり長女政子(同三九、二生)は同縣人角田銀彦に嫁せり(名古屋、西、堀詰町二ノ一〇**電西二〇五七**)

杉本義夫　鳥取縣多額納稅者、農業　鳥取縣在籍

祖父　善六　天保一三、九生　祖母　むめ　天保一四、一二生、鳥取、岩井嘉次長女　妻　まつの　明二五、六生、鳥取、小椋岩吉長女　女　律子　明四四、九生　女　靜枝　大二、一〇生

君は鳥取縣人杉本松太郎の長男にして明治二十四年四月を以て生れ大正三年家督を相續す農業を營み同縣多

額納稅者たり家族は尙三女邦子(大七、八生)あり妹晻子(明三五、二生)は分家し母とめ(同一五、九生、鳥取、萬治豐四郎三女)は其家籍に入れり(鳥取、東伯、高城村)

杉本義一

養母　ヒサ
妻　喜代
男　義雄
男　榮
男　豐人
男　彰
男　進
女　益
女　美

従四位勳四等、判事、中津區裁判所判事中津區裁判所監督島根縣士族
安政元、正生、島根、小川國藏長女
明九、一二生、養父忠義長女
明三四、四生
明三六、一一生
明三八、一生
明四二、七生
明四四、九生

君は島根縣人柳川義成の二男にして明治五年七月を以て生れ後先代忠義の養子となり同三十六年家督を相續し同二十七年明治法律學校を卒業し判檢事登用試驗並に辯護士試驗に合格し同三十三年判事に任じ爾來宇和島區廣島區同地方濱田區益田區各裁判所判事廣島控訴院判事尾道區裁判所判事同監督に歷補し大正六年現職中津區裁判所判事同監督に補せらるる家族は尙六男公爾(大二、一二生)あり長女愛(明三二、一生)は廣島縣人落久保牛一に二女文(同三三、四生)は島根縣人高澤秀武に嫁せり(大分、下毛、中津町區裁判所官舍)

杉本義朗

妻　郁
男　俊朗
女　直子

從五位勳六等、南武鐵道(株)專務取締役、靜岡縣在籍
明二五、一生、澤田保吉長女
大二、一〇生
明四三、四生

君は靜岡縣人杉本權兵衞の三男にして明治十四年六月を以て生れ同四十二年分家して一家を創立す同四十一年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し更に文官高等試驗に合格す次いで米國に留學し歸朝後帝國鐵道廳に入り同主事となり鐵道院副參事同參事鐵道省參事を歷任し監督局業務課長に補せらるる現時南武鐵道會社專務取締役たり家族は尙二女信子(大四、一一生)二男次郎(同七、一生)あり(東京市外大井町五一六四)

杉本良

父　九藏
母　てふ
妻　岡枝
男　周造

從五位勳四等、臺灣總督府專賣局參事兼臺灣總督府事務官
靜岡縣在籍
安政六、五生、現戶主
安政六、一一生、靜岡、鈴木文六二女
明三一、九生、東京、伊部直光長女
大一〇、三生

君は靜岡縣人杉本九藏の二男にして明治二十年九月を以て生る大正元年文官高等試驗に合格し同二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し朝鮮總督府試補同府事務官を經て同九年臺灣總督府專賣局事務官に轉じ尋いで同局參事に遊み歐米各國に出張す歸朝後昭和二年臺灣總督府事務官を兼任し現に殖產局特產課勤務たり家族は尙長女和子(大七、九生)二女友子(同八、二生)美(明二六、二生、靜岡、安松宇吉孫)は靜岡縣人杉本九藏の養女となり同三四、五生)は同縣人杉本權兵衞二女文(同三三、四生)は島根縣人高澤秀武に嫁せり(大分、下毛、中津町裁判所官舍)

杉本義朗

妻　郁
男　俊朗
女　直子

從五位勳六等、南武鐵道(株)專務取締役、靜岡縣在籍
明二五、一生、澤田保吉長女
大二、一〇生
明四三、四生

君は靜岡縣人杉本權兵衞の三男にして明治十四年六月を以て生れ同四十二年分家して一家を創立す同四十一年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し更に文官高等試驗に合格す次いで米國に留學し歸朝後帝國鐵道廳に入り同主事となり鐵道院副參事同參事鐵道省參事を歷任し監督局業務課長に補せらるる現時南武鐵道會社專務取締役たり家族は尙二女信子(大四、一一生)二男次郎(同七、一生)あり(東京市外大井町五一六四)

杉森次助

妻　かの
男　光治
婦　はつる
男　次一
女　百合子

能州銀行(株)副頭取
石川縣在籍
明元、一生、石川、高森權左衞門二女
明二九、七生
明三四、九生、長男光治妻、石川、山田與三松孫
明三二、六生
大元、一〇生

君は石川縣人先代次助の長男にして文久元年八月を以て生れ明治二十一年家督を相續し前名助松を改め襲名す現時能州銀行副頭取たり家族は尙孫光子(大七、一生、同四女)あり(東京市外大井町五一六四)

杉森宅次郎

父　九藏
母　てふ
妻　岡枝
男　周造

參照—杉森宅次郎の項

杉森次助

妻　かの
男　光治
婦　はつる
男　次一
女　百合子

能州銀行(株)常務取締役
石川縣在籍
明元、一生、石川、高森權左衞門二女
明二九、七生
明三四、九生、長男光治妻、石川、山田與三松孫
明三二、六生
大元、一〇生

君は石川縣人先代次助の長男にして文久元年八月を以て生れ明治二十一年家督を相續し前名助松を改め襲名す現時能州銀行副頭取たり家族は尙孫光子(大七、一生、同四女)あり(東京市外大井町五一六四)

杉森宅次郎

父　九藏
母　てふ
妻　岡枝
男　周造

能州銀行(株)常務取締役
石川縣在籍
安政六、五生、現戶主
安政六、一一生、靜岡、鈴木文六二女
明三一、九生、東京、伊部直光長女
大一〇、三生

君は靜岡縣人杉本九藏の二男にして明治二十年九月を以て生る大正元年文官高等試驗に合格し同二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し朝鮮總督府試補同府事務官を經て同九年臺灣總督府專賣局事務官に轉じ尋いで同局參事に遊み歐米各國に出張す歸朝後昭和二年臺灣總督府事務官を兼任し現に殖產局特產課勤務たり家族は尙長女和子(大七、九生)二女友子(同八、二生、靜岡、安松宇吉孫)は靜岡縣人杉本九藏の養女となり同三四、五生)は同縣人杉本權兵衞二女文(同三三、四生)は島根縣人高澤秀武に嫁せり(大分、下毛、中津町裁判所官舍)

杉森要之助

妻　くもゑ
男　義雄

鹿島銀行(株)常務取締役
石川縣在籍
明三〇、一生
明三二、三生、二男義雄妻、石川、森井益太郎四女

君は石川縣人杉森漆平の長男にして慶應元年十二月を以て生れ大正七年家督を相續し現時鹿島銀行常務取締役たり家族は尙男秀雄(大六、一二生)孫よし(同六、六生、二男義雄長女)同ふみ(同九、二生、同二女)同可壽子(同一二、一生、同三女)妹きく(明八、九生)あり五男亮(大四、七生)は石川縣人杉森朝一の養子となり妹はる(明七、三生)は同縣人佐竹彌八郎に嫁せり(石川、鹿島、德田村)

參照—佐竹彌八郎の項

杉森要之助

妻　くもゑ
男　義雄
女　きみ
女　千代

鹿島銀行(株)常務取締役
石川縣在籍
明三〇、一生
明三二、三生、二男義雄妻、石川、森井益太郎四女
明四二、一生

君は石川縣人杉森漆平の長男にして慶應元年十二月を以て生れ大正七年家督を相續し現時鹿島銀行常務取締役たり家族は尙男秀雄(大六、一二生)孫よし(同六、六生、二男義雄長女)同ふみ(同九、二生、同二女)同可壽子(同一二、一生、同三女)妹きく(明八、九生)あり五男亮(大四、七生)は石川縣人杉森朝一の養子となり妹はる(明七、三生)は同縣人佐竹彌八郎に嫁せり(石川、鹿島、德田村)

參照—佐竹彌八郎の項

杉山岩三郎

妻　コウ
男　幸雄
女　茂野
女　セイ子

從三位勳三等、第五高等學校名譽教授、愛媛縣士族
明六、一二生、愛媛、士、加藤正之長女
大四、八生
明三二、二生
大二、三生

養子となれり(石川、鹿島、田鶴濱村)

參照—杉森宅次郎の項

杉森宅次郎

父　九藏
母　てふ
妻　岡枝
男　周造

靜岡縣在籍
石川縣在籍
明九、一生、石川、新井彌右衞門長女
明二八、五生
明三六、二生、長男眞佐治妻、石川、雲井庄太郎六女
明四一、一〇生

君は靜岡縣人杉本九藏の二男にして明治二十年九月を以て生る大正元年文官高等試驗に合格し同二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し朝鮮總督府試補同府事務官を經て同九年臺灣總督府專賣局事務官に轉じ尋いで同局參事に遊み歐米各國に出張す歸朝後昭和二年臺灣總督府事務官を兼任し現に殖產局特產課勤務たり家族は尙長女和子(大七、九生)二女友子(同八、二生、靜岡、安松宇吉孫)は靜岡縣人杉本九藏の養女となり同三四、五生)は同縣人杉本權兵衞二女文(同三三、四生)は島根縣人高澤秀武に嫁せり(大分、下毛、中津町裁判所官舍)

杉森宅次郎

父　九藏
母　てふ
妻　岡枝
男　周造

靜岡縣在籍
石川縣在籍
安政六、五生、現戶主
安政六、一一生、靜岡、鈴木文六二女
明三一、九生、東京、伊部直光長女
大一〇、三生

君は靜岡縣人杉本九藏の二男にして明治二十年九月を以て生る大正元年文官高等試驗に合格し同二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し朝鮮總督府試補同府事務官を經て同九年臺灣總督府專賣局事務官に轉じ尋いで同局參事に遊み歐米各國に出張す歸朝後昭和二年臺灣總督府事務官を兼任し現に殖產局特產課勤務たり家族は尙長女和子(大七、九生)二女友子(同八、二生、靜岡、安松宇吉孫)は靜岡縣人杉本九藏の養女となり同三四、五生)は同縣人杉本權兵衞二女文(同三三、四生)は島根縣人高澤秀武に嫁せり(大分、下毛、中津町裁判所官舍)

杉森宅次郎

妻　やい
男　眞佐治
婦　はる
男　愃兵

龍州銀行(株)常務取締役
石川縣在籍
明九、一生、石川、新井彌右衞門長女
明二八、五生
明三六、二生、長男眞佐治妻、石川、雲井庄太郎六女
明四一、一〇生

君は石川縣人杉森次助の弟にして明治三年十月を以て生れ同二十四年分家して一家を創立す現時龍州銀行常務取締役たり家族は尙孫三治(大一三、一生、長男眞佐治三男)あり二男公平(明三一、八生)は石川縣人村井初得の入夫となり二女操(同三三、三生)は同縣人大塚安次に嫁せり(石川、鹿島、田鶴濱村)

參照—杉森次助の項

杉森要之助

妻　くもゑ
男　義雄
女　きみ
女　千代

鹿島銀行(株)常務取締役
石川縣在籍
明三〇、一生
明三二、三生、二男義雄妻、石川、森井益太郎四女
明四二、一生

君は石川縣人杉森漆平の長男にして慶應元年十二月を以て生れ大正七年家督を相續し現時鹿島銀行常務取締役たり家族は尙男秀雄(大六、一二生)孫よし(同六、六生、二男義雄長女)同ふみ(同九、二生、同二女)同可壽子(同一二、一生、同三女)妹きく(明八、九生)あり五男亮(大四、七生)は石川縣人杉森朝一の養子となり妹はる(明七、三生)は同縣人佐竹彌八郎に嫁せり(石川、鹿島、德田村)

參照—佐竹彌八郎の項

杉山岩三郎

妻　コウ
男　幸雄
女　茂野
女　セイ子

從三位勳三等、第五高等學校名譽教授、愛媛縣士族
明六、一二生、愛媛、士、加藤正之長女
大四、八生
明三二、二生
大二、三生

君は愛媛縣人森川又八の三男にして文久二年十一月を以て生れ同縣士族杉山吉光の養子となり明治二十九年家督を相續す同二十三年帝國大學理科大學數學科を卒業し現に第五高等學校名譽教授たり(大阪、住吉、住吉町七六八)

杉山岩三郎

母　利
妻　都
養母

中國鐵道(株)社長、岡山疏村(株)取締役、興亞起業(株)監査役
岡山縣士族
明二、一一生、岡山、猪木雄一郎長女
明二八、四生、兵庫、荒木重太郎

君は岡山縣士族先代岩三郎の孫にして明治二十三年四月を以て生れ大正二年家督を相續し前名文太郎を改め襲名す大正七年京都帝國大學法科大學政治經濟科を卒業し現時中國鐵道會社々長外前記諸會社の重役たり家族は尙長女美都(大六、三生)二女千鶴子(同八、九生)三女吉美子(同一〇、八生)四女尙子(同一四年生)第三郎(明二八、一一生)同妻貞(同三六、三生、東京、崎川才四郎長女)及其一女第四郎(同三七、六生)同五郎(同三九、九生)あり妹孝(同三一、一一生)は東京府人榎本重治に同時(同三二、一一生)は兵庫縣人荒木重義に嫁し叔父米次郎(同八、三生)は岡山縣人山田春の養子となり叔母啓(同三、一二生)は同夫孝平(文久二、三生、岡山、牧野琢磨弟)と共に分家せり(岡山、西田町一七)

參照—榎本重治、崎川才四郎、杉山幸平※崎川茂太郎の項

杉山喜三郎

妻　ヌイ
男　嘉一
女　貞子

莫大小商
大阪府在籍
明一一生、大阪、奥田リキ三女
明三二、五生
明四一、三生、プール女學校出身

君は大阪府人先代喜三郎の二男にして明治八年一月を以て生れ同三十三年家督を相續し前名源之助を改め襲名す雜業肥料問屋業を廢し莫大小商に轉じ今日に及ぶ家族は尙孫弘子(大一三、一一生、長男嘉一長女)同周子(同一四、一一生、同二女)同富子(昭二、一生、同三女)の外妹トヨ(明一八、七生)あり弟喜七郎(同一七)

參照—榎本重治、崎川才四郎、杉山幸平※崎川茂太郎の項

杉山義太郎

妻　敬
男　義夫

從五位勳四等、海軍法務官、橫須賀鎭守府軍法會議法務官、橫須賀鎭守府法務長、京都府士族
明二三、五生、川村五郎長女
大二、三生

君は京都府士族松田正美の長男にして明治四年十月を以て生れ同十五年本家相續の爲杉山家に入籍し先代敬の入夫となり家督を相續す同三十九年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し司法官試補と爲り辭護士に轉じ海軍主理試補となり橫須賀軍法會議附佐世保鎭守府軍法會議を經て同十八年慶應義塾大學部政治科を卒業し曾て日本鐵業會社須賀各軍法會議附海軍機關學校教官吳鎭守府軍法會議法務官同檢察官海軍司法事務官佐世保鎭守府軍法會議法務長橫須賀鎭守府軍法會議法務官等に歷補し大正十四年轉任現時橫須賀鎭守府軍法會議法務官橫須賀鎭守府法務長東京高等軍法會議檢察官の職にあり家族は尙長女幸子(大四、九生)二男正直(同一三、二生)あり(橫須賀、中里七四海軍官舍甲第一號)

杉山義三郎

妻　コト
男　義雄
女　キミ

資產家
神奈川縣在籍
明一二、八生、神奈川、風間清次郎養子
明三九、二生
明三六、一〇生

君は神奈川縣人杉山庄平の長男にして明治十一年二月を以て生れ大正十二年家督を相續す會社員にして資產家たり家族は尙孫ハツ子(大一五、九生、長女キミ照子(同一四、一一生、同二女)同富子(昭二、一生、同三女)の外妹トヨ(明一八、七生)あり弟喜七郎(同一

君は神奈川縣人杉山悅藏の兄にして明治十一年四月を以て生れ同二十七年家督を相續す砂糖商を營み現時神奈川縣會議員橫濱商工會議所議員にして神奈川縣多額納稅者たり家族は尙孫久江(大一三、一生、長男久一郎長女)同盛太郎(同一四、六生、同長男)弟悅藏(明一三、一生)同妻もと(神奈川、金澤藏一郎妹)及其一子あり(橫濱、中、花咲町一ノ一九電長崎町一二五〇)

杉山小兵衞

養子　民治郎

隆盛堂、胸病丸本舖、製藥業
大阪府在籍
明一八、一〇生、大阪、青木忠兵衞弟

二、四生)は同妻まさ(同一二、二生、大阪、島治三郎二女)を伴ひ明耕三郎(同一四、二生、亡養兄耕造長男)は同妻ユキエ(同二、九生、香川、上西宇吉妹)及一男一女を伴ひ分家し同健三郎(同一七、一二生、同喜藏、同七、四生、姉さの長男)も亦夫々分家し長女きぬ(同三五、一生)は大阪府人濱野宗次郎長男男利次に妹はる(同一四、二生)は大阪府人寺田嘉兵衞長男嘉三郎に同きさ(同一六、九生)は同府人今津十郎に同きく(同一六、九生)は同府人今(大阪、西、西道頓堀通五ノ六六電櫻川一六七七)

參照—島治三郎の項

杉山義太郎

妻　敬
男　義夫

從五位勳四等、海軍法務官、橫須賀鎭守府軍法會議法務官、橫須賀鎭守府法務長、京都府士族
明二三、五生、川村五郎長女
大二、三生

君は京都府士族松田正美の長男にして明治四年十月を以て生れ同十五年本家相續の爲杉山家に入籍し先代敬の入夫となり家督を相續す同三十九年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し司法官試補と爲り辭護士に轉じ海軍主理試補となり橫須賀軍法會議附佐世保鎭守府軍法會議を經て同十八年慶應義塾大學部政治科を卒業し曾て日本鐵業會社須賀各軍法會議附海軍機關學校教官吳鎭守府軍法會議法務官同檢察官海軍司法事務官佐世保鎭守府軍法會議法務長橫須賀鎭守府軍法會議法務官等に歷補し大正十四年轉任現時橫須賀鎭守府軍法會議法務官橫須賀鎭守府法務長東京高等軍法會議檢察官の職にあり家族は尙長女幸子(大四、九生)二男正直(同一三、二生)あり(橫須賀、中里七四海軍官舍甲第一號)

杉山金太郎

妻　チヨ
男　元太郎
女　

豐年製油(株)社長
和歌山縣在籍
明一五、二生、神奈川、市川元八長女
大七、一二生

君は和歌山縣人杉山元右衞門の長男にして明治八年九月を以て生れ大正二年家督を相續す先是明治二十七年大阪高等商業學校を卒業し現時豐年製油會社々長たり家族は尙弟元治(明一六、二生)同妻靜子(同三五、六生、和歌山、山口福之助二女)及び其二女同良一(同二七、五生)同元信(同三一、四生)あり(東京市外大井町四八五四電大森五五六)

杉山謙造

妻　シゲ
男　久一郎
婦　光江

神奈川縣多額納稅者、神奈川縣會議員、橫濱商工會議所議員、砂糖商、神奈川縣在籍
明二六、一生、神奈川、杉山龜吉三女
明三六、五生
明三七、三生、長男久一郎妻、神奈川、長島漸作孫

杉山儀三郎

妻　コト
男　義雄
女　キミ

資產家
神奈川縣在籍
明一二、八生、神奈川、風間清次郎養子
明三九、二生
明三六、一〇生

君は神奈川縣人杉山庄平の長男にして明治十一年二月を以て生れ大正十二年家督を相續す會社員にして資產家たり家族は尙孫ハツ子(大一五、九生、長女キミ照子(同一四、一一生、同二女)同富子(昭二、一生、同三女)の外妹トヨ(明一八、七生)あり弟喜七郎(同一

杉山　喬

妻　きん
男　元太郎
女　

君は千葉縣人戶邊彌惣兵衞の三男にして慶應二年七月を以て生れ後杉山敎道の養子となり明治四十一年家督を相續す同十八年慶應義塾を卒業し曾て日本鐵業會社取締役たりしことあり現時前記會社の重役たり(千葉、東葛飾、市川町)

杉山謙造

妻　シゲ
男　久一郎
婦　光江

神奈川縣多額納稅者、神奈川縣會議員、橫濱商工會議所議員、砂糖商、神奈川縣在籍
明二六、一生、神奈川、杉山龜吉三女
明三六、五生
明三七、三生、長男久一郎妻、神奈川、長島漸作孫

杉山小兵衞

養子　民治郎

隆盛堂、胸病丸本舖、製藥業
大阪府在籍
明一八、一〇生、大阪、青木忠兵衞弟

を以て生る同三十八年東京帝國大學工科大學を卒業し現時前記諸會社の重役たり養に矢作開發會社取締役たり家族は岡弟嬴(明二九、七生)あり妹秀(同三一、九生)は岐阜縣人淺野有二に嫁せり(名古屋、東、久屋町八ノ八電東二五二五)

杉山作次郎　京都府多額納稅者、京都府在籍

妻　ミツ　明三三、一二生、東京府士族

男　正作　明四二、七生

君は京都府人先代作次郎の長男にして明治十八年四月を以て生れ大正三年家督を相續し前名作三を改む呉服商を營み京都府多額納稅者たり家族は岡二男勝次(明三三、一二生)三男信三(大二、三生)四男成夫(同一二、九生)三女玄子(同一五、八生)あり弟政次郎(明二八、一二生)は分家し妹ヨシ(同三一、五生)は京都府人神田松之助に嫁せり(京都、下京、室町通五條上ル電下六六四)

杉山四五郎　正四位勳二等、前東京府士族

男　知五郎　明四四、一二生

女　咲代　明三九、一生

女　幸　明四一、七生

當家は舊松本藩士にして先代叙は維新後官界に入り丸龜稅務監督局長に陞進せり君は新潟縣人小川益三の弟にして父は管て宗家の大庄屋役を勤めたることあり同二十九年家督を相續し同年帝國大學法科大學政治學科を卒業同三十三年歐米に遊學し山梨神奈川各縣參事官秋田縣書記官內務省參事官同書記官高知縣知事內務省徵生局長等に歷任し後ち野に下り大正四年神奈川縣より推されて衆議院議員となり關東廳事務總長宮崎縣知事を經て昭和二年京都府知事に任ぜられ轉じて內務次官となり同三年之を辭す家族は岡孫一江(大一二、五生、長男堅作長女)あり二女しげ(明三一、一〇生)は靜岡縣人松本文作に妹せい(同一九、一一生)は同縣人吉川新作に嫁し長女きた(同二六、八生)は同夫隼次(同二〇、五生、靜岡、柳原毅一郎弟)と共に分家し弟與作(同一二、五生)は同縣人岡本市郎平長女ゑんの婿養子となり襲名して當主たり

杉山周藏　靜岡縣多額納稅者、沼津商工會議所會頭、沼津銀行(株)取締役、東海石炭、東京麻糸紡績各(株)監査役、靜岡縣在籍

妻　まつ　明四二、一〇生

男　堅作　明三三、三生、長男堅作妻、神奈川、近田松五郎長女

嫁　トク　明四二、八生

女　みどり

君は靜岡縣人先代周藏の長男にして明治二年十一月を以て生れ同三十七年家督を相續し前名良太郎を改む現時沼津銀行取締役の外前記會社の重役を兼ね靜岡縣多額納稅者にして沼津商工會議所會頭に擧げらる家族は岡孫一江(大一二、五生、長男堅作長女)あり二女しげ(明三一、一〇生)は靜岡縣人松本文作に妹せい(同一九、一一生)は同縣人吉川新作に嫁し長女きた(同二六、八生)は同夫隼次(同二〇、五生、靜岡、柳原毅一郎弟)と共に分家し弟與作(同一二、五生)は同縣人岡本市郎平長女ゑんの婿養子となり襲名して當主たり

操(同一五、一一生)は東京府士族伊藤常夫に同君代(同一八、六生)は法學博士箕克彥に同眞知(同二三、九生)は山梨縣人田邊治通に嫁し敏弟慶次(同二七、九生、亡叔父慶三郎長男)は分家せり(東京、本郷、湯島切通坂町一七電小石川三〇七〇)

參照—男爵奥田剛郎、伊藤常夫、箕克彥、川村貞四郎、鈴木喜三郎、田邊治通の項

杉山　茂　神奈川縣多額納稅者、神奈川縣在籍

父　善平　元治元、一一生

母　アイ　慶應元、四生、神奈川、近藤傳吉長女

妻　クラ　明二五、四生、神奈川、柳川榮助三女

男　太一　大七、一生

君は神奈川縣人杉山善平の長男にして明治二十三年五月を以て生れ大正十三年家督を相續す工業を營み現時神奈川縣多額納稅者たり家族は岡長女フサ(大四、一二生)二男爽平(同九、三生)三男昌巳(同一一、九生)五男貞(同一五、四生)あり弟嘉寧治(同三一、三生)は分家せり(神奈川、中、須馬村)

妻　タキ　慶應二、五生、

男　莊三郎　明一七、一生

嫁　コウ　明二七、一二生

杤木、早川倉次八女

女　イセ　明三〇、三生

男　潔吉　明三六、三生

君は杤木縣人鯵澤謙次郎の弟にして生れ先代誠三郎の養子となり明治二十三年家督を相續す現時片岡銀行頭取たり家族は岡孫一生、長男莊三郎長女(同一〇、三生、同シヅヱ(同一〇、三生、同敏郎(同一四、八生)及其妻子婭キチ(同一五、八生)は同縣人岡多三郎二男丑五郎に嫁せり(杤木、鹽谷、大宮村)

杉山銓二郎　從七位勳六等、美濃電氣軌道、各務原鐵道、大瓦斯電氣各(株)取締役、銀行(株)鹽業、岐阜縣在籍

妻　たま　明三五、九生、

男　芳太郎　大一三、五生、

君は靜岡縣人杉山其四郎の長男にして明治二十三年一月を以て生れ大正十年家督を相續す現時清水銀行取締役兼支配人たり家族は岡長女きく(大五、一〇生)あり(清水、江尻町)

杉山德治郎　清水銀行(株)取締役兼支配人

靜岡縣在籍

母　たま　安政三、四生、靜岡、望月金七妹

妻　しも　明二四、三生、靜岡、小田彌七孫

男　芳太郎　大一三、五生、

君は岐阜縣人杉山茂の三男にして明治七年十月を以て生れ同三十二年家督を相續す夙に名古屋商業學校を卒業し銀業醬油釀造業に從事し曾て郡會議長所得調査委員等に擧げらる現時前記銀行會社の重役たり養に一年志願兵となり日露戰役に從軍し陸軍二等主計に進み功に依り從七位勳六等に敍せらる又謠曲の趣味に富む家族は岡孫みね(大一四、一〇生、養子重嘉長女)同幹夫(昭二、七生、同長男)あり二女もと(明三三、八生)は岐阜縣人岡本正樹に嫁せり(岐阜、羽島、笠松町)

杉山直治郎　從四位勳三等、法學博士、東京帝國大學教授、法學部勤務

東京府在籍

妻　四方　明二四、一生、東京、士、安原金次長女

女　鶴江　明四四、二生

君は東京府人杉山勘藏の長男にして明治十一年一月を以て生れ同四十一年家督を相續す同三十六年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し學習院大學部を始め法政明治日本早稻田等の諸大學に民法を講ず同三十八年文部省より留學を命ぜられ四年間佛蘭獨諸國に於て民法及商法を研究し歸朝後長崎高等商業學校教授東京帝國

(沼津、三枚橋)

參照—岡本市郎平の項

杉山　重　神奈川縣多額納稅者、運送業

神奈川縣士族

妻　れい　明一九、三生、三重、豐住秀平妹

男　榮　大六、一二生

君は神奈川縣士族杉山喜清の長男にして明治八年六月を以て生れ同四十一年家督を相續す神奈川縣多額納稅者にして運送業を營む家族は岡弟要(明一五、五生)同妻ナヲ(同二四、六生、神奈川、柴田松尾妹及其三男二女あり姉たき(同五、三生)は三重縣士族平塚才次郎に妹つね(同一〇、九生)は群馬縣人中山喜三次に同くら(同一七、一生)は愛知縣人小川庄太郎に嫁し弟清之助(同二七、六生)は神奈川縣人飯柴龜吉に姪ユキ(同四四、四生)は右小川庄太郎の養子となれり(横須賀、稻岡町)

杉山　正造　東京株式取引所取引員

神奈川縣在籍

妻　松枝　明二〇、九生、東京、士、加藤景行六女

男　嘉一郎　大元、一二生

女　マサ　明四二、一二生

君は神奈川縣人杉山長造の長男にして明治十七年四月を以て生れ大正十四年家督を相續す現に東京株式取引所一般實物國債短期取引員たり(東京、日本橋、兜町五電茅場町三一一五)

杉山鉦次郎　木村商店(株)常務取締役、橫濱取引所取引員、羅紗貿易商

神奈川縣在籍

妻　すう　明一〇、三生、愛知、佐藤東吉長女

養子　中　明二四、九生、長女いと夫、東京、高橋俊雄弟

女　いと　明三一、四生、養子中妻

君は東京府人杉山德次郎の弟にして明治八年十二月を以て生れ大正十年分家して一家を創立す現時前記諸會社の重役たり(橫濱、中、本牧町四四七電本局一二一八)

參照—高橋俊雄の項

杉山　新造　片岡銀行(株)頭取

栃木縣在籍

杉山　武夫　地金商

兵庫縣在籍

大學法科大學助教授を經て現に東京帝國大學教授法學部勤務にして歐米旅行中たり大正六年法學博士の學位を受く邦文及佛文の論著少からず大正十一年佛國よりオフイシエ・ド・ラ・レジヨン・ドノール勳章を受け日佛會館理事其他日佛兩國に於ける文化又は學術の機關に參與せり家族は倘姉なを（明三、五生）あり妹美喜（同一四、一二生）は香川縣人福田秀太に嫁せり（東京、小石川、關口駒井町一電牛込一四〇）

杉山房次郎
東京米穀商品取引所取引員　東京府在籍

妻　たま　明三、一〇生、千葉、本藤兵吉妹
男　英治　明二六、一二生
婦　ツネ　明三五、二生、長男英治妻、東京、澤地照明三女
男　秀三郎　明四〇、一〇生

君は東京府人杉山作次郎の弟にして明治元年三月を以て生れ同三十六年分家して一家を創立す現に東京米穀商品取引所第一部取引員たり家族は倘孫トシ（大一二、一生、長男英治長女）あり長女はな（明二九、一一生）は京都府人遠藤魏三に二女つる（同三二、一生）は東京府人磯村鋭次郎に三女まさ（同三四、一生）は大阪府人田中清一に嫁せり（東京、日本橋、蠣殼町一ノ三電茅場町八一〇）

杉山平八郎
静岡縣多額納税者、綿絲商並金融業、静岡縣在籍

妻　ふん　文久三、一生、静岡、遠藤保三郎二女
男　平太郎　明一四、二生
婦　しげ　明二七、一一生、長男平太郎妻、静岡、大村東一二女
男　修一郎　明二八、八生

君は静岡縣人杉山平右衞門の長男にして安政四年五月を以て生れ明治二十二年家督を相續す綿絲商並金融業を營み静岡縣多額納税者たり家族は倘孫雄亮（大一二、一二生、長男平太郎長男）あり二男直次郎（明一七、一二生）は同妻せつ（同二六、四生、静岡、遠藤省三二女）を伴ひ同松司（同二二、七生）は同妻マサ（同三一、一二生、静岡、伊藤春吉長女）を伴ひ同崎雄（同二六、三生）は同妻ゆり（同三七、一〇生、静岡、遠藤逸妹）を伴ひ各分家せり（清水市）

杉山正重
三菱（資）參事　愛知縣在籍

妻　さだ　明二六、四生、福井、小泉策郎五女
男　正俊　大四、三生

君は愛知縣人岡田市兵衞の六男にして明治二十年一月を以て生れ後ち先代しげの養子となり同二十四年家督を相續す同四十四年東京帝國大學工科大學採鑛冶金學科を卒業し現時三菱合資會社參事たり家族は倘長女靜子（大七、九生）二男重俊（同一〇、七生）三男重春（同一三、二生）二女友子（同一五、一一生）あり養母しげ（明五、八生、養祖父惣助長女）は養妹とみ（同二四、七生）を伴ひ愛知縣人磯村實治郎に嫁せり（東京市外中野町東中野一七一三）

杉山又衞
從七位勳八等、岐阜縣神戸郵便局長、西神戸興業銀行（株）取締役、大正鑛業（株）監査役、岐阜縣在籍

妻　古登　明八、九生、岐阜、鄕完二姉
男　又雄　明三八、七生、北海道帝國大學在學

杉山家は土岐美濃守の家臣杉山彈正の末葉にして土岐家の滅亡するや歸農し今日に及ぶ君は先代又一郎の長男にして杉山令吉の甥なり明治三年一月を以て生れ同二十八年家督を相續し前名仁作を改む夙に東京帝國大學文科大學に學び爾來農林業に從事す現時之を廢し岐阜縣神戸郵便局長にして傍ら前記銀行會社の重役たり曩に大垣中學校教諭杉山殖產會社代表社員西濃林業關西土石各會社々長西濃銀行監査役たりし事あり家族は倘二女壽美（大三、一生）あり母しん（弘化三、四生）は岐阜縣人杉山靜枝の死跡を襲ひ二男又樹（明四五、二生）は更に其家督を相續し長女千勢子（同三四、三生）は岐阜縣人松永慶松長男肇に嫁せり（岐阜、安八、神戸町）
參照—杉山令吉※豐原雄太郎の項

杉山保三郎
新潟縣多額納税者、農業　新潟縣在籍

妻　サタ　明一〇、一〇生、新潟、杉山宗九郎長女
男　宗一　大元、一二生

君は新潟縣人竹内七郎の弟にして明治九年十月を以て生れ後先代宗九郎の養子となり大正七年家督を相續す農業を營み縣下の多額納税者たり（新潟、西蒲原、吉田村）

杉山勇吉
吉田商會（株）取締役、東亞商事（株）監査役、大阪府在籍

妻　もと　明五、一生、岐阜、谷田貝市平長女
男　勝　明二九、九生
婦　春江　明三四、二生、二男勝妻、大阪、今津德之助妹
養子　俊夫　明二三、二生、二女綾子夫、大阪、喜多羅秀夫弟
女　綾子　明二七、六生、養子俊夫妻

君は大阪府人西田吉兵衞の三男にして慶應三年十月を以て生れ明治十三年先代儀兵衞の養子となり同十四年家督を相續す夙に洋紙商を營み後吉田利平の經營に係る吉田商會を繼承し大正七年株式組織に變更し現にその取締役たる外東亞商事會社の監査役を兼ぬ家族は倘孫康夫（大一三、五生、二男勝長男）同晋二（昭二、五生、同二男）あり長女キヌ（明二四、一一生）は兵庫縣人大崎利一郎に三女芳子（同三六、七生、夕陽丘高等女學校出身）は大阪府人片山由松二男芳藏に嫁し三男信三郎（同三二、八生）は分家せり（大阪、天王寺、烏ケ辻町五七一三電南四六七八）
參照—大崎利一郎の項

杉山義雄
東京商工會議所常議員、秀英舍（株）社長、日本開拓、丸ビル印刷各（株）取締役、武田割引銀行、正久庖丁、九曜商會各（株）監査役、袋井銀行（株）相談役、静岡縣在籍

妻　なか　明四、一〇生、養父兼作長女
養子　邦雄　明二三、一一生、長女富子夫、静岡、杉山德三郎三男
女　富子　明二六、九生、養子邦雄妻
孫　孝子　明四四、六生、養子邦雄長女

君は静岡縣人永田桂一郎の二男にして慶應二年九月を以て生れ後杉山兼作の養子となり明治四十二年養弟孝一郎方より分家して一家を創立す秀英舍社長にして前掲各銀行會社の重役を兼ね東京商工會議所常議員に擧げらる家族は倘孫一郎（大三、五生、養子邦雄長男）同經子（同六、九生、同二女）同節子（同一一、七生、同三女）同寅次（同一五、一生、同二男）あり（東京、本郷、駒込曙町一三電小石川九二三）

杉山令吉
正五位勳五等、東京商科大學豫科教授兼東京商科大學附屬商學專門部教授、東京府在籍

妻　こと　慶應三、一二生、東京、士、川田甕姉
男　駿　明二四、四生、法學士
婦　フヂ　明三五、四生、長男駿妻、長崎、士、中尾謹三郎二女
男　實　明三二、一一生、東京高等商業學校出身
女　直枝　明三九、二生、跡見女學校出身
女　博子　明四〇、六生、三輪田高等女學校出身

君は岐阜縣人杉山千和の長男にして同又衞の叔父なり安政二年七月を以て生れ明治二十二年家督を相續す夙に東京に出で文を川田甕江重野成齋依田學海に詩を森春濤小野湖山岡本黃石等に就て質し東京十才子の選に入り同十五年警視屬に任じ同十九年之を辭し北米に航しテンネシー州カンバランド大學に學びバチエラー・オブ・ローの學位を受く同二十三年歸朝同二十五年東京高等商業學校教授に任じ後外務省飜譯官海軍編修等に歷任し大正七年再び東京高等商業學校教授に任ぜられ同九年同校の昇格するや同大學豫科教授兼附屬商學專門部教授に任じ現在に至る又早稻田大學講師たり曩に故元帥東伏見宮依仁親王に侍講すること二十五年三郊と號して詩文及び書道に長ず長女美乃（明一六、八生）は京都府人牧命數弟豫備陸軍少佐良男に二女千代（同一八、一生）は岐阜縣人杉山又衞に三女若菜（同二〇、二生）は東京府人工學士豐原雄太郎に四女壽惠子（同二八、一生）は千葉縣人椎名利助二男海軍大佐直吉に五女八重子（同三四、六生）は島根縣人工學士堀信一に嫁し二男茂顯（同三〇、一二生、法學士）は其妻マサ（同三七、四生、東京、島羽恒太郎二女）及一子を伴ひ分家し六女和子（同三六、一一生）は故海軍大將村上格一の養子となれり（東京、小石川、丸山町四電大塚六〇四）
參照—川田甕、杉山又衞、豐原雄太郎、中尾謹三郎※川田順※島田鈞一の項

杉山魯九郎
淺草ビルデイング（株）取締役、綿布商、東京府在籍

妻　てう　明一一、八生、東京、河村源兵衞五女
男　一郎　明三六、八生

君は愛知縣人杉山五郎太の弟にして明治五年十月を以て生れ同三十一年分家して一家を創立す綿布商を營み現時淺草ビルデング取締役たり家族は倘ほ二男力三郎（大二、一生）四男四郎（同七、四生）あり長女雪子（明三九、八生）は東京府人大木清七長男清重に嫁せり（東京、日本橋、濱町三ノ三電浪花三五九）

勝呂平右衞門
静岡縣多額納税者、静岡煉瓦（株）社長、帝國鐵筋コンクリート、静岡土地建物各（株）取締役、勝呂組（資）代表社員、土木建築請負業　静岡縣在籍

妻　こう　安政三、一〇生、養父重五郎長女
男　重作　明一三、二生
婦　すて　明一一、三生、三男重作妻、静岡、望月三木治妹
孫　寛一　明三〇、五生、亡長男春四郎長男
孫妻　政子　明三五、一一生、孫寛一妻、静岡、加藤重作長女
孫　嘉三　明三七、三生、亡長男春四郎三男
孫　政巳　明四〇、七生、三男重作長男

君は静岡縣人水上安左衞門の弟にして嘉永五年十一月を以て生れ後ち先代重五郎の養子となり明治十七年家督を相續す土木建築請負業を營み傍ら静岡煉瓦會社々長たる外前記各會社の重役にして静岡縣多額納税者たり家族は倘孫大介（大二、三生、三男重作二男）曾孫貢（同一二、一生、孫寛一長男）同賴子（同一四、一二生、同長女）あり七男正吾（明二八、二生）は分家し孫虎雄（同三二、五生、亡長男春四郎二男）は静岡縣人平田いとの入夫となれり（静岡、庵原、富士川町）

助川貞二郎
札幌市參事會員、札幌土地住宅、札幌電氣軌道、渡島海岸鐵道各（株）專務取締役、札幌第一魚市場（株）取締役、北海道在籍

男　貞利　明二四、一二生、早稻田大學出身、現戶主
婦　シナ　明二九、四生、長男貞利妻、故醫學博士千葉稔次郎二女

君は茨城縣人助川萬平の二男にして萬延元年五月を以て生れ後家督を相續し昭和二年退隱す夙に北海道に渡り各種事業を經營して成功を收め現に札幌市參事會員札幌土地住宅會社專務取締役たる外前記會社の重役たり曩に數次道會議員札幌商業會議所議員札幌區會議員札幌市會議員等の公職に擧げらる家族は倘ほ庶子正壽（大一二、二生、生母、明石キヨ）孫利夫（同七、一〇生、長男貞利長男）同秀子（同一四、四生、同長女）あり庶子貞男（明三二、四生、生母、伊藤ミツ）は同妻ハル（同二六、四生）及其同母弟貞次（同三五、八生）同貞三（同三九、一〇生）同五郎（同四四、三生）を伴ひ分家し庶子正美（大八、四生）は其生母明石キヨの養子となり長女ミチ（同一五、一〇生、女子職業學校出身）は福岡縣人辯護士廣木登美治に嫁し甥靜二（明一八、一〇生、陸軍步兵少尉）は分家し同建（同二〇、六生、早稻田大學出身）は札幌市立高等女學校教諭前田ツルの入夫となれり（札幌、南三條西七ノ五）

助川文平
尾張炭礦（株）專務取締役、愛知信商（株）常務取締役、愛知土地（株）監査役、岐阜縣在籍

妻　富子　明二九、八生、岐阜、後藤安太郎四女
男　文郎　大九、九生

君は岐阜縣人坂倉又吾の二男にして同又吉の弟なり明治二十二年一月を以て生れ大正五年先代富子の入夫となり家督を相續し前名德重を改む夙に慶應義塾を卒業し現に前記各會社の重役たり（名古屋、東、田代町二ッ池二七電東一一二）
參照—後藤安太郎、坂倉又吉※岡本太右衞門の項

鈴井茂三郎
藥種商　東京府在籍

妻　はつ　明六、一生、先々代八五郎三女
養子　イク　明二九、三生、東京、今關テイ庶子

君は東京府人岩崎與右衞門の三男にして明治二年七月を以て生れ同三十八年先代はつの入夫となり家督を相續す藥種商を營む養妹なみ（明一五、一生）は東京府人加太たけの養子となり養姉やす（慶應元、二生）は同府人鈴木七五郎に嫁せり（東京市外澁谷町松濤三六電青山二五一六）

鈴鹿定治郎
京都タクシー自動車（株）常務取締役、淀川セルロイド加工所（株）取締役、絹布貿易商、京都府在籍

養母　モト　文久三、九生、京都、鈴鹿佐兵衞長女
男　佐　大五、一二生

女　英子　大二、五生

君は滋賀縣人中澤安治郎の弟にして明治十九年十一月を以て生れ同四十五年先代彌惣吉の養子となり大正十四年家督を相續す現時京都タクシー自動車會社常務取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙二女尙子(大三、一一生)三女明子(同一〇、六生)あり(京都、上京、兩替町通姉小路ドル**電中二九四四**)

鈴鹿昌一　鈴鹿商店(株)常務取締役　東京府在籍

妻　マツヘ　明二五、五生、東京、鈴鹿保家姉、日本女子大學校附屬高等女學校出身

男　昌大　六、六生

君は大阪府人谷崎新五郎佐渡島英祿の弟にして鈴鹿和三郎の養弟なり明治二十一年十二月を以て生れ鈴鹿保家の養子となり大正九年養弟保家方より分れて一家を創立す明治四十三年神戸高等商業學校を卒業し現時鈴鹿商店常務取締役たり家族は尙長女昌枝(大四、一生)二男寛昌(同七、一一生)あり(**東京、麹町、紀尾井町三ノ八號電九段七六五**)

參照―佐渡島英祿、鈴鹿保家、鈴鹿和三郎※片山篤也※椙西廣重の項

鈴鹿保家　鈴鹿商店(株)社長　東京府在籍

妻　梅子　明二九、三生、故貴族院議員道家齊二女

男　醇太郎　大六、九生

君は東京府士族先代保家の長男にして明治二十七年八月を以て生れ大正九年家督を相續し襲名して前名醇を改む現時肥料輸出入業鈴鹿商店社長たり家族は尙長女壽滿子(大一〇、三生)二男保次(同一三、一生)二女喜子(昭二、一生)あり姉保枝(明二三、七生)は其夫和三郎(同二一、三生)及其二子と共に同マツ(同二五、五生)は其夫昌一(同二一、一二生)及其二男一女と共に各分家し弟續(同四二、一生)も亦母マス(同四四、九生、東京、橋本勘太郎姉)と共に分家し叔母ユキ(同八、一一生)は奈良縣人仲津惠久の養子となれり(東京、深川、佐賀町一ノ二五**電本所二九四五**)

參照―鈴鹿昌一、鈴鹿和三郎※片山篤也※椙西廣重※志田勝次郎※末高與次郎※田島武夫の項

鈴鹿和三郎　後備陸軍三等主計、鈴鹿商店(株)專務取締役、日本貿易協會評議員　東京府在籍

明二三、七生、東京、鈴鹿保家姉、日本女子大學校附屬高等女學校出身

男　一枝　大一三、三生

女　和枝　大二、六生、双葉高等女學校在學

君は靜岡縣人望月昌策の三男にして鈴鹿保家同昌一の養兒なり明治二十一年三月を以て生れ鈴鹿商店專務取締役たり家族は尙養妹茶也(明四五、六生、廣島、杉野誓成二女)あり(廣島市段原町三九九)

參照―鈴鹿昌一、鈴鹿保家※志田勝次郎の項

鈴鹿保家　鈴鹿商店(株)專務取締役　東京府在籍

妻　梅子　明二九、三生、故貴族院議員道家齊二女

男　醇太郎　大六、九生

君は東京府士族先代保家の長男にして明治二十七年八月を以て生れ大正九年家督を相續し襲名して前名醇を改む現時肥料輸出入業鈴鹿商店社長たり家族は尙長女壽滿子(大一〇、三生)二男保次(同一三、一生)二女喜子(昭二、一生)あり姉保枝(明二三、七生)は其夫和三郎(同二一、三生)及其二子と共に同マツ(同二五、五生)は其夫昌一(同二一、一二生)及其二男一女と共に各分家し弟續(同四二、一生)も亦母マス(同四四、九生、東京、橋本勘太郎姉)と共に分家し叔母ユキ(同八、一一生)は奈良縣人仲津惠久の養子となれり(東京、深川、佐賀町一ノ二五**電本所二九四五**)

參照―鈴鹿昌一、鈴鹿和三郎※片山篤也※椙西廣重※志田勝次郎※末高與次郎※田島武夫の項

鈴川貫一　廣島電氣(株)專務取締役、中國產料、瀨戶內海橫斷電力各(株)取締役、白石工業、日本電熱器製造各(株)鑑査役　廣島縣在籍

父　源三郎　安政五、一二生

母　カネ　慶應三、一二生、廣島、吉田三右衞門長女

妻　キミ　明二三、八生、廣島、中田與兵衞長女

君は廣島縣人鈴川源三郎の男にして明治十六年十一月を以て生れ同十八年家督を相續す現時前記諸會社の重役たり家族は尙養妹茶也(明四五、六生、廣島、杉野誓成二女)あり(廣島市段原町三九九)

鈴木章之　東洋麻絲紡績(株)專務取締役　東京府在籍

母　コメ　嘉永二、六生、組父市藏長女

妻　きみ　明一六、九生、福島、白井博之妹　明四四、一生

男　一雄　明三七、一〇生

女　敏子　明四五、三生

君は福島縣人鈴木龜佐の長男にして明治八年十月を以て生れ同三十二年家督を相續し前名菊治を改む同三十四年商船學校航海科を卒へ現に東洋麻絲紡績會社專務取締役たり家族は尙四女章乃(大三、一生)五男父(同四、三生)七女和子(同八、四生)あり姉イト(慶應二、二生)は(明二、二生)は福島縣人石森牛三に妹ハル(同一一、一二生)は同縣人鎌田伊之助長男丑松に嫁し弟範亮(同一五、六生)は東京府人松村志保の養子となれり(東京、本郷、千駄木町五六**電小石川二八八五**)

參照―白井博之※近藤利兵衞※白井五郎※菅波角之助※中澤彥雄※藤掛與左衞門の項

鈴木伊十　日本建築紙工(株)社長、臺南製糖(株)取締役、千代田信託、昭和製糖各(株)鑑査役、愛知縣在籍

妻　久枝　明九、二生、高知、島本佐郎妹

男　正一郎　明三四、一生

女　すま　明四四、三生

君は愛知縣人鈴木清四郎の長男にして明治三年四月を以て生れ同十七年家督を相續す同二十六年東京專門學校邦語政治科を卒業し現時日本建築紙工會社々長たり外前記各會社の重役たり家族は尙二男勝彥(大四、三生)三男重三(同八、三生)あり(東京、麻布、霞町一七**電青山三七四八**)

鈴木詔叶　酒類商　東京府在籍

妻　甲子よ　明二〇、一生、山梨、士、三科賀益妹

養子　昇　明三一、一一生、長女俊子夫、山形、山口良之衞三男

女　俊子　明三三、二生、養子昇妻

養子　大藏　明三三、二生、二女政子夫、山梨、花輪元一郎三男

女　政子　明四〇、一〇生、養子大藏妻

君は山梨縣人川平幹の弟にして明治八年五月を以て生れ同三十二年先代ツルの入夫となり家督を相續す酒類商を營む(東京市外品川町北品川宿六〇)

鈴木幾次郎　第一合同銀行、朝鮮實業、興業各(株)取締役、香川縣在籍

養母　ミス　文久二、五生、香川、渡邊孫四郎妹

妻　フキ　明九、一〇生、養父傳五郎長女

男　義伸　明二九、二生

婦　登志　明三六、四生、長男義伸妻、香川、長谷川八郎三女

男　義飽　明三一、四生

女　宮子　明三九、四生

女　光子　明四〇、一〇生

女　千枝子　明四五、一生

君は香川縣人佐々木橋太郎の弟にして明治二年五月を以て生れ先代傳五郎の養子となり同三十七年家督を相續す先是同二十六年早稻田大學英語政治科を卒業し管て衆望を擔ひ高松市長に擧げられ現時第一合同銀行取締役たる外前揭各會社の重役たり家族は尙ほ三男義孝(明四二、七生)四男義基(大四、一生)孫陽一(同一四、一〇生、長男義伸長男)あり長女富美子(明二七、一一生)は香川縣人川崎舍恒三に二女幹子(同三二、五生)は岡山縣人林彪太郎に三女淑子(同三四、九生)は廣島縣人吉見九郎右衞門養子鐵夫に四女俊子(同三六、一二生)は大分縣人大江眞に嫁せり(高松、古馬場町二)

參照―林彪太郎、川崎舍恒三の項

鈴木一平　帝國博品館(資)監事、若松屋、兩替商　東京府在籍

母　まき　明九、四生、東京、山田金次郎三女

妻　みつ　明二五、七生、東京、泉田友之助長女

君は故帝國博品館社長鈴木善藏の長男にして明治二十年三月を以て生れ昭和二年家督を相續す若松屋と稱し兩替商を營み傍ら合資會社帝國博品館監事たり姉せい(明一五、一二生)は東京府人高橋治三郎に同千代(同一八、三生)は同府人平野晴一に嫁し妹ふみ(同二九、五生)は同夫成之介(同二一、九生、茨城、大川保四男)と共に分家し叔父重吉(慶應元、三生)は東京府人鈴木萬之助の養子となれり(東京、芝、日蔭町一ノ一**電銀座二六八〇**)

鈴木一來　日本勸業證券(株)取締役、日本勸業銀行(株)庶務課長、福井縣士族　安政四、七生、福井、宇野第太郎長女

母　とな　明二五、七生、東京、酒井良明四女

妻　とみ　明昭德　大一〇、一一生

男　一來　明三五、七生、東京、酒井良明四女

君は福井縣士族鈴木質明の長男にして明治十五年一月を以て生れ大正四年家督を相續す明治三十九年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し現時日本勸業銀行庶務課長たる傍ら日本勸業證券會社取締役たり家族は尙長女艷子(大五、九生)二男成美(同一四、一二生)弟水際(明一七、五生)同妻かみる(同三一、八生、福井、南部三妹)

鈴木市太郎　千葉縣多額納稅者、醬油釀造業　千葉縣在籍

母　ちか　明一一、一二生、千葉、白熊德次郎妹

男　久次郎　慶應二、七生、現戶主

婦　ルイ　明二四、五生、長男久次郎妻、栃木、中村喜十郎長女

女　ゆき　明四二、九生

養孫　廉三　明三七、一二生、長男久次郎養子、明三七、一二生、養孫廉三妻、千葉、伊東隆三二女

孫妻　邦　明三七、一二生、養孫廉三妻、千葉、伊東隆三二女

君は千葉縣人鈴木善次郎の長男にして弘化四年六月を以て生れ後家督を相續し明治三十年退隱す醬油釀造業を營み千葉縣多額納稅者たり家族は尙五男金作(大元、一二生)及孫廉三の一子あり二男(同三、七生)及孫廉三の一子あり二男(同四、一二生)は神奈川縣人木村利右衞門の養子(千葉、君津、小櫃村)

參照―木村庫之助の項

鈴木市之助　旭電化工業(株)專務取締役、原町紡機(株)取締役、日本電線(株)鑑査役、東京府在籍

妻　トク　明二四、一生、北海道、佐賀庄三妹

男　市郎　明四四、八生

女　春　大二、一生

君は千葉縣人鈴木善次郎の二男にして吉村萬治郎の兄なり明治十五年二月を以て生れ先代エイの養子となり同二十四年家督を相續す同三十六年慶應義塾大學理財科を卒業し直に渡米しコロンビヤ、エール各大學に學び同三十九年歸朝し古河合名會社に入り後古河家鑛業の博愛生命保險會社專務取締役となり現時前揭各會社の重役たり家族は尙二女圓子(大四、二生)二男康治郎(同七、一生)三男亮三(同九、五生)あり(東京、麻布、狸穴町一六**電青山六〇九九**)

參照―吉村萬治郎の項

鈴木岩吉　千葉縣多額納稅者　千葉縣在籍

妻　たね　慶應元、七生、千葉、坂戶時立女

養子　仙之助　明九、一一生、長女すゞ夫、千葉、片岡長右衞門三男

女　すゞ　明二一、二生、養子仙之助妻

養子　とめ　明三三、一〇生、千葉、佐藤きく妹

君は千葉縣人地曳利八の三男にして文久元年十月を以て生れ先代豐吉の養子となり明治三十八年家督を相續す豪商にして縣下の多額納稅者たり家族は尙孫康夫(大五、三生、養子仙之助長男)同ツネ(同一一、二生、養子とめ私生子)同シマ(同一三、二生、同私生子)あり養子須江(明三〇、一二生、千葉、人見勝之助二女)は分家せり(千葉、君津、木更津町)

鈴木岩次郎　東京製氷(株)社長、末よし、割烹業、東京府在籍

男　鐵太郎　明二三、九生

婦　薫　明三〇、六生、長男鐵太郎妻、東京、石野清太郎妹

庶子　三郎　明三七、五生、生母、神奈川、二見モト

君は神奈川縣人鈴木文吉の弟にして安政六年十二月を以て生れ明治二十七年分家して一家を創立す末よしと稱し割烹業を營み知られ傍ら東京製氷會社長たり家族は尙庶子良夫(大五、五生、生母、神奈川、二見モト)孫清子(大一五、七生、長男鐵太郎長女)あり長女伊喜(明二七、六生)は東京府人淺野萬吉三男吉之助に庶子八重(同四〇、一生、生母、神奈川、二見モト)は東京府人羽川武夫に嫁せり(東京、牛込、神樂町二ノ一三**電牛込八一一**)

鈴木岩治郎　帝國汽罐(株)社長、鈴木商店(株)副社長、神戶製鋼所、東洋護謨、日本拓殖、日本商業、樂館各(株)取締役、大正生命保險、浪華倉庫各(株)鑑査役、日本教育生命保險(名)理事、兵庫縣在籍

母　よね　嘉永五、八生

妻　兎三　明三四、八生

女　ちよ　明三四、八生

女　政江　明三九、八生

君は兵庫縣人先代岩治郎の長男にして同岩藏の兄なり明治十一年十一月を以て生れ同二十七年家督を相續し襲名す夙に東京專修學校を卒業して後歐米を漫遊し現時帝國汽船會社々長鈴木商店副社長たる外神戸製銅所東洋燐寸日本拓殖日本商業並に前記諸會社の重役たり又養に神戸商業會議所特別議員に舉げらる（神戸、榮町通七ノ一）

參照—鈴木岩藏※成毛金次郎の項

鈴木岩藏

大陽曹達(株)社長、帝國人造絹絲、鈴木商店各(株)監査役、鈴木(名)監事、兵庫縣在籍

明二七、八生、高知、士、土居通夫妻　慰子　治男　大七、二生

君は兵庫縣人鈴木岩治郎の弟にして明治十七年二月を以て生る現時太陽曹達會社々長の外前記會社の重役たり家族は尙長女英子(大三、二生)二女貞子(同五、二生)三女淳子(同一一、三生)四女光子(同一五、七生)あり(神戸、榮町通七ノ一)

參照—鈴木岩治郎※成毛金次郎の項

鈴木巖

勳四等、衆議院議員(岩手縣選出)、東北鐵道鐵業(株)取締役、第一信託(株)監査役、岩手縣士族

明三一、一二生　男　彦次郎　男　寅之助　明三五、五生　女　ゆき　明三七、一〇生　男　小彌太　明四〇、三生

君は岩手縣士族鈴木舍從の二男にして慶應二年三月を以て生れ後亡兄舍定の後を相續す現に前記各會社の重役にして衆議院議員たり當選三回立憲政友會に屬す養に縣會議員東京朝日新聞社員たり家族は尙五男五郎太(明四四、九生)あり弟六藏(同元、一一生)は岩手縣士族照井サトに同八郎(同九、五生)は東京府人林乃婦に各養子となれり(岩手、岩手、淺岸村)

鈴木ウタ

従五位勳五等、女子學習院教授　栃木縣在籍

女史は栃木縣人鈴木要三の四女にして明治七年四月を以て生れ大正六年男孝二郎方より分れて一家を創立す夙に育英の事に從ひ現時女子學習院教授たり（東京市外中野町大塚一六九六）

鈴木右三郎

愛知縣多額納稅者、計器商

明五、二生、愛知、稻垣小左衞門妹　こと　養子　隆三　明三六、一生、愛知、鈴木章三弟

君は岐阜縣人青木熊次郎の安政六年六月を以て生れ後鈴木商店副社長たる外神戸製銅所東洋燐寸日本拓殖日本商業並に前記諸會社の重役たり又養に神戸商業會議所特別議員に舉げらる（神戸、榮町通七ノ一）

參照—鈴木岩藏※成毛金次郎の項

鈴木卯太郎

茨城縣多額納稅者、菓子商

茨城縣在籍

明一五、二生、茨城、柴田辰之介次女　妻　はる　二女

君は茨城縣人鈴木清三郎の長男にして明治十二年八月を以て生れ後家督を相續す菓子商を營み茨城縣多額納稅者たり家族は尙五女君枝(大一二、五生)あり(水戸、

鈴木梅雄

愛知縣多額納稅者、弦樂器製造業

愛知縣士族

安政六、一一生、現戸主　父　政吉　明三一、四生、新潟、山口省三郎長女　妻　ミチ　大七、一生

君は愛知縣士族鈴木政吉の長男にして明治二十二年十二月を以て生る弦樂器製造業を營み愛知縣多額納稅者たり家族は尙長女夏子(大五、六生)二女八重子(同八、八生)あり(名古屋、東、東門前町五三電東一一六一)

參照—鈴木政吉の項

鈴木梅四郎

勳四等、臺南製糖(株)社長、臺灣森林工業(株)取締役會長、東洋製紙、晩成事業、共同火災保險、小浦谷ホテル各(株)取締役、三越、帝國通信社、東洋印刷、第一火災海上保險各(株)監査役、實費診療所理事長、長野縣在籍

明一一、一生、東京、士、河原孫一郎叔母　妻　阿虎

君は長野縣人鈴木龍藏の二男にして文久二年四月を以て生れ明治三十一年家督を相續し尙海上國際保險(株)取締役會長、東洋製鐵、林鐵工所各(株)監査役、山梨縣在籍

鈴木永吉

東京劇引銀行、小武川電力各(株)取締役、日本煉炭、富士身延鐵道、東洋製鐵、林鐵工所各(株)監査役、山梨縣在籍

明一八、六生、山梨、鈴木傳左衞門長女　妻　キヨ

君は山梨縣人鈴木拾藏の弟にして明治七年四月を以て生れ同二十九年分家して一家を創立す同年東京帝國大學農科大學農藝科を卒業し東京帝國大學農科大學助教授盛岡高等農林學校教授兼東京帝國大學農科大學助教授東京帝國大學農科大學教授兼盛岡高等農林學校教授等を歷任し同四十五年米國に留學す現に東京帝國大學教授にして農學部長に擧げられ帝國學士院會員に列し又前記各會社の學術顧問たり先是明治三十四年農藝化學研究の爲獨佛瑞等諸國を歷遊し同年農學博士の學位を授けられ大正十三年帝國學士院賞を受く家族は尙孫陽一(大一一、二生、養子文助長男)同園子(同一三、七生、同長女)あり(東京市外澁谷町宇田川三八電青山一三九八)

鈴木梅太郎

正四位勳二等、農學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學教授、農學部長、三共、大和釀造各(株)學術顧問、東京府在籍

明一七、一〇生、故工學博士辰野金吾長女　妻　スマ　養子　文助　島、荒木文太郎弟　女　久仁子　明三五、五生、養子文助妻

君は靜岡縣人鈴木拾藏の弟にして明治七年四月を以て生れ同二十九年分家して一家を創立す同年東京帝國大學農科大學農藝科を卒業し東京帝國大學農科大學助教授盛岡高等農林學校教授兼東京帝國大學農科大學助教授東京帝國大學農科大學教授兼盛岡高等農林學校教授等を歷任し同四十五年米國に留學す現に東京帝國大學教授にして農學部長に擧げられ帝國學士院會員に列し又前記各會社の學術顧問たり先是明治三十四年農藝化學研究の爲獨佛瑞等諸國を歷遊し同年農學博士の學位を授けられ大正十三年帝國學士院賞を受く家族は尙孫陽一(大一一、二生、養子文助長男)同園子(同一三、七生、同長女)あり(東京市外澁谷町宇田川三八電青山一三九八)

濟神戶各支店長を經て王子製紙會社專務取締役に就任すること九ケ年此間より日本殖民合資會社々長たること十餘年現時臺南製糖會社々長たる外前揭各會社の重役たり明治四十五年以來衆議院議員に當選すること前後四回に及ぶ此間立憲國民黨の幹事長たり政界に活動すること十餘年平和的世界統一政策貫澤先生の手紙皇室社會新政其他數種の著述あり（神奈川、中、大磯町東小磯）

五、六生)あり(東京、四谷、仲町三ノ一九電四谷三四六八)

鈴木英亮

福島縣多額納稅者、酒造業

福島縣在籍

安政二、五生、福島、二瓶市十郎妹　母　トメ　明一七、六生、福島、金澤盛文妹　妻　ケイ　明三一、一〇生　男　達雄　明三八、一一生、長男達雄妻、福島、綠川喜代松五女　婦　キヨ　明四〇、一二生　男　三郎　大二、二生　女　テイ

君は福島縣人鈴木重四郎の長男にして明治十三年十月を以て生れ大正四年家督を相續す酒造業を營み福島縣多額納稅者たり曩に福島縣會議員に當選し同縣會議長に推さる家族は尙四男雄造(明四四、二生)三女テル(大四、一生)五男亮吉(同六、九生)四女ヒテ(同一三、四生)あり(福島、東白川、高城村)

鈴木榮一郎

従五位勳六等、松山高等學校教授　宮城縣在籍

文久三、一二生、宮城、赤間善六　父　榮助　四男、現戸主　母　きさ　慶應元、一〇生、宮城、鈴木清十郎長女　妻　りやう　明二三、一二生、宮城、鈴木清十郎孫　女　美子　明四五、四生

君は宮城縣人鈴木榮助の長男にして明治十六年十一月を以て生る同四十一年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し市立吳中學校教諭を經て大正九年現職松山高等學校教授に任ず家族は尙二女綾子(大三、七生)三女令子(同六、一生)四女佑子(同一〇、五生)の外弟修一(明三一、一一生)其妻ふじゑ(同三九、三生、宮城、高橋清彌二女)及其二子同八郎(同三四、九生)同妻タミエ(同三九、一一生、宮城、佐藤良治六女)及其一子同晉郎(同三七、一生)あり妹としを(同二〇、二生)は宮城縣人山内善之助二男善治に同さつゑ(同二一、五生)は同縣人千葉德藏孫實に同おとゑ(同二四、六生)は同縣人阿部儀内二男清見に同しんじ(同二九、四生)は同縣人高橋達に嫁せり(松山高等學校内)

鈴木榮助

廣島縣多額納稅者、鈴木商店(株)社長、廣島觀音地先埋立(株)取締役、東洋コルク工業(株)監査役、砂糖商、廣島縣在籍

明元、五生、廣島、津田保次郎長女　妻　ユキ　明二二、五生、廣島、熊木薫弟　養子　敬三　明二七、五生、養子敬三妻、廣島、多賀俊司長女　婦　マサヨ　明四四、六生、養子敬三長女　孫　須磨子

君は廣島縣人藤渡榮次郎の弟にして同秀吉の叔父なり慶應元年五月を以て生れ明治二十七年先代クラの養子となり家督を相續し前名寅之助を改む砂糖商を營み廣島縣多額納稅者にして鈴木商店社長たる外前記諸會社の重役たり家族は尙孫ヨシコ(大三、六生、養子敬三長女)二女(同榮太郎(同六、一二生、同長男)同孝子(同一〇、五生、同三女)あり(廣島市塚本町五)

參照—藤渡秀吉の項

鈴木榮太郎

靜岡縣多額納稅者、工業

靜岡縣在籍

明一七、三生、靜岡、加藤豐叔母　妻　しう　明二四、二生　男　芳雄　明二五、一二生、長男芳雄妻、靜岡、石橋敏二女　婦　ふみ　素明三二、七生

君は靜岡縣人鈴木嘉十郎の長男にして慶應二年四月を以て生れ明治十六年家督を相續す工業を營み靜岡縣多額納稅者たり家族は尙男帝(大一五、六生)孫大正(同三、二生、長男芳雄長男)同とく(同五、一〇生、同長女)同三二、七生、同二女)同一政(同一一、三生、同二男)同慶泰(同一三、一生、同三女)同慶子(同一四、一生、同三女)あり長女なを(明三〇、一生)は東京府人小松宗一に妹もと(慶應三、三生)は靜岡縣士族吉岡鉉太郎に同しま(明一一、一二生)は同縣人渡邊伊曾吉長男五十治に嫁し同かつ(同二七、四生)は同縣人林信次郎に弟嘉吉(同八、一生)は同縣人綾部傳作に各養子となり同愛三郎(同五、七生)は同正治(同一八、二二生)は同妻かつ(同二七、一二生)も亦分家せり(靜岡、驛東、小泉村)

鈴木晉兵衞

山梨縣多額納稅者、補融銀行(株)監査役、金融業、山梨縣在籍

明四、四生、山梨、今井茂右衞門養子　妻　まつ　男　善造　明二五、三生　男　義藏　明三八、一生

君は山梨縣人先代晉兵衞の長男にして文久三年九月を以て生れ明治二十一年家督を相續し前名政太郎を改む金融業を營み補融銀行監査役にして縣下の多額納稅者たり家族は尙孫たかの(大七、一二生、長男善造長女)同淳造(同一一、五生、同長男)同甲子造(同一三、二生、同二男)あり長女いその(明二二、六生)は同夫寛(同一六、一二生、山梨、樫村幸藏弟)と共に其一女を伴ひ弟次吉(同一三、一一生)は同妻はな(同一七、一二生、山梨、關彥太郎妹)を伴ひ各分家し同重三郎(同四、一一生)妹マツジ(同九、五生)も亦各分家し二女こう(同二八、一一生)は山梨縣人鈴木正臣に三女つる子(同三〇、二生)は東京府人小池秋太郎に嫁せり(甲府、櫻町)

鈴木賀一郎

従五位勳五等、少年審判官、東京少年審判所長、千葉縣在籍

明二一、六生、千葉、吉植庄一郎長女、東京高等女學校出身　妻　やす　男　叡一　明四五、六生

君は千葉縣人鈴木元藏故文學博士八代國治の弟にして明治十一年一月を以て生れ大正十年分家して一家を創立す明治四十一年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同四十三年判事に任じ大津地方同區各裁判所判事を經て檢事に轉じ大阪區同地方神戸地方篠山區浦和地方同區東京區同地方各裁判所檢事に歷補し大正十二年少年審判官に任じ現に東京少年審判所長たり兼て日本大學に於て教鞭を執り學生の薫育に從事せり家族は尙長女華江(大三、一〇生)二男正光(同五、八生)三男進(同一〇、一生)二女芳子(同一三、一二生)あり(東京市外野方町上沼袋二四電四谷二〇四〇)

參照—吉植庄一郎※白鳥庫吉の項

鈴木格三郎

青島日本商工會議所會頭、日華製絲(株)常務取締役、山東倉庫(株)取締役、長野縣在籍

母　きく　安政元、二生、長野、藤澤茂左衛門二女
妻　あい　明二七、四生、長野、片倉武雄妹
男　要雄　大三、七生

君は長野縣人鈴木長兵衛の三男にして明治二十年十一月を以て生れ大正二年家督を相續す明治四十一年東亞同文書院商務科を卒業し現時前記各會社の重役にして青島日本商工會議所會頭に擧げらる曾て山東起業青島取引所各會社の取締役たりし事あり家族は倘二男愼二(大八、七生)及亡兄良之助妻てる(明一三、六生、長野、宮崎龜太郎長女)あり姉みる(同一三、三生)は長野縣人花岡健之助の養子となり弟梶四郎(同二三、三生)は同妻とさ(同二六、七生、長野、小林伊喜彌五女)を伴ひ分家せり(支那、青島、奉天路)

參照＝片倉武雄※小田切齊太郎※片倉三平※武井覺太郎※中川安五郎の項

鈴木懿太郎

大藏省營繕管財局事務官兼大藏事務官、東京府士族

母　ヤス　明六、九生、山口、士、品川氏章長女
妻　隆子　明三六、六生、東京、士、志賀直温三女、第三高等女學校出身

鈴木家は代々舊日向高鍋藩に仕へ重臣たり先代馬左也夙に帝國大學法科大學を出で地方書記官農商務省參事官兼特許局審査官會法制局參事官等に歷任せしが明治三十九年官を辭し西園寺公の推擧により住友家に入り同年商工業視察の爲め歐米各地を巡遊す歸朝後同家理事に進み支配人を兼ね同三十七年遂に住友總本店總理事に擧げらる先に藍綬褒章を賜り大正四年特旨を以て從五位に敍せられ同十一年正五位勳三等に敍せらる君は其長男にして明治二十七年四月を以て生れ大正十一年家督を相續す第一高等學校を經て大正八年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し尋で文官高等試驗に合格す大正十一年九年米國に航して經濟學を修め尋で英國に留學し同十四年二月歸朝し再び大藏省に奉職せり家族は倘弟百二(明二九、一一生、法學士)同妻時(同三八、七生、靜岡、中西龜太郎二女、京都府立第一高等女學校出身)弟乾三(同三八、六生、米國ウイルブラハム・アカデミー出身)同小四郎(同四〇、八生)妹素(同四二、一〇生)は北海道人是立仁に姉けい(慶應元、九生)は故海軍大尉永田廉平に妹よし(明六、一一生)は東京府士族岡本孋太郎に同利根(同一七、二生)は同府人三田鈔吾に同利根(同一七、二生)は倘府人三田は各其妻子を伴ひ分家し同茂(同一三、六生、陸軍步兵少佐)は滋賀縣人永田榮與祖父榮次郎の養子となれり

參照＝赤須東吾、鈴木三郎、鈴木孝雄、三田鈔吾※井上禧之助※小口勝太郎の項

鈴木寛

從五位勳五等、檢事、靜岡地方裁判所檢事兼靜岡區裁判所檢事
宮城縣在籍

君は愛知縣人鈴木鎌次郎の長男にして明治十二年九月を以て生れ同三十七年家督を相續し前名濱太郎を改め襲名す襲業を晉み愛知縣多額納稅者たり家族は倘二女しな子(大五、一〇生、妹たい(明二一、七生)及び其私生子女弟忠郎(同二六、三生)同妻しづる(同三二、一一生、愛知、林周三郎養子)及び其子女あり妹とめ(同一八、二生)は岐阜縣人今井笑嶺に同てい(同二四、二生)は愛知縣人横井半兵衛に嫁せり(愛知、中島、起町)

鈴木貫太郎

正三位勳一等功三級、海軍大將、海軍軍令部長兼將官會議々員
千葉縣士族
天保九、一〇生、栃木、小野寺治郎三女

母　きよ　明一六、七生、北海道、足立仁姉
妻　タカ　明三四、一一生
男　一　明三五、三生、長男一妻、長野、赤須東吾四女
婦　布美

君は千葉縣士族鈴木由晉の長男にして慶應三年十二月を以て生れ大正六年家督を相續す明治二十年海軍兵學校を卒業し同二十二年海軍少尉に任じ大正十二年海軍大將に累進す其の間海軍大學校を卒業し海軍省軍務局長海軍水雷學校長艦隊司令官海軍省人事局長海軍次官海軍將官會議々員臨時建築部長軍務局長第二艦隊第三艦隊吳鎭守府第一艦隊聯合艦隊各司令長官軍事參議官等に歷補し大正十四年由下大將の後を襲ひ海軍軍令部長に親補せられ日清日露の功により功三級金鵄勳章を賜ふ家族は倘孫哲太郎(大一五、一二生)は長男一長男(明三一、一二生)は兵庫縣士族陸軍砲兵中佐藤江惠輔に二女みつ子(同四〇、一生)は北海道人是立仁に姉けい(慶應元、九生)は故海軍大尉永田廉平に妹よし(明六、一一生)は東京府士族岡本孋太郎に同利根(同一七、二生)は同府人三田鈔吾に同利根(同一七、二生)は倘府人三田は各其妻子を伴ひ分家し同茂(同一三、六生、陸軍步兵少佐)は滋賀縣人永田榮與祖父榮次郎の養子となれり

參照＝赤須東吾、鈴木三郎、鈴木孝雄、三田鈔吾※井上禧之助※小口勝太郎の項

鈴木寛

從五位勳五等、檢事、靜岡地方裁判所檢事兼靜岡區裁判所檢事
宮城縣在籍

慶應元、三生、宮城、士、鈴木大喜智母
明一九、四生、東京、笹本榮藏長女
大一三、一生
明四〇、一一生

鈴木純一郎の二男にして明治十一年四月を以て生れ大正六年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學法律科を卒業し同四十三年檢事に任じ靜岡地方裁判所檢事兼同區山形區同地方白河區郡山區千葉地方同區長野地方同區水戸地方同區各裁判所檢事東京控訴院檢事長崎地方同區長野地方同區水戸地方同區各裁判所檢事を經て昭和三年現職に轉ず家族は倘母四女綾子(大四、六生)五女英子(同七、七生)六女博子(同一〇、七生)の外弟秀雄(明二五、一一生)同妻よしの(同二九、七生、宮城、松坂清紀二女)あり二女敏(同四三、八生)は外祖父笹本榮藏の養子となり妹せつ(同三〇、一〇生、靜岡、山下松一郎妹)同三五、四生)は宮城縣人平塚一郎に同ふさ(同三二、一二生)は東京府人小倉孝三に嫁せり(靜岡地方裁判所官舍)

鈴木喜左衛門

天龍木材(株)取締役、金原疎水財團理事、靜岡縣在籍
嘉永六、一二生、靜岡、澤木久七長女

母　たき　明一三、一一生、靜岡、山下松一郎妹
妻　こしん　明三五、四生
男　俊雄　明三九、一一生、長男俊雄妻、靜岡、瀧口彦四郎三女
婦　さく

君は靜岡縣人鈴木豐次郎の長男にして明治八年一月を以て生れ大正二年家督を相續す現時前記各會社の取締役にして金原疎水財團理事を兼ぬ家族は倘二女澄子(大七、四生)孫達也(同一五、一〇生、長男俊雄長男)あり長女みちよ(明三七、一一生)は靜岡縣人齋藤勝二に嫁せり(靜岡、濱名、篠原村)

參照＝瀧口彦四郎の項

鈴木紀一郎

從五位勳六等、第二高等學校教授
宮城縣士族

父　平六　宮城、士、岩崎平
母　まつの　吉三男、現戸主
妻　りやう　慶應二、一生、祖父春佐三女
男　巖　明二七、二生、湯原清治二女
　　大三、一〇生

君は宮城縣士族鈴木平六の長男にして明治十八年十一月を以て生る同四十三年東京帝國大學文科大學英文科を卒業し岩手縣立一關中學校教諭を經て大正四年第二高等學校教授に任じ現在に至る曩に大正十一年英佛米各國に留學を命ぜられ同十三年歸朝す家族は倘長女みや子(大五、一二生)二女千代子(同七、一生)二男二良(同一一、二生)三男倫男(同一四、二〇生)の外弟政雄(明二三、七生)同妻みや(同二七、八生、宮城、和田珠三三女)及其子女同信次(同二七、九生)同妻ハル子(同三一、四生、新潟、田代孝三女)及其子女同靜男(大二一、一〇生)あり妹よし(同二九、三生)は宮城縣人佐野雄に嫁せり(仙臺、土樋一六〇)

鈴木寛剛

追貝銀行(株)社長、利根實業銀行(株)取締役、群馬縣在籍
文久二、三生、群馬、今井今助姉

母　まき　明二二、一二生、群馬、關高次郎妹
妻　きん　明四二、二生
男　一　明四五、二生
女　歡子　明四五、二生

君は群馬縣人先代喜左衛門の長男にして明治十五年三月を以て生れ大正九年家督を相續し前名源一郎を改め襲名す現時前記銀行の重役たり家族は倘母(大四、一生)四男重雄(同六、一二生)五男宇平(同一〇、四生)の外弟得壽(明二八、一〇生)及其一女あり姉とよ(同二、三、三生)は群馬縣人今井賴次郎に嫁せり(群馬、利根、赤城根村)

參照＝關高次郎の項

生、日本女子大學校附屬高等女學校出身)弟雛房(大元、八生)あり姉千穗(明二三、一〇生、大阪府立清水谷高等女學校出身)は東京府士族大谷正男に妹由幾(同三二、七生、神戸高等女學校出身)は鹿兒島縣人法學士中村四郎に嫁せり(東京、牛込、辨天町三六)

鈴木一馬

正四位勳二等功五級、陸軍中將、東京府士族

妻　チヨウ　明一五、九生、山口、渡邊泰造二女
男　太郎　明三六、六生
次郎　明三八、一〇生
女　三重子　明四一、一〇生

君は青森縣士族鈴木義登の長男にして明治六年六月を以て生れ同二十六年家督を相續す同二十年陸軍砲兵少尉に任じ大正十三年陸軍中將に陞進し同年豫備役に編入せらる曩に近衛野砲兵聯隊長野戰重砲兵第二旅團長たり家族は倘三男三郎(明四五、七生)あり長女八重子(同三四、九生)は東京府人高橋善一に妹とよ(同一〇、一生)は群馬縣士族關口環に嫁し弟武司(同一六、五生)は分家し妹きくる(同一一、九生)は其家籍に入れり(東京、牛込、市谷砂土原町三ノ七)

鈴木勝次郎

埼玉縣多額納稅者、足袋商
埼玉縣士族

養子　乙次郎　明一三、八生、長女こと夫埼玉、久保仙右衛門三男、現戸主
女　こと　明一八、三生、養子乙次郎妻
孫　ちか　明三九、二生、養子乙次郎長女
孫　ふみを　明四二、一生、養子乙次郎二女
孫　よし　大二、二生、養子乙次郎三女

君は埼玉縣人鈴木次郎の長男にして文久三年六月を以て生る足袋商を營み埼玉縣多額納稅者たり家族は倘孫榮一(大一〇、九生、養子乙次郎長男)あり(埼玉、北埼玉、忍町)

鈴木包敦

太平製絲原料(株)取締役、長崎商工會議所書記長、千葉縣在籍

文久三、三生、千葉、齊合石五郎妹
母　しん　明二四、一〇生、福島、士、石井
妻　モト　敷匡養子
男　康包　大八、一一生

君は千葉縣人鈴木圭平の長男にして明治二十三年二月を以て生れ大正六年家督を相續す現に長崎商工會議所

鈴木喜三郎　正三位勲一等、法學博士、貴族院議員、東京府在籍
明九、一二生、東京、士、鳩山一郎姉
妻　カヅ　明二六、二生
男　國久　明二九、八生
嬶　靜代　明三六、一二生、二男國久妻、東京、士、杉山四五郎三女
男　幹雄　明三九、八生
女　園子　明四四、九生

君は神奈川縣人川島富右衛門の三男にして慶應三年十月を以て生れ明治十五年先代慈孝の養子となり家督を相續す同二十四年帝國大學法科大學を卒業し判事に任じ東京地方裁判所判事同部長東京控訴院判事同部長等を經て同四十年司法制度視察の爲歐米差遣中大審院判事となり歸朝後東京地方裁判所長に補せられ同四十三年法學博士の學位を授與さる次で大正元年檢事に任じ司法省刑事局長大審院檢事司法省法務局長司法次官檢事總長等となり曩に清浦内閣當時司法大臣たり昭和二年田中内閣の組閣成るや内務大臣に擧げらる後之を辭し現時貴族院議員たり家族は尚五男博高（明四三、三生）六女淳子（大三、六生）六男正俊（同六、九生）の外孫晉志（同一三、一生、二男國久長男）あり長女淑子（明三二、三生）は神奈川縣人醫學士川島彌三郎に嫁せり（東京、麹町、三番町七一番九段五一〇）

參照―杉山四五郎、鳩山一郎※男爵奥田剛郎※伊藤常夫※上原鹿造※筧克彦※川村貞四郎※田邊治通※鳩山秀夫の項

鈴木喜平治　和歌山縣多額納稅者、熊野共同銀行（株）取締役、市岡土地（株）監査役、鈴木商店（名）代表社員
妻　くに　明一五、一生、和歌山、小山安吉二女
男　忠夫　大二、一生
養子　勤一　明三六、一生、和歌山、鈴木喜兵衛長男

君は和歌山縣人小川平右衛門の長男にして明治二年八月を以て生れ同三十五年先代とみの入夫となり家督相續と共に前名豐吉を改む現時前記銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者たり養子須磨江（明三八、三生、和歌山、鈴木喜兵衛長女）は和歌山縣人鈴木重次郎に嫁せり（和歌山、西卒妻、潮崎村）

鈴木喜兵衛　東京府多額納稅者、德力本店、貴金屬商、東京府在籍
男　一郎　明二六、二生
嬶　ちか　明三一、一生、長男一郎妻、東京
男　國久　明二九、八生
嬶　靜代　明三六、一二生、二男國久妻、東京、士、杉山四五郎三女
男　幹雄　明三九、八生
女　園子　明四四、九生

君は神奈川縣人川島富右衛門の三男にして慶應三年十月を以て生れ明治十五年先代慈孝の養子となり家督を相續す同二十四年帝國大學法科大學を卒業し判事に任じ東京地方裁判所判事同部長東京控訴院判事同部長等を經て同四十年司法制度視察の爲歐米差遣中大審院判事となり歸朝後東京地方裁判所長に補せられ同四十三年法學博士の學位を授與さる次で大正元年檢事に任じ司法省刑事局長大審院檢事司法省法務局長司法次官檢事總長等となり曩に清浦内閣當時司法大臣たり昭和二年田中内閣の組閣成るや内務大臣に擧げらる後之を辭し現時貴族院議員たり家族は尚五男博高（明四三、三生）六女淳子（大三、六生）六男正俊（同六、九生）の外孫晉志（同一三、一生、二男國久長男）あり長女淑子（明三二、三生）は神奈川縣人醫學士川島彌三郎に嫁せり（東京、麹町、三番町七一番九段五一〇）

參照―杉山四五郎、鳩山一郎※男爵奥田剛郎※伊藤常夫※上原鹿造※筧克彦※川村貞四郎※田邊治通※鳩山秀夫の項

鈴木喜兵衛　東京府多額納稅者、德力本店、貴金屬商、東京府在籍
男　一郎　明二六、二生
嬶　ちか　明三一、一生、長男一郎妻、東京
女　都禰　明三八、二生
男　壽郎　明三一、五生
女　千枝　明四四、一〇生

當家は先代喜兵衛より起る喜兵衛は江戸の人金銀地金商德力商店の支配人たりしが維新の際其の倒産に類するに當り代つて主家の事業を繼承し辛苦經營遂に今日の基を成せり君は其の長男にして明治三年三月を以て生れ同二十二年家督を相續し前名長次郎を改む家業を守り現に同業者間の老舖と稱せらる東京府多額納稅者たり長女多代（明二七、九生）は同府人若林大次郎に嫁せり（東京、神田、松田町四電神田二一六）

參照―吉澤忠兵衛の項

鈴木儀兵衛　大谷屋、酒類商
東京府在籍
男　しげ一　明三〇、一二生、養祖父和助二女の養子
妻　うの　大八、八生
男　彦吉　大八、八生

君は愛媛縣人天野吉藏の三男にして明治二十八年十月を以て生れ先代儀兵衛の養子となり大正十年家督相續す家族は尚孫正敏（大九、一二生、養子正泰長男）同三保（同一四、三生、同長女）同いく（昭二、三生、同二女）同慶一（大一三、三生、二男吉太郎長男）あり長女たき（明二二、八生）同夫貴（同一九、一二生、東京、中西孝平四男）養妹あさ（同一三、一生、同夫昌實（同九、四生、青森、士、成田昌治叔父）は各其子女を伴ひ分家し二女やゑ（同二三、一一生）は青森縣士族加藤萬壽男長男勝雄に三女とく（同二四、一〇生）は岩手縣人清川孫次郎に養妹ふじ（同一八、二生）は東京府士族中村繁之助弟富治に嫁せり（青森、三戸、八戸町）

參照＝※橋本八右衛門の項

鈴木吉次郎　愛知縣多額納稅者、酒造業
愛知縣在籍
妻　つせ　明一一、一生、栃木、島村源藏二女
男　弘二　明五、一生
嬶　ふじ　明三、五生、長男弘二妻、靜岡、長谷川房次郎二女
男　英夫　明三四、七生

君は愛知縣人鈴木源吉の長男にして慶應三年四月を以て生れ後家督を繼ぐ飲料水商を營み縣下の多額納稅者たり家族は尚孫茂男、大一〇、二生、長男弘二長男）同靜二（同一三、一生、同二男）あり二女よし（明三〇、九生）は愛知縣人石川信次郎に三女ふみ（同三九、一一生）は同縣人谷直次郎弟顧吉に妹ゆき（同一二、九生）は同縣人田部井卿太郎弟勝藏に嫁せり（豐橋、關屋町）

參照＝谷直次郎の項

鈴木吉十郎　青森縣多額納稅者、八戸商業銀行（株）頭取、八戸水力電氣（株）取締役、青森縣在籍
妻　たか　慶應三、一生、養父吉十郎長女
男　吉太郎　明二六、五生
嬶　レン　明三二、一生、二男吉太郎妻、岩手、山本弘行妹
養子　正春　明三一、一生、五女トミ夫、青森、士、立川玄一郎叔父）は尚孫正泰妻
女　トミ　明三二、六生、養子正春妻
男　孝太郎　明三七、三生
嬶　ひて　明四〇、五生、三男孝太郎妻、青森、中村篤吉長女

君は岩手縣人小笠原重五郎の長男にして元治元年二月を以て生れ先代吉十郎の養子となり明治三十八年家督を相續し前名好吉を改め襲名す現に八戸商業銀行頭取たるの外前記會社の重役を兼ね青森縣多額納稅者たり家族は尚孫正敏（大九、一二生、養子正泰長男）同三保（同一四、三生、同長女）同いく（昭二、三生、同二女）同慶一（大一三、三生、二男吉太郎長男）あり長女たき（明二二、八生）同夫貴（同一九、一二生、東京、中西孝平四男）養妹あさ（同一三、一生、同夫昌實（同九、四生、青森、士、成田昌治叔父）は各其子女を伴ひ分家し二女やゑ（同二三、一一生）は青森縣士族加藤萬壽男長男勝雄に三女とく（同二四、一〇生）は岩手縣人清川孫次郎に養妹ふじ（同一八、二生）は東京府士族中村繁之助弟富治に嫁せり（青森、三戸、八戸町）

參照＝※橋本八右衛門の項

鈴木吉藏　栃木縣多額納稅者、酒造業
栃木縣在籍
妻　イワ　明一一、一生、栃木、島村源藏四女
男　謙吉　明三三、一一生

女　カツ　明二八、二生
女　千代　明三八、一〇生
男　卓二　明四一、一生

君は栃木縣人先代吉藏の男にして明治四年十一月を以て生れ同二十八年家督を相續し前名宅平を改め襲名す酒造業を營み現に栃木縣多額納稅者たり家族は尚三男源三郎（明四三、七生）四男英四郎（大元、一一生）四女登志（同四、六生）五女靜代（同八、一一生）孫和代（同一一、一生、長女カツ長女）あり二女富美（明三〇、一〇生）は栃木縣人豐田宗作に嫁し從兄篤禰（安政三、二生）同妻ケサ（慶應元、三生、埼玉、長澤辰之助姉）及其の一子は共に分家せり（栃木、下都賀、藤岡町）

鈴木吉之助　衆議院議員（京都府選出）、京都市會副議長、京都土地興業、美津濃運動用品各（株）取締役、京都府在籍
母　ナヲ　文久二、一二生、滋賀、田中甚助女
妻　フク　明三〇、八生、東京、松本清吉二女
男　昭成　大六、一〇生

君は京都府人鈴木伊兵衛の三男にして明治二十年一月を以て生れ大正十四年家督を相續す現時前記各會社の重役にして京都市會副議長に推され又昭和三年京都府より衆議院議員に當選す曩に京都府會議員同副議長等に擧げらる家族は尚二男照三（大一〇、一〇生）長女隆子（同一五、一二生）あり（京都、下京、馬町通本町東電下五六四二）

鈴木吉兵衛　下田銀行（株）取締役、伊豆製氷冷藏（株）監査役、靜岡縣在籍
妻　まさ　明二四、二生、神奈川、吉田吉次郎長女
男　長男　明四〇、二生

君は靜岡縣人先代吉兵衛の長男にして明治十一年七月を以て生れ同年家督を相續し襲名す同三十年東京專門學校邦語行政科を卒業し現時前記銀行會社の重役たり家族は尚二男二男（明四三、六生）三男三男也（同四五、二生）長女長女（大三、三生）三女三女（同七、七生）あり（靜岡、賀茂、下田町）

鈴木久吉　資產家
東京府在籍

養母　トメ　嘉永元、一一生、東京、大橋藤助養子
妻　キヨ　明二一、七生、養父喜七三女
男　嘉一郎　大三、五生
女　千代子　明四五、七生

君は東京府人灰谷清助の四男にして大正九年家督を相續す以て生れ先代嘉七の養子となり大正九年家督を相續す資產家として知らる家族は尚二女登志（大七、九生）二男正二（大二、一生）三男未三男（同八、一一生）あり姉リウ（父久元、一生）は新潟縣人鈴木健吉の家籍に入り妹ツネ（明一〇、五生）は同縣人青山松藏長男勇太郎に同シン（同一三、六生）は同縣人渡邊六松長男清次郎に同ミネ（同一二、五生）は同縣人佐野德治に嫁せり（新潟市上大川前通九番町）

參照　渡邊六松の項

鈴木久次郎　安達實業銀行、二本松電氣各（株）取締役、仙北電氣（株）監査役
福島縣士族
男　久彌　明三一、九生
嬶　マツ　明三、九生、三男久彌妻、福島、本間忠二女
男　久　明三八、一一生

君は福島縣士族鈴木希聖の二男にして文久三年三月を以て生れ明治二十三年亡兄彌介の後を承けて家督を相續す現時安達實業銀行取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尚八男正（大三、一生、孫利（同一〇、三生、三男久彌長女）同靜子（同一四、五生、同三女）同富美（同四四女）あり二女マキ（明二四、一一生）

鈴木久兵衛　宮城縣多額納稅者、吉田村長、農業、宮城縣在籍
妻　はな　明一八、九生、東京、稻葉龜吉長女
男　久雄　明三八、一一生
男　房次　明四〇、一〇生
女　司萬　大二、二生

君は愛知縣人鈴木源吉の長男にして慶應三年四月を以て生れ後家督を繼ぐ飲料水商を營み縣下の多額納稅者たり家族は尚孫茂男、大一〇、二生、長男弘二長男）同靜二（同一三、一生、同二男）あり二女よし（明三〇、九生）は愛知縣人石川信次郎に三女ふみ（同三九、一一生）は同縣人谷直次郎弟顧吉に妹ゆき（同一二、九生）は同縣人田部井卿太郎弟勝藏に嫁せり（豐橋、關屋町）

參照＝谷直次郎の項

鈴木吉十郎　青森縣多額納稅者、八戸商業銀行（株）頭取、八戸水力電氣（株）取締役、青森縣在籍
妻　たか　慶應三、一生、養父吉十郎長女
男　吉太郎　明二六、五生
嬶　レン　明三二、一生、二男吉太郎妻、岩手、山本弘行妹
養子　正春　明三一、一生、五女トミ夫、青森、士、立川玄一郎叔父）は尚孫正泰妻
女　トミ　明三二、六生、養子正春妻
男　孝太郎　明三七、三生
嬶　ひて　明四〇、五生、三男孝太郎妻、青森、中村篤吉長女

君は岩手縣人小笠原重五郎の長男にして元治元年二月を以て生れ先代吉十郎の養子となり明治三十八年家督を相續し前名好吉を改め襲名す現に八戸商業銀行頭取たるの外前記會社の重役を兼ね青森縣多額納稅者たり家族は尚孫正敏（大九、一二生、養子正泰長男）同三保（同一四、三生、同長女）同いく（昭二、三生、同二女）同慶一（大一三、三生、二男吉太郎長男）あり長女たき（明二二、八生）同夫貴（同一九、一二生、東京、中西孝平四男）養妹あさ（同一三、一生、同夫昌實（同九、四生、青森、士、成田昌治叔父）は各其子女を伴ひ分家し二女やゑ（同二三、一一生）は青森縣士族加藤萬壽男長男勝雄に三女とく（同二四、一〇生）は岩手縣人清川孫次郎に養妹ふじ（同一八、二生）は東京府士族中村繁之助弟富治に嫁せり（青森、三戸、八戸町）

參照＝※橋本八右衛門の項

鈴木吉藏　栃木縣多額納稅者、酒造業
栃木縣在籍
妻　イワ　明一一、一生、栃木、島村源藏四女
男　謙吉　明三三、一一生

鈴木久太郎　明二六、一生、東京、士、鳩山一郎姉
妻　ちか　明三一、一生、長男一郎妻、東京
女　都禰　明三八、二生
男　壽郎　明三一、五生
女　千枝　明四四、一〇生

當家は先代喜兵衛より起る喜兵衛は江戸の人金銀地金商德力商店の支配人たりしが維新の際其の倒産に類するに當り代つて主家の事業を繼承し辛苦經營遂に今日の基を成せり君は其の長男にして明治三年三月を以て生れ同二十二年家督を相續し前名長次郎を改む家業を守り現に同業者間の老舖と稱せらる東京府多額納稅者たり長女多代（明二七、九生）は同府人若林大次郎に嫁せり（東京、神田、松田町四電神田二一六）

參照―吉澤忠兵衛の項

鈴木儀兵衛　大谷屋、酒類商
東京府在籍
男　しげ一　明三〇、一二生、養祖父和助二女の養子
妻　うの　大八、八生
男　彦吉　大八、八生

君は愛媛縣人天野吉藏の三男にして明治二十八年十月を以て生れ先代儀兵衛の養子となり大正十年家督相續す家族は尚孫正敏（大九、一二生、養子正泰長男）同三保（同一四、三生、同長女）同いく（昭二、三生、同二女）同慶一（大一三、三生、二男吉太郎長男）あり長女たき（明二二、八生）同夫貴（同一九、一二生、東京、中西孝平四男）養妹あさ（同一三、一生、同夫昌實（同九、四生、青森、士、成田昌治叔父）は各其子女を伴ひ分家し二女やゑ（同二三、一一生）は青森縣士族加藤萬壽男長男勝雄に三女とく（同二四、一〇生）は岩手縣人清川孫次郎に養妹ふじ（同一八、二生）は東京府士族中村繁之助弟富治に嫁せり（青森、三戸、八戸町）

參照＝※橋本八右衛門の項

鈴木吉次郎　愛知縣多額納稅者、酒造業
愛知縣在籍
妻　つせ　明一一、一生、栃木、島村源藏二女
男　弘二　明五、一生
嬶　ふじ　明三、五生、長男弘二妻、靜岡、長谷川房次郎二女
男　英夫　明三四、七生

君は愛知縣人鈴木源吉の長男にして慶應三年四月を以て生れ後家督を繼ぐ飲料水商を營み縣下の多額納稅者たり家族は尚孫茂男、大一〇、二生、長男弘二長男）同靜二（同一三、一生、同二男）あり二女よし（明三〇、九生）は愛知縣人石川信次郎に三女ふみ（同三九、一一生）は同縣人谷直次郎弟顧吉に妹ゆき（同一二、九生）は同縣人田部井卿太郎弟勝藏に嫁せり（豐橋、關屋町）

參照―谷直次郎の項

鈴木吉十郎　青森縣多額納稅者、八戸商業銀行（株）頭取、八戸水力電氣（株）取締役、青森縣在籍
妻　たか　慶應三、一生、養父吉十郎長女
男　吉太郎　明二六、五生
嬶　レン　明三二、一生、二男吉太郎妻、岩手、山本弘行妹
養子　正春　明三一、一生、五女トミ夫、青森、士、立川玄一郎叔父）は尚孫正泰妻
女　トミ　明三二、六生、養子正春妻
男　孝太郎　明三七、三生
嬶　ひて　明四〇、五生、三男孝太郎妻、青森、中村篤吉長女

君は岩手縣人小笠原重五郎の長男にして元治元年二月を以て生れ先代吉十郎の養子となり明治三十八年家督を相續し前名好吉を改め襲名す現に八戸商業銀行頭取たるの外前記會社の重役を兼ね青森縣多額納稅者たり家族は尚孫正敏（大九、一二生、養子正泰長男）同三保（同一四、三生、同長女）同いく（昭二、三生、同二女）同慶一（大一三、三生、二男吉太郎長男）あり長女たき（明二二、八生）同夫貴（同一九、一二生、東京、中西孝平四男）養妹あさ（同一三、一生、同夫昌實（同九、四生、青森、士、成田昌治叔父）は各其子女を伴ひ分家し二女やゑ（同二三、一一生）は青森縣士族加藤萬壽男長男勝雄に三女とく（同二四、一〇生）は岩手縣人清川孫次郎に養妹ふじ（同一八、二生）は東京府士族中村繁之助弟富治に嫁せり（青森、三戸、八戸町）

參照＝※橋本八右衛門の項

鈴木吉藏　栃木縣多額納稅者、酒造業
栃木縣在籍
妻　イワ　明一一、一生、栃木、島村源藏四女
男　謙吉　明三三、一一生

鈴木久吉　資產家
東京府在籍

養母　トメ　嘉永元、一一生、東京、大橋藤助養子
妻　キヨ　明二一、七生、養父喜七三女
男　嘉一郎　大三、五生
女　千代子　明四五、七生

君は東京府人灰谷清助の四男にして大正九年家督を相續す以て生れ先代嘉七の養子となり大正九年家督を相續す資產家として知らる家族は尚二女登志（大七、九生）二男正二（大二、一生）三男未三男（同八、一一生）あり姉リウ（父久元、一生）は新潟縣人鈴木健吉の家籍に入り妹ツネ（明一〇、五生）は同縣人青山松藏長男勇太郎に同シン（同一三、六生）は同縣人渡邊六松長男清次郎に同ミネ（同一二、五生）は同縣人佐野德治に嫁せり（新潟市上大川前通九番町）

參照　渡邊六松の項

鈴木久兵衛　宮城縣多額納稅者、吉田村長、農業、宮城縣在籍
妻　はな　明一八、九生、東京、稻葉龜吉長女
男　久雄　明三八、一一生
男　房次　明四〇、一〇生
女　司萬　大二、二生

君は東京府人鈴木長次郎の長男にして明治十年六月を以て生れ同二十一年繼父久兵衛の後を承け家督を相續し前名太郎を改め襲名す資產家たり養に村木商を營み

鈴木久次郎　安達實業銀行、二本松電氣各（株）取締役、仙北電氣（株）監査役
福島縣士族
男　久彌　明三一、九生
嬶　マツ　明三、九生、三男久彌妻、福島、本間忠二女
男　久　明三八、一一生

君は福島縣士族鈴木希聖の二男にして文久三年三月を以て生れ明治二十三年亡兄彌介の後を承けて家督を相續す現時安達實業銀行取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尚八男正（大三、一生、孫利（同一〇、三生、三男久彌長女）同靜子（同一四、五生、同三女）同富美（同四四女）あり二女マキ（明二四、一一生）

鈴木久兵衛　宮城縣多額納稅者、吉田村長、農業、宮城縣在籍
妻　はな　明一八、九生、東京、稻葉龜吉長女
男　久雄　明三八、一一生
男　房次　明四〇、一〇生
女　司萬　大二、二生

君は東京府人鈴木長次郎の長男にして明治十年六月を以て生れ同二十一年繼父久兵衛の後を承け家督を相續し前名太郎を改め襲名す資產家たり養に村木商を營み

鈴木久次郎　安達實業銀行、二本松電氣各（株）取締役、仙北電氣（株）監査役
福島縣士族
男　久彌　明三一、九生
嬶　マツ　明三、九生、三男久彌妻、福島、本間忠二女
男　久　明三八、一一生

君は福島縣士族鈴木希聖の二男にして文久三年三月を以て生れ明治二十三年亡兄彌介の後を承けて家督を相續す現時安達實業銀行取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尚八男正（大三、一生、孫利（同一〇、三生、三男久彌長女）同靜子（同一四、五生、同三女）同富美（同四四女）あり二女マキ（明二四、一一生）

鈴木久兵衛　宮城縣多額納稅者、吉田村長、農業、宮城縣在籍
妻　はな　明一八、九生、東京、稻葉龜吉長女
男　久雄　明三八、一一生
男　房次　明四〇、一〇生
女　司萬　大二、二生

君は東京府人鈴木長次郎の長男にして明治十年六月を以て生れ同二十一年繼父久兵衛の後を承け家督を相續し前名太郎を改め襲名す資產家たり養に村木商を營み

君は東京府人鈴木重吉の長男にして萬延元年二月を以て生れ明治二十八年家督を相續す大黒屋と稱し有價證券賣買業を營む維に四谷銀行取締役兼牛込支店長たり事あり家族は尚孫重一（大三、二生、長男吉太郎長し男）同喜代子（同五、二生、同二女）同英男（同一、七生）は東京府人池田倉吉に三女多嘉女しき（明一九、七生）は同府人仁科象次郎長男眞太郎（東京高等商業學校出身）に四女花（同二九、二生、府立第三高等女學校出身）は富山縣人櫻井和一郎長男正信に嫁せり（東京、四谷、坂町三一電四谷三一二八）

参照―福井久信の項

鈴木庫太郎　尼崎共立銀行、澤原銀行、大東海上火災保險各(株)取締役、富士生命保險各(株)監査役、藤田組(名)理事、靜岡縣在籍

明二、九生、東京、西村鎌吉二女
大六、五生
明四三、一一生、神戸高等女學校在學

君は靜岡縣人鈴木傳藏の長男にして明治七年十二月を以て生れ同四十三年家督を相續す同三十四年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し日本銀行に入り後愉敬支店詰となり滯英三ケ年半にして歸朝す爾來累進して新潟支店長となり大正五年之を辭し同八年藤田銀行の創立に際し之が常務取締役となる現時藤田組理事にして前記銀行會社の重役たり長女よし(明三九、九生、西宮高等女學校出身)は滋賀縣人新堂喜作に二女ふみ(同三九、九生、金陽會高等女學校出身)は岐阜縣人奥村久九、九生、金陽會高等女學校出身)は滋賀縣人新堂喜作に二女ふみ(同三郎長男義郎に嫁し二男庫三(大八、四生)は東京府人西村平藏に弟篠平(明三〇、四生)は同府人芦田菊次郎に同棲し二男一女あり(東京、麻布、笄町一七五電青山四二三六)

鈴木圭二　養父重郎、母テル

鈴木圭三　東京府多額納稅者、東株代行(株)取締役、中華企業(株)監査役、東京株式取引所(株)商議員、萬屋商店、東京株式取引所取引員

東京府在籍
明一〇、八生、東京、加茂捨次郎妹
明三二、二生
明三五、一〇生、慶應義塾大學經濟學部出身、大阪商事會社員
明四〇、七生、御茶の水高等女學校出身

鈴木敬一　父桓次

従五位、復興書記官、東京第四出張所勤務、東京府在籍
東京、赤坂、表町四ノ一三
電青山六九〇

君は靜岡縣人鈴木嘉一郎の弟にして明治五年二月を以て生れ後分れて一家を創立す夙に上京して明治大學に學び後柏谷商店に勤務し同三十七年東京株式取引所一般取引員となり爾來二十有餘年健實主義を以て斯界に著はれ現に東京府多額納稅者に列し前記諸會社の重役に擧げらる書畫骨董を愛玩す長男一衞は慶應義塾大學經濟學部を卒業し大正十一年渡米經濟學を研究し後倫敦に學び昭和二年歸朝す(東京、赤坂、表町四ノ一三
電青山六九〇)

鈴木謙三郎　妻トサ

女　睦子　明四四、七生

君は兵庫縣人岡田榮五郎の二男にして明治十五年九月を以て生れ先代トサの入夫となり家督を相續す同三十四年先代シマの入夫となり家督を相續す農を業とし縣下の多額納稅者たり家族は尚孫庸義（大五、四生、二男敬爾二男）同かう子（同七、二生、同五女）同泰子（同九、一〇生、同六女）同莊平（同一二、一生、同三男）同きみ子（同一四、四生、同七女）同ヒデヨ（同一五、五生、同八女）あり三男徹（明二一、一生）は其妻みや（同一九、一二生、千葉、川口平助三女）を伴ひ分家し長女りつ（同二四、九生）は千葉縣人信田亘治に嫁せり（千葉、山武、二川村）

鈴木五三郎　小林運送店、株式社長、中央計算所(株)取締役、秋葉原運送、中外運送各(株)監査役、埼玉縣在籍

妻　のぶ　元治元、五生、養父萬二長女
女　籌子　明四一、七生

君は埼玉縣人小林兵右衞門の三男にして文久二年一月を生て生れ先代萬二の養子となり明治十六年家督を相續す現時小林運送店社長外前記各會社の重役たり家族は尚養弟德三(明一二、二生)同妻せい(同一六、八生、埼玉、小島かく養妹)及其一子あり長女はる(同二〇、一〇生)は秋田縣人近江湖雄三に二女みち(同二四、一生)は埼玉縣人識口勉哉に三女ちん（同二八、一生）は福岡縣士族岡野鑑記に五女るい(同三三、八生)は東京府人櫻井元に養子ため(同一四、一二生、埼玉、並木喜八郎妹)は埼玉縣人柴崎彌右衞門弟忠次郎に嫁し亡養妹とよ夫愛作(同八、七生、群馬、小林半三郎弟)は其子女を伴ひ分家せり(東京、四谷、鹽町一ノ二六)

鈴木五郎作　妻　こと
男　幸作　明六、四生、現戸主

濱松商工會議所副會頭、濱松委託濱松證券各(株)社長、濱松貯蓄銀行、遠州銀行、濱松織道各(株)取締役、日本形染、日本染器製造、山葉洋行各(株)監査役、靜岡縣在籍
安政二、二生、愛知、加藤金七二女

君は靜岡縣人鈴木彌助の長男にして安政二年九月を以て生れ後家督を相續し大正十三年前名幸作を改め退隱す現時前記銀行會社の重役にして推されて濱松商工會議所副會頭たり(濱松、成子町)

参照―鈴木幸作の項

母　たけ　明五、六生、新潟、曾根太郎養子

妻　照　明三〇、七生、京都、大石繁吉長女

君は東京府人鈴木桓次の長男にして明治二十二年七月を以て生る大正三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格す爾來島根縣警視同縣球磨郡長同縣理事官長崎縣理事官大阪府警視山口縣岡各縣警察部長に歷任し大正十四年警視廳書記官保安部長となり昭和二年復興局書記官に任ぜられ現に東京第四出張所勤務たり家族は尚長女綾子(大六、六生)二女雅子(同一一、九生)弟武夫(明三三、八生)同妻俊子(同三九、一一生、北海道、山本厚三長女)あり(東京、北多摩、武藏野村)

参照―大石繁吉、山本厚三の項

鈴木銈太郎　従五位勲五等、檢事、宮崎地方裁判所檢事兼宮崎區裁判所檢事

東京府在籍
安政四、一生、東京、士、野間成正長女

母　いく　明一六、九生、東京、福田新太郎長女
妻　きやう　明四二、四生
男　一郎　明五九、一生
女　その　明四三、一生

君は東京府人鈴木賢治の長男にして明治十一年六月を以て生れ同三十九年家督を相續す同三十四年東京法學院を卒業し同三十五年判檢事登用試驗に合格し同四十一年判事に任じ青森地方裁判所判事兼同區裁判所判事に補せられ爾來鶴岡酒田遠野横手大曲各區裁判所判事に歷補し大正十一年檢事に轉じ盛岡區裁判所檢事兼同地方裁判所檢事八代區裁判所檢事兼熊本地方裁判所八代支部檢事佐賀地方裁判所檢事兼同區裁判所檢事等を經て現時前記の職にあり家族は尚三男次郎(明四三、九生)二女ふさ(大四、八生)四男末四郎(同九、三生)三女とする(同一二、一二生)の外姉のふ(明九、一生)弟茂(同二一、五生)同妻とる(同三四、一二生、山梨、中村久義妹)及其一子弟直(同二九、一〇生)あり(宮崎地方裁判所官舍)

鈴木憲太郎　正八位、衆議院議員(宮崎縣選出)延岡電氣(株)取締役、宮崎縣士族

妻　セイ　明一八、四生、宮崎、工藤熊治二女
男　皓　明三四、八生

鈴木元　古河電氣工業(株)營業部長

東京府士族
明八、二生、東京、佐原梅吉姉
明二五、三生、長野、奥澤喜十郎長女
男　一郎　明四二、四生
女　その　明三九、一生

君は東京府士族鈴木一政の長男にして明治十七年十二月を以て生れ明治三十九年東京法學院を卒業し同年判事に任じ青森地方裁判所判事兼同區裁判所判事に補せられ爾來鶴岡酒田遠野横手大曲各區裁判所判事に歷補し大正十一年檢事に轉じ盛岡區裁判所檢事兼同地方裁判所檢事八代區裁判所檢事兼熊本地方裁判所八代支部檢事佐賀地方裁判所檢事兼同區裁判所檢事等を經て現時前記の職にあり家族は尚三男次郎(明四三、九生)二女ふさ(大四、八生)四男末四郎(同九、三生)三女とする(同一二、一二生)の外姉のふ(明九、一生)弟茂(同二一、五生)同妻とる(同三四、一二生、山梨、中村久義妹)及其一子弟直(同二九、一〇生)あり(宮崎地方裁判所官舍)

鈴木憲太郎　正八位、衆議院議員(宮崎縣選出)延岡電氣(株)取締役、宮崎縣士族

妻　セイ　明一八、四生、宮崎、工藤熊治二女
男　皓　明三四、八生

鈴木銈太郎　従五位勲五等、檢事、宮崎地方裁判所檢事兼宮崎區裁判所檢事

東京府在籍
安政四、一生、東京、士、野間成正長女

母　いく　明一六、九生、東京、福田新太郎長女
妻　きやう　明四二、四生
男　一郎　明四二、四生
女　その　明三九、一生

君は東京府人鈴木賢治の長男にして明治十一年六月を以て生れ同三十九年家督を相續す同三十四年東京法學院を卒業し同三十五年判檢事登用試驗に合格し同四十一年判事に任じ青森地方裁判所判事兼同區裁判所判事に補せられ爾來鶴岡酒田遠野横手大曲各區裁判所判事に歷補し大正十一年檢事に轉じ盛岡區裁判所檢事兼同地方裁判所檢事八代區裁判所檢事兼熊本地方裁判所八代支部檢事佐賀地方裁判所檢事兼同區裁判所檢事等を經て現時前記の職にあり家族は尚三男次郎(明四三、九生)二女ふさ(大四、八生)四男末四郎(同九、三生)三女とする(同一二、一二生)の外姉のふ(明九、一生)弟茂(同二一、五生)同妻とる(同三四、一二生、山梨、中村久義妹)及其一子弟直(同二九、一〇生)あり(宮崎地方裁判所官舍)

鈴木源二郎　千葉縣多額納稅者、農業

千葉縣在籍
安政五、九生、千葉、大木正平二女

君は東京府士族鈴木一政の長男にして明治十七年十二月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治三十九年東京高等商業學校を卒業し古河電氣工業會社に入り現に同社營業部長たり家族は尚弟享(明二三、一生)同妻芳子(同二九、一〇生、東京、梅岡鹿之助三女)及其三女あり(東京、牛込、余丁町四八電
四谷四八九六)

鈴木源二郎　千葉縣多額納稅者、農業

千葉縣在籍
安政五、九生、千葉、大木正平二女

君は東京府士族鈴木一政の長男にして明治十七年十二月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治三十九年東京高等商業學校を卒業し古河電氣工業會社に入り現に同社營業部長たり家族は尚弟享(明二三、一生)同妻芳子(同二九、一〇生、東京、梅岡鹿之助三女)及其三女あり(東京、牛込、余丁町四八電
四谷四八九六)

鈴木謙三郎　住友銀行(株)常任監査役

大阪府在籍
明一三、八生、大阪、士、鈴木仁十郎姉、大阪梅花女學校出身

君は宮崎縣士族小林乾一郎の二男にして明治十五年九月を以て生れ明治三十四年先代シマの入夫となり家督を相續す農を業とし縣下の多額納稅者たり家族は尚孫庸義（大五、四生、二男敬爾二男）同かう子（同七、二生、同五女）同泰子（同九、一〇生、同六女）同莊平（同一二、一生、同三男）同きみ子（同一四、四生、同七女）同ヒデヨ（同一五、五生、同八女）あり三男徹（明二一、一生）は其妻みや（同一九、一二生、千葉、川口平助三女）を伴ひ分家し長女りつ（同二四、九生）は千葉縣人信田亘治に嫁せり（千葉、山武、二川村）

鈴木五三郎　小林運送店、株式社長、中央計算所(株)取締役、秋葉原運送、中外運送各(株)監査役、埼玉縣在籍

妻　のぶ　元治元、五生、養父萬二長女
女　籌子　明四一、七生

君は埼玉縣人小林兵右衞門の三男にして文久二年一月を生て生れ先代萬二の養子となり明治十六年家督を相續す現時小林運送店社長外前記各會社の重役たり家族は尚養弟德三(明一二、二生)同妻せい(同一六、八生、埼玉、小島かく養妹)及其一子あり長女はる(同二〇、一〇生)は秋田縣人近江湖雄三に二女みち(同二四、一生)は埼玉縣人識口勉哉に三女ちん（同二八、一生）は福岡縣士族岡野鑑記に五女るい(同三三、八生)は東京府人櫻井元に養子ため(同一四、一二生、埼玉、並木喜八郎妹)は埼玉縣人柴崎彌右衞門弟忠次郎に嫁し亡養妹とよ夫愛作(同八、七生、群馬、小林半三郎弟)は其子女を伴ひ分家せり(東京、四谷、鹽町一ノ二六)

鈴木五郎作　妻　こと
男　幸作　明六、四生、現戸主

濱松商工會議所副會頭、濱松委託濱松證券各(株)社長、濱松貯蓄銀行、遠州銀行、濱松織道各(株)取締役、日本形染、日本染器製造、山葉洋行各(株)監査役、靜岡縣在籍
安政二、二生、愛知、加藤金七二女

君は靜岡縣人鈴木彌助の長男にして安政二年九月を以て生れ後家督を相續し大正十三年前名幸作を改め退隱す現時前記銀行會社の重役にして推されて濱松商工會議所副會頭たり(濱松、成子町)

参照―鈴木幸作の項

鈴木五六　衆議院議員（愛知縣選出）、辯護士　愛知縣在籍
祖母　いわ　弘化二、三生、愛知、高橋小十郎養叔母
母　ゑつ　慶應元、九生、祖父三十郎長女
妻　とく　明一九、二生、愛知、栗原正之助妹
男　三重郎　明四〇、八生
女　鈴子　明四五、二生
君は愛知縣人鈴木玉吉の長男にして明治十六年十一月を以て生れ大正十四年家督を相續す先是明治三十五年中央大學を卒業し辯護士となる昭和三年衆議院議員に當選し現に其任に在り曩に愛知縣會議員同議長に推擧せらる家族は尚三男士郎（明四三、三生）の外弟誠之（同二九、四生）同妻千代（同三三、一一生、愛知、岡本榮吉七女）及其三子あり（豐橋、中八町）
參照＝高橋小十郎の項

鈴木孝之助　正四位勳二等、醫學博士、海軍々醫中將、醫師、東京府士族
妻　しん　明七、六生、東京、野口直三郎養子
養子　哲夫　明三三、四生、愛知、河邊彌作六男、醫學士
養子　五郎　明三五、一生、三女愛夫、神奈川、沼上權太郎弟
女　愛　明三六、三生、養子五郎妻、山脇高等女學校出身
女　德　明四〇、一一生、東洋英和女學校出身
女　敏子　明四四、三生
君は三河國舊田原藩士鈴木方舊の三男にして安政元年七月を以て生れ明治十二年家督を相續す夙に醫學を修め海軍々醫に任じ同三十三年海軍々醫監に陞任す其間橫須賀吳佐世保各鎭守府醫務部長を歷補し海軍々醫中將に陞進し同三十九年豫備役に編入さる先是同三十五年醫學博士の學位を受く現時醫業に從事し別に相州七里ケ濱に鈴木療養所を設立經營し專ら呼吸器病の診療に從ふ書及圍碁の趣味あり長女方（明二〇、四生）は子爵押小路公知の母にして二女信（同二五、一生）は醫學博士八田善之進に嫁し二男忠之（同二一、六生）は分家せり（東京、麻布、飯倉片町五電青山六一一一）
參照＝子爵押小路公知、八田善之進の項

鈴木幸作　靜岡縣多額納稅者、濱名石材（株）社長、城北機業、濱松證券、千代田機械製靴各（株）取締役、醬油釀造業、靜岡縣在籍
父　五郎作　安政二、九生
妻　まさ　明一二、二生、靜岡、山田啓太郎長女
男　敬三　大三、一〇生
女　しげ　明四二、三生
君は靜岡縣人鈴木五郎作の長男にして明治六年四月を以て生れ大正十三年家督を相續し前名小吉を改め襲名す醬油釀造業を營み靜岡縣多額納稅者にして前記各會社の重役たり家族は尚四女美子（大五、四生）四男寛（同八、一〇生）從弟正雄（明三六、八生）あり（濱松、成子町）
參照＝鈴木五郎作の項

鈴木幸平　勢南銀行（株）取締役　三重縣在籍
妻　むめ　明元、一生、三重、近藤市三郎妹
養子　助生　明三三、六生、養子たかへ夫、三重、小藪助次右衞門二男
養子　たかへ　明三四、四生、養子助生妻、三重、津田猶平長女
君は三重縣人鈴木磯八の長男にして安政三年五月を以て生れ明治十二年家督を相續す現時勢南銀行取締役たり家族は尚孫いちへ（大一一、四生、養子助生長女）同幸（同一四、九生、同長男）あり（三重、多氣、下御絲村）

鈴木晃輔　須磨病院長、醫師　兵庫縣在籍
妻　まつの　文久三、五生、兵庫、士、大庭助左衞門長女
養子　梅吉　明二四、三生、千葉、根本啓助三男
婦　順　明三〇、五生、養子梅吉妻、兵庫、藤堂忠次郎二女
君は千葉縣人根本新藏の二男にして安政六年二月を以て生れ後ち先代元長の養子となり明治三十年家督を相續す醫師にして現時須磨病院長たり家族は尚孫晃太郎（大七、四生、養子梅吉長男）同信男（同一〇、一生、同二男）同誠三（同一三、六生、同三男）同豐（昭二、一生、同四男）の外妻甥四郎（明三二、一一生）あり養妹やす（同七、三生、東京、士、田中定輝二女）は其の一子を伴ひ分家せり（神戸、西代町上西谷一ノ一電須磨三七三）
參照＝※吉田長祥の項

鈴木浩一　埼玉縣多額納稅者、釀造業　埼玉縣在籍
妻　いは　明一一、四生、埼玉、新井恭明妹
男　一郎　明三五、一一生
女　貞　明二四、一〇生
男　多助　明四一、八生
君は埼玉縣人鈴木和十郎の長男にして安政六年十二月を以て生れ明治十二年家督を相續す釀造業を營み縣下の多額納稅者たり妹とみ（元治元、八生）は東京府人馬場周輔に養子まさ（明五、一二生、東京、渡邊淸吉妹）は埼玉縣人澁谷仲次郎に嫁し五女久子（同三八、九生）は東京府人鈴木濱子の死跡を相續し二女榮（同二二、一一生）は其子女と共に分家し四女濱子（同三七、二生）は埼玉縣人川島梅吉の養子となれり（埼玉、比企、中山村）
參照＝※西川武十郎の項

鈴木左內　埼玉農工銀行（株）取締役　埼玉縣在籍
妻　ふく　明一二、三生、東京、粕屋米治郎二女
男　正彥　明三六、一生
女　文子　明三九、一生
女　綾子　明四一、一〇生
君は埼玉縣人鈴木彥太郎の長男にして明治六年七月を以て生れ大正十一年家督を相續す夙に實業界に入り現時埼玉農工銀行取締役たり家族は尚二男旭彥（大元、一一生）及妹すく（明一六、一二生）あり（埼玉、北足立、新倉村）

鈴木佐兵衞　千葉縣多額納稅者、北總自動車（資）代表社員、酒造業　千葉縣在籍
妻　すゞ　明二一、七生、先々代作兵衞孫
男　・太郎　大二、一生
女　英子　明四四、八生
君は千葉縣人石毛元治郎の四男にして明治十八年九月を以て生れ同四十四年先代すゞの入夫となり家督を相續し前名貞二郎を改む酒造業を營み千葉縣多額納稅者にして現時北總自動車會社代表社員たり家族は尚二男二郎（大三、五生）あり（千葉、香取、佐原町）

鈴木坂鐵　從五位勳四等、朝鮮總督府技師、總督官房土木課勤務、愛知縣在籍
母　すみ　天保一四、六生、愛知、酒井圓藏長女
妻　とき　明一七、九生、愛知、陸井太右衞門四女
男　鏘　大八、一生
女　鈴子　明四三、二生
君は愛知縣人鈴木福藏の長男にして明治六年五月を以て生れ同三十八年家督を相續す同三十四年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し神戸市港川改修會社技師韓國政府度支部水道局技師內務技師等を經て同四十四年朝鮮總督府技師に任じ現に總督官房土木課勤務たり曩に大正十二年歐米各國に出張を命ぜらる家族は尚三女鉦子（大六、三生）あり（京城、總督府官房土木課）
參照＝※伊東延吉の項

鈴木榮　今村事務所主任　東京府士族
女　安　明三七、七生
君は東京府士族鈴木萬の長男にして明治六年八月を以て生れ同二十三年家督を相續す現に今村事務所主任たり家族は尚五女貞（大五、九生）あり（東京、麻布、本村町一四六電高輪七〇五四）

鈴木三郎　正五位勳三等、海軍主計大尉、貞光電力（株）社長、日新電機（株）監查役、臺灣合同電氣、川北電氣企業社各（株）顧問、千葉縣在籍
妻　トネ　明一九、二生、東京、士、木下道雄姉
男　平太　明四〇、一〇生
女　須磨　明四二、一二生
君は海軍大將鈴木貫太郎同孝雄の弟にして明治九年三月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す明治三十四年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し海軍に入り主計大尉に昇任後臺灣總督府參事官同祕書官關東都督府外事總長等に歷任し後官を辭し實業界に轉じ現に前記各會社の重役たり家族は尚二男敏夫（明四五、二生）三男義雄（大三、六生）あり（京都、葛野、太秦村安井一一電西陣九一八）
參照＝木下道雄、鈴木貫太郎、鈴木孝雄※三田鈔吾の項

鈴木三郎　阿部商事（株）專務取締役、山本オブラート、日本莊園、鈴木商店各（株）取締役、唐津採炭（株）監査役、東京府在籍
妻　シヅ　明三〇、三生、神奈川、福田大吉二女
君は東京府人鈴木太郎の弟にして明治二十二年一月を以て生れ大正四年分家して一家を創立す現時阿部商事會社專務取締役たる外前記諸會社の重役たり家族は尚長女智惠（大四、五生）二女百合子（同七、一生）あり（東京市外入新井町不入斗八八電大森八五三）
參照＝鈴木太郎※阿部五市の項

鈴木三郎助　鈴木商店、東信電氣各（株）社長、大和釀造（株）監査役、味の素本舗　神奈川縣在籍
妻　テル　明元、八生、神奈川、辻井繁七二女
男　三郎　明二三、六生、鈴木商店（株）取締役
婦　公　明三〇、一〇生、長男三郎妻、石川、麻生雄之輔長女
女　壽　明四二、四生、府立第三高等女學校出身
君は神奈川縣人先代三郎助の長男にして慶應三年十二月を以て生れ明治十七年家督を相續す夙に實業界に入り沃度の製造を企て之に成功し又他方味の素の發賣を開始し今日の隆盛を致せり現時鈴木商店東信電氣各會社々長並大和釀造會社監査役たり曩に沃度製造事業の功績により紺綬褒章を又公益の爲め私財を提供したる廉により紺綬褒章を授けらる家族は尚ほ孫榮（大六、六生、長男三郎長女）同禎（同八、三生、同二女）同重明（同一一、八生、同長男）あり二女トミ（明二五、一二生）は其夫六郎（同二二、三生）と共に分家し養子百太郎（同一二、六生）弟忠治（明八、二生）も亦各分家せり（東京、芝、高輪南町五九電高輪七七〇）
參照＝鈴木忠治、鈴木百太郎、鈴木六郎※鹿島淸左衞門の項

鈴木茂　森町銀行、中央釀造各（株）取締役、遠江合同貯蓄銀行（株）監査役　靜岡縣在籍
養母　てつ　嘉永二、一二生、靜岡、西尾雄一郎三女
男　幸平　明二八、七生
婦　靜惠　明三三、八生、長男幸平妻、靜岡、北島錄三郎長女
男　佑次　明三四、五生
男　旭　明四一、八生
君は靜岡縣人松野平九郎の二男にして明治二年十月を以て生れ後先代彥平の養子となり家督を繼ぐ同二十四年慶應義塾別科を卒業し現に前記銀行會社の重役たり家族は尚四男進（明四四、八生）孫道子（大一二、一〇生、長男幸平長女）あり長女キク（明三七、一〇生）は奈良縣人佐藤英一に嫁し養弟保（同二六、一生）は靜岡縣人鈴木ゑきの入夫となれり（靜岡、周智、飯田村）

鈴木茂　地主　東京府在籍
母　しま　明七、一一生、東京、佐々木宮次郎養子
君は東京府人鈴木茂助の孫にして明治三十四年九月を以て生れ大正四年家督を相續す地主たり家族は尚庶子民子（大一五、六生、生母、東京、水野まつ）の外姉フミ（明三〇、三生）あり（東京市外瀧野川町田端六三七電小石川三四八六）

鈴木茂雄　大阪商工會議所議員、大阪電氣分銅（株）社長、塚口土地（株）取締役　岐阜縣在籍
妻　きん　明八、七生、岐阜、岩塚鴻之輔長女
男　誠　明三〇、六生
婦　たみ　明三一、六生、長男誠妻、茨城、池羽萬里子姉
男　進　明三三、一生
男　弘　明三五、七生
男　道雄　明三七、一二生
女　美子　明四三、二生
女　貞子　大二、二生
君は岐阜縣人鈴木源十郎の二男にして慶應元年二月を以て生れ明治二十五年分家して一家を創立す夙に東京

専門學校を卒業し現時前記各會社の重役として知られ又大阪商工會議所議員に擧げらる家族は尙ほ五男昌雄(大八、九生)孫瑠璃子(同一〇、四生、長男誠長女)同百合子(同一一、八生、同二女)あり長女絢子(明四〇、八生)は大阪府人中川正男に嫁し四女桂子(大五、八生)は岐阜縣人赤貫一郎の養子となり(大阪、住吉、天王寺町明治通二六一九電天王寺二五九)

鈴木茂太郎　酒類商　東京府在籍

祖母　もと　慶應二、一二生、神奈川、齋藤安平長女

母　あさ　明三二、一生、埼玉、松村平八二女

君は東京府人鈴木由兵衞の長男にして大正九年三月を以て生れ同十三年家督を相續す酒類商を營む家族は尙ほ妹邦子(大一〇、四生)あり叔父茂三郎(明三一、三生)は分家せり(東京、芝、櫻田備前町一三)

參照＝※齋藤龜三郎の項

鈴木重雄　從五位、大藏省營繕管財局書記官　滋賀縣在籍

母　とき　安政三、六生、滋賀、督忠左衞門三女

妻　タミ　明二五、一生、島根、豐原爲藏三女

男　滋　大六、二生

君は滋賀縣人鈴木善四郎の長男にして明治十五年一月を以て生れ同三十年家督を相續す大正四年京都帝國大學法科大學法律科を卒業し文官高等試驗に合格す爾來大藏屬司稅官稅務監督局事務官等に歷任し大正十四年營繕管財局書記官に任ぜられ現時其職に在り家族は尙ほ男敏夫(大一〇、一生)三男清(同一三、四生)長女美知子(昭二、五生)あり弟周藏(明二二、一一生)は滋賀縣人新堂治助の養子となり同四郎(同二三、九生)は同妻みつ(同三一、二生、滋賀、藤原箕之助二女)及其一女を伴ひ分家し妹はつ(同三一、四生)は滋賀縣人田中伊助に嫁せり(東京市外千駄ヶ谷町五六二電青山三三四六)

鈴木重臣　大日本製糖、臺灣炭業各(株)取締役、臺灣鐵工所(株)監査役　靜岡縣在籍

父　勝三郎　嘉永六、四生

妻　うら　明一一、三生、靜岡、久保田利吉長女

男　美夫　明四一、一生

女　玉子　明三八、一〇生

君は靜岡縣人鈴木勝三郎の長男にして明治四年十二月を以て生れ大正六年家督を相續す明治二十九年慶應義塾を卒業し現時大日本製糖會社取締役の外前記各會社の重役たり家族は尙ほ三男攝三(明四三、九生)四男大吉(大元、一一生)五男重吉(同四、三生)三女昌子(同一一、一生)弟恒寧(明一五、一生)同妻ひさ(同二二、一生、靜岡、田代孫作長女)及其二男二女あり(臺灣、臺南、虎尾、虎尾庄)

鈴木重勝　神奈川縣在籍

養子　重吉　明三三、六生、東京、中村釜吉二男

君は神奈川縣人鈴木重純の長男にして明治六年十一月を以て生れ同三十年家督を相續す夙に實業界に入りふ家族は尙ほ孫正信(大九、八生、二男信敏長男)同道子(同一二、七生、同長女)同照信(昭二、一生、同二男)同寧行(大一二、九生、三男敏行長男)同孝行(同一四、一生、同二男)同基一(同一三、九生、四男軍六)長女幾重(明二四、五生)は海軍少將小倉嘉明に嫁し弟主計(元治元、六生)は同妻じう(明三、一〇生、石川、士、瓜生傳治妹)及其一男三女を伴ひ分家せり(東京市外大久保町百人町二六八電四谷一二三七)

參照＝小倉嘉明、北川重夫、佐々木勇之助※男爵瓜生外吉※岡實※佐々木脩次郎※立石信郎※關原忠三の項

鈴木鎭雄　從五位勳五等、宮內技師、內匠寮勤務、東京府士族　安政五、七生、愛媛、丸木九十郎二女

母　たま　明二八、一生、東京、河島良溫長女

妻　重　明二八、一生、東京、中村釜吉長女、長岡高等女學校出身

男　二郎　大八、一二生

君は東京府士族鈴木信一の長男にして明治十七年一月を以て生れ大正十五年家督を相續す先是明治四十三年東京帝國大學工科大學建築學科を卒業し宮內省に入り現時宮內技師にして內匠寮に勤務す大正十三年歐米各國に出張す家族は尙ほ二女順(大一二、一〇生)弟猛(明二七、一二生、法政大學在學)同五郎(同三八、三生、東京美術學校在學)あり妹チヨ(同二四、二生)は長崎縣人中島猛矣に嫁せり(東京、小石川、茗荷谷町四四電小石川六七二二)

參照＝中島猛矣の項

鈴木七左衞門　名古屋市會議員、魚類商　愛知縣在籍

妻　こと　明二五、一生、愛知、石黑利兵衞長女

養子　道芳　大一二、一生、愛知、横井忠雄四男

女　歌子　明四三、一一生

君は愛知縣人鈴木長清の長男にして明治十七年三月を以て生れ先代はしの養子となり同四十年家督を相續し前名綱太郎を改む魚類商を營み現に名古屋市會議員たり二女紘子(大四、四生)は愛知縣人石原鈴子の養子となれり(名古屋、南、熱田大瀧古町二六電南六四三)

鈴木七資　三條銀行(株)取締役　新潟縣在籍

母　モト　元治元、一〇生、新潟、山本由兵衞長女

妻　ムラ　明二五、一生、新潟、田村豐太郎妹

君は新潟縣人先代七資の孫にして明治十九年十一月を以て生れ大正五年家督を相續し前名良資を改む現に三條銀行取締役たり家族は尙ほ二男宗資(大三、一二生)長女テイ(同八、三生)二女セツ(同一三、二生)三女ムツ(同一五、一〇生)弟新資(明二六、一生)同妻サイ(同三二、二生、新潟、吉川吉五郎妹)及其子女同俊資(同四〇、九生)あり妹クニ(同二二、八生)は新潟縣人今井忠作に同ヤス(同二八、一〇生)は同縣人吉川吉一郎に嫁せり(新潟、南蒲原、三條町)

參照＝吉川吉五郎、田村豐太郎※野澤吉太郎※源川萬吉の項

鈴木七郎　從五位、海軍豫備大尉、高等海員審判所審判官兼遞信局技師遞信技師　東京府在籍

妻　ヨシ　明二六、一生、福島、遠藤鐵吉妹

男　貞郎　大三、一一生

君は福島縣人鈴木與作の弟にして明治十七年八月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す明治四十一年商船學校航海科を卒業し甲種二等運轉士同一等運轉士同船長遞信局技師地方海員審判所理事官等を經て大正八年海軍豫備大尉に任じ同十三年高等海員審判所審判官となり遞信局技師遞信技師を兼任し現在に至る家族は尙ほ二男滋(大七、一生)三男實(同八、一一生)長女宮(同一五、一一生)あり(東京市外澁谷町伊達八三)

鈴木島吉　勳六等、日本興業銀行(株)總裁、中華滙業銀行(株)理事、靜岡縣在籍　華族

妻　菊枝　明六、九生、和歌山、士、林玄泉三女

養子　島夫　大七、三生、兵庫、伊藤英三郎二男

君は靜岡縣人鈴木瀧藏の長男にして慶應二年六月を以て生れ明治四十二年家督を相續す同二十二年慶應義塾を卒業し橫濱正金銀行に入り各地に赴任し大正六年同行副頭取となり後之を退き朝鮮銀行總裁たりし昭和二年日本興業銀行總裁仰付られ傍ら中華滙業銀行理事たり曩に國際信託會社取締役會長橫濱正金銀行取締役を兼ぬ父瀧藏(天保一二、六生)は妹ひさ(明八、一生)を伴ひ分家し長女千代(同二八、一生)は日本銀行調査役伊藤英三郎に二女志滿子(同三六、四生)は和歌山縣人奧村俊一に嫁せり(東京、麻布、本村町一一八電高輪五四九四)

參照＝伊藤英三郎※伊藤英一の項

鈴木周市　名古屋樂天地(株)取締役　愛知縣在籍

妻　つい　明二五、一一生、愛知、大岩繁吉長女

男　武　大元、九生

君は愛知縣人鈴木銀藏の長男にして明治二十五年七月を以て生れ大正十四年家督を相續す現時名古屋樂天地會社取締役たり家族は尙ほ女歌子(大三、一二生)三男昇(同六、六生)二女惠美子(同八、二生)三女もか江(同九、一二生)あり(愛知、西加茂、藤岡村)

(※印は姻族關係)

妻　ハナ　明七、六生、福島、瓶子長六長女

男　周次郎　明二五、八生

婦　マサ　明二六、二生、長男周次郎妻、福島、渡邊彥太郎四女

男　利八郎　明三八、六生

女　リセ　明四五、四生

君は福島縣人鈴木清治郎の長男にして明治九年九月を以て生れ同四十一年家督を相續す農業を營み縣下の多額納稅者にして前記銀行會社の重役たり曩に貴族院議員に當選す家族は尙ほ六男勝衞(明四三、九生)八女トミ(大三、三生)孫周助(同元、一一生、長男周次郎長男)同一(同三、七生、同長女)同フミ(同七、四生、同二女)同重晴(同一二、八生、同二男)同昭代(昭二、二生、同三女)あり繼母ウメ(明元、一〇生、福島、佐藤茂七女)は福島縣人小松四郎治に長女キミ(同三〇、四生)は同縣人瓶子長六孫長吉に二女コウ(同三三、八生)は同縣人宇田清に三女キヨ(同三五、一〇生)は同縣人渡邊彌平治長男林治郎に五女ヒデ(同四〇、一一生)は同縣人石川甚衞に六女タマ(同四一、七生)は同縣人渡邊彥太郎に妹リン(同二三、二生)は同縣人丹治繁之助長男茂に嫁し二男善治郎(同二七、七生)は同縣人赤間ノブの入夫となり四女チウ(同三七、一生)は同夫孝七(同三四、五生、福島、瓶子長六四男)と共に弟與三郎(同一七、一〇生)は同妻シマ(同一九、九生、福島、瓶子長六四男)と共に其一子を伴ひ各分家せり(福島、信夫、杉妻村)

參照＝渡邊彌平治※紺野繁右衞門の項

鈴木脩治　正四位、男爵　宮城縣華族

當家は先代大亮より家名を揭ぐ大亮は舊仙臺藩士にして開拓使少主典同權大書記官農商務大書記官兼大藏大書記官北海道廳理事官農商務省水產局長秋田石川各縣知事遞信省次官兼鐵道局長貴族院議員等に歷任し明治二十八年華族に列し男爵を授けらる君は大亮の四男にして明治十一年九月を以て生れ同四十年家督を相續し襲爵仰付けらる兄慶松(明五、一〇生)は山形縣人奧山吉治の養子となり同成功(同八、一二生)は山形縣人奧山吉一(一生)は各分家し妹みさを(同一七、八生)は東京府人大

(※印は姻族關係)

澤銈三郎に嫁せり（東京、赤坂、青山南町六ノ一一六ノ二）

参照＝田中都吉の項

鈴木充形

父　充美　安政元、六生、現戸主
妻　キミ　明二五、一〇生、栃木、川村フク長女
男　圭一　大三、一一生
女　すみ　大二、二生

君は三重縣士族鈴木充美の二男同正美の弟にして明治十四年九月を以て生る同四十二年東京帝國大學工科大學機械科を卒業し現時日清紡績會社取締役たり曩に日新染布會社取締役に就任せり家族は尚二男重吾（大一〇、一生）二女三惠子（同一二、三生）三男重生（同一四、一〇生）あり（名古屋、中、下前津町一三八**電南一五九九**）

参照＝鈴木正美の項

鈴木重三郎

妻　幾代　明二九、五生、埼玉、押田安兵衛四女
養子　雅之助　長女こう夫、埼玉、押田英太郎二男
女　こう　明二八、一〇生、養子雅之助妻

君は東京府人鈴木八五郎の長男にして明治五年八月を以て生れ大正五年家督を相續す現時王子煉瓦會社取締役にして東京府上水町村組合收入役たり家族は尚孫春子、大四、三生、養子雅之助長女）同通雄（同一、三生、同二男）あり弟梅吉（明三〇、一生）は分家せり（東京市外尾久町上尾久二〇三七**電下谷四二六八**）

鈴木重助

妻　すゑ　明四、一一生、大阪、藤井助右衛門二女

君は宮城縣人先代重兵衛の長男にして明治八年十二年家督を相續し襲名す夙に實業界に以て生れ同四十二年東京帝國大學工科大學機械科を卒業し現時日清紡績會社取締役たり曩に日清紡績株（常務取締役、五生本店（株）鑑査役、宮城縣在籍）

参照＝鈴木重吉の項

鈴木重藏

母　イツ　明八、四生、東京、小菅刑兵衛姉
妻　あくり　明一八、一生、鈴木邦次郎長女
男　虎一　明二九、三生、長男虎一妻、静岡、齋藤猪吉長女
婦　のぶ　大三、一生

君は静岡縣人鈴木源吉の長男にして明治八年一月を以て生れ前名源作を改め大正七年家督を相續す水産業を營み縣下の多額納稅者たり家族は尚孫信一（大七、七生、長男虎一長男）同ひろ子（同一〇、一生、同長女）同菊枝（同一二、三生、同二女）同浦子（同一四、三生、同三女）同鎌次（昭二、二生、同二男）あり二女シヅ（明三三、七生）は靜岡縣人藤田丈吉に嫁せり（靜岡、濱名、篠原村）

鈴木正七

母　てい　明一〇、四生、愛知、山田良平姉
妻　さと子　明三五、一生、滋賀、岡家一郎二女

君は愛知縣人先代正七の二男にして明治二十九年九月を以て生れ大正十二年家督を相續し前名英二郎を改め襲名す先代の後を承けて小間物商を營みかどや屋本店として知らる弟廣三郎（明三六、四生）は分家し田島鐵之助の養子となり叔父利三郎（同元、四生）は同妻なか（同六、五生）を伴ひ分家し同鉄藏（同三、八生）も亦分家せり（名古屋、西、玉屋町二ノ一四**電東三〇二一**）

鈴木正平

母　せん　安政二、一生、鈴木新吉長女
妻　たま　明一五、七生、岡山、時國龜太郎養子
男　茂　明三二、一一生
婦　華　明三七、三生、長男茂妻、滋賀、北村浦太郎五女
男　實　明三九、一一生
女　富美子　明四二、四生、三田高等女學校出身

人松本常吉長男左右一に二女ハマ（同三六、四生）は東京府人大岩弘平長男一枝に三女タカ（同三八、一生）は同二男浩に嫁せり（大阪、東、淡路町三ノ三七**電本局三九八三**）

鈴木庄兵衛

妻　まさ　明一八、一生、靜岡縣人松本常吉長男左右一に二女ハマ（同三六、四生）は東京府人大岩弘平長男一枝に三女タカ（同三八、一生）は同二男浩に嫁せり（大阪、東、淡路町三ノ三七**電本局三九八三**）
男　道三郎　明四二、一生、靜岡、鈴木源吉長女
女　かねよ　明四四、一生

君は宮城縣人先代重兵衛の長男にして明治五年八月を以て生れ同四十二年家督を相續し襲名す夙に實業界に入り現に前記銀行會社の重役たり家族は尚二男喜四郎（明四二、四生）五女とき（大三、一生）三男正亮（同五、三生）六女郁子（同一二、一〇生）孫英子（同一〇、一生、同長男）同彰（同一二、一〇生、同長男）同通雄（同一三、九生）は宮城縣人佐々木忠右衛門に甥金吾（同八、五生）は宮城縣人佐々木忠右衛門に甥養兄豐治長男）は分家せり（仙臺、荒町一〇八）

参照＝佐々木忠右衛門、宮本貞二郎の項

鈴木俊一郎

父　清之輔　慶應三、一一生、現戸主
妻　ムメ　明三一、三生、福島、矢吹友右衛門長女
男　基弘　大五、一生

君は宮城縣人鈴木清之輔の長男にして明治二十二年十一月を以て生る現時白石製絲（株）代表取締役、白石銀行（株）副頭取、白石火山灰、齊川電氣各（株）取締役、仙臺電氣工業（株）鑑査役、宮城縣在籍）

参照＝白石製絲（株）、白石銀行（株）の項

鈴木庄次郎

妻　そめ　明一二、八生、東京、平野萬吉長女
男　英一　明三〇、六生
男　保二　明三二、九生
婦　幸子　明三七、六生、二男保二妻、神奈川、吉野利三郎長女

君は神奈川縣人先代庄三郎の長男にして明治八年五月を以て生れ同二十七年家督を相續し前名重次郎を改め襲名す材木商を營み同縣多額納稅者たり家族は尚三女泰子（大三、五生）孫重雄（同一四、一一生、二男保二長男）あり長女貞子（明三四、一一生）は東京府人伊藤米次郎に二女雪子（明三七、七生）は神奈川縣人大井民雄に嫁せり（川崎、東町）

鈴木庄次兵衛

妻　タミ　明一八、七生、養父庄次兵衛長女
養子　莊助　明二五、二生、福島、生方文右衛門二男
婦　ウメ　明二六、五生、養子莊助妻、養父庄次兵衛三女

君は福島縣人鈴木条三郎の二男にして明治十三年四月を以て生れ後先代庄次兵衛の養子となり大正十五年家督を相續し前名彌一郎を改め襲名す吳服商を營み縣下の多額納稅者にして又自棚鐵道會社取締役たり家族は尚孫敬一郎（大七、一生、養子莊助長男）同三郎（同一〇、八生、同三男）同達男（同一三、九生、同四男）同智子（昭二、三生、同二女）あり（福島、東白川、棚倉町）

参照＝※宗田利八の項

君は靜岡縣人鈴木松藏の長男にして同由郎の兄なり明治九年三月を以て生れ大正十年家督を相續す現時前記各會社の重役たり曩に東京印刷同業組合副組長東京工場組話會副委員長東京洋式帳簿協會々長たり家族は尚三男文雄（大二、五生）四女泰子（同四、八生）孫潤子（同一五、八生、長男茂長女）あり二女初枝（明三七、一一生、立教商業女學校出身）は東京府人北村恒次に嫁せり（東京、芝、高輪北町四八**電高輪八二八**）

参照＝鈴木由郎の項

鈴木庄三郎

妻　英　明三二、九生
婦　幸子　明三七、六生、二男保二妻、神奈川、吉野利三郎長女

君は神奈川縣人先代庄三郎の長男にして明治八年五月を以て生れ同二十七年家督を相續し前名重次郎を改め襲名す材木商を營み同縣多額納稅者たり家族は尚三女泰子（大三、五生）孫重雄（同一四、一一生、二男保二長男）あり長女貞子（明三四、一一生）は東京府人伊藤米次郎に二女雪子（明三七、七生）は神奈川縣人大井民雄に嫁せり（川崎、東町）

鈴木庄次兵衛

妻　タミ　明一八、七生、養父庄次兵衛長女
養子　莊助　明二五、二生、福島、生方文右衛門二男
婦　ウメ　明二六、五生、養子莊助妻、養父庄次兵衛三女

君は福島縣人鈴木条三郎の二男にして明治十三年四月を以て生れ後先代庄次兵衛の養子となり大正十五年家督を相續し前名彌一郎を改め襲名す吳服商を營み縣下の多額納稅者にして又自棚鐵道會社取締役たり家族は尚孫敬一郎（大七、一生、養子莊助長男）同三郎（同一〇、八生、同三男）同達男（同一三、九生、同四男）同智子（昭二、三生、同二女）あり（福島、東白川、棚倉町）

参照＝※宗田利八の項

鈴木庄治郎

妻　なよ　明科、正五位勳四等、北海道帝國大學豫科敎授、宮城縣在籍
男　一郎　明一二、一〇生、宮城、鈴木與兵衛長女
男　克二　明三五、一生
女　節子　明三八、二生
女　俊子　明四〇、九生

君は宮城縣人阿部庄作の長男にして明治八年十一月を以て生れ後鈴木家に入り同四十四年分れて一家を創立す同三十四年東京高等師範學校を同四十年京都帝國大學理工科大學純正數學科を卒業して長野師範學校敎諭兼訓導東北帝國大學農科大學豫科敎授等に歷任し現在に至る家族は尚三男憲三（大二、一〇生）四男道雄（同六、七生）あり長女しづ江（明三三、四生）は宮城縣人木村泰に嫁せり（札幌、北一條東七ノ一二）

鈴木昌吉

妻　ソノ　明澄、從五位、農林技師、農務局勤務
男　廣雄　東京府士族
女　節子　明三四、六生、東京、士、竹尾清姉
婦　大八、二生

君は東京府士族鈴木鑄三郎の長男にして明治十九年八月を以て生れ同四十二年家督を相續す大正四年東京帝國大學理科大學鑛物學科を卒業し農事試驗場技師農商務技師を經て同十四年農林技師に任じ現に農務局在勤土地利用及開墾奬勵に關する事務を擔當す家族は尚二女キン（大一〇、三生）二男昌興（同一二、一一生）三女茂子（同一五、三生）あり弟鉞吉（明二二、一〇生）は其妻敬子（同二一、八生、東京、田中松之助長女）を伴ひ分家せり（東京、四谷、坂町八六）

鈴木祥枝

妻　トヨ　東京海上火災保險（株）取締役兼支配人、東京府士族
父　義枝　安政二、一生、佐賀、伊丹彥次郎
男　益彥　明三〇、一生
女　明四四、六生

君は東京府士族鈴木義枝の長男にして明治二十年八月を以て生れ大正八年家督を相續す明治四十年神戸高等商業學校を卒業し現時東京海上火災保險會社取締役兼支配人たり家族は尚四等、北海道帝國大學豫科敎授、宮城縣在籍）二女俊（昭二、五生、）あり弟龍夫（明二五、八生）は分家し妹宮（同三四、五生）は東京府人鑓谷良三に嫁せり（東京、牛込、市谷藥王寺町三〇**電牛込三四一五**）

参照＝伊丹彥次郎の項

鈴木丈八

妻　じやう　愛知縣多額納稅者、雜貨商
養子　三二　愛知縣在籍　明三六、二生、愛知、横山和三郎長女
女　以久子　明三三、一生、四女以久子夫、愛知、河原嘉右衛門六男
女　きぬ子　明三五、一一生、養子三二妻
女　かづ子　明四〇、七生
女　とし子　明四二、一〇生
　　大元、一一生

君は愛知縣人先代丈八の長男にして慶應二年十一月を以て生れ明治十六年家督を相續し前名長次郎を改め襲名す雜貨商を營み愛知縣多額納稅者たり家族は尚孫しづ子（大一二、九生、養子三二長女）同ひさ子（同一四、三生、同二女）同よし子（同一五、五生、同三女）及妹みへ（明一〇、一生）あり弟嘉三郎（同一三、六生）は愛知縣人味岡宗八の養子となり同文作（同二、一一生）は同縣人杉浦はるの入夫となれり（愛知、幡豆、西尾町）

鈴木錠藏（デイ）

妻　まつ　勳四等、東京硫酸（株）取締役
男　一誠　茨城縣士族　明七、九生、茨城、永井苗廣二女
女　靜枝　明三一、一二生、慶應義塾出身、在巴里
　　明四四、八生、佛英和高等女學校出身

君は茨城縣士族鈴木繩の長男にして明治二年十二月を以て生れ同十七年家督を相續す夙に東京高等商業學校に學び現に前記會社の重役たり曾て日本海員掖濟會理事兼横濱支部長臨時字品出張所長財團法人科學智識普及會專務理事たりし事あり大正六年以來衆議院議員に當選すること二回に及び日獨事件の功により勳四等に敘せらるる家族は尚姪かつ子（明三八、四生）あり二男綸策（同三三、八生、農學士、法學士弟有光（同一四、

一二生)は各分家せり(東京市外大久保町百人町一八七
電四谷二三八)

鈴木信一

養母　みよ
妻　しん　慶應二、五生、養父忠太郎長女
男　正男　明二七、七生
婦　れち　明三一、四生、長男正男妻、静岡、加藤友吉三女

君は静岡縣人鈴木忠太郎の養子にして慶應元年十二月を以て生れ明治二十五年家督を相續す同二十三年專修學校理財科を卒業し又宮内省御料林天龍川水源涵養御料地の林業に參畫し爾來檜林の業に專念し金原明善翁の肝煎銀行會社の重役として知らる家族は尙孫きね(大一三、一生、長男正男長女)同サミ(同一四、七生、同二女)あり長女さだ(明二三、五生)は其夫叡三(同二一、岐阜、齋藤治郎弟)及び其二子と共に分家し二女とし(同二九、五生)は神奈川縣人佐藤福次郎二男光三に養子あい(同九、八生、静岡、中川長十三女)は静岡縣人田中得三に嫁せり(静岡、濱名、篠原村)

參照═加藤友吉※加藤利八の項

鈴木信吉

妻　かつ　明一〇、九生、愛知、士、中尾義知、濱島尹松三女
男　信一郎　明三〇、八生
婦　つゆ　明三九、五生、長男信一郎妻、愛

君は愛知縣士族鈴木三四郎の五男にして明治二年三月を以て生れ同二十一年分家して一家を創立す現時前掲銀行會社の重役たり傍ら舊藩主徳川侯爵家の家令事務を囑託せられ同家々政事務を處理す家族は尙四男恒吉(明四三、一〇生)三女花子(大六、二生)孫眞八(同一四、一〇生、長男信一郎長男)同敬藏(同一五、一一生、同二男)あり三男誠三(明三九、一一生)は愛知縣日本貯蓄銀行、愛知銀行、中央信託、朝日土地建物經營合(株)取締役、大隈鐵工所(株)監査役、愛知縣在籍

鈴木新之助

妻母　登代　文久元、四生、東京、士、梅村貞友長女
男　邦夫　明四〇、二生
女　不二　大二、六生

君は宮城縣人小野寺善吉の二男にして明治十一年十一月を以て生れ同三十八年先代よしの入夫となり家督を相續す同四十一年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し大藏省に職を奉じ累遷して現時札幌稅務監督局長たり家族は尙二男忠夫(大四、一〇生)二女光子(同一一、三生、)三女喬(同一三、二生)あり妻妹鈴(明二五、九生)は岩手縣人三田新三郎に嫁せり(札幌、大通稅務監督局官舍)

鈴木新兵衛

一木商店、酒類問屋
東京府在籍

君は東京府人先代新兵衛の二男にして明治三十年五月を以て生れ同四十三年家督を相續し前名造酒藏を改む一木商店と稱し酒類問屋として知らる家族は尙弟新助(明三四、三生、同豊、同三九、七生)あり妹幸(同三五、七生)は福井縣人森廣三郎二男廣之に嫁せり(東京、神田、旅籠町一ノ三電下谷五〇三七)

參照═森廣三郎の項

鈴木甚吉

宮城縣多額納稅者、仙北倉庫(株)取締役、製絲業、宮城縣在籍

妻　よし　明一〇、二生、東京、岩崎輿市四女
男　恭次郎　明三四、三生

妻　けい　明二三、二生、静岡、萩野宇作二女
男　新一　大六、三生
女　菊枝　明四三、一生
女　松枝　明四四、一二生
女　江　大二、九生
とも

君は静岡縣人鈴木新平の長男にして明治十八年十二月を以て生れ大正十一年家督を相續す現時前記各銀行の重役たり家族は尙四女君江(大四、一〇生)五女きよ(同八、一一生)六女敏子(同一四、二生)あり弟新吾(明二八、一二生)は同妻しん(同三四、八生、静岡、井澤豐吉妹)を伴ひ分家せり(静岡、驒東、長泉村)

鈴木新之助

正五位勳五等、札幌稅務監督局長
静岡縣在籍

妻母　登代　文久元、四生、東京、士、梅村貞友長女
男　邦夫　明四〇、二生
女　不二　大二、六生

君は宮城縣人小野寺善吉の二男にして明治十一年十一月を以て生れ同三十八年先代よしの入夫となり家督を相續す同四十一年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し大藏省に職を奉じ累遷して現時札幌稅務監督局長たり家族は尙二男忠夫(大四、一〇生)二女光子(同一一、三生、)三女喬(同一三、二生)あり妻妹鈴(明二五、九生)は岩手縣人三田新三郎に嫁せり(札幌、大通稅務監督局官舍)

鈴木新兵衛

一木商店、酒類問屋
東京府在籍

君は東京府人先代新兵衛の二男にして明治三十年五月を以て生れ同四十三年家督を相續し前名造酒藏を改む一木商店と稱し酒類問屋として知らる家族は尙弟新助(明三四、三生、同豊、同三九、七生)あり妹幸(同三五、七生)は福井縣人森廣三郎二男廣之に嫁せり(東京、神田、旅籠町一ノ三電下谷五〇三七)

參照═森廣三郎の項

鈴木甚吉

宮城縣多額納稅者、仙北倉庫(株)取締役、製絲業、宮城縣在籍

妻　よし　明一〇、二生、東京、岩崎輿市四女
男　恭次郎　明三四、三生

人鈴木鎗藏の死跡を繼ぎ養子キク(同二九、一〇生、愛知、北山彌四郎長女)は同縣人寺尾安兵衛に嫁せり(名古屋、東、大曾根町六四電東四九五)

參照═寺尾安兵衛※竹中藤右衛門の項

鈴木信次郎

妻　さと　明二〇、一生、愛知、鈴木久次郎長女
男　太郎　明四一、六生
婦　むつ　明一九、一生、長男隼太郎妻、静岡、足立卓二女
男　舜平　明一五、八生
婦　れつ　明二二、四生、二男舜平妻、静岡、小林萬次郎妹
孫　義夫　明三八、七生、長男隼太郎長男

君は和歌山縣士族中原永寧の二男にして明治十年十一月を以て生れ同三十年先代しなの養子となり家督を相續す綿布太物商を營む家族は尙二女千鶴子(大三、三女)あり長女方子(同八、五生)二男八生)六女永子(同一一、八生)七女十三生、同二男)あり(大阪、東、南本町二ノ五二電船場二四〇〇)

參照═※北尾禹吉郎の項

鈴木信次郎

妻　さと　明二〇、一生、愛知、鈴木久次郎長女
男　太郎　明四一、六生
婦　むつ　明一九、一生、長男隼太郎妻、静岡、足立卓二女
男　舜平　明一五、八生
婦　れつ　明二二、四生、二男舜平妻、静岡、小林萬次郎妹
孫　義夫　明三八、七生、長男隼太郎長男

君は静岡縣人鈴木安藏の長男にして安政五年五月を以て生れ明治十年家督を相續す現時濱松貯蓄銀行取締役の外前記銀行の重役たり家族は尙孫修平(大九、六生、長男隼太郎二男)あり養子善五郎(明一〇、一一生、亡長女よしの夫、静岡、田中熊吉養弟)は其子女を伴ひ分家し二女たみ(同二〇、五生)は静岡縣人鈴木芳太郎の養子となり三男虎雄(同四五、一生)は選定に因り静岡縣人掛川そよの家督を相續せり(静岡、濱名、和田村)

鈴木眞七郎

濱松貯蓄銀行、遠州銀行各(株)取締役、静岡縣在籍

男　隼太郎　明一四、一生
婦　むつ　明一九、一生、長男隼太郎妻、静岡、足立卓二女
男　舜平　明一五、八生
婦　れつ　明二二、四生、二男舜平妻、静岡、小林萬次郎妹
孫　義夫　明三八、七生、長男隼太郎長男

君は静岡縣人鈴木安藏の長男にして安政五年五月を以て生れ明治十年家督を相續す現時濱松貯蓄銀行取締役の外前記銀行の重役たり家族は尙孫修平(大九、六生、長男隼太郎二男)あり養子善五郎(明一〇、一一生、亡長女よしの夫、静岡、田中熊吉養弟)は其子女を伴ひ分家し二女たみ(同二〇、五生)は静岡縣人鈴木芳太郎の養子となり三男虎雄(同四五、一生)は選定に因り静岡縣人掛川そよの家督を相續せり(静岡、濱名、和田村)

鈴木新吉

養母　マツ　明元、一〇生、東京、古川銀藏二女
妻　いま子　明二三、一生、養父新吉長女
女　貴津子　大二、三生

君は新潟縣人歌代增藏の弟にして明治十九年五月を以て生れ先代新吉の養子となり大正六年家督を相續す萬新と稱し小間物商を營む家族は尙二女晴世(大四、七生)あり(東京、日本橋、馬喰町三ノ一二電浪花五九〇五)

鈴木新作

伊豆銀行、駿豆銀行(株)取締役、伊豆相互貯蓄銀行株監査役
静岡縣在籍

母　さい　文久二、五生、静岡、上杉半平五女

婦　喜惠　明三六、四生、二男恭次郎妻、宮城、富士東七三女
養子　爲吉　明八、八生、宮城、小山達五郎二男
婦　そて　明一九、八生、宮城、養子爲吉妻、宮城、手島雄八郎叔母
男　植三郎　明三六、一〇生
男　敬四郎　明三九、八生
孫　菊太郎　明三九、八生
孫　てる　明四五、一生、養子爲吉長女

君は宮城縣人鈴木宮次郎の二男にして明治十二年祖父甚吉の後を承け家督を相續し以て生れ明治十二年祖父甚吉の後を承け家督を相續し前名雄五郎を改む製絲業を營み現に仙北倉庫會社取締役にして宮城縣多額納稅者たり家族は尙五男省五郎(同一三、一一生、同四男)同絢子(同一四、六生、同三男)同俊吉(同一〇、一二生、同五男)同隆次郎(同一三、一一生、同二男)あり三女ことみ(明二七、五生)は宮城縣人中澤泰三郎長男圭吾に嫁し養子こむめ(同一九、四生、宮城、氏家實寅二女)同夫久次郎(同一五、八生、宮城、磐井久吉弟)は其子女と共に分家せり(宮城、志田、古川町)

參照═手島雄八郎、山澤泰三郎※阿部勘九郎の項

鈴木甚三郎

劇藥業
愛知縣在籍

妻　げん　慶應元、一二生、愛知、岡田源六長女
男　一九、一二生、長女すゞ夫、千葉、松本市太郎弟
男　二〇、一〇生、養子金藏妻
女　すゞ　明二〇、一〇生、養子金藏妻

君は愛知縣人鈴木道隣の二男にして安政三年十月を以て生れ同四十三年家督を相續す割藥業を營む家族は尙孫兼三(大二、一〇生、養子金藏長男)同鉦二(同五、一〇生、養子金藏長男)同すき(同八、五生、同長女)あり兄甚藏(嘉永四、一〇生)及妹はつ(文久二、一〇生)は各分家せり(名古屋、南、熱田神戸町二三)

鈴木末喜

熊本縣多額納稅者、松合町長

妻　モト　明一二、三生、熊本、山内治八二女
男　庚　明四三、三生
君は熊本縣人本松九三郎の弟にして明治七年四月を以

て生れ我先代平三郎の養子となり同三十四年家督を相續す現時松合町長にして熊本縣多額納稅者たり家族は尙三男平八郎(明四五、六生)四男不二夫(大四、一生)五男嘉門(同七、一一生)六男選(同一〇、八生)あり長女マス(明三五、一〇生)は熊本縣人加悅平太長男健次郎に二女登美(同四〇、六生)は同縣人馬場半次郎二男定七に嫁せり(熊本、宇土、松合町)

鈴木助次郎

神戸商工會議所常議員、通運保全社(株)取締役、中外運送(株)監査役、運送業、滋賀縣在籍

妻　ひて　明一九、七生、兵庫、田原鼎造養子
男　太郎　明四二、四生

君は滋賀縣人鈴木甚藏の長男にして明治四年二月を以て生れ同二十年家督を相續す運送業を營み傍ら前記各會社の重役を兼ね推されて神戸商工會議所常議員たり(神戸、三宮二ノ五七電三宮五五五)

鈴木鈴馬

帝國製麻(株)常務取締役兼技術部長、臺灣製麻(株)取締役、山形縣在籍

母　つね　嘉永二、八生、山形、早坂善助二女
妻　ナカ　明四、一一生、山形、石井三右衛門長女
男　重屹　明三〇、五生、桐生高等工業學校出身、帝國製麻會社員

君は埼玉縣人鈴木政次郎の長男にして明治三年七月を以て生れ同二十四年組父元順の跡を承け家督を相續す同二十六年東京高等工業學校機械科を卒業し更に同校研究科に於て紡織學を專攻す現に帝國製麻會社常務取締役兼技術部長たる外前記各會社の重役たり家族は尙孫兼三(大二、一〇生、養子金藏長男)同鉦二(同五、一〇生、同長女)及妹はつ(文久二、一〇生)は各分家せり(名古屋、南、熱田神戸町二三)

鈴木末喜

熊本縣多額納稅者、松合町長

妻　モト　明一二、三生、熊本、山内治八二女
男　庚　明四三、三生
君は熊本縣人本松九三郎の弟にして明治七年四月を以

鈴木捨藏

大日本麥酒(株)日黑工場副工場長
東京府在籍

妻　タツ　明二六、一生、東京、齋藤二朗妹

男　正一　大元、一二生
女　静子　明四四、二生、第五高等女學校出身

君は福島縣人鈴木寅藏の二男にして明治十二年四月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す同三十四年東京高等工業學校を卒業し直に大日本麥酒會社に入り漸次累進して現時同社目黒工場副工場長の職に在り雙會社間を代表して目黒町會議員たり家族は尚ほ二男平八(大四、八生)三女昌(同七、四生)より長女道子(明四一、一二生、自由學園高等科出身)は東京府人小林芳夫に嫁せり(東京市外目黒町三田二一七)

鈴木正美
三井銀行(株)參事
三重縣士族

父　充美　安政元、六生、現戸主、正五位
繼母　タケヨ　明九、五生、東京、大和田直伯母
妻　峯　明二一、九生、理學博士櫻井錠二長女
男　寛美　大一三、二生
女　ふさ子　明四二、三生、御茶水高女出身

君は三重縣士族鈴木充美の長男同充形の兄にして明治十二年四月を以て生る同三十九年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し現時三井銀行參事たり父充美は夙に東京大學を出で辯護士となり衆議院議員に列し曾て內務次官に任ぜらるる家族は尚ほ二女しげ(大四、三生)三女みつ(同六、一生)四女靜(同一〇、二生)四男照美(同一五、二生)あり(東京市外澁谷町中澁谷七一六)電青山二一〇〇

參照═櫻井錠二、鈴木充形の項

鈴木清治郎
鈴屋商店、東京株式取引所取引員
東京府在籍

妻　德　明八、一生、東京、寺村寅太郎三女
養子　信雄　明三六、八生、竹內幸太郎二男

君は東京府人鈴木藤五郎の三男にして明治七年二月を以て生れ同三十七年家督を相續す現時東京株式取引所短期實物取引員にして鈴屋商店を經營す家族は尚ほ繼子桂一(大四、八生、愛知、服部政之助三男)あり(東京、麹町、紀尾井町三電九段六〇一)

鈴木清節
名古屋毎日新聞社(株)常務取締役
愛知縣士族

妻　明　明二一、一生、愛知、鈴木滋二女

君は愛知縣士族菊地房次の二男にして明治二年一月を以て生れ先代昌相の養子となり同二十九年家督を相續す同二十五年明治法律學校を卒業し同三十二年郷里愛知縣田原町長に擧げられ同三十四年扶桑新聞社に入り同三十六年大阪毎日新聞社に轉じ在社十七年其後電報通信社新愛知社等を經て大正十五年名古屋毎日新聞社に來國及支那視察の爲外遊せり漁邊華山全集の著あり(名古屋、南、明治新田六)

鈴木清之輔
白石銀行(株)頭取、仙南電氣工業(株)社長、東北實業貯金銀行(株)監査役、宮城縣在籍

祖母　さく　天保一一、八生、福島、板谷玄碩長女
父　充美　安政元、六生、現戸主、正五位
繼母　タケヨ　明九、五生、東京、大和田直伯母
妻　峯　明二一、九生、理學博士櫻井錠二長女
男　寛美　大一三、二生
女　ふさ子　明四二、三生、御茶水高女出身

君は三重縣士族鈴木充美の長男同充形の兄にして明治十二年四月を以て生る同三十九年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し現時三井銀行參事たり父充美は夙に東京大學を出で辯護士となり衆議院議員に列し曾て內務次官に任ぜらるる家族は尚ほ二女しげ(大四、三生)三女みつ(同六、一生)四女靜(同一〇、二生)四男照美(同一五、二生)あり(東京市外澁谷町中澁谷七一六)電青山二一〇〇

參照═櫻井錠二、鈴木充形の項

鈴木清治郎
鈴屋商店、東京株式取引所取引員
東京府在籍

妻　德　明八、一生、東京、寺村寅太郎三女
養子　信雄　明三六、八生、竹內幸太郎二男

君は東京府人鈴木藤五郎の三男にして明治七年二月を以て生れ同三十七年家督を相續す現時東京株式取引所短期實物取引員にして鈴屋商店を經營す家族は尚ほ繼子桂一(大四、八生、愛知、服部政之助三男)あり(東京、麹町、紀尾井町三電九段六〇一)

鈴木清節
名古屋毎日新聞社(株)常務取締役
愛知縣士族

妻　明　明二一、一生、愛知、鈴木滋二女

君は愛知縣士族菊地房次の二男にして明治二年一月を以て生れ先代昌相の養子となり同二十九年家督を相續す同二十五年明治法律學校を卒業し同三十二年郷里愛知縣田原町長に擧げられ同三十四年扶桑新聞社に入り同三十六年大阪毎日新聞社に轉じ在社十七年其後電報通信社新愛知社等を經て大正十五年名古屋毎日新聞社に來國及支那視察の爲外遊せり漁邊華山全集の著あり(名古屋、南、明治新田六)

鈴木清之輔
白石銀行(株)頭取、仙南電氣工業(株)社長、東北實業貯金銀行(株)監査役、宮城縣在籍

祖母　さく　天保一一、八生、福島、板谷玄碩長女
父　充美　安政元、六生、現戸主、正五位
繼母　タケヨ　明九、五生、東京、大和田直伯母
妻　峯　明二一、九生、理學博士櫻井錠二長女
男　寛美　大一三、二生
女　ふさ子　明四二、三生、御茶水高女出身

君は三重縣士族鈴木充美の長男同充形の兄にして明治十二年四月を以て生る同三十九年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し現時三井銀行參事たり父充美は夙に東京大學を出で辯護士となり衆議院議員に列し曾て內務次官に任ぜらるる家族は尚ほ二女しげ(大四、三生)三女みつ(同六、一生)四女靜(同一〇、二生)四男照美(同一五、二生)あり(東京市外澁谷町中澁谷七一六)電青山二一〇〇

參照═櫻井錠二、鈴木充形の項

鈴木仙次郎
丸合農具製造(株)社長
栃木縣在籍

妻　コウ　明六、二生、東京、士、黒川喜太郎妹
男　通　明三〇、一生
婦　ミツ　明三一、二生、長男通妻、栃木、室井清一郎妹
女　ヒデ　明四〇、四生

君は栃木縣人添田清三郎の弟にして明治五年二月を以て生れ先々代豐次の養子となり大正六年先代通の後を承けて家督を相續す現に丸合農具製造會社々長たり家族は尚ほ二男喜平(明四二、一〇生)三男寛(大三、六生)あり長女シゲ(明二八、一〇生)は同夫利一郎(同二五、一生、栃木、鈴木廣太二男)と共に其子女を伴ひ分家し二女ヨネ(同三二、二生)は栃木縣人佐藤久吾養子要市に三女美知(同三四、一〇生)は同縣人阿久津喜平長男雄太郎に四女キヨ(同三七、二生)は同縣人今泉榮太郎二男虎次郎に嫁せり(栃木、鹽谷、氏家町)

鈴木善右衞門
東根銀行(株)頭取
山形縣在籍

男　富太郎　明一六、六生
婦　ツネ　明一六、五生、長男富太郎妻、山形、村川九兵衞妹
孫　太郎　明三三、一〇生、長男富太郎長男
孫妻　コウ　明三六、一生、孫太郎妻、山形、須藤孝太郎四女
孫　二郎　明三六、七生、長男富太郎二男
孫妻　登喜　明四〇、四生、孫二郎妻、山形、田中留藏四女
孫　三代子　明四一、七生、長男富太郎長女
孫　喜代子　明四三、一二生、長男富太郎二女
孫　嘉代子　大二、一生、長男富太郎三女

君は山形縣人先代善右衞門の長男にして安政二年十二月を以て生れ明治五年家督を相續し襲名す現時東根銀行頭取たり家族は尚ほ孫善一郎(大一一、七生、孫太郎長男)同素子(同一三、二生、同長女)同珠子(同一五、二生、同二女)同福子(同一五、一二生、孫二郎長女)あり二女さき(明二三、五生)は山形縣人明山伊三郎の養子となり姉ふさ(嘉永六、七生)は同縣人村田權太郎に嫁し弟保太郎(慶應元、一〇生)は同妻より(同(元、七生、山形、佐藤豐吉長女)及其子女を伴ひ分家せり(山形、北村山、東根町)

參照═須藤孝太郎の項

鈴木善四郎
春日屋、米穀商
東京府在籍

養母　かね　嘉永六、七生
養子　房吉　明二五、一生、養子房吉妻
女　わか　明二五、一生、養子房吉妻

君は東京府人荒井長十郎の二男にして萬延元年五月を以て生れ先代永善の養子となり家督を相續し前名常三郎を改む春日屋と稱し米穀商を營み縣下の多額納稅者にして傍ら前記會社の重役たり二男孝三(明四四、一一生)は愛知縣人豐島半七の養子となれり(一宮、更屋敷)

鈴木善七
愛知縣多額納稅者、豐島商店(株)取締役、協同土地(株)監査役、綿絲商、愛知縣在籍

妻　しやう　明一六、八生、岐阜、堀江丈右衞門妹
女　うた子　明四一、九生

君は愛知縣人小島太左衞門の三男にして安政二年十二月を以て生れ明治二十一年分家して綿絲商を營み縣下の多額納稅者にして傍ら前記會社の重役たり二男孝三(明四五、一一生)は愛知縣人豐島半七の養子となれり(一宮、更屋敷)

鈴木善七
愛知縣多額納稅者、豐島商店(株)取締役、協同土地(株)監査役、綿絲商、愛知縣在籍

妻　しやう　明一六、八生、岐阜、堀江丈右衞門妹
女　うた子　明四一、九生

君は愛知縣人小島太左衞門の三男にして安政二年十二月を以て生れ明治二十一年分家して綿絲商を營み縣下の多額納稅者にして傍ら前記會社の重役たり二男孝三(明四五、一一生)は愛知縣人豐島半七の養子となれり(一宮、更屋敷)

鈴木莊六
正三位勳一等功二級、陸軍大將、參謀總長、議定官、新潟縣在籍

妻　タケ　明四、九生、高知、士、森岡正元長女
男　重雄　明四〇、四生

君は新潟縣人鈴木高次の三男にして慶應元年二月を以て生れ明治四十四年前名庄吉を改め大正十一年分家して生れ明治四十四年陸軍士官學校を卒業し同年十二月を以て陸軍騎兵少尉に任じ大正十三年陸軍大將に累進す其間陸軍大學校を卒業し參謀本部員兼陸軍大學校敎官參謀本部課長騎兵第五旅團長騎兵監第五師團長臺灣軍司令官朝鮮軍司令官等に歷補し現時參謀總長議定官の要職にあり嚢に米國歐洲及西比利亞に差遣せらる(東京市外代々幡町代々木初臺六〇六)電四谷二三五四)

鈴木惣七
宮城縣多額納稅者、栗原軌道、潜ケ浦石材各(株)取締役、金融業
宮城縣在籍

妻　はなよ　明二七、四生、宮城、菊地喜左衞門妹
男　惣一　明三六、七生

君は宮城縣人鈴木惣藏の長男にして明治六年八月を以て生れ同四十一年家督を相續す金融業を營み現に前記各會社の重役にして宮城多額納稅者たり家族は尚ほ長女美惠子(大一三、一二生)二男桂二(同一五、七生)あり弟清志(明一八、一一生)は同妻たまち(同二三、五生、宮城、菅原林七二女)及其の二男三女を伴ひ分家せり(宮城、栗原、志波姫村)

鈴木惣八
東京織物用品(株)取締役、醫療玻璃器商、東京府在籍

妻　せつ　明一五、一二生、埼玉、遠藤重作姪
男　惣一郎　明三九、四生、中央商業學校出身
男　忠吉　明四一、七生、明治大學在學

君は岐阜縣人鈴木鐵治郎の弟にして明治十五年十二月を以て生れ同三十八年分家して一家を創む醫療玻璃器商を營み傍ら日本織物用品會社取締役たり家族は尚ほ男武三(明四五、一生)長女八榮(大六、五生)あり(東京、日本橋、本石町三ノ二)電日本橋二五四九)

鈴木惣兵衞
福島縣多額納稅者、郡山カーボン(株)取締役、福島縣在籍

母　フク　明四、一二生、福島、添田藤七長女
妻　ムメ　明二七、四生、福島、伊豆重兵衞四女
男　壯一　大一一、四生

君は福島縣人先代惣兵衞の長男にして明治二十一年十月を以て生れ大正二年家督を相續し前名壯を改め襲名す現時郡山カーボン會社取締役の外前記會社の重役にして縣下の多額納稅者たり家族は尚ほ長女俊(大五、一〇生)二女小夜子(同八、一二生)の外弟榮正(明三一、八生)あり妹キヨエ(同二八、一一生)は東京府人石崎仲三郎に嫁せり(郡山市)

鈴木摠一郎　大日本木材防腐(株)社長、材摠(資)社員、愛知縣在籍

父　摠兵衛　明四、八生、現戸主
妻　ひさ　明三八、六生、岐阜、岡本太右衛門女、岐阜縣立高等女學校出身

君は愛知縣人鈴木摠兵衛の長男にして明治三十二年一月を以て生る現に前記會社々長たる外材摠合資會社員たり(名古屋、西、木挽町五ノ一二**電本局三五〇**)

參照＝岡本太右衛門、鈴木摠兵衛※遠藤平左衛門※精谷縫右衛門※佐藤信之助※坂倉又吉の項

鈴木摠兵衛

養母　のぶ　安政五、五生、愛知、青木新四郎姉
妻　れい　明一六、一二生、養父摠兵衛長女
養子　嘉太郎　明三二、一生
女　不二　明三〇、二生、養子嘉太郎妻
女　なみ　明三四、五生
男　達次郎　明四〇、五生

君は愛知縣人水野孝次郎の弟にして明治四年八月を以て生れ後故貴族院議員鈴木摠兵衛の養子となり大正十四年家督を相續し前名鈴四郎を改め襲名す家業を繼ぎ材摠と稱し材木商を營み傍ら前記銀行會社の重役たる外名古屋商工會議所議員及愛知縣山林會評議員たり(名古屋、西、木挽町五ノ一二**電本局二八七五**)

參照＝青木新四郎、鈴木摠一郎の項

鈴木柚藏　東海鋼業(株)取締役、東京府在籍

妻　かよ　明一二、一〇生、衆議院議員岡崎久次郎妹
男　三太郎　明三五、一二生、帝大卒業
女　百合子　明四四、二生

君は愛知縣人鈴木鹿太郎の弟にして明治四年五月を以て生れ同二十年家督を相續す現時東海鋼業會社取締役(資)社員、愛知縣在籍

鈴木太平　靜岡縣在籍

祖父　惣太　天保五、二生
父　惣八　嘉永四、七生、靜岡、中村治郎八
母　やき　天保三、五生、靜岡、川瀨善吉長女
妻　たつ　明二七、一一生、靜岡、伊藤恭太郎長女
男　幹一　大二、五生

君は靜岡縣人鈴木惣八の三男にして明治二十一年九月を以て生る鈴木工務店と稱し土木建築請負業を營む家族は尚ほ二女たか(大七、八生)二男滝吉(明一三、一二生、現戸主)三男滝(同一五、八生)兄壽吉(明一三、一二生、靜岡、足立新三郎婿)と其同妻りを(同三四、一〇生、靜岡、足立新三郎娘)一子あり(東京、麹町、上六番町四二**電九段一四一四**)

鈴木太郎　橫濱瓦立(株)取締役、帝國生命保險(株)社員、東京府士族

明一四、一〇生、宮城、木村一是長女

君は宮崎縣士族鈴木才藏の長男にして明治六年十二月三六、七生
四年家督を相續す同二十八年慶應義塾を卒業し現時前記會社の重役にして兼に帝國生命保險會社庶務課長たり家族は尚ほ二男俊吉(明四四、四生)三男康吉(同七、六生)あり弟九生)は分家せり(東京、芝、白金三光町四五一**電高輪七一〇六**)

鈴木太郎　阿部商事、山元オブラート、日本莊園各(株)取締役、相摸運輸(株)鑑査役、東京府在籍

君は岩手縣人鈴木松之助の五男にして明治二十年十二月を以て生る同四十三年名古屋高等工業學校機械科を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尚ほ二男泰一、一生
女　壽賀　大八、一生
男　武久　大七、一生
女　ノブ　明四二、一〇生
女　キク　大二、一〇生

君は東京府士族鈴木壽承の長男にして明治二年九月を以て生れ同三十九年家督を相續す同年農科大學農學科を卒業し同大學助手となり次いで農商務技手に任ぜらる爾來生絲檢査所技師蠶農商務技師群馬三重山口東京各府縣技師蠶業學校長等に歷任し現時前掲の職に在り家族は尚ほ三男博夫(大一〇、一二生)の外弟文吉(明九、一二生)同妻テイ(同三〇、一生、田中多三郎庶子)及其二子あり同得助(同一三、四生)は同妻照(同一九、八生、東京、山岡成章二女)及其子女を伴ひ分家し姉イノ(慶應元、九生)は東京府士族桑田知明に嫁せり(東京、西多摩、青梅町)

參照＝桑田知明、牧隆泰の項

鈴木武太郎　從四位勳二等、陸軍歩兵中尉、地方技師、東京府立農林學校長兼東京府立農業補習學校教員養成所長

明一六、九生、三重、牧隆泰姉

君は山梨縣人鈴木豐次郎の二男にして明治十九年三月を以て生れ後分家して一家を創立す夙に實業界に入り大正八年鐘東電氣會社創立と共に同社專務取締役に擧げられ同十三年帝國電氣會社々長に就任し傍ら前記會社の重役たり家族は尚ほ長女一榮(大五、三生)二男大次郎(同一〇、六生)あり(東京市外荏原町洗足東臺一五**電高輪四七〇八**)

參照＝※蛭海文平の項

鈴木武二　正八位、陸軍工兵少尉、千葉縣多額納稅者、千葉縣在籍

妻　たか　明二五、九生、養父悦太郎二女、實踐女學校高等女學部出身
男　清司　大三、七生

君は千葉縣人鈴木雄造の弟にして明治二十一年十二月を以て生れ鈴木悦太郎の養子となり大正十四年養祖父清三の後を承けて家督を相續す同二年東京帝國大學工科大學造船學科を卒業す千葉縣多額納稅者にして資産家として知らる家族は尚ほ長女璋枝(大五、一〇生)二女トシ子(同一〇、三生)(千葉、君津、富岡村)

鈴木健弘　從五位勳五等、京都高等蠶業學校教授、鐮鳥縣在籍

父　彦吉　慶應元、八生、現戸主
母　リツ　明二七、八生、兵庫、堀田英治長女
妻　英子　男　健冬　大八、一生

君は鐮鳥縣人鈴木彦吉の長男にして明治十六年十二月を以て生る同四十三年東京帝國大學農科大學を卒業し同年產業講習所技手となり同四十四年同技師大正三年京都高等蠶業學校教授に任じ今日に至る同八年佛伊米獨各國に留學せり家族は尚ほ長女文子(大一二、一生)二男健敬(同一五、一生)二女昭子(昭二、九生)弟重彦(明四一、八生)あり同長次郎(同一九、三生、早稻田大學商科出身)同金造(同二七、一生、京都高等蠶業學校實科出身)は各分家し同彦左衛門(同二二、一生)も亦其妻ノブ(同二七、七生、鐮鳥、安齋彦吉長女)と共に分家し妹イシ(同二五、一生)は鐮鳥縣人來永三右衛門長男治兵衛に同チル(同三四、二生)は同縣人佐藤金作孫卯三郎に同ちとせ(同三七、八生)は同縣人武田フカ孫文治に嫁ぜり(京都、上京、大將軍一條町四五)

鈴木忠雄　勇文堂、活字鑄造業

母　たけ　明一二、八生、東京、長谷川彌三郎姉

東京府在籍

君は東京府人鈴木庄吉の長男にして大正五年六月を以て生れ同十三年家督を相續す勇文堂と稱し活字鑄造業を營む家族は尚ほ母たけ(明一二、八生、東京、長谷川彌三郎姉)妻ます(明一九、四生、栃木、小栗海太郎妹)男童(明四三、三生)女美喜(明四四、一生)

鈴木威　内國貯金銀行、共同保全各(株)專務取締役、泰平銀行(株)取締役、日本蠶兵保險、東京信託各(株)鑑査役、東京府士族

君は鐮島縣士族鈴木久孝の長男にして明治十三年四月を以て生れ同二十七年家督を相續す現時内國貯金銀行を以て生れ同二十七年家督を相續す現時内國貯金銀行會社の重役たり家族は尚ほ外前記銀行會社の重役たり家族は尚ほ男繁(明四三、三生)三男慶(同三三生)三男靖(同六、一生)六男靖(同八、三生)七男悌(同一〇生)五男丹(同六、一〇生)二女壽子(同一三、二生)あり(東京、本鄉、森川町一**電小石川一八四一**)

鈴木孝雄　從三位勳一等功三級、陸軍大將、軍事參議官、千葉縣在籍

妻　もと　明一七、五生、子爵立見鑑少將長女
男　武　明三五、二生
男　英　明四一、四生
女　千鶴子　明四四、三生

君は千葉縣士族海軍大將鈴木貫太郎の弟にして同三郎の兄なり明治二年十月を以て生れ大正七年分家して一家を創立す夙に陸軍士官學校を卒業し明治二十五年陸軍砲兵少尉に任じ昭和二年陸軍大將に累進す其間野戰砲兵射擊學校教官砲工學校教官野戰砲兵第十聯隊大隊長野戰砲兵監部々員近衞野戰砲兵聯隊附野戰砲兵第十八聯隊附同第二十一聯隊長陸軍省軍務局砲兵課長野砲兵第一旅團長野戰重砲兵第一旅團長陸軍士官學校長砲兵監第十四師團長等に歷補し現時軍事參議官たり爵に陸軍技術本部長同技術會議々員を兼ぬ家族は尚ほ三女夏子(大四、五生)四女八重子(同七、四生)あり(東京市外淀橋町柏木四一二**電四谷三五七八**)

參照＝子爵立見鑑丸、鈴木貫太郎、鈴木三郎※高橋義章※三田鈎吾の項

鈴木高松　浪速紡績(株)取締役、岩手縣在籍

妻　ツヤ　明二八、三生、大阪、岡村亨三女
男　龍男　大五、六生

君は岩手縣人鈴木松之助の五男にして明治二十年十二月を以て生る同四十三年名古屋高等工業學校機械科を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尚ほ二男泰一、一生
女　壽賀　大八、一生
男　武久　大七、一生
女　ノブ　明四二、一〇生
女　キク　大二、一〇生

君は東京府士族鈴木壽承の長男にして明治二年九月を以て生れ同三十九年家督を相續す同年農科大學農學科を卒業し同大學助手となり次いで農商務技手に任ぜらる爾來生絲檢査所技師蠶農商務技師群馬三重山口東京各府縣技師蠶業學校長等に歷任し現時前掲の職に在り家族は尚ほ三男博夫(大一〇、一二生)の外弟文吉(明九、一二生)同妻テイ(同三〇、一生、田中多三郎庶子)及其二子あり同得助(同一三、四生)は同妻照(同一九、八生、東京、山岡成章二女)及其子女を伴ひ分家し姉イノ(慶應元、九生)は東京府士族桑田知明に嫁せり(東京、西多摩、青梅町)

參照＝桑田知明、牧隆泰の項

鈴木忠雄　勇文堂、活字鑄造業

母　たけ　明一二、八生、東京、長谷川彌三郎姉

東京府在籍

君は東京府人鈴木庄吉の長男にして大正五年六月を以て生れ同十三年家督を相續す勇文堂と稱し活字鑄造業を營む家族は尚ほ母たけ(明一二、八生、東京、長谷川彌三郎姉)妻ます(明一九、四生、栃木、小栗海太郎妹)男童(明四三、三生)女美喜(明四四、一生)

鈴木威　從五位勳六等、彥根高等商業學校教授、兵庫縣士族

妻　シゲ　明一九、四生、栃木、小栗海太郎妹
男　信一　大七、二生
女　文江　明四二、一生
女　靜子　明四四、一二生

君は兵庫縣士族鈴木礎の二男にして明治十五年四月を

以て生れ後先代葱民の養子となり同四十三年家督を相續す同四十一年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し文部屬香川縣商業學校教諭市立高岡中學校長長崎高等商業學校教授に歴任し大正十三年現職彦根高等商業學校教授に任ぜらる家族は倚三女松枝（大三、四生）二男健夫（同九、二生）あり（滋賀、犬上、彦根町）

鈴木立男　正五位勳六等、醫學博士、東北帝國大學助教授、醫學部勤務　秋田縣士族

妻　はるよ　明五、正生、宮城、柿田はま子姉
男　春男　大四、三生

君は秋田縣士族鈴木勇一郎の長男にして明治四年五月を以て生れ同四十一年家督を相續す同二十五年第二高等學校醫學部を卒業し東京帝國大學醫科大學病理學教室に於て病理學を研究し第五高等學校教授に任じ同四十二年獨逸フライブルグ大學に於て病理學內科學の研究をなし大正三年醫學博士の學位を受く同四年東北帝國大學醫科大學助教授に任じ現時に至る家族は倚弟三郎（明九、九生）同妻なを（同四、一生、山形、加勢清雄姉）妹ツタ（同一六、二生）同夫重松（同一一、六生、秋田、藤田吉治弟）との間に子女あり長女八千代（大二、四生）は外祖母柿田よしの養子となり妹ナカ（明二五、八生）は埼玉縣人横山甚藏長男省三に嫁せり（仙臺、新小路二三）

參照＝加勢清雄※阪本彭之助の項

鈴木辰雄　丸榮回漕店（株）取締役　東京府在籍

母　すゞ　安政三、一生、京都、石渡榮次郎長女
妻　たせ　明二四、六生、滋賀、疋田源七四女
男　浩一　明四四、一生

君は東京府人鈴木癸倫六の兄にして明治十三年二月を以て生れ同四十年母すゞの跡を襲ひ家督を繼ぐ現に丸榮回漕店取締役たり（東京市外大久保町百人町三二七）

鈴木辰五郎　東京府多額納稅者、玉川製氷、多摩川砂利、杜木鐵道各（株）取締役大丸組、土木建築請負倉庫業　東京府在籍

妻　てう　明八、一二生、東京、和田常吉長女
男　猛夫　明三六、三生

君は東京府人鈴木留五郎の三男にして明治十年四月を以て生れ同三十五年分家して一家を創立す大丸組と稱し土木建築請負倉庫業を營み傍ら玉川製氷會社取締役たる外前記會社の重役にして東京府多額納稅者たり家族は倚二女章代（大七、六生）あり（東京、京橋、三十間堀三ノ一**電銀座一四〇一**）

鈴木辰三郎　磐城實業銀行、磐城建物各（株）取締役、磐城水產工業（株）監査役　福島縣在籍

妻　フク　明一一、一〇生、養父喜代藏長女
男　善太郎　明三〇、四生
婦　貴美　明三一、一二生、長男善太郎妻、福島、立花典次郎妹
男　清司　明三三、一生
男　正男　明三五、一二生
男　喜政　明三九、一一生
女　孝子　明四四、二生

君は福島縣人箱崎平八の二男にして明治十年十月を以て生れ後ち先代喜代藏の養子となり同三十一年家督を相續す現時磐城實業銀行取締役を始め前掲各會社の重役たり家族は倚三女ヒサ子（大三、四生）孫一郎（同一一、一二生、長男善太郎長男）同二郎（同一三、三生、同二男）あり養弟喜代作（明二二、一一生）は福島縣人坂本トラの入夫となり養妹チヨ（同二八、七生）は他に嫁せり（福岡、石城、夏井村）

鈴木辰次郎　日本族機（株）取締役、大洲村長　靜岡縣在籍

養母　もて　嘉永六、五生
妻　たね　明四、一〇生、養父喜三郎長女
養子　新吉　明二三、八生、靜岡、長金之助甥、早稻田大學理工科出身、復興局勤務

君は靜岡縣士族石田武雄の弟にして元治元年二月を以て生れ先代喜三郎の養子となり明治二十四年家督を相續す夙に教育家となり十數年教育事業に關係す又大洲村長燒津町長に擧げらるゝ事六回靜岡縣會議員衆議院議員に當選する事數回に及ぶ現時前記の職にあり雪外と號し詩歌俳諧に長ぜり（靜岡、志太、大洲村）

鈴木達治　從四位勳三等、横濱高等工業學校長、神奈川縣立商工實習學校長、横濱市立工業專修學校長、愛媛縣在籍

養子　喜美　明四四、二生、神奈川、左右田棟一三女

君は愛媛縣人鈴木禮作の長男にして左右田棟一の兄なり明治四年九月を以て生れ同四十四年家督を相續す同三十三年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し同四十一年電氣化學工業研究の爲獨英米各國に留學し第二高等學校教授兼仙臺醫學專門學校教授廣島高等師範學校教授東京高等工業學校教授等に歴任し現時横濱高等工業學校長たり家族は倚弟常治（明六、三生）同妻チカ（同一二、三生、愛媛、星川盛一郎長女）との間に子女あり同盛（同一四、七生）は同妻ヤス（同一八、四生、香川長野彥三郎妹）及其子女を伴ひ分家し姪ユリエ（同三一、一生）は愛媛縣人岩崎茂作に同セツコ（同三三、九生）は同縣人尾崎公正に嫁せり（横濱、磯子、根岸芝生二一五七**電本局二九六〇**）

參照＝左右田棟一の項

鈴木爲吉　稻毛屋、酒類商、質商　東京府在籍

養母　こと　安政二、五生、神奈川、吉野嘉十郎妹
男　源造　明三七、一生
女　歌　明三九、八生
女　茂子　明四五、二生

君は東京府人横倉善兵衞の四男にして明治二年一月を以て生れ同二十九年先代ことの養子となり同三十年家督を相續す稻毛屋と稱し酒類商を營み質商を兼ぬ家族は倚五女政子（大三、四生）六女富士子（同五、一生）七女春子（同七、三生）あり長女勝（明二八、二生）は東京府人横倉勘四郎二男福二郎に嫁し長男彥一郎（明三〇、六生）は分家せり（東京、赤坂、田町一ノ六**電青山五五七一**）

鈴木忠吉　成大銀行、下田銀行、河津川水力電氣、東海釀造各（株）取締役　靜岡縣在籍

妻　たき　明九、一生、靜岡、渡邊慶治郎長女
養子　德治　明二八、一二生

君は靜岡縣人鈴木一成の二男にして明治四年二月を以て生れ同三十年家督を相續し前名直次郎を改む現時前記會社の重役として知らる曾て片濱銀行南豆馬車鐵道會社重役たりしことあり妹のぶ（明一六、一二生）は其夫美太郎（同一五、一生、靜岡、渡邊慶治郎二男）と共に其三男一女を伴ひ弟昌吉（同一九、八生）は其妻よし（同二三、二生、靜岡、平井平次郎五女）を伴ひ各分家せり（靜岡、賀茂、下田町）

參照＝鈴木德治の項

鈴木忠治　鈴木商店（株）專務取締役、東信電氣（株）取締役、神奈川縣在籍

妻　マス　明一一、一〇生、神奈川、辻井繁七三女
男　三千代　明三四、一生、商學士、鈴木商店（株）取締役
婦　靜子　明三七、六生、長男三千代妻、東京、山田初治長女
男　松雄　明三六、七生、工學士、東京帝國大學工學部講師
男　竹雄　明三八、五生、東京帝國大學法學部在學
女　千榮　明四一、四生、御茶の水高等女學校出身

君は神奈川縣人鈴木三郎助の弟同百太郎同六郎の養叔父にして明治八年二月を以て生れ大正八年分家して一家を創立す夙に横濱に出で兄三郎助沃度製造を始むるや之を助け又味の素製造を援助して鈴木商店今日の隆盛を見るに至れり現時鈴木商店專務取締役たる外東信電氣會社取締役たり家族は倚四男義雄（明四三、一〇生）五男治雄（大二、三生）六男正雄（同三、六生）七男秀雄（同六、六生）八男泰雄（同八、一二生）孫好（同一四、一生、長男三千代長女）あり（東京市外大崎町下大崎八三**電高輪三三三三**）

參照＝鈴木三郎助、鈴木百太郎、鈴木六郎の項

鈴木長九郎　新鹿銀行（株）頭取　三重縣在籍

妻　まさゑ　明五、九生、三重、奥川文太郎妹
孫　德壽　大二、一一生、亡長男德藏長男
婦　よねを　明二三、一〇生、亡長男德藏妻、三重、山口勘太郎長女
女　常子　明三九、五生
男　義夫　明四一、五生

君は三重縣人鈴木德之助の長男にして安政六年二月を以て生れ明治八年家督を相續す現時新鹿銀行頭取たり家族は倚ほ五男扉次（明四三、九生）六男政久（大二、三生）九女貞子（同五、九生）孫茂子（同五、九生、亡長男德藏長女）同德次（同八、七生、同二男）同留里（同三、三生、亡二男寅三郎男）あり五女とよ（明二三、一一生）は三重縣人市本兵一郎に六女よしゑ（同三五、二生）は同縣人上田熊之助養子喜代治に七女としゑ（同三七、一二生）は同縣人野木順藏に嫁し妹はな（萬延元一一生）は同夫龜四郎（同二三、一一生、三重、南長松弟）と共に其一子を伴ひ分家せり（三重、南牟婁、新鹿村）

參照＝上田熊之助の項

鈴木長壽　栃木縣多額納稅者、農業　栃木縣在籍

母　ゲン　明七、一二生、大叔父瀨一郎長女
妻　トワ　明三〇、五生、栃木、鈴木良一長女

君は栃木縣人鈴木朔彌の長男にして明治二十五年一月を以て生れ同三十一年家督を相續す農業を營み栃木縣多額納稅者たり家族は倚養子彰子（大九、四生、栃木、岩淵二次郎姪）從妹テル（明一〇、一生）大叔父喜代作（慶應三、五生、栃木、黑崎桝五郎弟）再從妹サト（明四二、七生、栃木、金子文彌庶子）あり妹キミ（同二九、八生）は栃木縣人岩淵二次郎弟彰郎に叔母ハツ（同二〇、三生）は同縣人鈴木七郎長男晴實に同イト（同二二、一一生）は同縣人村山喜三郎二男幸助に嫁し叔父廣（同一七、七生）は分家せり（栃木、鹽谷、北高根澤村）

參照＝岩淵彰郎、鈴木良一※谷口新平の項

鈴木長兵衞　岩手縣多額納稅者、運送業　岩手縣在籍

妻　とも　明二八、七生、宮城、船渡新平妹
女　サト　明三八、三生
女　トク　明四一、五生

君は岩手縣人先代長兵衞の長男にして明治十四年二月を以て生れ同二十四年家督を相續し前名長輔を改む運送業を營み岩手縣多額納稅者たり家族は倚孫サイ子（昭二、二生、亡養子善策長女）弟靖（明二三、二生）同妻うめ（同三一、四生、宮城、菊地市右衞門三女）及其二子あり亡大叔父儀三郎妻リエ（天保一四、五生、岩手、田鎖長藏妹）は其子女を伴ひ弟誠三（明一七、七生）は同妻ミサヲ（同二二、六生、岩手、佐々木太兵衞養子）及其一子を伴ひ各分家し姉テツ（同一一、五生）は神奈川縣人鈴木門左衞門に嫁せり（岩手、下閉伊、宮古町）

參照＝※本間亮一郎の項

鈴木塚三郎　中京堂、書籍商　愛知縣士族

妻　みつ　明三三、一一生、愛知、鹽川鈴次郎長女
男　太藏　大五、一〇生

君は愛知縣人山田增治郎の三男にして明治二十五年一月を以て生れ先代錫吉の養子となり大正十年家督を相續す中京堂と稱し書籍商を營む家族は倚三男吉藏（大八、一〇生）長女良子（同一一、八生）あり養母ゆう（明一四、四生、長野、士、山田藤治郎養子）は愛知縣人服部釘太郎の養子となり再從弟耕作（同三二、一〇生）は分家せり（名古屋、東、富澤町二ノ一〇**電東一七八二**）

鈴木恆三郎　原町紡績（株）社長、古河銀行、日本電線製造、大阪製煉、古河鑛業各（株）取締役、古河電氣工業、大源鑛業各（株）監査役、大分縣士族

繼母　フジ　嘉永三、一生、大分、鹿子木節藏妹
妻　齋　明一九、九生、東京、淺田甚右衞門姉

君は大分縣士族鈴木辨次郎の弟にして明治六年一月を以て生る同二十九年慶應義塾理財科を卒業し現時古河銀行取締役たる外前掲各會社の重役たり家族は倚養子壽榮（大四、三生、岐阜、春日井佐五一三女）の他兄辨次郎（慶應三、九生、現戶主）弟重義（明二〇、一〇生）同妻その（同三二、三生、東京、淺井龍勇姉）及其一女あり（東京市外中野町桐ケ谷一一二二**電四谷九七〇**）

參照＝淺田甚右衞門※淺田政吉の項

鈴木常松　修文館、書籍出版業　大阪府在籍

妻　ハル　明二二、一生、大阪、平田松之助二女

男　政　雄　明三八、五生
男　金之助　明四〇、三生
女　靜　子　明四一、八生

君は大阪府人先代善七の長男にして明治三年正月を以て生れ同十四年家督を相續す修文館と稱し書籍出版業を營む曩に大阪書籍會社常務取締役たりしことあり家族は尙四女淸子（大四、一生）七男龍之助（同六、三生）八男保夫（同一〇、一生）九男昭（同一一、一二生）十男宗一（同一一、一二生）十一男武（同一三、一二生）あり弟種次郎（明一〇、一一生）は同妻ゆう（同一八、四生、兵庫、士、寺村孫三郎三女）及び其一女を伴ひ分家し同善之助（同一二、一一生、法學士）も亦分家し六男時雄（同四二、一一生）は兵庫縣人高井幾江の養子となれり（大阪、東、博勞町五ノ五六電船場四五九六）

鈴木鶴治　長野縣多額納稅者、六十三銀行、信濃電氣、長野製絲各(株)監査役　長野縣在籍

※妻　し　け　明一五、四生、長野、神林小一郎三女
養子　英　次　明四〇、二生、長野、寺澤準四郎二男

君は長野縣人中村宗作の兄にして明治十二年七月を以て生れ先代勝之助の養子となり同二十九年家督を相續す現時前記銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者たり（長野市問御所町）

鈴木禎次　從四位勳四等、名古屋高等工業學校講師、建築技師、東京府士族

妻　ト　キ　明一二、五生、廣島、中根重一二女

君は舊幕臣鈴木利亨の長男にして明治三年七月を以て生れ大正三年家督を相續す先是明治二十九年帝國大學工科大學建築學科を卒業し三井銀行大阪支店新築に從事し後ち建築學研究の爲め歐洲に留學す歸來名古屋高等工業學校教授たりしも大正十年辭任し建築設計事務所を開き今日に及ぶ頃日再び名古屋高等工業學校に迎へられて講師たり家族は尙弟穆（明七、八生、正四位勳二等、前朝鮮銀行副總裁）同妻サダ子（同二一、一生、栃木、川村兌三姉）との間に一男三女あり三女フキ（同三六、四生）は醫學博士佐々貫之に妹幸世（同二四、五生）は千葉縣人高石眞五郎に嫁し弟生熊（同一六、二生）同妻てる（同一九、八生、千葉、齋藤良造妹）は分家し同冬藏（同二二、一生、早稻田大學理工科出身）同妻直枝（同二六、一二生、埼玉、坪井祥二女）も亦其三女を伴ひ分家せり（名古屋、東、東片端町二ノ六電東二六六三）

參照＝高石眞五郎の項

鈴木哲郎　從五位、朝鮮總督府技師、殖產局鑛務課新興出張所長兼尙州出張所長、靜岡縣在籍

妻　孝　明二九、一一生、理學博士比企忠長女
男　道　夫　大八、三生

君は靜岡縣人鈴木松太郎の長男にして明治二十二年九月を以て生れ後家督を相續す大正三年京都帝國大學理工科大學採鑛冶金科を卒業し朝鮮總督府技手京城工業專門學校講師朝鮮總督府技師に歷任し現に前記の職に在り家族は尙長女美榮（大一〇、二生）二女美美（同一四、九生）あり妹喜美（明三〇、四生）は茨城縣人堆關之介長男浩に同ひさ（同二六、一生）は千葉縣人內田鯤五郎に嫁せり（朝鮮、咸鏡南道、殖產局鑛務課新興出張所）

參照＝※高瀨武次郎の項

鈴木徹雄　從五位、專賣局參事、郡山地方專賣局長、東京府在籍

母　き　ん　慶應三、三生、東京、河內豐彥長女
妻　ア　イ　明二七、九生、東京、中澤重友長女、京都同志社女學校出身
男　正　雄　大一一、五生

君は東京府人鈴木甚藏の長男にして明治二十三年四月を以て生れ同三十年先代母きんの後を承けて家督を相續す大正三年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し直に大藏省に入り同五年專賣局參事補となり靜岡見付金澤各支局事業課長を經て同七年副參事に進む爾來茂木三田尻熊本各支局事業課長水戶地方專賣局事業課長等に歷補し同十三年專賣局參事に任ぜられ同局經理部主計課長となる尋いで同十四年歐米に出張し歸朝後昭和二年郡山地方專賣局長に補せられ現に其職に在り曩に伊太利に差遣せらる梅若流謠曲に趣味あり家族は尙ほ長女和子（大七、四生）あり（郡山、專賣局官舍）

鈴木鐵太郎　靜岡縣多額納稅者、乾物商　靜岡縣在籍

妻　き　よ　明七、一〇生、靜岡、後藤定四郎長女
男　謙　治　明三二、一一生
男　榮　一　明三四、一生
女　い　し　明三六、七生
女　あ　さ　明三七、一一生
男　謹　一　明三九、五生

君は靜岡縣人鈴木作三の長男にして慶應二年十月を以て生れ明治二十四年家督を相續す乾物商を營み現に靜岡縣多額納稅者たり家族は尙六女靜子（大四、六生）あり（濱松、肴町）

鈴木東七　藥種商　愛知縣在籍

祖母　た　き　安政二、一〇生、岐阜、生田彌助妹
母　す　ま　明一七、八生、祖父東七二女

君は愛知縣人先代東七の二男にして明治四十三年六月を以て生れ大正四年家督を相續し前名東次郎を改め襲名す藥種商を營む家族は尙姉さだ（明三八、一〇生）弟尙彥（大三、七生）伯母ひな（明二三、三生）あり叔母きぬ（同三五、一〇生）は愛知縣人安藤久藏長男幸雍に嫁せり（名古屋、東、京町一ノ一二電東一三五八）

鈴木東海夫　三島製紙(株)專務取締役　靜岡縣在籍

男　惠一郎　明二八、四生
男　三六郎　明三六、九生

君は靜岡縣人先代甚平の長男にして明治二年一月を以て生れ同二十年家督を相續し前名慶作を改む現時三島製紙會社專務取締役たり二男光次（明三〇、七生）は靜岡縣人杉坂庄作に二女たい（同三九、一生）は靜岡縣人佐々木ゆきに叔母婦佐（安政元、一二生）は同縣人青木ふさに各養子となり長女さち（明三四、八生）は同縣人中辰博に嫁し弟信作（同一四、一生）は同縣人日下部きよの相續人となり同丑三（同二〇、一生）は分家せり（靜岡、田方、錦田村）

鈴木藤兵衞　三重縣多額納稅者、吳服商　三重縣在籍

養母　さ　た　慶應三、二生、三重、奧田九萬藏長女

妻　あさゑ　明三四、一〇生、三重、平田佐次郎二女
男　貞　雄　大一一、七生

君は三重縣人奧林助三郎の二男にして明治二十六年十一月を以て生れ後先代藤兵衞の養子となり大正十四年家督を相續し前名邦雄を改め襲名す吳服商を營み三重縣多額納稅者たり家族は尙長女ふさ子（大一四、六生）あり（三重、飯南、松阪町）

參照＝平田佐次郎※長谷川吉三郎の項

鈴木德次郎　埼玉縣多額納稅者、材木商　埼玉縣在籍

妻　きやう　明一八、六生、埼玉、小澤吉之助長女
※養子　勇　作　明三五、三生、長女きく夫、埼玉淸水茂一郎弟
女　き　く　明三八、六生、養子勇作妻

君は埼玉縣人鈴木德次郎の二男にして明治十一年五月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名藤次郎を改め襲名す材木商を營み埼玉縣多額納稅者たり姉つね（明九、七生）は同夫繼平（同五、八生、埼玉、高橋一郎三男）と共に其四女を伴ひ分家せり（川越、松鄉一六七）

鈴木德次郎　三德、毛織物商　東京府在籍

母　し　げ　嘉永六、一生、東京、山本六三郎長女
妻　あ　い　明一四、五生、東京、渡邉新三郎妹
男　誠吉郎　明四一、九生

君は東京府人先代德次郎の長男にして明治十年三月を以て生れ同三十七年家督相續と共に襲名して前名茂三郎を改む三德と號し毛織物商を營む家族は尙ほ四男實（大二、一二生）長女淑代（同六、五生）二女章代（同八、六生）五男貫志郎（同一一、七生）の外弟長吉（明一三、一一生）同妻ミツ（同一七、八生、神奈川、川瀨亮三妹）との間に四子あり（東京、芝、宇田川町二七電芝二〇七五）

鈴木德治　千葉縣多額納稅者、農業　千葉縣在籍

養父　英　助　明一一、三生、現戶主
養母　信　子　明二三、四生、東京、難波田憲欽長女

君は千葉縣人鈴木英次郎の二男にして明治十一年三月を以て生れ大正七年兄英助の養子となる農業を營み現に千葉縣多額納稅者たり（千葉、山武、二川村）

鈴木德治　伊豆製氷冷藏(株)代表取締役　靜岡縣在籍

養父　忠　吉　明四、二生、現戶主
妻　春　子　明四〇、二生、靜岡、鈴木一郎妹
男　正　夫　大四、四生

君は靜岡縣人澤村久右衞門の五男にして明治二十八年十二月を以て生れ大正四年同縣人鈴木忠吉の養子となる現時伊豆製氷冷藏會社代表取締役たり家族は尙長女貞子（大五、四生）二男直夫（同八、一二生）三男幸夫（同一三、一〇生）あり（靜岡、賀茂、下田町）

參照＝鈴木忠吉の項

鈴木德治　地主　東京府在籍

妻　喜　舞　明一八、七生、東京、士、松下長至姉
男　元　明四三、一生
女　悅　子　明三八、九生、府立第一高等女學校出身
女　璋　子　明四一、二生、府立第一高等女學校出身
女　昌　子　明四五、五生

君は東京府人鈴木晴吉の長男にして明治十年十一月を以て生れ同十四年家督を相續す資產家にして家主たり家族は尙二男卓（大四、一一生）三男保（同六、二生）あり（東京、淺草、千束町二ノ四七九電淺草一七三一）

鈴木德之助　米代川水電、船川電氣、秋田木材各(株)取締役、茨城縣在籍

妻　き　よ　明二一、八生、茨城、前島平二女
男　勇　明四四、八生
女　道　子　大元、一〇生

君は茨城縣人鈴木利八の弟にして明治十五年二月を以て生れ大正十一年分家して一家を創立す明治四十二年京都帝國大學理工科大學電氣工學科を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙二女靜子（大四、一生）三女好子（同六、八生）二男英二（同八、一〇生）あり（東京市外千駄ケ谷町原宿一二一）

參照＝前島平の項

鈴木利太　大垣瓦斯電氣(株)常務取締役　岐阜縣在籍

妻　し　げ　明二三、五生、岐阜、北村銀治郎長女

君は岐阜縣人鈴木嘉兵衞の長男にして明治三年八月を以て生れ同十八年家督を相續す現時大垣瓦斯電氣會社常務取締役たり（大垣、竹島町）

鈴木敏一　第一生命保險(互)アクチユアリー、東京物理學校講師、兵庫縣在籍

父　快　晉　安政三、六生、兵庫、小林伊兵衞四男、現戶主
母　は　る　文久二、一生、兵庫、小林平太二女
妻　きよの　明二三、六生、宮城、東鄉理平六女
女　文　子　大元、一〇生

君は兵庫縣人鈴木快晉の長男にして明治十八年八月を以て生る大正三年東北帝國大學理科大學數學科を出で現時第一生命保險相互會社アクチユアリーにして東京物理學校講師東北帝國大學理學部の講義補助を兼ぬ大正七年歐米に遊學し亞米利加アクチユアリー會亞米利加統計學會獨逸保險學會の會員たり家族は尙二女和子（大三、七生）三女武子（同六、三生）四女泰子（同八、一生）五女佳子（同一三、一一生）六女房子（同一五、一二生）あり妹ひでの（明二五、一生）は兵庫縣人三枝快忍に嫁し弟規矩王麿（同三三、三生）は同縣人壽居賢隆の養子となれり（東京市外巢鴨町一〇八八電大塚二一〇三）

鈴木富五郎　多摩農業銀行(株)頭取　東京府在籍

妻　ツ　ネ　安政二、一二生、東京、陰山良太郎長女
男　榮次郎　明八、九生、現戶主
婦　ト　ク　明一〇、二生、長男榮次郎妻、東京、奧住林藏長女
孫　武　一　明三七、一〇生、孫ブン夫、東京、瀧瀨藤太郎三男
孫　ブ　ン　明三五、六生、孫武一妻、長男榮次郎長女
孫　良　明四三、九生、長男榮次郎三女

君は東京府人鈴木榮吉の長男にして嘉永六年十月を以

て生れ明治九年家督を相續し大正十二年隱退す現時多摩農業銀行頭取たり家族は尙孫美登(大三、一〇生、長男榮次郎四女)あり四男辰三(明三〇、一生)は同妻マサ(同三八、一生、東京、宍戸七郎兵衞二女)及其一子を伴ひ分家せり(東京、北多摩、立川町)

鈴木富太郎 羽前長崎銀行(株)取締役
母 やよ
妻 やゑ 明六、一一生、山形、鈴木甚六養子
男 英夫 明二五、二生、現戸主
婦 きよ 明二七、一〇生、長男英夫妻、山形、齋藤武一郎妹

君は山形縣人鈴木善三郎の二男にして慶應二年三月を以て生れ明治三十八年家督を相續し大正十五年退隱して家督を長男英夫に讓る現時羽前長崎銀行取締役たり家族は尙孫農(大七、一生、長男英夫長男)同理(同九、一一生、同二男)同麗子(同一四、九生、同長女)あり(山形、西村山、谷地町)

參照※田中一策※安部彦四郎の項

鈴木富太郎 建築材料商
妻 ヨウ 東京府在籍
男 久造 明三〇、九生、早稻田大學理工科出身
婦 八千代 明三三、一二生、長男久造妻、東京、相内武千雄姉
女 明子 明三二、四生、日本女子大學校英文科出身
女 治子 明三九、七生、日本女子大學校附屬高等女學校出身
女 貞子 明四二、八生、日本女子大學校附屬高等女學校出身
女 富喜子 明四四、六生、日本女子大學校附屬高等女學校出身

君は舊土州藩士鈴木貞一の長男にして元治元年十二月を以て生れ明治三十八年弟羊太郎の後を承けて家督を相續す同二十八年明治大學を卒業し陸軍法務官に任じ現時近衞師團法務部長の職にあり(東京市外中野町二三六八電中野三二三)

鈴木仁一郎 帝國製氈(株)社長、濱松倉庫(株)取締役、城北機業、淺野商店各(株)監査役、靜岡縣在籍
妻 さだ 明一一、八生、靜岡、權田義一郎姉
男 潤彌 明四四、六生
女 みさを 明四五、七生

君は靜岡縣人鈴木喜太郎の弟にして同幹一郎の兄なり明治六年一月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す夙に實業界に入り現時帝國製氈會社々長の外前記會社の重役たり家族は尙五女增子(大四、九生)六女文子(同九、二生)あり長女壽美(明三五、一生)は靜岡縣人鈴木繁治に二女美代(同三七、一生)は大阪府人婿馬亥之助に三女敏子(同三九、六生)は東京府人伊達研三に嫁ぎぬ(同三四、五生)は靜岡縣人山田眞平に嫁し弟省三(同九、六生)は同縣人佐藤儀作に同義一(同二〇、一二生)は同縣人佐藤千代次に各養子となれり(濱松、廣澤町二五二)

參照 鈴木幹一郎の項

鈴木仁十郎 日本工業所、西讃電氣、琴平參宮電鐵各(株)取締役、大阪府士族

男 甲子藏 明三六、八生
女 あき 明三九、九生
男 六三郎 明四一、一生
女 ゑい 明四四、一生

君は靜岡縣人鈴木榮吉の長男にして明治五年四月を以て生れ大正十五年家督を相續す米穀商を營み靜岡縣多額納稅者たり家族は尙五男造一(大三、七生)六女たか(同六、一〇生)孫昭一(昭二、七生、長男忠吉長男)あり(靜岡市馬場町)

參照※宮崎通之助※宮崎友太郎の項

鈴木直太郎 正五位勳三等、陸軍法務官、近衞師團法務部長、長野縣在籍
妻 かね 萬延元、二生、東京、鈴木今太郎養子

君は長野縣士族村地廣貞の二男にして明治三年十月を以て生れ先代〳〵の養子となり同二十二年家督を相續す同二十八年明治大學を卒業し陸軍法務官に任じ現時近衞師團法務部長の職にあり(東京市外中野町二三六八電中野三二三)

鈴木仁一郎 帝國製氈(株)社長、濱松倉庫(株)取締役、城北機業、淺野商店各(株)監査役、靜岡縣在籍
妻 さだ 明一一、八生、靜岡、權田義一郎姉
男 潤彌 明四四、六生
女 みさを 明四五、七生

君は靜岡縣人鈴木喜太郎の弟にして同幹一郎の兄なり明治六年一月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す夙に實業界に入り現時帝國製氈會社々長の外前記會社の重役たり家族は尙五女增子(大四、九生)六女文子(同九、二生)あり長女壽美(明三五、一生)は靜岡縣人鈴木繁治に二女美代(同三七、一生)は大阪府人婿馬亥之助に三女敏子(同三九、六生)は東京府人伊達研三に嫁ぎぬ(同三四、五生)は靜岡縣人山田眞平に嫁し弟省三(同九、六生)は同縣人佐藤儀作に同義一(同二〇、一二生)は同縣人佐藤千代次に各養子となれり(濱松、廣澤町二五二)

參照 鈴木幹一郎の項

鈴木仁十郎 日本工業所、西讃電氣、琴平參宮電鐵各(株)取締役、大阪府士族

大學校英文科出身)は衆議院議員永井柳太郎弟知二に嫁せり(東京市外西巢鴨町池袋一四一〇電大塚一六〇五)

參照―永井柳太郎の項

鈴木富太郎 白石興產(株)社長、宮城縣農工銀行(株)取締役、宮城縣在籍
妻 いし 明三、三生、宮城、鎌田權五郎長女
男 菊藏 明二二、三生
婦 貞 明二七、八生、長男菊藏妻、法學博士內池廉吉妹
女 のち 明四〇、七生

君は宮城縣人鈴木富五郎の長男にして慶應二年二月を以て生れ明治四十四年家督を相續す現に白石興產會社々長たる外前記銀行の重役たり家族は尙二男祥藏(同八、二生、同三男)同準之助(同五、八生、同二男)同きく(同一二、九生、同四男)同きく(同一五、二生、同二女)あり長女元(同六一郎(同一〇、三生)孫誠太郎(同二、九生、同長女)同はるえ(同一五、二生)は宮城縣人千葉源治長男藤吉に嫁ぎぬ(明一一、一生)は同縣人水野泰治長男純一(同二二、三生)は同縣人飯澤高に四女あいちとせ(明二五、六生)は宮城縣人仙臺市長男英夫(同三四、九生)は福島縣人內池三十郎六男昌九郎に嫁せり(宮城、刈田、白石町)

參照―內池廉吉の項

鈴木豐藏 長野縣多額納稅者、旅館業
長野縣在籍
妻 みつよ 明一九、一一生、長野、佐原つる妹
男 一郎 明三九、七生、日本女子大學校附屬高等女學校出身
女 治子 明四二、八生、日本女子大學校附屬高等女學校出身
女 貞子 明四四、六生、日本女子大學校附屬高等女學校出身

君は舊土州藩士鈴木貞一の長男にして元治元年十二月を以て生れ明治三十八年弟羊太郎の後を承けて家督を相續す夙に慶應義塾に學び米國に留學し歸朝後日米貿易商會を起し又東洋移民會社の監督として濠洲に赴任せしが後之を罷め建築材料商を營み今日に至る書畫に趣味を有す家族は尙三男利貞(大二、八生)六男是道(同六、一二生)あり二女枝子(明三三、一〇生、日本女子

鈴木直太郎 正五位勳三等、陸軍法務官、近衞師團法務部長、長野縣在籍
萬延元、二生、東京、鈴木今太郎養子
妻 かね

君は長野縣士族村地廣貞の二男にして明治三年十月を以て生れ先代〳〵の養子となり同二十二年家督を相續す同二十八年明治大學を卒業し陸軍法務官に任じ現時近衞師團法務部長の職にあり(東京市外中野町二三六八電中野三二三)

鈴木仁一郎 帝國製氈(株)社長、濱松倉庫(株)取締役、城北機業、淺野商店各(株)監査役、靜岡縣在籍
妻 さだ 明一一、八生、靜岡、權田義一郎姉
男 潤彌 明四四、六生
女 みさを 明四五、七生

君は靜岡縣人鈴木喜太郎の弟にして同幹一郎の兄なり明治六年一月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す夙に實業界に入り現時帝國製氈會社々長の外前記會社の重役たり家族は尙五女增子(大四、九生)六女文子(同九、二生)あり長女壽美(明三五、一生)は靜岡縣人鈴木繁治に二女美代(同三七、一生)は大阪府人婿馬亥之助に三女敏子(同三九、六生)は東京府人伊達研三に嫁ぎぬ(同三四、五生)は靜岡縣人山田眞平に嫁し弟省三(同九、六生)は同縣人佐藤儀作に同義一(同二〇、一二生)は同縣人佐藤千代次に各養子となれり(濱松、廣澤町二五二)

參照 鈴木幹一郎の項

鈴木仁十郎 日本工業所、西讃電氣、琴平參宮電鐵各(株)取締役、大阪府士族

男 甲子藏 明三六、八生
女 あき 明三九、九生
男 六三郎 明四一、一生
女 ゑい 明四四、一生

君は靜岡縣人鈴木榮吉の長男にして明治五年四月を以て生れ大正十五年家督を相續す米穀商を營み靜岡縣多額納稅者たり家族は尙五男造一(大三、七生)六女たか(同六、一〇生)孫昭一(昭二、七生、長男忠吉長男)あり(靜岡市馬場町)

參照※宮崎通之助※宮崎友太郎の項

鈴木直太郎 正五位勳三等、陸軍法務官、近衞師團法務部長、長野縣在籍
萬延元、二生、東京、鈴木今太郎養子
妻 かね

君は長野縣士族村地廣貞の二男にして明治三年十月を以て生れ先代〳〵の養子となり同二十二年家督を相續す同二十八年明治大學を卒業し陸軍法務官に任じ現時近衞師團法務部長の職にあり(東京市外中野町二三六八電中野三二三)

鈴木仁一郎 帝國製氈(株)社長、濱松倉庫(株)取締役、城北機業、淺野商店各(株)監査役、靜岡縣在籍
妻 さだ 明一一、八生、靜岡、權田義一郎姉
男 潤彌 明四四、六生
女 みさを 明四五、七生

君は靜岡縣人鈴木喜太郎の弟にして同幹一郎の兄なり明治六年一月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す夙に實業界に入り現時帝國製氈會社々長の外前記會社の重役たり家族は尙五女增子(大四、九生)六女文子(同九、二生)あり長女壽美(明三五、一生)は靜岡縣人鈴木繁治に二女美代(同三七、一生)は大阪府人婿馬亥之助に三女敏子(同三九、六生)は東京府人伊達研三に嫁ぎぬ(同三四、五生)は靜岡縣人山田眞平に嫁し弟省三(同九、六生)は同縣人佐藤儀作に同義一(同二〇、一二生)は同縣人佐藤千代次に各養子となれり(濱松、廣澤町二五二)

參照 鈴木幹一郎の項

鈴木仁十郎 日本工業所、西讃電氣、琴平參宮電鐵各(株)取締役、大阪府士族

男 達衞 明三〇、一二生
婦 よし 明三五、五生、二男達衞妻、茨城、谷口新平長女
女 靜子 明三九、六生

君は茨城縣士族にして慶應三年五月を以て生れ後鈴木金吾の養子となり明治三十年家督を相續す農を營み現に筑波鐵道會社取締役にして茨城縣多額納稅者たり家族は尙四男習郎(明四二、一生)孫撰(大一二、三生、二男達衞長女)同博夫(同一三、一二生、同長男)あり長女れん(明二二、八生)は茨城縣人中島覺次郎に二女とみ(同二六、三生)は同縣人飯塚尊一郎長男孝一に三女いう(同二八、四生)は同縣人大吉翁助に嫁し養弟家壽吉(同八、五生)は東京府人戶崎萬次郎の養子となれり(茨城、筑波、筑波町)

參照―谷口新平の項

鈴木寅彥 勳四等、日本曹達、日本電極工業各(株)社長、東京瓦斯(株)常務取締役、日清生命保險、東京乘合自動車、日本耐酸窯業、朝鮮鐵道、第一製氷各(株)取締役、北海道瓦斯、上毛モスリン、東北電力各(株)監査役、麒島縣士族

男 重成 明三四、三生
女 克子 明三八、一生、雙葉高等女學校出身
女 治子 明四〇、三生

君は麒島縣人國井豐次郎の長男にして明治六年三月を以て生れ先代リキの養子となり同十九年家督を相續す同二十九年東京專門學校邦語政治科を卒業し現に日本曹達會社々長たる外前揭各會社の重役として知らる貴族院議員に擧げらるる家族は尙四男重通(明四五、三生)五男重雅(大九、三生)あり長女隆子(明三〇、九生)は東京府人岡田幸三郎に嫁せり(東京、本郷、駒込西片町一〇いノ六電小石川二〇)

鈴木直次郎 靜岡縣多額納稅者、米穀商
靜岡縣在籍
父 榮吉 嘉永三、八生
繼母 こと 慶應元、六生、靜岡、佐藤孝平養母
妻 きん 明一〇、一二生、靜岡、宮崎通之助姉
男 忠吉 明三二、二生
婦 岡子 明三七、九生、長男忠吉妻、靜岡、村上傳右衞門妹

母 ヒデ 安政四、五生、愛知、士、富田若水長女
妻 ノブ 明二八、一生、香川、士、大西行禮長女
養子 憲吉 明四一、一生、香川、士、大西行禮五男

君は大阪府士族鈴木驛次の二男にして明治二十年二月を以て生れ大正十五年家督を相續す現時前記各會社の重役たり大正十年醫學博士の學位を受く家族は尙男信雄(大一四、二生)あり(名古屋、西、廣井町一ノ九五電西七三)

參照※橫井達麿※佐藤久の項

鈴木一 從五位勳五等、鐵道技師、工務局兼東京第二改良事務所勤務
妻 重夫 明二三、二生、京都、岡部重孝長女
男 正彥 大二、二生

君は京都府士族鈴木需の長男にして明治十三年十一月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治三十九年京都帝國大學理工科大學土木科を卒業し同四十一年鐵道院技師に任じ夛で鐵道局技師に轉じ札幌鐵道局工務課勤務同改良掛長同工務課長を經て同四十四年米國及獨國に出張を命ぜらる歸朝後札幌鐵道局工務課長となり現時前記官職にあり家族は尙三女溫子(大六、五生)二男義彥(同八、一生)三男誠彥(同一〇、四生)四女和子(生年月同上)第二郎(明二四、七生)同妻湍壽(同三七、三生、東京、町田慎従妹)あり(鐵道省工務局內)

鈴木八郎 資產家
京都府在籍
萬延元、一生、京都、鈴木元德長女
妻 トヨ 明三一、一生、京都、川島松之助三女、京都家政高等女學校出身
男 德彥 大九、一一生

當家は慶長以來京都に住し農を營み代々御所御臺所御用を承はり繼新に至る君は先代八左衞門の長男にして明治三十年三月を以て生れ同四十三年家督を相續す大正九年同志社大學英文科を卒業し同志社中學に數年を執り昭和二年之れを辭し佛國に遊學し現時同地に在り家族は尙長女八重(大七、四生)二男惠治(同一一、一生)三男圭文(同一三、二生)あり(京都、上京、下鴨宮河町三六電上二六七)

鈴木信義 醫學博士、好生館(株)監査役、好生館病院內科部長、愛知縣士族
養母 あさ 安政五、一二生、小串右門二女
妻 美和 明三二、五生、佐藤鉛十郎三女
養子 武夫 大一〇、八生、大阪、浦野芳次郎六男

君は愛知縣人橫井達麿の弟にして故陸軍々醫監橫井信之の三男なり明治二十二年三月を以て生れ後先代義雄の養子となり大正四年家督を相續す同二年京都帝國大學醫科大學を卒業し現時好生館內科部長にして前記各會社の重役たり大正十年醫學博士の學位を受く家族は尙男信雄(大一四、二生)あり(名古屋、西、廣井町一ノ九五電西七三)

參照※橫井達麿※佐藤久の項

鈴木一 從五位勳五等、鐵道技師、工務局兼東京第二改良事務所勤務
妻 重夫 明二三、二生、京都、岡部重孝長女
男 正彥 大二、二生

君は京都府士族鈴木需の長男にして明治十三年十一月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治三十九年京都帝國大學理工科大學土木科を卒業し同四十一年鐵道院技師に任じ夛で鐵道局技師に轉じ札幌鐵道局工務課勤務同改良掛長同工務課長を經て同四十四年米國及獨國に出張を命ぜらる歸朝後札幌鐵道局工務課長となり現時前記官職にあり家族は尙三女溫子(大六、五生)二男義彥(同八、一生)三男誠彥(同一〇、四生)四女和子(生年月同上)第二郎(明二四、七生)同妻湍壽(同三七、三生、東京、町田慎従妹)あり(鐵道省工務局內)

鈴木八郎 資產家
京都府在籍
萬延元、一生、京都、鈴木元德長女
妻 トヨ 明三一、一生、京都、川島松之助三女、京都家政高等女學校出身
男 德彥 大九、一一生

當家は慶長以來京都に住し農を營み代々御所御臺所御用を承はり繼新に至る君は先代八左衞門の長男にして明治三十年三月を以て生れ同四十三年家督を相續す大正九年同志社大學英文科を卒業し同志社中學に數年を執り昭和二年之れを辭し佛國に遊學し現時同地に在り家族は尙長女八重(大七、四生)二男惠治(同一一、一生)三男圭文(同一三、二生)あり(京都、上京、下鴨宮河町三六電上二六七)

鈴木八郎左衞門 靜岡縣多額納稅者、相良銀行(株)取締役、醬油釀造業
靜岡縣在籍
母 とよ 嘉永五、八生、靜岡、赤堀文右衞門二女

妻　あき　明一〇、五生、静岡、三橋四郎次五女
養子　義江　明二一、六生、父八郎左衛門四男
婿　ちよ　明二一、八生、群馬、湯淺治郎三女
光　大三、五生

君は静岡縣人鈴木八郎左衛門の長男にして慶應三年八月を以て生れ大正八年家督を相續し舊名與六を改む醬油釀造業を營み相良銀行取締役にして静岡縣多額納稅者たり家族は倘孫八郎(大五、三生、養子義江長男)同俊司(同六、一二生、同二男)同まさの(同三、四生、同長女)あり弟雄造(明八、八生)は同妻藏(同二七、六生、静岡、山田英三妹)を伴ひ同文吉(同二三、八生)は同妻サヨ(同二九、四生、大阪、加島牛兵衛二女)及其二女を伴ひ各分家し妹とき(同一二、一一生)は北海道帝國大學教授井伊谷喜平兄友藏に同ふき(同二八、八生)は静岡縣人櫻井久彦に嫁せり(静岡、榛原、相良町震八)

參照―井伊谷喜平、櫻井久彦災渡邊住彦の項

鈴木初藏

静岡縣多額納稅者、遠江銀行、市野銀行各(株)取締役、織物業
静岡縣在籍

男　孫藏　明三五、一〇生、長男孫藏妻、静岡、鈴木清藏養母
婦　よし子　明四一、三生
女　たけ

君は静岡縣人鈴木喜溥の長男にして文久三年六月を以て生れ明治十六年家督を相續す織物業を營み現時前記銀行の重役にして静岡縣多額納稅者たり家族は倘孫えつ(大一四、三生、長男孫藏長女)同エミ(昭二、六生、同二女)あり長女よし(明二七、四生)は分家し二男忠藏(同二九、八生)は同妻子代(同三五、一二生、愛知、河合藤四郎養妹)と共に弟基弘(同一六、四生)は同妻こと(同二四、一〇生、愛知、中神鷲郎妹)及其子女を伴ひ各分家し二女かね(同三二、二生)は静岡縣人内田雄三に三女せい(同三三、一一生)は陸軍中將淺川敬靖二男悌二に妹かね(同六、一一生)は静岡縣人鈴木七郎次長男七郎に嫁し弟定七(慶應三、一〇生)は同縣人松下文次郎に同德藏(明三、一二生)は同縣人小池與三郎に各養子となり同民三郎(同九、一二生)は同縣人松下つねの入夫となれり(静岡、清名、蒲村)

參照―淺川敏靖の項

鈴木春

東邦證券(株)專務取締役、東邦電力(株)理事、愛知縣士族
妻　ひち　明二一、八生、群馬、湯淺治郎三女
男　光大三、五生

君は愛知縣士族鈴木才三の長男にして明治十三年五月を以て生れ同四十三年家督を相續す英米佛澤在十五年に及び日本興業銀行日佛銀行等に勤務し現時東邦證券會社專務取締役東邦電力會社理事たり家族は倘二男榮(大四、九生、二男誠(同一四、五生)叔母ます(安政元、九生)同きく(元治元、一二生)あり弟限三(明一七、三生、同妻千代(同二一、七生、東京、松島剛四女)は一女を伴ひ分家し同欣(同一五、一二生、兵庫縣人清水芳吉の養子となり妹まん(同一九、五生)は東京府人安田繁三郎に同きし(同二一、八生)は同府人莵川實に同有女(同二六、四生)は埼玉縣人町田純平二男次郎に嫁せり(東京市外大井町林附三三四ノ三二電高輪六六〇)

參照―荒川實、清水欣、安田繁三郎、湯淺三郎の項

鈴木彦作

横山銀行(株)頭取
静岡縣在籍

妻　つき　慶應三、一二生、静岡、高塚和三郎妹
男　文雄　明二三、三生
婦　やよ　明二七、七生、二男文雄妻、静岡、伊達章孫
男　一夫　明三五、一〇生
女　睦　明三八、八生
女　武　明四一、三生
女　正　明四四、一生

君は静岡縣人先代彦作の養子にして文久三年六月を以て生れ後先代久彌の養子となり明治二十二年家督を相續し前名藤藏を改む農を營み現に神奈川縣多額納稅者たり夙に漢學を松本藩儒木澤成齋に學ぶ農林の經營從事し地方自治に志し爾來地方名譽職に選ばれ盡す處勝なからず又大正二年日本製氷會社監査役に舉げらる家族は倘孫修(大二、四生、二男穆長女)同恕(同一四、八生、同長男)同登(同一四、一二生、養子彌之助長男)あり二女滋子(明二〇、九生、女子學院出身)は東京府士族安川繁種に嫁し四女誠(同二四、九生、女子學院出身)同夫人(同二一、四生、栃木、猪野又三郎弟、東京帝(同一六、一二生、静岡、鈴木愛平妹)は同縣人森下作藏弟常藏に嫁せり(静岡、磐田、龍川村)

鈴木彦太郎

鈴木辨藏(株)商店取締役
神奈川縣在籍

母　チカ　慶應三、八生、神奈川、山本九郎兵衛長女
妻　三澤　明三五、一生、東京、鈴木熊男長女
男　和雄　昭二、二生

君は神奈川縣人鈴木辨藏の長男にして明治二十三年九月を以て生れ大正八年家督を相續す夙に父を扶けて家業米穀販賣に從事せしが同年店舗を株式組織となし鈴木辨藏商店と號し現に同社取締役たり家族は倘妹鈴子(明四一、六生)同末子(同四五、五生)あり養兄精次(同一二、二生)は分家し弟勇藏(同二七、四生)も亦同妻貞子(同三七、三生、鶴島、柴田泰之助二女)及其子女を伴ひ分家し妹千代(同三七、一生)は山口縣人安澤嘉藏に嫁せり(横濱、中、本牧町一三三九電本局一九〇七)

參照―鈴木精次、柳沼甚四郎の項

鈴木久彌

神奈川縣多額納稅者、農業
妻　ヤス　文久二、六生、養父久彌長女
男　穆　明三〇、七生、東京農業大學出身
婦　いつ代　明三五、一二生、二男穆妻、長野、諏訪要一妹
養子　彌之助　明二七、四生、六女俊子夫、石塚幸右衛門長男
女　俊子　明三三、四生、養子彌之助妻、山脇嵩等女學校出身

君は神奈川縣人原省三の二男にして安政三年一月を以て生れ後先代久彌の養子となり明治二十二年家督を相續し前名藤藏を改む農を營み現に神奈川縣多額納稅者たり夙に漢學を松本藩儒木澤成齋に學ぶ農林の經營從事し地方自治に志し爾來地方名譽職に選ばれ盡す處勝なからず又大正二年日本製氷會社監査役に舉げらる家族は倘孫修(大二、四生、二男穆長女)同恕(同一四、八生、同長男)同登(同一四、一二生、養子彌之助長男)あり二女滋子(明二〇、九生、女子學院出身)は東京府士族安川繁種に嫁し四女誠(同二四、九生、女子學院出身)同夫人(同二一、四生、栃木、猪野又三郎弟、東京帝

國大學醫學科出身)は其子と共に分家せり(神奈川、横樹、向丘村)

參照―※内山安兵衛※戸田由美の項

鈴木秀人

正五位勳四等、判事、大審院判事
熊本縣士族
妻　シズエ　明二三、四生、熊本、青木兼誠長女
女　淑子　明四四、四生、府立第三高等女學校在學

君は熊本縣士族現戸主鈴木義夫の弟にして明治十四年二月を以て生る同三十九年京都帝國大學法科大學を卒業し同四十一年判事に任じ爾來大阪區同地方廣島地方各裁判所判事廣島大阪各控訴院判事大阪地方裁判所部長に歷補し大正十二年歐米に出張を命ぜられ歸朝後大阪區裁判所判事同監督を經て同十四年現職大審院判事に補せらる家族は倘二女壽美子(大八、三生)三女銀子(同一四、五生)あり(東京、赤坂、青山南町六ノ八四)

參照―鈴木義夫の項

鈴木英夫

星製藥(株)調度課長
福島縣在籍

母　イシ　文久二、一一生、祖父平治平長女
妻　直子　明四〇、九生、兵庫、本田日生二女

君は福島縣人鈴木稻美の二男にして星一の從弟に當り明治二十九年を以て生る大正三年早稻田大學法科を卒業し後南清方面に漫航して商況を視察す現時星製藥會社調度課長たり家族は倘兄茂雄(明二三、一生、現戸主)同妻ナヲ(同二一、一生、福島、竹中定次郎二女)及其四男二女あり(東京市外大崎町桐ケ谷三二六)

參照―星一の項

鈴木英男

從五位勳六等、臺灣總督府法院判官、高等法院覆審部々長
静岡縣在籍

父　藤左衛門　文久二、一一生、現戸主
母　ふく　慶應元、三生、静岡、平澤彦右衛門妹
妻　龜　明二五、九生、新潟、士、伊藤悌治二女
男　育太郎　大三、二生

君は静岡縣人鈴木藤左衛門の二男にして明治十八年七月を以て生る同四十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し司法官試補となり大正二年判事に任じ福松區

水戸地方裁判所判事兼同區各裁判所判事に歷補し同八年臺灣總督府法院判官に轉じ現に高等法院覆審部々長たり妹ゆか(明二五、一一生)は神奈川縣人名取高代に同しづ(同二三、三生)は静岡縣人宮本良平四男龜藏に同はま(同二七、一〇生)は同縣人齋藤市三郎に同やす(同三二、二生)は同縣人青山昌三に嫁せり(愛知、西春日井、楠村)

參照―間宮右衛門※飯塚彦四郎※河田倭男※間鶴助※吉川芳太郎の項

鈴木百太郎

鈴木商店(株)取締役
神奈川縣在籍

妻　トシ　明二五、二生、横須賀市長石渡坦豐長女
男　孝　明四三、七生

君は東京府人淺葉仁右衛門の五男にして鈴木忠治の養甥同六郎の養兄に方る明治十二年六月を以て生れ後同縣人鈴木三郎助の養子となり大正八年分立して一家を創立す現時鈴木商店取締役たり(神奈川、三浦、葉山町)

參照―石渡坦豐、鈴木三郎助、鈴木忠治、鈴木六郎の項

鈴木廣吉

従五位勳六等、蠶業試驗場技師
栃木縣在籍

妻　キミ　明二八、一生、静岡、士、千阪彦四郎長女、静岡縣立高等女學校出身
男　正弘　大六、一生

君は栃木縣人鈴木要太郎の孫にして明治十四年九月を以て生れ同三十八年母ロクの後を承けて家督を相續す同四十四年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し原蠶種製造所蠶業試驗場各技手を經て大正三年蠶業試驗場技師に任ぜられ今日に至る家族は尚長女チヨ（大三、四生）二女ミツ（同一二、七生）あり妹アキ（明一七、一一生）は栃木縣人松本長五郎に嫁せり（東京市外杉並町蠶業試驗場内）

鈴木廣二　津島染色整理（株）取締役、名古屋銀行（株）業務課長、主事

妻　しづゑ　愛知縣在籍

明一七、一生、愛知、大庭爲二長女

男　正之　明三五、八生、農學士、日清製粉會社員

女　朝子　明三九、八生、愛知縣立第一高等女學校出身

男　義之　明四一、四生

女　久子　大元、九生

君は愛知縣人鈴木富右衞門の三男にして明治八年三月を以て生れ同二十三年母と共に分家し同二十九年家督を相續す現時名古屋銀行主事にして業務課長たる外前記會社の重役たり家族は尚三男忠之（明四二、一〇生）四男孝之（同四四、一生）三女房子（大三、八生）四女和子（同八、九生）あり母ふち刄（弘化四、一〇生、愛知、猪飼元右衞門長女）は愛知縣人鈴木剛の家籍に入れり（名古屋、東、田代町北畑一〇ノ二一）電東六三八九）

鈴木廣太郎　和泉廣、肥料米穀味噌溜商　愛知縣在籍

總母　とし　明一〇、九生、愛知、山本義一郎長女

妻　かね　明三四、一一生、愛知、山内庄藏妹

君は愛知縣人先代廣太郎の長男にして明治二十九年七月を以て生れ昭和二年家督相續と共に前名賢太郎を改め襲名す夙に東京高等商業學校を卒業し和泉商と稱し肥料米穀味噌溜商を營む家族は尚妹ひろ（明三二、四生）同夫貞三（同二九、一一生、愛知、伊藤光次郎二男）及び其子女あり叔母まき（同二〇、一生）は兵庫縣人山田基に嗣こう（同二二、一生）は同縣人鈴木彦八に嫁せり（名古屋、西、大舟町一ノ六）電西三五八）

鈴木富士彌　東間謀平、衞生會社員

妻　マツ　明二五、七生、神奈川、茂木惣兵衞姉、學習院女學部出身

君は大分縣人三塚亥三郎の三男にして明治十五年十一月を以て生れ初め文藏と稱し同三十八年實業家鈴木勝一家を創立し更に富士彌と改名す同三十五年東京帝國大學法科大學に入りしも學業の傍ら金港堂編輯部東京日日新聞社等に入りて漸く學資を補ひ同三十九年同大學獨逸法律科を卒業す同年歸朝後鈴木機械製作所專務理事となりしが間もなく病を得後雜誌工業世界を發行し大正二年辯護士を開業す爾來今日に至り數多の民刑事件を扱ひ令名あり同六年以來衆議院議員に當選する事四回同十三年內務參與官に任ぜられ昭和二年若槻內閣瓦解と共に之を辭す妻マツは土佐派の絡繰を能くす（東京市外澁谷町北谷四九）電青山二〇八）

鈴木武平　梁瀨自動車（株）取締役　東京府在籍

明一七、一〇生、東京、川口松次郎長女、立教高等女學校國文專攻

妻　つま　明二、三生、宮城、二階堂喜平二女

君は群馬縣人鈴木辨一郎の弟にして明治十七年五月を以て生れ大正七年分家して一家を創立す同四年日本大學商科を卒業し後梁瀨自動車會社に入り現に同社取締役たり（東京、赤坂、中ノ町二二）電青山一八四八）

鈴木房吉　猛鱗、石材商　東京府在籍

慶應三、九生、先々代兼吉長女

男　萬之助　明二六、一生

婦　きゆう　明三一、一生、二男萬之助妻、東京、福本權太郎二女

男　五郎　明三六、四生

男　三郎　明三八、一〇生

君は東京府人佐藤伊助の弟にして文久元年九月を以て生れ明治二十五年先代とくの入夫となり家督を相續す猛鱗と稱し石材商を營む家族は尚孫龍男（大八、一生、二男萬之助長男）同明（同一一、四生、同二男）同茂代（同一四、九生、同長女）あり妻妹とき（明一〇、一二生）は愛知縣人澤田億之丞に二女すゞ（同三一、一一生）は東京府人天野龜太郎に嫁し長女ふく（同二八、一二生）は同府人小池厚助の死跡を繼ぎ五男日出夫（大元、一二生）は其養子となれり（東京、赤坂、青山南町三ノ六二）電青山一四一三）

鈴木文次郎　水戸市長　茨城縣在籍

男　達一　明二九、一一生

婦　とよ　明三一、九生、長男達一妻、茨城、野澤豐二女

君は茨城縣人鈴木次右衞門の長男にして文久元年九月を以て生れ大正三年家督を相續す現に水戸市長たり家族は尚孫はる（大一三、三生、長男達一長女）同とき（同一四、六生、同二女）同文次郎（同一五、一〇生、同長男）の外妹つね（明一八、二生）同夫龜四郎（同二一、一一生、茨城、齋藤吉左衞門長男）及其子女あり二女きく（同二七、七生）は茨城縣人松井弘に嫁せり水戸、市長公舍）

鈴木文治　衆議院議員（大阪府選出）、日本勞働總同盟會長、宮城縣在籍

父　益治　明元、六生、現戸主

母　りやう　明二、三生、宮城、二階堂喜平二女

妻　ユキ　明一七、一生、山口、桑島數之進妹

男　文彦　大七、四生

君は宮城縣人鈴木益治の長男にして明治十八年九月を以て生る同四十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し秀英舍に入り大正二年友愛會を創立して其會長となり勞働組合運動に從事し後日本勞働總同盟と改稱し現に其會長たり義に推されて國際勞働會議に日本勞働代表として參列する事三回に及ぶ又東京朝日新聞記者統一基督弘道會幹事たり事あり昭和三年第一回の普選に依り大阪市より衆議院議員に當選し社會民衆黨に屬す家族は尚二男正人（大一三、一生）妹きぬ（明三一、二生）弟文雄（同三五、八生）妹きよし（同三八、九生）同睦子（同四三、三生）弟敏雄（大元、一一生）あり妹みよし（明二八、六生）は茨城縣人細田洋洲に嫁し同むら（同

三三、六生）は宮城縣人正木桂五郎の養子となれり（東京、赤坂、青山南町六ノ八三）電青山五五八八）

鈴木文七　福島縣多額納稅者、信達銀行、福島電燈各（株）監査役、農業　福島縣在籍

祖母　マム　喜永五、九生、福島、熊坂金左衞門長女

母　クミ　明五、四生、福島、近野元右衞門二女

妻　まつ　明二七、一一生、宮城、關善四郎三女

男　衆七　大五、九生

君は福島縣人鈴木文七の長男にして明治二十三年十一月を以て生れ大正九年家督相續と共に前名泰七を改め襲名す農業を營み現時前記各銀行會社の重役にして福島縣多額納稅者たり家族は尚長女タケ（大七、六生）二男廉七（同九、二生）の外弟元七（明二六、一一生）同妻直（同三二、一一生、福島、八卷伴藏長女）と其三子同才七（同三五、四生）同妻セイ（同三九、一二生、福島、太宰保矢郎二女）妹リツ（同三七、八生）弟美代七（同四〇、三生）妹フジ（同四三、一二生）同タキ（大四、二生）あり姉テイ（明一八、二生）は福島縣人小松四郎治長男長之介に嫁せり（福島、伊達、東湯野村）

參照―小松四郎治の項

鈴木文藏　遠文商店、電氣器具商　東京府在籍

妻　ひて　明二、一生、東京、古宮筆吉二女

男　虎一　明三五、一一生

婦　艶　明三七、三生、長男虎一妻、山梨原正二女

養子　德次郎　明二八、一生、二女けい夫、東京石井西吉二男

女　けい　明二六、一生、養子德次郎妻

女　二三子　明四一、八生

君は東京府人先代文藏の長男にして慶應元年三月を以て生れ明治十六年家督相續と共に前名繁太郎を改む遠文商店と稱し電氣器具商を營む家族は尚孫福三（大九、三生、養子德次郎長男）同敏（同一四、一生、同二男）あり妹さく（明五、六生）は分家せり（東京、芝、櫻田本郷町九）電銀座三三八）

鈴木平吉　植木商　東京府在籍

妻　かね　明元、一生、東京、本多喜平次姉

男　銀藏　明三一、八生

婦　八重子　明三三、三生、二男銀藏妻、東京、內田新左衞門四女

女　はる　明二五、三生

君は東京府人鈴木金三郎の長男にして慶應二年四月を以て生れ明治十五年家督を相續す植木商を營む家族は尚孫啓之（大一三、二生、二男銀藏長男）同和子（同一五、六生、同長女）あり三男鐵三郎（明三四、八生）は其妻とよ（同三五、七生、東京、小島重太郎四女）を伴ひ分家せり（東京市外寺島町一八三九）

參照―※吉野太郎一の項

鈴木平六　靜岡縣多額納稅者、農業　靜岡縣在籍

妻　みち　明四、九生、靜岡、築地保之助姉

男　平一郎　明二六、二生

男　馨　明三五、五生

君は靜岡縣人鈴木平六の長男にして元治元年四月を以て生れ明治十六年家督相續と共に前名榮太郎を改め遠名古屋に移り株式界に名を成して今日の產を爲せり君は其長男にして明治四十年一月を以て生れ大正十一年家督を相續す地主として知られ慶應義塾大學在學中なり家族は尚妹嘉代（明四三、三生、九段精華高等女學校出身）同志津（大元、一〇生、同上在學）あり姉貞（同三八、三生、出身校同上）は長野縣人野中隆太郎養子醫學士茂秉に嫁せり（東京市外淀橋町柏木五三）電四谷四〇八）

鈴木政吉　愛知縣多額納稅者、名古屋商工會議所常議員、鈴木バイオリン工場主、名古屋硝子製造所長、弦樂器製造業、愛知縣士族　慶應二、九生、愛知、士、近藤龍雄二女

妻　のぶ　明二二、一二生

男　梅雄　明二八、六生

六三郎　明三一、六生、二男六三郎妻、愛知、吉田太一郎長女

婦　美　明三三、五生

男　二三雄　明三一、一〇生、生母、愛知、藤

庶子　鐵一　明三二、一〇生、生母、愛知、藤江りやう

庶子　章　明三七、九生、生母、愛知、藤江りやう

庶子　喜久雄　明四〇、三生、生母、愛知、藤江りやう

庶子　ひな　明三七、四生

女　秀子　明三九、四生、府立第三高等女學校出身

君は埼玉縣人鈴木榮助の三男にして明治元年九月を以て生れ同三十四年分家して一家を創立す廻米業鈴辨商店を經營す家族は尚六男正壽（大元、八生）孫弘子（同一三、四生、長男元吉長女）同純一（同一四、一〇生、同長男）あり三女里（明三四、六生）は三重縣人杉谷榮長男信生に嫁せり（東京、芝、新堀河岸町四〇）電高輪三五三三）

參照―※吉野東宗の項

鈴木正道　地主　東京府在籍

母　しげ　明二〇、二生、愛知、加藤貞次郎養妹

鈴木家は元愛知縣下に在りて農を業とせしが先代常助に至り東京に移り株式界に名を成して今日の產を爲せり君は其長男にして明治四十年一月を以て生れ大正十一年家督を相續す地主として知られ慶應義塾大學在學中なり家族は尚妹嘉代（明四三、三生、九段精華高等女學校出身）同志津（大元、一〇生、同上在學）あり姉貞（同三八、三生、出身校同上）は長野縣人野中隆太郎養子醫學士茂秉に嫁せり（東京市外淀橋町柏木五三）電四谷四〇八）

鈴木辨吉　鈴辨商店、廻米業　東京府在籍

妻　しげ　明三、七生、東京、萩原彌兵衞二女

庶子　吉　明二九、一〇生

庶子　喜久雄　明三五、二生、長男元吉妻、千葉、松本新吉二女

婦　愛子　明三七、四生

男　榮　明三七、四生

庶子　十一郎　明四一、一一生、生母、愛知、藤江りやう

君は愛知縣士族鈴木正春の長男にして安政六年十一月を以て生れ明治十年家督を相續す夙に弦樂器の製造を創め鈴木バイオリンの名著聞す又名古屋硝子製造所長にして現に愛知縣多額納稅者名古屋工業會議所常議員たり家族は尙庶子英三（明四三、三生、生母、愛知、藤江りやう）同士郎（大二、一一生、生母同上）同正子（同五、一生、生母同上）同なみ子（同七、三生、生母同上）孫不二夫（同一〇、四生、二男六三郎長男）同都子（同一一、九生、同長女）同澄子（同一三、一二生、同二女）あり長女はな（明二五、三生）は愛知縣士族北村鶴藏五男五十郎に嫁せり（名古屋、東、門前町五三電東一一六一）

參照＝鈴木梅雄、吉田太一郎の項

鈴木政五郎　大日本農圀（株資）代表社員、圀蠶種苗商、東京府在籍

明一二、八生、東京、矢島峰次郎

妻　しん　長女

男　義保　明三八、六生

女　佐和　明三四、一〇生

男　武政　明四〇、一一生

君は東京府人鈴木政五郎の長男にして明治八年十二月を以て生れ同十六年家督を相續し襲名して前名政次郎家族は尙三男保衞（大元、一二生）二女千代（同五、二生）四男久雄（同七、六生）二女茂子（同一〇、三生）の外養弟金三郎（明二六、七生、東京、矢島峰次郎三男）同妻はつ（同三四、三生、埼玉、杉崎元右衞門長女）及其二子養妹ふさ（同三〇、二生、埼玉、眞仁田成吉孫）同夫寧一（同三一、一生、埼玉、黒須龜太郎三男）及其二子あり妹きん（同一八、五生）は分家せり（東京市外澁野川町瀧野川一八七二電板橋六六）

鈴木政七　靜圀縣多額納稅者、安倍銀行（株）取締役、石油肥料商、靜圀縣在籍

妻　みつ　文久三、四生、養父政平二女

男　保平　明一七、四生

君は靜圀縣人小澤與吉の弟にして文久二年十一月を以て生れ先代政平の養子となり明治十三年家督を相續す

妻　つる　明一一、一二生、大阪、佐々木米吉叔母

養子　ヨネ　明三八、九生、大阪、佐々木榮太郎姉

君は大阪府人鈴木榮次郎の長男にして明治十三年二月を以て生れ同三十一年家督を相續す工業機械製造業を營む（大阪、西、本田町二番丁三二電西三九三二）

鈴木松之助　富島組（株）取締役

兵庫縣在籍

妻　かね　明二、二生、養父磯吉長女

男　弘雄　明三八、一〇生

〃　養子　恒男　明二七、九生、四女菊枝夫、兵庫西村源次郎三男

女　菊枝　明三二、八生、養子恒男妻

君は大阪府人木羽宗五郎の二男にして明治元年十二月を以て生れ後先代磯吉の養子となり同十七年家督を相續す現時富島組取締役たり家族は尙孫一男（大一〇、一生、養子恒男長男）同惠美子（同一二、二生、同長女）同泰次（同一四、一一生、同二男）あり（神戸、下山手通五ノ七五ノ七電元町一九二七）

鈴木萬吉　靜圀縣多額納稅者、農業

靜圀縣在籍

父　治郎助　天保一三、二生

妻　たま　文久二、二生、靜圀、森田金次郎養妹

男　濵平　明一七、六生

孫　治平　明四一、二生、長男濵平長男

君は靜圀縣人鈴木治郎助の長男にして元治元年八月を以て生れ明治十六年家督を相續す農業を營み現時靜圀縣多額納稅者たり家族は尙孫嗣平（大二、一生、長男濵平三男）同正平（同四、八生、同四男）同よし（同七、七生、同二女）同眞平（同一二、六生、同六男）あり妹ふさ（明元、四生）は分家し孫くん（同三九、一生、長男濵平長女）はその養子となれり（靜圀、志太、東川根村）

鈴木萬次郎　勳四等、相互金融都ホテル各（株）取締役、醫師、福島縣在籍

妻　トラ　明元、一生、鈴木久七長女

男　秀一　明二八、八生、現戸主

男　テイ　明三一、三生

女　達　明三五、八生

男　透　明四〇、二生

君は福島縣人鈴木俊安の二男にして萬延元年三月を以て生る夙に醫學を修め弟篤三郎と共に神保醫院を設立し診療に從事す現時前記會社の重役にして義に愛國生命保險會社々長自棚鐵道加富登麥酒各會社重役たり衆議院議員に當選する事五回に及ぶ長女キミ（明一九、九生）は醫學博士綿引朝光に二女アイ（同二一、一一生）は茨城縣人菊池忠三郎に四女こう（同三、三生）は同縣人松本俊四郎に妹クニ（同二一、七生）は東俊良長男孟に姪節（同二七、九生）は東京府人今泉知三郎長男奥太郎に嫁し弟篤三郎（元治元、一生）同妻ミチ（明四、二生、長崎、溝口正路妹）は其子を伴ひ同七郎（同一四、一二生）同妻テル（同二一、八生、福島、佐藤繁次郎三女）は其子を伴ひ各分家し同六郎（同一三、三生）養妹ふさ（同一〇、一〇生）も亦各分家し弟小五郎（同一〇、九生）は福島縣人佐藤玄忠に同八郎（同一八、五生）は同縣人尾形善助に各養子となり甥忠俊（同三〇、一一生）は靜圀縣人金原谷太郎の養子となり姪きぬ（同一一生）は靜圀縣人山田眞平に嫁せり（東京市外代々幡町代々木西原八九六電四谷六七四七）

參照＝菊池忠三郎の項

鈴木萬平　川崎第百銀行（株）取締役

埼玉縣在籍

父　久兵衞　安政五、四生、現戸主

妻　まさ　明一八、二生、埼玉、早船喜右衞門二女

男　正　明四一、三生

女　登喜　明四三、九生

君は埼玉縣人鈴木久兵衞の長男にして明治十六年二月を以て生れ大正十二年分家して一家を創立す南山堂書店と稱し書籍出版業を營む家族は尙三男鷲郎（大四、一一生、四男公雄（同七、一生）三男清（同一二、一一生、一生）あり妹あい（明一八、八生）山昌治に嫁せり（東京市外中野町一七九六）

鈴木三樹之助　三木商店、東京米穀商品取引所取引員、東京府在籍

妻　あい　明二八、三生、埼玉、中原膽次郎妹

男　勤一　大九、三生

君は岩手縣人海野貞吉の三男にして明治十九年八月を以て生れ先代政平の養子となり明治十三年家督を相續す

妻　カメ　明一五、二生、長崎、植木喜一姉

石油肥料商を營み縣下の多額納稅者にして安倍銀行取締役たり長女はな（明一四、六生）は愛知縣人渡邊安太郎の養子となれり（名古屋、中、下堀川町三九電南一八一一）

參照＝渡邊安太郎の項

鈴木雅次　貴族院議員、從五位、工學博士、內務技師兼鐵道技師、土木局勤務、陸軍省囑託、港灣協會幹事

東京府在籍

妻　芳　明三三、二生、廣島、宮島暢夫二女

君は長野縣人鈴木恒太郎の二男にして明治二十二年五月を以て生れ同三十八年分家して一家を創立す大正三年九州帝國大學土木工學科を卒業し同六年內務技師となり同九年歐米各國に出張し歸朝後鐵道技師を兼ね昭和二年工學博士の學位を受く現時土木局勤務たり著述に海工學運河及可動橋あり家族は尙長女うた（大一三、一生）あり（東京市外東調布町田園調布五四七號）

鈴木益三　三菱銀行（株）上海支店長

神奈川縣在籍

妻　ひろ　明三〇、七生、山梨、高見澤重興三女

男　登記男　大一〇、九生

君は靜圀縣人鈴木榮吉の五男にして明治二十二年五月を以て生れ同四十四年家督を相續す同十五年東京高等商業學校を卒業し三菱銀行に入り現時上海支店長たり家族は尙長女章（大六、二生）二女慶（同八、一〇生）三女萬里（同一四、三生）あり（上海、法租界揀婁德路五五五電西二七五七）

參照＝鈴木德次郎の項

鈴木幷次郎　愛知縣在籍

妻　良子　明三四、五生、愛知、田中清八二女

君は愛知縣人先代幷次郎の長男にして明治三十二年九月を以て生れ大正三年家督相續と共に前名作次郎を改め襲名す現に鈴木石炭商店代表社員たり家族は尙長女ふく（同二五、四生）は東京府人田宮五郎左衞門に五女のぶ（同三〇、七生）は同府人鈴木金藏長男精一郎に嫁せり（東京、下谷、入谷町四六電下谷二三六〇）

鈴木松五郎　資產家

愛知縣在籍

妻　いそ　明一三、九生、愛知、後藤くわ妹

男　茂生　明三二、一〇生

男　良　明四〇、一一生

女　知惠子　明四四、九生

君は愛知縣人山岸甚兵衞の二男にして慶應二年十二月を以て生れ先代庄助の養子となり明治十九年家督を相續す資產家たり二女みよ子（明三八、五生）は愛知縣人小海治郎に嫁せり（名古屋、南、熱田東町金山八八電南一一〇五）

鈴木松次　工業機械製造業

大阪府在籍

以て生れ大正四年鈴木あいの入夫となり家督を相續す現時東京米穀商品取引所取引員にして三木商店を經營す家族は尙長女眞佐栄（大三、二生）二女しげ子（同五、一一生）二男保（同一二、七生）あり（東京、日本橋、蠣殼町一ノ二電茅場町二二五六）

參照＝中原膽次郎の項

鈴木幹一郎　日印通商（株）取締役

靜圀縣在籍

母　こん　安政元、七生、靜圀、野島寫平治三女

妻　きよ　明二二、六生、靜圀、柳原時次郎四女

男　康吉　明四四、四生

君は靜圀縣人鈴木友平の四男にして同仁一郎の弟なり明治十二年七月を以て生る同三十六年慶應義塾理財科を卒業し現に日印通商會社取締役たり家族は尙二男正三（大三、七生）兄幾太郎（明三、一二生、現戸主）及其一子弟純平（同一八、七生）同妻いち（同二八、一一生、靜圀、齋藤新三郎三女）及其子女あり同榮司（同二八、一一生）は靜圀縣人金原谷太郎の養子となり甥きぬ（同三四、五生）は同縣人山田眞平に嫁せり（東京市外澁谷町八幡通二ノ二六電青山三一二）

參照＝齋藤新三郎、鈴木仁一郎の項

鈴木幹太　南山堂書店、書籍出版業

東京府在籍

明一八、一生、東京、士、清水勝次妹

妻　ツネ　三妹

大二、六生

男　正二　明四三、九生

女　登喜　明四三、九生

君は東京府人鈴木喜一郎の弟にして明治十四年十月を以て生れ大正十二年分家して一家を創立す南山堂書店と稱し書籍出版業を營む家族は尙三男鷲郎（大四、一一生、四男公雄（同七、一生）三男清（同一二、一一生、一生）二女あい（明一八、八生）あり妹あい（明一八、八生）山昌治に嫁せり（東京市外中野町一七九六）

鈴木三樹之助　三木商店、東京米穀商品取引所取引員、東京府在籍

妻　あい　明二八、三生、埼玉、中原膽次郎妹

男　勤一　大九、三生

君は岩手縣人海野貞吉の三男にして明治十九年八月を以て生れ先代政平の養子となり明治十三年家督を相續す

妻　カメ　明一五、二生、長崎、植木喜一姉

男　龍兒　明三七、五生
女　楫　明四一、一生

君は宮城縣人鈴木惣一の叔父にして明治四年三月を以て生れ大正九年分家して一家を創立す明治二十六年東京高等工業學校機械科を卒業し現時前記諸會社の重役として知らる（東京、本郷、駒込吉祥寺町二五**電小石川二五〇三**）

鈴木宗夫

（靜岡縣多額納稅者、富士銀行(株)取締役、農業、靜岡縣在籍）

繼母　ゑい　明一四、一生、東京、士族龜雄姉
妻　あい　明一四、五生、靜岡、石垣政平二女
男　宗一郎　大三、七生
女　とよ　明四一、一〇生、東京女子家政學院出身
女　ふさ　明四四、二生
女　まさ　大元、一二生

君は靜岡縣人鈴木宗三の長男にして明治十二年二月を以て生れ同二十二年家督を相續す同三十三年慶應義塾を卒業し農を業とし現に靜岡縣多額納稅者にして富士銀行重役たり家族は尙八女いく（大七、四生）二男良平（同一〇、一生）あり長女はな（明三五、五生）は靜岡縣人野田八郎に二女きよ（同三七、七生）は同縣人鈴木榮治に嫁せり（靜岡、田方、下狩野村）

参照―※山本大次郎の項

鈴木宗竹

（釧路商工會議所副會頭、三上運送鈴木商品倉庫各(株)代表取締役、千葉縣在籍）

父　宗吉　萬延元、三生、現戸主
母　やそ　萬延元、八生、千葉、溝口平兵衛三女
妻　まつ　明一三、一〇生、千葉、溝口寛妹
男　直枝　明三六、九生

君は千葉縣人鈴木宗吉の二男にして明治十三年五月を以て生る現時前記各會社の重役にして釧路商工會議所副會頭に擧げらる家族は尙三男茂（明四二、一一生）四男實（大二、五生）五男敬（同七、四生）六男宣（同一一、二生）あり亡弟貞保妻スゞ（明二一、九生、神奈川、觀音寺住職）の重役に擧げられ以て今日に至る家族は尙二男榮（大五、一一生）三男至（同七、五生）あり長女純子（明四〇、九生、お茶水高等女學校出身）は東京府人岩垂邦雄に嫁せり（東京、芝、田町六ノ九**電高輪三五一**）

参照―淺野總一郎※淺野泰治郎※淺野八郎※淺野義夫※淺野良三※白石元治郎※鶴田勝三※穗積重威※馬杉秀の項

鈴木彌左衞門

（山形縣多額納稅者、農業）

山形縣在籍

妻　文江　明一六、六生、養父彌左衞門長女
男　千德　明四〇、一生
女　俱子　明四五、三生
女　齋子　明四五、三生

君は山形縣人松井權平の弟にして明治十二年五月を以て生れ先代彌左衞門の養子となり同四十一年家督相續と共に襲名して前名啓治を改む農業を營み縣下の多額納稅者たり家族は尙二男担（明四三、三生）三男登龍彌（大三、五生）四男知規彌（同九、二生）あり長女好子（明三五、三生）は福島縣人小寺隆太郎に妹朴（同二三、六生）は山形縣士族山宮成一長男開に嫁せり（山形、東田川、東榮村）

参照―※佐々木米藏の項

鈴木彌三郎

（栃木縣多額納稅者、呉服商）

栃木縣在籍

妻　フク　明二八、九生、栃木、福井熊三郎二女
男　秀　大六、九生

君は栃木縣人先代彌三郎の長男にして明治二十四年七月を以て生れ同四十年家督を繼ぎ襲名して前名昇治を改む呉服商を營み栃木縣多額納稅者たり家族は尙三男政雄（大一〇、一生）三女ハナ（同一一、九生）四女ヤス（同一三、四生）四男和雄（同一五、三生）あり姉ミヨ（明一九、二生）同夫德平（同一二、九生、栃木、福田豐平三男）は其子女を伴ひ分家し妹サダ（同三三、八生）は栃木縣人小川コウの養子となれり（栃木、上都賀、鹿沼町）

参照―※中島清兵衞の項

鈴木彌三郎

（履物商、埼玉縣在籍）

妻　てる　明一六、二生、埼玉、原莊三三女
男　茂　明三五、一二生
男　明　明三六、一二生、長男茂明妻、埼玉、田島太郎妹
婦　しま　明四三、一生

君は埼玉縣人鈴木茂七の弟にして明治十一年四月を以て生れ後先代茂七の養子となり同二十四年家督を相續す履物商を營む家族は尙四女俊子（大四、四生）孫登美子（同一三、三生、長男茂明長女）あり（東京、赤坂、青山南町六ノ五〇**電青山五八八**）

鈴木彌兵衞

（鈴木(株)社長、日本漁業(株)取締役、カナエバッキング製造、大阪製鎖所、芳澤鉛管製造所、淺田製油各(株)鑑査役、船具機械商、東京府在籍）

養母　タケ　安政元、五生、東京、長谷川富吉妹
男　彌太郎　明二七、二生
男　慶太郎　明三〇、四生
婦　喜久　明三九、一生
男　龜八　明三二、一一生、二男慶太郎妻、宮崎、高德一太郎從妹
男　明　明三四、一生

君は和歌山縣人松井和七の弟にして明治三年十一月を以て生れ鈴木彌兵衞の養子となり大正四年家督を相續す船具機械商を營み鈴木彌兵衞商店として知られ尾花澤鐵道會社取締役を始め前揭諸會社の重役たり家族は尙孫榮吉（大七、五生、長男彌太郎二男）同二郎（同一一、三生、同二男）同國夫（同一四、一生、同三男）あり二女まさ（明三三、六生）は和歌山縣人松井芳太郎の死跡を繼げり（東京、京橋、松屋町一ノ八**電京橋二八四三**）

鈴木安孝

（衆議院議員(秋田縣選出)、辯護士、秋田縣在籍）

妻　チヨ　明一六、一〇生、秋田、早川新作二女
男　一　大二、一〇生
女　孝子　明四四、一生
女　幸　明四五、一生

君は宮城縣人鈴木安遜の長男にして明治十年九月を以て生れ大正六年叔父安利方より分れて一家を創立す明治三十六年和佛法律學校を卒業し判事に任ぜられ秋田地方裁判所判事たりしが後官を罷め辯護士となり今日に至る曩に秋田市會議員秋田縣會議員同議長に擧げられ昭和三年秋田縣より推されて衆議院議員に當選す立憲政友會所屬たり家族は尙三女光子（大四、五生）二男二郎（同六、三生）三男三郎（同八、一生）四女淑子（同一〇、一生）五女了子（同一三、一生）六女秋子（同一四、九生）あり（秋田市中長町）

鈴木保平

（靜岡縣多額納稅者、靜岡瓦斯(株)鑑査役、靜岡縣在籍）

父　政七　文久二、一一生、**現戸主**
妻　千枝　明二三、八生、靜岡、狩野閂八郎三女
男　良一　大五、二生
女　まき　明四一、一〇生
女　茂代　大二、八生
女　美枝　大二、八生

君は靜岡縣人鈴木政七の長男にして明治十七年四月を以て生る現時靜岡瓦斯會社鑑査役にして靜岡縣多額納稅者たり家族は尙五女慶子（大八、一生）あり（靜岡市馬場町九二）

参照―鈴木政七※新間喜兵衞※野崎衞七の項

鈴木康太郎

（埼玉縣多額納稅者、埼玉農工銀行浦和商業銀行各(株)取締役、農業、埼玉縣在籍）

父　順太郎　元治元、一二生
繼母　そで　明七、三生、埼玉、增田權太郎妹
妻　たけ　明四三、二生
男　裕　明四三、一生、埼玉、井原誠一姉

君は埼玉縣人鈴木順太郎の長男にして明治二十二年一月を以て生れ大正六年家督を相續す農業を營み縣下の多額納稅者にして現に前記各銀行の重役たり家族は尙二男敏夫（大二、八生）四男迪夫（同五、一二生）あり妹

鈴木茂助

（東京府在籍）

妻　いく　萬延元、一一生、養父佐兵衞長女
男　保雄　明二八、一二生、現戸主、東京高等工業學校機械科卒業、西武興業(株)取締役
婦　ジツ　明三二、八生、三男保雄妻、福岡、士、大藏正一長女
公子　明一二、八生
茂子　大二、九生、三男保雄長女

君は埼玉縣人山口信三の長男にして嘉永五年九月を以て生れ先代茂助の養子となり明治十六年家督を相續し大正十五年隱退す當家は元上總屋と稱し代々薪炭商を營みしが先代佐兵衞に至り明治二十三年獨力を以てポーランドセメント製造を始め君も亦之を繼ぎ專らセメント業を營みしが大正十五年磐城セメント會社に合併せり現時前記會社の重役たり家族は尙孫房子（大一四、一一生、三男保雄二女）同昭子（昭二、六生、同三女）あり二女鶴（明二五、一生）は山口縣士族島田乙駒兄太郎に五女知惠（同三三、二生）は東京府人田中元次郎三男稻生に嫁し養弟幸三（同八、五生）同慶三（同九、一二生）は各其妻子を伴ひ分家し同敬三郎（同元、六生、茨城、永田源九郎四男）は東京府人淺井孝右衞門の養子となれり（東京市外落合町目白第二文化村六一號**電牛込五七四〇**）

参照―大藪正一、島田乙駒の項

鈴木茂兵衞

（東京商工會議所議員、東京府農工銀行(株)頭取、東京地方鹽業組合(株)社長、日海陸運輸各(株)取締役、吾妻川電力、第二吾妻川電力、共保生命保險、草津電氣鐵道各(株)取締役、小田原急行鐵道、日本活動寫眞、日本橋電氣鐵道、三有鑛業、東京米穀商品取引所各(株)監査役）

安政二、四生、東京、善野佐八郎長女

君は東京府人先代茂兵衞の弟にして明治十六年二月を以て生れ同四十四年家督相續と共に襲名して前名增四郎と改め鹽業を營み東京市工會議所議員東京商工會副會頭に擧げられ以て今日に至る家族は尙二男榮（明四〇、九生、神奈川、觀音寺住職）三男實（同一一、九生、足利紡績、鶴見臨港鐵道各(株)監査役）はい原本店、醬油商、東京府在籍）

参照―棚橋寅之助の項

鈴木茂兵衞

（沖電氣、淺野造船所、京濱運河各(株)常務取締役、淺野同族、鈴木洋酒店、淺野小倉製鋼所、淺野石材工業、朝鮮鐵山、剩奈川コークス、內外石油、東洋草莚、信越木材、太平洋貿易各(株)取締役、芳野鑛業、日之出汽船、臺灣地所建物、大日本セメント、千代田石油、中央製鐵、淺野物產、日本鑛造、鶴見木工、淺野造船鐵道各(株)監査役、はい原本店、醬油商、東京府在籍）

明二〇、二生、東京、淺野總一郎五女

鈴木紋次郎

妻　タカ　明二〇、二生
男　年夫　明四四、三生、お茶水高等女學校在學
女　潔子　明四五、五生、甕葉高等女學校在學
女　淨子　明四五、五生、甕葉高等女學校在學

鈴木家はもと野州宇都宮に住し代々紺屋を家業とせしが先々代恒吉に至り夙に橫濱港に來り後上京して洋酒

せい（明三三、一二生）は埼玉縣人篠原操太に嫁せり（埼玉、北足立、尾間木村）

鈴木雄輔　日本銀行員　東京府士族
慶應元、一〇生、東京、峰村宗助長女　つね
明三、六、七生、醫學博士磐瀬雄一長女、御茶の水高等女學校出身
妻　玉枝
君は東京府士族鈴木知雄の長男にして明治二十五年十月を以て生れ大正二年家督を相續す同六年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し直に日本銀行に入り今日に及ぶ資產家たり姉知可（明一七、一二生）は理學博士片山正夫に同三重（同二二、四生）は法學士平山鼎に同貞（同二三、八生）は遞信省航空局長柳谷西三に嫁せり（東京、小石川、原町一二六電小石川五一八）

參照＝磐瀬雄一、片山正夫、平山鼎、柳谷西三の項

鈴木讓　東京農業大學講師　東京府在籍
明三一、五生、東京、戸塚庄次郎三女　郁子
男　昭
昭元、一二生
君は東京府人鈴木良輔の四男にして明治二十四年十二月を以て生れ昭和二年家督を相續す先代良輔は東京板紙會社長秀英舍取締役として知られたり君大正九年東京農業大學を卒業し神奈川縣農事試驗場二の宮園藝部に就任し後茅ヶ崎町組合園藝試驗場長に轉任同十二年母校農場課に勤務し現時同校講師たり家族は尙長女美枝子（大一三、二生）あり（東京市外東調布町上沼部四〇九）

鈴木與三郎　資產家　東京府在籍
安政二、七生、東京、鈴木甚助孫
母　うた
妻　いせ
明一四、一〇生、東京、中村富藏二女
男　定治
明四四、四生
女　美與子
明四二、一生
君は東京府人鈴木定次郎の長男にして明治八年十月を以て生れ同三十九年家督を相續す資產家たり家族は尙二男正治（大二、一生）あり四女多津子（明三七、一生）は東京府人柴田龜之丞長男忠道に五女フジ子（同三九、八生）は同府人篠田村藤孫儀雄に妹キョウ（同二八、七生）は同府人村瀨武雄に同ゑい（同三三、八生）は同府人瀧島久右衞門二男政之助に嫁し弟戊藏（同三一、一生）は分家せり（東京市外中野町二〇三三）

鈴木與平　日本銀行員　東京府士族
靜岡縣多額納稅者、清水銀行（株）頭取、清水運送（株）社長、三十五銀行、清水精穀、靜岡貿易、清水木材倉庫各（株）取締役、石炭並回漕業、靜岡縣在籍
慶應元、一〇生、靜岡、鈴木儀平長女　つね
明一九、一生、靜岡、影山市郎兵衞三女　さ
明四三、五生
君は靜岡縣人山崎次郎七の二男にして明治十六年二月を以て生れ先代與平の養子となり大正六年家督を相續し前名通太郎を改め襲名す縣下の多額納稅者にして石炭商並に回漕業を營み傍ら前記銀行會社重役たり家族は尙二男要二（明四四、一〇生）三男清司（大三、三生）五男辰衞（同一二、五生）あり（清水、清水三七七）

參照＝※金澤龍男の項

鈴木要太郎　正五位勳四等、總領事兼朝鮮總督府事務官、間島駐在、靜岡縣在籍
文久二、一二生、靜岡、木俣平吉妹　高
明二二、二生、東京、中島千足妹　春
明四一、一一生
女　清子
明四三、八生
君は靜岡縣人鈴木來作の長男にして明治八年九月を以て生れ同四十二年家督を相續す同二十八年東京專門學校英語政治科を卒業し同三十年文官高等試驗に合格す爾來外務省參事官遼陽在勤副領事兼關東都督府事務官領事兼朝鮮總督府書記官來國在勤大使館一等書記官等に歷任し大正十一年總事に任じ間島在勤を命ぜられ朝鮮總督府事務官を兼ね今日に及ぶ家族は尙二男滿雄（大三、五生）あり（間島日本總領事館）

鈴木要吉　岩手縣在籍
養子　ヲサム
妻　靖
明二〇、二生、北海道、多田寛五女
助　大一一、七生、兄要助四男
君は岩手縣人鈴木要助の弟にして明治二十二年九月を以て生る同四十四年室蘭毎日新聞社に入り主筆を經て大正八年社長となり現時に至る傍ら室蘭商業會議所特別議員たり家族は尙兄要助（明一四、四生、現戸主）同妻サタ（同二〇、二生、岩手、村田善七三女）及其三男三女同善太郎（同一七、一生同妻マツノ（同二七、二三、五生、北海道、山根榮庶子）は其四三女同敬次郎（同一七、一生、岩手、藤尾貞治妹）及其三男三女同善太郎（同一七、一生同妻マツノ（同二七、二三、五生、北海道、山根榮庶子）は其四女を伴ひ分家せり（室蘭、常盤町一〇八）

鈴木要太郎　正五位勳四等、總領事兼朝鮮總督府事務官、間島駐在、靜岡縣在籍
文久二、一二生、靜岡、木俣平吉妹　高
明二二、二生、東京、中島千足妹　春
明四一、一一生
女　清子
明四三、八生
君は靜岡縣人鈴木來作の長男にして明治八年九月を以て生れ同四十二年家督を相續す同二十八年東京專門學校英語政治科を卒業し同三十年文官高等試驗に合格す爾來外務省參事官遼陽在勤副領事兼關東都督府事務官領事兼朝鮮總督府書記官來國在勤大使館一等書記官等に歷任し大正十一年總事に任じ間島在勤を命ぜられ朝鮮總督府事務官を兼ね今日に及ぶ家族は尙二男滿雄（大三、五生）あり（間島日本總領事館）

鈴木庸輔　島津製作所（株）常務取締役　京都府在籍
妻　武
明二四、四生、京都、島津源藏妹
男　輔
大二、一二生
君は岐阜縣人鈴木近三郎の弟にして明治二十年七月を以て生れ大正十一年分家して一家を創立す現時島津製作所常務取締役たり家族は尙長女利子（大五、一〇生）二男義輔（同八、五生）三男信輔（同一一、三生）二女茂子（同一四、一一生）あり（京都、上京、椹木町日暮西入電西陣二一七六）

參照＝島津源藏※熊澤治郎吉※島津源吉※島津常三郎※桃谷幹次郎の項

鈴木由郎　鈴木由郎商店（株）社長、東京結束、中屋印刷所、ラサ島燐礦各（株）取締役、東京株式取引所一般取引員　東京府在籍
妻　せつる
明一五、四生、靜岡、山本平三郎養子
男　啓介
大五、七生
女　善子
明四三、一一生
君は靜岡縣人鈴木松藏の四男にして同正平の弟なり明治十四年十月を以て生れ後先代銀十の養子となり大正五年家督を相續す東京株式取引所一般取引員にして現に前記各會社の重役たり家族は尙四男善祐（大八、一生）あり養妹ミネ（明一八、六生）は法學博士篠田治策弟治助に嫁せり（東京、深川、小松町電本所三六二八）

參照＝篠田治策、鈴木正平の項

鈴木義夫　熊本縣多額納稅者、農業　熊本縣士族
明一七、一生、熊本、士、志内孫太郎長女
妻　サカ

男　義行
明四一、八生
女　濱子
明三四、一一生
女　綾子
明三六、九生
女　佐枝
明四四、三生
君は熊本縣士族鈴木求平の長男同秀人の兄なり明治八年八月を以て生れ同三十五年家督を相續す農を業とし縣下の多額納稅者たり家族は尙三男義美（大二、九生）あり（熊本、飽託、畫圖村）

參照＝志内孫太郎、鈴木秀人の項

鈴木義多郎　東京電燈（株）技師、發電課水路係長、東京府在籍
父　安次郎
安政四、九生、現戸主
〃　妻　キク
明三一、一〇生、茨城、倉持平十二女
君は東京府人鈴木安次郎の長男にして明治二十二年十月を以て生る大正三年東京帝國大學工科大學土木科を卒業し現に東京電燈會社技師にして發電課水路係長たり家族は尙長女秀（大五、一〇生）二女民（同八、三生）あり（東京、麻布、永坂町六六電青山六七八九）

鈴木利右衞門　地主　東京府在籍
文久二、九生、東京、齋藤兵三郎長女　エイ
妻
明一九、六生
男　良輔
明二四、一〇生、長男良輔妻、東京、大竹嶺太郎二女　あき
婦
君は東京府人鈴木榮吉の長男にして安政六年六月を以て生れ明治三十七年家督を相續す地主たり家族は尙孫實（明四五、五生、長男良輔長男）同三郎（大四、六生、同二男）同くに子（同九、二生、同二女）同松城（同一二、六生、同三男）同多滿江（同一五、一一生、同三女）あり二女イク（明二二、五生）は東京府人鈴木初五郎長男榮五郎に三女よね（同二五、一生）は同府人櫻井喜太郎三男金藏に四女るい（同三〇、一二生）は同府人鈴木辰五郎に妹ハル（同一五、四生）は同府人土橋金作に嫁し二男利明（同二八、四生）は同府人鈴木喜三郎の選定相續人となり三男勝（同三三、四生）は同府人鹿兒仙吉の養子となり弟作藏（同一一、五生）は東京府人永峰やゑの入夫となり同政五郎（同一七、一〇生）は分家せり（東京市外荏原町戸越五七〇）

鈴木利藏　豐田紡織（株）工場長　愛知縣在籍
妻　つた
男　佐利
明一六、一生、靜岡、三宅金作長女
明三七、一二生
君は愛知縣人鈴木五平の二男にして明治十年九月を以て生れ大正十三年分家して一家を創立す現時豐田紡織會社工場長たり家族は尙二男正一（大元、一二生）長女洼子（同四、五生）二男昌子（同八、一生）三女利子（同一一、一生）あり名古屋、東、撞木町一ノ一八）

鈴木良一　栃木縣多額納稅者、下野中央銀行（株）常務取締役、矢板銀行、大橋商店、三共印刷各（株）取締役、佐久山銀行、黒薙商業銀行各（株）監査役、栃木縣在籍
天保五、六生、栃木、石原吉郎妹　慶應
明三二、三生、栃木、加藤正信姉　ハマ
男　士
明三一、七生、二男峰三郎妻、栃木、石塚善三郎長女
男　浪之助
明三四、一生、三男浪之助妻、栃木、後藤龜作二女　チカ
婦
君は栃木縣人鈴木重清の長男にして文久二年五月を以て生れ明治二十二年家督を相續し大正十五年退隱す現時前記各銀行會社の重役にして栃木縣多額納稅者たり家族は尙孫昌治（大一〇、九生、二男峰三郎長男）同一五、一生、同二女）あり長女トク（明三〇、五生）二女昌子（同八、一生）三女利子（同一一、一生）あり名古屋、東、撞木町一ノ一八）

鈴木良一　栃木縣多額納稅者、下野中央銀行（株）常務取締役、矢板銀行、大橋商店、三共印刷各（株）取締役、佐久山銀行、黒薙商業銀行各（株）監査役、栃木縣在籍
天保五、六生、栃木、石原吉郎妹　慶應
明三二、三生、栃木、加藤正信姉　ハマ
男　士
明三一、七生、二男峰三郎妻、栃木、石塚善三郎長女
男　浪之助
明三四、一生、三男浪之助妻、栃木、後藤龜作二女　チカ
婦
君は栃木縣人鈴木重清の長男にして文久二年五月を以て生れ明治二十二年家督を相續し大正十五年退隱す現時前記各銀行會社の重役にして栃木縣多額納稅者たり家族は尙孫昌治（大一〇、九生、二男峰三郎長男）同一五、一生、同二女）あり長女トク（明三〇、五生）二女昌子（同八、一生）三女利子（同一一、一生）あり名古屋、東、撞木町一ノ一八）

鈴木兩藏　東亞煙草（株）取締役兼支配人　東京府士族
妻　とよ
明一四、六生、養父秀長女
男　敏正
明三六、一二生
君は岐阜縣人加藤藤九郎の長男にして明治九年十二月を以て生れ後先代秀の養子となり大正十四年家督を相續す現に前記會社の重役たり（東京市外大久保町東大久保二一六電四谷一五四五）

鈴木六右衞門　農業　東京府在籍
妻　かよ
明二四、一二生、東京、池田平五女　文平
男
大五、三生
養子　金
明四三、二生、東京、淺香善平姪
當家は古くより岩淵町に定住し農業を營める舊家なり君は先代六右衞門の二男にして明治十七年七月を以て生れ大正十年家督を相續し前名秀藏を改め襲名す明治三十八年早稻田實業學校專攻科を卒業し祖業を襲ぎ農を營む家族は尙二男千代吉（大六、五生）長女文江（同一〇、八生）二女春江（昭二、四生）養子芳子（大四、八生、東京、小山强助三女）妹知惠（明四三、九生）弟藏吉助（同三七、八生）同昇作（同四三、一生）あり妹ちせ（同二四、八生）は東京府人小山强助に嫁し弟專松（同二六、一一生）は分家し三男信男（大一二、六生）は其養子となり弟五郎（明三二、八生）は東京府人川邊りきの養子となれり（東京、北豐島、岩淵町稻附九七六）

鈴木六郎　鈴木商店（株）取締役、釜川崎工場長　東京府在籍
妻　フク
男　忠雄
明四四、六生

妻　トミ　明二五、一二生、養父三郎助二女
男　鶴　郎　大五、一〇生

君は舊柳河藩士桑野庫三の六男同久任の弟にして鈴木忠治の養嗣同百太郎の養弟に方る明治二十二年三月を以て生れ大正元年鈴木三郎助の養子となり同八年分家して一家を創立す明治四十五年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し合資會社鈴木商店に入り大正六年株式會社鈴木商店創立と同時に其取締役となり川崎工場長となる家族は尚長女一枝(大三、四生)二男輝郎(同八、八生)二女光枝(同一一、三生)三女三枝子(同一四、六生)あり(東京市外大崎町下大崎八電高輪一四二五)

參照　桑野久任、鈴木三郎助、鈴木忠治、鈴木百太郎の項

鈴木祿三郎

妻　信　明一七、六生、島根、淺野宇佐松長女
男　爲一　明四〇、八生
女　千賀子　明四五、四生

君は北海道人鈴木源三の三男にして文久三年十月を以て生れ明治三十三年分家して一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尚二男正夫(大三、九生)あり(松江、內中原町一四二)

鈴木和一

妻　まさ子　大野銀行(株)取締役　愛知縣在籍　明三三、一二生、愛知、山本平八長女
男　寛　明四〇、一二生
女　幸　明四三、一生
女　とし　明四五、二生

君は愛知縣人鈴木長七の孫にして明治十四年五月を以て生れ同二十三年家督を相續す同四十年法政大學を卒業し現に大野銀行取締役にして養に東海製靴會社取締役たり家族は尚三男康造(大三、一生)あり姉かづ(明一一、一一生)は愛知縣人渡邊藤一郎に從妹かと(同二二、一生、愛知、竹花源一郎長女)は靜岡縣人菅沼彥九郎に同じつ(同二六、八生、叔父善七二女)は愛知縣人小野田義緒二男謙に嫁し弟恒平(同一九、三生)は分家せり(愛知、八名、七郷村)

鈴木和藏

父　久兵衞　明元、正生、現戶主
妻　かほる　明三二、八生、宮城、岡田榮太郎三女
男　慶三郎　大九、一一生

君は宮城縣人鈴木久兵衞の長男にして明治二十八年八月を以て生れ早稻田大學政治科を卒業し農業と共に鈴木商店創立と同時に其取締役となり川崎工場長となる家族は尚長女一枝(大三、四生)二男輝郎(同八、八生)二女光枝(同一一、三生)三女三枝子(同一四、六生)あり(東京市外大崎町下大崎八電高輪一四二五)

參照　桑野久任、鈴木三郎助、鈴木忠治、鈴木百太郎の項

鈴木祿三郎

妻　信　明一七、六生、島根、淺野宇佐松長女
男　爲一　明四〇、八生
女　千賀子　明四五、四生

君は北海道人鈴木源三の三男にして文久三年十月を以て生れ明治三十三年分家して一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尚二男正夫(大三、九生)あり(松江、內中原町一四二)

鈴木和一

妻　まさ子　大野銀行(株)取締役　愛知縣在籍　明三三、一二生、愛知、山本平八長女
男　寛　明四〇、一二生
女　幸　明四三、一生
女　とし　明四五、二生

君は愛知縣人鈴木長七の孫にして明治十四年五月を以て生れ同二十三年家督を相續す同四十年法政大學を卒業し現に大野銀行取締役にして養に東海製靴會社取締役たり家族は尚三男康造(大三、一生)あり姉かづ(明一一、一一生)は愛知縣人渡邊藤一郎に從妹かと(同二二、一生、愛知、竹花源一郎長女)は靜岡縣人菅沼彥九郎に同じつ(同二六、八生、叔父善七二女)は愛知縣人

鈴村秀三

妻　たま　明一一、一〇生、東京、士、高島千代楠妹
女　薫　明四三、一二生

君は東京府人鈴村憲章の長男にして明治七年一月を以て生れ同二十五年家督を相續す現時東京電燈會社理事にして庶務課長たり弟芳次(明一一、二生)は分家し同眸作(同一八、八生)は叔父杉浦直の死跡を相續せり(東京、麻布、我善坊町二電青山六四九一)

參照　杉浦眸作の項

鈴村吉一

妻　カネ　明一七、一生、島根、久保田愛之丞二女
男　健一　明三九、八生
女　文子　明四一、八生

君は島根縣人鈴村虎三郎の長男にして明治十年六月を以て生れ同四十年家督を相續す夙に陸軍士官學校を卒業し同三十三年陸軍砲兵少尉に任じ大正十五年陸軍少將に累進す其間陸軍省兵器局工政課長陸軍技術會議々員たり(東京市外大久保町東大久保四〇七電四谷三五七)

鰐　重康

妻　瑞枝　明一三、九生、東京、士、犬飼吉傳姉
養子　信　明三五、二生、福島、戶城傳七郎三男、慶應義塾大學在學

君は福島縣士族鰐林勝の二男にして慶應三年九月を以て生れ明治四十四年家督を相續す同二十九年帝國大學法科大學を卒業し判事に任じ甲府地方裁判所判事を經て檢事に轉じ橫濱地方裁同區新潟地方裁同區各裁判所檢事東京宮城長崎各控訴院檢事秋田宗良仙臺各地方裁判所檢事正等に歷補し現時靜岡地方裁判所檢事正たり弟鴻三郎(明四四、八生)は靜岡縣人萩原良治の養子となれり(靜岡市地方裁判所官舍)

參照　※關盛治の項

鰐　多三治

妻　すゑ　靜岡縣多額納稅者、農業
男　九一　明七、一生、養父多三治長女
男　三治　明三三、一一生
婦　ふみ　明三〇、一生、長男正太郎妻、靜岡、池田眞長女

君は靜岡縣人奥山清太郎の弟にして明治元年十月を以て生れ先代多三治の養子となり同二十年家督を相續し前名儀八を改め襲名す綿糸商を營み現に靜岡縣多額納稅者にして前記銀行諸會社の重役たり家族は尚二男恒治(大三、七生)弟藤太郎(明二〇、八生)同妻あさ(同二一、六生、靜岡、栗野源四郎長女)及其子女あり(濱松、田町一三三)

鈴村秀三

妻　たま　明一一、一〇生、東京、士、高島千代楠妹
女　薫　明四三、一二生

君は東京府人鈴村憲章の長男にして明治七年一月を以て生れ同二十五年家督を相續す現時東京電燈會社理事にして庶務課長たり弟芳次(明一一、二生)は分家し同眸作(同一八、八生)は叔父杉浦直の死跡を相續せり(東京、麻布、我善坊町二電青山六四九一)

參照　杉浦眸作の項

鈴村吉一

妻　カネ　明一七、一生、島根、久保田愛之丞二女
男　健一　明三九、八生
女　文子　明四一、八生

君は島根縣人鈴村虎三郎の長男にして明治十年六月を以て生れ同四十年家督を相續す夙に陸軍士官學校を卒業し同三十三年陸軍砲兵少尉に任じ大正十五年陸軍少將に累進す其間陸軍省兵器局工政課長陸軍技術會議々員たり(東京市外大久保町東大久保四〇七電四谷三五七)

鰐　重康

妻　瑞枝　明一三、九生、東京、士、犬飼吉傳姉
養子　信　明三五、二生、福島、戶城傳七郎三男、慶應義塾大學在學

君は福島縣士族鰐林勝の二男にして慶應三年九月を以て生れ明治四十四年家督を相續す同二十九年帝國大學法科大學を卒業し判事に任じ甲府地方裁判所判事を經て檢事に轉じ橫濱地方裁同區新潟地方裁同區各裁判所檢事東京宮城長崎各控訴院檢事秋田宗良仙臺各地方裁判所檢事正等に歷補し現時靜岡地方裁判所檢事正たり弟鴻三郎(明四四、八生)は靜岡縣人萩原良治の養子となれり(靜岡市地方裁判所官舍)

參照　※關盛治の項

鰐　多三治

妻　すゑ　靜岡縣多額納稅者、農業
男　九一　明七、一生、養父多三治長女
男　三治　明三三、一一生
婦　ふみ　明三〇、一生、長男正太郎妻、靜岡、池田眞長女

君は靜岡縣人奥山清太郎の弟にして明治元年十月を以て生れ先代多三治の養子となり同二十年家督を相續し前名儀八を改め襲名す綿糸商を營み現に靜岡縣多額納稅者にして前記銀行諸會社の重役たり家族は尚二男恒治(大三、七生)弟藤太郎(明二〇、八生)同妻あさ(同二一、六生、靜岡、栗野源四郎長女)及其子女あり(濱松、田町一三三)

砂押忠八

父　定四郎　茨城縣多額納稅者、米穀商　茨城縣在籍　天保一三、三生、現戶主
母　いの　嘉永二、四生、茨城、黑澤勘兵衞二女
妻　こう　明二〇、一二生、茨城、大沼道之介長女
男　俊夫　明四四、一一生

君は茨城縣人砂押定四郎の二男にして明治十一年六月を以て生る米穀商を營み茨城縣多額納稅者たり家族は尚長女やす子(大三、八生)二女ち為(同五、一一生)三女クニ子(同七、一一生)二男隆(同一一、六生)三男德三郎(同一四、五生)四男浩(昭二、四生)弟逸三郎(明一六、一一生)同妻ゆき(同一八、一生、茨城、川崎伸之介二女)及其子女亡兄孝一郎妻つる(同一一、一〇生、茨城、砂押繼次郎二女)と其子女あり姉はつ(同二、四生)は茨城縣人柳橋莊衞門養子卯之吉に同はる(同五、二生)は茨城縣人砂押繼次郎長男市太郎に嫁せり(茨城、那珂、佐野村)

砂川雄峻

妻　シナ　辯護士　大阪府士族　明二、六生、兵庫、士、和田篤長女
養子　忠德　明三二、五生、庶子しん夫、子僻大岡忠綱弟
庶子　しん　明四二、一二生、養子忠德妻、生母、大阪、小野川ヤス

君は兵庫縣士族砂川貫一郎の二男にして萬延元年二月を以て生れ明治九年先代綱次の養子となり家督を相續す夙に外國語學校に學び同校を經て英佛の法律を修め明治十年辯護士を開業す同年高田早苗坪內雄藏等と故大隈侯を援けて東京專門學校の創立に參與して大阪に移り辯護士たり爾來大阪府會議員大阪商業會議所特別議員大阪圖書館評議員辯護士會長大阪商業會議所特別議員大阪圖書館評議員關西法律學校大阪英語學校各講師に推さるまた曾て衆議院議員に當選す現時一切の公職を退き辯護士たり家族は尚孫秀雄(大一五、六生、養子忠德長男)あり(兵庫、武庫、精道村打出雲声屋五七)

參照　子僻大岡忠綱の項

砂田重政

父　重治　正五位勳四等、農林參與官、衆議院議員(兵庫縣選出)、愛媛縣士族　嘉永五、二生、現戶主
母　キミエ　安政六、八生、愛媛、士、深田伯右衞門長女
妻　キヨ　明二五、七生、故陸軍中將小原傳養子
養子　重民　大六、三生
男　雅子　明四四、一生

君は愛媛縣人砂田重治の長男にして明治十七年九月を以て生る同三十七年中央大學を卒業し辯護士及辯檢事登用試驗に合格し東京京都神戶に司法官たりしも後辯護士を開業す大正八年補缺に依る衆議院議員に當選すること四回昭和二年四月農林參與官に任ぜらるる家族は尚二男勝次郎(大八、一〇生)弟善興同妻儀美(同三三、一生、愛媛、柚山繁次三女)及其子女亡兄孝一郎妻つる(同一一、一〇生、茨城、砂押繼次郎二女)と其子女あり姉はつ(同二、四生)は茨城縣人柳橋莊衞門養子卯之吉に同はる(同五、二生)は茨城縣人砂押繼次郎長男市太郎に嫁せり(茨城、那珂、佐野村)

砂川雄峻

妻　シナ　辯護士　大阪府士族　明二、六生、兵庫、士、和田篤長女
養子　忠德　明三二、五生、庶子しん夫、子僻大岡忠綱弟
庶子　しん　明四二、一二生、養子忠德妻、生母、大阪、小野川ヤス

君は兵庫縣士族砂川貫一郎の二男にして萬延元年二月を以て生れ明治九年先代綱次の養子となり家督を相續す夙に外國語學校に學び同校を經て英佛の法律を修め明治十年辯護士を開業す同年高田早苗坪內雄藏等と故大隈侯を援けて東京專門學校の創立に參與して大阪に移り辯護士たり爾來大阪府會議員大阪圖書館評議員辯護士會長大阪商業會議所特別議員大阪圖書館評議員關西法律學校大阪英語學校各講師に推さるまた曾て衆議院議員に當選す現時一切の公職を退き辯護士たり家族は尚孫秀雄(大一五、六生、養子忠德長男)あり(兵庫、武庫、精道村打出雲声屋五七)

參照　子僻大岡忠綱の項

砂田重政

父　重治　正五位勳四等、農林參與官、衆議院議員(兵庫縣選出)、愛媛縣士族　嘉永五、二生、現戶主
母　キミエ　安政六、八生、愛媛、士、深田伯右衞門長女
妻　キヨ　明二五、七生、故陸軍中將小原傳養子
養子　重民　大六、三生
男　雅子　明四四、一生

君は愛媛縣人砂田重治の長男にして明治十七年九月を以て生る同三十七年中央大學を卒業し辯護士及辯檢事登用試驗に合格し東京京都神戶に司法官たりしも後辯護士を開業す大正八年補缺に依る衆議院議員に當選すること四回昭和二年四月農林參與官に任ぜらるる家族は尚二男勝次郎(大八、一〇生)弟善興同妻儀美(同三三、一生、愛媛、柚山繁次三女)及其子女亡兄孝一郎妻つる(同一一、一〇生、茨城、砂押繼次郎二女)と其子女あり姉はつ(同二、四生)は茨城縣人柳橋莊衞門養子卯之吉に同はる(同五、二生)は茨城縣人砂押繼次郎長男市太郎に嫁せり(茨城、那珂、佐野村)

砂田竹太郎

養母　とみ　鳥取縣多額納稅者　鳥取縣在籍　萬延元、七生、鳥取、森吉三郎二女
妻　きみ子　明二七、一生、鳥根、岡山喜三右衞門叔母
男　謙一　明四〇、九生

君は鳥取縣人名取嘉吉郎の弟にして明治十九年一月を以て生れ同二十三年先代竹太郎の養子となり大正三年一月を以て生れ同二十三年先代竹太郎の養子として生れ昭和三年家督を相續し前名宗を改む豪商として知られ鳥取縣多額納稅者にして家族は尚二男弘(明四三、九生)あり(米子、紺屋町四八)

參照　名島嘉吉郎※小川貞一※木村吉兵衞※後藤市右衞門の項

砂田　實

妻　文子　明二七、八生、愛媛、竹田文平姪
男　明　天津商工會議所會頭、日本綿花(株)天津支店長　愛媛縣士族

君は愛媛縣士族砂田三衞の二男にして明治十七年十月を以て生る同三十九年東亞同文書院を卒業し現時日本綿花會社天津支店長にして推されて天津商工會議所會頭たり家族は尚長女一枝(大三、一一生)二女弘子(同七、一生)三女直子(同一〇、五生)四女恭子(同一三、一生)兄榮(明一三、九生、現戶主)同妻セン(同二六、七生、愛媛、高田正武妹)及其三男二女あり(天津、佛租界第十五號路第一六三號)

砂谷智導

父　智照　正五位勳四等、工學博士、東北帝國大學教授、工學部勤務　安政三、現戶主　富山縣在籍
妻　りつ　明二九、一生、富山、田邊平四郎妹
男　知之　大一二、一〇生

君は愛媛縣人砂谷智照の長男にして明治十七年九月を以て生る同三十七年東京帝國大學工科大學機械科を卒業し鐵道院技師東北帝國大學工科大學專門部教授等に歷任し大正八年機械工學研究の爲米英佛に留學し東北帝國大學助教授兼附屬工學專門部教授を經て同大學教授に任じ現時其任にあり同十一年工學博士の學位を受く家族は尚二女ユリ(昭二、一生)の外妹柳(同六、九生)及其子あり姉シテ(同一五、六生)は富山縣人蘇佐一郎長男光二郎に嫁せり(仙臺、弓ノ町六七)

砂原　清

母　美津　質商　大阪府在籍　安政四、一一生、大阪、戶田彌助養子
妻　キヌ　明八、一〇生、京都、三谷源治郎二女
男　謙一　明三五、一生、京都、三谷源治郎二女

君は大阪府人砂原彌一郎の長男にして明治二十年一月を以て生れ同二十三年先代竹太郎の養子となり大正三年一月を以て生れ同二十三年先代竹太郎の養子として生れ昭和三年家督を相續し前名宗を改む豪商として知られ鳥取縣多額納稅者にして家族は尚二男弘(明四三、九生)あり(米子、紺屋町四八)

參照　名島嘉吉郎※小川貞一※木村吉兵衞※後藤市右衞門の項

砂田　實

妻　文子　明二七、八生、愛媛、竹田文平姪
男　明　天津商工會議所會頭、日本綿花(株)天津支店長　愛媛縣士族

君は愛媛縣士族砂田三衞の二男にして明治十七年十月を以て生る同三十九年東亞同文書院を卒業し現時日本綿花會社天津支店長にして推されて天津商工會議所會頭たり家族は尚長女一枝(大三、一一生)二女弘子(同七、一生)三女直子(同一〇、五生)四女恭子(同一三、一生)兄榮(明一三、九生、現戶主)同妻セン(同二六、七生、愛媛、高田正武妹)及其三男二女あり(天津、佛租界第十五號路第一六三號)

砂谷智導

父　智照　正五位勳四等、工學博士、東北帝國大學教授、工學部勤務　安政三、現戶主　富山縣在籍
妻　りつ　明二九、一生、富山、田邊平四郎妹
男　知之　大一二、一〇生

君は愛媛縣人砂谷智照の長男にして明治十七年九月を以て生る同三十七年中央大學を卒業し辯護士及辯檢事登用試驗に合格し東京京都神戶に司法官たりしも後辯護士を開業す大正八年補缺に依る衆議院議員に當選すること四回昭和二年四月農林參與官に任ぜらるる家族は尚二男勝次郎(大八、一〇生)弟善興同妻儀美(同三三、一生、愛媛、柚山繁次三女)及其子女亡兄孝一郎妻つる(同一一、一〇生、茨城、砂押繼次郎二女)と其子女あり姉はつ(同二、四生)は茨城縣人柳橋莊衞門養子卯之吉に同はる(同五、二生)は茨城縣人砂押繼次郎長男市太郎に嫁せり(茨城、那珂、佐野村)

砂原　清

母　美津　質商　大阪府在籍　安政四、一一生、大阪、戶田彌助養子
妻　キヌ　明八、一〇生、京都、三谷源治郎二女
男　謙一　明三五、一生、京都、三谷源治郎二女

君は大阪府人砂原彌一郎の長男にして明治二十年一月を以て生れ同二十三年先代竹太郎の養子となり大正三年一月を以て生れ同二十三年先代竹太郎の養子として生れ昭和三年家督を相續し前名宗を改む豪商として知られ鳥取縣多額納稅者にして家族は尚二男弘(明四三、九生)あり(米子、紺屋町四八)

參照　名島嘉吉郎※小川貞一※木村吉兵衞※後藤市右衞門の項

砂本福松

母　セイ　象牙細工業　大阪府在籍　弘化三、三生、廣島、兒島清三郎姪
妻　タケ　明一一、二生、廣島、吉川伊勢松妹
男　悅次郎　明三七、六生

妻　ユキ　明二、九、六生、島根、和田幾太郎長女

男　耕一　大六、八生

君は鳥取縣人住田昇の長男にして明治二十一年一月を以て生る大正三年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し直ちに茂木合名會社に入り同十年山陽水力電氣會社に轉じ現に同社支配人たり家族は倚長女啓子(大一二、七生)二女須美子(同一五、九生)あり姉とし(明一八、七生)二女ひろ(明三九、八生)は倚長女啓子(大一一、一生)は島根縣士族伊藤鶴雄長男俊風に嫁し弟得三郎は滋賀縣人馬杉庄平の養子となれり(兵庫、武庫、西灘村)

參照═馬杉庄平の項

住田榮治郎　佐藤太三郎商店(株)取締役

東京府在籍

妻　ひやく　明二一、八生、山梨、中澤平吉妹

男　榮一郎　大七、一生

君は愛知縣人住田藤八の三男にして佐藤太三郎の弟なり明治五年十一月を以て生れ同三十年分家して一家を創立す現に前記會社の重役たり家族は倚四男太二郎(大一二、八生)あり(東京市外淀橋町柏木九九)

參照═佐藤太三郎の項

住田五郎　機械商

大阪府在籍

養母　くみ　明一一、九生、兵庫、住田作五郎三女、現戸主

妻　カネ　明三二、一生、大阪、山口市之助妹

男　良夫　大一一、一生

君は兵庫縣人住田作五郎の二男を以て生れ大正七年姉くみの養子となる同年慶應義塾大學理財科を卒業し爾來宗家と協力して機械商を營む家族は倚長女照子(大一四、一一生)あり(大阪、西區靱本町一ノ一五)

參照═馬杉庄平の項

住田信五　金融業

長野縣士族

妻　とし　明二一、八生、東京、住友保丸養子

男　隆一　明三七、一生

女　ひろ　明三九、八生

君は長野縣人住田圓三郎の長男にして明治十一年一月を以て生る大正六年家督を相續す金融業を營む家族は倚二男伸(明四四、五生)三男建三(大八、三生)四男酉史郎(同一〇、一二生)三女せい(同一三、七生)あり(東京、日本橋、南茅場町五三)

住友　寛一　住友(資)社員

東京府在籍

妻　キミ　明二一、四生、東京、住友保丸養子

男　務　大七、三生

君は男爵住友吉左衛門の兄に方り明治二十九年五月を以て生れ大正五年分家して一家を創立す住友合資會社々員たり家族は倚長女好子(大五、八生)二男勝(同九、四生)三男望(同一一、一生)あり(東京、麻布、市兵衛町一ノ三)

參照═男爵住友吉左衛門、住友保丸※三井守之助の項

住友吉左衛門

妻　貞尾　明一九、一二生、大阪、士、加藤貞明長女、東京女子高等師範學校出身

母　タツエ　弘化四、一一生、京都、士、富田萬厚二女

男　敏雄　明四一、一生

君は大阪府士族住山江市の二男にして明治十一年三月を以て生れ同三十三年家督を相續す同三十八年京都帝國大學理工科大學機械工學科を卒業し同四十一年帝國鐵道廳技師に任ぜられ次で鐵道局工作課長を經て現時名古屋鐵道局工作課長たり家族は倚二男重道(明四五、四生)三男正武(大四、一一生)あり(名古屋、東、大曾根町四男和之(同八、一〇生)あり(名古屋、東、大曾根町鐵道官舍)

住吉忠次郎　(株)鑛査役

東京府在籍

妻　まつ　明八、九生、和歌山、士、永田小三郎長女

男　忠義　明三七、八生

女　八重子　明四五、一生

女　知惠子　明四九、一生

君は東京府人海津勝次郎の二男にして明治十二年一月を以て生れ先代やすの養子となり大正九年家督を相續す現に東京府多額納稅者にして前記諸會社の重役たり(東京、淺草、馬道一ノ一號ノ八電淺草九九三)

角　源泉

和歌山縣在籍

妻　はつね　明八、九生、和歌山、士、永田小三郎長女

君は和歌山縣人角三郎平の弟にして明治四年九月を以て生れ同二十九年分家して一家を創立し前名民彥を改む夙に和佛法律學校を卒業し身を官界に投じ遞信省通信局長となり轉じて大阪市電氣局長を經て臺灣總督府民政部通信局長となり後之を辭し現時大阪市電氣局長たり(大阪、天王寺、島ケ辻町)

角　達介

從五位勳五等、廣島高等師範學校教授、生徒監、佐賀縣在籍

妻　繁　女

養子　良雄　明四二、七生、亡弟佐六二男

君は廣島縣人角卯之助の長男にして明治六年三月を以

※侯爵佐竹義春※伯爵中院享※子爵阿部正一

※子爵加藤泰通※子爵相良賴綱※子爵松平賴孝※男爵高千穗宣麿※男爵德大寺則麿の項

住友保丸　資產家

大阪府在籍

妻　カメ　慶應元、七生、京都、中島利兵衛長女

養子　理助　明一二、七生、二女シヅエ夫、伯爵中院享叔父

女　シヅエ　明二五、一〇生、養子理助妻

君は岐阜縣人杉山右太郎の兄にして嘉永六年七月を以て生れ明治二十一年先代いとの養子となり同二十五年家督を相續す資產家として知らる家族は倚孫左波(大一一、八生、養子理助長女)同はま(同一二、一一生、同二女)あり養子キミ(明二一、四生、栃木、小平常四郎五女)は大阪府人住友寛一に嫁せり(大阪、天王寺、悲田院町一六電浅五二一一)

參照═伯爵中院享、住友寛一の項

住谷喜平　群馬縣多額納稅者、莚物商

群馬縣在籍

男　啓三郎　明三〇、七生

婦　はま　明三五、三生、長男啓三郎妻、群馬、小澤吉平妹

庶子　賢次郎　明四一、八生、生母、群馬、岩瀨フク

君は群馬縣人住谷喜三郎の長男にして文久三年五月を以て生れ大正五年家督を相續す繭田屋と稱し莚物商を營み群馬縣多額納稅者たり養に高崎水力電氣會社鑛査役たり家族は倚孫一郎(大一〇、九生、長男啓三郎長男)妹トヨ(明一三、二生)あり二女エイ(同二一、一生)は東京府人川村太平長男晉吉に三女ミネ(同二三、一一生)は群馬縣人細谷助平治に五女喜代(同三三、三生)は同縣人小河原利作に嫁し妹ナカ(同七、七生)は其夫岩次郎(慶應二、一生、群馬、細田吉太郎弟)と共に分家せり(高崎、田町九八)

參照═※河田大三九の項

住山　六郎　正五位勳四等、鐵道局技師、名古屋鐵道局工作課長、大阪府士族

妻　ユキ　明二九、六生、島根、和田幾太郎長女

男　耕一　大六、八生

君は島根縣人住田昇の長男にして明治二十一年一月を以て生る大正三年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し直ちに茂木合名會社に入り同十年山陽水力電氣會社に轉じ現に同社支配人たり家族は倚長女啓子(大一二、七生)二女須美子(同一五、九生)あり姉とし(明一八、七生)二女ひろ(明三九、八生)は倚長女啓子(大一一、一生)は島根縣士族伊藤鶴雄長男俊風に嫁し弟得三郎は滋賀縣人馬杉庄平の養子となれり(兵庫、武庫、西灘村)

參照═馬杉庄平の項

住井　辰男　朝鮮生絲(株)鑛査役、三井物產(株)京城支店長、三重縣在籍

妻　トヨノ　明一六、二生、福岡、士、竹下虎太妹

男　祥太郎　明四四、一生

君は三重縣人住井貞之助の二男にして明治十四年一月を以て生れ後分れて一家を創立す同三十年三井物產會社に入り香港大阪各支店に勤務し香港支店次長を經て現時京城支店長たる外前記會社の重役たり家族は倚養子和(大一〇、七生、宮城、今村武志三女)あり(朝鮮、京城、黃金町)

參照═今村武志の項

住田　一郎　山陽水力電氣(株)支配人

鳥取縣在籍

母　まさよ　文久二、一生、鳥取、住田正鑿妹、現戸主

妻　タツエ　萬厚二女

男　肇　明一五、四生、德島、士、多田熊次郎二女

男　敏雄　明四一、一生

君は大阪府士族住山江市の二男にして明治十一年三月を以て生れ先代やすの養子となり大正九年家督を相續す現に東京府多額納稅者にして前記諸會社の重役たり(東京、淺草、馬道一ノ一號ノ八電淺草九九三)

角　源泉　正四位勳三等、前大阪市電氣局長

和歌山縣在籍

妻　はつね　明八、九生、和歌山、士、永田小三郎長女

君は和歌山縣人角三郎平の弟にして明治四年九月を以て生れ同二十九年分家して一家を創立し前名民彥を改む夙に和佛法律學校を卒業し身を官界に投じ遞信省通信局長となり轉じて大阪市電氣局長を經て臺灣總督府民政部通信局長となり後之を辭し現時大阪市電氣局長たり(大阪、天王寺、島ケ辻町)

角　達介　從五位勳五等、廣島高等師範學校教授、生徒監、佐賀縣在籍

妻　繁　女

養子　良雄　明四二、七生、亡弟佐六二男

君は廣島縣人角卯之助の長男にして明治六年三月を以て生れ同二十二年家督を相續す繭田屋と稱し莚物商を營み群馬縣多額納稅者たり養に高崎水力電氣會社鑛査役たり家族は倚孫一郎(大一〇、九生、長男啓三郎長男)妹トヨ(明一三、二生)あり二女エイ(同二一、一生)は東京府人川村太平長男晉吉に三女ミネ(同二三、一一生)は群馬縣人細谷助平治に五女喜代(同三三、三生)は同縣人小河原利作に嫁し妹ナカ(同七、七生)は其夫岩次郎(慶應二、一生、群馬、細田吉太郎弟)と共に分家せり(高崎、田町九八)

參照═※河田大三九の項

住山　六郎　正五位勳四等、鐵道局技師、名古屋鐵道局工作課長、大阪府士族

妻　ユキ　明二九、六生、島根、和田幾太郎長女

男　耕一　大六、八生

君は島根縣人住田昇の長男にして明治二十一年一月を以て生る大正三年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し直ちに茂木合名會社に入り同十年山陽水力電氣會社に轉じ現に同社支配人たり家族は倚長女啓子(大一二、七生)二女須美子(同一五、九生)あり姉とし(明一八、七生)二女ひろ(明三九、八生)は倚長女啓子(大一一、一生)は島根縣士族伊藤鶴雄長男俊風に嫁し弟得三郎は滋賀縣人馬杉庄平の養子となれり(兵庫、武庫、西灘村)

參照═馬杉庄平の項

住井　辰男　朝鮮生絲(株)鑛査役、三井物產(株)京城支店長、三重縣在籍

妻　トヨノ　明一六、二生、福岡、士、竹下虎太妹

男　祥太郎　明四四、一生

君は三重縣人住井貞之助の二男にして明治十四年一月を以て生れ後分れて一家を創立す同三十年三井物產會社に入り香港大阪各支店に勤務し香港支店次長を經て現時京城支店長たる外前記會社の重役たり家族は倚養子和(大一〇、七生、宮城、今村武志三女)あり(朝鮮、京城、黃金町)

參照═今村武志の項

住田　一郎　山陽水力電氣(株)支配人

鳥取縣在籍

母　まさよ　文久二、一生、鳥取、住田正鑿妹、現戸主

妻　タツエ　萬厚二女

男　肇　明一五、四生、德島、士、多田熊次郎二女

男　敏雄　明四一、一生

君は大阪府士族住山江市の二男にして明治十一年三月を以て生れ先代やすの養子となり大正九年家督を相續す現に東京府多額納稅者にして前記諸會社の重役たり(東京、淺草、馬道一ノ一號ノ八電淺草九九三)

角　源泉　正四位勳三等、前大阪市電氣局長

和歌山縣在籍

妻　はつね　明八、九生、和歌山、士、永田小三郎長女

君は和歌山縣人角三郎平の弟にして明治四年九月を以て生れ同二十九年分家して一家を創立し前名民彥を改む夙に和佛法律學校を卒業し身を官界に投じ遞信省通信局長となり轉じて大阪市電氣局長を經て臺灣總督府民政部通信局長となり後之を辭し現時大阪市電氣局長たり(大阪、天王寺、島ケ辻町)

角　達介　從五位勳五等、廣島高等師範學校教授、生徒監、佐賀縣在籍

妻　繁　女

養子　良雄　明四二、七生、亡弟佐六二男

君は廣島縣人角卯之助の長男にして明治六年三月を以

て生れ大正十年家督を相續す現時長崎松尾造船所取締役たり家族は尚亡弟佐六妻ミネ(明一四、五生、廣島、士大塚甚太郎三女)と其一男一女及弟隆(同一九、一生)同妻八重(同二四、五生、兵庫、安達儀一郎長女)と其三男一女あり姪カスエ(同三七、一〇生)は廣島縣人田代登に嫁せり(東京市外世田ヶ谷町池尻五二四)

角　良一　佐久間製菓(株)取締役、三十銀行(株)監査役、東京府士族
弘化三、一一生、佐賀、士、富岡十藏長女
母　マキ
妻　ヒデ　明一四、一一生、佐賀、小林忠恭二女
男　百喜　明三九、四生
男　佳明　明四一、一一生
女　智惠子　明四四、一生

君は東京府士族角弘建の長男にして明治五年三月を以て生れ同四十一年家督を相續す現時前記銀行會社の重役たり家族は尚三男正喜(大四、二生)二女喜久子(同八、六生)及妹トミ(明一五、九生)あり弟廉吉(同一三、三生)同妻イクコ(同二二、五生、東京、土屋約郎二女)は共に分家せり(東京市外澁谷町向山八五)

角倉　博佐　廣島縣多額納稅者、金融業
廣島縣在籍

君は廣島縣人角倉八朗の孫にして明治二十三年七月を以て生れ同四十年家督を相續す夙に慶應義塾に學び夙に角倉銀行頭取に推さる現時金融業を營み縣下の多額納稅者たり琵琶及繪畫に趣味を有す姉アキノ(明六、九生)も亦分家し妹傳榮(同三〇、一二生)は廣島縣人伊藤秋太郎に嫁せり(廣島、甲奴、上下町)

角倉　正道　愛光舍、牛乳商
東京府在籍
妻　芳香　明二三、一〇生、大阪、宮川經輝二女
男　正晴　大七、一二生
女　美彌子　大二、一一生

當家は角倉了以の後なり了以土木治水の功を以て其名慶長年間に著聞す其より十數代世々京都鰻峨に住し醫を業とす先代賀道は辛苦の末醫師となり牛痘苗製造法を發見して牛乳業界に貢獻せる處尠なからず又愛光舍を起して牛乳商を營み今日の基礎を築けり君は賀道の長男にして明治十八年三月を以て生れ昭和二年家督を相續す麻布獸醫學校を卒業して家族は尚ほ二女美知子(大六、六生)あり弟郁彥(明二二、六生、農學士)は分家し妹愛子(同二九、三生)は帝大醫學部講師四方敬一に嫁せり(東京市外西巢鴨町宮仲一九三一電大塚二九八)

參照―井上達二宗島原鐵三の項

角倉由太郎　(おぼこ本店、化粧品商
大阪府在籍
妻　いく　慶應二、七生、大阪、福山甚右衛門長女
男　彌一　明二四、一二生
女　さと　明二五、一一生、長男彌妻、大阪、木下六右衛門長女
孫　靜子　明四四、三生、長男彌長女

君は大阪府人先代彌三兵衛の長男にして安政元年十二月を以て生れ明治五年家督を相續すおぼこ本店と稱し化粧品商を營む家族は尚孫秀(大一二、六生、長男彌三兵衛の長男にして安政元年十二月を以て生れ先代關丞の養子となり明治十九年家督を相續す同二十一年慶應義塾正科を卒業し現に前記諸會社の重役たり殊に推されて門司商業會議所會頭たり家族は尚二男佳夫(明四二、一二生)六女豐(大五、七生)孫信子(同一二、二生、長男朔磨長女)あり三女美彌(明三五、三生)は山口縣人西郷直治弟貞之に嫁せり(小倉、京町)

角田好太郎　辨理士
兵庫縣士族
母　しやう　萬延元、一生、山口金十郎二女
妻　いく　明二四、一二生
男　彌一　明二五、一一生、長男彌妻、大阪、木下六右衛門長女
孫　靜子　明四四、三生、長男彌長女

君は兵庫縣士族先代好馬の長男にして安政元年十一月を以て生れ大正十一年家督を相續す同年十二月を以て生れ明治五年家督を相續すおぼこ本店と稱し化粧品商を營む家族は尚孫秀(大一二、六生、長男彌三兵衛の長男にして安政元年十二月を以て生れ先代關丞の養子となり明治十九年家督を相續す同二十一年慶應義塾正科を卒業し現に前記諸會社の重役たり殊に推されて門司商業會議所會頭たり家族は尚二男佳夫(明四二、一二生)六女豐(大五、七生)孫信子(同一二、二生、長男朔磨長女)あり三女美彌(明三五、三生)は山口縣人西郷直治弟貞之に嫁せり(小倉、京町)

角谷　輔清　東都無盡(株)
東京府在籍
母　カネ
妻　園子　明三二、八生、茨城、根本正二女
男　和一郎　大一一、一生

角谷家は先代和市三河國より東京に出で一家を創立したるに創まる和市上京後古綿の利用法を考究し自ら製綿機を發明し明治二十六年水力應用の工場を建設して大いに業務の擴張を圖る偶々日清日露兩役に際し軍隊に供給して巨利を博す戰後時世の推移を考へ是を廢し大正四年無盡業法の發布さるゝや獨力東都無盡商會を創立す君は其の長男にして明治二十五年一月を以て生れ大正八年六月家督を相續す同三年慶應義塾政治科を卒業し直に米國に航して普く同地方を視察す歸朝後父業を承けて現に東都無盡會社を主宰す旅行に趣味を有す家族は尚長女正子(大一二、六生)二男清(同一四、八生)あり(東京市外澁谷町猿樂三三電青山五九九三)

參照―根本正の項

隅田伊賀彥　長府土地、帝國麥酒各(株)社長、大都土木建築、山陽電氣軌道各(株)監査役、福岡縣在籍
妻　登久　明九、三生、高知、岡野正雄妹
男　朔磨　明二四、一二生
女　和歌　明三九、八生
女　福　大二、一一生

君は高知縣士族川崎專助の二男にして慶應二年九月を以て生れ先代關丞の養子となり明治十九年家督を相續す同二十一年慶應義塾正科を卒業し現に前記諸會社の重役たり殊に推されて門司商業會議所會頭たり家族は尚二男佳夫(明四二、一二生)六女豐(大五、七生)孫信子(同一二、二生、長男朔磨長女)あり三女美彌(明三五、三生)は山口縣人西郷直治弟貞之に嫁せり(小倉、京町)

隅田　光藏　大阪合同紡績、同興紡績各(株)取締役、廣島縣士族
ミトリ　明四、二生、新潟、石平晉吉養子
男　善雄　明三九、九生
女　政子　明三六、九生
女　茂子　明四五、五生

君は大阪府士族先代保兵衛の長男にして明治二年九月を以て生れ同十四年家督を相續す現時前記會社の重役たり家族は尚四男整明(明四二、二生)あり長女晴子(同二七、一生)は廣島縣人岩尾啓三に二女秀子(同三一、五生)は島根縣人渡邊生一に嫁し三男勇(同四二、二生)は兵庫縣人浦光慈峰の養子となれり(大阪、西成、柳通三ノ八七一)

隅田　保　京都瓦斯(株)常務取締役
京都府在籍
妻　和　明二五、九生、高知、佐山茂樹三女
男　擴　大二、三生

君は京都府人隅田金次郎の長男にして明治十七年三月を以て生れ大正二年家督を相續す明治四十年大阪高等工業學校を卒業し現時京都瓦斯會社常務取締役たり家族は尚二男遼(大五、四生)長女美都子(同八、七生)三男廣中(同一〇、一二生)四男豐夫(同一三、一一生)あり(京都、下京、新町通錦小路上ル電中三〇八九)

隅田　豐吉　五條製絲(株)代表取締役、製絲業
和歌山縣在籍
母　千代　天保八、九生、和歌山、岩本伊右衛門長女
養子　武彥　明二九、六生、長女シズ夫、和歌山、士、須藤丑彥二男
女　シズ　明三一、四生、養子武彥妻

君は和歌山縣人隅田小三郎の四男にして明治八年六月を以て生れ同二十九年家督を相續す多年製絲業に從事し五條製絲會社代表取締役たり又衆議院議員に選ばるゝこと二回に及ぶ家族は尚孫隆太郎(大八、一〇生、養子武彥長男)同ふみ(同一三、三生、同二女)あり二女チヨ(明三三、一〇生)は和歌山縣人田中愼造長男正勝に嫁し弟龜五郎(同一〇、一一生)は同縣人稻本ヤスエの養子となり甥嘉左衛門(同一六、九生、亡兄忠兵衛長男)は同妻タカ(同一九、八生、和歌山、隅田淺右衛門長女)及其一子を伴ひ分家せり(和歌山、那賀、池田村)

參照―稻本龜五郎の項

墨　清太郎　艷金興業(株)
愛知縣在籍
父　宇吉　安政二、三生、現戸主
母　みを　明一四、七生、愛知、馬場又三郎妹
妻　するの　明二六、一生、愛知、大野房次郎三女
男　敏夫　明四二、七生
男　治　明四三、一生

君は愛知縣人墨宇吉の長男にして安政二年正月を以て生れ明治三十四年家督を相續す同十五年關西大學法文學部法律學科を卒業し辨理士を開業す(神戸、坂口通五ノ一一電貳貳合一四九四)

隅田　寬治　時計商
大阪府在籍
妻　サト　慶應元、二生、大阪、牧野傳助長女
男　治　明二二、七生
婿　壽　二五、一生、長男治妻、大阪、小段辰造妹

君は大阪府人三瓶金兵衛の長男にして安政二年正月を以て生れ明治四年先代金兵衛の養子となり家督を相續し前名實次を改む時計商を營む家族は尚養孫房子(大一三、八生、長男治養子、大阪、吉田與三郎四女)あり

參照―吉田與三郎の項

澄田　澤造　島根縣多額納稅者、鑛業監査役、農業
妻　イト　明一五、四生、島根、上代金之助三女
男　要治　明四三、一一生
女　良　明四一、九生

君は島根縣人先代友三郎の二男にして明治十四年九月を以て生れ同四十一年家督を相續す農業を營み傍ら雲州銀行(株)監査役にして同縣多額納稅者たり家族は尚ほ三男保三郎(大二、一生)四男惣造(同四、一生)二女榮子(同六、七生)三女芙巳(同一〇、四生)五男嘉作(同一二、一生)叔母ルイ(安政元、二生)あり

君は島根縣人竹田金次郎の養子となり妹ソテ(同一一、五生)は德島縣人猪尾榮に嫁し同令野(同二二、七生)は島取縣人渡邊駛水の家籍に入れり(島根、鏡川、荒木村)

セ之部

世木敬之助　須知銀行(株)取締役兼支配人　京都府在籍
明一九、一〇生、京都、谷澤彌五郎妹
妻　しげ　明四四、三生
男　愼一　明四一、三生
女　はる恵　明四一、三生

君は京都府人世木興平次の長男にして明治十五年十二月を以て生れ大正四年家督を相續す夙に須知銀行に入り支配人を經て現時同行取締役兼支配人たり家族は尙二女きぬ恵(大三、一生)三女政野(同五、四生)二男正二(同七、一二生)四女富枝(同一〇、九生)あり(京都、船井、高原村)

世木澤藤三郎　北海道多額納稅者、旭川商事、丸肥旭川肥料各(株)取締役、酒造業　北海道在籍
嘉永六、六生、京都、木口太郎右衞門二女
母　いま
妻　よし　明一〇、三生、京都、船越源七長女
男　登　明三二、三生
繼　キヌ子　明三八、一〇生、長男登妻、北海道、大谷猶次三女
女　正子　明四三、三生

君は京都府人世木澤興市の長男にして明治九年九月を以て生れ同十一年家督を相續す酒造業を營み傍ら前記各會社の重役にして現に北海道多額納稅者たり曾て旭川商業會議所常議員たりし事あり家族は尙孫俊子(大一三、二生、長男登長女)同淳一(同一四、一一生、同長男)あり二男清一(明三五、七生)は分家し長女富惠(同三八、三生)は北海道人石田浩治に嫁せり(旭川、宮下通一二ノ右一)

世古善兵衞　三重縣多額納稅者、青物商　三重縣在籍
妻　たね　明四、九生、養父善兵衞二女
男　英郎　明三一、一〇生
女　たみ　明二六、一二生
女　かつ　明三五、一〇生
男　敏三　明四一、五生

君は三重縣人中村與惣治の二男にして文久三年十一月を以て生れ明治三十七年家督を相續し前名榮五郎を改む青物商を營み三重縣多額納稅者たり長女榮(明二四、七生)は三重縣人村井捨三に嫁し弟善右衞門(同二〇、二女)と共に分家し妹やつ(同六、一二生)は三重縣人喜多六郎右衞門に嫁せり(宇治山田、一之木町)

世古松郎　靜岡縣多額納稅者　靜岡縣在籍
明二四、二生、靜岡、秋山六右衞門二女
妻　しづ　明四四、五生

君は靜岡縣人世古直道の三男にして明治十七年七月を以て生れ同二十八年分れて一家を創立す同四十一年早稻田大學商科を卒業し實業界に入り現に同縣多額納稅者たり家族は尙三男輝夫(大一〇、一一生)四男明夫(同一四、八生)あり二男富夫(同三、一一生)は靜岡縣人茂吉に嫁し弟宰三(同二五、九生)は其妻コシズ(同二四、三生、廣島、日傳米之助二女)及其二子を伴ひ分家し同詮造(同二八、一生)は廣島縣人金田平兵衞に叔母マキ(同元、四生)は同縣人桂菊太郎に各養子となれり(山田區裁判所官舍)

参照＝桂孝齋、金田平兵衞の項

世良靜一　從五位勳四等、檢事、山田區裁判所檢事兼安濃津地方裁判所山田支部檢事、廣島縣在籍
父　正雄　安政二、一二生、廣島、堀江幸十郎二男、現戸主
母　キクノ　萬延元、一一生、祖父惣一郎長女
男　滿洲　明三八、三生

君は廣島縣人世良正雄の長男にして明治十年七月を以て生る同三十七年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業して明治十七年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同年司法官試補陸軍理事試補同理事に歷任し後辯護士を開業し同四十一年衆議院議員に當選す大正六年檢事に任じ爾來宇都宮地方兼同區新潟地方兼同區靜岡區同地方各裁判所檢事に歷補し大正十三年前記現職に轉ず家族は尙弟高則(明二九、一二生)同長愿(同三三、四生)同時道(同三五、九生)あり妹アサ(同一三、一〇生)は同縣人岡村寧齋に同スマ(同一七、八生)は同縣人桂孝齋に嫁し弟錬治郎(同一一、一生)は東京府人濵戸卯三郎の養子となれり(岡山、後月、西江原町)

妹尾吟一郎　西江原銀行(株)副頭取、笠岡酒造　中國織物各(株)監査役　岡山縣在籍
母　宇免　嘉永六、四生、廣島、丹治善造二女
妻　多禰　明八、九生、岡山、妹尾治平長女
男　蕃　明二九、一〇生
　　光子　明三一、一二生、長男蕃妻、廣島、和田倫太姉

君は岡山縣人妹尾邦太郎の長男にして明治七年四月を以て生れ同三十二年家督を相續す現に西江原銀行副頭取にして前記會社の重役たり長女環(明三二、一生)は岡山縣人板谷敏郎に妹比佐(同一三、三生)は同縣人三宅平左衞門に同萬里(同二一、六生)は同縣人平田光長男文一に同八重子(同二六、九生)は廣島縣人小林孟に嫁し弟錬治郎(同一一、一生)は東京府人濵戸卯三郎の養子となれり(岡山、後月、西江原町)

妹尾健太郎　せのや、糸組物商
大阪府在籍
祖母　とみ
姉
安政六、六生、大阪、福山伊太郎
養子　三平　明二六、一一生、養子三平妻、岡山岐阜、藤野博三弟、慶應義塾理財科出身
養子　婦美子　明三二、四生、妹尾廣弘妹

君は大阪府人妹尾米次郎の長男にして明治三十七年二月を以て生れ大正七年家督を相續すると共に祖父の業を繼ぎ糸組物商を營む(大阪、南、二ツ井戸町二一電南五三)

妹尾　秀實　正五位勳四等、水產講習所技師兼農林技師、東京府士族
養母　みせ　安政五、一一生、岡山、小寺東叔母
妻　淑子　明一四、三生、養父赴長女
男　次郎　明四二、四生
女　恒子　明三七、一〇生
女　正子　明四〇、二生

君は鳥取縣士族大野徹也の二男にして明治十二年八月を以て生れ先代越の養子となり大正九年家督を相續す先是明治三十八年東京帝國大學理科大學動物學科を卒業し更に大學院に入る同三十九年水產講習所助教授に任じ次いで同技師となり更に同教授に進む大正元年在外研究生として歐洲各國に留學し白耳義オスタンドに開設されたる第三回萬國漁業會議に參列す同三年歸朝直に水產講習所技師に任ぜられ同十四年農林技師を兼任して今日に及ぶ(東京、北多摩、保谷村)

妹尾萬次郎　小倉製作所(株)代表取締役、九州電氣鐵道、九州土地各(株)取締役
福岡縣在籍
男　勝治　明二七、二生

君は福岡縣人妹尾孫作の長男にして安政四年四月を以て生れ明治十六年家督を相續す現時小倉製作所代表取締役の外前記會社の重役たり家族は尚養父憲(明四二、八生、福岡、柳田忠治長男)あり四男保治(同三二、一生)弟憲治(同三、一二生)は各分家せり(小倉、馬借町八八)

妹尾與志夫　岡山縣多額納稅者、日華製紙(株)取締役、大阪堂島米穀取引所取引員、岡山縣在籍
父　與一郎　嘉永二、一二生、岡山、原彙久二男
妻　萬壽代　明一三、六生、岡山、村田麟治郎長女

脊尾忠良　呉服商
大阪府在籍

君は大阪府人脊尾龜次郎の長男にして明治三十四年一月を以て生れ大正十四年家督を相續す同二十四年中央大學商學部を卒業し呉服商を營みて知らるる家族は尚祖母　ふじゑ(大元、九生)同忠邦(同八、六生)あり父龜次郎(明七、一一、同長男)の外妹　ゆく(同一二、四生)同忠良(同一二、四生)あり弟順平(同一三、一生)は分家せり(大阪、西、北堀江一番丁七電新町一五三五)

脊尾龜次郎　質商
大阪府在籍
妻　うの　明一二、四生、大阪、和田儀兵衛三女
女　道子　明四一、八生
女　富美子　明四三、九生

君は大阪府人脊尾忠七の長男にして明治十年七月を以て生れ後家督を相續し大正十五年退隱して家督を長男忠良に讓り分家して一家を創立す質商を營む(明一六、四生)は其妻トヨ(同二七、池正信姉)と共に其子女を伴ひ分家せり(大阪、西、北堀江一番丁八三電新町一五三五)

參照―脊尾忠良の項

瀨尾喜兵衛　雲產家
大阪府在籍
養母　ツル　慶應三、二生、養祖父喜兵衛長女
妻　かつ　明三八、一一生、養父喜兵衛六女

君は大阪府人瀨尾喜一郎の長男にして明治三十四年一月を以て生れ先代喜兵衛の養子となり大正十三年家督相續と共に襲名して前名一郎を改む雲產家たり養祖母タメ(弘化元、二生、大阪、山田利兵衛叔母)は大阪府人瀨尾秀四郎の家籍に入り養叔父喜次郎(明七、一一生)は分家し養叔母トメ(同一二、九生)は同府人早稻田佐之助に養姉喜美(同二九、七生、養父喜兵衛二女)は滋賀縣人杉木彌助に同き(同三〇、一一生、同三女)は大阪府人酒井新治郎に嫁せり(大阪、南、鹽町通四ノ九一電船場一〇〇五)

參照―酒井新治郎、瀨尾喜一郎、山田利兵衛崇近江源兵衛の項

瀨尾幸太郎　香川縣多額納稅者、高松銀行、遠アルミニューム工業各(株)監查役、農業、香川縣在籍
母　エイ　天保一四、七生、香川、小西嘉平長女
妻　ヒサ　慶應三、七生、香川、武下忠太郎長女
養子　庸七　明九、一生、父景嚴四男
婦　シゲリ　明一五、七生、養子庸七妻、愛媛高橋榮妹

君は香川縣人瀨尾景嚴の長男にして文久元年九月を以て生れ明治二十一年家督を相續す農業を營み縣下の多額納稅者にして前記銀行會社の重役たり家族は尚勝成(明四二、二生、養子庸七長男)あり弟等(同四、三生)同辰之助(同一三、一〇生)は各分家せり(高松、濱ノ丁)

參照―瀨尾等の項

瀨尾貞信　從五位、醫學博士、千葉醫科大學教授、附屬醫院外科醫長
新潟縣士族
養父　原始　文久元、二生、新潟、士、菅沼長
養母　ソノ　萬延元、九生、養祖父高弘長女

君は新潟縣人島田修の叔父にして明治十九年一月を以て生れ瀨尾原始の養子となり同十四年東京帝國大學醫科大學を卒業し大正九年千葉醫學專門學校教授に任じ同年千葉醫科大學教授となり同十三年英獨瑞各國に留學し同十五年歸朝現時に至る先是同十二年醫學博士の學位を授けらるる家族は尚亡養兄雄三妻イヅ(明一六、四生、新潟、高橋慶治郎長女)及其子女あり姪靜江(同三八、一二生)は岡山縣人黒住弘毅長男須加夫に養姪タエ(同三四、八生、新潟、猪俣善勝姉)は新潟縣人高見榮吉弟正吉に嫁し養甥辰雄(同二五、一一生、新潟、士、菅沼定長三男)は同妻タツ(同三二、八生、新潟『竹内勝藏四女)及一女を伴ひ養祖父高弘(天保九、一二生)は弟弘治(明三八、一生)を伴ひ各分家せり(千葉市千葉寺)

參照―淡松綱信大の項

瀨尾　鐵治　廣銀行(株)頭取、山陽醬油(株)取締役、(株)鹽業役、兵庫縣在籍
母　ふじゑ
妻　ゆく　明一〇、四生、兵庫、佐藤憲兵衛妹
男　久夫　明四〇、一生
女　千代　明四一、一生

君は兵庫縣人瀨尾孫次郎の長男にして以て生れ同二十九年家督を相續す現時前揭銀行會社の重役たり家族は尚二男晉二郎(明四二、一一生)五女八重(大四、一生、同四女)同清一(同一五、四生、養子清次長男)同敏(大五、一一生、同四女)同清二(同一五、四生、養子清次長男)離緣養子留吉妻トミイ(元治元、一〇生、新潟、野澤只之重長女)あり孫御千惠(明三七、一一生、養子金次郎長女)は分家長男逸一郎の死跡を相續せり(新潟、岩船、平林村)

瀨尾　等　讃岐貯蓄銀行(株)頭取、廣製粉(株)社長、(株)社長、朝鮮實業興行(株)取締役、鹽路倉庫銀信託各(株)取締役、香川縣在籍
妻　ハル　明一一、二生、香川、鹽田與三郎妹
男　晢　明三四、七生

君は香川縣人瀨尾景嚴の三男にして同年明治四年三月を以て生れ同二十四年分家して一家を創立す明治三十七年農業應義塾別科を卒業し爾來專ら實業界に活躍し現時四國議員に擧げられ同縣參事會員たりしことあり現時四國民報社長にして前記銀行會社の重役たり(香川、綾歌、鴨岡村)

參照―瀨尾幸太郎の項

瀨尾彌助　木綿商
大阪府在籍
妻　サダ　明三五、一〇生、大阪、市川德次郎二女

君は大阪府人瀨尾彌助の二男にして明治三十年二月を以て生れ大正九年家督を相續し前名太喜藏を改む木綿商を營む家族は尚長女幸子(大一四、一二生)あり弟彌太郎(明三五、一〇生)は分家せり(大阪、南、鹽町通三ノ一七電船場六七五)

參照―瀨尾幸太郎の項

瀨賀金五郎　新潟縣多額納稅者、材木商
新潟縣在籍
養母　キン　嘉永二、一一生
妻　タネ　明一五、一一生、新潟、田村精藏養子
養子　金次郎　明一九、八生、長女トクイ夫、新潟、野澤金太郎二男
女　トクイ　明一一、五生、養子金次郎妻
養子　清次　明三〇、六生、養子セン夫、新潟、山田源太郎二男
養子　セン　明二八、五生、養子清次妻、新潟、野澤留吉長女
孫　亥志　明四〇、一生、養子金次郎二女

君は新潟縣人野澤金太郎の弟にして慶應元年二月を以て生れ後ち先代德三郎の養子となり明治三十六年家督を相續す材木商を營み同縣多額納稅者たり家族は尚孫德一郎(明四五、一生、養子金次郎長男)同敏(大五、一生、同四女)同清一(同一五、四生、養子清次長男)離緣養子留吉妻トミイ(元治元、一〇生、新潟、野澤只之重長女)あり孫御千惠(明三七、一一生、養子金次郎長女)は分家長男逸一郎の死跡を相續せり(新潟、岩船、平林村)

瀨川淺之進　從四位勳三等、前總領事、對支文化事業委員、岡山縣士族
妻　郁　明七、五生、滋賀、松井道長長女
男　健吉　明三七、八生、東京帝國大學法學部在學
男　孝吉　明三九、六生、東京農業大學在學
女　清　明四一、三生、府立第五高等女學校出身
女　桂　明四三、一生、聖心女子學院在學

君は舊備中足守藩士瀨川緩之助の長男にして文久元年六月を以て生れ後ち家督を相續す明治十六年外務省より北京留學を命ぜられ同十九年歸朝外務屬となり後ち領事館書記生に轉ず同三十一年領事に任じ漢口在勤を命ぜられ爾後各地に轉勤し同四十四年歸朝外務省文書課長を命ぜらるる大正三年總領事として再び漢口に赴任同十二年に至るまで同地に勤續す同年三月職を辭し一時閑地にありしが同十四年對支文化事業委員に任ぜられ北京に赴き爾來同地に在りて總務委員の職に就き文化事業の爲に努力す長女儔子(明三二、七生、青山女

學院出身）は東京府人坪井義造に嫁せり（東京市外代々幡代々木山谷一一〇電四谷二〇〇八）

瀬川嘉助　愛知縣參事會員、中外時計（株）專務取締役、愛知工業、甲陽土地各（株）取締役、愛知縣時計製造同業組合長、時計製造業、岩手縣在籍
妻　彌曾　明二〇、一二生、埼玉、鈴木胖三妹
養子　清　明三一、七生、二女美代子夫、岐阜、加藤一夫弟
女　美代子　明三八、一〇生、養子清妻
女　由喜子　大元、一二生
君は岩手縣人瀬川理次郎の二男にして明治十三年五月を以て生れ先代トクの養子となり同三十三年家督を相續す時計製造業を營み前記各會社の重役にして推されて愛知縣時計製造同業組合長たり大正八年以來愛知縣會議員に當選すること三回現に參事會員たり（名古屋、中、御器所町古市場八電南一五〇四）

瀬川德太郎　三菱鑛業（株）取締役、技術部技師長、岩手縣在籍
妻　ウメ　明七、一二生、岩手、井上德治郎姉
男　安一郎　明三七、五生
女　節　明四〇、八生
女　順　明四三、一生
女　末　明四五、三生
君は岩手縣人瀬川安五郎の長男にして明治五年六月を以て生れ同四十四年家督を相續す同三十一年東京帝國大學工科大學採鑛冶金科を卒業し三菱鑛業會社に入り累進して參事となり尾去澤鑛山長生野鑛山長等を經て現時取締役にして技術部技師長たり家族は尙四女菊代（大三、一一生）あり（東京市外入新井町新井宿二六二五電大森五九三）
參照＝井上德治郎の項

瀬川虎吉　大阪合同紡績（株）取締役、大阪府在籍
妻　こう　明七、八生、大阪、橋本市郎右衛門二女
女　マス　明二四、二生
女　光子　明四〇、三生
君は香川縣人瀬川淸八郎の長男にして慶應二年十月を以て生れ明治二十九年家督を相續す現時大阪合同紡績會社取締役たり二女タネ（明二六、五生）は東京府人服部治郎三男銑三郎に嫁せり（大阪、北、池田町二一）

瀬川秀雄　正四位勳三等、文學博士、學習院教授、圖書課長、山口縣士族
妻　久可　明一三、一生、男爵井上悍三郎叔母、跡見女學校出身
男　素雄　明三一、七生、陸軍步兵中尉、近衛步兵第四聯隊附
女　敦子　明三九、一二生、お茶の水高等女學校專攻科出身
男　俊雄　明四一、七生
君は舊岩國藩士瀬川成器の長男にして明治六年八月を以て生れ同二十六年家督を相續す同二十九年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し大學院に入り戰國時代の中國史を專攻す同三十二年學習院講師となり次で同教授に任じ同三十五年文學博士の學位を受く同年陸軍大學校講師を囑託され歷史學を擔任し又大正三年以來毛利公爵家三鄕傳編纂所長となる現時學習院首席教授にして圖書課長たり曩に明治三十八年及大正十一年史學研究の爲め歐米諸國に留學す西洋全史西洋通史其他著書多し家族は尙四男光雄（明四四、八生）四女澄子（大三、一生）五女壽子（同五、二生）六女淑子（同七、七生）五男正雄（同一〇、一生）あり長女治子（明三三、一生）は山口縣人阿武淸に二女文子（同三七、二生）は茨城縣人荷見晋に嫁せり（東京、四谷、花園町一〇七電四谷二七九〇）
參照＝男爵井上悍三郎の項

瀬川昌世　醫學博士、瀬川小兒科病院長、江東病院長、保健衛生調查會委員、醫師、東京府士族
母　壽々　文久三、三生、靜岡、士、厚木訥平次妹
妻　喜子　明二三、八生、男爵古市公威長女
君は故醫學博士瀬川昌耆の長男にして明治十七年十一月を以て生れ大正九年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學醫科大學を卒業し同大學病理學助手小兒科助手を拜命大正元年獨墺に留學し同四年歸朝翌五年醫學博士の學位を受く現時前記病院長にして內務省保健衛生調查會委員たり家族は尙長女妙子（大五、二生）妹雍（明三二、二生）同讓（同三六、二生）あり弟昌邦（同二七、八生、法學士）は分家し妹恭（同二一、一〇生）は島根縣士族河島基長男醫學士右一に同順（同二五、八生）は醫學博士男爵小池正晁に嫁せり（東京、本鄕、弓町二ノ三四電小石川一二六一）
參照＝男爵小池正晁、男爵古市公威※子爵瀧脇宏光※野田俊作※古市六三の項

瀬川光行　衆議院議員（東京府選出）、東京市參事會員、四谷區會議員、明治製革（株）取締役、元々堂書房、出版業、東京府在籍
妻　さわ　明二、四生、岐阜、士、黑田太久馬妹
君は秋田縣人長澤英太郎の弟にして明治元年八月を以て生れ同二十七年同縣人瀬川伴七の養子となり同二十九年分れて一家を創立す先是同十九年早稻田大學邦語政治科を卒業し出版業を營み元々堂書房と稱す曩に東京市會議員に當選する事數回尙現時同參事會員にして昭和三年東京府第一區より衆議院議員に選ばれ立憲民政黨所屬たり家族は尙長女藻子（大一二、三生）あり養子忠（明一八、一〇生、西村義賢二女）は秋田縣人近權內に嫁せり（東京、四谷、花園町一〇電四谷六七五〇）
參照＝近權內の項

瀬川彌右衛門　貴族院議員、岩手縣多額納稅者、盛岡銀行、花卷銀行、盛岡貯蓄銀行、盛岡信託、岩手輕便鐵道、東北起業各（株）取締役、盛岡電氣工業（株）監查役、農業、岩手縣在籍
母　コマ　慶應二、二生、岩手、士、山口秀康姉
男　龍藏　大六、三生
君は岩手縣人先代彌右衛門の長男にして明治二十六年十一月を以て生れ大正十一年家督を相續し前名周藏を改め襲名す農業を營み傍ら前記各銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者として知られ貴族院議員に互選せらる家族は尙弟貞藏（明二九、三生）同妻ハナ（同三三、三生、岩手、關庄三郎三女）及び其三子同良藏（同三四、八生）同幸藏（同三七、三生）あり（岩手、稗貫、花卷町）
參照＝關庄三郎の項

瀬木博尙　內外通信社（株）社長、信越木材、日本化工ペンキ、同文館各（株）取締役、光國石油、東京工業、富士木材工業各（株）監查役、東京織物用品、日本工商各（株）取締役、博報堂、廣告通信業、東京府士族
妻　とめ　明三、五生、千葉、武田常吉叔母
男　博俊　明三〇、四生
婦　里子　明三五、三生、二男博俊妻、三重、佐藤英一長女
男　博信　明三六、一一生
男　博政　明三七、三生
女　純代　明四〇、一〇生
女　美佐子　明四三、三生
君は東京府士族瀬木博重の長男にして嘉永五年十月を以て生れ後家督を相續す夙に廣告通信業に從事し博報堂の名を以て知らる傍ら前記各會社の重役たり家族は尙孫博康（大一三、一生、二男博俊長男）あり長男博吉（明一〇、八生）妹ハル（同三、一〇生）は各分家し長女靜子（同三三、七生）は千葉縣人山形章に嫁せり（東京、牛込、河田町一〇電牛込一一二〇）

瀬木本雄　醫學博士、眼科醫、愛知縣在籍
妻　せき　明一五、六生、愛知、高野吉兵衛長女、女醫、名古屋市立第一高等女學校出身
男　本立　明三六、一生、醫學士
男　武文　明三九、三生、東京帝國大學醫學部在學
男　三雄　明四一、三生、第八高等學校在學
君は愛知縣人瀬木岱崎の長男にして明治七年十月を以て生れ同四十三年家督を相續す同二十九年愛知醫學專門學校を卒業し同四十三年獨逸に留學し爾來眼科醫として今日に至る大正十四年醫學博士の學位を授けらる家族は尙四男紀男（大三、七生）あり妹やゑの（明二三、一生）は愛知縣人直鋭に嫁し弟嘉一（同二四、七生）は分家せり（名古屋、中、門前町六ノ一四電南二〇五）

瀬黑幸市　中央電氣（株）常務取締役、帝國蠶絲（株）監查役、帝國蠶絲組合理事、長野縣在籍
妻　かつ江　明一〇、七生、長野、金井嘉七二女
男　幸夫　明三一、一生
婦　ふさへ　明三一、一一生、長男幸夫妻、長野、一ノ瀬與市二女
男　俊夫　明三七、一二生、新潟醫科大學在學
男　政夫　明四〇、九生
女　千鶴子　明四三、三生、松本高等女學校出身
君は長野縣人瀬黑庄平の長男にして明治五年六月を以て生れ同三十年家督を相續す現時前記會社の重役たり家族は尙四男義夫（大元、七生）孫幸美（同一三、九生、長男幸夫長男）あり長女よし美（明三五、一生）は長野縣人金井英一の養子となり妹たせ（同一二、二生）は同縣人師岡三郎に同きよゑ（同一四、一〇生）は同縣人丸山紋一郎に同きく江（同一八、五生）は同縣人一條倭に亡弟忠雄妻ちよみ（同二九、二生）は其一子を伴ひ東京府人古河正太郎に嫁せり（長野、東筑摩、壽村）

瀬古孝之助　三井物產（株）取締役、三重縣在籍
繼母　きく　安政六、九生、三重、丹羽榮助長女
妻　登喜　明一七、一一生、工學博士石黑五十二長女
女　壽　明四〇、二生
女　喜與　明四一、一二生
君は三重縣人南川彌平治の三男にして明治六年九月を以て生れ先々代謹十郎の養子となり大正六年繼母きくの跡を承けて家督を相續す先是明治二十六年大阪高等商業學校を卒業して三井物產會社に入り同社紐育支店長を經て取締役に擧げらる家族は尙三女美年（大三、九生）あり（神奈川、鎌倉、鎌倉町雪ノ下）

瀬古庄太郎　吳服商、京都府在籍
妻　けい　明一〇、四生、愛知、瀬尾幸兵衛二女
男　清一　明四〇、一一生
庶子　八重子　明四五、三生、生母、愛知、水谷やす
君は京都府人瀬古莊八の長男にして明治八年八月を以て生れ同三十九年家督を相續す吳服商を營む家族は尙叔母とね（文久二、九生、京都、宮部佐太郎繼母）あり（京都、上京、上立賣通室町西入電西陣三三二六）

瀬古保次　從五位勳五等、貴族院書記官兼內務事務官、貴族院議事課長、東京府在籍
母　ナカ　慶應二、一〇生、神奈川、岡村熊次郎妹
妻　銈　明二八、九生、東京、金森銈彌長女
男　和男　大一一、六生
君は神奈川縣人瀬古保次郎の長男にして明治二十年八月を以て生れ同三十年家督を相續す大正四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格す同九年貴族院書記官に任ぜられ內務省參事官を兼ぬ同九年滿鮮地方に出張同十年華盛頓會議全權委員隨員を命ぜられ同十二年歐米に出張す現時貴族院書記官兼內務事務官にして貴族院議事課長たり家族は尙長女友子（大八、六生）二女靜子（同一三、五生）二男保男（同一五、一生）あり（東京市外駒澤町上馬三六五電靑山九二七）
參照＝金森銈彌※河村讓三郎の項

瀬崎初三郎　北海道多額納稅者、材木商、北海道在籍
妻　よし　明九、七生、青森、吉村岩五郎姉
男　直次郎　明三七、四生
男　新吉　明三九、八生
女　シゲ　明四一、一〇生
女　たゑ　大元、一〇生
君は新潟縣人瀬崎寅治の二男にして明治七年一月を以て生れ同三十一年分れて一家を創立す材木商を營み現に北海道多額納稅者たり家族は尙五男善次郎（明四三、一一生）四女節子（大三、九生）五女とも（同五、二生）あり長男初太郎（明三一、一生）二男淸（同三五、二生）は各分家し長女キヨ（同三二、一二生）同夫政吉（同三〇、一〇生、新潟、吉田運吉二男）も亦其二子と共に分せり（函館、家若松町一五）

瀬島猪之丞　東京揮發油（株）代表取締役、千代田石油（株）常務取締役、東京ワセリン工業（株）取締役、東京府士族
母　たか　嘉永六、一一生、鹿兒島、高江源藏長女
男　孝一　明四〇、九生
女　貞子　明四四、七生
君は東京府士族瀬島熊助の長男にして明治三年三月を以て生れ同三十一年家督を相續す同二十六年東京高等商業學校を卒業し日本石油會社に入り後東京揮發油會

社を經營して現時其代表取締役たる外前記各會社の重役にして曩に旭工業長門起業炭礦朝日興業各會社の重役に擧げらる家族は倘二男謙介（大二、八生）あり三女千代（明三六、七生）は鹿兒島縣人木佐木正男に嫁せり（東京、牛込、砂土原町三ノ一七電牛込一四九一）

瀬下清
三菱銀行（株）常務取締役兼業務部長事務取扱、日佛銀行（株）取締役兼日本代表者、昭和銀行、三菱海上火災保險各（株）取締役　東京府士族

妻　千勢　明一三、八生、東京、士、笹田敬倫長女
男　良夫　大三、一生

君は長野縣人瀬下七兵衞の三男にして明治七年九月を以て生れ先代起十の養子となり同三十七年家督を相續す同二十六年東京高等商業學校附屬主計學校を卒業し三菱銀行に入り故豐川良平の信頼を承け漸次重用せられて支配人となり大正八年常務取締役に擧げらる現時同銀行業務部長事務取扱を兼ね倘前記銀行會社の重役たり家族は倘五女春（大五、二生）六女和子（同八、一生）あり二女漣（明三六、三生）は福岡縣人神崎平二長男丈二に嫁し三女克（同三八、一一生）は靜岡縣人波多野承五郎長男元武に嫁し四女悦（同四四、六生）は外戚笹田家の養子となれり（東京、芝、車町七六電高輪一三一二）
參照＝神崎平二、波多野承五郎の項

瀬下新造
柏崎銀行（株）取締役　新潟縣在籍

妻　モト　明六、一一生、先代新造長女
孫　潔　明三八、三生、養子ミト長男

君は新潟縣人飯塚彌十郎の三男にして明治六年十二月を以て生れ同二十四年先代新造の養子となり家督を相續し襲名して前名乾を改む現時柏崎銀行取締役たり養子ミト（明一六、一〇生、先代新造三女）は新潟縣人佐藤吉太郎に孫嘉久代（同四〇、一生、養子ミト長女）は同縣人田村孝太郎長男宗雄に嫁し養弟忠吉（同元、八生）同妻ヨノ（同八、一一生、新潟、海津治平妹）は子女を伴ひ分家せり（新潟、刈羽、枇杷島村）

瀬田市太郎
岩手縣多額納税者、金融業　岩手縣士族

繼母　チヨ　明一八、七生、岩手、長澤千太郎長女
妻　テヱ　明二二、九生、岩手、諏訪政則長女
男　金次郎　明四四、八生

君は岩手縣士族瀬田金太郎の長男にして明治二十三年五月を以て生れ大正十三年家督を相續す金融業を營み岩手縣多額納税者たり家族は倘二男金三郎（大二、三生）三男正四郎（同四、六生）四男石五郎（同六、九生）五男義光（同九、一生）六男正雄（同一一、一〇生）長女フクミ（同一四、八生）七男忠博（昭二、三生）弟仁太郎（明二七、一一生）同妻トヨ（同三一、七生、岩手、照井正名孫）及其三子同勝太郎（同四〇、一生）妹ヨシ（同四四、六生）同ミヱ（大二、一〇生）弟正五郎（同四、一二生）同正七郎（同七、三生）妹アサ（同一〇、一〇生）あり（盛岡市）

瀬田讓一
金融業　東京府在籍

母　はな　明六、四生、東京、飯田春教長女
妻　げん　明二九、四生、埼玉、田村新藏四女
男　文一郎　大一四、九生

君は東京府人瀬田文次郎の長男にして明治二十八年八月を以て生れ大正十四年家督を相續す同六年早稻田大學英法科を卒業し金融業を營む家族は倘弟吉郎（大六、九生）あり同四郎（明三五、一〇生）は分家せり（東京市外板橋町下板橋一五九八電板橋一五五）
參照＝田村新藏※上野松太郎の項

瀬谷準造
正五位勳五等、東京高等工業學校教授、秋田縣士族

君は秋田縣士族瀬谷權六の二男にして明治四年六月を以て生る同二十九年東京高等工業學校應用化學科を卒業し同校助教授に任じ同四十四年同教授に進み現在に至る家族は二女フサ（大三、一生）三女アサ（同一二、八生）の外亡兄友輔妻ロク（萬延元、八生、秋田、藤井高瑞妹）甥勝吉（明一五、八生、現戸主）同妻ノブ（同二二、一一生、秋田、士、浦部傳藏長女）との間に子女あり長女ノブ（同四二、一二生）は秋田縣人早川宏の家督を相續せり（東京市外代々幡町佐々木一三八）

瀬谷勇次郎
貴族院議員、茨城縣多額納税者、茨城鐵道（株）取締役、農業　茨城縣在籍

養子　勇　明二二、九生、長女ゑい夫、茨城、木村已之助二男
女　ゑい　明二六、八生、養子勇妻
男　芳朗　明三六、二生
女　千代　明三九、三生

君は茨城縣人瀬谷彌八郎の長男にして明治三年三月を以て生れ同三十七年家督を相續す農業を營み現に前記會社の重役にして茨城縣多額納税者たり貴族院議員に互選せらる家族は倘二男敬造（大三、三生）孫京子（同一〇、二生、養子勇長女）あり二女てる（明二八、四生）は茨城縣人宇野清左衞門に四女わくり（同三二、二生）は同縣人根本英一郎に五女とよ（同三四、五生）は同縣人谷津保夫に嫁せり（茨城、東茨城、石塚町）

瀬戸榮一郎
丸久、蠶絲問屋　愛知縣在籍

父　久衞　安政二、一一生
母　てい　文久元、六生、愛知、青井新平長女
妻　あさを　明一六、二生、愛知、井上幸左衞門二女
男　良藏　明三九、五生
女　よね　明四四、一一生

君は愛知縣人瀬戸久衞の長男にして明治十一年八月を以て生れ大正十二年家督を相續す丸久と稱し蠶絲問屋を營む家族は倘二男善次郎（明四二、一生）妹ひさ（同三〇、八生）あり（名古屋、東、宮町二ノ七電東一七四〇）

瀬戸榮造
資産家　兵庫縣在籍

母　久代　安政六、九生、和歌山、士、松下左五之丞長女
妻　まつ江　明二〇、三生、兵庫、柳瀬一良四女
男　繁　大一一、二生

君は兵庫縣人瀬戸保三の弟にして明治十八年三月を以て生る資産家として知られ會社員たり家族は倘長女鈴（大三、九生）二女敏（同五、一二生）三女美（同八、三生）の外兄保三（明一三、一〇生、現戸主）同妻トモ（同一七、五生、愛媛、山内賤雄四女）と其一男二女及弟幸三郎（同二一、三生）同妻芳江（同三二、一生、岡山、矢切芳太郎二女）との間に二男一女並に同時友（同二

三、一一生）同妻常子（同三五、四生、和歌山、安原鋼吉妹）あり姉靜代（同一五、一二生）は岡山縣士族片貝鐵三郎に嫁せり（神戸、中山手通六ノ七二ノ三電元町二二四九）

瀬戸喜市郎
川村銀行（株）頭取　神奈川縣在籍

妻　ナヲ　明五、一一生、神奈川、瀬戸角兵衞二女
女　八重　明四二、四生
孫　フミ　明四二、一生、離縁養子惣太郎長女
孫　セキ　大元、一〇生、離縁養子惣太郎二女

君は神奈川縣人瀬戸七郎衞門の甥にして明治元年九月を以て生れ同十九年家督を相續す現時川村銀行頭取たり家族は倘孫トモ（大六、六生、離縁養子惣太郎三女）同和子（同一一、八生、同四女）あり二女ミヨ（明二七、四生）は神奈川縣人清水丈吉長男義久に妹エイ（同八、五生）は同縣人田淵萬助長男晋次郎に同チヨ（同一七、四生）は同縣人渡邊林藏長男耶錄に嫁せり（神奈川、足柄上、川村）

瀬戸慶之進
正五位勳三等、仙臺高等工業學校教授、宮城縣在籍

繼母　なか　安政四、三生、宮城、橘川鐵五郎三女
妻　わき　明一八、八生、宮城、清野安姉
男　英雄　明四二、三生
女　直　明三九、三生
女　孝　明四五、二生

君は宮城縣人瀬戸新三郎の長男にして明治九年十二月を以て生れ大正七年家督を相續す明治三十二年帝國大學工科大學機械工學科を卒業し同四十一年製作機械及鑛山機械研究の爲獨英に留學し同四十五年東北帝國大學工學專門部教授に任ぜられ現時仙臺高等工業學校教授たり家族は倘三女敏（大三、一生）二男孝雄（同五、九生）三男和雄（同九、八生）四男文雄（同一一、一一生）弟誠（明二五、七生）同妻すゑ（同三四、三生、大分、田中六三郎二女）及其三子同國勝（同二七、九生）同妻てい（同三八、五生、宮城、丁子友治三女）及其一子同八郎（同三二、六生）同妻とみ（同三九、八生、醫學博士大谷周庵八女）及其一子あり同保（同一四、一一生）は其妻たまよ（同二〇、一〇生、宮城、佐竹孝之助長女）を伴ひ同武（同一八、八生）は其妻とよ（同二九、一二生、宮城、丹羽豐治長女）及其二子を伴ひ同糾（同二〇、一二生）は其妻松子（同二九、六生、福岡、五十君弘太郎長女）並其二子を伴ひ各分家し妹はるち（同一六、一一生）は宮城縣士族橘川司亮に同ちよ（同二二、九生）は埼玉縣人宮城晉五郎に嫁せり（仙臺、元常盤町三二）
參照＝清野安、橘川司亮、宮城晉五郎※梅野實※宮下友雄の項

瀬戸健三
和歌山縣多額納税者、南海紙業（株）社長、日出紡織（株）取締役、日高銀行、伊都製絲、南海信託各（株）監査役、和歌山縣在籍

養母　タツノ　元治元、一一生、養祖父健介三女
妻　敏　明七、一生、養祖父健介四女
養子　知治郎　明三四、一二生、養子君枝夫、和歌山、野村芳藏二男、大同洋紙店員
養子　君枝　明三八、一生、養子知治郎妻、和歌山、瀨路イヱ三女、日高高等女學校出身

君は和歌山縣人野村太兵衞の長男にして明治八年八月を以て生れ先代タツノの養子となり大正九年家督を相續す現時前記各銀行會社の重役にして和歌山縣多額納税者たり家族は倘養弟通夫（大六、五生、和歌山、瀬戸寛一弟）あり（和歌山、日高、藤田村）
參照＝※野村又兵衞※山本且三郎の項

瀬戸甚太郎
鹿兒島縣多額納税者、水俣銀行（株）監査役、鹿兒島縣在籍

妻　レモ　明元、正生、鹿兒島、田之頭猪之助四女
男　甚右衞門　明二二、四生
婦　スヱカメ　明二二、一二生、長男甚右衞門妻、鹿兒島、中野喜三孫
男　善右衞門　明二五、三生
婦　アキ　明三七、三生、二男善右衞門妻、鹿兒島、古川靜一郎妹
男　岩吉　明二九、六生
婦　ミヨ　明三二、四生、三男岩吉妻、鹿兒島、東佐次郎二女
男　末吉　明三二、一生
男　末男　明三四、三生
孫　ハツキク　明四四、五生、長男甚右衞門長女

君は鹿兒島縣人先代源次郎の長男にして元治元年八月を以て生れ明治三十八年家督を相續す現時水俣銀行監査役にして鹿兒島縣多額納税者たり家族は倘六男正男（明四二、一生）孫キクヱ（大三、一生、長男甚右衞門二女）同左内（同一二、七生、二男善右衞門長男）同千行（同一四、二生、同二男）同ハルヱ（同九、五生、三男岩吉長女）同ナツヱ（同一一、五生、同二女）同清一（同一四、九生、同長男）同ナミコ（昭二、九生、同三女）あり（鹿兒島、出水、米ノ浦町）

瀬戸文吾
東亞鐵工所（名）社長、横川橋梁製作所（株）專務取締役、横川電氣製作所、日本エレベーター製造各（株）取締役、大阪鐵工業同業組合相談役、宮城縣士族

男　文雄　明三二、一生
婦　田鶴　明三五、五生、長男文雄妻、大阪、竹中善吉長女

君は宮城縣士族瀬戸良裕の長男にして慶應三年十一月を以て生れ明治三十六年家督を相續す現時前記各會社の重役として知らる家族は倘孫正文（大一一、一生、長男文雄長男）同義文（同一三、三生、同二男）同孝文（昭二、五生、同三男）あり二女セキ（明四一、六生）は同夫俊夫（宮城、齋藤源吉二男）と共に分家し弟運八郎（同一一、二生）同妻すゞよ（同二五、四生、宮城、士、石田常直二女）は其子女を伴ひ同彊三郎（同一五、五生）同妻すゑ（同一九、四生、宮城、青砥勘左衞門妹）は其一女を伴ひ亦各分家し同和四五郎（同二〇、一一生）は福岡縣人城友吉の養子となり姪つや（同三〇、一生、弟運八郎長女）は宮城縣人瀬戸運壽に嫁せり（大阪、港、南境川町三ノ三〇）

瀬戸口勝市
佐賀縣多額納税者、米穀商　佐賀縣在籍

妻　ユウ　明一三、一〇生、佐賀、三浦藤太二女
養子　克己　明三二、一二生、長女マサヨ夫、佐賀、水町秀太郎甥
女　マサヨ　明三四、一〇生、養子克己妻

君は佐賀縣人瀬戸口與左衞門の四男にして明治九年四月を以て生れ同三十四年分れて一家を創立す米穀商を營み佐賀縣多額納税者たり家族は倘孫和（大一四、一

生、養子敬助長男)叔母マサ(慶應三、八生)あり妹ヨシノ(明三三、八生)は宮崎縣人兒玉憲吉に嫁せり(都城、宮丸町)

參照＝黒岩常平※江夏岩吉※大田安熊※持永善市の項

瀬戸山良敏

鹿兒島縣士族

明七、一〇生、鹿兒島、士、小倉良助長女

妻　イチ　明三〇、三生

男　和人　明三五、一二生、長男和人妻、宮崎、桐野重雄妹

婦　和加衛　明三七、八生、縣立第二高等女學校出身

女　綾　明四四、一〇生

女　須恵　明四四、一〇生

君は鹿兒島縣士族瀬戸山敬輔の長男にして慶應三年十二月を以て生れ先代マスの養子となり明治十七年家督を繼ぐ農業を營み鹿兒島縣多額納稅者たり縣會議員等に擧げらるる家族は同縣士族陸軍歩兵大尉木佐木力に嫁し二男和夫(同三四、一一生)長女雪江(明二〇、一生)五生)四男孝治(同一二、一〇生)五生)七女アキ(昭二、四生)あり(長崎、北高來、諫早町)

參照＝※田中丸祐厚※田中丸元三※森川藤次の項

瀬戸山金之丞

大德水電工業(株)社長

鹿兒島縣在籍

妻　ナカ　明三、二生、愛媛、島本吉太郎妹

養子　實　明二〇、一〇生、養子フヂ夫

養子　フヂ　明三一、四生、養子實妻

君は鹿兒島縣人先代直右衛門の三男にして文久元年五月を以て生れ明治十九年家督を相續す現時大德水電工業會社々長たり家族は倘孫正子(大七、六生、養子實長女)あり(鹿兒島市車町七二)

瀬戸山德藏

宮崎縣多額納稅者、都城電氣、諸縣郡是製絲各(株)取締役、都城銀行(株)監査役、宮崎縣在籍

明一八、三生、宮崎、高野直太郎三女

妻　カツ　明四二、七生

養子　敬助　明二一、五生、父國太郎三男

婦　スマ　明二七、一生、養子敬助妻、宮崎、黒岩常平妹

女　香代　大元、一二生

君は宮崎縣人先代國太郎の長男にして明治九年十一月を以て生れ大正三年家督を相續す宮崎縣多額納稅者にして前記各會社の重役たり家族は倘孫國吉(大四、三

瀬沼伊兵衛

五日市鐵道、秋川水力電氣各(株)取締役、秋川水力電氣(株)監査役、農業、東京府在籍

明二、九生、東京、根岸孫左衛門

妻　ウメ　長女

男　孝一　明二六、一〇生

男　寛二　明二九、一一生

男　秀夫　明三六、二生

女　和久　明三八、一二生

君は東京府人先代伊兵衛の長男にして文久三年十月を以て生れ明治二十四年家督を相續し前名勝太郎を改め襲名す農業を營み傍ら前記諸會社の重役たり養に東京府會議員同參事會員同郡部會議長及同副議長西多摩郡教育會長等に擧げられ大正十三年衆議院議員に當選せり長女チカ(明一九、一〇生)は山梨縣人横山宗太郎に二女伊代(同三三、八生)は同府人野村勘兵衛二男寛に嫁せり(東京、四谷、荒木町二七電四谷三〇三七)

瀬能義之助

養母　もと　長門起業炭礦(株)取締役兼支配人

妻　輝子　明元、二生、東京、江川利三郎姉

男　義篤　明三二、一生、養父篤助長女

大一三、五生

君は和歌山縣人川端定七の三男にして明治二十一年四月を以て生れ先代篤助の養子となり大正八年家督を相續す現時長門起業炭礦會社取締役兼支配人たり家族は倘三女幸子(大一五、二生)あり二女敬子(同一一、五生)は分家し養妹富美子(明三六、九生)は富山縣人大坪富次郎長男庄三に嫁せり(東京、本郷、駒込蓬莱町六電小石川五八八八)

參照＝※川副綱隆の項

清　寛

熱田機械製作所、神都土地、日本アルプス温泉土地各(株)取締役、岐阜新聞社(資)社長、愛知縣在籍

妻　かね　明二〇、一〇生、愛知、中村勝次郎妹

男　信重　明四四、一二生

君は靜岡縣人清雄策の弟にして明治二十年三月を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す現時前記諸會社の重役たり(名古屋、西、本町四ノ三)

清閑寺經房

從二位勳四等、伯爵、泉商店(株)監査役、舊公卿

妻　修子　明五、三生、伯爵壬生基義姉

養子　良貞　明二一、七生、長女歌子夫、子爵吉田良豫叔父、正五位

女　歌子　明二八、一二生、養子良貞妻

當家は權大納言甘露寺經長の二男内大臣吉田定房の後なり定房より六代を經て中絶す權大納言資胤の長男共房再興し夫より九代を經て先代盛房に至り明治十七年伯爵を授けらるる君は其長男にして慶應元年一月を以て生れ明治二十五年家督を相續し舊伯爵仰付けらる陸軍士官學校に學び貴族院議員に擧げられ又松田製作所・寶商事各會社監査役に就任し現時泉商店監査役たり家族は倘孫經泰(大九、七生、養子良貞長男)同貞光(同一一、一一生、同二男)同昇(同一四、一生、同三男)同昭(昭二、一生、同四男)弟修實(明元、一一生)同妻ます(同四、一〇生、赤阪多助長女)と其一子及亡弟愛房妻タキ(同八、七生、京都、士、三宅光勳長女)あり二女萬壽子(同三三、一二生、京都府立第一高等女學校出身)は兵庫縣人有馬市太郎長男市藏に歴子よね(同二〇、一二生、生母、倉貫ヨシ)は伯爵鷲尾隆信に妹元子(同二、一二生)は大分縣人小手川信次に同雅子(同九、九生)は高知縣士族龜谷正雄長男巌に嫁し弟基房(同九、二生)は子爵池尻家を相續し同國榮(同一五、八生)は男爵津守通秀の先代にして甥和三郎(同二八、九生、弟修曆長男)は兵庫縣人吉岡ヨシの入夫となれり(京都、上京、等持院西町五一)

參照＝伯爵壬生基義、伯爵鷲尾隆信、子爵池尻基房子爵吉田良葉、男爵津守通秀、有馬市太郎※子爵池田政保※子爵町尻量弘の項

清家　祥榮

醫師

東京府士族

母　みつ　嘉永元、一生、大分、士、廣瀬鐵三郎長女

妻　をとめ　明一五、一二生、愛知、士、武山瀧三長女

男　秀勝　明四〇、四生

君は東京府士族清家玄榮の二男村田玄庸の弟にして明治九年十月を以て生れ同四十一年家督を相續す醫師たり家族は倘二男玄(明四四、九生)三男光祥(大二、五生)あり姉純(明六、一二生)は東京府士族河原直文に嫁せり(東京、麻布、森元町二ノ二四)

參照＝村田玄庸、河原直文の項

清野　謙次

從五位、醫學博士、京都帝國大學教授、醫學部勤務、京都府在籍

弘化、三生、靜岡、士、井澤銀藏三女

文久二、四生、靜岡、士、櫻井鐵太郎姉

明二八、六生、男爵安場末喜二女、學習院女學部出身

妻　富美　明二一、三生、宮崎、高野直太郎三女

學習院女學部出身

君は先代勇の長男にして明治四十五年家督を相續す明治四十二年京都帝國大學醫科大學を卒業し大正元年獨佛に留學し歸朝後同四年醫學博士の學位を授與され同五年京都帝國大學醫學科大學助教授に任ぜらるる同十年佛獨瑞西に留學を命ぜられ在外中京都帝國大學教授に任ぜられ同年歸朝す現に同大學醫學部微生物學教室病理學教室主任たり人類學を研究し古代人骨發掘と其研究に興味を有し八百體を採集す生體色素攝取研究の現況日本原人研究等の著あり家族は倘弟主(明二一、三生)同妻登茂榮(同三三、六生、長女)及其一女弟博(同二四、一〇生)同妻スエ子(同三五、五生、四生、鹿兒島、小森正隆長女)及其一女あり姉シン(同一四、九生)は醫學博士高安道成に嫁せり(京都、上京、田中閼田町二二電上一三二六)

清野　惣助

左澤銀行(株)頭取、山形貯蓄銀行(株)取締役、山形縣在籍

妻　との　慶應元、四生、山形、安達庄六二女

男　熙志　明一七、二生

婦　ゆきゑ　明一七、一二生、長男熙志妻、山形、士、五十嵐勘三郎養子

女　みつよ　明二八、一生

男　孝志　明三一、一一生

男　納雄　明三九、二生

孫　もと　明四〇、一生、長男熙志長女

孫　愛子　明四二、二生、長男熙志二女

君は山形縣人清野吉右衛門の長男にして元治元年二月を以て生れ明治十六年家督を相續す現時前記各銀行の重役として知らるる家族は倘七男泰(明四二、七生)孫要助(同四四、一二生、長男熙志長男)同清(大三、一一生、同二男)同晉男(同七、九生、同三男)同方章(同一一、一生、同四男)あり三男忠志(明二四、一二生)は山形縣人奥山定五郎に弟龜四郎(慶應三、一〇生)は同縣人佐藤與惣治に同貞之助(明四、九生)は同縣人長岡新太郎に各養子となり五男金(同三四、七生)第七之助(同五、一一生)は各分家し長女みつよ(同二八、一生)は前記五十嵐勘三郎長男信彰に妹やの(同二、三生)は同縣人佐藤吉郎に同やを(同七、一二生)は前記五十嵐勘三郎に同ひでを(同九、二生)は同縣人松田助太郎長男實に同まさを(同一一、七生)は同縣人鈴木鐵吾に同としを(同一二、一二生)は同縣人奥山三五郎養子定五郎に嫁せり(山形、西村山、左澤町)

參照＝※渡邊吉兵衛※江藤八之助の項

清野　信雄

正五位勳五等、復興局技師兼商工技師、建築部技術課勤務横濱出張所兼務、東京府士族

妻　敏子　明二五、四生、北海道、坂田誠三二女、奈良女子高等師範學校出身

男　正禮　大四、一生

女　幸子　大元、一一生

君は兵庫縣士族清野松柏の孫にして明治十五年一月を以て生れ同二十八年家督を相續す同四十二年東京帝國大學理科大學地質學科を卒業し奈良女子高等師範學校教授農商務技師兼工業試驗所技師帝都復興院技師兼農商務技師に歴任し大正十三年復興局技師兼商工技師に任ぜられ現時建築部技術課に勤務し横濱出張所及鎌山局地質調査所に兼務す家族は倘二女康子(大一五、三生)あり(東京市外目黒町中目黒一〇六八)

清　野　安

仙臺興業銀行(株)取締役、宮城信託、仙臺軌道各(株)監査役、宮城縣在籍

母　わくり　元治元、九生、佐藤勝信三女
妻　信　明三四、六生、岩手、八幡攝吉二女
男　宏大一〇、四生

君は宮城縣人清野喜平治の長男にして明治二十三年一月を以て生れ大正十二年家督を相續す同四十三年中央大學を卒業し現時仙臺興業銀行取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙二男稔(大一二、三生)三男朗(同一四、三生)弟安雄(明二九、六生)同妻ハル(同三七、七生、宮城、近藤甲長女)妹みきこ(同三七、八生)あり姉き(同一八、八生)は宮城縣人淵戸慶之進に嫁せり(仙臺、東二番丁五一)

參照―近藤甲、淵戸慶之進の項

精園邦三郎

岩倉銀行(株)監査役、菓子商
愛知縣在籍

妻　いと　明三、七生、愛知、久保田半十郎長女
男　俊介　明三四、九生
男　亨三　明三七、六生
女　ひろ　明四一、二生

君は愛知縣人精園喜兵衞の長男にして明治元年五月を以て生れ同十二年家督を相續す菓子商を營み同地の老舗にして傍ら岩倉銀行監査役たり長女はな(明二九、四生、日本女子大學校出身)は愛知縣人安達千太郎に二女清子(同三二、八生)は同縣人石黒宗十郎長男現瑞に嫁せり(名古屋、東、飯田町二ノ五電東一九三)

關　榮造

紀陽銀行(株)取締役
和歌山縣在籍

母　ひさ　安政二、九生、和歌山、高橋紋右衞門二女
妻　定枝　明二八、八生、和歌山、藪田泰造二女
男　榮吉　大八、六生

君は和歌山縣人先代榮造の長男にして明治十三年三月を以て生れ同四十一年家督を相續し前名榮次郎を改め襲名す同地の素封家にして現時紀陽銀行取締役たり家族は尙二男雄吉(大一二、六生)妹千代(明一六、七生)あり弟泰造(同一九、九生)は分家し妹信(同二二、一生)は東京府人村井恒太郎に嫁せり(和歌山市湊紺屋町三ノ九)

關　嘉一

醫學博士、兵庫縣在籍

養父　圓次郎　現戸主
養母　米　明四、一〇生、橋本芳太郎三男、明二九、一二生、養父圓次郎長女
妻　喜和　明二九、九生
男　保平　昭二、九生

君は宮城縣人清野喜平治の長男にして明治二十三年一月を以て生れ大正十二年家督を相續す同四十三年中央大學を卒業し現時仙臺興業銀行取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙二男稔(大一二、三生)三男朗(同一四、三生)弟安雄(明二九、六生)同妻ハル(同三七、七生、宮城、近藤甲長女)妹みきこ(同三七、八生)あり姉き(同一八、八生)は宮城縣人淵戸慶之進に嫁せり(仙臺、東二番丁五一)

參照―近藤甲、淵戸慶之進の項

精園邦三郎

岩倉銀行(株)監査役、菓子商
愛知縣在籍

妻　いと　明三、七生、愛知、久保田半十郎長女
男　俊介　明三四、九生
男　亨三　明三七、六生
女　ひろ　明四一、二生

君は愛知縣人精園喜兵衞の長男にして明治元年五月を以て生れ同十二年家督を相續す菓子商を營み同地の老舗にして傍ら岩倉銀行監査役たり長女はな(明二九、四生、日本女子大學校出身)は愛知縣人安達千太郎に二女清子(同三二、八生)は同縣人石黒宗十郎長男現瑞に嫁せり(名古屋、東、飯田町二ノ五電東一九三)

關　榮造

紀陽銀行(株)取締役
和歌山縣在籍

母　ひさ　安政二、九生、和歌山、高橋紋右衞門二女
妻　定枝　明二八、八生、和歌山、藪田泰造二女
男　榮吉　大八、六生

君は和歌山縣人先代榮造の長男にして明治十三年三月を以て生れ同四十一年家督を相續し前名榮次郎を改め襲名す同地の素封家にして現時紀陽銀行取締役たり家族は尙二男雄吉(大一二、六生)妹千代(明一六、七生)あり弟泰造(同一九、九生)は分家し妹信(同二二、一生)は東京府人村井恒太郎に嫁せり(和歌山市湊紺屋町三ノ九)

關　角之助

下野農商銀行(株)頭取
栃木縣在籍

妻　トヨ　明九、一生、栃木、水沼四郎妹
男　愼之介　明二〇、三生
男　あい　明二一、一生、長男愼之介妻、兄濱名信平二女
女　あい　明二三、六生
男　庸治郎　明二八、四生、二男庸治郎妻、茨城、江田次郎姪
孫　フミ　明四四、一生、長男愼之介長女

君は茨城縣人濱名信平の養子となり明治二十三年家督を相續す現時下野農商銀行頭取たり家族は尙ほ六男俊夫(明四二、一〇生)孫正美(大二、二生、長男愼之介長男)同二男(同二、一生、同二女)同ミツ(同六、一二生、同二男)同ハナ(同一三、五生、同三女)同道子(同一一、八生、同二女)同澄子(同一五、九生、同三女)あり長女菊(明二二、一生)は兄濱名信平の弟にして慶應三年十一月を以て生れ先代丈右衞門の養子となり明治二十三年家督を相續す現時下野農商銀行頭取たり家族は尙ほ六男俊夫(明四二、一〇生)孫正美(大二、二生、長男愼之介長男)同二男(同二、一生、同二女)同ミツ(同六、一二生、同二男)同ハナ(同一三、五生、同三女)同道子(同一一、八生、同二女)同澄子(同一五、九生、同三女)あり長女菊(明二二、一生)は兄濱名信平の弟にして慶應三年十一月を以て生れ先代丈右衞門の養子となり明治二十三年家督を相續す現時下野農商銀行頭取たり家族は尙ほ六男俊夫(明四二、一〇生)孫正美(大二、二生、長男愼之介長男)同二男(同二、一生、同二女)同ミツ(同六、一二生、同二男)同ハナ(同一三、五生、同三女)同道子(同一一、八生、同二女)同澄子(同一五、九生、同三女)あり長女菊(明二二、一生)は兄濱名信平の弟にして慶應三年十一月を以て

關　角之助

下野農商銀行(株)頭取
栃木縣在籍

妻　トヨ　明九、一生、栃木、水沼四郎妹
男　愼之介　明二〇、三生
男　あい　明二一、一生、長男愼之介妻、兄濱名信平二女
女　あい　明二三、六生
男　庸治郎　明二八、四生、二男庸治郎妻、茨城、江田次郎姪
孫　フミ　明四四、一生、長男愼之介長女

君は茨城縣人濱名信平の養子となり明治二十三年家督を相續す現時下野農商銀行頭取たり家族は尙ほ六男俊夫(明四二、一〇生)孫正美(大二、二生、長男愼之介長男)同二男(同二、一生、同二女)同ミツ(同六、一二生、同二男)同ハナ(同一三、五生、同三女)同道子(同一一、八生、同二女)同澄子(同一五、九生、同三女)あり長女菊(明二二、一生)は兄濱名信平の弟にして慶應三年十一月を以て

關　毅

水道、京濱運河各(株)取締役
栃木縣士族

父　マセ　文久二、一二生、栃木、大橋氏良二女
妻　ヨシコ　明二九、八生、山口、中山忠男姉
男　弘大九、七生

君は栃木縣士族圖正の三男にして明治十九年二月を以て生る同四十三年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し東京澁埋立會社の前身鶴見埋築會社の創立せらるゝや聘せられて同會社技師となり支配人に進み現時其取締役にして傍ら前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙長女エイ(大六、一二生、三生)二女ヒサ(同一二、三生)二男厚(同一四、八生)三男享(同一五、一二生)の外兄眞(明一六、一二生、現戸主)弟晉(同二一、一一生)同修(同三三、二生)妹宮(同三八、四生)あり姉サダ(同一四、六生)は栃木縣人山形悳助に妹ケイ(同二四、六生)は栃木縣人高橋正親に同ジュン(同二六、一一生)は東京府人戸川濱男に嫁せり(東京市外大井町三三四電高輪五九二一)

關　儀一郎

帝國紙器(株)取締役
新潟縣在籍

母　タフ　安政三、四生、新潟、岸田庄八三女
妻　小春　明三〇、一生、新潟、矢坂脩治妹
男　義直　明四二、六生
女　シヅ　大元、一〇生

君は新潟縣人關久作の長男にして明治九年十月を以て生れ同十三年家督を相續す世々鄕士にして其遠祖は上杉氏の家臣たり君夙に上京して東京哲學館を卒業し倫理科國語漢文科中等教員檢定試驗に合格し三重縣師範學校新潟縣立高田師範學校各教諭に歷任す大正元年職を罷め鐵山業に從事し同五年日本電氣亞鉛會社の創立に盡瘁し取締役に擧げられ現に其職にあり家族は尙三男弘(大四、七生)三女マサ(同七、六生)四女テル(同一〇、一一生)あり弟隆治(明一九、六生)は同妻とき(同二三、三生、山梨、飯室平兵衞三女)と共に叔父彌作(安政四、四生)は同妻セキ(元治元、八生、新潟、朝倉代作妹)及其一子と共に各分家し同榮作(慶應元、一〇生)も亦分家せり(新潟、中頸城、和田村)

參照―※宮川讓治の項

關　桂三

東洋紡績(株)常務取締役
奈良縣在籍

妻　ヨネ　明一六、八生、養兄茜吉養妹
男　公一　明四五、三生

君は奈良縣人森田孫太郎の二男にして明治十七年一月を以て生れ關茜吉の養子となり大正十三年分家して一家を創立す夙に實業界に入り東洋紡績會社取締役となり現時同社常務取締役たり家族は尙二男厚(大二、九生)三男集(同四、五生)三女敏子(同五、四生)四男暢四(同八、六生)四女寬子(同一一、六生)あり(兵庫、武庫、御影町郡家電御影一〇五三)

參照―關茜吉の項

關　謙三

鴻商銀行(株)取締役兼支配人
長野縣在籍

妻　まつ　明一三、五生、長野、關寬代藏長女
男　伊一　明三二、五生
婿　まつの　明三五、五生
男　緋二　明四三、一生
女　うめの　大元、一〇生
女　こめ

君は長野縣人關伴七の長男にして明治八年四月を以て生れ同十八年家督を相續す現時鴻商銀行取締役にして支配人を兼ぬ家族は尙四男弘(大九、四生)孫君子(同一二、九生、長男伊一長女)同榮(昭二、八生、同長男)あり姉きく(明四、九生)は長野縣人柳澤嘉壽郎長男軍治に妹なか(同一一、六生)は同縣人小林茂作に同よね(同一六、五生)は同縣人寺島俊治に嫁せり(長野、下水內、上鄕村)

關　五助

長野縣多額納稅者、製絲業
長野縣士族

男　義治　明二四、一二生
婿　はる　明三二、三生、長男義治妻、長野、小池牛太長女

君は長野縣人關伊助の三男にして慶應三年二月を以て生れ明治八年先代嗣一郎の養子となり家督を相續す製絲業を營み長野縣多額納稅者たり家族は尙孫直文(大九、一二生、長男義治長男)同洋治(同一二、一生、同二男)同綱之助(同一四、一二生、同三男)あり二男信雄(明二七、九生)は分家せり(長野、諏訪、湖南村)

關　次郎

長野縣士族

妻　サタ　明一、一生、長野、松澤伴次郎二女
男　信雄　明三七、九生
婿　もと　明三五、九生
男　重威　大元、一二生
女　千代子　明四五、四生、東洋高等女學校在學

君は鳥取縣人關泰次の二男にして文久三年七月を以て生れ後家督を相續す夙に相續す同縣人鈴木重太郎の三男にして慶應三年九月を以て生れ後先代重兵衞の養子となり大正六年家督を相續し前名廣吉を改め襲名す絲類商を營み縣下の多額納稅者にして前記銀行會社の重役たり家族は尙ほ孫秀夫(明四四、一〇生、長男定平長男)同政弘(大九、二生、同二男)あり三女わか(明三四、二生)は山口縣人山本薰に嫁せり(群馬、佐波、伊勢崎町)

參照―佐島江平の項

關　俊吉

武藏野(株)取締役、岡(名)社長
奈良縣在籍

妻　マト　明二九、一二生、京都、岩坪五兵衞妹

君は奈良縣人關勝次郎の二男にして同信太郎の弟なり明治二十一年一月を以て生れ大正四年分家して一家を

關　定次郎

正七位、大正運送(株)取締役、大日本人造肥料(株)主事、王子工場長、關島縣在籍

妻　すま　嘉永四、一〇生、長野、渡邊長謙姉
男　千楯　明三七、九生
女　藤子　明四〇、一〇生、京都府立第二高等女學校專攻科出身
女　三枝　明四三、三生、京都府立第一高等女學校專攻科出身
女　その　大元、一二生

君は舊信州高島藩士折井安巳の二男にして明治十二年一月を以て生れ先代傳の養子となり同四十年家督を相續す滋賀縣立商業學校を經て同三十八年中央大學を卒業し同三十九年大阪商船會社に入り在職十七年大正十一年同社鹿兒島支店長辭任と共に退社し現時前記諸會社の重役たり家族は尙四女あり(大三、三生)六女とも(同六、一二生)二男行春(同一四、五生)あり(京都、紀伊、伏見町)

關　重兵衞

群馬縣多額納稅者、上毛燃絲(株)取締役、伊勢崎銀行(株)監査役、絲類商、群馬縣在籍

妻　しげ　明元、七生、群馬、須藤儀左衞門三女
男　定平　明一九、一二生
婦　カク　明二三、一生、長男定平妻、群馬、佐島江平五女
男　信夫　明三六、八生
女　ふみ　明三九、一生

君は群馬縣人鈴木重太郎の三男にして慶應三年九月を以て生れ後先代重兵衞の養子となり大正六年家督を相續し前名廣吉を改め襲名す絲類商を營み縣下の多額納稅者にして前記銀行會社の重役たり家族は尙ほ孫秀夫(明四四、一〇生、長男定平長男)同政弘(大九、二生、同二男)あり三女わか(明三四、二生)は山口縣人山本薰に嫁せり(群馬、佐波、伊勢崎町)

參照―佐島江平の項

關　俊吉

武藏野(株)取締役、岡(名)社長
奈良縣在籍

妻　マト　明二九、一二生、京都、岩坪五兵衞妹

君は奈良縣人關勝次郎の二男にして同信太郎の弟なり明治二十一年一月を以て生れ大正四年分家して一家を

創立す夙に專修大學を卒業し現時前記各會社の重役たり曾て衆議院議員に當選す(奈良市紀寺町八五六)

參照＝關信太郎宗寺村助右衞門の項

關 庄三郎 岩手縣多額納稅者

岩手縣在籍

繼母 ツネ 慶應四、九生、岩手、石澤義成長女
妻 テル 明一〇、一生、養父善太郎二女
男 榮一 明二九、三生
婦 ハナ 明三三、二生、長男榮一妻、岩手、木村松太郎二女
女 アサ 明三七、三生
女 コノ 明四一、一生

君は岩手縣人金子七郎兵衞の三男にして明治六年九月を以て生れ後關善太郎の養子となり大正十一年家督を相續す豪商にして岩手縣多額納稅者たり家族は尙五男秀五(明四二、八生)六男智六(同四四、九生)七男賢七(大二、三生)六女ラン(同四、一生)七女ノリ(同五、二生)八女モモ(同七、一一生)孫敬太郎(同九、九生、長男榮一長男)同銅三郎(同一一、三生、同二男)同銅三郎(同一四、八生、同三男)あり三女ハナ(明三三、三生)は岩手縣人瀨川彌右衞門弟貞藏に嫁せり(岩手、稗貫、好地村)

參照＝瀨川彌右衞門の項

關 信太郎

父 藤次郎 明二二、一生、愛知、森榮七妹
妻 すゞ 大三、八生
男 美代 明四一、三生
女 紀美 明四四、一生

君は奈良縣人關藤次郎の長男にして明治十七年十月を以て生る現に前記各銀行會社の重役たり家族は尙三男(明一九、一生)四男一三(同一三、七生)あり妹英三、五生)は同府人山川乙次郎に同愛(同二五、一二生)は同府人中村牟兵衞に嫁し弟俊吉(同二一、一生)は分家し叔母ツネ(同一三、五生)も亦其夫寬治郎(同二、五生、京都、士、原田寒遠三男)及其子女と共に分家せり(奈良市下御門町電一九)

日本絖麻、奈良住宅土地各(株)社長、奈良瓦斯(株)取締役、六十八銀行(株)鑑査役、奈良縣在籍

參照＝關俊吉、森榮七、宗寺村助右衞門の項

關 眞次郎 加茂銀行取締役

慶應三、一二生、新潟、關善三郎妹
妻 トラ 明二〇、一一生、現戸主
男 慣吾 明二九、三生
婦 ハル 明三三、二生、長男榮一妻、岩手、木村松太郎二女
女 アサ 明三七、三生
女 コノ 明四一、一生

君は新潟縣人先代眞次郎の長男にして父久元年十二月を以て生れ明治三十八年家督を相續し前名兵太を改め大正十一年退隱す現時加茂銀行取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙孫庸三(大二、四生、長男慣吾長男)同和子(同八、四生、同二女)同英子(同一一、一生、同長女)同和子(同八、四生、同三女)同悅子(同一三、五生、同四女)あり(新潟、南蒲原、加茂町)

參照＝宗皆川忠藏の項

關 甚吉 奈良縣多額納稅者、奈良瓦斯(株)鑑査役、奈良縣在籍

養母 ナラツネ 嘉永五、一二生、養祖父藤右衞門長女
妻 トヨ 明九、一〇生、養父甚吉長女
男 經次郎 明二九、九生
男 征四郎 明三七、五生
男 六郎 明四〇、七生
女 きぬ 大二、一生

君は奈良縣人森田元三郎の三男にして明治三年八月を以て生れ同二十七年先代甚吉の養子となり家督を相續し奈良瓦斯會社鑑査役にして同縣多額納稅者たり家族は尙養母ナラツネ(明四三、一生)四女あや(大二、一生)あり(奈良、脇戸町)

參照＝關桂三の項

關 成章

母 キギ 安政三、八生、熊本、田尻陸藏二女
妻 須美子 明二六、一一生、福岡、貴鋼勘次長女

君は熊本縣人關安衞の長男にして明治十四年九月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學法科大學法律科を卒業し同四十四年判事に任じ關東津山區岡山地方同區下關區八代區長崎地方那覇地方同區各裁判所判事に歷補し大正十四年前記現職に轉ず(長崎、下縣、嚴原區裁判所官舍)

關 清六 青森縣多額納稅者、陸奥製絲(株)取締役、度量衡器並食料品商

慶應三、九生、青森、鳴海林藏姉
妻 トヨ 明二六、九生、北海道、礦金吾長女
男 精市郎 明四五、一生

君は青森縣人先代清六の孫にして明治二十三年十月を以て生れ同四十一年家督を相續し前名誠七を改め數名す度量衡器並に食料品商を營み傍ら前記會社の重役にして縣下の多額納稅者たり家族は尙長女ケイ(大三、五生)二男康二(同五、一〇生)三男晶吉(同九、一〇生)四男清八(同一三、一生)五男光雄(昭二、五生)の外弟信兵衞(明二八、八生)あり(弘前、親方町一五)

關 精一 千葉縣多額納稅者、運送並旅館業

千葉縣在籍

妻 ちか 明一四、九生、千葉、渡邊正雄長女
養子 ふさ子 明四二、八生、千葉、春地悌司長女

君は千葉縣人關清助の長男にして明治十年七月を以て生れ大正九年家督を相續す運送業並旅館業を營み千葉縣多額納稅者たり家族は尙養子雪枝(大一二、三生、東京、藤澤庄太郎長女)あり(千葉、長生、一宮町)

關 善次郎 秋田縣參事會員、秋田鐵道(株)取締役、秋田銘醸(株)鑑査役、關善酒店名代表社員、酒造業

母 イハ 安政三、七生、祖父善次郎長女
妻 クメ 明一〇、五生、秋田、奈良半兵衞七女
男 善藏 明二六、六生
婦 あや 明三〇、一二生、長男善藏妻、大阪、加茂仁八長女
男 理三郎 明三四、一生

男 喜四郎 明三五、四生
女 ウメ 明四五、二生
女 ミチ 大二、七生

君は秋田縣人關善次郎の長男にして明治五年四月を以て生れ大正十五年家督を相續す酒造業を營み關善酒店代表社員にして前記各會社の重役を兼ね秋田縣參事會員に擧げらる家族は尙四女マサ(大四、一一生)五女チエ(同七、三生)孫善一(同七、四生、長男善藏長男)同善惠(同九、一一生、同長女)同善二(同一三、一生、同二男)同善光(同一五、四生、同三男)あり(秋田、鹿角、花輪町電二三)

關 高次郎 横濱正金銀行(株)カルカッタ支店支配人、群馬縣在籍

明三六、五生、神奈川、宮崎信徹四女
妻 つる
男 清一 大一二、八生

君は群馬縣人關準藏の弟にして明治十八年六月を以て生る同四十年東京高等商業學校を卒業し同年横濱正金銀行に入り漢口マニラ各支店支配人に歷任し大正十五年カルカッタ支店支配人に任じ今日に及ぶ家族は尙二男健二(大一四、五生)兄準藏(明二、二生、現戸主)同妻さた(同八、七生、群馬、長谷川萬次夫長女)及其子女あり姉くに(同七、二生)は群馬縣人桑山清兵衞に同りん(同一一、五生)は同縣人小野鄕太郎に妹きん(同二二、一二生)は同縣人鈴木喜左衞門に嫂ひやく(同二八、三生、兄準藏長女)は同縣人桑原鎌次郎長男一重郎に同なか(同三五、七生、同三女)は同縣人松井八十吉に嫁し弟安治(同二八、九生)は東京府人中村つねに同濤四郎(同三一、三生)は栃木縣人關孫四郎に各養子となれり(カルカッタ、横濱正金銀行支店內)

參照＝鈴木喜左衞門の項

關 直彥 勳二等、貴族院議員、松竹キネマ(株)監査役、文政審議會委員、臨時法制審議會委員、辯護士

東京府士族

男 盛雄 明一七、四生

君は舊和歌山藩士關平兵衞の二男にして安政四年七月を以て生れ後家督を相續す明治十六年東京大學法學部を卒業し日報社に入り操觚に從事す同二十一年同社長となり爾來東京府會議員同議長代理市會議員同議長等の公職に就き同二十三年第一期帝國議會以來衆議院議員に當選すること十回に及び衆議院副議長に當選すること一回に及び衆ばる昭和二年五月貴族院議員に勅選せらる(東京、京橋、木挽町一ノ一五電京橋一一〇)

關 長剛 從四位、子爵

舊備中親見藩

當家は左大臣藤原魚名の末葉美濃國住人關十郎右衞門長重の後なり其二男成次森忠政に仕へ其婿となり備前守長政を生む長政の直孫大內記正繼入りて森家を繼ぐに及び長政二萬石を分なり後十代を經て先代博路通房の弟にして男爵河辺を授けられ貴族院議員に列す君は博直の二男にして明治十三年六月を以て生れ大正十二年家督を相續し同十五年男爵河邊博より養子となり後改名して男爵森長祥の養子となり後改名(同四二、一〇生)あり弟鈴郎(同明一九、四生)は京都府人市田彌五郎に同稔江(同二三、五生)は同府人山川乙次郎に同愛(同二五、一二生)は同府人中村牟兵衞に嫁し弟俊吉(同二一、一生)は分家し叔母ツネ(同一三、五生)も亦其夫寬治郎(同二、五生、京都、士、原田寒遠三男)及其子女と共に分家せり(奈良市下御門町電一九)

參照＝關桂三の項

關 成章

母 キギ 安政三、八生、熊本、田尻陸藏二女
妻 須美子 明二六、一一生、福岡、貴鋼勘次長女

君は熊本縣人關安衞の長男にして明治十四年九月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學法科大學法律科を卒業し同四十四年判事に任じ關東津山區岡山地方同區下關區八代區長崎地方那覇地方同區各裁判所判事に歷補し大正十四年前記現職に轉ず(長崎、下縣、嚴原區裁判所官舍)

關 清六 青森縣多額納稅者、陸奥製絲(株)取締役、度量衡器並食料品商

慶應三、九生、青森、鳴海林藏姉
妻 トヨ 明二六、九生、北海道、礦金吾長女
男 精市郎 明四五、一生

君は青森縣人先代清六の孫にして明治二十三年十月を以て生れ同四十一年家督を相續し前名誠七を改め數名す度量衡器並に食料品商を營み傍ら前記會社の重役にして縣下の多額納稅者たり家族は尙長女ケイ(大三、五生)二男康二(同五、一〇生)三男晶吉(同九、一〇生)四男清八(同一三、一生)五男光雄(昭二、五生)の外弟信兵衞(明二八、八生)あり(弘前、親方町一五)

關 精一 千葉縣多額納稅者、運送並旅館業

千葉縣在籍

妻 ちか 明一四、九生、千葉、渡邊正雄長女
養子 ふさ子 明四二、八生、千葉、春地悌司長女

君は千葉縣人關清助の長男にして明治十年七月を以て生れ大正九年家督を相續す運送業並旅館業を營み千葉縣多額納稅者たり家族は尙養子雪枝(大一二、三生、東京、藤澤庄太郎長女)あり(千葉、長生、一宮町)

關 善次郎 秋田縣參事會員、秋田鐵道(株)取締役、秋田銘醸(株)鑑査役、關善酒店名代表社員、酒造業

母 イハ 安政三、七生、祖父善次郎長女
妻 クメ 明一〇、五生、秋田、奈良半兵衞七女
男 善藏 明二六、六生
婦 あや 明三〇、一二生、長男善藏妻、大阪、加茂仁八長女
男 理三郎 明三四、一生

關 秀次郎 東京府多額納稅者、東京株式取引所取引員、東京府在籍

妻 千鶴尾 明一五、八生、東京、澤本八百馬姉
雅夫 大二、一〇生
養子 鶴子 明四五、一生、東京、澤本繁篤二女

君は東京府人關秀翁の二男にして明治十二年九月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名德兵衞を改む東京株式取引所實物短期一般取引員にして現に東京府多額納稅者たり家族は尙養子將子(大四、一生、東京、澤本繁篤孫、姉きん(明六、五生)同みつ(同一〇、一生)あり二女智江子(大四、六生)は東京府人井上てうの養子となり弟宇三郎(明一五、三生)は分家し妹せい(同一七、七生)は東京府人加藤龍門に嫁せり(東京市外日暮里町金杉二五六電淺草四七三一)

關 初之助 枡屋、糸綿商

東京府在籍

君は東京府人先代初之助の三男にして明治十九年二月を以て生れ同四十一年家督を繼ぎ襲名して前名仙之助を改む枡屋と稱し糸綿商を營む家族は庶子義子(大八、一生、生母、東京、小松ヨウ)同和子(同一〇、八生、生母同上)同幹子(同一四、一〇生、生母同上)あり姉よし(明一五、五生)同夫瀧次郎(同一〇、一一生、埼玉、士、三好信光二男)は其一男二女を伴ひ分家し同しん(同一八、一生)も亦分家せり(東京、淺草、西仲町一九電淺草二九一〇)

關 廣吉 關組(資)代表社員、土木請負業

新潟縣在籍

繼母 タマ 明一〇、九生、麗井、伊笠薫母
妻 キツジ 太郎妹
男 正吾 明三一、二生
女 八重 明三七、一二生

君は新潟縣人關政五郎の長男にして明治七年四月を以て生れ同四十四年家督を相續す土木請負業を營み現に阪市高級助役に聘せられ同十二年同市長に擧げられ今日に至る家族は尙庶子隆之(大八、九生、生母四、八生)あり二女武子(明三八、八生)は工學博士武田五一長男直秀に嫁せり(大阪、天王寺、南河堀町二四〇七電戎一三四)

參照＝武田五一の項

關 長剛 從四位、子爵

舊備中親見藩

當家は左大臣藤原魚名の末葉美濃國住人關十郎右衞門長重の後なり其二男成次森忠政に仕へ其婿となり備前守長政を生む長政の直孫大內記正繼入りて森家を繼ぐに及び長政二萬石を分なり後十代を經て先代博路通房の弟にして男爵河辺を授けられ貴族院議員に列す君は博直の二男にして明治十三年六月を以て生れ大正十二年家督を相續し同十五年男爵河邊博より養子となり後改名して男爵森長祥の養子となり後改名(同四二、一〇生)あり弟鈴郎(同明一九、四生)は京都府人市田彌五郎に同稔江(同二三、五生)は同府人山川乙次郎に同愛(同二五、一二生)は同府人中村牟兵衞に嫁し弟俊吉(同二一、一生)は分家し叔母ツネ(同一三、五生)も亦其夫寬治郎(同二、五生、京都、士、原田寒遠三男)及其子女と共に分家せり(奈良市下御門町電一九)

參照＝關桂三、森榮七、宗寺村助右衞門の項

母、東京、遠藤ユキ)同フミ(同一一、三生、生母同上)孫住江(同一五、一生、長男正吾庶子、生母、茨城、篠塚トメ)あり弟薫(明二〇、一生)は分家し庶子武人(同四四、八生、生母、東京、遠藤ユキ)は其生母の養子となれり(小樽、花園町西二)

關　廣治

茂木銀行(株)專務取締役　栃木縣在籍

妻　イワ　文久二、二生、栃木、水島佐平四女
男　勝義　明二五、三生
婦　つき　明二五、一〇生、二男勝義妻、茨城、小林藤介二女
男　弘道　明三二、三生、茂木銀行員
婦　久子　明三八、二生、四男弘道妻、栃木　河原繁樹妹
男　益位　明三六、三生、慶應義塾大學法學部政治科出身
男　高行　明三八、四生

君は栃木縣人關佐平次の長男にして安政六年九月を以て生れ明治十六年家督を相續す夙に茂木銀行に入り取締役兼支配人より專務取締役となり今日に及ぶ義に芳賀郡會議員茂木町會議員たりし事あり家族は尙孫マサ子(大六、一生、二男勝義長女)同ウメ(同一二、三生、同二女)同千代子(同一五、三生、同三女)同光子(昭二、一二生、四男弘道長女)あり長女ツル(明一六、一一生)は栃木縣人河又鬼一郎の養子となり三男美治(同三〇、三生)は同縣人上野文吉三女ウメに弟東四郎(同一四、六生)は同縣人町井與三郎養子リンに各婿養子となり二女ウメノ(同二〇、二生)は同縣人清水岩吉二男次郎に三女キン(同二二、一一生)は同縣人青木正夫長男通に四女ヒデ(同二七、一二生)は同縣人大野房吉三男萬作に妹ミネ(同元、九生)は同縣人柚木又平に嫁し弟亥之吉(同八、七生)は分家せり(栃木、芳賀、茂木町)

關　實

從五位勳五等、檢事、旭川地方裁判所檢事兼旭川區裁判所檢事　宮城縣在籍

母　みわ　嘉永六、七生、宮城、久光幸右衛門二女
妻　ミツヱ　明三二、四生、北海道、稻田梅次郎長女
男　一夫　大一〇、一生

君は宮城縣人關元の長男にして明治八年三月を以て生れ同三十三年家督を相續す同三十四年明治法律學校を卒業し判檢事登用試驗に合格同四十二年檢事に任じ爾來磐井區石卷區八戶區網走區帶廣區旭川區名寄區釧路區同地方各裁判所檢事に歷補し昭和二年前記現職に轉ず義に日清戰役の際軍艦龍田に乘組み出征す家族は尙長女雅(大六、四生)二男文夫(同一一、一一生)三男正夫(同一四、九生)の外妹かつみ(明一六、四生)同夫善治(同八、五生、宮城、千葉忠治郎二男)及其子女あり姪ミヨシ(同三二、一一生)は宮城縣人高橋專藏に同トラヨ(同三五、七生)は同縣人清水喜一に嫁せり(旭川、地方裁判所官舍)

關　正雄

從五位勳六等、遞信書記官、大臣官房保健課長、東京府士族

母　とく　嘉永二、一〇生、茨城、武藏國次郎姉
妻　あしこ　明二六、六生、京都、中江種造養子

君は東京府士族關農夫雄の長男にして明治十九年十二月を以て生れ大正八年家督を相續す明治四十五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同年遞信管理局書記を拜命し大正元年文官高等試驗に合格す爾來遞信局事務官補遞信事務官補兼遞信局事務官補遞信局副事務官等に歷任し同七年遞信書記官電氣局監理課長に進み同十三年大臣官房保健課長となり現に其職に在り義に歐米各國に出張を命ぜらる家族は前記の外三女耀子(大一〇、一二生)四女淳子(同一三、八生)叔母まつ(慶應三、五生)あり妹しのぶ(明二二、六生)は東京府人石川鐵雄に嫁せり(東京、赤坂、青山南町六ノ一〇八**電青山二三**)

參照＝中江種造※中江種一※中江龍二※船尾榮太郎の項

關　當純

美作薪炭、美作林產各(株)社長、山陽銀行(株)取締役、津山瓦斯(株)監査役、岡山縣士族

養父　當公　安政三、七生、元津山銀行頭取
養母　兎女　安政四、一生、岡山、士、渡邊政六女
妻　愛　明一八、三生、養父當公長女
男　當雄　大四、八生
女　絲子　明四一、一生
女　庸子　明四三、八生
女　三重子　大二、六生

君は岡山縣士族太田道男の弟にして明治十四年二月を以て生れ後ち先代當公の養子となり大正十年家督を相續し前名力夫を改む夙に早稻田大學政治科を卒業し實業界に投じ二十二銀行に入る現時美作薪炭會社々長たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙ほ四女須美子(大六、九生)二男龍二(同一〇、一〇生)六女伊都子(同一四、九生)あり養叔母シカ(明元、六生)養叔父當辰(同九、一〇生、齒科醫師)は各分家せり(岡山、苫田、津山町)

參照＝※尾上八郎の項

關　守

從五位勳五等、鐵道局技師、仙臺鐵道局運轉課列車掛長　長野縣在籍

妻　ゴヲ　明三〇、一〇生、福岡、縫野準五郎三女
男　晃　大八、一生

君は長野縣人關六左衞門の五男にして明治十九年一月を以て生る同四十三年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し鐵道院に入り技師となり大正八年西比利亞及北滿洲に出張す同九年鐵道局技師に任ぜられ現時仙臺鐵道局運轉課列車掛長たり家族は尙長女千鶴(大六、一二生)二男洌(同一一、一二生)兄學(明七、三生、現戶主)同妻つぐ(同一八、三生、長野、保科周次郎長女)及其三男二女同司(同一二、一二生)同妻ミヤコ(同二七、一二生、大分、脇新作四女)及其一男四女同要(同一五、四生)同妻まつよ(同二六、三生、長野、三井久太郎長女)養伯母さわ(安政四、三生、祖父儀左衞門養子、長野、佐藤榮太郎妹)あり姉勝見(明九、一一生)は長野縣人井出宇左衞門二男永壽に姪より(同三一、一一生、兄學長女)は同縣人並木始郎に嫁し伯父利之助(元治元、九生)同妻ろく(明三、一一生、長野、大井源三妹)は其一子を伴ひ分家せり(仙臺、清水小路鐵道官舍)

關　操

石岡銀行(株)頭取、柿岡關銀行(資)代表社員、茨城縣在籍

妻　こよ　明二六、四生、茨城、石田米吉長女
男　敬次郎　明一七、四生、柿岡關銀行代表社員

婦　たけ　明一九、一生、二男敬次郎妻、茨城、坂入與兵衞妹
孫　靜子　明四四、四生、二男敬次郎長女

君は茨城縣人關八三郎の三男にして安政五年十一月を以て生れ文久三年分れて一家を創立す現時前記各銀行の重役たり義に石岡蠶絲市場會社々長に擧げらる家族は尙四男誠一(大九、一二生)孫孝一(同一二、三生、二男敬次郎長男)同剛(同三、一二生、同二男)同惇三(同七、三生、同三男)同寬子(同一二、五生、同二女)弟善六(明二六、九生)同妻ます(同三三、一二生、茨城、鬼澤佐一郎姉)及其子女あり繼父市右衞門(天保一二、一〇生、指原金左衞門二男)は分家し三男謙三(明一八、四生)も亦同妻かね(同二三、一生、茨城、塚本孝太郎妹)と共に其三子を伴ひ分家し長女ふち(同二二、一生)は茨城縣人平寬之長男誠一郎に嫁し弟權次郎(同三、二生)は同縣人古宇田はるに同四郎(同二九、一生)は同縣人菊地テウに各入夫となれり(茨城、新治、葦穗村)

參照＝坂入與兵衞の項

關　守造

眞砂機械製造(株)代表取締役、旭藥品、大正活映各(株)取締役、建築書院(株)監査役、花菱商會、輸出入商、東京府士族

妻　ミネ　元治元、八生

君は東京府士族關迪教の長男にして明治元年七月を以て生れ同二十八年家督を相續す夙に獨逸に留學し歸朝後横濱に在りて日獨貿易に從事し漸次地歩を占め現時前記諸會社の重役として知らる家族は尙弟善寶(明一六、三生)同妻鶴子(同二二、九生、神奈川、田中善三郎三女)其長男善造(大一一、六生)及弟千里(明一五、一二生)あり(神奈川、中、大磯町)

關　盛治

正五位勳四等、福井高等工業學校長、長野縣在籍

妻　やす　明八、二生、福島、戶城傳七郎妹
男　達郎　明三四、二生
男　悟郎　明三六、六生

君は長野縣士族關繁連の二男にして明治十一年二月を以て生れ同三十七年分家して一家を創立す同三十六年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し英米獨各國に留學し米澤高等工業學校桐生高等染織學校各教授に歷任し大正十二年福井高等工業學校長に任ぜられ現時に至る義に京都壽製作所常務取締役たりし事あり家族は尙養子ユウ(大四、三生、東京、弓氣田正信孫)長女サダ子(同一一、三生)あり(福井高等工業學校)

參照＝※鱸重康の項

關　義壽

正五位、男爵、陸軍砲兵大尉、貴族院議員、東京府華族

妻　清子　明三二、七生、東京、士、河東田經清長女、學習院女學部出身

當家は先代義臣より顯る義臣は舊福井藩士にして明治元年以降大阪府權判事鳥取置賜各縣參事置賜縣令大藏權大丞判事宮城控訴院檢事長大審院檢事德島山形各縣知事等に歷任し貴族院議員に勅選せられ明治三十八年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君は義臣の長男にして明治二十二年一月を以て生れ大正七年家督を相續し襲爵す同三十九年學習院中等科を卒業し陸軍に入り同四十四年陸軍砲兵少尉に任じ大正九年同大尉に累進し同十二年豫備役編入被仰付同十四年貴族院議員に當選し現に其任に在り姉壽子(明一二、八生)は栃木縣士族蓮見啓之進長男鐵太郎に同貞子(同一三、八生)は山口縣士族東乙彥に同花子(同一五、三生)は石川縣士族小原正恒長男正忠に同淑子(同一七、一生)は東京府士族上野景明に同愛子(同二〇、二生)は新潟縣士族奧田武二郎に妹光子(同二二、九生)は東京府士族河上春生に嫁し弟義長(同二五、六生)養兄義孝(同四、二生、福井、山本平三郎弟)は各分家し弟義胤(同三一、二生)は義兄東乙彥の養子となれり(東京市外澁谷町八幡通二ノ九**電青山六七〇〇**)

參照＝東乙彥、奧田武二郎、河上春生※町村金彌の項

關　利作

長野縣多額納稅者　長野縣士族

妻　きん　明八、五生、長野、金子吉之助妹
男　幸作　明四二、一一生
女　有子　明三九、一一生
女　みち子　大二、一〇生

君は長野縣士族關初平の長男にして明治六年七月を以て生れ同四十年家督を相續す現に長野縣多額納稅者たり長女富江(明二八、五生)は同夫辰雄(同二六、七生、長野、關半藏二男)及其一子と共に分家し二女とし江(同三一、八生)は長野縣人關理平に三女クリ(同三四、二生)は同縣人山岡忠七に四女キミヨ(同三六、一〇生)は同縣人金子勝信に嫁せり(長野、諏訪、湖南村)

關　利三郎

角弘銅鐵店、桝五關商店各(株)社長、青森縣在籍

妻　キヨ　明一二、一一生、青森、鳴海良策三女
孫　清治　大一一、一〇生、亡長男忠八長男
養子　房五郎　明三二、三生、長女トク夫、青森、平岡證一五男
女　トク　明三一、一〇生、養子房五郎妻
婦　ヤヱ　明三七、二生、亡長男忠八妻、青森、鶴賀多作二女

君は青森縣人關清六の四男にして明治四年四月を以て生れ同三十九年家督を相續す現に角弘銅鐵店桝五關商店各社長たり家族は尙孫正治(大一一、一生、養子房五郎長男)同愛子(同一四、八生、同二女)同トヨ(同一三、一〇生、同長女)あり(青森、中津輕、和穗村)

關　良藏

大分縣多額納稅者　大分縣在籍

妻　織枝　明二六、三生、大分、工藤藏養子
男　健藏　明四一、三生
女　ノブ　明四四、八生

君は大分縣人關桃太の弟にして明治九年七月を以て生れ同四十年分家して一家を創立す豪商にして同縣多額納稅者たり家族は尙二男常次(明四二、七生)三男茂三(大二、三生)四男勝次(同四、一生)あり(大分市)

關岡　豐治

富士製紙(株)千住工場長　東京府士族

母　たか　弘化元、一〇生、東京、吉田富太郎妹
妻　カツ　明二三、三生、東京、加島新助二女
女　紀美　明四五、二生

君は東京府士族關岡倘志の三男にして明治十四年十一月を以て生れ同二十六年家督を相續す現時富士製紙會社千住工場長たり家族は尙二女富士(大四、八生)三女愛子(同六、三生)四女靜(同一二、九生)五女三千子(同一四、三生)六女美枝子(同一五、一二生)の外姉こう(明七、一生)あり(東京市外南千住町千住南三五三)

關川　儀八

佐賀縣多額納稅者、農商銀行(株)取締役、九州火山灰(株)監査役、佐賀縣在籍

妻　ツネ　明三、一二生、佐賀、中村源兵衛長女
孫　龍之　大七、四生、亡長男龍一郎長男
男　篠生　明二四、五生
男　熊生　明二六、九生、早稻田大學法科出身
婦　君　明三六、一生、三男熊生妻、佐賀、杉山正則三女
養子　喜代治　明二七、四生、長女イヨ夫、佐賀、渠川保太郎三男
女　イヨ　明二九、一生、養子喜代治妻、佐賀成美女學校出身
男　善雄　明三三、三生、明治大學法科出身
男　功　明三七、二生
女　久千代　明三九、二生、九州高等女學校出身
女　おしげ　於千美　明四一、一生、九州高等女學校出身
明四三、一生

君は佐賀縣人關川熊吉の長男にして慶應三年一月を以て生れ明治二十二年家督を相續す現時農商銀行取締役たる外前記會社の重役にして同縣多額納稅者たり家族は尙八男正登(明四四、一二生)九男滋二(大四、一二生)孫郁子(同八、一生、養子喜代治長女)同裕之(同九、八生、同長男)同惠子(同一五、七生、同二女)あり(佐賀、杵島、小田村)

參照―關川隆生の項

關川善兵衛

京都府多額納稅者、貴金屬商
京都府在籍

養父　善敎　嘉永四、六生
妻　ワキ　明一一、一生、滋賀、津吉卯吉二女
男　政雄　明四一、二生
養子　永三郎　鹽谷永藏三男
女　フミ　明三六、一二生、養子永三郎妻

君は京都府人寺田文助の五男にして明治七年十一月を以て生れ後先代善敎の養子となり大正十四年家督を相續し前名末吉を改む貴金屬商を營み京都府多額納稅者たり家族は尙二女シヅ(大七、四生)五男元三(同九、一生)妹千代(明三〇、六生)叔母あい(嘉永六、一二生)孫榮一郎(大一五、一〇生、養子永三郎長男)あり從姉とき(明五、六生)は大阪府人上田菊次郎に嫁し寡となり(明治九年十一月)は分家せり(京都、下京、四條小橋西入電中二四七六)

關川　隆生

農商銀行(株)常務取締役、九州火山灰(株)取締役、佐賀縣在籍

父　儀八　慶應三、一生、現戶主
妻　ナヲエ　明二四、五生
男　常與　明三一、九生、早稻田大學法科出身
女　久子　明三三、九生

君は佐賀縣人關川儀八の二男にして明治二十四年五月を以て生れ前名源一を改む大正六年明治大學商科を卒業し現時農商銀行常務取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙六女尙子(大三、七生)七女照子(同一三、一生)孫誠太郎(同一一、五生、二男伊三郎長男)同繁雄(同一二、三生、同二男)あり妹イマノ(明一三、三生)は亡父今次郎の死跡を相續せり(大阪、浪速、南阪町一五四電戎四五八〇)

關口　市五郎

栃木縣多額納稅者、金融業
栃木縣在籍

妻　タカ　安政四、四生、栃木、卷島友藏長女
孫　實　明四二、四生、亡長男寧作長男
男　一郎　明四三、七生

君は栃木縣人關口源治の二男にして安政四年十月を以て生れ先代寧右衛門の養子となり明治十八年家督を相續す金融業を營み栃木縣多額納稅者たり家族は尙孫千代(大三、一〇生、二男一郎長女)あり長女ヨシ(明一一、一二生)は栃木縣人高瀨敬三郎に二女ツネ(同一八、三生)は同縣人大關善一郎三男正作に三女ハナ(同二〇、三生)は東京府人中山良太郎長男興一に五女トメ(同二九、三生)は栃木縣人岸慶一朔勇に嫁し三男八郎(同二六、八生)は同縣人岸秀次の養子となれり(栃木、下都賀、皆川村)

關口　伊太郎

大阪府多額納稅者、貴金屬商
大阪府在籍

妻　ソノ　明二、一〇生、大阪、森川岩松二女
男　伊三郎　明二九、二生
婦　キクエ　明三四、九生、二男伊三郎妻、兵庫、藪元清司姉
女　ハナ　明二六、一二生
女　フジ　明三三、五生
男　信一　明四〇、七生

關口　健一郎

母　いし
妻　たけよ
男　一郎　明三八、三生
次　郎　明四一、八生

君は群馬縣人關口五郎平の長男にして明治九年三月を以て生れ大正元年家督を相續す明治三十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し大藏屬となり同三十四年司稅官に任じ東京稅務監督局に歷補し同四十年行政裁判所評定官に任じ以て今日に至る家族は尙三男三郎(明四三、一生)五男五郎(大三、八生)六男六郎(同六、一生)あり長女榮子(明三五、一一生、東京府立第三高等女學校出身)は靜岡縣士族穗井鐵太郎長男孝に二女まつ(同三九、一一生、養葉高等女學校出身)は群馬縣人森山文三郎長男達郎に嫁せり(東京、牛込、市谷臺町一二ノ一四電四谷三一五五)

參照―櫻井鐵太郎の項

關口兒玉之輔

大島拓殖電氣(株)代表取締役、東洋紙工印刷(株)專務取締役
埼玉縣在籍

妻　ます　明二六、六生、東京、桑山龍之助二女
男　直久　大三、五生

君は埼玉縣人關口直溫の二男にして明治十一年七月を以て生れ大正四年絕家關口氏を再興す明治二十三年日本法律學校法律科及專修大學理財科を卒業し大日本人造肥料會社に入り轉じて大正紙器會社支配人に擧げられ後東洋紙工印刷會社を創立し現時其專務取締役たる外前記會社の重役を兼ぬ家族は尙長女達子(大五、三生)二男進兒(同七、四生)三男博之(同九、七生)四男武之輔(同一二、八生)あり(東京、本鄉、根津西須賀町一七電小石川五九〇五)

關口　光三九

加藏銀行(株)取締役
栃木縣在籍

妻　カイ　安政四、三生、養父半三郎長女
男　蕙作　明一七、一二生、長男蕙作妻、栃木、渡邊良造妹
婦　ヒサ　明四四、一生、長男蕙作二女
孫　ヨシ　明四八、三生

君は栃木縣人金子利三郎の三男にして金子晴三郎の叔父なり安政二年一月を以て生れ先代半三郎の養子となり明治十六年家督を相續す現に加藏銀行取締役にして帶つて栗野銀行監査役たりし事あり家族は尙孫半左衛門(大二、一一生、長男蕙作長女)同光一(同八、三生、同二男)同チヨ(同一〇、同八生、同四女)同友三郎(同一三、一一生、同三男)あり三男滿三郎(明二三、六生)は栃木縣人木村與四郎に嫁せり(栃木、上都賀、清洲村)

參照―金子晴三郎の項

關口　四郎

正五位勳六等、農林技師、農務局勤務、東京府士族

妻　綾子　明二三、六生、大阪、華岡青洋長女
男　正安　大一三、九生

君は三條家の家臣太田源二の三男にして明治十二年七月を以て生れ農司家の家臣關口家の養子となり同三十一年家督を相續す同四十一年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し農商務技師に任じ水產局勤務を命ぜられ現に農務局に勤務す同十五年アフリカ及歐洲各國に出張を命ぜらる家族は尙二女富子(大一〇、三生)三男雄三(同三一、七生)あり長女隆子(同八、一生)は二男謹之助に嫁せり(神戶、西須磨上流川町一〇ノ一電須磨一七二)

參照―今井善右衛門※伊東久米藏※木山彥一の項

關口　武二郎

埼玉縣多額納稅者、農業
埼玉縣在籍

養子　倉次　明三〇、一〇生、亡弟文吉長男
婦　いま　明三二、六生、養子倉次妻、東京、早川竹藏長女

君は埼玉縣人先代倉吉の長男にして明治三年七月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名吉右衛門を改め襲名す繰物業を營み埼玉縣多額納稅者たり家族は尙孫義江(大一四、五生、養子倉次長女)同桂輔(昭二、七生、同長男)あり妹壽惠(明一三、六生)は東京府人眞弓留吉に同いと(同一八、四生)は同府人正木作次郎二男彥三郎に嫁し甥武次(同三二、六生、亡弟文吉二男)同妻くら(同三四、六生、埼玉、小林常右衛門四女)は其子女を伴ひ分家せり(埼玉、北足立、川口町)

正四位勳二等、行政裁判所評定官
群馬縣在籍

安政二、四生、關口和十郎長女
明一一、六生、山梨、小林所養長女
明三八、三生
明四一、八生

君は群馬縣人關口五郎平の長男にして明治九年三月を以て生れ大正元年家督を相續す明治三十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し大藏屬となり同三十四年司稅官に任じ東京稅務監督局に勤務す爾來郡山稅務監督局長心得字都宮丸龜各稅務監督局長に歷補し同四十年行政裁判所評定官に任じ以て今日に至る家族は尙三男三郎(明四三、一生)五男五郎(大三、八生)六郎(同六、一生)あり長女榮子(明三五、一一生、東京府立第三高等女學校出身)は靜岡縣士族穗井鐵太郎長男孝に二女まつ(同三九、一一生、養葉高等女學校出身)は群馬縣人森山文三郎長男達郎に嫁せり(東京、牛込、市谷臺町一二ノ一四電四谷三一五五)

參照―櫻井鐵太郎の項

關口兒玉之輔

大島拓殖電氣(株)代表取締役、東洋紙工印刷(株)專務取締役
埼玉縣在籍

妻　ます　明二六、六生、東京、桑山龍之助二女
男　直久　大三、五生

君は埼玉縣人關口直溫の二男にして明治十一年七月を以て生れ大正四年絕家關口氏を再興す明治二十三年日本法律學校法律科及專修大學理財科を卒業し大日本人

女　愛子　明四四、六生

君は大阪府人關口今次郎の三男にして明治九年十一月を以て生れ同二十二年分家して一家を創立す製菓業を營み大阪府多額納稅者たり家族は尙六女尙子(大三、七生)七女照子(同一三、一生)孫誠太郎(同一一、五生、二男伊三郎長男)同繁雄(同一二、三生、同二男)あり妹イマノ(明一三、三生)は亡父今次郎の死跡を相續せり(大阪、浪速、南阪町一五四電戎四五八〇)

關口　市五郎

栃木縣多額納稅者、金融業
栃木縣在籍

妻　タカ　安政四、四生、栃木、卷島友藏長女
孫　實　明四二、四生、亡長男寧作長男
男　一郎　明四三、七生

君は栃木縣人關口源治の二男にして安政四年十月を以て生れ先代寧右衛門の養子となり明治十八年家督を相續す金融業を營み栃木縣多額納稅者たり家族は尙孫千代(大三、一〇生、二男一郎長女)あり長女ヨシ(明一一、一二生)は栃木縣人高瀨敬三郎に二女ツネ(同一八、三生)は同縣人大關善一郎三男正作に三女ハナ(同二〇、三生)は東京府人中山良太郎長男興一に五女トメ(同二九、三生)は栃木縣人岸慶一朔勇に嫁し三男八郎(同二六、八生)は同縣人岸秀次の養子となれり(栃木、下都賀、皆川村)

關口　義慶二

正七位、桐生市長
群馬縣在籍

父　玉吉　安政三、二生、現戶主
母　せう　慶應二、五生、群馬、阿部春作姉
妻　ちづよ　明二二、一〇生、群馬、士、稻毛六郎二女
女　千枝子　明四五、四生

君は群馬縣人關口玉吉の長男にして明治十五年一月を以て生る現時桐生市長たり家族は尙四女あや子(大五、一生)五女和代(同八、一生)六女けい子(同一二、九生)あり長女よしゑ(明四二、一〇生)は群馬縣人稻毛謙に嫁せり(桐生、市長公舍)

關口　倉吉

埼玉縣多額納稅者、鑄物業
埼玉縣在籍

妻　さか　明三、九生、埼玉、小林常右衛門長女

養子　倉次　明三〇、一〇生、亡弟文吉長男
婦　いま　明三二、六生、養子倉次妻、東京、早川竹藏長女

君は埼玉縣人先代倉吉の長男にして明治三年七月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名吉右衛門を改め襲名す繰物業を營み埼玉縣多額納稅者たり家族は尙孫義江(大一四、五生、養子倉次長女)同桂輔(昭二、七生、同長男)あり妹壽惠(明一三、六生)は東京府人眞弓留吉に同いと(同一八、四生)は同府人正木作次郎二男彥三郎に嫁し甥武次(同三二、六生、亡弟文吉二男)同妻くら(同三四、六生、埼玉、小林常右衛門四女)は其子女を伴ひ分家せり(埼玉、北足立、川口町)

正四位勳二等、行政裁判所評定官
群馬縣在籍

安政二、四生、關口和十郎長女
明一一、六生、山梨、小林所養長女
明三八、三生
明四一、八生

君は群馬縣人關口五郎平の長男にして明治九年三月を以て生れ大正元年家督を相續す明治三十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し大藏屬となり同三十四年司稅官に任じ東京稅務監督局に勤務す爾來郡山稅務監督局長心得宇都宮丸龜各稅務監督局長に歷補し同四十年行政裁判所評定官に任じ以て今日に至る家族は尙三男三郎(明四三、一生)五男五郎(大三、八生)六郎(同六、一生)あり長女榮子(明三五、一一生、東京府立第三高等女學校出身)は靜岡縣士族穗井鐵太郎長男孝に二女まつ(同三九、一一生、養葉高等女學校出身)は群馬縣人森山文三郎長男達郎に嫁せり(東京、牛込、市谷臺町一二ノ一四電四谷三一五五)

參照―櫻井鐵太郎の項

關口兒玉之輔

大島拓殖電氣(株)代表取締役、東洋紙工印刷(株)專務取締役
埼玉縣在籍

妻　ます　明二六、六生、東京、桑山龍之助二女
男　直久　大三、五生

君は埼玉縣人關口直溫の二男にして明治十一年七月を以て生れ大正四年絕家關口氏を再興す明治二十三年日本法律學校法律科及專修大學理財科を卒業し大日本人造肥料會社に入り轉じて大正紙器會社支配人に擧げられ後東洋紙工印刷會社を創立し現時其專務取締役たる外前記會社の重役を兼ぬ家族は尙長女達子(大五、三生)二男進兒(同七、四生)三男博之(同九、七生)四男武之輔(同一二、八生)あり(東京、本鄉、根津西須賀町一七電小石川五九〇五)

關口　光三九

加藏銀行(株)取締役
栃木縣在籍

妻　カイ　安政四、三生、養父半三郎長女
男　蕙作　明一七、一二生、長男蕙作妻、栃木、渡邊良造妹
婦　ヒサ　明四四、一生、長男蕙作二女
孫　ヨシ　明四八、三生

君は栃木縣人金子利三郎の三男にして金子晴三郎の叔父なり安政二年一月を以て生れ先代半三郎の養子となり明治十六年家督を相續す現に加藏銀行取締役にして帶つて栗野銀行監査役たりし事あり家族は尙孫半左衛門(大二、一一生、長男蕙作長女)同光一(同八、三生、同二男)同チヨ(同一〇、同八生、同四女)同友三郎(同一三、一一生、同三男)あり三男滿三郎(明二三、六生)は栃木縣人木村與四郎に嫁せり(栃木、上都賀、清洲村)

參照―金子晴三郎の項

關口　四郎

正五位勳六等、農林技師、農務局勤務、東京府士族

妻　綾子　明二三、六生、大阪、華岡青洋長女
男　正安　大一三、九生

君は三條家の家臣太田源二の三男にして明治十二年七月を以て生れ農司家の家臣關口家の養子となり同三十一年家督を相續す同四十一年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し農商務技師に任じ水產局勤務を命ぜられ現に農務局に勤務す同十五年アフリカ及歐洲各國に出張を命ぜらる家族は尙二女富子(大一〇、三生)三男雄三(同三一、七生)あり長女隆子(同八、一生)は二男謹之助に嫁せり(神戶、西須磨上流川町一〇ノ一電須磨一七二)

參照―今井善右衛門※伊東久米藏※木山彥一の項

關口　武二郎

埼玉縣多額納稅者、農業
埼玉縣在籍

養子　倉次　明三〇、一〇生、亡弟文吉長男
婦　いま　明三二、六生、養子倉次妻、東京、早川竹藏長女

君は埼玉縣人先代倉吉の長男にして明治三年七月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名吉右衛門を改め襲名す繰物業を營み埼玉縣多額納稅者たり家族は尙孫義江(大一四、五生、養子倉次長女)同桂輔(昭二、七生、同長男)あり妹壽惠(明一三、六生)は東京府人眞弓留吉に同いと(同一八、四生)は同府人正木作次郎二男彥三郎に嫁し甥武次(同三二、六生、亡弟文吉二男)同妻くら(同三四、六生、埼玉、小林常右衛門四女)は其子女を伴ひ分家せり(埼玉、北足立、川口町)

造肥料會社に入り轉じて大正紙器會社支配人に擧げられ後東洋紙工印刷會社を創立し現時其專務取締役たる外前記會社の重役を兼ぬ家族は尙長女達子(大五、三生)二男進兒(同七、四生)三男博之(同九、七生)四男武之輔(同一二、八生)あり(東京、本鄉、根津西須賀町一七電小石川五九〇五)

關口　光三九

加藏銀行(株)取締役
栃木縣在籍

妻　カイ　安政四、三生、養父半三郎長女
男　蕙作　明一七、一二生、長男蕙作妻、栃木、渡邊良造妹
婦　ヒサ　明四四、一生、長男蕙作二女
孫　ヨシ　明四八、三生

君は栃木縣人金子利三郎の三男にして金子晴三郎の叔父なり安政二年一月を以て生れ先代半三郎の養子となり明治十六年家督を相續す現に加藏銀行取締役にして帶つて栗野銀行監査役たりし事あり家族は尙孫半左衛門(大二、一一生、長男蕙作長女)同光一(同八、三生、同二男)同チヨ(同一〇、同八生、同四女)同友三郎(同一三、一一生、同三男)あり三男滿三郎(明二三、六生)は栃木縣人木村與四郎に嫁せり(栃木、上都賀、清洲村)

參照―金子晴三郎の項

關口　四郎

正五位勳六等、農林技師、農務局勤務、東京府士族

妻　綾子　明二三、六生、大阪、華岡青洋長女
男　正安　大一三、九生

君は三條家の家臣太田源二の三男にして明治十二年七月を以て生れ農司家の家臣關口家の養子となり同三十一年家督を相續す同四十一年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し農商務技師に任じ水產局勤務を命ぜられ現に農務局に勤務す同十五年アフリカ及歐洲各國に出張を命ぜらる家族は尙二女富子(大一〇、三生)三男雄三(同三一、七生)あり長女隆子(同八、一生)は二男謹之助に嫁せり(神戶、西須磨上流川町一〇ノ一電須磨一七二)

參照―今井善右衛門※伊東久米藏※木山彥一の項

關口　武二郎

埼玉縣多額納稅者、農業
埼玉縣在籍

母　みち　安政五、三生、長野、士、齋藤清廣女
妻　しげ　明二三、五生、長野、士、宮本仲長女、御茶の水高等女學校出身
男　喬樹　明四四、一生

君は東京府士族關口眞靜の弟にして明治十三年二月を以て生る第一高等學校を經て同四十一年東京帝國大學醫科大學醫學科を卒業し大正六年東北帝國大學醫科大學敎授に任じ外科學講座を擔任し今日に至る同四年獨逸並英米に留學し同八年醫學博士の學位を授けらる家族は尙長女小枝(大三、八生)二男昌樹(同七、一〇生)三男春樹(同一三、四生)兄眞靜(明一〇、三生、現戶主、芝浦製作所總務部長)同妻チヨ(同二七、三生、東京、朝倉宗太郎妹)及其一男あり(仙臺、北二番丁六〇電一五六七)

參照―宮本仲※上野道輔※霜山精一の項

關口　高次

九州土地、日東海上火災保險、福德生命保險、九州電氣軌道各(株)監査役、愛知縣士族

妻　ふつ　明四、七生、藪元良二女
男　良一　明二五、四生、養父良二郎
婦　サク　明二七、一一生、長男良一妻、龍兒島、深川助九郎三女
男　富士男　明四一、八生

君は舊豐橋藩士能勢一也の三男にして文久三年十二月を以て生れ後同藩士目付役關口良の養子となり明治十六年家督を相續す夙に神戶川崎銀行に入り支配人を經て當務取締役となる後十五銀行常任監査役川崎總本店理事に就任し現時前記會社の重役たり園基及謠曲を嗜む家族は尙六男俊吉(明四四、一生)孫高(大七、一生、長男良一長男)同和子(同九、一生、同長女)同純子(同一一、五生、同二女)同桂次(同一四、一生、同二男)あり二男造次(明二八、九生、山口高等商業學校出身)三男雄三(同三一、七生)は各分家し二女須賀(同三三、七生、神戶高等女學校出身)は兵庫縣人今井善右衛門二男謹之助に嫁せり(神戶、西須磨上流川町一〇ノ一電須磨一七二)

參照―今井善右衛門※伊東久米藏※木山彥一の項

關口　蕃樹

正五位勳四等、醫學博士、東北帝國大學敎授、醫學部附屬醫院長
東京府士族

妻　ちよ　萬延元、一生、埼玉、中川六郎妹
男　達三　明二五、三生
婦　あい　明三五、一一生、三男達三妻、埼玉、若山靜一郎養妹
女　仲　明一七、二生
女　とせ　明三三、五生
孫　春美　大二、二生、長女仲長女

君は埼玉縣人關口要平の長男にして萬延元年十一月を以て生れ明治十八年家督を相續す農業を營み埼玉縣多額納税者たり家族は尚孫道生（大一一、五生、三男達三長男）同啓二（同一四、七生、同二男）あり二男純（明一三、五生）は埼玉縣人關口彌五の養子となり二女いく（同一九、九生）は群馬縣人鈴木竹次郎二男篤二に嫁せり（埼玉、北葛飾、櫻井村）

參照＝若山靜一郎の項

關口常右衛門

地主　東京府在籍

妻　あい　明二三、一二生、東京、齋藤石五郎長女
男　武雄　明四二、六生
女　とみ　明四四、一二生

君は東京府人先代常右衛門の長男にして明治二十一年六月を以て生れ大正九年家督を相續し前名寅吉を改む地主たり家族は尚三男榮造（大五、一〇生）四男安男（同七、七生）五男時男（同一〇、一一生）六男雄二（同一五、一一生）あり（東京市外尾久町上尾久一三五七**電下谷六九五一**）

關口藤右衛門

岩手縣多額納税者、酒造業　岩手縣在籍

妻　ツル　明一五、六生、岩手、三浦直道妹
男　富藏　明四一、四生

君は岩手縣人關口濱藤の四男にして明治九年十月を以て生れ先代藤右衛門の養子となり同四十年家督を相續し前名萬太郎を改め襲名す酒造業を營み岩手縣多額納税者たり家族は尚二男勇藏（大一〇、一〇生）亡叔父藤兵衛妻キク（明三、一〇生、吉田春松二女）及其子女孫あり從妹リヨ（明二一、一二生、亡叔父藤兵衛長女）は岩手縣人高橋留五郎二男判十郎に同リキ（同二四、五生、同二女）は同縣人大島常次郎長男卯太郎に同リサ（同二八、二生、同三女）は青森縣人横澤新太郎長男莊太郎に嫁し從弟喜兵衛（同二九、七生、同二男）同妻セツ（同三四、七生、岩手、阿部喜兵衛妹）は其子を伴ひ分家せり（盛岡、仙北町）

參照＝※小野崎篤造の項

關口茂三治

藤倉電線（株）社員　栃木縣在籍

父　伊之吉　安政五、一一生、栃木、藤倉熊吉四男
妻　ミツ　明一七、一一生、栃木、福地隣叔母
男　茂喜雄　大二、一生
女　佐喜子　明四一、三生、三輪田高等女學校出身
女　豐子　明四三、一一生

君は栃木縣人關口伊之吉の長男にして明治十四年一月を以て生れ大正十年家督を相續す現時藤倉電線會社々員たり家族は尚二男忠男（大六、一生）五女多美子（同一〇、三生）六女曜子（同一二、一二生）あり（東京市外千駄ケ谷町八七八**電四谷一五三八**）

關口八重吉

從四位勳三等、工學博士、東京高等工業學校教授、東京府在籍

妻　しつ　明一九、九生、東京、士、相浦貫一妹
男　重俊　明四三、八生、武藏高等學校在學

君は東京府人關口豐次郎の二男にして明治八年八月を以て生れ同十八年家督を相續す同二十九年東京高等工業學校機械科を卒業し同三十一年同校助教授となり同三十五年機械製作に關する事項研究の爲英米に留學し同三十八年歸朝同校教授に任じ現に其職に在り大正十年工學博士の學位を授與され同十一年再び歐米各國に出張す家族は尚二男達雄（大四、五生）三女晴子（同七、一一生）三男忠男（同九、八生）あり長女英子（明四〇、一生）は鈴木新兵衛に嫁し弟證二（同一八、八生）は其妻よし（同二二、七生、東京、長峰巳之助長女）を伴ひ分家せり（東京、麻布、新堀町四**電高輪六八八三**）

參照＝相浦貫一の項

關口安五郎

東京府多額納税者、櫓製造業　東京府在籍

母　ます　文久三、七生、東京、粕谷林藏妹
妻　ツル　明三七、六生、東京、伊東市太郎五女

君は東京府人先代安五郎の長男にして明治二十四年七月を以て生れ大正十一年家督を相續し前名龜吉を改む櫓製造業を營み東京府多額納税者たり家族は尚二女千代子（大一三、四生）あり弟國藏（明三二、一二生）は分家せり（東京、深川、熊井町一六**電本所一四九〇**）

關口豐

埼玉縣多額納税者、農業　埼玉縣在籍

母　阿左　安政三、一一生、松村源六郎二女
妻　美子　明二九、八生、茨城、大橋定次郎四女
男　正彌　大四、一一生
女　治代　明四一、一一生
女　美枝　明四三、一一生
女　榮子　明四四、一一生
女　久仁子　大二、九生

君は埼玉縣人關口彌五の三男にして明治十五年十一月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す農業を營み縣下の多額納税者たり家族は尚五女福子（大五、一二生）三男秀彌（同一〇、三生）四男豐博（同一一、八生）六女綠（同一二、八生）七女すみ子（同一四、九生）八女露子（昭二、一〇生）あり（埼玉、北葛飾、櫻井村）

參照＝大橋定次郎※飯田憲之助の項

關島健吾

伊那銀行（株）取締役、飯田土地建物（株）監査役、長野縣在籍

妻　種榮　明七、四生、長野、平田鍬太郎三女
男　記一　明二五、一一生
婦　基子　明三〇、一二生、長男記一妻、長野、關島周一四女
男　莊三　明三四、二生
女　久子　明三八、二生

君は長野縣人關島鎌太郎の長男にして明治二年四月を以て同三十七年家督を相續す現に前記銀行會社の重役たり家族は尚四男正司（大三、一二生）あり二男國治（明三一、三生）は長野縣人松下倫一郎の養子となれり（長野、下伊那、川路村）

參照＝※上柳緣の項

關塚惣吉

新潟縣多額納税者、農業　新潟縣在籍

妻　イサホ　明二〇、一生、新潟、高澤直三郎姉
男　達夫　明四五、四生
女　チカ　明四三、五生、新潟高等女學校出身

君は新潟縣人先代惣吉の長男にして明治十年四月を以て生れ同四十年家督を相續し前名豐太郎を改め襲名す夙に東京專門學校に學び農業を營み縣下の多額納税者たり明治三十五年以來町會議員學務委員縣會議員等の公職に就任せり家族は尚四女ミヲ（大四、四生）五女ユウ（同六、二生）二男成也（同八、三生）六女イク（同一〇、四生）三男和人（同一二、四生）七女トヨ（同一四、七生）弟誠吾（明二三、一生、南米アルゼンチン外遊中）あり長女久（同三六、九生）は同夫廉榮（同三二、六生、新潟、桐生廣吉三男、公民學校教師）と共に其一子を伴ひ妹キソ（同一四、五生）は同夫自助（同九、四生、新潟、安達修吉叔父）と共に各分家し弟新作（同二〇、二生、齒科醫）も亦分家し二女レン（同四二、二生）は新潟縣人農學士佐藤宏に嫁し弟七松（同三二、九生）は同縣人藤井キチの養子となれり（新潟、中蒲原、五泉町）

參照＝高澤直三郎※伊藤德太郎※武者孫介の項

關戸龜之助

農業　東京府在籍

君は東京府人關戸八十八の長男にして明治三十三年四月を以て生れ大正十五年家督を相續す農を業とす家族は妹ミナ（明三五、九生）あり（東京市外千住町三ノ三八六）

關戸金一

名古屋製粉（株）取締役、米穀商　愛知縣在籍

父　杉次郎　文久二、七生、現戸主
妻　すみ子　明二八、七生、愛知、山田杉左衛門六女
男　義直　大三、五生

君は愛知縣人關戸杉次郎の長男にして明治二十四年十一月を以て生る米穀商を營み傍ら名古屋製粉會社取締役たり家族は尚長女ひで（大五、八生）二女君江（同七、五生）三女美代（同八、一二生）の外弟安三（明二七、八生）同妻しつ子（同三五、六生、愛知、森峯次郎四女）及其二男あり（名古屋、西、船入町一ノ五五**電南一七一〇**）

關戸金三郎

前豐國銀行（株）監査役　東京府在籍

妻　とく　安政六、一二生、東京、荒井清八二女
男　龍雄　明二五、三生、慶應義塾大學出身富士瓦斯紡績會社員
婦　關子　明三二、七生、長男龍雄妻、東京、鄕昇作妹
男　勳　明三一、二生、東北帝國大學工學部出身、理化學研究所員
婦　敏子　明三八、七生、二男勳妻、福井、岡新六長女

君は東京府人關戸藤助の二男にして嘉永六年十月を以て生れ後分家して一家を創立す初め屋號を相模屋と稱し質商を營み產を興す後之を廢して淺草銀行を創立し諸種の事業に關係して淺草區會議員東京府會議員等に推され淺草銀行の豐國銀行に合併さるゝや其の監査役に擧げらる家族は尚孫道子（大一二、八生、長男龍雄二女）同百合子（同一四、五生、同三女）同理一郎（同一四、三生、二男勳長男）あり二女はな（明一八、一生）は山口縣士族前衆議院議員飯田精一に嫁せり（東京、淺草、今戸町四**電淺草一四七二**）

參照＝鄕昇作の項

關戸守彦

日本貯蓄銀行、愛知銀行、千年殖產各（株）取締役、關戸殖產（名）代表社員、愛知縣在籍

妻　鑑　明一四、五生、兵庫、小西茂十郎三女
男　有彥　明三二、一二生、慶應義塾大學政治科出身、千年殖產（株）取締役
婦　作　明三六、一〇生、長男有彥妻、奈良、栗山藤作七女
男　明　明三八、九生
男　水無三　明四一、六生
女　苗子　明四四、五生
女　和子　大二、四生

關戸家は代々名古屋に住し各藩の御用金方を勤め同地三人衆の一に數へられたる舊家なり君は先代二郎の長男にして明治二年八月を以て生れ同六年家督を相續す夙に獨力關戸銀行を創立し後愛知銀行と合併して其取締役に擧げられ傍ら前記銀行會社の重役を兼ね骨董を好み蒐藏する處少からず家族は尚ほ四男高（大三、四生）五女稔子（同七、八生）六女淳子（同九、四生）あり長女萩子（明三五、八生）は東京府人長田高誠に妹ふみ（同三、七生）は三重縣人田中治郎左衛門に同さほ（同五、九生）は愛知縣人吉田穗太郎に同うた（同七、一生）は同縣人吹原重太郎に嫁せり（名古屋、西、堀詰町一七**電西一〇〇七**）

參照＝栗山藤作、田中治郎左衛門※小津清左衛門※森五郎兵衛の項

關根市次郎

埼玉縣多額納税者、秩父絹織物共同販賣（株）取締役、絹絲商　埼玉縣在籍

妻　はん　明一一、五生、埼玉、半田十七吉長女
男　恒吉　明三五、一二生
婦　イク　明三七、三生、二男恒吉妻、埼玉、井上重一郎三女

君は埼玉縣人關根茂十郎の長男にして明治九年二月を以て生れ後家督を相續す絹絲商を營み現時秩父絹織物共同販賣會社取締役にして縣下の多額納税者たり家族は尚三男芳太郎（明四三、一二生）四男光藏（大二、七生）孫孝一郎（昭二、四生、二男恒吉長男）あり長女チウ（明三四、一生）は埼玉縣人田中宗茂に嫁せり（埼玉、秩父、秩父町）

關根溫

小川銀行（株）頭取、醫師　埼玉縣在籍

妻　こう　安政六、五生、埼玉、村木初太郎長女
養孫　賢治　明二四、一一生、孫かつ夫、埼玉、岡村俊弟
孫　かつ　明三四、三生、養孫賢治妻、亡養子義正長女
女　都　明一二、三生、亡養子義正妻
孫　まり　明三七、三生、亡養子義正三女

君は埼玉縣人關根可正の長男にして安政六年九月を以て生れ明治十六年家督を相續す同十四年東京大學醫科大學別科を卒業し小川病院を創立し自ら其院長となる現時小川銀行の重役たり家族は尚曾孫誠（大八、三生、養孫賢治長男）同愛子（同九、九生、同長女）同道雄（同一二、八生、同二男）同宏（同一四、三生、同三男）同達也（同一五、一二生、同四男）あり長男鼎（明一四、三

生)同妻あき(同一七、一〇生、埼玉、田中群次郎四女)は其子女を伴ひ分家し弟辨三(同元、一一生)は埼玉縣人田中重次郎長女よしの婿養子となり妹さい(文久三、八生)は同縣人須藤關邦に嫁せり(埼玉、比企、小川町)

關根金兵衛　千葉縣多額納税者、酒商並金融業　千葉縣在籍
妻　せい　明二五、七生、埼玉、戸塚重藏妹
君は埼玉縣人森田松之助の三男にして明治十九年四月を以て生れ先代金兵衛の養子となり大正十二年家督を相續し前名吾一郎を改む酒商並金融業を營み千葉縣多額納税者たり家族は倚長女かめ子(大六、三生)二女千代(同七、七生)三女うめ子(同一〇、二生)四女きく(同一二、一〇生)五女しづ子(同一四、八生)あり(千葉、東葛飾、船橋町)

關根繁太郎　田丸屋新店、衣類商　東京府在籍
繼母　ハル　明一六、一生、東京、齋藤平助養妹
君は東京府人關根新助の長男にして明治三十七年四月を以て生れ大正二年家督を相續す田丸屋新店と稱し衣類商を營む(東京、牛込、改代町一六)

關根善作　川崎第百銀行(株)專務取締役　埼玉縣在籍
養母　ちか　安政六、一〇生、埼玉、神田忠七長女
妻　國　明一九、一二生、長野、小坂順造妹
男　太郎　明四二、七生
女　靜子　明四〇、一〇生、雙葉高等女學校出身
君は埼玉縣人關根庭三郎の長男にして明治十四年九月を以て生れ大正六年先代伯父長藏の家督を相續す明治三十五年東京高等商業學校を卒業し尋で同校專攻部を修了同三十七年日本銀行に入り金澤京都門司各支店長を歴任す昭和二年川崎第百銀行專務取締役に選ばれ今日に至る家族は倚二男辰郎(大五、一生)三男長三郎(同七、八生)あり(東京、日本橋、萬町川崎第百銀行)
參照＝小坂順造※今井文平※小坂武雄※田中隆三※花岡俊夫※深井英五の項

關根平　武藏野、割烹業　東京府在籍
妻　らく　明一二、一〇生、養父喜三郎三女
養子　利平　明二九、八生、長女喜代夫、東京、酒井甚太郎弟
女　喜代　明三四、二生、養子利平妻
女　てる　明三八、八生
女　登志子　明四四、六生
君は東京府人荒木基の長男にして明治元年二月を以て生れ後關根喜三郎の養子となり大正三年分家して一家を創立す武藏野と稱し割烹業を營む家族は倚四女カオル(大三、二生)孫喜平(同一〇、五生、養子利平長男)同博(同一一、七生、同二男)あり(東京、下谷、五條町四**電下谷七六二**)

關根秀雄　資産家　東京府在籍
祖母　しげ　天保一三、一一生、曾祖父治兵衛長女
母　とら　慶應二、九生、東京、佐々川儀兵衛孫
妻　靜子　明三四、一生、東京、鈴木良吉二女
君は東京府人關根萬次郎の長男にして明治二十九年八月を以て生れ大正十三年家督を相續す資産家たり家族は倚長女澄子(大一二、一〇生)二女禧子(同一四、一生)三女千惠子(同一五、八生)弟雄次(同三三、八生)同妻葉子(同四〇、七生、東京、稻生平八妹)及其一女の外弟穎三(同四〇、七生)あり(東京市外入新井町新井宿一六五五)

關根秀三郎　從五位、農學博士、水產講習所教授、東京府士族
妻　榮　明二八、三生、養父親光二女
男　吉郎　大四、八生
君は故理學博士農科大學長松井直吉の三男にして同文二郎の弟なり明治十九年十月を以て生れ先代親光の養子となり大正十二年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し農商務省囑託水產講習所技師等を經て現に水產講習所教授たり大正九年農學博士の學位を授けらる家族は倚二男重郎(大六、一一生)三男恒郎(同七、一二生)長女博子(同一〇、七生)二女富子(同一三、九生)三女昭子(昭二、三生)あり(東京、小石川、西江戸川町一六**電小石川二八六〇**)
參照＝松井文二郎※木村惠吉郎の項

關根正雄　釀造業　福島縣在籍
君は福島縣人關根傳四郎の二男にして明治四十三年七月を以て生れ昭和二年家督を相續す酒及味噌醬油釀造業を營む家族は姉セキ(明三〇、一二生)同夫義勇(同二七、七生、福島、森正義三男)と其二男の外弟哲夫(大二、六生)同正道(同一二、九生)同忠知(同一四、七生)あり(福島、岩瀨、白方村)

關根正直　正四位勳三等、文學博士、帝國學士院會員、宮内省御用掛　東京府在籍
妻　ムツ　明七、一生、石川、士、宇野順藏妹
男　秀雄　明二八、九生
婦　八重子　明三一、七生、長男秀雄妻、子爵井伊直方長女
男　俊雄　明三九、九生
女　久子　明四〇、一〇生、府立第一高等女學校出身
女　慶子　明四二、一〇生、府立第一高等女學校出身
君は東京府人關根七兵衛の長男にして萬延元年三月を以て生れ明治二十三年家督を相續す同十九年東京大學古典科を卒業し華族女學校教授學習院教授等に歴任し後東京女子高等師範學校教授に任ぜられ大正十三年之を辭す曩に東京帝國大學文科大學講師を囑託せられ明治四十二年文學博士の學位を受け現に宮内省御用掛にして昭和三年帝國學士院會員被仰付家族は倚三男正雄(大元、八生)あり(東京、小石川、駕籠町二二二**電大塚一九二七**)
參照＝子爵井伊直方※伯爵大谷光暢※子爵毛利高範※男爵細川忠雄※男爵山内志郎の項

關根實　機械製造業　東京府士族
母　とよ　明一一、一生、祖父常信長女
君は東京府士族關根安治の長男にして明治四十年十一月を以て生れ大正十一年家督を相續す機械製造業を營

みて知らる姉千代(明三六、八生)は東京府人松浦俊に嫁せり(東京、四谷、永住町二四)

關根要八　播美鐵道(株)取締役、帝國ホテル(株)常任監査役、大正活映(株)監査役、東京府在籍
妻　惠美　明一一、二生、東京、士、潮田勢吉叔母
男　直矢　明三七、五生
女　八千代　明三九、七生
女　芳枝　明四一、四生
女　靜　大二、九生
君は福島縣人關根直次の叔父にして明治六年五月を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す同二十六年青山學院高等科及專攻科を卒業し現時前掲諸會社の重役たり曩に東洋汽船日本鐵工各會社取締役に就任せり家族は倚二男健兒(大五、一生)六女巳代(同六、一〇生)七女和子(同八、五生)あり(東京市外大崎町上大崎二五四**電高輪一六二六**)
參照＝潮田勢吉の項

關野吉之進　茨城縣多額納税者、農業　茨城縣在籍
妻　たま　明二〇、九生、茨城、鈴木龜太郎二女
男　吉則　明四四、八生
君は茨城縣人關野吉平の長男にして明治二十年三月を以て生れ大正八年家督を相續す農業を營み茨城縣多額納税者たり家族は倚弟吉右衞門(明二一、六生)同妻ふさ(同二九、一生、茨城、堀越粂吉二女)及其一男二女妹まつ(同二六、一一生)同ちい(同二九、二生)あり(茨城、行方、玉川村)

關野謙吉　正四位勳二等功四級、後備海軍中將、東京府在籍
妻　さほ　明一三、二生、靜岡、齋藤蓁妹
男　清　明三一、二生
女　壽　明四〇、一二生、府立第三高等女學校出身
女　さよ　大二、三生
君は東京府士族關野修藏の弟にして慶應元年九月を以て生れ明治二十二年分れて一家を創立す同十九年海軍兵學校を卒業し同二十一年海軍少尉に任じ同二十四年海軍大學校を卒業す爾來軍事參議院幹事大和出雲伊吹朝日各艦長皇族附武官侍從武官海軍將官會議々員等に歴補し大正四年海軍中將に累進す同六年豫備役となり現時後備役に編入せらる家族は倚三男英夫(明四三、二生)あり長女滿喜(明二八、二生)は岐阜縣人箕浦宗太郎弟維成に二女靜(同三四、三生)は東京府人山下茂治に嫁し二男武夫(同三七、一生)は分家せり(東京、麻布、材木町六六**電青山四三九九**)
參照＝箕浦維成※内田佐七※須山英次郎の項

關野貞　從三位勳三等、工學博士、東京帝國大學名譽教授、新潟縣士族
母　ヤヱ　弘化二、八生、新潟、士、田中彌惣治長女
妻　きよ　明一五、八生、東京、士、中村孝禧四女
男　克　明四二、二生
女　淑子　明四三、五生
女　靜子　明四四、一一生
君は新潟縣士族關野峻節の二男にして慶應三年十二月を以て生れ明治十六年家督を相續す同二十八年帝國大學工科大學建築學科を卒業し奈良縣技師東京帝國大學工科大學助教授造神宮技師内務技師文部技師東京帝國大學教授兼文部技師等を歴任し昭和三年東京帝國大學名譽教授となる曩に韓國清國に差遣され建築史研究の爲英佛伊支那印度へ留學明治四十一年工學博士の學位を受く家族は倚二男雄(大四、六生)四女光子(同一二、一生)の外弟謙三(明八、一〇生)及其三女同長(同一四、七生)あり三男達(大五、一二生)は東京府人足立調に弟健(同二〇、一二生)は新潟縣士族野守泰三に各養子となれり(東京、本郷、駒込東片町一二八)
參照＝關野長※中山秀三郎※中村新の項

關野長　三菱電機(株)參事　新潟縣士族
妻　勝子　明二五、二生、東京、宮部敏功四女
男　博　大元、八生
君は新潟縣士族關野峻節の四男にして現戸主貞の弟なり明治十四年七月を以て生る同三十九年東京帝國大學工科大學電氣科を卒業し三菱電機會社に入り神戸製作所長を經て同社參事に進み本店勤務を命ぜられ今日に至る家族は倚長女英子(大三、九生)二女節子(同六、一一生)二男治(同九、一一生)三男鑒(同一三、六生)四男稔(同一四、一一生)あり(東京市外中野町上ノ原九四二**電四谷七四〇**)
參照＝關野貞※小野惣助の項

關場偵次　正五位勳四等、銀行檢査官、銀行局檢査課長、北海道士族
養父　不二彥　慶應元、九生、現戸主、醫學博士
養母　古登津　明一四、九生、北海道、關口與志四女
妻　スミ　明二四、六生、法學博士池田寅二郎妹
君は北海道人大久保喜一郎の弟にして明治十六年六月を以て生れ同三十五年關場不二彥の養子となる養父不二彥は夙に帝國大學醫科大學を卒業し曾て札幌公立病院長となり獨逸伯林大學に留學し醫學博士の學位を受く後自ら北辰病院を經營し外科を以て名あり現時札幌に在り多年札幌市醫師會長及北海道醫師會長たり君は明治四十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試驗に合格す稅關事務官大藏事務官同書記官を經て大正八年歐米各國へ出張し同九年英佛兩國駐劄財務官代理となり同十五年歸朝現時銀行檢査官にして銀行局檢査課長たり家族は倚長女黎子(大一一、一一生)二女滿子(同一四、四生)養弟保(明三五、一一生)同守(同四〇、五生)同定(同四二、三生)養妹紀子(同四四、二生)同松枝(大三、一生)再從弟英二(明一三、一二生、大叔父一武二男)あり叔父茂樹(同九、一二生、工學士)は同妻鶴子(同二〇、一二生、東京、北代成業長女)及其子女を伴ひ分家し二女包子(同三四、四生)は北海道人相内重太郎に叔母コタケ(同六、三生)は男爵林權助に同こむめ(同七、一二生)は文學博士大瀨甚太郎に嫁せり(東京、赤坂、青山南町五ノ三三**電青山五五〇五**)
參照＝男爵林權助、池田寅二郎、大瀨甚太郎※於保乙彥の項

關原忠三　從五位勳六等、大藏書記官、主計局司計課長、神奈川縣在籍
妻　和加　明二六、一〇生、東京、佐々木勇之助三女

男　孝治　大五、四生
君は神奈川縣人關原正吉の弟にして明治二十年八月を以て生れ同四十四年分家して一家を創立す大正二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し文官高等試驗に合格す大藏屬副司稅官司稅官を經て大正八年歐米へ出張を命ぜらる歸朝後稅關副事務官大阪稅關鑑視部長大藏省主計官に歷任し現時大藏書記官にして主計局司計課長たり家族は倚三男泰治(大一〇、一生)二女博子(同一三、一〇生)四男英治(昭二、二生)あり(東京、小石川、大塚仲町四一電大塚六一)
參照―佐々木勇之助※岡實※佐々木修次郎※鈴木重道※立石信郎の項

關水　武　正五位勳六等、朝鮮總督府道事務官、慶尙南道內務部長
父　殷藏　嘉永三、四生、現戶主　神奈川縣在籍
妻　よね　明一九、一〇生、愛知、藤田篤太郎長女
男　誠　大五、一二生
君は神奈川縣人關水殷藏の二男にして明治十六年一月を以て生る同四十四年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し茨城縣屬參與官部を經て文官高等試驗に合格し茨城縣理事官同西茨城郡長同那珂郡長に歷任し大正八年朝鮮總督府道事務官に轉じ忠清南道警察部長となり次で同事務官兼鑑察官に任じ警務局衞生課長を經て同十三年歐米各國へ出張を命ぜられ平安南道內務部長を經て現時前記の職に在り家族は倚長女三保子(大三、三生)二男和武(同一〇、一二生)二女佐保子(同一三、一一生、神奈川、川井考策長女)及其子女あり姉キヨ(同一四、一生)は神奈川縣人山下喜助弟虎次郎に妹テイ(同一七、一一生)は同縣人齋藤省三二男誠一郎に同リウ(同二五、九生)は同縣人山口虎次郎に嫁チヨ(同三七、二生、兄正信二女)は同縣人山口正雄に嫁し弟勇(同二九、二生)は同縣人渡邊三左衞門の養子となれり(朝鮮、釜山、內務部長官舍)
參照―山下喜助の項

關本卯三郎　東京製氷(株)取締役、東洋自動車(株)監役、東京府在籍
妻　たか　慶應二、一二生、東京、森うた長女

男　忠三　明三五、三生
婦　ちよ　明三九、三生、長男忠三妻、埼玉大木亮三二女
君は茨城縣人菊地伊平の三男にして元治元年十月を以て生れ後關本家の養子となり明治四十一年分家して一家を創立す大正八年歐米へ出張を命ぜらる歸朝後稅關副事務官大阪稅關鑑視部長大藏省主計官に歷任し現時大藏書記官にして主計局司計課長たり家族は倚三男泰治(大一〇、一生)二女博子(同一三、一〇生)四男英治(昭二、二生)あり(東京、小石川、大塚仲町四一電大塚六一)
參照―佐々木勇之助※岡實※佐々木修次郎※鈴木重道※立石信郎の項

關水　武　正五位勳六等、朝鮮總督府道事務官、慶尙南道內務部長
父　殷藏　嘉永三、四生、現戶主　神奈川縣在籍
妻　よね　明一九、一〇生、愛知、藤田篤太郎長女
男　誠　大五、一二生
君は神奈川縣人關水殷藏の二男にして明治十六年一月を以て生る同四十四年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し茨城縣屬參與官部を經て文官高等試驗に合格し茨城縣理事官同西茨城郡長同那珂郡長に歷任し大正八年朝鮮總督府道事務官に轉じ忠清南道警察部長となり次で同事務官兼鑑察官に任じ警務局衞生課長を經て同十三年歐米各國へ出張を命ぜられ平安南道內務部長を經て現時前記の職に在り家族は倚長女三保子(大三、三生)二男和武(同一〇、一二生)二女佐保子(同一三、一一生、神奈川、川井考策長女)及其子女あり姉キヨ(同一四、一生)は神奈川縣人山下喜助弟虎次郎に妹テイ(同一七、一一生)は同縣人齋藤省三二男誠一郎に同リウ(同二五、九生)は同縣人山口虎次郎に嫁チヨ(同三七、二生、兄正信二女)は同縣人山口正雄に嫁し弟勇(同二九、二生)は同縣人渡邊三左衞門の養子となれり(朝鮮、釜山、內務部長官舍)
參照―山下喜助の項

關本卯三郎　東京製氷(株)取締役、東洋自動車(株)監役、東京府在籍
妻　たか　慶應二、一二生、東京、森うた長女

男　明三九、七生、生母、東京、藤田ハツ
君は岐阜縣人關谷源吾の養子なり善八は長野縣上高井郡小布施村の舊家にして代々大庄屋を勤めたる關谷和田七の弟にして明治元年二月を以て生れ先代彌兵衞武州川越より江戶に出で幕府の銀座に勤めたるに初まる君は靜岡縣人伊東信二郎の弟にして明治元年二月を以て生れ先代彌兵衞の養子となり同二十九年家督相續と共に襲名して前名勝太郎を改む組織業の下駄商を經營したるも後是を廢して表具商を業とし都下一流の店舖を以て知らる家族は倚孫多惠子(大一三、一二生)は同夫勝一(同二三、二生、新潟、福井茂太二男)と共に其の三子を伴ひ分家せり(東京、神田、鍛冶町三一電神田六八〇)

關谷　源吾　岐阜縣多額納稅者、飯田素道(株)代表取締役、東濃鐵道(株)取締役　岐阜縣士族
養母　こを　安政元、二生、祖父繼行長女
妻　きん　明一五、六生、養父源吾長女
女　幸子　明三五、一一生
君は岐阜縣人佐賀和吉の四男にして明治十三年九月を以て生れ先代源吾の養子となり大正九年家督を相續し前名細一を改め襲名す現時前記會社の重役にして縣下の多額納稅者たり養妹ちやう(明一七、六生、養父源吾二女)は東京府人藤村積長男太郎に嫁せり(岐阜、可兒、豐岡町)

關谷　仙三　本田銀行(株)專務取締役　岐阜縣在籍
母　とく　嘉永六、八生、祖父與藤治二女
妻　ちへ　明二三、八生、岐阜、松井彥兵衞五女
男　文一郎　明四三、一生
君は岐阜縣人關谷與三郎の二男にして明治十七年五月を以て生れ大正八年家督を相續す夙に岐阜中學校を卒へ本田銀行員となり累進して支配人取締役兼支配人に推され現に同行專務取締役たり家族は倚長女靜枝(大四、五生)三男欣治(同九、一〇生)四男紳三(同一三、一生)五男宏三(同一五、四生)あり妹周子(明二八、九生)は岐阜縣人松久永助長男秀三に嫁せり(岐阜、本巢、本田村)

關谷　兵助　北海道瓦斯、船田岡都市、三河鐵道各(株)取締役、東京株式取引所、東京瓦斯各(株)監査役
妻　とく　明一二、一一生、東京、士、遠藤一利三女

男　勝三郎　明三六、二生
女　千代　明三九、四生、跡見女學校出身
君は關谷善八の養子なり善八は長野縣上高井郡小布施村の舊家にして代々大庄屋を勤めたる關谷和田七の弟にして明治元年二月を以て生れ先代彌兵衞の養子となり同二十九年家督相續と共に襲名して前名勝太郎を改む組織業の下駄商を經營したるも後是を廢して表具商を業とし都下一流の店舖を以て知らる家族は倚孫多惠子(大一三、一二生)長男彌太郎長女つる(明二五、一二生)は同夫勝一(同二三、二生、新潟、福井茂太二男)と共に其の三子を伴ひ分家せり(東京、神田、鍛冶町三一電神田六八〇)

關谷　守男　愛知縣多額納稅者、土地山林(株)代表取締役、三河銀行、東三商事(株)監役、愛知縣在籍
妻　きみ　明二〇、一〇生、愛知、中村正次郎長女
男　晃　大八、五生
君は愛知縣人關谷泰の長男にして明治十五年十月を以て生れ大正九年家督を相續す愛知縣多額納稅者にして三州綿勸取締役、三河木材豐川電氣各(株)取締役、東京人造肥料(株)監査役、愛知縣在籍

關谷　良　今出銀行(株)取締役、農業　愛媛縣在籍
妻　富士子　明四、一二生、愛媛、士、白石昌壽姉
養子　泉　明三五、九生、分家弟守長男、法學士、東京帝國大學經濟學部在學
君は愛媛縣人關谷善八の養子なり善八は長野縣上高井郡小布施村の舊家にして代々大庄屋を勤めたる關谷家を嗣ぎ少壯上京して取引所の前身會所設立と共に之に最古參の一人を以て知らる君は宗家和田七の二男にして同與助の兄なり明治元年九月を以て生れ幼にして叔父に養はれ同二十二年同四十五年仲買を廢業して現時前記諸會社の重役たり養に明正印刷東京萬年筆唐津鑛業東京瓦斯著松炭礦各會社取締役たりし事あり長女ゑい子(明二九、二生)は同夫離緣養子正美と共に其一男二女を伴ひ島根縣人高崎富士彥方に入れり(東京、麹町、富士見町一ノ一電九段四九一)

關谷　連三　正五位勳二等功五級、陸軍少將　第四師團司令部附、山口縣在籍
妻　やす　明一六、一一生、三重、士、金三郎妹
男　清　明四一、三生
女　喜美子　大二、九生
君は山口縣人關谷助次郎の三男にして明治十一年七月を以て生れ大正八年分家して一家を創立す明治三十二年陸軍歩兵少尉に任じ大正十二年陸軍少將に累進す其間陸軍省軍務局歩兵課長兼陸軍技術會議々員歩兵第三十八旅團長等に歷補し現時第四師團司令部附たり家族は倚二男正(明四三、六生)三男守男(大五、七生)二女

男　忠三　明三五、三生
婦　ちよ　明三九、三生、長男忠三妻、埼玉大木亮三二女
君は茨城縣人菊地伊平の三男にして元治元年十月を以て生れ後關本家の養子となり明治四十一年分家して一家を創立す現時東京製氷會社取締役東洋自動車社會鑑査役たり家族は倚孫澄(大一四、一〇生、長男忠三長男)あり(東京、本郷、本郷四ノ二〇電小石川三二五〇)

關本　英作　愛知物產組(株)取締役社長、常磐生命保險(株)專務取締役、日本勸光(株)取締役、大森銀行、千代田機械製作(株)監査役、愛知銀行(株)協議員、北海道在籍　愛知、光生
明一五、一二生、貴族院議員志村源太郎養妹
男　部　明三八、五生、東京帝國大學法學部獨法科在學
重　明三五、九生、御茶水高等女學校專攻部出身
女　八重　明三、八生、帝國大學工科大學機械科を卒業し桑名紡績會社の技師長專務取締役等を歷任し養に南清南洋印度を視察し父歿後家督相續し現時靜岡織布會社常務取締役にして靜岡縣多額納稅者たり家族は倚孫錄司(大七、三生、長男巖長男)同錄三(同一一、二生、同二男)同錄(同一三、六生、同三男)同鎭子(同一四、二生、同二女)同けい子(同一一、一〇生、養子和宣長女)あり(靜岡市、新通七ノ一八)
參照―山田伊之助※眞織太郎の項

關矢　孫一　新潟縣多額納稅者、小出銀行(株)頭取、堀之內銀行、平尾製絲各(株)取締役、農業、新潟縣在籍
繼母　チエ　明九、八生、新潟、佐藤佐平治叔母
妻　由美　明二七、一〇生、新潟、佐藤佐平治六女
男　道太郎　大一四、四生
君は故衆議院議員關矢橫太郎の二男にして明治二十五年二月を以て生れ同四十五年家督を相續す夙に慶應義塾に學ぶ農業を營み傍ら前記銀行會社の重役を兼ね縣下の多額納稅者たり曾て衆議院議員に選ばるる家族は倚妹東子(明四三、四生)叔父留作(同三八、五生)あり妹靜(同一九、二生)は新潟縣人內藤久寬養子鷲郎に同貞

壽子(同七、一二生)三女春惠(同一〇、一生)四女千惠子(同一二、一生)五女壽惠子(同一三、七生)あり(大阪、第四師團司令部)

關屋忠正　從四位勳四等　岐阜縣士族
明一三、一二生、山口、士、宇都宮信綱二女
妻　マヨ
男　忠男　明三二、八生、農學士、日本勸業銀行員
婦　富士子　明三八、四生、長男忠男妻、東京、川村淳長女
男　正男　明三六、二生、東京帝國大學法學部在學
男　博　明四〇、七生、水戸高等學校在學

君は岐阜縣士族關谷定の長男にして明治二年八月を以て生れ同二十六年家督相續と共に前名鈴吉を改む同二十四年帝國大學工科大學を卒業し內務省及府縣に技師として土木課長築港事務所長等を經て東洋拓殖會社に入る後之を辭す資產家たり家族は倘四男壽雄(明四三、五生)三女よし(大三、二生)四女あさ(同八、一一生)五男成夫(同一四、一二生)あり長女はる(明三四、一生、跡見女學校出身)は滋賀縣人中西虎之助に二女ミチ(同三八、六生、東洋高等女學校出身)は東京府人山下輝夫に嫁し姉よき(元治元、九生)は分家せり(東京、小石川、大塚仲町四一電大塚四五三)

關屋貞三郎　從三位勳一等、宮內次官　栃木縣在籍
母　ウタ　天保一四、九生、栃木、寺山季三郎二女
妻　キヌ　明一八、七生、東京、長田忠一妹
男　正彥　明三七、一二生、東京帝國大學在學
女　由香　大二、一〇生、女子學習院在學

君は栃木縣人關屋良純の長男にして明治八年五月を以て生れ同四十五年家督を相續し同三十二年東京帝國大學法科大學を卒業し文官高等試驗に合格す臺灣總督府參事官臺灣總督府祕書官兼大藏省參事官兼內務大臣祕書官關東都督府事務官兼民政署長佐賀鹿兒島各縣內務部長朝鮮總督府學務局長中樞院書記官長靜岡縣知事等に歷任し現時宮內次官たり家族は倘二男友彥(明四二、一二生)三男光彥(同四五、四生)四女美惠(大四、九生)四男健彥(同七、七生)あり長女淑子(明三九、一一生、女子學習院出身)は東京府人木內良胤に姉わか(同六、八生)は法學博士小林丑三郎に妹カツ(同一八、六生)は東京府士族大石明德に嫁せり(東京、麴町、紀尾井町宮內次官官舍)

參照═大石明德、小林丑三郎※渡部信の項

關屋延之助　從五位、北海道廳部長、拓殖部長　石川縣在籍

君は石川縣人關屋勝雄の叔父にして明治二十一年六月を以て生る大正二年文官高等試驗に合格同三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業す和歌山縣警視京都府理事官警察部長等に歷任し現時北海道廳部長たり家族は倘甥勝雄(明三九、二生、北海道廳拓殖部)

說田八十八郎　酒商　東京府在籍　慶應三、八生、東京、田代雄治長女
母　モト
妻　桃子　明二五、二生、男爵西五辻文仲四女、學習院女學部出身
男　彌重郎　大一三、四生

君は東京府人說田彥助の三男にして明治二十五年八月を以て生れ昭和三年家督を相續す酒商を營み知らる家族は倘長女照子(大一五、七生)弟利吉郎(明三三、三生、長女美代夫、愛媛縣人中西虎之助(同二七、三生)は分家せり(東京、赤坂、青山南町五ノ四〇電青山一七九一)

參照═柴田享一、錢高久吉の項

關屋貞三郎　從三位勳一等、宮內次官　栃木縣在籍
母　ウタ　天保一四、九生、栃木、寺山季三郎二女
妻　キヌ　明一八、七生、東京、長田忠一妹
男　正彥　明三七、一二生、東京帝國大學在學
女　由香　大二、一〇生、女子學習院在學

君は栃木縣人關屋良純の長男にして明治八年五月を以て生れ同四十五年家督を相續す同三十二年東京帝國大學法科大學を卒業し文官高等試驗に合格す臺灣總督府參事官臺灣總督府祕書官兼大藏省參事官兼內務大臣祕書官關東都督府事務官兼民政署長佐賀鹿兒島各縣內務部長朝鮮總督府學務局長中樞院書記官長靜岡縣知事等に歷任し現時宮內次官たり家族は倘二男友彥(明四二、一二生)三男光彥(同四五、四生)四女美惠(大四、九生)四男健彥(同七、七生)あり長女淑子(明三九、一一生、女子學習院出身)は東京府人木內良胤に姉わか(同六、八生)は法學博士小林丑三郎に妹カツ(同一八、六生)は東京府士族大石明德に嫁せり(東京、麴町、紀尾井町宮內次官官舍)

參照═大石明德、小林丑三郎※渡部信の項

關屋延之助　從五位、北海道廳部長、拓殖部長　石川縣在籍

君は石川縣人關屋勝雄の叔父にして明治二十一年六月を以て生る大正二年文官高等試驗に合格同三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業す和歌山縣警視京都府理事官警察部長等に歷任し現時北海道廳部長たり家族は倘甥勝雄(明三九、二生、北海道廳拓殖部)

說田八十八郎　酒商　東京府在籍　慶應三、八生、東京、田代雄治長女
母　モト
妻　桃子　明二五、二生、男爵西五辻文仲四女、學習院女學部出身
男　彌重郎　大一三、四生

君は東京府人說田彥助の三男にして明治二十五年八月を以て生れ昭和三年家督を相續す酒商を營み知らる家族は倘長女照子(大一五、七生)弟利吉郎(明三三、三生、長女美代夫、愛媛縣人中西虎之助(同二七、三生)は分家せり(東京、赤坂、青山南町五ノ四〇電青山一七九一)

參照═柴田享一、錢高久吉の項

錢高久吉　錢高組(資)代表社員　大阪府在籍
妻　きぬ　明二一、五生、京都、松本正太郎姉
女　善子　大二、三生

君は大阪府人錢高善造の二男同作太郎の弟にして明治二十四年二月を以て生れ大正十四外分家して一家を創立す現時錢高組代表社員たり(大阪、西土佐堀三ノ二四電土佐堀三四一七)

參照═錢高作太郎の項

錢高作太郎　九州醬造(株)取締役、錢高組(資)代表社員、大阪府在籍
祖母　フサノ　天保元、九生、岡崎甚四郎長女
父　善造　萬延元、一生、大阪、四至本八重郎二男
母　ヒサ　文久三、六生、大阪、岩田伊平二女
妻　靜子　明三二、六生、兵庫、柴田享一妹
男　良之　大九、一生

錢高家は舊くより大阪府尾崎村に住し世々船大工を業とし曾て藩主の御用聞たりし事あり先代善造土木請負業を始め巨利を占め合資會社錢高組を創立し同家の基礎を築く君は其長男にして同久吉の兄なり明治二十一年五月を以て生れ大正十四年家督を相續す同三年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し大倉組土木部に入り同組京城出張所に勤務し現時前記會社重役たり家族は倘長女康子(大一一、一生)妹フサ(同二七、四生)あり同ミネ(同三三、三生、夕陽丘高等女學校出身)は東京府人竹中喜義に嫁せり(東京、赤坂、青山南町五ノ四〇電青山一七九一)

參照═柴田享一、錢高久吉の項

攝津靜雄　攝津製絲(株)取締役　愛媛縣在籍
父　藤一郎　安政四、二生
母　萬延元、一生、愛媛、井上鹿太郎二女
サワ
妻　操　明二六、三生、愛媛、渡部七郎長女
男　馨　明三八、四生、長女美代夫、愛媛
萩森作平三男
女　美奈　明四四、一生

君は愛媛縣人攝津藤一郎の長男にして明治十二年三月を以て生れ大正十一年家督を相續す夙に實業界に入り現時攝津製絲會社取締役たり家族は倘三女美惠(大九、七生)四女美和(同一〇、一〇生)五女美智(同一一、一二生)孫奎一(昭二、四生、養子馨長男)あり弟盛德(明二四、一一生)は其妻子を伴ひ分家せり(愛媛、双岩村)

參照═萩森作平の項

錢高久吉　錢高組(資)代表社員　大阪府在籍
妻　きぬ　明二一、五生、京都、松本正太郎姉
女　善子　大二、三生

君は大阪府人錢高善造の二男同作太郎の弟にして明治二十四年二月を以て生れ大正十四外分家して一家を創立す現時錢高組代表社員たり(大阪、西土佐堀三ノ二四電土佐堀三四一七)

參照═錢高作太郎の項

錢高作太郎　九州醬造(株)取締役、錢高組(資)代表社員、大阪府在籍
祖母　フサノ　天保元、九生、岡崎甚四郎長女
父　善造　萬延元、一生、大阪、四至本八重郎二男
母　ヒサ　文久三、六生、大阪、岩田伊平二女
妻　靜子　明三二、六生、兵庫、柴田享一妹
男　良之　大九、一生

錢高家は舊くより大阪府尾崎村に住し世々船大工を業とし曾て藩主の御用聞たりし事あり先代善造土木請負業を始め巨利を占め合資會社錢高組を創立し同家の基礎を築く君は其長男にして同久吉の兄なり明治二十一年五月を以て生れ大正十四年家督を相續す同三年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し大倉組土木部に入り同組京城出張所に勤務し現時前記會社重役たり家族は倘長女康子(大一一、一生)妹フサ(同二七、四生)あり同ミネ(同三三、三生、夕陽丘高等女學校出身)は東京府人竹中喜義に嫁せり(東京、赤坂、青山南町五ノ四〇電青山一七九一)

參照═柴田享一、錢高久吉の項

攝津靜雄　攝津製絲(株)取締役　愛媛縣在籍
父　藤一郎　安政四、二生
母　萬延元、一生、愛媛、井上鹿太郎二女
サワ
妻　操　明二六、三生、愛媛、渡部七郎長女
男　馨　明三八、四生、長女美代夫、愛媛
萩森作平三男
女　美奈　明四四、一生

君は愛媛縣人攝津藤一郎の長男にして明治十二年三月を以て生れ大正十一年家督を相續す夙に實業界に入り現時攝津製絲會社取締役たり家族は倘三女美惠(大九、七生)四女美和(同一〇、一〇生)五女美智(同一一、一二生)孫奎一(昭二、四生、養子馨長男)あり弟盛德(明二四、一一生)は其妻子を伴ひ分家せり(愛媛、双岩村)

參照═萩森作平の項

芹川庸二郎　古梅園、硯筆墨商　東京府在籍
妻　エイ　明二四、一〇生、養父六兵衛長女
男　晴一郎　明四三、四生
女　靜子　明四二、四生
女　豐　大二、三生

君は奈良縣人松井元淳の二男にして同貞太郎の弟なり明治十九年一月を以て生れ同四十二年先代エイの入夫となり家督を相續す同四十三年東京高等工業學校應用化學科を卒業し古梅園と稱し硯筆墨商を營む家族は倘三女圭(大三、一一生)二男泰次郎(同八、八生)四女シメ(同一一、一生)あり養妹シン(明二五、一二生)は東京府人野本茂兵衛に嫁せり(東京、日本橋、通油町一七電浪花九一〇)

參照　松井貞太郎の項

芹澤新平　鹽油醸造業　東京府在籍
妻　ちさ　明二三、四生、埼玉、深井倉次郎三女
男　宏吉　大四、九生

當家は代々東京府下世田ヶ谷に住し家號を煙草屋と稱し質商を營み傍ら地主農たりしが後鹽油醸造業を開始し質商を廢業す君は先代新平の二男にして明治九年八月を以て生れ同四十二年家督を相續し前名稻吉を改む業を承ぎ益々資產を增蓄せり家族は倘三女貞子(大五、七生)六男朝兒(同九、五生)五女和子(同一一、二生)六女文子(同一五、一〇生)あり長女敏子(明三五、一二生)は分家し弟寅尾(同一一、一二生)も亦其の婿ん(同一九、九生、埼玉、深井倉次郎二女)を伴ひ赤分家し五男嘉平(大六、一一生)は埼玉縣人深井琴の養子となれり(東京市外世田ヶ谷町一六四五電世田ヶ谷一六)

芹澤正人　從五位勳四等、海軍主計大佐、舞鶴要港部主計長、東京府在籍
妻　みさを　明一九、七生、山形、原鬼子藏長女
男　三郎　大八、二生

君は山形縣人芹澤常毅の弟にして明治十三年十一月を以て生れ同四十四年分家して一家を創立す同三十九年東京帝國大學法科大學を卒業し同年海軍中主計に任じ大正十二年海軍主計大佐に累進す其間海軍經理學校教官舞鶴海兵團主計長舞鶴海軍工廠需品庫主管舞鶴要港部軍需部長横須賀海軍々需部長に歷補し現時舞鶴要港部主計長たり家族は倘四男五郎(大一三、七生)あり(舞鶴要港部軍需部)

千賀順市　正五位勳五等、朝鮮總督府檢事、海州地方法院檢事正、大阪府在籍
明一二、一生、大阪、長野梅三郎二女
妻　フシ
男　太郎　明三四、一〇生
男　市三　明三七、八生
男　史郎　明三九、一〇生
女　和子　大二、二生

君は大阪府人千賀五左衛門の長男にして明治九年七月を以て生れ同十八年家督を相續す夙に大阪高等商業學校を卒業し文官高等試驗に及第し佐賀地方及同區裁判所試補を命ぜられ同四十一年韓國檢事に補聘せられ現職に至る家族は倘四男六男順之(明四二、六生)七男貫(同四三、一二生)二女(大四、五生)九男重一(同六、二生)二女(大一一、一生)あり五男泉(明四、一生)は岩手縣人菊地太愈治の養子となれり(朝鮮、黃海道、海州面地方法院官舍)

千賀鶴太郎　從三位勳二等、法學博士、京都帝國大學名譽教授、立命館大學教授　京都府士族
文久元、六生、東京、高橋甲次郎長女
男　孝善　明一四、五生
孫　初子　明四一、一二生、長男孝善長女
孫　春江　明四五、一生、長男孝善二女

君は岡山縣士族千賀武四郎の長男にして安政四年二月を以て生れ後家督を相續す明治十七年獨逸に航し伯林大學に學び同大學の學位を受く同三十二年歸朝し直に京都帝國大學法科大學教授に任ぜられ同三十四年法學博士の學位を受く同四十三年歐米に差遣せらる現時同大學名譽教授にして立命館大學教授たり國際公法要義の著あり二男正宣(明三三、八生)は和歌山縣人中島千惠の養子となれり(京都、上京、下鴨宮河町)

千賀千太郎
祖母　まさ
母　こう　安政二、一生、組父直正長女
妻　なつ　明二〇、七生、愛知、內藤傳祿妹
男　光吉　明四二、一〇生
女　百合　明四一、一生

君は愛知縣人千賀傳三郎の長男にして明治十五年十一月を以て生れ同四十四年分家して一家を創立す同三十九年東京帝國大學法科大學を卒業し同年海軍中主計に任じ大正十二年海軍主計大佐に累進す其間海軍經理學校教官舞鶴海兵團主計長舞鶴海軍工廠需品庫主管舞鶴要港部軍需部長横須賀海軍々需部長に歷補し現時舞鶴要港部主計長たり家族は倘四男五郎(大一三、七生)あり(舞鶴要港部軍需部)

千賀順市　正五位勳五等、朝鮮總督府檢事、海州地方法院檢事正、大阪府在籍
明一二、一生、大阪、長野梅三郎二女
妻　フシ
男　太郎　明三四、一〇生
男　市三　明三七、八生
男　史郎　明三九、一〇生
女　和子　大二、二生

君は大阪府人千賀五左衛門の長男にして明治九年七月を以て生れ同十八年家督を相續す夙に大阪高等商業學校を卒業し文官高等試驗に及第し佐賀地方及同區裁判所試補を命ぜられ同四十一年韓國檢事に補聘せられ現職に至る家族は倘四男六男順之(明四二、六生)七男貫(同四三、一二生)二女(大四、五生)九男重一(同六、二生)二女(大一一、一生)あり五男泉(明四、一生)は岩手縣人菊地太愈治の養子となれり(朝鮮、黃海道、海州面地方法院官舍)

千賀鶴太郎　從三位勳二等、法學博士、京都帝國大學名譽教授、立命館大學教授　京都府士族
文久元、六生、東京、高橋甲次郎長女
男　孝善　明一四、五生
孫　初子　明四一、一二生、長男孝善長女
孫　春江　明四五、一生、長男孝善二女

君は岡山縣士族千賀武四郎の長男にして安政四年二月を以て生れ後家督を相續す明治十七年獨逸に航し伯林大學に學び同大學の學位を受く同三十二年歸朝し直に京都帝國大學法科大學教授に任ぜられ同三十四年法學博士の學位を受く同四十三年歐米に差遣せらる現時同大學名譽教授にして立命館大學教授たり國際公法要義の著あり二男正宣(明三三、八生)は和歌山縣人中島千惠の養子となれり(京都、上京、下鴨宮河町)

千賀知一　湯淺貿易(株)取締役兼支配人、湯淺棉花(株)取締役、大阪府在籍
妻　たつ　明二二、三生、兵庫、井田赤吉三女
男　慶一　明四二、一生
女　美佐子　大元、二生

君は大阪府人千賀一太郎の弟にして明治七年五月を以て生れ同三十四年分家して一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は倘二男義二(明四三、一二生)三男修三(大四、一生)四男四郎(同六、八生)あり(兵庫、武庫魚崎町電御影七五一)

參照　井田赤吉宗戸田彌七の項

族千家尊愛方に入家し同哲麿（同四〇、八生）は同縣士族長岡鎭道の養子となれり（東京市外千駄ヶ谷町原宿一七〇ノ一三電青山一四〇一）

府人北岡鶴松に妹多嘉子（同二三、七生）は男爵尾崎洵盛に同男子（同二五、八生）は子爵清岡龍弟眞彦に同義子（同三三、八生）は子爵松平忠諒に養妹壽子（同三一、一二生）は分家弟千家剛麿に叔母奈保子（同一、三生）は子爵藤波茂時先代言忠に同眞佐子（同五、一生）は東京府人加藤增雄に嫁せり（島根、簸川、杵築町）

參照＝子爵清岡龍、子爵伏原宣足、子爵藤波茂時、子爵尾崎洵盛、金子三四郎、男爵木下俊晢※子爵西勝男

千家尊統

正五位、男爵、官幣大社出雲大社宮司、社家

養母　俊子　嘉永四、一〇生、子爵伏原宣足妹
繼母　淑子　明八、三生、子爵松平忠諒伯母
妻　一子　明二六、一生、養父尊福五女
男　國麿　大二、三生

當家は皇祖天照大神の第二の御子天穗日命の後裔にして臣民中無比の舊家なり後十二世氏祖命に至り出雲國造の職を賜はり爾來六十七世を經て世々出雲國造として出雲大社の神事を掌り先々代尊澄に至り明治五年華族に列せらる長男尊福其後を享け出雲大社大宮司に任じ大教正に補し神道西部管長を命ぜられ明治十七年男爵を授けらる後元老院議官貴族院議員文部省普通學務局長埼玉靜岡東京各府縣知事に歷任し同廿一年司法大臣に親任せらる後野に下り東京鐵道會社々長に推さる君は先代尊福の弟前宮司尊紀の長男にして明治十八年六月を以て生れ同四十五年伯父尊福の養子となり大正三年前名編麿を改め同七年家督を相續し襲爵仰付らる同元年國學院大學國史科を卒業し現時官幣大社出雲大社宮司たり家族は尙長女富佐子（大三、四生）二女致子（同五、八生）二男逢彦（同七、一一生）三女恭子（同一四、四九生）妹照子（同二九、五生）弟活麿（同三五、四生）同恒麿（同三二、一〇生）同正麿（同四三、一一生）養弟尊有（千家尊愛長女）養妹顯子（同三七、一一生）同極子（同四二、三生）姪尹子（同八、七生、亡弟松歷長女）同雅子（同九、一二生、同二女）あり弟鐵麿（明二三、一一生）は分家し京都府人金子三四郎二女裕子（同三四、七生）も亦分家し同帝麿（同二八、四生）同經麿（同三九、二生）は共に島根縣士族長岡鎭道の養子となれり（東京市外千駄ヶ谷町原宿一七〇ノ一三電青山一四〇一）

參照＝子爵高丘和季、金原明德の項

千田嘉平

綱代製氷冷藏（株）社長、國際活映（株）常務取締役、貿易並鑛業

佐賀縣在籍

妻　キン　明二、一〇生、京都、坪田吉兵衞長女
男　榮一　大一〇、一生

君は佐賀縣人千住與四作の長男にして明治三年十二月を以て生れ大正十二年家督を相續す現に貿易並鑛業を營み綱代製氷冷藏會社々長にして國際活映會社常務取締役たり家族は尙二男二女あり（元治元、三生）は子爵藤波茂時先代言忠に同眞佐子（明元、五生）は東京府人加藤增雄に嫁せり（島根、簸川、杵築町）

參照＝子爵清岡龍、子爵伏原宣足、子爵藤波茂時、子爵尾崎洵盛、金子三四郎、男爵木下俊晢※子爵西勝男

千住喜作

綱代製氷冷藏（株）常務取締役、貿易並鑛業

佐賀縣在籍

妻　キン　明二、一〇生、京都、坪田吉兵衞長女
男　榮一　大一〇、一生

君は佐賀縣人千住與四作の長男にして明治三年十二月を以て生れ大正十二年家督を相續す現に貿易並鑛業を營み綱代製氷冷藏會社々長に推さる君は先代尊福の弟前宮司尊紀の長男にして明治十八年六月を以て生れ同四十五年伯父尊福の養子となり大正三年前名編麿を改め同七年家督を相續し襲爵仰付らる同元年國學院大學國史科を卒業し現時官幣大社出雲大社宮司たり家族は尙長女富佐子（大三、四生）二女致子（同五、八生）二男逢彦（同七、一一生）三女恭子（同一四、四九生）妹照子（同二九、五生）弟活麿（同三五、四生）同恒麿（同三二、一〇生）同正麿（同四三、一一生）養弟尊有（千家尊愛長女）養妹顯子（同三七、一一生）同極子（同四二、三生）姪尹子（同八、七生、亡弟松歷長女）同雅子（同九、一二生、同二女）あり弟鐵麿（明二三、一一生）は分家し京都府人金子三四郎二女裕子（同三四、七生）も亦分家し同帝麿（同二八、四生）同經麿（同三九、二生）は共に島根縣士族長岡鎭道の養子となれり（東京市外千駄ヶ谷町原宿一七〇ノ一三電青山一四〇一）

參照＝子爵高丘和季、金原明德の項

千秋季隆

從三位勳三等、男爵、貴族院議員、舊社家

當家は天照國照彥火明命三十三世の裔稻置見の後胤なり尾張國造にして熱田大宮司と稱し代々熱田神宮の神職として明治八年十月を以て生れ同十年男爵を授けらる同十三年東京帝國大學文科大學國文科を卒業し貴に國學院早稻田大學學習院に教授けらる同十三年東京帝國大學文科大學國文科を卒業し貴に國學院早稻田大學學習院に教鞭を執る同三十七年以來貴族院議員に當選する事四回現に其任に在り傍ら金剛山電氣鐵道會社監査役を兼ぬ長女多賀子（同三九、六生、生母、菊田ハン）は子爵高丘和季に嫁せり（嘉永四、一一生）は愛知縣士族長岡鎭道の養子となれり（東京市外千駄ヶ谷町原宿一七〇ノ一三電青山一四〇一）

參照＝子爵高丘和季、金原明德の項

千田嘉平

從三位勳二等功五級、男爵、陸軍少將、貴族院議員、鹿兒島縣華族

妻　圭　明一三、九生、東京、本田親之二女
男　貞清　明三二、二生、從五位東洋拓殖會社員
婿　みつ　明三六、三生、長男貞清妻、愛知、守隨一姉
男　貞榮　明三六、一生、文學士
女　愛子　明四四、六生、女子學習院在學

當家は先代貞曉より家名を揚ぐ貞曉は舊鹿兒島藩の世臣にして明治戊辰の役に軍功あり後東京府大書記官廣島縣令廣島新潟和歌山愛知京都宮崎各府縣知事に歷任し治績あり日清事件の功を以て勳二等に敍し明治三十一年華族に列し男爵を授けらる君は其二男にして明治四年八月を以て生れ同四十一年襲爵す陸軍士官學校を卒業して同二十九年陸軍步兵少尉に任じ累進して大正九年陸軍少將に陞り同十三年豫備役に編入せらる其間步兵第十六近衞步兵第四各聯隊長步兵第十九旅團長等に歷補し日露役の功に依り功五級を賜ふ同十四年貴族院議員に互選せられ現に其任に在り家族は尙四男貞康（明四二、二生、學習院高等科在學）弟武彥（同一二、三生、工學士、井口鐵工廠員）同妻芳子（同三二、二生、工學博士今泉嘉一郎長女）及其二女あり姉ノア（元治元、四生）は故海軍中將玉利親賓に妹ハナ（明七、二生）は工學士宗兵蔵に同ハマ（同一四、九生）は井伊伯爵家々令工學士石黒誠二郎に嫁せり（東京市外落合町上落合四六九）

參照　今泉嘉一郎の項

仙石政敬

從三位勳二等、子爵、宗秩寮總裁、舊但馬出石藩

男　久英　明二八、七生、從五位、法學士
婿　喜美子　明三二、九生、長男久英妻、公爵三條公雄姪
男　久茂　明三五、二生
男　久武　明三七、四生
女　夏子　明四〇、七生、女子學習院出身

當家は左大臣藤原魚名四世越前守高房の裔吉信の三男伊傳の後なり十三世を經て大膳亮久重に至り仙石と稱す更に八世を經て越前守秀久に至り豐臣氏に仕へ戰功あり信州小諸五萬石に封ぜらるそれより三世を經て越前守政明に至り但州出石に移り五萬八千石を領す後世故あり三萬石に削封せらる六世を經て先代政固に至る政固維新の際王事に奔走し少議官侍從內務省書記官に歷任し明治十七年子爵を授けらる後貴族院議員に當選すること數回詩文に長じ著書多し君は其四男にして明治五年四月を以て生れ大正六年襲爵す明治三十一年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し貴族院書記官大藏書記官宮內書記官同事務官諸陵頭に歷任し貴勳局總裁に陞り現時宗秩寮總裁たり家族は尙孫阿慧子（大一一、九生、長男久英長女）同政恭（同一二、七生、同長男）弟政功（明二〇、三生）同榮宣（同二三、三生）あり長女溫子（同二九、一〇生、學習院女學部出身）は公爵九條道實の養子となり日淨と改名し故村雲尼公の法嗣となり二女鉉子（同三三、一二生）は子爵堀秀孝に從妹千賀子（同一四、四生、養叔父久成長女）は東京府人大久保太寶に嫁し從弟信之助（同一六、八生、同二男）は兵庫縣士族仙石せつの死跡を相續し同雅次（同五、七生、同長男）は同妻を伴ひ其家籍に入れり（東京、芝、神谷町一八電芝一五八一）

參照＝公爵九條道實、公爵三條公輝、子爵堀秀孝、※閑院宮家※公爵島津忠承※公爵毛利元昭※伯爵大谷光暢※子爵河鰭實英※子爵永井直邦※子爵數篤麿※松永安藏の項

仙石貢

正四位勳一等、工學博士

高知縣士族

妻　とく　明五、五生、東京、松本一郎母
女　隆　明三八、三生

仙石家は福島正則の重臣仙石但馬に共祖を發す後世に至り土州藩主山內家に仕ふ君は先代彌次馬の二男にして安政四年六月を以て生れ後家督を相續す明治十一年東京大學理學部土木工學科を卒業し遞信技師に任ぜられ同二十四年工學博士の學位を受く退官後實業界に轉じ筑豐鐵道各會社々長福島木材猪苗代水力電氣日本窒素肥料各會社重役に歷任す同四十一年以來高知縣より推されて衆議院議員に當選する事三回よく故加藤伯を輔佐して憲政會に重きをなす大正三年大隈內閣成立に際し鐵道院總裁に擧げられ同十三年加藤內閣成るや入りて鐵道大臣となる現時閑地に在りて自適す

仙石良平

大日本麥酒（株）監査役

岡山縣士族

妻　トミ　明九、五生、岡山、兒玉多一姉
男　忠良　明三三、三生
男　襄　明三七、一生

君は岡山縣人東正造の三男にして明治元年八月を以て生れ後先代忠政の養子となり同十八年家督を相續し三十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し大日本麥酒會社に入り九州支店長を經て現時同社監査役たり（東京市外目黑町下目黑）

仙田定太郎

米子銀行（株）取締役

鳥取縣在籍

安政三、一生、鳥取、牧野仁三郎三男、現戶主
明一二、八生、鳥取、中村虎藏二女

妻　さだの　明三五、一〇生
男　榮次郎　明三七、一〇生、二男榮次郎妻、鳥取、中村藤吉五女
婿　子　明三八、長女幾野夫、鳥取
女　幾野　喜　明三三、七生、養子惠喜妻
男　惠喜　明四四、六生、東京、本田親之二女

君は鳥取縣人仙田元三郎の長男にして明治十一年九月を以て生る現に米子銀行取締役たり家族は尙三男喜三（同キヌ子（同一二、一生、同長女）同ノブ子（同一五、二生、同二女）あり三男宗之助（明二五、七生）は同妻フジ（同三二、九生、神奈川、石井安次妹）と共に分家し長女セツ（同一七、六生）は神奈川縣人武尾元吉に嫁せり（神奈川、足柄上、金田村）

善最倉藏

金田興業銀行（株）頭取

神奈川縣在籍

妻　タイ　明元、三生、神奈川、間宮文平四女
男　操　明一九、一生、長男操妻、神奈川
婿　スミ　明二九、一生、長男操妻、神奈川
男　征夫　明二七、一一生
婿　ヤエ　明三六、二生、四男征夫妻、神奈川、北村友吉五女

君は神奈川縣人竹內太郎左衞門の三男にして慶應元年二月を以て生れ先代宗戒の養子となり明治十六年家督を相續す現時金田興業銀行頭取たり家族は尙孫治（大五、一〇生、長男操長男）同完（同八、二生、同二男）同キヌ子（同一二、一生、同長女）同ノブ子（同一五、二生、同二女）あり三男宗之助（明二五、七生）は同妻フジ（同三二、九生、神奈川、石井安次妹）と共に分家し長女セツ（同一七、六生）は神奈川縣人武尾元吉に嫁せり（神奈川、足柄上、金田村）

扇子政次郎

東京株式取引所取引員

富山縣在籍

妻　さと　明二〇、二生、增田彌三郎四女
男　政次　大一〇、一生

君は富山縣人扇子要之助の叔父にして明治九年十月を以て生れ大正十四年分れて一家を創立す現に東京株式取引所第一部取引員たり家族は尙長女富子（大四、一生）二女まさ子（同一三、八生）あり（東京、日本橋、鰯殼町一ノ二電茅場町六一八）

仙田大一

東神ゴム工業、中澤商事、大化工業各（株）取締役、大阪府在籍

安政二、四生、岡山、千田寅吉叔母
母　茂登　キク　明二一、一〇生、大阪、清水正助姉
妻　多賀子　明四五、三生

君は大阪府人仙田定之の長男にして明治十二年十一月を以て生れ大正五年家督を相續す明治三十七年慶應義塾大學理財科を卒業し現時東神ゴム工業會社取締役たる外前揭各會社重役たり家族は尙二女子枝子（大四、一二生）あり（大阪、泉北、濱寺町下九四九）

善最倉藏

金田興業銀行（株）頭取

神奈川縣在籍

明元、三生、神奈川、間宮文平四女
妻　タイ　明二九、一生、長男操妻、神奈川
婿　スミ　明二九、一生、長男操妻、神奈川
男　征夫　明二七、一一生
婿　ヤエ　明三六、二生、四男征夫妻、神奈川、北村友吉五女
婿　樽子　明三二、一生、鳥取、中村藤吉五女
養子　惠喜　明三三、七生、養子惠喜妻
女　幾野　明三五、一生、養子惠喜妻

君は鳥取縣人仙田元三郎の長男にして明治十一年九月を以て生る現に米子銀行取締役たり家族は尙三男喜三（同キヌ子（同一二、一生、同長女）同ノブ子（同一五、二生、同二女）あり三男宗之助（明二五、七生）は同妻フジ（同三二、九生、神奈川、石井安次妹）と共に分家し長女セツ（同一七、六生）は神奈川縣人武尾元吉に嫁せり（神奈川、足柄上、金田村）

（※印は姻族關係）

善塔又治郎　兵庫縣會議員、關西製藥(株)監査役、肥料商、兵庫縣在籍
　男　康治　明三四、九生
　婦　鈴子　明四〇、一生、長男康治妻、和歌山和佘吉妹
君は兵庫縣人松本長右衞門の弟にして明治九年四月を以て生れ先代又治郎の養子となり同三十九年家督を相續す肥料商を營み現に兵庫縣會議員にして前記會社の重役たり家族は倘四男章夫(大五、九生)孫和子(昭二、二生、長男康治長女)あり長女貞子(明三一、一生)は兵庫縣人岡澤良雄に二女品子(同四〇、一生)は同縣人米谷茂治に嫁し養弟貞次(同一二、一二生、兵庫、平塚嘉右衞門弟)は同妻はる(同一五、一生、養父又治郎三女)及び其一子を伴ひ同縣人馬殿しゆの後を相續し妹しゆ(同一九、四生)は分家せり(西宮、與古道町二)
參照―平塚嘉右衞門の項

膳　桂之助　正五位勳五等、日本工業倶樂部主事、群馬縣在籍
　妻　國　明二三、九生、東京、山口孝太郎二女
　男　雄之助　大七、八生
君は群馬縣人膳淺次郎の弟にして明治二十年七月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す同三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し製鐵所參事農商務書記官農林書記官に歷任し勞働課長市場課長繭絲課長たりしが現時日本工業倶樂部主事たり大正七年昭和二年の兩回官命に依り歐米に出張したる事あり家族は倘長女道子(大四、一〇生)二女淑子(同五、一二生)三女文子(同一四、一〇生)四女友子(同一七、一生)五女春子(同一四、四生)あり(東京市外戸塚町清水川一三六電牛込八五七)
參照―山口孝太郎宗山本俊藏の項

膳所祥之助　大日本漁業、大日本造林各(株)取締役、大分縣在籍
　妻　かね　明一六、七生、東京、西尾正左衞門妹
君は大分縣人先代仁兵衞の二男にして文久三年十一月を以て生れ明治十七年家督を相續す現時大日本漁業會社取締役たる外前記會社の重役たり姉クニ(安政六、三生)は其養子となり弟榮十(同五、二生)は分家せり(東京、牛込、市谷富久町一二五)
參照―西尾正左衞門の項

ソ之部

十合德太郎　十合吳服店(株)代表取締役
　京都府在籍
　妻　スエ　明一六、四生、京都、丹羽友次郎妹
　男　正一　明三九、一生、京都帝國大學在學
　女　智惠子　明四二、二生、第一高等女學校高等科在學
　女　春榮　明四五、四生、第一高等女學校在學
君は京都府人十合重助の長男にして十合芳三郎の養從弟に當る明治十一年二月を以て生れ大正七年家督を相續す一族と協力して十合吳服店の經營に當り現に同社代表取締役たり趣味としては長唄に長ず家族は倘ほ二男健二(明四三、一二生)弟信三郎(同三、四生、國西學院出身)甥道夫(大九、五生、亡弟菊次郎庶子)あり長女嘉壽子(明三八、一生、第一高等女學校出身)は大阪府人天野瀰三郎に嫁し妹ハナ(同一九、九生)は其夫留藏(同一二、一二生)と共に分家し弟重三郎(同二二、一〇生)も亦分家し同政治郎(同一六、七生)は大阪府人木村孝三に岡榮太郎(同二四、二生、神戸高等商業學校出身)は同府人木水タケに各養子となれり(京都、上京、岡崎入江町二五電上九一三)
參照―木水榮太郎、十合留藏、十合芳三郎の項

十合　留藏　十合吳服店(株)社員
　京都府在籍
　妻　ハナ　明一九、九生、養父重助長女
君は滋賀縣士族逸見彥三郎の長男にして明治十二年十二月を以て生れ十合重助の養子となり大正十一年養兄德太郎方より分れて一家を創立す現時十合吳服店に勤務す(京都、上京、堺町通二條上ル杉屋町六二六電上三三九一)
參照―十合德太郎※木水榮太郎の項

十合　芳三郎　十合吳服店(株)取締役
　妻　きみ　明一一、七生、養父伊兵衞長女
　男　信一　明二九、八生、大阪市立第一商業學校出身
　男　芳隆　明三四、一生
　男　嘉明　明三五、一生
君は和歌山縣人秋元福次郎の弟にして十合德太郎の養從兄なり明治元年十二月を以て生れ十合伊兵衞の養子となり同四年十二年養兄秀次郎方より分れて一家を創立す現時伊兵衞は奈良縣より出で夙に大阪に於て古着商を營み後吳服商に轉じ爾來四代を閱し遂に今日の盛を見るに至る現に十合吳服店取締役として店務に參畫す音曲を嗜む長女ふみ(明二二、二生)は同社重役友次郎長男悅郎に嫁せり(大阪、西、北堀江通五ノ二五電新町一一五)
參照―十合德太郎の項

祖父江吉兵衞　芳吉、銅漆器商
　愛知縣在籍
　妻　しげ　明二〇、七生、愛知、山田利兵衞長女
　男　信太郎　明四二、一一生
君は愛知縣人先代吉兵衞の長男にして十合德太郎の養子を以て生れ同三十七年家督を相續す銅漆器商を營み芳吉の名を以て知らる家族は倘二男次郎(大五、七生)三男良一(同九、一生)四男昌造(同一二、一二生)三女政子(同一四、四生)あり弟靖吉(明一八、一二生)は同妻すゑ(同二四、八生、愛知、伊藤理七五女)及其一子を伴ひ分家せり(名古屋、西、六句町二ノ四電西二二一九)

曾我幸次郎　京都府多額納稅者、菓子商
　京都府在籍
　妻　とせ　明一二、一〇生、京都、數井多十郎長女
　男　幾雄　明三七、一二生
　男　泰三　明三九、九生
　女　春子　明四一、三生
君は京都府人曾我幾右衞門の三男にして明治十一年七月を以て生れ同三十一年朔淳吉の後を襲ひ家督を相續す菓子商を營み京都府多額納稅者たり家族は倘四男三郎(明四四、二生)四女靜子(大三、一二生)五男五郎(同七、一二生)あり長女くにゑ(明三一、三生)は大阪府人光吉貞二に嫁し朔淳吉(同二三、八生、亡兄豐三郎二男)は分家せり(京都、南粟田、吉川村)

曾我純太郎　臺灣商工銀行(株)取締役
　兵庫縣士族
　妻　やす　明二六、一一生、青森、小島くに養子
君は兵庫縣士族曾我勝太郎の長男にして明治十五年三月を以て生れ同二十四年家督を相續す現時臺灣商工銀行取締役たり家族は倘長女南保子(大七、六生)二女喜久子(同一四、一〇生)弟經治郎(明一九、七生)同經三郎(同二三、七生)あり(臺北、大正町二ノ二六)

曾我祐邦　正四位勳三等、子爵、陸軍砲兵大尉、貴族院議員、日章火災海上再保險(株)取締役、臺灣銀行、日本電報通信社各(株)監査役
　東京府華族
　父　祐準　天保一四、一二生
　妻　晃子　明九、一二生、公爵應司信輔養姉、男爵松園信淳養伯母
　男　準和　明三八、一一生、從五位
君は先代子爵曾我祐準の長男にして明治三年七月を以て生れ大正十三年父祐準の隱居により襲爵仰付らる幼にして佛國に留學し巴里ポリテクニイク校を卒業し軍籍に入り陸軍砲兵大尉に進みしも北清事變に際し北京公使館附として在勤中病を得て野に下り實業界に投じ第一ペイント會社亞鉛鍍業會社等諸會社の重役に就任し現時前記諸會社の重役にして傍ら日佛協會副理事長日佛會館理事日本青年館監事等を兼ぬ巴里講和會議に日本電報通信社を代表して佛國に駐在し對獨講和會議の功に依り勳三等に敍せらる大正十四年以來貴族院議員に當選する事二回現に其任に在り家族は倘五男準定(明四四、三生)あり長女清子(同三四、二生)は醫學博士金杉英五郎長男恒彌に二女盛子(同三七、五生)は兵庫縣人友田一郎弟在佛國マルセイユ領事二郎に三女友子(同四〇、二生)は新潟縣人樋口良勳二男醫學博士勳弘に妹滿子(同七、九生)は男爵立花小一郎亡弟銑三郎に養妹文(同二七、六生、福岡、曾我祐保長女)は子爵谷儀一に同龍江(同三〇、七生、東京、澁谷曉覺義妹)は男爵東三條實敏に嫁せり(東京市外大久保町西大久保

妻　ヲリノ　明三七、九生、德島、清水利三郎
母　大四、一一生
女　勝利　大
女　カズエ　明三九、一生
女　光子　明四一、一一生

君は德島縣人曾我部新治の長男にして明治十三年一月を以て生れ同二十四年家督を相續す豪商にして愛媛縣多額納稅者たり家族は尙三男定助(大八、四生)三女厚(愛媛、越智、富田村)あり

曾我祐準　正二位勳一等、退役陸軍中將
東京府華族
嘉永三、一一生、男爵華岡眞淳伯
妻　晟子
母
男　祐邦　明三、七生、現戶主

當家は從五位曾我祐信の裔にして代々筑後柳川藩主に仕へ祐興に至る君は祐興の二男にして天保十四年十二月を以て生れ後分家して一家を創立す明治元年軍務局檢判事に任じ同二年幕臣榎本武揚等函館五稜郭に據るや海軍參謀として出征し勳功あり同四年陸軍大佐に任じ同十六年陸軍中將に陞る其間陸軍兵學寮頭教導團長士官學校長征討第四旅團長熊本大阪各鎭臺司令長官參謀本部次長仙臺鎭臺司令長官等に歷補し後東宮大夫宮中顧問官等に任じ貴族院議員に選ばるゝ事四回大正四年樞密顧問官に任ぜられ同十二年之を辭し現時閑地に在り養に日本鐵道會社長岩倉鐵道學校長たりし事あり(東京市外大久保町西大久保一四八)電四谷五〇六

參照＝子爵曾我祐邦、男爵華岡眞淳※男爵梶野行和の項

曾我藤太郎　付知銀行(株)頭取、信美電力、北惠那鐵道各(株)取締役
岐阜縣在籍
妻　愛　明一八、七生、岐阜、田口哲一郎二女
男　長四郎　明四〇、四生
女　須磨子　明四一、一〇生

君は岐阜縣人曾我長四郎の孫にして明治四年三月を以て生れ同二十年分れて一家を創立す現時付知銀行頭取たる外前記會社の重役たり家族は尙四女憲子(大五、二生)四男海五(同一〇、五生)六女美知路(同一三、四生)あり長女千穗子(明三七、四生)は岐阜縣人田口敏彥に二女富士子(同三八、五生)は千葉縣人大木常松に嫁し三男實三(大二、八生)は愛知縣人服部つなの養子となれり(岐阜、惠那、付知町)

曾我部千代吉　愛媛縣多額納稅者
愛媛縣在籍

曾川漫七　香川縣多額納稅者、酒類商
香川縣在籍
明三七、一二生
重行　明四一、一生、二男重行妻、香川、三原一彥五女

君は香川縣人平澤正憲の弟にして明治十二年十二月を以て生れ後先代交治の養子となり同四十四年家督を相續す酒類商を營み香川縣多額納稅者たり家族は尙三男定助(大一三、四生、生母、香川、河口マスエ)孫惠美子(同一四、三生、二男重行長女)あり三男善行(明四三、三間多增吉の養子となれり(丸龜、中府)

曾根正命　愛媛鐵道、神戸化粧品各(株)取締役、神港倶樂部(株)監査役、神戸信用組合理事、兵庫縣在籍
男　正實　明二九、八生、工學士
婦　靜子　明三二、九生、二男正實妻、愛媛、越智正充妹
女　ハル　明二一、五生
女　桃子　明四二、七生

君は愛媛縣士族藤枝恭の二男にして安政五年六月を以て生れ後曾根省三の養子となり家督を相續す夙に第六十五銀行に入り爾來勤續約四十年累進して同銀行頭取に擧げらるる大正二年之を辭し現時前掲諸會社の重役た

曾根達藏　正五位、工學博士、營繕管財局顧問、曾禰中條建築事務所經營者
東京府士族
明元、一生、東京、久保田政擧四女
妻　しん　明二〇、三生、理學博士
男　武　明二五、一生、長男武妻、宮城、清水廣忠妹
婦　みづ江　明三四、一〇生、農學士
男　修　明四一、八生、二男修妻、子爵岩倉具明二女
婦　治子

君は神奈川縣人曾根田重兵衞の長男にして元治元年九月を以て生れ明治三十七年家督を相續す養に神奈川縣農工銀行常務取締役たりし現時橫濱商業銀行專務取締役たる外前掲諸會社の重役たり家族は尙孫重和(大一〇、二生、二男恭男長男)同澄代(同五、一二生、養子二郎養子、神奈川、尾崎亮司姪)あり長女慎(明二四、一二生)は神奈川縣人原政吉長男幸造に二女祐(同二七、六生)は同縣人尾崎壽彥に五女佐貴(同三五、八生)は同縣人志村健司に嫁せり(橫濱、神奈川、青木町三三九)電本局三三八九)

參照＝※中西逸平の項

曾根田重保　橫濱商業銀行(株)專務取締役、橫濱貿易倉庫、橫濱新港倉庫各(株)取締役、神奈川縣在籍
慶應三、正生、神奈川、宮川安五郎二女
妻　ナヲ　明二、一生
男　恭男　明三一、九生、二男恭男妻、神奈川、齋藤正五郎五女
婦　フミ　明八、五生、養父忠兵衞二女、神戸女學院出身
養子　二郎　明三一、一二生、四女悅夫、神奈川、安藤喜八二男
女　悅　明三一、三生、養子二郎妻

一四八電四谷五〇六)

參照＝公爵鷹司信輔、子爵谷儀一、男爵立花小一郎、男爵東三條實敏、男爵松園信淳、曾我祐準、金杉英五郎※伯爵香川標男※男爵鷹司信熙の項

曾我祐準　正二位勳一等、退役陸軍中將
東京府華族
嘉永三、一一生、男爵華岡眞淳伯母
妻　晟子
男　祐邦　明三、七生、現戶主

當家は從五位曾我祐信の裔にして代々筑後柳川藩主に仕へ祐興に至る君は祐興の二男にして天保十四年十二月を以て生れ後分家して一家を創立す明治元年軍務局檢判事に任じ同二年幕臣榎本武揚等函館五稜郭に據るや海軍參謀として出征し勳功あり同四年陸軍大佐に任じ同十六年陸軍中將に陞る其間陸軍兵學寮頭教導團長士官學校長征討第四旅團長熊本大阪各鎭臺司令長官參謀本部次長仙臺鎭臺司令長官等に歷補し後東宮大夫宮中顧問官等に任じ貴族院議員に選ばるゝ事四回大正四年樞密顧問官に任ぜられ同十二年之を辭し現時閑地に在り養に日本鐵道會社長岩倉鐵道學校長たりし事あり(東京市外大久保町西大久保一四八)電四谷五〇六

參照＝子爵曾我祐邦、男爵華岡眞淳※男爵梶野行和の項

曾我藤太郎　付知銀行(株)頭取、信美電力、北惠那鐵道各(株)取締役
岐阜縣在籍
妻　愛　明一八、七生、岐阜、田口哲一郎二女
男　長四郎　明四〇、四生
女　須磨子　明四一、一〇生

君は岐阜縣人曾我長四郎の孫にして明治四年三月を以て生れ同二十年分れて一家を創立す現時付知銀行頭取たる外前記會社の重役たり家族は尙四女憲子(大五、二生)四男海五(同一〇、五生)六女美知路(同一三、四生)あり長女千穗子(明三七、四生)は岐阜縣人田口敏彥に二女富士子(同三八、五生)は千葉縣人大木常松に嫁し三男實三(大二、八生)は愛知縣人服部つなの養子となれり(岐阜、惠那、付知町)

曾我部千代吉　愛媛縣多額納稅者
愛媛縣在籍

曾根太三郎　岐阜縣多額納稅者、七十六銀行(株)頭取、農業、岐阜縣在籍
妻　たみ　明六、八生、岐阜、山輔清之助長女
養子　定吉　明三九、四生、岐阜、伊藤俊夫二男

君は岐阜縣人曾根德四郎の長男にして明治四年一月を以て生れ同四十三年家督を相續す農業を營み現時七十六銀行頭取にして岐阜縣多額納稅者たり(岐阜、海津、石津村)

曾根忠兵衞　共同委託(株)社長、金澤電氣軌道、東洋捕鯨、杭瀨土地各(株)取締役
兵庫縣在籍
妻　たつ　明五、五生、養父忠兵衞長女、京都高等女學校出身
養子　武四郎　明三九、一〇生、分家養弟增吉四男

君は石川縣人堀甚兵衞の長男にして元治元年八月を以て生れ明治二十六年先代忠兵衞の養子となり明治三十七年家督を相續し前名外二郎を改む現時共同委託會社々長たる外前記各會社の重役たり養父忠輔(嘉永三、六生)養母いつ(同六、正生、兵庫、小島禮藏長女)は共に分家し養弟增吉(明六、四生)も亦分家し長女惠美(同三三、一生)は兵庫縣人堀元夫に嫁せり(神戸、長田村畑谷三電本局一三七八)

參照　曾根增吉※五代龍作の項

曾根　增吉　日本光學工業(株)取締役
兵庫縣在籍
妻　つる　明八、五生、養父忠兵衞二女、神戸女學院出身
男　精一郎　明三一、八生、法學士、扶桑海上保險會社員

男　忠三郎　明三七、五生、東京帝國大學農學部在學
女　壽恵　明四二、一生、雙葉高等女學校出身
女　登女　明四三、二生、雙葉高等女學校出身

君は石川縣人小西武八の三男にして明治六年四月を以て生れ曾根家の養子となり分家して一家を創立す東京高等商業學校主計科の出身にして明治二十六年三菱製紙所支配人に擧げらるるや三菱合資會社に入り同四十年三菱製紙所支配人に擧げられ同四十五年職を辭し大阪に於て菱三商會を設立し洋紙販賣業を營み大正六年組織を改め合資會社菱三商會と稱せり同年日本光學工業會社創立に際し專務取締役に擧げられ昭和元年專務を辭し現に取締役の任に在り二男慶二郎(明三四、二生、京都帝國大學出身)は亡姉曾根千代の跡を繼ぎ二女千恵(同三五、一一生、神戸高等女學校出身)は埼玉縣人石坂銀五に三女壽代(同三八、一〇生、實踐高等女學校出身)は東京府士族五代龍作三男正友に嫁し四男武四郎(同三九、一〇生)は養兄忠兵衞の養子となれり(東京市外大井町四五八〇電大森四四九)

參照＝五代龍作、曾根忠兵衞※時岡市太郎の項

曾根萬兵衞　靜岡縣多額納稅者、堺屋本店(株)取締役、乾物商、靜岡縣在籍
妻　こと　明二七、一一生、靜岡、岡田吾市妹

君は靜岡縣人先代萬兵衞の長男にして明治二十三年二月を以て生れ明治三十年家督を相續す同年大學校を卒業して工部大學校を經て明治三十二年家督を相續し物商を營み傍ら堺屋本店取締役たりし次で三菱製紙所に入り三菱合資會社建築部主任技師に進み丸ノ內三菱街の建設に從事す現時曾禰中條建築事務所を經營し營繕管財局顧問を仰付けらる養に大家として知らる家族は尙孫弘(大九、一生、長男武長男)同雄(同一一、一生、同二男)同登代子(同一三、七生、同長女)同登茂子(同一四、八生、同二女)同養(同一五、一二生、同三男)あり長女ミサ(明一七、三生)は長崎縣人山川端夫に二女アキ(同二一、七生)は愛知縣人上遠野富之助長男寅三に四女戰(同四〇、七生)は獸醫學博士仁田直長男勇に嫁し弟鍵次(同三、一〇生)は其妻しづ(同一四、九生、千葉、島田裏二女)を伴ひ分家せり(東京市外澁谷町大和田六二電青山二二

婦　伊喜奥　明三六、五生、長男作次郎妻、島根、宮田爲紀三女

女　惠美子　明四〇、一二生、同志社女學校專門部出身

女　龜子　明四五、二生、同志社女學校普通部在學

幸子　大二、一二生

曾野家は古くより京都に定住し累代商賣を營み素封家なり君實は兵庫縣人廣内嘉兵衞の二男にして明治八年十一月を以て生れ後先代作太郎の養子となり同三十二年家督相續と共に襲名して商名角松を改む現に京都府多額納稅者たり又京都商工會議所常議員に擧げらるる閨碁及ゴルフに趣味を有す家族は尚前記の外六女文子（大五、一〇生）孫滋一（同一四、七生）四男磧三郎（同九、一一生）七女璇子（同一二、一生）孫滋一（同一四、七生）四男鐵三郎（同九、一一生）七女璇子（同一二、一生）孫滋一（同一四、七生）四男鐵三郎（同九、一一生）七女璇子（同一二、一生）

君は和歌山縣人宗熊之助の長男にして明治七年十一月を以て生る夙に實業界に入り現時前記銀行會社の重役たり家族は尚二女照子（大八、一生）四男敏郎（同一〇、三生）三女悅子（同一一、一生）長男一雄（明三二、一二生）は分れて絕家を再興し二男雄二（同三五、一生）は和歌山縣人三浦みのの養子となり（和歌山縣、海草郡、加茂村）同縣人田中健造に嫁せり（東京、麹町、上六番町二九電九段九六二）

父　熊之助　嘉永四、一一生、現戸主

母　ナカ　安政二、七生、和歌山、太田政市妹

妻　ツネ　明一二、七生、和歌山、西村保太郎二女

男　正夫　明四五、八生

女　千代子　明四〇、二生

庶子　高子　明四四、三生、生母、大阪、今村ツネ

宗　武志　從五位、伯爵　舊對州嚴原藩

當家は左衞門尉惟宗重尙の後なり重尙對馬守に任ぜられ宗氏を冒す其弟右馬允助國文永の役國難に殉じ余世を經て對馬守義智征韓の役前後我の間に斡旋し德川氏に至り十萬石の格に列せらる夫より十四世を經て先々代重正に至り明治十七年伯爵を授けらる先代重望其後を襲ぎ貴族院議員に當選し又南畫界に盡すこと多し君實は子爵黑田廣志の弟にして明治四十一年二月を以て生れ大正十二年從兄重望の死跡を相續し襲爵仰付けらる（東京市外入新井町新井宿一三六一）

參照―子爵黑田廣志宗星野源左衞門の項

宗　兵藏　建築設計業　東京府士族

妻　ハナ　明七、二生、男爵千田嘉平妹

男　知曉　明二七、一生、工學士、住友伸銅所員

婦　シナ　明三六、一二生、長男知曉妻、兵庫、千浦友七郎二女

男　知治　明三三、四生

男　知康　明三七、三生

君は舊幕臣宗龍九郎の長男にして元治元年三月を以て生れ明治九年家督を相續す同二十三年東京大學工學部を卒業し海軍技手となる同四十年官を辭し大阪に於て

五五）

參照―子爵岩倉具明、上遠野亮三、仁田直、山川端夫※子爵濱尾四郎※男爵鮫島具重※男爵中島久萬吉※岩倉具光の項

曾禰　安輔　正四位、子爵　東京府華族

母　テル　安政五、六生、祖父祥藏長女

妻　マス　明二五、四生、兵庫、菊池武熊妹

男　昌孝　大六、五生

女　初子　明四四、八生

女　君子　大二、二生

當家は先代荒助より顯る荒助は舊山口藩士にして始め軍籍に入り明治五年佛國に留學し後轉じて參議院議官法制局參事官同書記官等に歷任し議會開設に際し衆議院書記官長に擧げらるる次で野に下り衆議院議員に當選し副議長に推さる後特命全權公使（佛國及西班牙）司法大臣農商務大臣貴族院議員大藏大臣兼臨時外務大臣兼遞信大臣樞密顧問官兼馬政局長官韓國副統監同統監等に歷任し同三十五年日英同盟の功に依り華族に列し男爵を授けられ同四十年日露事件の功に依り子爵に陞さる君は其長男にして明治十三年二月を以て生れ同四十三年襲爵仰付らる曩に北海道拓殖銀行員たりしことあり家族は尚ほ四女高子（大四、九生）二男寬二郎（同八、九生）三男祥三（同一一、五生）四男慎吉（同一三、一生）六女惠子（同一四、四生）七女昭子（昭二、一生）妹敏子（明三七、一二生、東京女學館出身）弟冬來（同四一、一二生）あり同寬治（同一五、五生）は伯爵芳川顯正の養子となり襲爵し五女壽美子（大九、一一生）は神奈川縣人醫學士平松濤平の養子となり弟豐三（明二六、七生）同又男（同一九、一一生）は各分家せり（東京市外中野町原一四〇七電四谷七三）

參照―伯爵芳川寬治、菊池武熊※松井和宗の項

曾野　作太郎

妻　ヤス　明一四、五生、養父嘉兵衞二女

男　作次郎　明三一、一生、法學士、住友銀行紐育支店在勤

婦　伊喜奥　明三六、五生、長男作次郎妻、島根、宮田爲紀三女

女　惠美子　明四〇、一二生、同志社女學校專門部出身

女　龜子　明四五、二生、同志社女學校普通部在學

幸子　大二、一二生

當家は先代荒助より顯る荒助は舊山口藩士にして始め軍籍に入り明治五年佛國に留學し後轉じて參議院議官法制局參事官同書記官等に歷任し議會開設に際し衆議院書記官長に擧げらるる次で野に下り衆議院議員に當選し副議長に推さる後特命全權公使（佛國及西班牙）司法大臣農商務大臣貴族院議員大藏大臣兼臨時外務大臣兼遞信大臣樞密顧問官兼馬政局長官韓國副統監同統監等に歷任し同三十五年日英同盟の功に依り華族に列し男爵を授けられ同四十年日露事件の功に依り子爵に陞さる君は其長男にして明治十三年二月を以て生れ同四十三年襲爵仰付らる曩に北海道拓殖銀行員たりしことあり家族は尚ほ四女高子（大四、九生）二男寬二郎（同八、九生）三男祥三（同一一、五生）四男慎吉（同一三、一生）六女惠子（同一四、四生）七女昭子（昭二、一生）妹敏子（明三七、一二生、東京女學館出身）弟冬來（同四一、一二生）あり同寬治（同一五、五生）は伯爵芳川顯正の養子となり弟豐三（明二六、七生）同又男（同一九、一一生）は各分家せり（東京市外中野町原一四〇七電四谷七三）

參照―伯爵芳川寬治、菊池武熊※松井和宗の項

曾野　作太郎

妻　ヤス　明一四、五生、養父嘉兵衞二女

男　作次郎　明三一、一生、法學士、住友銀行紐育支店在勤

蘇　清藏　資產家　鹿兒島縣在籍

母　平　文久元、九生、鹿兒島、勇熊當三女

妻　政千代　明二六、七生、鹿兒島、登政則孫

男　鐵之助　大五、八生

當家は左衞門尉惟宗重尙の後なり重尙對馬守に任ぜられ宗氏を冒す其弟右馬允助國文永の役國難に殉じ余世を經て對馬守義智征韓の役前後我の間に斡旋し德川氏に至り十萬石の格に列せらる夫より十四世を經て先々代重正に至り明治十七年伯爵を授けらる先代重望其後を襲ぎ貴族院議員に當選し又南畫界に盡すこと多し君實は子爵黑田廣志の弟にして明治四十一年二月を以て生れ大正十二年從兄重望の死跡を相續し襲爵仰付けらる（東京市外入新井町新井宿一三六一）

參照―子爵黑田廣志宗星野源左衞門の項

宗　兵藏　建築設計業　東京府士族

妻　ハナ　明七、二生、男爵千田嘉平妹

男　知曉　明二七、一生、工學士、住友伸銅所員

婦　シナ　明三六、一二生、長男知曉妻、兵庫、千浦友七郎二女

男　知治　明三三、四生

男　知康　明三七、三生

君は舊幕臣宗龍九郎の長男にして元治元年三月を以て生れ明治九年家督を相續す同二十三年東京大學工學部を卒業し海軍技手となる同四十年官を辭し大阪に於て

宗　三郎

父　熊之助　嘉永四、一一生、現戸主

母　ナカ　安政二、七生、和歌山、太田政市妹

妻　ツネ　明一二、七生、和歌山、西村保太郎二女

男　正夫　明四五、八生

女　千代子　明四〇、二生

庶子　高子　明四四、三生、生母、大阪、今村ツネ

君は和歌山縣人宗熊之助の長男にして明治七年十一月を以て生る夙に實業界に入り現時前記銀行會社の重役たり家族は尚二女照子（大八、一生）四男敏郎（同一〇、三生）三女悅子（同一一、一生）長男一雄（明三二、一二生）は分れて絕家を再興し二男雄二（同三五、一生）は和歌山縣人三浦みのの養子となり（和歌山縣、海草郡、加茂村）同縣人田中健造に嘉せり（東京、麹町、上六番町二九電九段九六二）

父　熊之助　嘉永四、一一生、現戸主

母　ナカ　安政二、七生、和歌山、太田政市妹

妻　ツネ　明一二、七生、和歌山、西村保太郎二女

男　正夫　明四五、八生

女　千代子　明四〇、二生

庶子　高子　明四四、三生、生母、大阪、今村ツネ

君は和歌山縣人宗熊之助の長男にして明治七年十一月を以て生る夙に實業界に入り現時前記銀行會社の重役たり家族は尚二女照子（大八、一生）四男敏郎（同一〇、三生）三女悅子（同一一、一生）長男一雄（明三二、一二生）は分れて絕家を再興し二男雄二（同三五、一生）は和歌山縣人三浦みのの養子となり（和歌山縣、海草郡、加茂村）同縣人田中健造に嘉せり（東京、麹町、上六番町二九電九段九六二）

宗　武志　從五位、伯爵　舊對州嚴原藩

當家は左衞門尉惟宗重尙の後なり重尙對馬守に任ぜられ宗氏を冒す其弟右馬允助國文永の役國難に殉じ余世を經て對馬守義智征韓の役前後我の間に斡旋し德川氏に至り十萬石の格に列せらる夫より十四世を經て先々代重正に至り明治十七年伯爵を授けらる先代重望其後を襲ぎ貴族院議員に當選し又南畫界に盡すこと多し君實は子爵黑田廣志の弟にして明治四十一年二月を以て生れ大正十二年從兄重望の死跡を相續し襲爵仰付けらる（東京市外入新井町新井宿一三六一）

參照―子爵黑田廣志宗星野源左衞門の項

宗　兵藏　建築設計業　東京府士族

妻　ハナ　明七、二生、男爵千田嘉平妹

男　知曉　明二七、一生、工學士、住友伸銅所員

婦　シナ　明三六、一二生、長男知曉妻、兵庫、千浦友七郎二女

男　知治　明三三、四生

男　知康　明三七、三生

君は舊幕臣宗龍九郎の長男にして元治元年三月を以て生れ明治九年家督を相續す同二十三年東京大學工學部を卒業し海軍技手となる同四十年官を辭し大阪に於て

建築設計の事務を創め漸次發展して今日に至る家族は尚四男知武（明四四、九生）孫知信（大一一、一一生、長男知曉長男）同恒子（同一三、七生、同長女）同知直（同一五、七生、同二男）あり長女孝子（明三〇、四生）は村二一一電御影六〇七）

參照―男爵山中秀二郎の項

宗　正雄　正五位勳四等、東京帝國大學教授、農學部勤務、大分縣在籍

父　惣太郎　安政四、七生、現戸主

母　カツ　萬延元、二生、大分、岡本定藏二女

妻　リヨウ　明二三、一一生、大分、上野三六長女

男　茂雄　明四四、八生

君は大分縣人宗惣太郎の長男にして明治十七年五月を以て生る同四十二年東京帝國大學農科大學を卒業し現に東京帝國大學教授農學部勤務たり家族は尚長女ミヤ子（大八、一生）四男達也（同一三、五生）三男保人（同一五、八生）弟久雄（明三〇、九生）養妹喜美（同三八、一生、大分、大神國憲妹）あり姉ハツ（同一五、三生）は大分縣人柚須衆藏に妹ユキ（同二三、四生）は神奈川縣人松原辰雄に同フミ（同二六、七生）は大分縣人佐藤長次郎長男百喜に嫁し弟益雄（同二〇、三生）は其妻シナ（同三二、一生、熊本、佐藤榮太郎長女）と共に分家せり（東京市外世田ヶ谷町代田八八）

相馬伊右衞門　大阪府多額納稅者、家主　大阪府在籍

妻　楢　菊　明八、六生、大阪、谷村弘忠長女

男　賢太郎　明二〇、三生

婦　末尾　明二二、一生、長男賢太郎妻、實業家廣海惣太郎妹

男　政之助　明二五、一生、養樂家

婦　ナツ　明二七、七生、二男政之助妻、大阪、谷村伊右衞門二男にして慶應元年七月を以て生れ明治十七年家督を相續し襲名す貸家を業とし現時大阪府多額納稅者たり家族は尚ほ孫一郎（大二、九生、長男賢太郎長男）同とせ（同三、一〇生、同長女）同瑠璃（同五、一二生、同二女）同金次郎（同九、一生、同二男）同勉（同一一、七生、二男政之助長男）

相馬　一郎　新潟縣多額納稅者、農業　新潟縣在籍

妻　ウヤ　明一一、九生、長男武妻、新潟、佐藤三郎太郎四女

養孫　恒二　明二四、九生、孫チイ夫、新潟、伊藤榮一弟

孫　チイ　明二九、五生、養孫恒二妻、長男武長女

君は新潟縣人相馬善右衞門の長男にして嘉永元年六月を以て生れ後家督を相續す夙に縣會議員同副議長郡會議員同副議長等に擧げられ明治三十五年衆議院議員に當選し現時尚地にあり農業を營み新潟縣多額納稅者たり家族は尚ほ曾孫紀子（大一一、六生、孫恒二長女）同容之（同一三、三生、同長男）同知子（昭二、五生、同一男）同一（明一六、七生）五男其一（同一二、一生）六男修平（同二二、三生）七男尙平（同二五、一生、大分、大神國憲妹）あり姉ハツ（同一五、三生）は大分縣人柚須衆藏に妹ユキ（同二三、四生）は神奈川縣人松原辰雄に同フミ（同二六、七生）は大分縣人佐藤長次郎長男百喜に嫁し弟益雄（同二〇、三生）は其妻シナ（同三二、一生、熊本、佐藤榮太郎長女）と共に分家せり（東京市外世田ヶ谷町代田八八）

相馬伊右衞門　大阪府多額納稅者、家主　大阪府在籍

妻　楢　菊　明八、六生、大阪、谷村弘忠長女

男　賢太郎　明二〇、三生

婦　末尾　明二二、一生、長男賢太郎妻、實業家廣海惣太郎妹

男　政之助　明二五、一生、養樂家

婦　ナツ　明二七、七生、二男政之助妻、大阪、谷村伊右衞門二男にして慶應元年七月を以て生れ明治十七年家督を相續し襲名す貸家を業とし現時大阪府多額納稅者たり家族は尚ほ孫一郎（大二、九生、長男賢太郎長男）同とせ（同三、一〇生、同長女）同瑠璃（同五、一二生、同二女）同金次郎（同九、一生、同二男）同勉（同一一、七生、二男政之助長男）

あり妹ふさい（明二一、四生）は大阪府人小林利昌に嫁せり（大阪、天王寺、上細屋町二五ノ一電南三七九）

參照―小林利昌、廣海惣太郎の項

相馬　一郎　新潟縣多額納稅者、農業　新潟縣在籍

男　武　明六、三生

婦　ウヤ　明一一、九生、長男武妻、新潟、佐藤三郎太郎四女

養孫　恒二　明二四、九生、孫チイ夫、新潟、伊藤榮一弟

孫　チイ　明二九、五生、養孫恒二妻、長男武長女

君は新潟縣人相馬善右衞門の長男にして嘉永元年六月を以て生れ後家督を相續す夙に縣會議員同副議長郡會議員同副議長等に擧げられ明治三十五年衆議院議員に當選し現時尚地にあり農業を營み新潟縣多額納稅者たり家族は尚ほ曾孫紀子（大一一、六生、孫恒二長女）同容之（同一三、三生、同長男）同知子（昭二、五生、同一男）同一（明一六、七生）五男其一（同一二、一生）六男修平（同二二、三生）七男尙平（同二五、一生、大分、大神國憲妹）あり姉ハツ（同一五、三生）は大分縣人柚須衆藏に妹ユキ（同二三、四生）は神奈川縣人松原辰雄に同フミ（同二六、七生）は大分縣人佐藤長次郎長男百喜に嫁し弟益雄（同二〇、三生）は其妻シナ（同三二、一生、熊本、佐藤榮太郎長女）と共に分家せり（東京市外世田ヶ谷町代田八八）

相馬　市作　百十三銀行、相馬商店各（株）取締役、函館貯蓄銀行、辨天倉庫各（株）監査役、北海道在籍

文久三、九生、養弟哲平姉

男　明三八、四生

妻　クワ　明一二、八生、三女キヨ夫、北海道、笹谷龜太郎三男

養子　雄二　明二五、一生、養子雄二妻

養子　英二　明二八、二生、養子英二妻

小栗卓衞弟

孫　伊久　大二、九生、養子雄二長女

君は北海道人竹内長三郎の二男にして萬延元年十二月を以て生れ明治四十三年相馬家の養子となり養弟哲平方より分れて一家を創立す現時前記各銀行會社の重役たり家族は尚孫陽二（大六、五生、養子雄二長男）同嘉久（同八、九生、同三女）同富久（同一一、八生、同四女）同駿二（同五、七生、養子英二長男）同佐和（同七、九生、同長女）同泰二（同九、三生、同二男）同龍三（同一〇、五生、同三男）同久美（同一二、三生、同二女）同善吉（同一三、一二生、同四男）同寬吉（同一五、八生、同五男）あり（函館、大町二二）

參照―相馬哲平の項

相馬　榮治　東京米穀商品取引所取引員、薪炭商、秋田縣在籍

母　キク　安政二、九生、秋田、高橋孫太郎長女

男　又太郎　大三、九生

乙和　明四四、一生

女　米　明四五、二生

女　龜　大二、七生

君は秋田縣人相馬友吉の長男にして明治五年十一月を以て生れ同二十一年前名永治を改め大正七年家督を相續す薪炭商を營み東京米穀商品取引所第一部第二部取引員たり家族は尚七女德（大五、三生）八女花（同七、一〇生）妹惠（明四四、六生）勇貞一（同三二、一生、秋田、大川長藏二男）同準一（同三四、五生、同三男）あり弟又治郎（同三七、二生、養妹應（同二八、一二生、東京、石橋德治郎長女）は各分家せり（東京市外品川町南品川宿一八電高輪一〇〇七）

相馬　佳一郎　新潟縣多額納稅者、農業　新潟縣在籍

母　ミチ　明一四、九生、新潟、相馬菅莪長女

妻　キミ　明三四、三生

男　千里　明三四、三生

男　趙二　明四〇、三生、二男趙二妻、新潟、

婦　ウメヨ　明二五、二生、四女トモ夫、愛知、小栗卓衞弟

養子　キヨ　明四〇、三生、養子キヨ妻、新潟、小泉卓衞次女

君は新潟縣人相馬熊次郎の長男にして明治四年七月を以て生れ大正八年家督を相續す明治二十七年慶應義塾文學科を卒業し家業農を營み縣下の多額納稅者たり家族は尚三男順三（大二、一二生）二女賤（同九、二生）孫

住吉(同一五、一二生、二男趙二長男)妹ヨシノ(明一〇、一一生)あり長女カツノ(同三二、一生)は鍛人須貝金治郎に嫁テイ(同二九、一生、妹ヨシノ長女)は同縣人丹後研幾に嫁し弟三郎(同一二、一二生)は其妻トキ(同一七、一二生、新潟、鈴木長藏孫)及其四子を伴ひ分家せり(新潟、北蒲原、乙村)

相馬勝夫　資産家　滋賀縣士族
祖母　みつ　明四、一二生、東京、士、佐口宗三郎長女
繼母　鈴子　明二六、一一生、祖父、永胤三女

當家は先代正五位勳二等永胤より家名を揚ぐ永胤は舊彦根藩士にして夙に米國エール大學に法律經濟學を修め歸朝後横濱正金銀行整理の任に膺り其頭取に擧げられ又同志と專修大學を創立して其學長となれり君は永胤の養嗣子故醫學博士相馬又二郎の長男にして明治三十七年十一月を以て生れ大正十三年祖父永胤の後を襲ひ家督を相續す資産家として知らる家族は尙妹菊(大二、一一生)弟信夫(同五、六生)同利夫(同七、一生)同永夫(同八、三生)妹重子(同九、八生)叔母恒(同二、六生)あり伯母アヤ(明一四、八生)は東京府士族山本龜光に嫁し大叔父信一(同一七、七生)は靜岡縣人長倉さとの養子となり當主たり(東京市外戸塚町下戸塚四一〇電牛込二一九四)

參照―長倉信一、山本龜光の項

相馬久吉　石鹼製造業　東京府在籍
繼母　まつ　慶應三、六生、東京、龜甲とも養子
妻　みよ　明一三、一生、東京、小川鐵藏三女
男　英雄　明三一、六生、豫備陸軍工兵少尉、東京高等工業學校應用化學科出身
婦　一枝　明四一、三生、二男英雄妻、東京、里内常太郎二女
男　正雄　明四一、三生、慶應義塾大學在學
女　文枝　大元、九生、踏見女學校在學

君は東京府人相馬保太郎の長男にして明治七年八月を以て生れ明三十二年家督を相續す業代江戸土産の商家にして先代保太郎に至り石鹼製造業を創め今日の基を成す君其後を享け襲に東京石鹼製造同業組合長に推さるる家族は尙四男俊雄(明四三、八生)孫榮一(昭二、二〇、一一生)あり長女カツノ(同三二、一生)は鍛人須貝金治郎に嫁テイ(同二九、一生、妹ヨシノ長女)は同縣人丹後研幾に嫁し弟三郎(同一二、一二生)は其妻トキ(同一七、一二生、新潟、鈴木長藏孫)及其四子を伴ひ分家せり(新潟、北蒲原、乙村)

相馬勝夫　資産家　滋賀縣士族
祖母　みつ　明四、一二生、東京、士、佐口宗三郎長女
繼母　鈴子　明二六、一一生、祖父、永胤三女

當家は先代正五位勳二等永胤より家名を揚ぐ永胤は舊彦根藩士にして夙に米國エール大學に法律經濟學を修め歸朝後横濱正金銀行整理の任に膺り其頭取に擧げられ又同志と專修大學を創立して其學長となれり君は永胤の養嗣子故醫學博士相馬又二郎の長男にして明治三十七年十一月を以て生れ大正十三年祖父永胤の後を襲ひ家督を相續す資産家として知らる家族は尙妹菊(大二、一一生)弟信夫(同五、六生)同利夫(同七、一生)同永夫(同八、三生)妹重子(同九、八生)叔母恒(同二、六生)あり伯母アヤ(明一四、八生)は東京府士族山本龜光に嫁し大叔父信一(同一七、七生)は靜岡縣人長倉さとの養子となり當主たり(東京市外戸塚町下戸塚四一〇電牛込二一九四)

參照―長倉信一、山本龜光の項

相馬久吉　石鹼製造業　東京府在籍
繼母　まつ　慶應三、六生、東京、龜甲とも養子
妻　みよ　明一三、一生、東京、小川鐵藏三女
男　英雄　明三一、六生、豫備陸軍工兵少尉、東京高等工業學校應用化學科出身
婦　一枝　明四一、三生、二男英雄妻、東京、里内常太郎二女
男　正雄　明四一、三生、慶應義塾大學在學
女　文枝　大元、九生、踏見女學校在學

君は東京府人相馬保太郎の長男にして明治七年八月を以て生れ明三十二年家督を相續す業代江戸土産の商家にして先代保太郎に至り石鹼製造業を創め今日の基を成す君其後を享け襲に東京石鹼製造同業組合長に推さるる家族は尙四男俊雄(明四三、八生)孫榮一(昭二、二〇、一一生)あり長女カツノ(同三二、一生)は鍛人須貝金治郎に嫁テイ(同二九、一生、妹ヨシノ長女)は同縣人丹後研幾に嫁し弟三郎(同一二、一二生)は其妻トキ(同一七、一二生、新潟、鈴木長藏孫)及其四子を伴ひ分家せり(新潟、北蒲原、乙村)

相馬勝夫　資産家　滋賀縣士族
祖母　みつ　明四、一二生、東京、士、佐口宗三郎長女
繼母　鈴子　明二六、一一生、祖父、永胤三女

當家は先代正五位勳二等永胤より家名を揚ぐ永胤は舊彦根藩士にして夙に米國エール大學に法律經濟學を修め歸朝後横濱正金銀行整理の任に膺り其頭取に擧げられ又同志と專修大學を創立して其學長となれり君は永胤の養嗣子故醫學博士相馬又二郎の長男にして明治三十七年十一月を以て生れ大正十三年祖父永胤の後を襲ひ家督を相續す資産家として知らる家族は尙妹菊(大二、一一生)弟信夫(同五、六生)同利夫(同七、一生)同永夫(同八、三生)妹重子(同九、八生)叔母恒(同二、六生)あり伯母アヤ(明一四、八生)は東京府士族山本龜光に嫁し大叔父信一(同一七、七生)は靜岡縣人長倉さとの養子となり當主たり(東京市外戸塚町下戸塚四一〇電牛込二一九四)

參照―長倉信一、山本龜光の項

相馬久吉　石鹼製造業　東京府在籍
繼母　まつ　慶應三、六生、東京、龜甲とも養子
妻　みよ　明一三、一生、東京、小川鐵藏三女
男　英雄　明三一、六生、豫備陸軍工兵少尉、東京高等工業學校應用化學科出身
婦　一枝　明四一、三生、二男英雄妻、東京、里内常太郎二女
男　正雄　明四一、三生、慶應義塾大學在學
女　文枝　大元、九生、踏見女學校在學

君は東京府人相馬保太郎の長男にして明治七年八月を以て生れ明三十二年家督を相續す業代江戸土産の商家にして先代保太郎に至り石鹼製造業を創め今日の基を成す君其後を享け襲に東京石鹼製造同業組合長に推さる

る家族は尙四男俊雄(明四三、八生)孫榮一(昭二、二〇、一一生)あり長女カツノ(同三二、一生)は鍛人須貝金治郎に嫁テイ(同二九、一生、妹ヨシノ長女)は同縣人丹後研幾に嫁し弟三郎(同一二、一二生)は其妻トキ(同一七、一二生、新潟、鈴木長藏孫)及其四子を伴ひ分家せり(新潟、北蒲原、乙村)

相馬勝夫　資産家　滋賀縣士族
祖母　みつ　明四、一二生、東京、士、佐口宗三郎長女
繼母　鈴子　明二六、一一生、祖父、永胤三女

當家は先代正五位勳二等永胤より家名を揚ぐ永胤は舊彦根藩士にして夙に米國エール大學に法律經濟學を修め歸朝後横濱正金銀行整理の任に膺り其頭取に擧げられ又同志と專修大學を創立して其學長となれり君は永胤の養嗣子故醫學博士相馬又二郎の長男にして明治三十七年十一月を以て生れ大正十三年祖父永胤の後を襲ひ家督を相續す資産家として知らる家族は尙妹菊(大二、一一生)弟信夫(同五、六生)同利夫(同七、一生)同永夫(同八、三生)妹重子(同九、八生)叔母恒(同二、六生)あり伯母アヤ(明一四、八生)は東京府士族山本龜光に嫁し大叔父信一(同一七、七生)は靜岡縣人長倉さとの養子となり當主たり(東京市外戸塚町下戸塚四一〇電牛込二一九四)

參照―長倉信一、山本龜光の項

相馬久吉　石鹼製造業　東京府在籍
繼母　まつ　慶應三、六生、東京、龜甲とも養子
妻　みよ　明一三、一生、東京、小川鐵藏三女
男　英雄　明三一、六生、豫備陸軍工兵少尉、東京高等工業學校應用化學科出身
婦　一枝　明四一、三生、二男英雄妻、東京、里内常太郎二女
男　正雄　明四一、三生、慶應義塾大學在學
女　文枝　大元、九生、踏見女學校在學

君は東京府人相馬保太郎の長男にして明治七年八月を以て生れ明三十二年家督を相續す業代江戸土産の商家にして先代保太郎に至り石鹼製造業を創め今日の基を成す君其後を享け襲に東京石鹼製造同業組合長に推さる

相馬孟胤　式部官　舊磐城中村藩
母　碩子　明六、一〇生、子爵秋元春朝養叔母、子爵有馬純文妹
妻　邦子　明二六、四生、子爵土屋正直妹
男　恵胤　大二、三生

當家は平高望の次男良茂より出でと稱す後十世師常に至り國行方郡に封ぜらるそれより村六萬石を領す十二世を經て其子大膳亮利胤德川氏に從ひ弊城中十二年八月を以て生れ大正八年家督を相續す東京帝國大學理科大學植物學科を卒業し宮内省御用掛となり新宿御苑勤務を命ぜられ爾來式部官に任じ現時朝香宮御用掛兼務を仰付けられ式部職庶務課長心得たり家族は尙二男彪胤(大三、四生)四男甫胤(同六、四生)五男豐胤(同一一、一〇生)弟正胤(明二八、一生、松戸岡藝學校出身)あり同廣胤(同二六、二生、工學士)は其妻慶子(同三三、一二生、伯爵伊達興宗姉)を伴ひ分家し妹元子(同三二、一生)は子爵青山忠敏先々代忠允に同澤子(同三一、一生)は子爵伊東九郎に叔母花子(同一二、三生)は子爵有馬純文に嫁し從兄秀胤(同二二、八生、亡伯父誠胤庶子)は子爵織田信敏の養子となり信恒と改名して襲爵す(東京市外落合町下落合三一〇電牛込四〇〇〇)

參照―伯爵伊達興宗、子爵青山忠敏、子爵秋元春朝、子爵有馬純文、子爵伊東九郎、子爵織田信恒、子爵土屋正直※伯爵酒井忠克※伯爵溝口直亮※子爵北條秀八※藤岡勝二の項

相馬貞一　青森縣多額納稅者、農業　青森縣在籍
妻　みね　明一〇、一〇生、青森、士、鳴海清洪妹
男　友彦　明三六、一生
男　謙次　明三九、一二生
男　貞三　明四一、一二生

君は青森縣人相馬理太郎の長男にして慶應三年四月を以て生れ明治三十年家督を相續す農業を營み青森縣多額納稅者たり家族は尙四男貞雄(明四四、六生)五男利雄(大二、一生)六女光(同三、一生)七女はま子(同六、一二生)八女よし子(同九、一一生)あり長女はつ(明二七、一〇生)は青森縣人米澤興助三男信吉に二女なほ(同二九、三生)は同縣人森内茂三郎長男茂益に三女シゲ(同三、六生)は同縣人古川七兵衛三男兵衛に四女コウ(同三七、七生)は同縣人加藤宇兵衛三男三郎に妹さた(同一八、五生)は同縣人古川七兵衛に同たか(同二二、六生)は同縣人岩淵岩五郎長男政雄に嫁し弟經治(同二二、三生)同六郎(同二三、七生)は各分家し同榮造(同一五、一〇生)も亦同縣人古川二一、四生、青森、三上宇三郎三女)及び其一男を伴ひ分家し同良司(同一九、一〇生)は同縣人相馬常吉の養子となれり(青森、南津輕、竹館村)

參照―加藤宇兵衛の項

相馬哲平　北海道多額納稅者、百十銀行(株)頭取、相馬商店(株)社長(相馬銀行、函館貯蓄銀行各(株)相馬合名(名)代表社員、北海道在籍

天保五、五生、伊賀寛三郎二女
母　キノ　明七、五生、新潟、丹後直平妹
妻　チヨ　明三四、七生、亡三男元治妻、新潟、士、二宮孝順妹
婦　ラク

當家の先代哲平は新潟縣出身にして夙に北海道に渡り互助を積み貴族院議員に互選せらる君は其長男にして慶應二年十月を以て生れ大正十年家督を相續し前名堅彌を改め襲名す現時前記各銀行會社の重役として知られ北海道多額納稅者たり二男守之助(明二八、六生)は分家し養子確郎(同二三、二生、岐阜、龜山恭平弟)も亦同妻トシ(同三〇、九生、北海道、相馬康平姉)及其一子を伴ひ姉クワ(文久三、九生)は同夫市作(萬延元、一二生)及び其子女を伴ひ各分家せり(函館、大町二二)

參照―相馬市作、二宮孝順の項

相馬半治　スマトラ興業(株)社長、明治製糖、明治製菓、河西鐵道、十勝開墾各(株)取締役、日本原毛(株)監査役、明治商店(株)相談役、東京府士族

安政四、一二生、東京、士、與倉東雄妹
養母　貞
妻　清　明一二、三生、養父積三長女
男　成朗　大五、七生

君は愛知縣士族田中庵の三男にして明治二年七月を以て生れ同三十一年相馬家の養子となり家督を相續す同二十九年東京高等工業學校を卒業し後ち擢げられて同校助教授となり同三十三年文部省より海外留學を命ぜられ獨逸に航し伯林高等工業學校及ブラウンシュワイヒ高等工業學校に入り製糖業に關する各種の學科を研究し同三十四年更に英國を經て北米に渡りミシガン大學院砂糖科に入り製糖業及砂糖學理分析等を研究し同三十六年マスター・オブ・サイエンスの學位を受く同年歸朝し東京高等工業學校教授に任じ同三十七年從省又臺灣總督府より我國製糖業調査を囑託せられ同年臺灣製糖業局技師に任ぜられ東京高等工業學校教授を兼任す同三十九年明治製糖會社の創立せらるるや官を辭して同社に入り專務取締役となり尋で社長に推さる現時スマトラ興業會社外前記各會社の重役たり家族は尙養弟跡夫(明四三、三生、東京、大賀宗恒三男)あり長女春子(明治三七、九生、女子學習院出身)は其夫敏夫(同三一、七生、長野、上平貉一三男)と共に其一女を伴ひて分家し養妹豐(明一五、一一生)は東京府人大賀宗恒に嫁せり(東京、芝、伊皿子町五二電高輪四八七)

參照―※中川善の項

雙田政次郎　資産家　東京府在籍
妻　はる　明一二、四生、東京、飯島八五郎長女
養子　直代　大二、六生、東京、飯島八五郎孫

君は東京府人雙田恒七の長男にして明治十年二月を以て生れ大正三年家督を相續す資産家たり(東京、牛込、天保六、一二生)

副島義一　法學博士、早稻田大學教授　佐賀縣在籍
妻　ミス　明一〇、六生、佐賀、士、小石敬作長女
男　民雄　明三五、五生

君は佐賀縣人副島兵藏の長男にして慶應二年一月を以て生れ大正九年衆議院議員に當選同四十一年法學博士の學位を授けらる同年法科大學教授たり大正九年衆議院議員に當選同四十一年法學博士の學位を授けらる同年法科大學教授たり大正九年衆議院議員に當選同四十一年法學博士の學位を授けらる同年法科大學教授たり大正九年衆議院議員に當選

副島昌造　熊本稅務監督局鑑定部長　佐賀縣在籍
妻　シカ　明二二、一一生、佐賀、酒井タネ二女
男　順造　大三、六生

君は佐賀縣人副島貞藏の二男にして明治十八年五月を以て生れ昭和二年兄保太郎方より分れて一家を創立す東北帝國大學農科大學農學科を卒業し稅務監督局技手同技師兼宮城縣技師釀造試驗所技師に歷任し仙臺稅務監督局鑑定部長大阪稅務監督局鑑定部長を經て現時熊本稅務監督局鑑定部長たり家族は尙二男謙造(大五、三生)四男文造(同一三、二生)二女登與(同一五、六生)あり(熊本市京町二ノ二六)

副島千八　從四位勳三等、商工省商務局長　東京府在籍
妻　ツヤ　明二四、一生、佐賀、柏崎清一長女
男　萬里夫　明二三、一二生
女　不二子　明四三、一生

君は佐賀縣人副島定助の二男にして明治十四年八月を以て生れ同四十年分家して一家を創立す同年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試驗に合格す爾來農商務事務官同書記官兼參事官農商務省食糧局長製鐵所次長同經理部長農商務省鑛山局長に歷任し現時商工省商務局長たり家族は尙三女幾久子(大五、一一生)四女方子(同八、四生)二男千介(同一一、九生)三男正大(同一三、八生)四男有年(同一五、五生)あり二女稔子(明四四、九生)は東京府人室田秀松の家督を相續せり(東京市外長崎町荒井一九九五電大塚五三八)

副島延一　吉野木材(株)取締役、上海亭(株)監査役、佐賀縣士族

明一三、二生、東京、小川爲安二女
妻　あい　明一七、二生、養子益枝夫、廣島、士、桑原栢亮弟
養子　透　明四一、一〇生、岡山、士、中村季吉二女
養子　益枝

君は佐賀縣士族副島唯一の長男にして明治二年十一月を以て生れ同二十六年家督を相續す同二十五年獨逸協會學校專修科を出で實業界に入り九一商店と稱し東京株式取引所仲買人を營む現時前記會社の重役たり姉タケヤサ(慶應元、三生)は東京府人小川三千三に養子花子(明二八、五生、千葉、安田辨藏長女)は神奈川縣人柳澤隆次郎に嫁せり(東京、麻布、本村町一三)

副島道正　朝鮮水電各(株)取締役　東京府華族

妻　ミネ　明九、七生、奈良、北畠太郎二女
男　種忠　明三四、八生、從五位

正三位、伯爵、東明火災海上保險、

女　孝子　明三五、八生、女子學習院出身
女　順子　明三六、一一生、女子學習院出身
女　道子　明三八、三生、女子學習院出身
男　種義　明四一、五生

當家は先代種臣より賜る種臣は舊佐賀藩士にして維新の際勤王の大義を唱へ雷策する所勤からず明治二年參議に任じ同四年樺太境界談判の爲露國に差遣せられも征韓觀以て時局の機を救ふ同年外務卿に任ぜられも征韓論の起るや共に西郷等と挂冠野に下り華で特命全權公使として清國に赴き大に國威を發揚す同十七年華族に列し伯爵を授けらる後宮中顧問官樞密顧問官樞密院副議長内務大臣等に歴任し又東邦協會を興して其會頭に擧げらる君は其の三男にして明治四年十月を以て生れ同三十八年襲爵す嚮に貴族院議員に當選し現時前記會社の重役にして學習院評議會々員たり家族は舊四男種經（明四三、一生）五男種典（大元、一二生）六男種憲（同三、八生）七男種政（同五、六生）八男種英（同八、五生）あり姉豐子（明元、八生）は子爵勘解由小路資生代資承に妹鑑子（同二、六生）は男爵周布公平先代有榮に同母美津子（同九、一二生）は子爵千種有秀先代有榮に同宮佐子（同一五、一生）は工學博士牧彦七に嫁せり（東京市外代々幡町代々木上原一三二一）

參照―子爵勘解由小路資生、子爵千種有秀、男爵周布公平、牧彦七の項

添田敬一郎

母　セキ
妻　てい
養子　滋
姉　ゆき

従四位勲三等、衆議院議員（福井縣選出）、協調會常務理事
嘉永四、一〇生、福井、伊藤盛成長女
明一六、一二生、東京、小島忠恕妹
明二六、五生、父良平五男
明三一、一二生、養子滋妻、山形、西野忠次郎妹

君は福井縣士族添田良平の長男にして明治四年八月を以て生れ同三十七年家督を相續す同三十一年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同年文官高等試驗に合格兵庫縣參事官大分縣知事を經て先々代基祥に至り明治十七年伯爵を授けられ宮中に奉仕す長男基委後を襲ぎ宮内省御用掛仰付けらる君は其孫にして大正九年六月を以て生れ昭和三年襲爵仰付けらる家族は舊大叔母祥子（慶應三、一一生、從三位勲三等）あり大叔父周次（明一七、三生）は同妻節子（同二五、七生、陸軍中將靖合豐三郎長女）及其子女を伴ひ分家し同利文（慶應元、七生）は子爵細川家を相續して當主たり（東京、赤坂、青山南町六ノ一三四電青山一五〇一）

參照―侯爵久我常通、伯爵松浦厚、子爵細川利文、靖合豐三郎※侯爵大隈信常※侯爵伊達宗徹※伯爵伊達興宗※伯爵松平頼壽※子爵井上勝純※子爵大久保忠寿※子爵大久保数尚※子爵戸澤正己※子爵本多正復※子爵松井康昭※子爵松浦靖※男爵久我通保※男爵津守通秀の項

園池公致

正五位、子爵
舊公卿
母　春香
妻　茂子
男　實豐

慶應元、正生、伯爵正親町公和叔母
明三一、三生、福井、竹尾茂庶子
大一一、三生

當家は左中將櫛笥隆致の第二子權中納言宗朝の後なり宗朝別に一家を立て園池と稱すそれより七世を經て先々代公靜に至り明治十七年子爵を授けられ奈良縣知事侍從明宮祇候等となる先代實廉は其長男にして宮内省に奉仕すること多年掌典掌典次長宮中顧問官に歴任す君は其二男にして明治十九年四月を以て生れ昭和三年四月家督を相續し尊いで襲爵仰付けらる家族は舊美女松子（大九、四生）二女順子（同一二、一一生）二男美作（同一四、一二生）弟公功（明二九、五生、文學士）同妻江（同三六、九生、東京、角田不二男妹）及其二男一女あり妹純子（同二二、二生）は岡山縣人片岡弘に同嫁

園基久

伯爵
舊公卿家
祖母　益子
母　富久子

安政三、四生、伯爵松浦厚姉
明三二、五生、侯爵久我常通妹、女子學習院出身

當家は持明院大藏卿通基の男中納言基家の三男參議基氏の後なり基氏別家して園と稱し世々家職として雅樂を掌る十七世を經て先々代基祥に至り明治十七年伯爵を授けられ宮中に奉仕す長男基委後を襲ぎ宮内省御用掛仰付けらる君は其孫にして大正九年六月を以て生れ昭和三年襲爵仰付けらる家族は舊大叔母祥子（慶應三、一一生、從三位勲三等）あり大叔父周次（明一七、三生）は同妻節子（同二五、七生、陸軍中將靖合豐三郎長女）及其子女を伴ひ分家し同利文（慶應元、七生）は子爵細川家を相續して當主たり（東京、赤坂、青山南町六ノ一三四電青山一五〇一）

參照―侯爵久我常通、伯爵松浦厚、子爵細川利文、靖合豐三郎※侯爵大隈信常※侯爵伊達宗徹※伯爵伊達興宗※伯爵松平頼壽※子爵井上勝純※子爵大久保忠寿※子爵大久保数尚※子爵戸澤正己※子爵本多正復※子爵松井康昭※子爵松浦靖※男爵久我通保※男爵津守通秀の項

園池公致

正五位、子爵
舊公卿
母　春香
妻　茂子
男　實豐

慶應元、正生、伯爵正親町公和叔母
明三一、三生、福井、竹尾茂庶子
大一一、三生

當家は左中將櫛笥隆致の第二子權中納言宗朝の後なり宗朝別に一家を立て園池と稱すそれより七世を經て先々代公靜に至り明治十七年子爵を授けられ奈良縣知事侍從明宮祇候等となる先代實廉は其長男にして宮内省に奉仕すること多年掌典掌典次長宮中顧問官に歴任す君は其二男にして明治十九年四月を以て生れ昭和三年四月家督を相續し尊いで襲爵仰付けらる家族は舊美女松子（大九、四生）二女順子（同一二、一一生）二男美作（同一四、一二生）弟公功（明二九、五生、文學士）同妻江（同三六、九生、東京、角田不二男妹）及其二男一女あり妹純子（同二二、二生）は岡山縣人片岡弘に同嫁

園田榮五郎

正五位勲四等、朝鮮總督府山林部長、兵庫縣在籍
明二四、八生、東京、士、山口宗義二女
大元、一一生

君は故實業家園田實德の二男にして明治十九年四月を以て生れ大正六年家督を相續す父實德は舊鹿兒島藩士にして維新の際南洲翁に從ひて各地に轉戰して勳功あり明治五年鹿田清隆の北海道開拓次官となるや其の屬官となり同十四年官を辭して實業界に入り北海道共同運輸會社を創立し日本郵船會社函館支店長となり又北海炭礦會社を興し其理事に選ばれ函館船渠會社の設立に盡して其社長となる後之れを辭し諸銀行會社の重役として我邦屈指の實業家たり君は其後を享け夙に學習院に學び明治三十七年英國に航し劍橋大學及びレディング農科大學に學び後米國に轉じワシントン市ポタマック大學を卒業しパチエラア・オヴ・アーツの學位を受く歸朝後小樽電燈後志電氣各會社の取締役に就任し現時畜産業を督み前記クラブの理事に擧げらる家族は舊長女辰子（大五、七生）二男實次（同八、一一生）あり姉と（明一二、九生）は東京府士族石丸龍太郎に同まつ（同一七、一生）は鹿兒島縣士族川上左七郎長男忠介に妹むめ子（同二七、四生）は男爵柴山昌生に嫁し同つる（同二五、一一生）は北海道士族武千代方に入家せり（東京、赤坂、中ノ町九電青山六一二）

參照―男爵柴山昌生の項

園田寛

従四位勲三等、朝鮮總督府山林部長、兵庫縣在籍
明二四、八生、東京、士、山口宗義二女
大元、一一生

君は兵庫縣人田疇吉の三男にして同昌の弟男爵田健治郎の從兄なり明治十六年八月を以て生れ同四十三年從弟園田稔の跡を相續す同四十二年東京帝國大學法科大學法律科を卒業し專賣局書記官文官高等試驗に合格し爾來拓殖局屬同書記官文部省參事官拓殖局書記官調査課長同庶務課長に歴任し大正十一年朝鮮總督府事務官兼監察官に任じ次で總督官房外事課長同會計課長兼理財局理財課長を經て大正十五年現職山林部長に轉ず家族は舊長女喜美子（大三、一二生）二女多喜子（同九、一一生）あり（京城、總督府官舍）

參照―男爵田健治郎、田擬吉、田篤、山口宗義※大木喬任※小谷保太郎※三好重道※山口鋭之助※山口堅吉※山口鐵彦※吉田平吾の項

園田清彦

東京鹽馬倶樂部、日本レースクラブ各理事、畜產業、東京府士族
男　實彦
大四、四生

君は京都府人園篤次郎の二男にして明治十九年一月を以て生れ同三十五年家督を相續す同四十三年京都帝國大學理工科大學數學科を卒業し更に大學院に學び大正二年同助教授に任ぜられ同八年理學博士の學位を受く同年數學研究の爲英佛に留學を命ぜられ歸朝して同大學教授に陞任し現に理學部勤務たり家族は舊長女貞子（大六、九生）二女英子（同八、一一生）三女慶子（同一三、三生）四女隆子（同一四、一一生）弟薫（明二七、三生）妹耶壽（同三一、八生）弟順（同三六、八生）あり兄榮治郎（同五、六生）は東京府人大町はなの養子となり妹奈美（同二五、七生）は大阪府人原田直幹に嫁せり

外間蒲戸

母　ムト
妻　ウシ
男　蒲佑
嫁　ナベナ
孫　ヨシ

沖縄縣多額納稅者、農業
沖縄縣在籍
弘化二、六生、沖縄、親田眞次叔母
萬延元、二生、沖縄、大石根招叔母
明二五、一一生
明三一、八生、長男蒲佑妻、沖縄、牧門武清叔母
明四三、二生、長男蒲佑長女

君は沖縄縣人外間蒲三郎の長男にして文久三年二月を以て生れ明治二十二年家督を相續す農業を營み同縣多額納稅者たり家族は舊孫アキ（大八、三生、長男蒲佑二女）同キク（同一〇、二生、同三女）同ヨネ（同一四、七生、同四女）同タケ（昭二、六生、同五女）あり妹カマ（慶應三、七生）は沖縄縣人前外間蒲戸長男思蒲に同カマド（明九、二生）は同縣人伊松長男招金に嫁し叔父蒲太郎（安政元、二生）は同妻ウシヤ（同四、二生、沖縄、松田原鍋長女）及其二男四女を伴ひ弟蒲吉（明一三、三生）は同妻マウシ（同一四、一二生、沖縄、島袋松金孫）及其三男二女を伴ひ分家せり（沖縄、中頭、勝連村）

園正造

正五位勲四等、理學博士、國大學教授、理學部勤務
京都府在籍
妻　登美
男　正恒

京都、士、鹿島康平長女
大四、一〇生

君は京都府人園篤次郎の二男にして明治十九年一月を以て生れ同三十五年家督を相續す同四十三年京都帝國大學理工科大學數學科を卒業し更に大學院に學び大正二年同助教授に任ぜられ同八年理學博士の學位を受く同年數學研究の爲英佛に留學を命ぜられ歸朝して同大學教授に陞任し現に理學部勤務たり家族は舊長女貞子（大六、九生）二女英子（同八、一一生）三女慶子（同一三、三生）四女隆子（同一四、一一生）弟薫（明二七、三生）妹耶壽（同三一、八生）弟順（同三六、八生）あり兄榮治郎（同五、六生）は東京府人大町はなの養子となり妹奈美（同二五、七生）は大阪府人原田直幹に嫁せり

ノ一電九段一五五）

參照―五十嵐慎一郎、石塚瀧三、齋藤恂、添田定一、森本靖男の項

添田定一

父　壽一
妻　きみ
太郎二女

元治元、八生、現戸主
明三〇、七生、山形、士、井内金

君は貴族院議員添田壽一の長男にして明治二十五年十月を以て生る大正六年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し現に大藏省銀行局事務官たり家族は舊長女元子（大四、一生）四女惠子（同一三、一二生）あり（東京、麹町、富士見町一ノ一電九段一五五）

參照―添田壽一、五十嵐慎一郎※石塚瀧三※齋藤恂※森本靖男の項

添田壽一

妻　ヒデ
男　定一

正四位勲一等、法學博士、貴族院議員、臺灣銀行、川崎信託各（株）監査役、東京府在籍
明元、二生、東京、原尚剛二女
明二五、一〇生

君は福岡縣人添田安吉の弟にして元治元年八月を以て生れ明治三十二年八月分れて一家を創立す同十七年東京大學文學部政治經濟學を卒業し大藏省に入り主稅局御用掛を命ぜらる後舊藩主黒田長成侯に從ひ英國に留學し同二十年歸朝後大藏主稅官に任ぜられ同省參事官大臣秘書官同監督局長を經て大藏次官に進み同三十一年辭職して臺灣銀行頭取となり同三十二年法學博士の學位を授けらるる後ち日本銀行總裁副付けられ總裁に親任せらる嚮に我實業界を代表して米國に渡り彼我親善の衝に當れり現に貴族院議員御用掛を命ぜらる後舊藩主黒田長成侯に從ひ英國に留學し同二十年歸朝後大藏主稅官に任ぜられ同省參事官大臣秘書官同監督局長を經て大藏次官に進み同三十一年辭職して臺灣銀行頭取となり同三十二年法學博士の學位を授けらるる後ち日本銀行總裁副付けられ總裁に親任せらる嚮に我實業界を代表して米國に渡り彼我親善の衝に當れり現に貴族院議員

添田壽一

妻　ヒデ
男　定一

正四位勲一等、法學博士、貴族院議員、臺灣銀行、川崎信託各（株）監査役、東京府在籍
明元、二生、東京、原尚剛二女
明二五、一〇生

君は福岡縣人添田安吉の弟にして元治元年八月を以て生れ明治三十二年八月分れて一家を創立す同十七年東京大學文學部政治經濟學を卒業し大藏省に入り主稅局御用掛を命ぜらる後舊藩主黒田長成侯に從ひ英國に留學し同二十年歸朝後大藏主稅官に任ぜられ同省參事官大臣秘書官同監督局長を經て大藏次官に進み同三十一年辭職して臺灣銀行頭取となり同三十二年法學博士の學位を授けらるる後ち日本銀行總裁副付けられ總裁に親任せらる嚮に我實業界を代表して米國に渡り彼我親善の衝に當れり現に貴族院議員

妻　ナミ　明一五、一一生、福岡、船木久太郎妹

園田三朗　横濱正金銀行（株）漢堡支店支配人

男　勘造　明三七、五生　東京府在籍

母　つや　嘉永六、一一生、東京、前澤鐵次郎姉

婦　キミ子　慶興曾吉娃　明二一、七生、東京、前田彦兵衛二女

妻　ゑい　明四二、二生

男　良介　明四二、二生

君は福岡縣人園田小七の長男にして明治十年五月を以て生る醸造業を營み同縣多額納稅者たり弟源之助（明二一、一二生）は分家し妹ハツ（同二五、九生）も亦同夫與助（同二三、一二生、福岡、安武孫三郎長男）と共に分家せり（福岡市下警固）

參照―船木久太郎（宗富田勝次郎の項

園田才治　浪速商會（資）代表社員　鹿兒島縣士族

男　隆一郎　明九、四生、鹿兒島、富山伊平次五女

妻　カメ　明四三、五生

女　喜美　明四三、五生

君は鹿兒島縣士族園田才助の長男にして明治六年四月を以て生れ弟家督を相續す現時浪速商會代表社員たり家族は尙弟宗介（明一六、六生）同妻トシ（同二四、七生、鹿兒島、岩崎秀哉長女）及其子女妹ノブ（同一八、一〇生）弟長治（同二二、五生）同吉郎（同二六、一二生）同妻フミ（同三〇、四生、鹿兒島、森永藤三郎姉）及其一子あり（大阪、西、西長堀南通一ノ二〇電新町二六七〇）

園田三次郎　從五位勳六等、農林技師、畜產局勤務、福岡縣士族

妻　オイチ　明二八、一二生、東京、村上其一長女

男　大五、一生

君は福岡縣士族園田助夫の二男にして明治十八年七月を以て生る同四十二年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し農商務省嘱託を經て同四十四年香川縣技師となり同縣農事試驗場長に任ず大正五年東京府技師に轉じ爾來馬政局技師農商務技師兼種馬所技師種馬牧場技師兼農林技師に歷任して昭和二年專任農林技師となり今日に至る家族は尙二男泰生（大八、三生）三男淳（同一〇、四生）及び兄德太郎（明一二、一生、現戶主）あり妹シナ（同二四、二生）は同縣士族佐々木茂技に嫁せり（東京市外長崎町五四一）

參照―佐々木茂技の項

園田嫡男　從五位勳五等、檢事、久留米區裁判所檢事兼福岡地方裁判所久留米支部檢事、熊本縣士族

妻　ヒサ　明二一、九生、熊本、坂本哲夫妹

男　平太郎　明四二、九生

君は熊本縣士族園田茂一郎の長男にして明治十二年九月を以て生れ大正九年家督を相續す明治三十九年京都帝國大學法科大學を卒業し同四十一年檢事に任じ爾來高知地方奈良區裁判所檢事兼鹿兒島區裁判所檢事に歷補し昭和二年鹿兒島地方裁判所檢事兼鹿兒島區裁判所檢事に轉じ現時前記の職に在り家族は尙二男俊吉（明四四、一二生）長女道子（大五、三生）二女しか（同八、二生）三女敦子（同一〇、一生）の外弟耕三（明一八、一一生）同妻シツカ（同二六、一生、衆議院議員松野鶴平妹）弟志發雄（同二〇、七生）同妻サキ（同二五、九生、熊本、古閑林太郎妹）及其一女あり（久留米、區裁判所官舍）

參照―松野鶴平の項

園田藤吉　兵庫縣多額納稅者、大神土地建物（株）取締役、湊川土地建物、帝國信榮各（株）監査役、兵庫縣在籍

妻　いち　明三、二生、兵庫、日置源兵衛長女

男　正治　明三一、六生、二男正治妻、兵庫、上西喜太郎長女

婦　繁子　明二六、四生

君は兵庫縣人河野彌彌太郎の二男にして文久二年五月を以て生れ明治二十三年岡田いちの入夫となり家督を相續す維に金融業を營み現時大神土地建物會社取締役を始め前掲各會社の重役にして同縣多額納稅者たり家族は尙孫千鶴子（大九、七生、二男正治長女）同美智子（同一一、一生、同二女）同正和（同一四、一生、同長男）同壽美子（同一五、三生、同四女）あり（神戶、多町六ノ四七電本局一六八二）

園田藤太郎　甲賀銀行、滋賀合同貯蓄銀行各（株）取締役、滋賀縣在籍

父　重藏　嘉永六、九生、現戶主

母　ぬい　萬延元、三生、滋賀、市岡九右衛門三女

妻　きゑ　明一五、九生、滋賀、薗田太助妹

男　重二郎　明三七、一二生

女　たか　明四三、三生

女　せつ　大元、九生

君は滋賀縣人園田重藏の長男にして明治十四年七月を以て生る現に前記銀行の重役たり家族は尙ほ五女ふみ（大五、六生）あり長女すみ（明四〇、七生）は滋賀縣人林市次郎に弟平次郎（同二一、九生）を入夫とし長女ふみ（明四〇、一生）は滋賀縣人園田まつ（同一九、七生）は同縣人園田德之助に各養子となり二男虎治（明三三、一生）四男榮四郎（同四三、一生）は前記米藏（同三六、一〇生）は分家し三男米藏（同三六、一〇生）は大正七、九生）は前記米藏に同人（同二四、一生）は同縣士族佐々木茂技に嫁せり（滋賀、甲賀、岩根村）

園田實　正五位勳四等、男爵、海軍大佐、海軍軍令部出仕、東京府華族

妻　八千代　明二四、一〇生、伯爵東郷平八郎二女、學習院女學部出身

男　稔一　大八、三生

當家は先代安貢より其名を揭ぐ安貢は舊鹿兒島藩士にして明治四年大警部に任ぜられ爾來陸軍中將石川縣大書記官二等警視滋賀縣書記官警視總監警視總監貴族院議員北海道廳長官官中顧問官等に歷任し同二十九年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其二男にして明治十七年四月を以て生れ大正十三年家督を襲ぐ先是海軍兵學校を卒業して明治四十年海軍少尉に任じ累進して海軍大佐に陞り現時海軍々令部出仕たり家族は尙二男忠男（大一〇、七生）三男信男（同一四、一二生）あり姉たつ（明一三、七生）は北海道人金子元三郎に妹富美子（同二二、八生）は神奈川縣人土屋謙二郎商學士計左右に嫁し弟滋（同二〇、七生）は尙祖母雄吉妻ヒナに同道（同二二、八生、農林水田家に各養子となれり（東京市外淀橋區柏木、四谷四九一）

園部保　安田信託（株）常任監査役　慶應元、六生、東京、天野つね長女

妻　すゞ　明三一、一二生、慶應義塾大學理財科出身

男　伸一　明三六、一一生、東洋高等女學校出身

女　貞　

君は栃木縣人園部卯吉の三男にして明治十五年十二月を以て生れ大正十年分家して一家を創立す明治三十七年東京高等商業學校を卒業し直に日本銀行に入り大正五年米國に派遣され滿三ヶ年銀行業務の視察研究をなし歸朝後檢査役副査役松江支店長に歷任し同十二年安田保善社に轉じて其調査部長となり安田銀行大合同に際し同行常務監査役を兼ね又理財部長兼銀行部長として要務を掌り大正十五年撰ばれて安田銀行常務取締役となる家族は尙長女美治子（大三、九生）二男秀男（同九、四生）三男茂雄（同一一、九生）四男富士夫（同一三、一二生）五男和生（昭二、三生）あり（東京、赤坂、青山高樹町一二電青山一四七九）

園山武平　石川縣多額納稅者、小松銀行、小松運輸倉庫各（株）取締役、新家自轉車製造（株）監査役、米穀商

妻　みか　明一一、二生、石川、永井伊助妹

男　武雄　明三九、七生

婦　延子　明四二、一生、長男武雄妻、石川、石黒與三郎孫

君は石川縣人北川七左衛門の四男にして明治三年一月を以て生れ先代武兵衛の養子となり同二十四年家督を相續す米穀商を營み傍ら前記銀行會社の重役にして現に縣下の多額納稅者たり長女ハツ（明三〇、五生）は同夫英吉（同二七、一生、石川、長谷部理右衛門二男）と共に分家し二女芳子（同三七、一生）は石川縣人勝木直次に嫁せり（石川、能美、小松町）

參照―永井伊助の項

取たり家族は尙妹チヤ（同二〇、一生）從弟登（同三〇、一二生）あり妹チヨ（同二二、八生）は熊本縣人甲斐壽也に同アイ（同二六、四生）は同縣士族板垣九二貴に嫁し弟弘（同一七、九生）は同妻ヌヤ（同二三、四生、熊本、士、西三男起三女）及其の一男一女を伴ひ分家せり（熊本、葦北、水俣町）

園田武彦　正五位、男爵、園池製作所（株）社長、火石材（株）取締役　鹿兒島縣華族

母　銈　元治元、三生、靜岡、士、富永鴻養姉

妻　京子　明二七、七生、陸軍中將長岡外史二女、學習院女學部出身

男　孝安　大五、一生

當家は先代孝吉より顯る孝吉は舊鹿兒島藩士にして夙に大學南校に學びて外務省に出仕し爾來書記生領事總領事として倫敦に在勤すること十五年後官を辭し橫濱正金銀行及十五銀行頭取に擧げられ其他幾多の銀行會社重役として實業界に貢獻するところ尠からず日露事件の功に依り勳二等に叙し大正七年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君は孝吉の二男にして明治二十年一月を以て生れ大正十二年家督を相續し襲爵仰付けらる夙に英國に渡航し同國グラスゴー高等工業學校を卒業し現時同池製作所社長坑火石材會社取締役たり弟忠雄（明二二、三生）は其妻を伴ひ分家し姉米（同一八、五生）は滋賀縣士族兒玉一造に嫁せり（東京、芝、白金三光町五〇四電高輪七一一〇）

參照―兒玉一造、園田忠雄、富永鴻、長岡外史※朝吹常吉※藤瀨新一郎の項

園田忠雄　豐田紡織（株）監査役　鹿兒島縣在籍

妻　操子　學習院女學部出身

男　一郎　大一〇、一二生

君は男爵園田武彥の弟にして明治二十二年三月を以て生れ大正六年分れて一家を創立す明治四十四年東京高等商業學校を卒業し現時前記會社の監査役たり家族は尙長女正子（大八、二生）二女公子（同九、五生）三女末子（同一四、二生）あり（東京、芝、白金三光町五〇三電高輪四七六一）

參照―男爵園田武彥、男爵福島四郎※兒玉一造の項

蘭　喜太夫　和歌山縣多額納稅者、日高除虫菊、國に出張し同十二年歸朝し現時同大學教授の職にあり、南海信託、南海紙業各(株)取締役、農業、和歌山縣在籍

妻　登美　慶應元、四生、和歌山、鹽路彦右衞門三女

男　豐吉　明一七、一生

婦　佳子　明二三、五生、長男豐吉妻、和歌山、鹽路彦右衞門三女

君は和歌山縣人蘭善右衞門の長男にして文久元年十一月を以て生れ明治十六年家督を相續す農を業とし縣下の多額納稅者にして又前記會社の重役たり家族は尙孫太一郎(大一二、九生、長男豐吉長男)あり孫持子(明四一、三生、長男豐吉長女)は分家せり(和歌山、日高、御坊町)

蘭田　徹夫　福岡縣多額納稅者、坂梨商事(株)鑛業役、福岡縣士族

養母　エキ　萬延元、一一生、福岡、士、西田善吾二女

妻　シゲノ　明二一、四生、福岡、西田善吾六女

男　種久　明二四、六生

婦　ミキ　明二九、三生、長男種久妻、福岡、武松茂久太郎二女

女　サチ　明四〇、七生

君は福岡縣人永江慎一の三男にして明治七年一月を以て生れ後先代助廣の養子となり同三十六年家督を相續す現時坂梨商事會社鑛業役にして縣下の多額納稅者たり家族は尙三男稔(明四五、二生)五男誠(大六、一生)三女康子(同九、二生)孫榮(同六、三生、長男種久長女)同ツヤ子(同九、二生、同二女)同豐(同一四、一生、同二男)同豐(同一五、一二生、同三男)あり長女イチ(明二七、二生)は山梨縣人桑具秀二に嫁せり(福岡、山門、山川村)

參照＝※武松久吉※高橋繁太郎の項

蘭部　一郎　從四位勳四等、林學博士、東京帝國大學教授、農學部勤務、和歌山縣在籍

妻　ノブ　明二一、七生、和歌山、松居善助姪

君は和歌山縣人蘭部豐之助の長男にして明治十四年三月を以て生れ同二十七年家督を相續す同三十八年東京帝國大學農科大學林學科を卒業清國雲南省高等學堂講師となり同大正元年大學院に入り同三年同大學農科大學助教授に任じ同九年林學博士の學位を受け爾で歐米各

蘭部　辰之助　日本土地改良(株)取締役、染色業、東京府在籍

妻　よね　明二三、一生、東京、增田彌一郎四女

男　龍一　明四三、三生

女　清子　明四一、二生

君は茨城縣人蘭部清吉の二男にして明治十三年七月を以て生れ同四十年分家して一家を創立す染色業を營み前記會社の重役たり家族は尙二女正子(大三、八生)三男光夫(同五、一生)三男孝三(同一〇、七生)四女公子(同一三、一生)あり(東京市外高田町六三六**電牛込七九九**)

染川　源之丞　從五位勳四等、海軍法務官、舞鶴要港部軍法會議法務長、鹿兒島縣士族

妻　外喜子　明二〇、七生、石川、士、齋田十二姉

男　源太郎　明四二、一生

君は鹿兒島縣士族染川宇右衞門の長男にして明治七年七月を以て生れ同十八年家督を相續す同三十七年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し主理試補に任じ軍法會議構成員東京軍法會議附錄海軍省司法局附吳鎭守府軍法會議附等となり同四十二年主理に進み更に海軍兵學校普通學敎官佐世保捕獲審査所檢査官佐世保鎭守府軍法會議法務官等に歷補し現時舞鶴要港部軍法會議法務長の職にあり家族は尙二男鐵之助(明四五、五生)長女和子(大三、一〇生)三男捨比古(同九、一二生)二女かね子(同一一、一二生)あり姉鶴松(明三、二生)は千葉縣人大塚操に三女正(同三九、一一生)は靜岡縣人河合眞治に妹いく(同一一、四生)は千葉縣人川奈部佐五右衞門に嫁せり(千葉、東葛飾、手賀村)

參照＝川奈部佐五右衞門、篠田有德の項

染谷　寬治　棉花花莖商、兵庫縣在籍

妻　しげ　明六、一一生、養父清次郎長女

孫　誠一　大三、三生、離緣養子正人長男

君は岡山縣人大道寺耕一の三男にして明治二年二月を以て生れ同二十五年先代しげの入夫となり家督を相續す棉花花莖商を營む家族は尙孫三保(大五、八生、離緣養子正人長女)同和夫(同八、七生、同二男)あり長女松榮(明二七、一〇生)は分家せり(京都、上京、南禪寺草川町**電上八一三**)

染谷　憲次　千葉縣多額納稅者、農業、千葉縣在籍

妻　きん　明九年生、千葉、篠田有德姉

男　良夫　明三三、二生

婦　愛　明三六、三生、長男良夫妻、東京、大町芳衞長女

女　千代　明四二、二生

君は千葉縣人染谷大太郎の次男にして明治六年五月を以て生れ大正六年家督を相續す農業を營み千葉縣多額納稅者たり家族は尙次男方(大二、一生、孫芳胤(同一三、八生、長男良夫長男)あり長女喜美(明三〇、七生)は千葉縣人大塚操に三女正(同三九、一一生)は靜岡縣人河合眞治に妹いく(同一一、四生)は千葉縣人川奈部佐五右衞門に嫁せり(千葉、東葛飾、手賀村)

參照＝川奈部佐五右衞門、篠田有德の項

染谷　保藏　盛京時報社(株)專務取締役、東亞興產、大陸窯業各(株)取締役、福島縣在籍

妻　クニイ　明一四、四生、福島、新國西親姉

男　保　明四一、八生

君は福島縣人染谷八郎の六男にして當主八郎の叔父なり明治十四年三月を以て生る東亞同文書院出身にして同三十七年陸軍省通譯官に任じ退官後盛京時報社滿鐵會社各社員を歷任し長春運輸會社專務取締役となる大正十年轉じて盛京時報社副社長同十四年同社專務取締役となる傍ら東亞興產會社取締役を始め前揭各會社重役たり家族は尙長女マサヨ(大四、四生)三男三郎(同一〇、三生)二女ミツル(同一二、二生)あり(滿洲、奉天、天浣町一二)

染谷　亮作　千葉縣多額納稅者、農業、千葉縣在籍

妻　もと　明一〇、一二生、埼玉、濱田久治妹

男　嘉　明二九、五生

婦　たひ　明三三、五生、長男嘉妻、千葉、石井榮太郎三女

男　均　明三五、一生

男　稔　明三七、四生

女　峰　明四四、二生

君は千葉縣人染谷莊次の長男にして高梨忠八郎の兄なり明治九年三月を以て生れ同三十九年家督を相續す農業を營み千葉縣多額納稅者たり家族は尙四女愛(大三、八生)四男誠(同七、三生)五女壽(同一〇、一〇生)孫修二(同一三、六生、長男嘉二男)同みつ(同一五、一一生、同長女)あり妹すゑ(明二八、五生)は千葉縣人新井信太郎に嫁せり(千葉、東葛飾、川間村)

參照＝新井信太郎、高梨忠八郎、濱田久治※白石昌宇の項

反町　茂作　東神火災保險、東京動產火災保險各(株)專務取締役、南洋物產(株)取締役、新潟縣在籍

父　久三、一〇生、現戶主

母　トイ　慶應三、六生、新潟、若月勝藏四女

妻　ムツ　明二六、七生、新潟、皆川平吉長女

男　大六、五生

　　誠一　明四五、七生

女　靜　明四五、七生

君は新潟縣人反町茂平の長男にして明治二十一年十月を以て生る同四十四年早稻田大學商科を卒業し現時東神火災保險東京勤產火災保險各會社專務取締役南洋物產會社取締役たり家族は尙二女みよ(大三、三生、三女たい(同五、五生)四女はる(同七、一一生)二男謙二(同一〇、四生)弟茂治(明三二、二生)同妻マツ(同三七、一一生、新潟、鈴木吉五郎四女)及其一男一女弟茂雄(同三四、八生)あり同嗣猷(同二九、七生)は同妻ハマ(同三五、五生、新潟、渡邊忠松長女)を伴ひ分家し妹テツ(同二五、一〇生)は新潟縣人川上榮太郎長男秀雄に嫁し同ムツ(同三八、三生)は同縣人反町茂平新作の養子となれり(東京、牛込、喜久井町三四**電牛込八七二**)

參照＝川上榮太郎の項

日本生命の

御大典記念保險

最優 生 最大

特色

社礎の鞏固と經營の堅實
徹底せる奉仕主義の實行
極めて低廉なる保險料
最も多額の加入者配當

特典

一、優雅な御大典記念保險證券發行
一、崭新な日本生命實袋（重要書類入）贈呈

日本生命保險株式會社

大阪市東區今橋四丁目